印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000001000 宗教学（地域共創・人間健康） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書と新約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることにより、人間の真のニーズ、今後の学びを深める根本的な問題意識を持つ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。
4. 基礎的な教養を身につけるとともに、学び方そのものを学ぶ機会の一つとする。

## 授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。

本講義では、まずは聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、大変深い人間理解と人間社会に対する鋭いまなざしを持っている。問題意識の宝庫といえよう。
さらに、旧約聖書が持つ問題意識に対する回答として新約聖書を読み進める。新約聖書が示す人間と人間社会の新しいあり方の可能性を考えたい。様々な物語を通してイエス・キリストと聖書の思想に迫ることによって、新約聖書とキリスト教は果たして本当は何を言っているのか、どのような体験をさせてくれるのか。そこにある「救い」が何であるのかを考え、生き方をも問う授業としたい。

真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科)。

## 評価方法

学期末試験を行う。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックすることがある。

## 参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

## 実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 建学の精神について(理事長講話) | 創立者ヨゼフ中村由太郎について、自分なりに調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 文化の中のキリスト教:キリスト教を概観する | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | 聖書の周辺世界:地理と歴史と文学 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 旧約聖書の世界観と人間観:天地創造、エデンの園 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 旧約聖書の人間論:ノアの方舟とバベルの塔 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 召命:アブラハムへの「呼びかけ」 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | ヤコブが旅に出る理由 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | 王国時代のイスラエル:王と預言者 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | イエス・キリストの生涯 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 参考文献の関連個所を読む |
| 10 | イエスと出会った奇跡:いやしの奇跡の意味 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | 「神の国」のたとえ話に見る福音と人間 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 山上の説教に見るイエスの価値観 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 受難と復活:希望は終わらない | 参考文献の関連個所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | パウロの思想:「キリスト教」を作った人 | 参考文献の関連個所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | ローマ教皇と現代:教会は現代なにを語っているか。 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 課題のレポートを作成する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000001001 宗教学（看護学科1年生） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることを通して、人間の真のニーズをつかむ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

## 授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。
　本講義では、聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、極めて過酷な環境と壮大な歴史を背景のために、大変深い人間理解を持ち、また人間社会に対する鋭いまなざしを持ち合わせている。このような文学に学ぶことは、今日なお有意義であり単に「宗教学」に触れる以上の意味がある。真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

授業最終日に試験を実施する。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
雨宮慧『旧約聖書のこころ』女子パウロ会、1989年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

## 実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | キリスト教を概観する | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 旧約聖書とは何か。背景となるパレスチナの歴史と地理 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | 旧約聖書の世界観（創世記1章を分析する） | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | 旧約聖書の人間論（アダムとエバ、カインとアベル　創世記2-4章） | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | 旧約聖書の人間論II（ノアの方舟と世界刷新　創世記6-9章） | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | バベルの塔（創世記11章）、「原初史」と現代を照らし合わせて考える人間の可能性 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | アブラハムの「召命」と人間の現実「イスラエル民族」I | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | ヤコブ物語とヨセフ物語に見る、神と人間「イスラエル民族」II | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | 物語としての「出エジプト」:　解放か救済か「イスラエル民族」III | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | 荒れ野の40年と律法授与:イスラエル誕生の史実と真実 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | イスラエル統一王国:権力の現実と理想の平和 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | 分裂王国時代:預言者の社会批判と、「あるべき社会」 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 詩編から考える、「人間とは何か」 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | 闘う知恵文学:ヨブとコヘレトが見出したもの | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | 聖書が示す、人間の希望とは:新約聖書が与える「回答」 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000001002 宗教学（看護学科2年生） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることを通して、人間の真のニーズをつかむ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

## 授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。
　本講義では、聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、極めて過酷な環境と壮大な歴史を背景のために、大変深い人間理解を持ち、また人間社会に対する鋭いまなざしを持ち合わせている。このような文学に学ぶことは、今日なお有意義であり単に「宗教学」に触れる以上の意味がある。真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験期間中に試験を実施する。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
雨宮慧『旧約聖書のこころ』女子パウロ会、1989年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

## 実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | キリスト教を概観する | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 旧約聖書とは何か。背景となるパレスチナの歴史と地理 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | 旧約聖書の世界観（創世記1章を分析する） | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | 旧約聖書の人間論（アダムとエバ、カインとアベル　創世記2-4章） | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | 旧約聖書の人間論II（ノアの方舟と世界刷新　創世記6-9章） | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | バベルの塔（創世記11章）、「原初史」と現代を照らし合わせて考える人間の可能性 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | アブラハムの「召命」と人間の現実「イスラエル民族」I | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | ヤコブ物語とヨセフ物語に見る、神と人間「イスラエル民族」II | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | 物語としての「出エジプト」：　解放か救済か「イスラエル民族」III | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | 荒れ野の40年と律法授与：イスラエル誕生の史実と真実 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | イスラエル統一王国：権力の現実と理想の平和 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | 分裂王国時代：預言者の社会批判と、「あるべき社会」 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 詩編から考える、「人間とは何か」 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | 闘う知恵文学：ヨブとコヘレトが見出したもの | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | 聖書が示す、人間の希望とは：新約聖書が与える「回答」 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000001004 宗教学（再履修） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
2. 旧約聖書を通して人間と社会、世界にについて考えることを通して、人間の真のニーズをつかむ。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

## 授業概要(教育目的)

宗教を学問として扱う方法論には様々な方法論やアプローチが考えられるが、世界の様々な諸宗教を客観的に考察する比較宗教学的な方法論には、実はあまり大きな意味はない。むしろ、本学も建学の精神とするカトリシズムやキリスト教の根幹にある、聖書という一つの普遍的な書物に対して学問的に真剣に向き合い理解を深めることで、21世紀の現代社会でも通用する気付きを得ることができるものである。
　本講義では、聖書の中でもその大部分を占め、様々な文学ジャンルを収録する『旧約聖書』を取り扱う。旧約聖書は、古代人たちの著作でありながら、極めて過酷な環境と壮大な歴史を背景のために、大変深い人間理解を持ち、また人間社会に対する鋭いまなざしを持ち合わせている。このような文学に学ぶことは、今日なお有意義であり単に「宗教学」に触れる以上の意味がある。真の目標は、聖書を学ぶのみならず、聖書を通して人間について考え、これからの日本の社会に必要なことを考えるための補助線を得ることである。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

学期末に短いレポートを課す。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

『聖書　聖書協会共同訳』または『聖書　新共同訳』
雨宮慧『図解雑学　聖書』ナツメ社、2009年。
雨宮慧『旧約聖書のこころ』女子パウロ会、1989年。
佐久間勤『四季おりおりの聖書』女子パウロ会、2002年。
月本昭雄監修『図説　一冊で学び直せるキリスト教の本』学研プラス、2020年。
その他、有用な書籍は授業時に随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

## 実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | キリスト教を概観する | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 旧約聖書とは何か。背景となるパレスチナの歴史と地理 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | 旧約聖書の世界観（創世記1章を分析する） | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | 旧約聖書の人間論（アダムとエバ、カインとアベル　創世記2-4章） | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | 旧約聖書の人間論II（ノアの方舟と世界刷新　創世記6-9章） | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | バベルの塔（創世記11章）、「原初史」と現代を照らし合わせて考える人間の可能性 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | アブラハムの「召命」と人間の現実「イスラエル民族」I | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | ヤコブ物語とヨセフ物語に見る、神と人間「イスラエル民族」II | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | 物語としての「出エジプト」:　解放か救済か「イスラエル民族」III | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | 荒れ野の40年と律法授与:イスラエル誕生の史実と真実 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | イスラエル統一王国:権力の現実と理想の平和 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | 分裂王国時代:預言者の社会批判と、「あるべき社会」 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 詩編から考える、「人間とは何か」 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | 闘う知恵文学:ヨブとコヘレトが見出したもの | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | 聖書が示す、人間の希望とは:新約聖書が与える「回答」 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

| 講義名 | 1000002001 キリスト教概論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.「神を敬し、人を愛する」という学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神の理解をさらに深め、実践する人となる。
2. 新約聖書への理解を通して、どのような社会になっても必要となる価値観を修得する。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

## 授業概要(教育目的)

新約聖書は、旧約聖書が深く認識した人間存在の有り様に対する回答の書であり、それだけを読んでいてもあまり面白くはない。また、人間についての問題意識のないまま読み進めることによる弊害は計り知れない。本授業では、旧約聖書の知識も補いつつ、新約聖書が示す人間と人間社会の新しいあり方の可能性を考えたい。まずは知識は必要なので、新約聖書の背景となる歴史や地理、旧約聖書について知り、またイエスの言行録ともいえる福音書の概説を行う。さらに、様々な物語を通してイエス・キリストと聖書の思想に迫っていく。新約聖書とキリスト教は果たして本当はどのようなことを主張しようとしているのか、また、それらが語る「救い」が何であるのかを考え、生き方をも問う授業としたい。
新約聖書やキリスト教が指し示す人間のあり方について考えることを通して、今後の学びの基礎となる根本的な問題意識を養う場としたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科)。

## 評価方法

学期末試験を行う。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

シルヴァノ・ファウスティ『思い起こし、物語れ:マルコ福音書のメッセージ』(上下巻)佐久間勤訳、女子パウロ会、2000-01年。
大貫隆『イエスと経験』岩波書店、2003年。
上村静『宗教の倒錯』岩波書店、2008年。
学校法人上智学院編『新カトリック大事典』研究社、1996-2010年。

## 講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

## 実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | キリスト教を概観する | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 新約聖書の周辺世界:地理と歴史 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 前提としての旧約聖書 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 福音書通説(映像作品で見るイエス・キリスト)① | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 福音書通説(映像作品で見るイエス・キリスト)② | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | イエス・キリストの生涯とその意味:当時の社会から見る「いやしの奇跡」とは | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 山上の説教:主の祈りとイエスの価値観 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | イエスが語ったたとえ話に見る「神の国」:失われた羊など | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | イエスの受難と復活 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | ヨハネ福音書の語るイエス・キリスト | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | パウロの生涯 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | パウロ神学 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 新約聖書の女性たち | イエスの母マリア、マグダラのマリアなどについてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | ローマ教皇が語る世界と、世界が必要とするもの | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 外部講師特別講義:キリスト教的な生き方を聞く | 授業内容についてインターネットで調べる | 外部講師の話を自分なりにじっくり考える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000002002 キリスト教概論（看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

1.「神を敬し、人を愛する」という学校法人光星学院と八戸学院大学の建学の精神の理解をさらに深め、実践する人となる。
2. 新約聖書への理解を通して、どのような社会になっても必要となる価値観を修得する。
3. キリスト教の根幹を理解することによって、国際社会で通用する教養を身に着ける。

## 授業概要(教育目的)

新約聖書は、旧約聖書が深く認識した人間存在の有り様に対する回答の書であり、それだけを読んでいてもあまり面白くはない。また、人間についての問題意識のないまま読み進めることによる弊害は計り知れない。本授業では、旧約聖書の知識も補いつつ、新約聖書が示す人間と人間社会の新しいあり方の可能性を考えたい。まずは知識は必要なので、新約聖書の背景となる歴史や地理、旧約聖書について知り、またイエスの言行録ともいえる福音書の概説を行う。さらに、様々な物語を通してイエス・キリストと聖書の思想に迫っていく。新約聖書とキリスト教は果たして本当はどのようなことを主張しようとしているのか、また、それらが語る「救い」が何であるのかを考え、生き方をも問う授業としたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科)。

## 評価方法

学期末試験を行う。さらに、授業におけるリアクションペーパー、質疑応答など授業参加態度などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

シルヴァノ・ファウスティ『思い起こし、物語れ：マルコ福音書のメッセージ』(上下巻)佐久間勤訳、女子パウロ会、2000-01年。
大貫隆『イエスと経験』岩波書店、2003年。
上村静『宗教の倒錯』岩波書店、2008年。
学校法人上智学院編『新カトリック大事典』研究社、1996-2010年。

## 講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業にあたっては、学生も教員も適切な緊張感を持って臨みたい。必ずしも細かな注意事項は列挙しないが、授業妨害、集中不足、非常識な行動や態度などは、取ることのないように願いたい。

この授業は教養科目として、学生諸君の世界を広げること、根本的な問題意識を持ってもらうこと、学び方を学ぶことを目指していると同時に、建学の精神に深くかかわる重要な科目である。受講生にはぜひ積極的な学ぶ姿勢を求めたい。

## 実務との関連

カトリック教会の週刊誌で連載執筆した記事を授業内で用いることがある。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | キリスト教を概観する | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 新約聖書の周辺世界：地理と歴史 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 福音書通説（映像作品で見るイエス・キリスト）① | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 福音書通説（映像作品で見るイエス・キリスト）② | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | イエスの生涯とその意味：当時の社会と癒しの奇跡、愛の実践 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | イエスの山上の説教 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | イエスが教えた主の祈りとイエスの価値観 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | イエスが語ったたとえ話に見る「神の国」：失われた羊など | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | イエスの受難と復活 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | ヨハネ福音書の語るイエス・キリスト | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | パウロの生涯と信仰義認の神学 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 新約聖書の女性たち：第一の証言者として | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 旧約聖書と新約聖書：愛をはばむものは何なのか | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | ローマ教皇が語る世界と、世界が必要とするもの | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 外部講師特別講義：キリスト教的な生き方を聞く | 授業内容についてインターネットで調べる | 外部講師の話を自分なりにじっくり考える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000003000 地域文化論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 柾谷　伸夫 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 八戸を中心とする南部地域の歴史と特性を説明できる。
2. 八戸を中心とする南部地域の文化と特性を説明できる。
3. 八戸を中心とする南部地域の地域発展に貢献した先人の業績を説明できる。
4. 八戸の政治・経済界を牽引しているゲストの講義を聞き、地域活性化の現状と課題の解決策を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

わが国では、人口減少克服・地方創生という構造的な課題に取り組むため、平成26年末までに「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、人口減少の克服に向け国と地方が総力を挙げて取り組むうえでの指針となる「長期ビジョン」および「総合戦略」を毎年度閣議決定している。
特に人口減少と地域経済縮小の克服については、基本的視点の一つに「地域の特性に即して地域課題を解決する」が挙げられており、人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応し、地域が直面する課題を解決し、地域の中において安全・安心で心豊かな生活が将来にわたって確保されるように取り組むことが求められている。
本講義では、「地域文化の歴史と特性」「地域発展に貢献した先人の事例」「地域活性化の現状と課題の解決策」について学び、地域・文化の特性を理解し、地域社会発展のための手立てを探る。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

課題提出、授業アンケート等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

なし

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

この講義を通して、大学のある八戸を中心とする南部地域の魅力に気づき、八戸が大好きになって欲しい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 八戸の歴史～中世 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 八戸の歴史～中世から戦国時代 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 八戸の歴史～九戸の乱から八戸藩誕生 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 八戸の歴史～江戸中期から幕末 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 八戸の歴史～幕末から明治期 八戸藩の文化と特性 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 八戸の文化の特性① | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 八戸の文化の特性② | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 安藤昌益 美濃屋乙因 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 櫛引弓人 前原寅吉 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 神田重雄 長谷川藤次郎 浦山太吉 橋本八右衛門 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 地域活性化の現状と課題の解決策① | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 地域活性化の現状と課題の解決策② | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 地域活性化の現状と課題の解決策③ | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 地域活性化の現状と課題の解決策④ | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 地域活性化の現状と課題の解決策⑤ | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004216 基礎演習　幸田ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 幸田　威久矢 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

| 講義名 | 1000004222 基礎演習　加来ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 加来　聡伸 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りである。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられる。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴がある。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言える。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出してもらう。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践してもらう。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 8 | 8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 9 | 9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 10 | 10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 11 | 11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 12 | 12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 14 | 14. レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 15 | 15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |

| 講義名 | 1000004230 基礎演習　馬場ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 馬場　祥次 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

提出された課題に対して随時、評価、講評を伝える。

## 参考文献

授業の中で、随時指示します。

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用② | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 8 | 8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 9 | 9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 10 | 10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 11 | 11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 12 | 12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 14 | 14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 15 | 15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004234 基礎演習　横田ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 横田　将志 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用② | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 8 | 8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 9 | 9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 10 | 10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 11 | 11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 12 | 12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 14 | 14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 15 | 15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004235 基礎演習　奈良ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 奈良　卓 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用② | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 8 | 8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 9 | 9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 10 | 10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 11 | 11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 12 | 12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 14 | 14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 15 | 15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004237 基礎演習　楊ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用② | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 8 | 8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 9 | 9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 10 | 10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 11 | 11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 12 | 12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 14 | 14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 15 | 15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |

| 講義名 | 1000004238 基礎演習　川守田ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 川守田　景子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用② | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 8 | 8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 9 | 9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 10 | 10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 11 | 11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 12 | 12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 14 | 14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 15 | 15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004239 基礎演習　埴原ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 埴原　啓正 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用② | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 8 | 8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 9 | 9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 10 | 10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 11 | 11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 12 | 12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 14 | 14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 15 | 15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |

| 講義名 | 1000004240 基礎演習　種市ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 種市　朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用② | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 8 | 8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 9 | 9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 10 | 10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 11 | 11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 12 | 12. レポートの書き方⑥－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 14 | 14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 15 | 15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |

| 講義名 | 1000004241 基礎演習　木村ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 木村　浩哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用② | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 8 | 8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 9 | 9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 10 | 10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 11 | 11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 12 | 12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 14 | 14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 15 | 15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004242 基礎演習　堀谷ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 堀谷　大輔 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用② | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 8 | 8. レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 9 | 9. レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 10 | 10. レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 11 | 11. レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 12 | 12. レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 14 | 14　レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |
| 15 | 15. レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | 「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きの該当箇所を参照し、概略を理解する。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。他の演習参加者の論述の背景を考える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004305 基礎演習　井元ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004310 基礎演習　浜中ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004315 基礎演習　渡邉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004319 基礎演習　工藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004320 基礎演習　宮澤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 宮澤　君子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

| 講義名 | 1000004327 基礎演習　佐藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 佐藤　千恵子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出とともに毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

提出した文章およびレポート等については添削後返却します。
またゼミ内での発表の機会を設け、意見交換をします。、

## 参考文献

その都度、必要に応じて紹介します。

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. オリエンテーション<br>・基礎演習・プレゼンテーションの進め方について説明する | ・シラバスを読む | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む |
| 2 | 2. 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)<br>・新聞の社説等を読み、文章にまとめる | ・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む | ・文章をまとめる |
| 3 | 3. 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)<br>・前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | ・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む | ・文章をまとめる |
| 4 | 4. 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)<br>・VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | ・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む | ・文章をまとめる |
| 5 | 5. 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)<br>・前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | ・「基礎演習・プレゼンテーションの手引き」を読む | ・文章をまとめる |
| 6 | 6. 資料(文献)の収集と利用①<br>・新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | ・資料の収集をする | ・資料を整理する |
| 7 | 7. 資料(文献)の収集と利用②<br>・新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | ・資料の収集をする | ・資料を整理する |
| 8 | 8. レポートの書き方①<br>・レポートの構成について学ぶ | ・資料を整理し、作成の準備をする | ・資料を整理する |
| 9 | 9. レポートの書き方②<br>・レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | ・資料を整理し、作成の準備をする | ・資料を整理する |
| 10 | 10. レポートの書き方③<br>・図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | ・資料を整理し、作成の準備をする | ・資料を整理する |
| 11 | 11. レポートの書き方④<br>・文献情報の整理の仕方について学ぶ | ・資料を整理し、作成の準備をする | ・資料を整理する |
| 12 | 12. レポートの書き方⑤<br>・資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | ・資料を整理し、作成の準備をする | ・レポートの内容を整理する |
| 13 | 13. レポートの書き方⑥<br>・前回に引き続き、レポートを作成する。 | ・レポートをまとめ、整理する | ・レポートの内容を整理する |
| 14 | 14. レポートの書き方⑦<br>・必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する | ・レポートをまとめ、整理する | ・レポートの内容を整理する |
| 15 | 15. レポートの提出・発表<br>・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | ・発表するための準備をする | ・提出するために内容を見直し整理する |

| 講義名 | 1000004329 基礎演習　千葉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたといえます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづくレポートの構成(見出しと概要)を記述した報告書により評価する。提出物だけでなく、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

課題をより深く追求するためのアドバイスを行う。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践する。
ゼミには毎回出席することが基本となる。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 履修科目の説明<br>自己紹介 | テキストに目を通す | 授業内容を整理する |
| 2 | 履修科目の確認<br>必要に応じて面談 | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 3 | レポートテーマ選定の説明 | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 4 | 図書館利用①<br>DVD視聴による図書館機能の説明と施設案内 | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 5 | 図書館利用②<br>前回説明を受けた図書館機能を実際に利用し、書籍等の貸借や文献検索方法を理解する | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 6 | レポートテーマを探す①<br>図書館の新聞社説を中心に関心・興味のある文章を探し、数点候補に挙げる | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 7 | レポートテーマを探す②<br>前回に引き続き、図書館で関心・興味のある文章を探し、数点候補に挙げる | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 8 | レポートテーマを探す③<br>探した数点から最も関心・興味のあるものを1点選び、コピーを取る | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 9 | レポートテーマを選ぶ<br>各自、選んだテーマをゼミで報告し、他の人の報告について意見や質問をしあう。 | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 10 | レポート作成の準備①<br>レポートの構成や書き方について理解する | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 11 | レポート作成の準備②<br>各自、レポートの構成を考える | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 12 | レポート作成の準備③<br>レポートの構成をゼミ担に報告し、アドバイスを受ける | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 13 | レポート作成の準備④<br>前回のアドバイスを踏まえてレポートの構成を再検討する | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 14 | レポート作成の準備⑤<br>レポート作成に必要となる文献資料の入手について考える<br>レポートの構成が決定したら見出しと概要を記述して提出する | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 15 | 春期履修状況の確認<br>必要に応じて面談する | 前回の授業内容を確認する | 授業内容を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004330 基礎演習　大木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004331 基礎演習　有光ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004332 基礎演習　泉水ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004334 基礎演習　金地ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004336 基礎演習　遠藤光男ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004337 基礎演習　石原ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

| 講義名 | 1000004338 基礎演習　立石ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004339 基礎演習　吉田ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004340 基礎演習　平塚ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004341 基礎演習　阿部ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004342 基礎演習　今川ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004343 基礎演習（再履修） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。
3. レポートの作成等を通して適切な文章表現の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
　一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

担当教員の指導のもと、各自のテーマに基づいてのレポート作成とそのための資料・文献の検索を実践していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004428 基礎演習　溝江ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 溝江　弓恵 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004433 基礎演習　堺ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 堺　香奈子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004452 基礎演習　日當ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 日當　ひとみ | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004453 基礎演習　小出ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 小出　るみ子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004462 基礎演習　足澤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 足澤　ちか子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. レポートを作成する等の目的に応じて資料・文献を検索する方法を身につけること。
2. レポートの作成方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわし「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら決めたテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎演習・プレゼンテーションの進め方 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－前回に引き続き社説等を読み、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現③)－VTR等映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現④)－前回に引き続き映像教材を見て、文章にまとめる | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用①－新聞、インターネットを利用した情報収集、検索を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 資料(文献)の収集と利用② | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | レポートの書き方①－レポートの構成について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | レポートの書き方②－レポートのテーマ設定について学び、作成の準備をする | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | レポートの書き方③－図書館を利用して、レポートに必要な情報収集を行う | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | レポートの書き方④－文献情報の整理の仕方について学ぶ | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | レポートの書き方⑤－資料を読み込み、収拾した文献を整理し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | レポートの書き方⑥－引き続き、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | レポートの書き方⑦－必要に応じ「情報カード」を見直し、レポートを作成する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | レポートの提出・発表－レポートを提出し、内容について発表する。 | テキストの該当箇所を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004464 基礎演習　三浦ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 三浦　広美 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につける
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につける
3. レポートの作成方法を身につける

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。このような情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方 | ゼミ生・担当教員を確認する。 | 「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。 |
| 2 | 入学前課題の意見交換(グループワーク) | 手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 図書館利用に関する講義 | 手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。 | OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ | 新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。 | 要約等を見直す。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ | 映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。 | 要約等を見直す。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ | 手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。 | 新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。 |
| 7 | レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ | レポートのテーマを考案する。 | レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。 |
| 8 | レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ | レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。 | テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。 |
| 9 | レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する | テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。 | 「文献カード」を作成する。 |
| 10 | レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う | 「文献カード」「情報カード」を作成する。 | 「情報カード」を作成する。 |
| 11 | レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う | 「情報カード」を作成する。 | 「情報カード」を整理する。 |
| 12 | レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する | 「情報カード」及びレポートを作成する。 | 「情報カード」を整理する。 |
| 13 | レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる | 「情報カード」の見直し、レポートを作成する。 | レポート作成を進める。 |
| 14 | レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる | 「情報カード」の見直し、レポートを作成する。 | レポート作成を進める。 |
| 15 | レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する | レポートを見直す。 | ゼミごとにレポートを提出する。 |

| 講義名 | 1000004465 基礎演習　佐々木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 佐々木　真湖 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方 | ゼミ生・担当教員を確認する。 | 「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。 |
| 2 | 入学前課題の意見交換(グループワーク) | 手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 図書館利用に関する講義 | 手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。 | OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ | 新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。 | 要約等を見直す。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ | 映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。 | 要約等を見直す。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ | 手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。 | 新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。 |
| 7 | レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ | レポートのテーマを考案する。 | レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。 |
| 8 | レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ | レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。 | テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。 |
| 9 | レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する | テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。 | 「文献カード」を作成する。 |
| 10 | レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う | 「文献カード」「情報カード」を作成する。 | 「情報カード」を作成する。 |
| 11 | レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う | 「情報カード」を作成する。 | 「情報カード」を整理する。 |
| 12 | レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する | 「情報カード」及びレポートを作成する。 | 「情報カード」を整理する。 |
| 13 | レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる | 「情報カード」の見直し、レポートを作成する。 | レポート作成を進める。 |
| 14 | レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる | 「情報カード」の見直し、レポートを作成する。 | レポート作成を進める。 |
| 15 | レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する | レポートを見直す。 | ゼミごとにレポートを提出する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004466 基礎演習　野崎ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 野崎　悦子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方 | ゼミ生・担当教員を確認する。 | 「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。 |
| 2 | 入学前課題の意見交換(グループワーク) | 手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 図書館利用に関する講義 | 手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。 | OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ | 新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。 | 要約等を見直す。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ | 映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。 | 要約等を見直す。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ | 手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。 | 新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。 |
| 7 | レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ | レポートのテーマを考案する。 | レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。 |
| 8 | レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ | レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。 | テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。 |
| 9 | レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する | テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。 | 「文献カード」を作成する。 |
| 10 | レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う | 「文献カード」「情報カード」を作成する。 | 「情報カード」を作成する。 |
| 11 | レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う | 「情報カード」を作成する。 | 「情報カード」を整理する。 |
| 12 | レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する | 「情報カード」及びレポートを作成する。 | 「情報カード」を整理する。 |
| 13 | レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる | 「情報カード」の見直し、レポートを作成する。 | レポート作成を進める。 |
| 14 | レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる | 「情報カード」の見直し、レポートを作成する。 | レポート作成を進める。 |
| 15 | レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する | レポートを見直す。 | ゼミごとにレポートを提出する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004467 基礎演習　山崎ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 山崎　千鶴 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方 | ゼミ生・担当教員を確認する。 | 「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。 |
| 2 | 入学前課題の意見交換(グループワーク) | 手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 図書館利用に関する講義 | 手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。 | OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ | 新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。 | 要約等を見直す。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ | 映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。 | 要約等を見直す。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ | 手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。 | 新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。 |
| 7 | レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ | レポートのテーマを考案する。 | レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。 |
| 8 | レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ | レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。 | テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。 |
| 9 | レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する | テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。 | 「文献カード」を作成する。 |
| 10 | レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う | 「文献カード」「情報カード」を作成する。 | 「情報カード」を作成する。 |
| 11 | レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う | 「情報カード」を作成する。 | 「情報カード」を整理する。 |
| 12 | レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する | 「情報カード」及びレポートを作成する。 | 「情報カード」を整理する。 |
| 13 | レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる | 「情報カード」の見直し、レポートを作成する。 | レポート作成を進める。 |
| 14 | レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる | 「情報カード」の見直し、レポートを作成する。 | レポート作成を進める。 |
| 15 | レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する | レポートを見直す。 | ゼミごとにレポートを提出する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000004468 基礎演習　工藤（瑞）ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 工藤　瑞穂 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習の到達目標は以下の通りです。
1. 文章の読み方・まとめ方を身につけること。
2. 資料(文献)の収集とその利用方法を身につけること。
3. レポートの作成方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本演習は、「プレゼンテーション」(秋学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また4年次の「看護卒業研究」の導入段階の科目として位置づけられています。
一般に演習(ゼミ)とは、少人数のメンバーが、特定のテーマ等に関して、報告者による報告をたたき台として、それぞれがもつ意見を出し合って討論していくという双方向の情報交換が行われるところに、その特徴があります。情報交換を通じて、大学生としてふさわしい「考える力」及び「表現する力」を養成するという点で、大学の教育において、ある意味通常の講義科目よりも大きな役割と機能を果たしてきたと言えます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

自ら選択したテーマにもとづく2枚(A4タテ)程度のレポート(中間稿)を作成し、提出していただきます。そして、レポート(中間稿)の提出は無論のこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

ゼミナール活動として、自己のテーマに沿った文献資料の収集から、レポート作成において、毎時間ごとに進捗状況を報告してもらいます。また、レポートは紙ベースもしくはデータファイルにより提出してもらい、添削の上返却します。
成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きを参考書として使用します。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「基礎演習」「プレゼンテーション」の進め方 | ゼミ生・担当教員を確認する。 | 「基礎演習」「プレゼンテーション」の目的、目標、内容等を確認する。 |
| 2 | 入学前課題の意見交換(グループワーク) | 手引き「第1章 文章の読み方・まとめ方」を読む。 | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | 図書館利用に関する講義 | 手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／2.図書館を利用しての情報収集」を読む。 | OPAC検索方法等、図書館の利用方法を確認する。 |
| 4 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現①)－新聞の社説を読み、書かれている内容を理解し、論者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ | 新聞の社説を読み、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。 | 要約等を見直す。 |
| 5 | 文章の読み方・まとめ方(文章表現②)－映像教材(ドキュメンタリー番組、あるいは討論番組のVTR)を視聴し、内容を理解し、番組制作者の主張を読みとり、簡潔な文章にまとめる方法を学ぶ | 映像教材を視聴し、要約等を作成、ゼミ内での発表準備をする。 | 要約等を見直す。 |
| 6 | 資料(文献)の収集と利用－情報ツールとしての新聞記事、インターネットの利用方法、利用に関する注意事項及びツールを学ぶ | 手引き「第2章 資料(文献)の収集とその利用／1.情報収集と注意事項、3.インターネットによる情報収集」を読む。 | 新聞記事、インターネットの利用方法、利用する際の注意事項・ルール等を確認する。そして、パソコンや図書館を利用して検索してみる。 |
| 7 | レポートの書き方①(レポート作成の準備)－レポートの構成(序論・本論・結論)、レポートのテーマ設定、レポートの目的、取り上げる内容を絞り込む方法を学ぶ | レポートのテーマを考案する。 | レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を考案する。 |
| 8 | レポートの書き方②(レポート作成の準備)－レポート作成のプロセスのうち、テーマ設定から資料(文献)収集までの手順を学ぶ | レポートのテーマ、目的、取り上げる内容を絞り込む。 | テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。 |
| 9 | レポートの書き方③(図書館を利用しての資料(文献)収集)－絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する | テーマに沿って、パソコンや図書館を利用して検索する。 | 「文献カード」を作成する。 |
| 10 | レポートの書き方④(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う | 「文献カード」「情報カード」を作成する。 | 「情報カード」を作成する。 |
| 11 | レポートの書き方⑤(図書館を利用しての資料(文献)収集、文献整理の方法)－引き続き、絞り込んだレポートのテーマ、目的、取り上げる内容に応じ、図書館で資料(文献)収集する。そして、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う | 「情報カード」を作成する。 | 「情報カード」を整理する。 |
| 12 | レポートの書き方⑥(文献整理の方法、レポート作成)－引き続き、図書館で収集した資料(文献)を読み、内容を整理し、要約する作業を行う。そして、資料(文献)の整理、要約の作業を終え次第、レポート作成に移行する | 「情報カード」及びレポートを作成する。 | 「情報カード」を整理する。 |
| 13 | レポートの書き方⑦(レポート作成)－レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる | 「情報カード」の見直し、レポートを作成する。 | レポート作成を進める。 |
| 14 | レポートの書き方⑧(レポート作成)－引き続き、レポート作成の作業を行う。必要に応じ、「情報カード」を見直し、レポートに反映させる | 「情報カード」の見直し、レポートを作成する。 | レポート作成を進める。 |
| 15 | レポートの提出(完成、発表、提出)－レポートを作成し、発表、提出する | レポートを見直す。 | ゼミごとにレポートを提出する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005216 プレゼンテーション　幸田ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 幸田　威久矢 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005222 プレゼンテーション　加来ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 加来　聡伸 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用する。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 2 | 2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 3 | 3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 4 | 4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 5 | 5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 6 | 6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 7 | 7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 8 | 8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 9 | 9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 10 | 10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 11 | 11. プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 12 | 12. プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 13 | 13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 14 | 14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 15 | 15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005230 プレゼンテーション　馬場ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 馬場　祥次 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き　を参考書として使用する。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションは、非常に大切なスキルです。pptの作成に偏ることなく何をどの様に効率的に伝えるか身につけてください。

## 実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 2 | 2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 3 | 3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 4 | 4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 5 | 5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 6 | 6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 7 | 7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 8 | 8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 9 | 9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 10 | 10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 11 | 11. プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 12 | 12. プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 13 | 13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 14 | 14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 15 | 15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005234 プレゼンテーション　横田ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 横田　将志 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 2 | 2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 3 | 3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 4 | 4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 5 | 5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 6 | 6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 7 | 7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 8 | 8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 9 | 9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 10 | 10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 11 | 11. プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 12 | 12. プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 13 | 13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 14 | 14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 15 | 15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005235 プレゼンテーション　奈良ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 奈良　卓 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 2 | 2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 3 | 3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 4 | 4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 5 | 5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 6 | 6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 7 | 7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 8 | 8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 9 | 9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 10 | 10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 11 | 11. プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 12 | 12. プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 13 | 13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 14 | 14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 15 | 15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005237 プレゼンテーション　楊ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 2 | 2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 3 | 3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 4 | 4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 5 | 5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 6 | 6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 7 | 7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 8 | 8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 9 | 9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 10 | 10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 11 | 11. プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 12 | 12. プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 13 | 13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 14 | 14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 15 | 15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005238 プレゼンテーション　川守田ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 川守田　景子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 2 | 2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 3 | 3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 4 | 4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 5 | 5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 6 | 6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 7 | 7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 8 | 8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 9 | 9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 10 | 10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 11 | 11. プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 12 | 12. プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 13 | 13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 14 | 14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 15 | 15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005239 プレゼンテーション　埴原ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 埴原　啓正 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 2 | 2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 3 | 3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 4 | 4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 5 | 5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 6 | 6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 7 | 7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 8 | 8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 9 | 9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 10 | 10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 11 | 11. プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 12 | 12. プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 13 | 13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 14 | 14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 15 | 15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005240 プレゼンテーション　種市ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 種市　朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 2 | 2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 3 | 3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 4 | 4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 5 | 5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 6 | 6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 7 | 7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 8 | 8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 9 | 9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 10 | 10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 11 | 11. プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 12 | 12. プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 13 | 13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 14 | 14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 15 | 15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005241 プレゼンテーション　木村ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 木村　浩哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 2 | 2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 3 | 3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 4 | 4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 5 | 5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 6 | 6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 7 | 7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 8 | 8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 9 | 9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 10 | 10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 11 | 11. プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 12 | 12. プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 13 | 13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 14 | 14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 15 | 15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005242 プレゼンテーション　堀谷ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 堀谷　大輔 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とする。
1. プレゼンテーション資料を作成できる。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明ができる。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけることができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられている。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行ったが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行う。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要がある。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する。そのため、ゼミには毎回出席することが求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 2 | 2. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 3 | 3. レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 4 | 4. レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 5 | 5. レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 6 | 6. 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 7 | 7. 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 8 | 8. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 9 | 9. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 10 | 10. ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 11 | 11. プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 12 | 12. プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 13 | 13. 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 14 | 14. 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |
| 15 | 15. 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | テキストの概要箇所を読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005305 プレゼンテーション　井元ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005310 プレゼンテーション　浜中ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005315 プレゼンテーション　渡邉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005319 プレゼンテーション　工藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005320 プレゼンテーション　宮澤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 宮澤　君子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

| 講義名 | 1000005327 プレゼンテーション　佐藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 佐藤　千恵子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

提出した文章やレポートおよびスライドについては適宜アドバイスをし、必要に応じて添削後返却します。
また、ゼミ内での発表の機会を設け、意見交換をします。

## 参考文献

その都度必要に応じて指示します。

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>基礎演習で作成したレポートの修正および加筆をする | ・シラバスを読む | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む |
| 2 | レポートの修正および加筆 | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む | ・レポートをまとめる |
| 3 | レポートの完成およびゼミ内での発表<br>聴いている学生はアドバイスをする | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む | ・レポートをまとめる |
| 4 | レポートの修正版を各自提出 | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む | ・レポートをまとめる |
| 5 | レジュメの作成方法<br>レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む | ・レジュメを整理する |
| 6 | 発表スライドの作成①<br>レジュメを基に発表スライドを作成する | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む | ・レジュメを整理する |
| 7 | 発表スライドの作成②<br>引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む | ・スライドを整理する |
| 8 | 発表スライドの作成③<br>引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む | ・スライドを整理する |
| 9 | ゼミ内でのプレゼンテーション①<br>発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う | ・発表の準備をする | ・スライドを整理する |
| 10 | ゼミでのプレゼンテーション②<br>引き続き、プレゼンテーションを行う | ・発表の準備をする | ・レジュメとスライドの整理 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備①<br>各自、発表の準備をする | ・発表の準備をする | ・レジュメとスライドの整理 |
| 12 | プレゼンテーション発表の準備②<br>プレゼン評価シートへの記入 | ・発表の準備をする | ・レジュメとスライドの整理 |
| 13 | プレゼンテーション発表会 | ・発表の準備をする | ・レジュメとスライドの整理 |
| 14 | 討論について学ぶ①<br>討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む | ・資料の整理 |
| 15 | 討論について学ぶ②<br>１年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | ・基礎演習・プレゼンテーションの手引きを読む | ・資料の整理 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005329 プレゼンテーション　千葉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標とします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成の準備段階として、「多くの文章を読み、調べ、自らテーマを決めて、レポートの構成を考える」基礎的スキルを身につける授業を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につける目的で授業を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等、積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行う。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成する。
レポート(完成版)の提出状況、毎回の取組状況についても評価の対象とする。

## 課題に対するフィードバック

完成したレポートの内容をプレゼンテーションで充分発表できるよう、サポートする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーションの手引き」を参考とする。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表しあう。そのため、全回出席が基本。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 春期の基礎演習振り返り<br>秋期履修予定の報告 | 1年生の基礎演習内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 2 | レポート作成に必要な資料(文献)の収集状況確認 | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 3 | 資料(文献)補充①<br>図書館・PC・スマホを利用した資料(文献)のコピー、他学図書館へのコピー依頼 | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 4 | 資料(文献)補充②<br>引き続き、資料(文献)収集を行い、内容読解・整理する | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 5 | レポート執筆①<br>レポート本文の構成確認、執筆開始 | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 6 | レポート執筆②<br>引き続き、レポートを執筆 | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 7 | レポート執筆③<br>文字数、ポイント他、執筆要領に準じたレポートになっているか確認しながら完成に向けて作業する | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 8 | 発表会向け準備①<br>パワーポイント作成要領およびレジュメ作成の説明 | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 9 | 発表会向け準備②<br>要領に従い、パワーポイントを作成 | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 10 | 発表会向け準備③<br>パワーポイントの作成を継続する | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 11 | ゼミ内プレゼンテーション発表会<br>発表会進行のための司会、タイムキーパーなどの役割分担を行い、全員で発表し合う。<br>自分以外の発表について質問や意見を述べ合う | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 12 | プレゼンテーション発表会<br>学年全体の発表会に参加する | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 13 | プレゼンテーションレポートの最終修正<br>最終的な加筆修正を行い、全体の体裁を整える | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 14 | プレゼンテーションレポートの提出 | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |
| 15 | 秋期履修状況の確認<br>必要に応じて面談を行う | 前回の内容を確認する | 授業内容を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005330 プレゼンテーション　大木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005331 プレゼンテーション　有光ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005332 プレゼンテーション　泉水ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特徴について理解し、地域に貢献できるような人材であること。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005334 プレゼンテーション　金地ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005336 プレゼンテーション　遠藤光男ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005337 プレゼンテーション　石原ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005338 プレゼンテーション　立石ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005339 プレゼンテーション　吉田ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いますが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートをパワーポイントなどを使って、ゼミ内で発表します。本演習を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるために、その前段として、様々なルートで情報収集を行い、読み手(聞き手)にとってわかりやすい文章にまとめ、分かりやすく説明する必要があります。
報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005340 プレゼンテーション　平塚ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005341 プレゼンテーション　阿部ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005342 プレゼンテーション　今川ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005343 プレゼンテーション（再履修） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005428 プレゼンテーション　溝江ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 溝江　弓恵 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引きをテキストとして使用します。プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005433 プレゼンテーション　堺ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 堺　香奈子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005452 プレゼンテーション　日當ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 日當　ひとみ | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005453 プレゼンテーション　小出ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 小出　るみ子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005462 プレゼンテーション　足澤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 足澤　ちか子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005464 プレゼンテーション　三浦ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 三浦　広美 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005465 プレゼンテーション　佐々木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 佐々木　真湖 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005466 プレゼンテーション　野崎ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 野崎　悦子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005467 プレゼンテーション　山崎ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 山崎　千鶴 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000005468 プレゼンテーション　工藤（瑞）ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 工藤　瑞穂 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3点をプレゼンテーションの到達目標といたします。
1. プレゼンテーション資料作成の方法を身につけること。
2. 聞き手にとってわかりやすい説明の方法を身につけること。
3. プレゼンテーションの際の質疑応答等を通じて討論の方法を身につけること。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「基礎演習」(春学期)とともに、高校教育と大学教育の橋渡しとして、また2年から4年までの「研究演習」の導入段階にある科目として位置づけられています。
「基礎演習」ではレポート作成等を通じ、「自らテーマを決め、読み、調べ、まとめる」スキルの基礎を身につけるための訓練を行いましたが、「プレゼンテーション」では、自ら作成したレポートに基づいてゼミの中で発表する等を通じ、「発表し、質疑応答(討論)に参加する」スキルの基礎を身につけるための訓練を行います。また、報告者は、調べた成果及び自分の考えを整理し、伝えるため、様々なルートで情報収集を行うとともに、読み手にとってわかりやすい文章にまとめ、聞き手にとってわかりやすく説明する必要があります。報告者以外のメンバーは、報告内容を把握し、不十分な点を質問するあるいは指摘する等積極的に質疑応答に参加します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

秋学期の「プレゼンテーション」においては、春学期において各自が作成したレポート(中間稿)をもとに、レジュメあるいはプレゼンテーション用の原稿を作成し、ゼミ内で順番を決めて発表し、全員で質疑応答を行います。また、春学期に作成したレポートの完成版を作成します。
レポート(完成版)の提出、ゼミ内での報告はもちろんのこと、毎回のゼミへの取組状況についても評価の対象とします。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「基礎演習とプレゼンテーション」の手引き を参考書として使用します。
プレゼンテーションでは担当教員の指導のもと、各自が自分のテーマで作成したレポートに基づいてゼミの中で発表していただきます。そのため、ゼミには毎回出席することが求められます。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | レポート作成の修正に向けて－基礎演習で作成したレポートの修正点について、レポート評価シートにまとめる。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 2 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 3 | レポートの改定に向けて－修正点を踏まえて、レポートを発表する。聴いている学生はアドバイスをする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 4 | レポートの修正版の提出－レポートを各自修正し、提出する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 5 | レジュメの作成方法－レジュメの作成方法を学び、レポートを基にレジュメを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 6 | 発表スライドの作成①－レジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 7 | 発表スライドの作成②－引き続きレジュメを基に発表スライドを作成する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 8 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション①－発表スライドを基に学生がプレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 9 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション②－引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 10 | ゼミのメンバーによるプレゼンテーション③引き続き、プレゼンテーションを行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション発表会の準備 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 12 | プレゼンテーション発表会 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 13 | 討論について学ぶ①－討論の仕方、流れについて学ぶ。学生同士で簡単な討論を行う。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 14 | 討論について学ぶ②－討論の仕方、流れを踏まえて、本格的な討論に挑戦する。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |
| 15 | 討論について学ぶ③－1年間を振り返って、学生同士で討論をする。 | テキストの概要箇所を読む | 演習の内容を整理し、論点を再確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000006001 情報処理基礎　地域共創Aクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 馬場　祥次 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2.表計算でのデータを理解し適切に扱える。
3.グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。

## 授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。
本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

課題の提出出席状況等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

## 参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1.パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 2 | 2.学術活動のためのインターネット利用 | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 3 | 3.情報セキュリティとネチケット | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 4 | 4.文書処理①(Wordの基本操作) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 5 | 5.文書処理②(書式の設定) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 6 | 6.文書処理③(表作成、図の挿入) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 7 | 7.文書処理④(長文レポート編集と文書校閲) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 8 | 8.表計算データ処理①(数式、関数の利用) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 9 | 9.表計算データ処理②(ヒストグラムの作成) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 10 | 10.表計算データ処理③(様々なグラフ利用) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 11 | 11.表計算データ処理④(データ抽出,クロス集計) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 12 | 12.表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 13 | 13.表計算統計分析②(散布図と相関) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 14 | 14.表計算統計分析③(回帰曲線と予測) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 15 | 15.実データ(学術データ等含む)課題演習(実データ検討) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。 | 実践した内容を再度実施する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000006002 情報処理基礎　地域共創B・人間健康再履修 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 馬場　祥次 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2.表計算でのデータを理解し適切に扱える。
3.グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。

## 授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。
本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

課題の提出出席状況等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

## 参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1.パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 2 | 2.学術活動のためのインターネット利用 | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 3 | 3.情報セキュリティとネチケット | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 4 | 4.文書処理①(Wordの基本操作) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 5 | 5.文書処理②(書式の設定) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 6 | 6.文書処理③(表作成、図の挿入) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 7 | 7.文書処理④(長文レポート編集と文書校閲) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 8 | 8.表計算データ処理①(数式、関数の利用) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 9 | 9.表計算データ処理②(ヒストグラムの作成) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 10 | 10.表計算データ処理③(様々なグラフ利用) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 11 | 11.表計算データ処理④(データ抽出,クロス集計) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 12 | 12.表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 13 | 13.表計算統計分析②(散布図と相関) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 14 | 14.表計算統計分析③(回帰曲線と予測) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。 | 実践した内容を再度実施する。 |
| 15 | 15.実データ(学術データ等含む)課題演習(実データ検討) | テキストの該当箇所を読むおよび実践する。インターネットなどで内容を調べる。 | 実践した内容を再度実施する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000006003 情報処理基礎　人間健康Aクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 村本　卓 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 基本的な統計分析ができる。
3. グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができる。

## 授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

## 参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。
ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 2 | 学術活動のためのインターネット利用 | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 3 | 情報セキュリティと情報倫理 | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 4 | 文書処理①(Wordの基本操作) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 5 | 文書処理②(書式の設定) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 6 | 文書処理③(表作成、図の挿入) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 7 | 文書処理④(長文レポート編集と文書校閲) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 8 | 表計算①(数式、関数の利用) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 9 | 表計算②(ヒストグラム作成) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 10 | 表計算③(様々なグラフ利用) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 11 | 表計算④(データ抽出、クロス集計) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 12 | 表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 13 | 表計算統計分析②(散布図と相関) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 14 | 表計算統計分析③(回帰曲線と予測) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 15 | 実データ(学術データ等含む)課題演習 | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000006004 情報処理基礎　人間健康Bクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 坂本　貴博 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。
3. 表計算ソフトでデータ分析ができる。

## 授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。

本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

## 参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

## 実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | コンピュータとネットワークの基礎知識 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 2 | キャンパスグループウェアの利用方法 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 3 | 情報セキュリティと情報倫理<br>生成AI活用 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 4 | 文書処理①（Wordの基本操作） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 5 | 文書処理②（書式の設定） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 6 | 文書処理③（表作成、図の挿入） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 7 | 文書処理④（長文レポート編集と文書校閲） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 8 | 表計算①（数式、関数の利用） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 9 | 表計算②（ヒストグラム作成） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 10 | 表計算③（様々なグラフ利用） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 11 | 表計算④（データ抽出、クロス集計） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 12 | 表計算統計分析①（基本的な統計関数：代表値） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 13 | 表計算統計分析②（散布図と相関） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 実践した内容を再度実施する。 |
| 14 | 表計算統計分析③（回帰曲線と予測） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 15 | 実データ（学術データ等含む）課題演習 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000006005 情報処理基礎　看護Aクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 村本　卓 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2.基礎的な統計分析ができる。
3.グループウェアの活用、インターネットでの情報検索ができるようにする。

## 授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

はちキャンWebにてコメントするとともに、次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

・実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。
・ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 2 | 学術活動のためのインターネット利用 | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 3 | 情報セキュリティとネチケット | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 4 | 文書処理①(Wordの基本操作) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 5 | 文書処理②(書式の設定) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 6 | 文書処理③(表作成、図の挿入) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 7 | 文書処理④(長文レポート編集と文書校閲) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 8 | 表計算データ処理①(数式、関数の利用) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 9 | 表計算データ処理②(ヒストグラムの作成) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 10 | 表計算データ処理③(様々なグラフ利用) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 11 | 表計算データ処理④(データ抽出,クロス集計) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 12 | 表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 13 | 表計算統計分析②(散布図と相関) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 14 | 表計算統計分析③(回帰曲線と予測) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| 15 | 実データ(学術データ等含む)課題演習(実データ検討) | ・WebClassにアップロードしている授業資料を読んでおくこと。<br>・授業資料に事前課題等が提示されている場合は、解答しておくこと。 | ・授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。<br>・実習課題について、提出物の評価を確認し、復習しておくこと。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000006006 情報処理基礎　看護Bクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 坂本　貴博 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。
3. 表計算ソフトでデータ分析ができる。

## 授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。
　本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

演習課題は、課題完成度の確認結果をフィードバックする.
成績を知りたい学生には個別に開示する.

## 参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
1. 実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。
ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | パーソナルコンピュータ(PC)の基本的な取り扱い | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 2 | 学術活動のためのインターネット利用 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 3 | 情報セキュリティと情報倫理<br>生成AI活用 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 4 | 文書処理①(Wordの基本操作) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 5 | 文書処理②(書式の設定) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 6 | 文書処理③(表作成、図の挿入) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 7 | 文書処理④(長文レポート編集と文書校閲) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 8 | 表計算①(数式、関数の利用) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 9 | 表計算②(ヒストグラム作成) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 10 | 表計算③(様々なグラフ利用) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 11 | 表計算④(データ抽出、クロス集計) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 12 | 表計算統計分析①(基本的な統計関数:代表値) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 13 | 表計算統計分析②(散布図と相関) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 14 | 表計算統計分析③(回帰曲線と予測) | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |
| 15 | 実データ(学術データ等含む)課題演習 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する<br>演習課題を作成する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000006007 情報処理基礎　人間健康Cクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 坂本　貴博 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. レポート作成、図表作成技術を活用できる。
2. 表計算ソフトで基礎的計算設定やグラフの作成ができる。
3. 表計算ソフトでデータ分析ができる。

## 授業概要(教育目的)

今日、コンピュータは職場や家庭で広く使われており、大学においてもレポート課題、データ整理・分析、諸計算、卒業論文作成など多くの局面で利用されている。また、インターネットの急速な普及により、ブラウザでの情報検索や電子メールによるコミュニケーションが一般化してきており、現代社会において必要不可欠なものとなっている。

本授業は、コンピュータやインターネットを利用する上で必要な基礎的理論と技術について実習を通して習得し、学業において日常的なコンピュータ利用が主体的にできる力を身につけることを目的としている。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

課題の提出状況等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出してください。

## 参考文献

授業用Webサイトにて随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

情報リテラシーWindows11 Office 2024／Microsoft 365対応　FOM出版
型番FPT2516　ISBNコード978-4-86775-215-9

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

1.実習はステップを踏んで進むので、欠席をしないよう留意し、各時間内で課題を提出できるよう努力すること。遅れた場合は、自習で補うことが必要である。テキストは随時改訂されているので必ず購入し、ファイル保存用のUSBメモリを各自準備すること。

## 実務との関連

システムエンジニアとして、コンピュータシステム会社に勤務。技術者としての経験を活かして、社会で必要とされる情報技術を解説します。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | コンピュータとネットワークの基礎知識 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 2 | キャンパスグループウェアの利用方法 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 3 | 情報セキュリティと情報倫理<br>生成AI活用 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 4 | 文書処理①（Wordの基本操作） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 5 | 文書処理②（書式の設定） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 6 | 文書処理③（表作成、図の挿入） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 7 | 文書処理④（長文レポート編集と文書校閲） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 8 | 表計算①（数式、関数の利用） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 9 | 表計算②（ヒストグラム作成） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 10 | 表計算③（様々なグラフ利用） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 11 | 表計算④（データ抽出、クロス集計） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 12 | 表計算統計分析①（基本的な統計関数：代表値） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 13 | 表計算統計分析②（散布図と相関） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 実践した内容を再度実施する。 |
| 14 | 表計算統計分析③（回帰曲線と予測） | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |
| 15 | 実データ（学術データ等含む）課題演習 | 事前配布資料に読み、授業の内容を整理する | 授業内容について論点を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000007012 日本語リテラシー　地域共創　種市クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 種市　朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

## 参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

## 実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、オリエンテーション<br>プレイスメントテスト、解答<br>日本語力養成(1)<br>・漢字の 部首と部首名について<br>・漢字の 読みと書き | 日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。 | 授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。 |
| 2 | 日本語力養成(2)<br>・熟語の 構成について<br>・漢字の 読みと書き<br>・語義の 理解 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 3 | 日本語力養成(3)<br>・対義語と類義語<br>・四字熟語の 読みと意味<br><br>新聞コラム 要約(1) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 4 | 日本語力養成(4)<br>・故事成語、ことわざ、成句<br>・慣用 表現の 適切な 使用<br><br>新聞コラム 要約(2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 5 | 日本語力養成(5)<br>・文法「送り仮名のつけ 方」<br>・敬語、授受表現<br><br>新聞コラム 要約(3) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 6 | 教科書<br>第2章(p8～)<br>「メール の 書き 方:<br>　スマートに 依頼する」<br><br>確認テスト(1/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 7 | 教科書<br>第4章(p17～)<br>「説明の 仕方:<br>　わかりやすく説明するコツ」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 8 | 教科書<br>第5章(p22～)<br>「新聞の 読み 方:<br>　信頼できる情報源」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 9 | 教科書<br>第6章(p28～)<br>「敬語の 使い 方:<br>　円滑な 人間関係を 築くために」<br>第7章(p32～)<br>「手紙の 書き 方:<br>　定型と 気持ち」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 10 | 教科書<br>第9章(p45～)<br>「問いの 立て 方:<br>　自分の 興味関心に 向き合う方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 11 | 教科書<br>第10章(p50～)<br>「情報読書の 仕方:<br>　あらまし読みのやり方」<br>※ゲストティーチャー 招聘予定 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。<br>あらまし読みに必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 12 | 教科書<br>第12章(p61～)<br>「構成の 仕方:<br>　接続語を 活かす 方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 13 | 教科書<br>第14章(p71～)<br>「論文・レポートの 表現:<br>　記号とかなと漢字」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 14 | 教科書<br>第15章(p77～)<br>「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉:<br>　論文特有の 言葉」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 15 | 教科書<br>第16章(p82～)<br>「文の 乱れへの 対応:<br>　正解を 知って 正しく書く」<br><br>確認テスト(2/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000007013 日本語リテラシー　地域共創　嶋クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 嶋　雅樹 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　社会生活において使用される常用漢字を中心とした漢字、熟語等の読み、書き、意味を理解し、適切に使用できる。
2　一般的な四字熟語、慣用句、故事成語、ことわざ、格言の読み意味を理解し、適切に使用できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語リテラシーはコミュニケーションスキルの向上を目指し、その基礎である日本語の理解、運用能力を身につけることを目的としている。その目的を達成するため、表記と表記符号、送りがなの付け方、筆順の原則、漢字の部首と部首名を始めとして、常用漢字・熟語、同音異義語、同訓異義語、対義語、類義語、四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用句の読み、書き、意味、用法について演習を取り入れながら学修する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

なし。

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子/中﨑温子/仲道雅輝/湯川治敏/小松川浩編　ナカニシヤ出版)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

日本語の基礎・基本を学び直し定着させていくことは、単に職業人としての自分に寄与するばかりではなく、生涯学習の観点からも大変意義のあることです。言語生活を豊かにして人生の幅を広げる意味からも、意欲を持って授業に臨んで欲しいと思います。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>漢字検定3級の 問題演習と解説(1) | これまでの 漢字学習への 取り組み 状況を振り返る。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 2 | 漢字の 部首と部首名、筆順について<br>・漢字の 主な 部首、筆順についての 確認と演習<br>・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(1) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 3 | 熟語の 構成について<br>・熟語の 構成についての 確認と演習<br>・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(2) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 4 | 対義語と類義語について<br>・対義語と類義語についての 確認と演習<br>・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(3) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 5 | 同訓・同音異義語について<br>・同訓・同音異義語についての 確認と演習<br>・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(4) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 6 | 前時までの復習と小テスト(1) | 前回までの 配布資料を 読み 直し、理解不足の 漢字・熟語、用法などに 習熟する。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 7 | 四字熟語の 解説と演習(1)<br>・主な四字熟語の 解説と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 8 | 四字熟語の 解説と演習(2)<br>・主な四字熟語の 解説と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 9 | 四字熟語の 解説と演習(3)<br>・四字熟語についての 演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 10 | 前時までの復習と小テスト(2) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 11 | 故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(1)<br>・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 12 | 故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(2)<br>・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 13 | 故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(3)<br>・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習<br>・好きな故事成語・ことわざ、慣用句について | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 14 | 前時までの復習と小テスト(3) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 15 | 漢字検定3級問題演習と解説(2) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000007014 日本語リテラシー　人間健康　種市クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 種市　朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

## 参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

## 実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、オリエンテーション<br>プレイスメントテスト、解答<br>日本語力養成(1)<br>・漢字の 部首と部首名について<br>・漢字の 読みと書き | 日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。 | 授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。 |
| 2 | 日本語力養成(2)<br>・熟語の 構成について<br>・漢字の 読みと書き<br>・語義の 理解 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 3 | 日本語力養成(3)<br>・対義語と類義語<br>・四字熟語の 読みと意味<br><br>新聞コラム 要約(1) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 4 | 日本語力養成(4)<br>・故事成語、ことわざ、成句<br>・慣用 表現の 適切な 使用<br><br>新聞コラム 要約(2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 5 | 日本語力養成(5)<br>・文法「送り仮名のつけ 方」<br>・敬語、授受表現<br><br>新聞コラム 要約(3) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 6 | 教科書<br>第2章(p8～)<br>「メール の 書き 方:<br>スマートに 依頼する」<br><br>確認テスト(1/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 7 | 教科書<br>第4章(p17～)<br>「説明の 仕方:<br>わかりやすく説明するコツ」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 8 | 教科書<br>第5章(p22～)<br>「新聞の 読み 方:<br>信頼できる情報源」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 9 | 教科書<br>第6章(p28～)<br>「敬語の 使い 方:<br>円滑な 人間関係を 築くために」<br>第7章(p32～)<br>「手紙の 書き 方:<br>定型と 気持ち」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 10 | 教科書<br>第9章(p45～)<br>「問いの 立て 方:<br>自分の 興味関心に 向き合う方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 11 | 教科書<br>第10章(p50～)<br>「情報読書の 仕方:<br>あらまし 読みのやり 方」<br>※ゲストティーチャー 招聘予定 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。<br>あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 12 | 教科書<br>第12章(p61～)<br>「構成の 仕方:<br>接続語を 活かす 方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 13 | 教科書<br>第14章(p71～)<br>「論文・レポートの 表現:<br>記号とかなと漢字」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 14 | 教科書<br>第15章(p77～)<br>「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉:<br>論文特有の 言葉」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 15 | 教科書<br>第16章(p82～)<br>「文の 乱れへの 対応:<br>正解を 知って 正しく書く」<br><br>確認テスト(2/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000007015 日本語リテラシー　人間健康　嶋クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 嶋　雅樹 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　社会生活において使用される常用漢字を中心とした漢字、熟語等の読み、書き、意味を理解し、適切に使用できる。
2　一般的な四字熟語、慣用句、故事成語、ことわざ、格言の読み意味を理解し、適切に使用できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語リテラシーはコミュニケーションスキルの向上を目指し、その基礎である日本語の理解、運用能力を身につけることを目的としている。その目的を達成するため、表記と表記符号、送りがなの付け方、筆順の原則、漢字の部首と部首名を始めとして、常用漢字・熟語、同音異義語、同訓異義語、対義語、類義語、四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用句の読み、書き、意味、用法について演習を取り入れながら学修する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

なし。

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子/中﨑温子/仲道雅輝/湯川治敏/小松川浩編　ナカニシヤ出版)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

日本語の基礎・基本を学び直し定着させていくことは、単に職業人としての自分に寄与するばかりではなく、生涯学習の観点からも大変意義のあることです。言語生活を豊かにして人生の幅を広げる意味からも、意欲を持って授業に臨んで欲しいと思います。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>漢字検定3級の 問題演習と解説(1) | これまでの 漢字学習への 取り組み 状況を振り返る。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 2 | 漢字の 部首と部首名、筆順について<br>・漢字の 主な 部首、筆順についての 確認と演習<br>・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(1) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 3 | 熟語の 構成について<br>・熟語の 構成についての 確認と演習<br>・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(2) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 4 | 対義語と類義語について<br>・対義語と類義語についての 確認と演習<br>・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(3) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 5 | 同訓・同音異義語について<br>・同訓・同音異義語についての 確認と演習<br>・漢字・熟語の 読み 方と書き取り(4) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 6 | 前時までの復習と小テスト(1) | 前回までの 配布資料を 読み 直し、理解不足の 漢字・熟語、用法などに 習熟する。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 7 | 四字熟語の 解説と演習(1)<br>・主な四字熟語の 解説と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 8 | 四字熟語の 解説と演習(2)<br>・主な四字熟語の 解説と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 9 | 四字熟語の 解説と演習(3)<br>・四字熟語についての 演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 10 | 前時までの復習と小テスト(2) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 11 | 故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(1)<br>・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 12 | 故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(2)<br>・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 13 | 故事成語・ことわざ、慣用句の 解説と演習(3)<br>・故事成語・ことわざ、慣用句についての 解説と演習<br>・好きな故事成語・ことわざ、慣用句について | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 14 | 前時までの復習と小テスト(3) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 15 | 漢字検定3級問題演習と解説(2) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を 整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000007016 日本語リテラシー　看護　種市クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 種市　朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　社会生活において使用される常用漢字を中心とした漢字、熟語等の読み、書き、意味を理解し、適切に使用できる。
2　一般的な四字熟語、慣用句、故事成語、ことわざ、格言の読み意味を理解し、適切に使用できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語リテラシーはコミュニケーションスキルの向上を目指し、その基礎である日本語の理解、運用能力を身につけることを目的としている。その目的を達成するため、表記と表記符号、送りがなの付け方、筆順の原則、漢字の部首と部首名を始めとして、常用漢字・熟語、同音異義語、同訓異義語、対義語、類義語、四字熟語、故事成語、ことわざ、慣用句の読み、書き、意味、用法について演習を取り入れながら学修する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

なし。

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子/中﨑温子/仲道雅輝/湯川治敏/小松川浩編　ナカニシヤ出版)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

日本語の基礎・基本を学び直し定着させていくことは、単に職業人としての自分に寄与するばかりではなく、生涯学習の観点からも大変意義のあることです。言語生活を豊かにして人生の幅を広げる意味からも、意欲を持って授業に臨んで欲しいと思います。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>漢字検定3級の問題演習と解説(1) | これまでの漢字学習への取り組み状況を振り返る。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 2 | 漢字の読み・書きについて<br>・漢字の部首と部首名について<br>・漢字・熟語の読み方と書き取り(2) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 3 | 熟語の構成について<br>・漢字・熟語の読み方と書き取(3) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 4 | 対義語と類義語について<br>・対義語と類義語についての確認と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 5 | 四字熟語・ことわざ成句について<br>四字熟語・ことわざ成句の確認と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 6 | 前時までの復習と小テスト(1) | 前回までの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語、用法などに習熟する。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 7 | 表記・文法・敬語についての解説と演習(1) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 8 | 表記・文法・敬語についての解説と演習(2) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 9 | 表記・文法・敬語についての解説と演習(3) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 10 | 前時までの復習と小テスト(2) | 前回までの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 11 | 短文読解の解説と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 12 | 長文読解の解説と演習(2)<br>・故事成語・ことわざ、慣用句についての解説と演習 | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 13 | 図表読解の解説と演習(3) | 授業内容について、インターネットなどで調べておく。 | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 14 | 前時までの復習と小テスト(3) | 前回までの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する | 授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 |
| 15 | 漢字検定3級問題演習と解説(2) | これまでの授業内容を整理して、理解不足の漢字・熟語・用法などに習熟する。 | 授業内容を整理して、授業の成果を確認する。 |

| 講義名 | 1000008011 日本語表現リテラシー地域共創 種市クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 種市　朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

## 参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

## 実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、オリエンテーション<br>プレイスメントテスト、解答<br>日本語力養成(1)<br>・漢字の 部首と部首名について<br>・漢字の 読みと書き | 日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。 | 授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。 |
| 2 | 日本語力養成(2)<br>・熟語の 構成について<br>・漢字の 読みと書き<br>・語義の 理解 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 3 | 日本語力養成(3)<br>・対義語と類義語<br>・四字熟語の 読みと意味<br><br>新聞コラム 要約(1) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 4 | 日本語力養成(4)<br>・故事成語、ことわざ、成句<br>・慣用 表現の 適切な 使用<br><br>新聞コラム 要約(2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 5 | 日本語力養成(5)<br>・文法「送り仮名のつけ 方」<br>・敬語、授受表現<br><br>新聞コラム 要約(3) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 6 | 教科書<br>第2章(p8～)<br>「メール の 書き 方:<br>スマートに 依頼する」<br><br>確認テスト(1/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 7 | 教科書<br>第4章(p17～)<br>「説明の 仕方:<br>わかりやすく説明するコツ」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 8 | 教科書<br>第5章(p22～)<br>「新聞の 読み 方:<br>信頼できる情報源」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 9 | 教科書<br>第6章(p28～)<br>「敬語の 使い 方:<br>円滑な 人間関係を 築くために」<br>第7章(p32～)<br>「手紙の 書き 方:<br>定型と 気持ち」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 10 | 教科書<br>第9章(p45～)<br>「問いの 立て 方:<br>自分の 興味関心に 向き合う方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 11 | 教科書<br>第10章(p50～)<br>「情報読書の 仕方:<br>あらまし 読みのやり 方」<br>※ゲストティーチャー 招聘予定 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。<br>あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 12 | 教科書<br>第12章(p61～)<br>「構成の 仕方:<br>接続語を 活かす 方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 13 | 教科書<br>第14章(p71～)<br>「論文・レポートの 表現:<br>記号とかなと漢字」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 14 | 教科書<br>第15章(p77～)<br>「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉:<br>論文特有の 言葉」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 15 | 教科書<br>第16章(p82～)<br>「文の 乱れへの 対応:<br>正解を 知って 正しく書く」<br><br>確認テスト(2/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 講義名 | 1000008012 日本語表現リテラシー地域共創 嶋クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 種市 朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

## 参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

## 実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、オリエンテーション<br>プレイスメントテスト、解答<br>日本語力養成(1)<br>・漢字の 部首と部首名について<br>・漢字の 読みと書き | 日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。 | 授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。 |
| 2 | 日本語力養成(2)<br>・熟語の 構成について<br>・漢字の 読みと書き<br>・語義の 理解 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 3 | 日本語力養成(3)<br>・対義語と類義語<br>・四字熟語の 読みと意味<br><br>新聞コラム 要約(1) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 4 | 日本語力養成(4)<br>・故事成語、ことわざ、成句<br>・慣用 表現の 適切な 使用<br><br>新聞コラム 要約(2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 5 | 日本語力養成(5)<br>・文法「送り仮名のつけ 方」<br>・敬語、授受表現<br><br>新聞コラム 要約(3) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 6 | 教科書<br>第2章(p8～)<br>「メール の 書き 方:<br>スマートに 依頼する」<br><br>確認テスト(1/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 7 | 教科書<br>第4章(p17～)<br>「説明の 仕方:<br>わかりやすく説明するコツ」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 8 | 教科書<br>第5章(p22～)<br>「新聞の 読み 方:<br>信頼できる情報源」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 9 | 教科書<br>第6章(p28～)<br>「敬語の 使い 方:<br>円滑な 人間関係を 築くために」<br>第7章(p32～)<br>「手紙の 書き 方:<br>定型と 気持ち」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 10 | 教科書<br>第9章(p45～)<br>「問いの 立て 方:<br>自分の 興味関心に 向き合う方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 11 | 教科書<br>第10章(p50～)<br>「情報読書の 仕方:<br>あらまし 読みのやり 方」<br>※ゲストティーチャー 招聘予定 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。<br>あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 12 | 教科書<br>第12章(p61～)<br>「構成の 仕方:<br>接続語を 活かす 方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 13 | 教科書<br>第14章(p71～)<br>「論文・レポートの 表現:<br>記号とかなと漢字」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 14 | 教科書<br>第15章(p77～)<br>「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉:<br>論文特有の 言葉」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 15 | 教科書<br>第16章(p82～)<br>「文の 乱れへの 対応:<br>正解を 知って 正しく書く」<br><br>確認テスト(2/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000008013 日本語表現リテラシー人間健康 三上クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 三上 幾子 | | |

## 学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験および提出課題、確認テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験(小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

## 実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わってきたことから、その知見を活かして、読解力、思考力、表現力を養成し、的確で論理的な文章能力を身につけることができるよう講義を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、オリエンテーション<br>プレイスメントテスト、解答<br>日本語力養成(1)<br>・漢字の 部首と部首名について<br>・漢字の 読みと書き | 日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。 | 授業内容を 整理して、学習内容をまとめる。 |
| 2 | 日本語力養成(2)<br>・熟語の 構成について<br>・漢字の 読みと書き<br>・語義の 理解 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 3 | 日本語力養成(3)<br>・対義語と類義語<br>・四字熟語の 読みと意味<br><br>新聞コラム 要約(1) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 4 | 〃日本語力養成(4)<br>・故事成語、ことわざ、成句<br>・慣用 表現の 適切な 使用<br><br>新聞コラム 要約(2)〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 5 | 〃日本語力養成(5)<br>・文法「送り仮名のつけ 方」<br>・敬語、授受表現<br><br>新聞コラム 要約(3)〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 6 | 〃教科書<br>第2章(p8～)<br>「メール の 書き 方:<br>スマートに 依頼する」<br><br>確認テスト(1/2)〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 7 | 〃教科書<br>第4章(p17～)<br>「説明の 仕方:<br>わかりやすく説明するコツ」〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 8 | 〃教科書<br>第5章(p22～)<br>「新聞の 読み 方:<br>信頼できる情報源」〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 9 | 〃教科書<br>第6章(p28～)<br>「敬語の 使い 方:<br>円滑な 人間関係を 築くために」<br>第7章(p32～)<br>「手紙の 書き 方:<br>定型と 気持ち」〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 10 | 〃教科書<br>第9章(p45～)<br>「問いの 立て 方:<br>自分の 興味関心に 向き合う方法」〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 11 | 〃教科書<br>第10章(p50～)<br>「情報読書の 仕方:<br>あらまし 読みのやり 方」<br>※ゲストティーチャー 招聘予定〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 12 | 〃教科書<br>第12章(p61～)<br>「構成の 仕方:<br>接続語を 活かす 方法」〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。<br>あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 13 | 〃教科書<br>第14章(p71～)<br>「論文・レポートの 表現:<br>記号とかなと 漢字」〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 14 | 〃教科書<br>第15章(p77～)<br>「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉:<br>論文特有の 言葉」〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 15 | 〃教科書<br>第16章(p82～)<br>「文の 乱れへの 対応:<br>正解を 知って 正しく書く」<br><br>確認テスト(2/2)〃 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000008014 日本語表現リテラシー人間健康 嶋クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 種市　朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

## 参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

## 実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、オリエンテーション<br>プレイスメントテスト、解答<br>日本語力養成(1)<br>・漢字の 部首と部首名について<br>・漢字の 読みと書き | 日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。 | 授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。 |
| 2 | 日本語力養成(2)<br>・熟語の 構成について<br>・漢字の 読みと書き<br>・語義の 理解 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 3 | 日本語力養成(3)<br>・対義語と類義語<br>・四字熟語の 読みと意味<br><br>新聞コラム 要約(1) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 4 | 日本語力養成(4)<br>・故事成語、ことわざ、成句<br>・慣用 表現の 適切な 使用<br><br>新聞コラム 要約(2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 5 | 日本語力養成(5)<br>・文法「送り仮名のつけ 方」<br>・敬語、授受表現<br><br>新聞コラム 要約(3) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 6 | 教科書<br>第2章(p8～)<br>「メール の 書き 方:<br>　スマートに 依頼する」<br><br>確認テスト(1/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 7 | 教科書<br>第4章(p17～)<br>「説明の 仕方:<br>　わかりやすく説明するコツ」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 8 | 教科書<br>第5章(p22～)<br>「新聞の 読み 方:<br>　信頼できる情報源」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 9 | 教科書<br>第6章(p28～)<br>「敬語の 使い 方:<br>　円滑な 人間関係を 築くために」<br>第7章(p32～)<br>「手紙の 書き 方:<br>　定型と 気持ち」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 10 | 教科書<br>第9章(p45～)<br>「問いの 立て 方:<br>　自分の 興味関心に 向き合う方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 11 | 教科書<br>第10章(p50～)<br>「情報読書の 仕方:<br>　あらまし 読みのやり 方」<br>※ゲストティーチャー 招聘予定 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。<br>あらまし 読みに 必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 12 | 教科書<br>第12章(p61～)<br>「構成の 仕方:<br>　接続語を 活かす 方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 13 | 教科書<br>第14章(p71～)<br>「論文・レポートの 表現:<br>　記号とかなと漢字」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 14 | 教科書<br>第15章(p77～)<br>「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉:<br>　論文特有の 言葉」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 15 | 教科書<br>第16章(p82～)<br>「文の 乱れへの 対応:<br>　正解を 知って 正しく書く」<br><br>確認テスト(2/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000008015 日本語表現リテラシー看護 嶋クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 種市 朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

## 参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

## 実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、オリエンテーション<br>プレイスメントテスト、解答<br>日本語力養成(1)<br>・漢字の 部首と部首名について<br>・漢字の 読みと書き | 日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。 | 授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。 |
| 2 | 日本語力養成(2)<br>・熟語の 構成について<br>・漢字の 読みと書き<br>・語義の 理解 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 3 | 日本語力養成(3)<br>・対義語と類義語<br>・四字熟語の 読みと意味<br><br>新聞コラム 要約(1) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 4 | 日本語力養成(4)<br>・故事成語、ことわざ、成句<br>・慣用 表現の 適切な 使用<br><br>新聞コラム 要約(2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 5 | 日本語力養成(5)<br>・文法「送り仮名のつけ 方」<br>・敬語、授受表現<br><br>新聞コラム 要約(3) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 6 | 教科書<br>第2章(p8～)<br>「メール の 書き 方:<br>スマートに 依頼する」<br><br>確認テスト(1/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 7 | 教科書<br>第4章(p17～)<br>「説明の 仕方:<br>わかりやすく説明するコツ」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 8 | 教科書<br>第5章(p22～)<br>「新聞の 読み 方:<br>信頼できる情報源」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 9 | 教科書<br>第6章(p28～)<br>「敬語の 使い 方:<br>円滑な 人間関係を 築くために」<br>第7章(p32～)<br>「手紙の 書き 方:<br>定型と 気持ち」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 10 | 教科書<br>第9章(p45～)<br>「問いの 立て 方:<br>自分の 興味関心に 向き合う方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 11 | 教科書<br>第10章(p50～)<br>「情報読書の 仕方:<br>あらまし読みのやり方」<br>※ゲストティーチャー 招聘予定 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。<br>あらまし読みに必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 12 | 教科書<br>第12章(p61～)<br>「構成の 仕方:<br>接続語を 活かす 方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 13 | 教科書<br>第14章(p71～)<br>「論文・レポートの 表現:<br>記号とかなと漢字」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 14 | 教科書<br>第15章(p77～)<br>「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉:<br>論文特有の 言葉」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 15 | 教科書<br>第16章(p82～)<br>「文の 乱れへの 対応:<br>正解を 知って 正しく書く」<br><br>確認テスト(2/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000008016 日本語表現リテラシー看護 種市クラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 種市 朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

コミュニケーションスキルの向上と的確で論理的な文章表現能力を身につけ、日常のさまざまな場面で運用できる。
1. 基本的な日本語運用能力を身につけ、日常生活の中で運用できる。
2. さまざまな場面における会話並びに文章の表現について理解を深め、適時適切に実践できる。
3. 目的に応じた内容を過不足なく表現するとともに、論理的な文章を作成できる。

## 授業概要(教育目的)

日本語表現リテラシーは、現代社会で求められている基本的な日本語を理解し身につけた日本語運用能力を土台として読解・思考・構成・表現等の能力を養成し、さまざまな場面で適時適切な会話並びに文章で表現できることを教育目的とする。
目的達成に向け、授業では、主に以下の4つの内容に取り組む。
① 社会生活で使用される漢字・熟語および四字熟語・慣用句などの語彙を学習する
② 情報を整理し、課題を見出し、他者と意見を交わすなどしつつ独自の考えを創造する
③ 文章を構成する文・段落・段落相互の関係や役割の把握する
④ 簡潔でわかりやすく効果的な表現を学び、身に付け、実践する。
以上の内容を中心に授業を進める。学生同士が他者と関わり合う中で、自分の考えを会話並びに文章で表現する機会をできるだけ多く設けることに努める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

授業に取り組む姿勢、課題への取組状況、確認テストおよび定期試験の成績などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

確認テストおよび定期試験の模範解答を示し、試験の成績は個別に開示する。

## 参考文献

『大学生のための日本語問題集』(山下由美子・中崎敦子・仲道雅輝・湯川治敏・小松川浩編)ナカニシヤ出版

## 講義時使用テキスト

『大学生のための日本語リテラシーとレポートライティング』(宮武里衣)ナカニシヤ出版

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

「日本語表現リテラシー」は、的確で論理的な文章(言語)表現能力を身につけるための授業です。授業内での演習は課題ワークシートに取り組みます。課題への取組を通じて、日常さまざまな場面での臨機応変に適時適切な表現力の向上を目指します。

## 実務との関連

長年、高等学校の教諭として中等教育に携わる中で得てきた知見を活かし、学生が意欲を持って、読解力、思考力、表現力を高め、的確で論理的な文章能力を身につけようと真摯に取り組むような授業を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、オリエンテーション<br>プレイスメントテスト、解答<br>日本語力養成(1)<br>・漢字の 部首と部首名について<br>・漢字の 読みと書き | 日本語表現について、大学入学まで学んだこと、身に付いたことなど、学習内容を 整理する。 | 授業の内容を整理して、学習内容をまとめておく。 |
| 2 | 日本語力養成(2)<br>・熟語の 構成について<br>・漢字の 読みと書き<br>・語義の 理解 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 3 | 日本語力養成(3)<br>・対義語と類義語<br>・四字熟語の 読みと意味<br><br>新聞コラム 要約(1) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 4 | 日本語力養成(4)<br>・故事成語、ことわざ、成句<br>・慣用 表現の 適切な 使用<br><br>新聞コラム 要約(2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 5 | 日本語力養成(5)<br>・文法「送り仮名のつけ 方」<br>・敬語、授受表現<br><br>新聞コラム 要約(3) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 6 | 教科書<br>第2章(p8～)<br>「メール の 書き 方:<br>スマートに 依頼する」<br><br>確認テスト(1/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 7 | 教科書<br>第4章(p17～)<br>「説明の 仕方:<br>わかりやすく説明するコツ」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 8 | 教科書<br>第5章(p22～)<br>「新聞の 読み 方:<br>信頼できる情報源」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 9 | 教科書<br>第6章(p28～)<br>「敬語の 使い 方:<br>円滑な 人間関係を 築くために」<br>第7章(p32～)<br>「手紙の 書き 方:<br>定型と 気持ち」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 10 | 教科書<br>第9章(p45～)<br>「問いの 立て 方:<br>自分の 興味関心に 向き合う方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 11 | 教科書<br>第10章(p50～)<br>「情報読書の 仕方:<br>あらまし読みのやり方」<br>※ゲストティーチャー 招聘予定 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。<br>あらまし読みに必要な 書籍を 準備し、目を通しておく。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 12 | 教科書<br>第12章(p61～)<br>「構成の 仕方:<br>接続語を 活かす 方法」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 13 | 教科書<br>第14章(p71～)<br>「論文・レポートの 表現:<br>記号とかなと漢字」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 14 | 教科書<br>第15章(p77～)<br>「レポートになじむ 言葉となじまない 言葉:<br>論文特有の 言葉」 | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| 15 | 教科書<br>第16章(p82～)<br>「文の 乱れへの 対応:<br>正解を 知って 正しく書く」<br><br>確認テスト(2/2) | 前回の授業のワークシートや資料を 読み直し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、不明な 点があれば 調べておく。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000009001 英語Ⅰ（地域共創） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | グレゴリー・アンソニー | | |

## 学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など、自分自身の能力向上ができる。

## 授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかたも必要とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

講義内での積極的な参加、小テスト、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

## 課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

## 講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 参考文献

春学期の英語Iと秋学期の英語IIには「English Central」オンライン教材(予約購読サービス)が必要。

(6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Iと秋学期の英語II両方登録学生は1年間の予約購読になる)
(英語I受けなかった場合、英語IIのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる)

「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を講義毎回持参すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | A: Class and Online Systems Explanation<br>B: Communication Activity | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | Entertainment ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | Entertainment ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | Entertainment ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | Sports ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | Sports ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | Sports ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | Technology and Science ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | Technology and Science ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | Technology and Science ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | Technology and Science ④<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | Travel and Culture ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | Travel and Culture ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | Travel and Culture ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Discuss and Review<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | Travel and Culture ④<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Discuss and Review<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000009002 英語Ⅰ　Aクラス（人間健康・看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | バリー・H・グロスマン | | |

## 学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法(グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など)自分自身の能力向上ができる。

学習者のリスニング能力を伸ばすことに焦点を当てた、魅力的でインタラクティブな活動を通して、英語力を高めることを目的としています。主な目的は、生徒が積極的に参加し、本物の英語音声教材に没頭できる環境を作り、最終的に理解力を養い、総合的な語学力を高めることです。

## 授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、このコースでは、異なる国と都市を題材に、実際の旅行動画を通じて世界の文化を紹介します。毎週、リスニング理解、語彙力強化、コミュニケーション課題を取り入れ、グローバルな文化を学びながら英語を実践的に練習します。このコース終了時までに、学生は以下のことができるようになります:

- 観光名所やアクティビティを英語で理解し説明できる
- 比較級・最上級を用いて様々な場所について議論できる
- 個人の旅行嗜好ポートフォリオを作成できる
- 構造化されたスピーキング・ライティング課題を通じて自信を持って表現できる

クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかだも必要とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

成績詳細:
①授業の課題　＝　50%
②宿題(English Central) ＝50%

## 課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスできる。提示する課題を返し

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

授業中にはインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。
英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | Class Explanation & Communication Activity | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | Japan, Tokyo<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | Portugal, Lisbon<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | Jordan<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | USA, Yellowstone National Park<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | France, Paris<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | Review and Follow-up | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | United Kingdom, London<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | Italy, Rome<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | Australia, Sydney<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | Mexico, Cancun<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | Thailand, Bangkok<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | Canada, Vancouver<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000009003 英語Ⅰ　Bクラス（人間健康・看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | グレゴリー・アンソニー | | |

## 学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など、自分自身の能力向上ができる。

## 授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかども必要とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

講義内での積極的な参加、小テスト、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

## 課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

## 講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 参考文献

春学期の英語Iと秋学期の英語IIには「English Central」オンライン教材(予約購読サービス)が必要。

(6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Iと秋学期の英語II両方登録学生は1年間の予約購読になる)
(英語I受けなかった場合、英語IIのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる)

「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。

## 実務との関連

アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | A: Class and Online Systems Explanation<br>B: Communication Activity | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | Entertainment ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | Entertainment ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | Entertainment ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | Sports ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | Sports ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | Sports ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | Technology and Science ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | Technology and Science ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | Technology and Science ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | Technology and Science ④<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | Travel and Culture ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | Travel and Culture ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listen and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | Travel and Culture ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Discuss and Review<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | Travel and Culture ④<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Discuss and Review<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

| 講義名 | 1000009004 英語Ⅰ　Cクラス（人間健康・看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 三浦　文恵 | | |

## 学習目標(到達目標)

日常生活で頻出する言葉やフレーズを学び、コミュニケーション能力の向上と基礎学力の定着を図る。

1. ネイティブスピーカーがナチュラルスピードで話す英語を理解できる。
2. ネイティブスピーカーが日常生活で使う身近な英語表現を使える。
3. ネイティブスピーカーの発想に基づいた表現ができる。

## 授業概要(教育目的)

主に、基礎文法、リスニング、ライティングの演習を行う。また授業では、会話や話す演習を行い、声を出す事を目的に活きた英語を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験の結果をベースに、授業態度、課題の提出状況などを考慮し総合的に評価する。特に、講義に積極的に臨む姿勢を重視する。

## 課題に対するフィードバック

試験や課題の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

必要に応じて授業で紹介する。

## 講義時使用テキスト

Peter Vincent/Naoko Nakazato/Alan Meadows 著「Speaking of People」南雲堂

## 資格との関連

各種英語検定試験受検の希望者には役立つ内容である。

## 学生へのメッセージ

日頃から英語を聞き、耳を慣らしておくとよい。暮らしの中における英語表記に興味をもち、注意して見るようにしましょう。

## 実務との関連

留学・通訳・翻訳の実務経験を活かし話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. Self Introduction (Presentation) | 自分のことを英語でクラスに紹介できるよう、これまで 学んだ 単語やフレーズを確認しておく。 | 自分の紹介を思い通りにできたかを振り返り、うまくできなかった部分の単語やフレーズを確認しておく。 |
| 2 | 2. Warm-up Unit Welcome to English Class! (Presentation) | これまで学んだ英単語やフレーズを確認しておく。クラスでの 自分のニックネームを考えておく。 | これまで学んだ英単語やフレーズでうまくできなかった部分を確認しておく。 |
| 3 | 3. Unit 1 Speaking About Yourself ①(Presentation) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 4 | 4. Unit 1 Speaking About Yourself ②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 5 | 5. Unit 2 What Do You Do? ①(Presentation) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 6 | 6. Unit 2 What Do You Do? ②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 7 | 7. Unit 3 What Does He Look Like? ①(Presentation) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 8 | 8. Unit 3 What Does He Look Like? ②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 9 | 9. Review Units 1-3 | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 10 | 10. Unit 4 Where Are You From? ①(Presentation) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 11 | 11. Unit 4 Where Are You From? ②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 12 | 12. Unit 5 Likes and Dislikes ①(Presentation) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 13 | 13. Unit 5 Likes and Dislikes ②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 14 | 14. Unit 6 What's She Like? ①(Presentation) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、該当箇所を読む。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 15 | 15. アメリカと日本の生活・風習・文化の違いについて(ゲストティーチャー) | インターネットや文献で、アメリカ人の生活や文化について調べておく。疑問に思う事を質問として用意する。 | 内容をまとめ、疑問点に対する答えを含めレポートに書く。 |

| 講義名 | 1000010001 英語Ⅱ（地域共創） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | バリー・H・グロスマン | | |

## 学習目標（到達目標）

学期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法（グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など）自分自身の能力向上ができる。

学習者のリスニング能力を伸ばすことに焦点を当てた、魅力的でインタラクティブな活動を通して、英語力を高めることを目的としています。主な目的は、生徒が積極的に参加し、本物の英語音声教材に没頭できる環境を作り、最終的に理解力を養い、総合的な語学力を高めることです。

## 授業概要（教育目的）

この講義は、タスクを中心にする授業で、このコースでは、異なる国と都市を題材に、実際の旅行動画を通じて世界の文化を紹介します。毎週、リスニング理解、語彙力強化、コミュニケーション課題を取り入れ、グローバルな文化を学びながら英語を実践的に練習します。このコース終了時までに、学生は以下のことができるようになります：
・観光名所やアクティビティを英語で理解し説明できる
・比較級・最上級を用いて様々な場所について議論できる
・個人の旅行嗜好ポートフォリオを作成できる
・構造化されたスピーキング・ライティング課題を通じて自信を持って表現できる

クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかだも必要とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理観を身につけている。

## 評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、提出期限の厳守、タスクを総合的に評価する。
＊再試験は実施しない。

詳細：
①クラス中の課題 = 50%
②宿題（English Central）= 50%

## 課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスできる。提示する課題を返し

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「English Central」オンライン教材（6ヶ月間；英語Ⅰを受けなかった場合）
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。
英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

[履修上の注意]
覚えておかなければならないのは、講義中は、積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。
タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価する。

AIの倫理的な利用は、一定の条件のもとで認められています。このため、全ての学生はAI利用許可申請書を手出しなければなりません。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | A: Class and Online Systems Explanation<br>B: Communication Activity: introductions | Warm-up | Closing |
| 2 | Japan, Tokyo<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 3 | Portugal, Lisbon<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 4 | Jordan<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 5 | USA, Yellowstone National Park<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 6 | France, Paris<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 7 | Review and Follow-up | Warm-up | Closing |
| 8 | United Kingdom, London<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 9 | taly, Rome<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 10 | Australia, Sydney<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 11 | Mexico, Cancun<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 12 | Thailand, Bangkok<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 13 | Canada, Vancouver<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |
| 14 | United Arab Emirates, Dubai<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | Warm-up | Closing |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000010002 英語Ⅱ　Aクラス（人間健康・看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | グレゴリー・アンソニー | | |

## 学習目標(到達目標)

学期の終了までに英語の使用を通じて、グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など、自分自身の能力向上ができる。

## 授業概要(教育目的)

この講義は、タスクを中心にする授業で、英語自体が目的ではなく、英語をコミュニケーションの手段として、コミュニケーション力をアップする事を目的とする。いろいろな形式を用いながら、グループで、タスクの価値を考え、計画し、その内容を分析する。決められたタスクをやり遂げることにより、流暢な英語のコミュニケーションを身につけ、学内でも学外でも使える実用的なコミュニケーションスキルアップを図る。クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかども必要とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

講義内での積極的な参加、小テスト、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

## 課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

## 講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を毎回持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 参考文献

春学期の英語Iと秋学期の英語IIには「English Central」オンライン教材(予約購読サービス)が
必要。
(6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Iと秋学期の英語II両方登録学生は1
年間の予約購読になる)
(英語I受けなかった場合、英語IIのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる)
「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。
参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極
性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。
インターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を講義毎回持参すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | A: Class and Online Systems Explanation<br>B: Communication Activity | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | Health and Food ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | Health and Food ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | Health and Food ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | Health and Food ④<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | Environment and Nature ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | Environment and Nature ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | Environment and Nature ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | Environment and Nature ④<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | Politics and Crime ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | Politics and Crime ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | Politics and Crime ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | Social Sciences ①<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | Social Sciences ②<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | Social Sciences ③<br>A: Brainstorming Vocabulary Warm-up<br>B: Watch and Learn<br>C: Listening and Discuss<br>D: Writing | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 講義名 | 1000010003 英語Ⅱ　Bクラス（人間健康・看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | バリー・H・グロスマン | | |

## 学習目標（到達目標）

期の終了までに英語の使用を通じて、アクティブラーニング法（グループ活動、提案の準備、タスクの作成、期限厳守、他の学生とやり遂げた評価など）自分自身の能力向上ができる。

学習者のリスニング能力を伸ばすことに焦点を当てた、魅力的でインタラクティブな活動を通して、英語力を高めることを目的としています。主な目的は、生徒が積極的に参加し、本物の英語音声教材に没頭できる環境を作り、最終的に理解力を養い、総合的な語学力を高めることです。

## 授業概要（教育目的）

この講義は、タスクを中心にする授業で、このコースでは、異なる国と都市を題材に、実際の旅行動画を通じて世界の文化を紹介します。毎週、リスニング理解、語彙力強化、コミュニケーション課題を取り入れ、グローバルな文化を学びながら英語を実践的に練習します。このコース終了時までに、学生は以下のことができるようになります：
・観光名所やアクティビティを英語で理解し説明できる
・比較級・最上級を用いて様々な場所について議論できる
・個人の旅行嗜好ポートフォリオを作成できる
・構造化されたスピーキング・ライティング課題を通じて自信を持って表現できる

クラス外ではオンライン英語教材「English Central」を勉強し、単語を覚える、内容を理解するかだも必要とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

講義内での積極的な参加、宿題、タスクを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。
＊再試験は実施しない。

成績詳細：
①授業の課題　＝　50%
②宿題（English Central）＝50%

## 課題に対するフィードバック

オンライン教材でのユーセージデーターはいつもアクセスがある。提示する課題を返し

## 講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 12カ月」（予約購読サービスのオンラインアクセスカード）
＊「English Central」オンライン教材については「参考文献」を必ず読むこと。

参考文献は全て授業中に紹介する。
英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 参考文献

春学期の英語Ⅰと秋学期の英語Ⅱには「English Central」オンライン教材（予約購読サービス）が必要。

（6ヶ月間または1年間の予約購読になりますが、春学期の英語Ⅰと秋学期の英語Ⅱ両方登録学生は1年間の予約購読になる）
（英語Ⅰ受けなかった場合、英語Ⅱのみの登録学生は6ヶ月間の予約購読になる）

「English Central」の登録の仕方は講義中に指導する。

参考文献は全て授業中に紹介する。英和・和英辞典を毎回持参すること。
電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

講義中では積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。タスクを完成するために、毎回必要な事柄を調べ、資料などを持参する。何度も言うようだが、積極性と責任が求められる。成績も第1日目から評価するので、初日から必ず出席すること。
AIの倫理的な利用は、一定の条件のもとで認められています。このため、全ての学生はAI利用許可申請書を手出しなければなりません。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | A: Class and Online Systems Explanation<br>B: Communication Activity: introductions | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | apan, Tokyo<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | Portugal, Lisbon<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | Jordan<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | USA, Yellowstone National Park<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | France, Paris<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | Review and Follow-up | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | United Kingdom, London<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | Italy, Rome<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理 | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | Australia, Sydney<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | Mexico, Cancun<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | Thailand, Bangkok<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | Canada, Vancouver<br><br>Warm-up & vocabulary<br>First viewing<br>Second viewing<br>Speaking and writing follow-up<br>Pair practice : Speaking | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000010004 英語Ⅱ　Cクラス（人間健康・看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 三浦　文恵 | | |

## 学習目標(到達目標)

日常生活で頻出する言葉やフレーズを学び、コミュニケーション能力の向上と基礎学力の定着を図る。

1. ネイティブスピーカーがナチュラルスピードで話す英語を理解できる。
2. ネイティブスピーカーが日常生活で使う身近な英語表現を使える。
3. ネイティブスピーカーの発想に基づいた表現ができる。

## 授業概要(教育目的)

主に、基礎文法、リスニング、ライティングの演習を行う。また授業では、会話や話す演習を行い、声を出す事を目的に活きた英語を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験の結果をベースに、授業態度、課題の提出状況などを考慮し総合的に評価する。特に、講義に積極的に臨む姿勢を重視する。

## 課題に対するフィードバック

試験や課題の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

必要に応じて授業で紹介する。

## 講義時使用テキスト

Peter Vincent/Naoko Nakazato/Alan Meadows 著「Speaking of People」南雲堂

## 資格との関連

各種英語検定試験受検希望者には役立つ内容である。

## 学生へのメッセージ

日頃から英語を聞き、耳を慣らしておくとよい。暮らしの中における英語表記に興味をもち、注意して見るようにしましょう。

## 実務との関連

留学・通訳・翻訳の実務経験を活かし話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. Unit 6 What's She Like?<br>②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認する。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 2 | 2. Review Units 4-6 | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 3 | 3. Unit 7 Tell Me About Your Family<br>①(Presentation) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 4 | 4. Unit 7 Tell Me About Your Family<br>②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 5 | 5. Unit 8 Communication<br>①(Presentation) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 6 | 6. Unit 8 Communication<br>②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 7 | 7. Unit 9 How Are You Feeling?<br>①(Presentation) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 8 | 8. Unit 9 How Are You Feeling?<br>②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 9 | 9. Review Units 7-9 | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 10 | 10. Unit 10 Memories①(Presentation) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 11 | 11. Unit 10 Memories②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 12 | 12. Unit 11 Talking About Health<br>①(Discussion) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 13 | 13. Unit 11 Talking About Health<br>②(Group Work) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 14 | 14. Unit 12 Mindset<br>(Discussion) | シラバスに記載されている授業範囲を確認し、事前に配布されるプリント問題を解く。 | 付属のCDを使い、授業で行った問題を見直す。また、授業内容で間違った箇所を確認し、理解しておく。 |
| 15 | 15. アメリカ人と日本人の価値観・考え方の違いについて(ゲストティーチャー) | インターネットや文献で、アメリカ人の価値観や考え方について調べておく。疑問に思う事を質問として用意する。 | 内容をまとめ、疑問点に対する答えを含めレポートに書く。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000011000 英語コミュニケーション | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | バリー・H・グロスマン | | |

## 学習目標(到達目標)

This class will focus on effective English communication skills, especially listening and speaking. It will prepare you for various language situations that might occur either in Japan or overseas. Effective communication begins with communicative intent, so this class will also help you "find your English voice" and overcome fear and anxiety when communicating in a foreign language.

## 授業概要(教育目的)

This class will focus on improving all of the English language skills necessary for communcation. Listening, speaking, reading, and writing will all be practiced for the purpose of effective communication.

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

講義中と宿題は積極的に参加し、主体的な立場をとらなければならない。成績は第1日目から評価する。

## 評価方法

講義内での積極的な参加(アクティブラーニング法)、宿題、クラスクイズを総合的に評価する。
＊講義内での活動の積極的な参加を重点においている。

成績詳細:
①宿題 (「English Central」オンライン教材)(50%)
②スピーキングテスト (50%)

## 課題に対するフィードバック

毎回の授業の初めに学生の前で宿題をチェックする;スピーキングテストの点数はテスト日の次の週に報告

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「English Central アカデミックプレミアム 6カ月」(予約購読サービスのオンラインアクセスカード)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

上達するためのモチベーションを持って授業に臨むことが肝要です。積極的に参加することが語学上達の鍵であり、このクラスにもその考え方が反映されています。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | A: Class Introduction<br>B: Self-Introduction Task | Class Introduction | Self-Introduction Task |
| 2 | Travel: Discussing favorite travel destinations, memorable trips, or dream vacations. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 3 | Hobbies: Talking about hobbies and interests such as reading, sports, painting, or playing a musical instrument. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 4 | Food and Cuisine: Exploring different types of cuisine, favorite dishes, or traditional foods from different countries. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 5 | Technology: Discussing the impact of technology on daily life, favorite gadgets, or social media platforms. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 6 | Environment: Talking about environmental issues, recycling, conservation, or sustainable practices. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 7 | Mid-Term Conversation Evaluations | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 8 | Education: Discussing favorite subjects, school experiences, or educational goals. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 9 | Culture and Traditions: Exploring cultural celebrations, customs, or traditions from various countries. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 10 | Health and Fitness: Talking about exercise routines, healthy eating habits, or ways to maintain a healthy lifestyle. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 11 | Music and Entertainment: Discussing favorite music genres, concerts, movies, or TV shows. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 12 | Relationships: Talking about friendships, family dynamics, or romantic relationships. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 13 | Current Events: Discussing recent news topics, social issues, or global events. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 14 | Sports: Discussing favorite sports, sports events, or personal experiences with sports activities. | Warm-up & Review | Wrap-up |
| 15 | Future Plans: Talking about career aspirations, dreams, or goals for the future. | Warm-up & Review | Wrap-up |

| 講義名 | 1000012000 英語（TOEIC） I | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | グレゴリー・アンソニー | | |

## 学習目標(到達目標)

TOEICスコアを伸ばすためには、一般の英語能力をあげなければならない。グループ活動も加えて、読解・聴解・TOEIC専用語彙能力を広げ、過去の問題試験もおこないながら、試験の取り組み方学習し、自分次第スコアを伸ばすことができる。

## 授業概要(教育目的)

TOEICは日本だけではなく世界各国で英語を用いる職場においての日常的な読解と聴解能力の試験である。近年では就職のみならず昇進の際にも採用している企業も数多くある。実際のTOEIC試験はレベル分けしていないので、練習問題はTOEIC IIのレベルと同じである。TOEIC Ⅰの講義では、次の三つのことに重点を置く。①実際のTOEIC試験問題を練習し、頻繁に出題される問題に慣れる。②基本的な戦略を学習する。③単語力を広める。

TOEIC Ⅱでは、TOEIC Ⅰで学習したことをベースに細かく戦略し、さらにスコアを伸ばす。TOEICのスコアを伸ばしたいのなら、TOEIC Ⅰ・Ⅱの講義両方を受講するのが望ましい。試験の準備を通して実用的な英語能力を身につけることを目標とする。

2016年以降のTOEIC試験問題形式の変更部分も講義中に指導する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

授業活動参加、課題、クイズに基づいて総合的に評価する。
＊学期後半でおこなう学内 TOEIC ip 試験の受験。
＊授業内での活動の積極的な参加を重点においている。

## 課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
試験(小テスト)は採点の上返却する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

Tactics for the TOEIC Test Listening and Reading Test Introductory Course: Student Book
Grant Trew, OXFORD UNIVERSITY PRESS
ISBN: 9780194529761

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

第1日目に現在のTOEICレベルも確認する。成績も第1日目から評価する。
学期後半で授業時間外におこなう学内TOEIC ip 試験を必ず受験すること。教科書は毎回必ず持参すること。

## 実務との関連

アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | TOEIC Level Check | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | Part 1 Photographs ① (strategies) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | Part 1 Photographs ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | Part 2 Question-Response ① (strategies) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | Part 2 Question-Response ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | Part 3 Conversations ① (strategies) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | Part 3 Conversations ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | Part 4 Talks ① (strategies) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | Part 4 Talks ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | Part 5 Incomplete Sentences ① (strategies) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | Part 5 Incomplete Sentences ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | Part 6 Text Completion ① (strategies) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | Part 6 Text Completion ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | Part 7 Reading Comprehension ① (strategies) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | Part 7 Reading Comprehension ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

| 講義名 | 1000013000 英語（TOEIC）Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | グレゴリー・アンソニー | | |

## 学習目標(到達目標)

TOEICスコアを伸ばすためには、一般の英語能力をあげなければならない。グループ活動も加えて、読解・聴解・TOEIC専用語彙能力を広げ、過去の問題試験もおこないながら、試験の取り組み方学習し、自分次第スコアを伸ばすことができる。

## 授業概要(教育目的)

TOEICは日本だけではなく世界各国で英語を用いる職場においての日常的な読解と聴解能力の試験である。近年では就職のみならず昇進の際にも採用している企業も数多くある。実際のTOEIC試験はレベル分けしていないので、練習問題はTOEIC Ⅱのレベルと同じである。TOEIC Ⅰの講義では、次の三つのことに重点を置く。①実際のTOEIC試験問題を練習し、頻繁に出題される問題に慣れる。②基本的な戦略を学習する。③単語力を広める。

TOEIC Ⅱでは、TOEIC Ⅰで学習したことをベースに細かく戦略し、さらにスコアを伸ばす。TOEICのスコアを伸ばしたいのなら、TOEIC Ⅰ・Ⅱの講義両方を受講するのが望ましい。試験の準備を通して実用的な英語能力を身につけることを目標とする。

2016年以降のTOEIC試験問題形式の変更部分も講義中に指導する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

授業活動参加、課題、クイズに基づいて総合的に評価する。
＊学期後半でおこなう学内 TOEIC ip 試験の受験。
＊授業内での活動の積極的な参加を重点においている。

## 課題に対するフィードバック

課題は講義中口頭でフィードバックする。
試験(小テスト)は採点の上返却する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

Tactics for the TOEIC Test Listening and Reading Test Introductory Course: Student Book
Grant Trew, OXFORD UNIVERSITY PRESS
ISBN: 9780194529761

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

成績も第1日目から評価する。
学期後半で授業時間外におこなう学内TOEIC ip 試験を必ず受験すること。教科書は毎回必ず持参すること。

アクティブラーニングの実施について:この講義にインターネット対応デバイス(スマートフォン、タブレットPC、ノートパソコン)を持参すること。英和・和英辞典を毎回持参すること。電子辞書や携帯でもOK。英語の使い方の例文が書いてあるものがよい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | TOEIC Test Prep Schedule and Strategies | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | Part 1 Photographs ① (tactics) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | Part 1 Photographs ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | Part 2 Question-Response ① (tactics) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | Part 2 Question-Response ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | Part 3 Conversations ① (tactics) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | Part 3 Conversations ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | Part 4 Talks ① (tactics) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | Part 4 Talks ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | Part 5 Incomplete Sentences ① (tactics) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | Part 5 Incomplete Sentences ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | Part 6 Text Completion ① (tactics) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | Part 6 Text Completion ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | Part 7 Reading Comprehension ① (tactics) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | Part 7 Reading Comprehension ② (practice) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

| 講義名 | 1000014001 ドイツ語（地域共創） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 髙須　則行 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

## 参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

## 講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ(第2版)』朝日出版社
副教材としてプリントを配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 春学期「ドイツ語」の要点整理 | 春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す | 授業の内容を整理する |
| 2 | 動詞の3基本形<br>現在完了<br>お名前は？ | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 3 | 昨日・今日・明日<br>休暇旅行<br>「何をしたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 過去<br>再帰動詞と再帰代名詞<br>オクトーバーフェスト | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | こんにちは<br>オペラ鑑賞<br>「どこにいたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 形容詞・副詞の比較<br>関係代名詞<br>レストランにて | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 受動形<br>反対語のいろいろ<br>ホテルに宿泊 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 接続法<br>「～がほしいのですが」<br>誕生パーティー | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | いくらですか？<br>マンガ文化 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | ハンザ都市リューベック<br>環境首都フライブルク | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 結婚式の写真<br>外国人労働者 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | ポツダム広場へ<br>食習慣 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | どこへ行くの？<br>ノイシュヴァンシュタイン城 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 路上にて<br>アウシュヴィッツ | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 道案内<br>ビールの話 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

| 講義名 | 1000014002 ドイツ語（人間健康） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化ができる。
3 冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

## 参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田　健監修『ニューエクスプレス・スペシャル　ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

## 講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。
この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。
ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。
これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。
ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 世界の言語とドイツ語<br>アルファベート<br>つづりと発音<br>あいさつ<br>曜日、月 | 世界地図または地球儀を見る | 授業の内容を整理する<br>発音練習をする |
| 2 | 人称代名詞と動詞の現在人称変化<br>最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have)<br>語順<br>ja(英:yes)とnein(英:no) | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>発音練習をする |
| 3 | さまざまな疑問詞<br>自己紹介 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 名詞の性、冠詞<br>定冠詞と名詞の格変化<br>不定冠詞と名詞の格変化<br>格の用法 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | 職業名・専攻名のいろいろ<br>趣味はManga | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 不規則動詞の現在人称変化<br>命令形 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 人称代名詞の格変化<br>人称代名詞の3格と4格<br>「～しよう」<br>フランクフルト中央駅で | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 名詞の複数形<br>定冠詞類<br>不定冠詞類<br>否定冠詞kein | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | 身につけるもの、家族<br>買い物<br>「～はいくらですか」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | 前置詞の格支配<br>従属の接続詞と副文<br>非人称のes | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 時刻の言い方<br>チューリヒの町で<br>「～はどこにありますか」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | 話法の助動詞<br>分離動詞 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | 映画を見に行きたい<br>「～したい」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 形容詞の格変化<br>zu不定詞 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 「どんな種類の？」「どのような？」<br>わたしのねがい | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

| 講義名 | 1000014003 ドイツ語（看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 髙須　則行 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化ができる。
3　冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

## 講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

## 参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田　健監修『ニューエクスプレス・スペシャル　ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。
この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。
ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。
これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。
ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 世界の言語とドイツ語<br>アルファベート<br>つづりと発音<br>あいさつ<br>曜日、月 | 世界地図または地球儀を見る | 授業の内容を整理する<br>発音練習をする |
| 2 | 人称代名詞と動詞の現在人称変化<br>最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have)<br>語順<br>ja(英:yes)とnein(英:no) | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>発音練習をする |
| 3 | さまざまな疑問詞<br>自己紹介 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 名詞の性、冠詞<br>定冠詞と名詞の格変化<br>不定冠詞と名詞の格変化<br>格の用法 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | 職業名・専攻名のいろいろ<br>趣味はManga<br>「～するのが好きです」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 不規則動詞の現在人称変化<br>命令形 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 人称代名詞の格変化<br>3格目的語と4格目的語の語順<br>「～しよう」<br>フランクフルト中央駅で | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 名詞の複数形<br>定冠詞類<br>不定冠詞類<br>否定冠詞kein | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | 身につけるもの、家族<br>買い物<br>「～はいくらですか」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | 前置詞の格支配<br>従属の接続詞と副文<br>非人称のes | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 時刻の言い方<br>チューリヒの町で<br>「～はどこにありますか」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | 話法の助動詞<br>分離動詞 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | 映画を見に行きたい<br>「～したい」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 形容詞の格変化<br>zu不定詞(句) | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 「どんな種類の？」「どのような？」<br>わたしのねがい | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

| 講義名 | 1000015001 | ドイツ語コミュニケーション（地域共創） | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 髙須　則行 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

## 参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

## 講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 春学期「ドイツ語」の要点整理 | 春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す | 授業の内容を整理する |
| 2 | 動詞の3基本形<br>現在完了<br>お名前は？ | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 3 | 昨日・今日・明日<br>休暇旅行<br>「何をしたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 過去<br>再帰動詞と再帰代名詞<br>オクトーバーフェスト | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | こんにちは<br>オペラ鑑賞<br>「どこにいたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 形容詞・副詞の比較<br>関係代名詞<br>レストランにて | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 受動形<br>反対語のいろいろ<br>ホテルに宿泊 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 接続法<br>「～がほしいのですが」<br>誕生パーティー | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | いくらですか？<br>マンガ文化 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | ハンザ都市リューベック<br>環境首都フライブルク | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 結婚式の写真<br>外国人労働者 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | ポツダム広場へ<br>食習慣 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | どこへ行くの？<br>ノイシュヴァンシュタイン城 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 路上にて<br>アウシュヴィッツ | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 道案内<br>ビールの話 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000015002 ドイツ語コミュニケーション（人間健康） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

## 参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ－その文化・歴史・社会』郁文堂

## 講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 春学期「ドイツ語」の要点整理 | 春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す | 授業の内容を整理する |
| 2 | 動詞の3基本形<br>現在完了<br>お名前は？ | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 3 | 昨日・今日・明日<br>休暇旅行<br>「何をしたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 過去<br>再帰動詞と再帰代名詞<br>オクトーバーフェスト | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | こんにちは<br>オペラ鑑賞<br>「どこにいたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 形容詞・副詞の比較<br>関係代名詞<br>レストランにて | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 受動形<br>反対語のいろいろ<br>ホテルに宿泊 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 接続法<br>「～がほしいのですが」<br>誕生パーティー | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | いくらですか？<br>マンガ文化 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | ハンザ都市リューベック<br>環境首都フライブルク | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 結婚式の写真<br>外国人労働者 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | ポツダム広場へ<br>食習慣 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | どこへ行くの？<br>ノイシュヴァンシュタイン城 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 路上にて<br>アウシュヴィッツ | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 道案内<br>ビールの話 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000015003 ドイツ語コミュニケーション（看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 髙須　則行 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

## 参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ－その文化・歴史・社会』郁文堂

## 講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 春学期「ドイツ語」の要点整理 | 春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す | 授業の内容を整理する |
| 2 | 動詞の3基本形<br>現在完了<br>お名前は？ | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 3 | 昨日・今日・明日<br>休暇旅行<br>「何をしたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 過去<br>再帰動詞と再帰代名詞<br>オクトーバーフェスト | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | こんにちは<br>オペラ鑑賞<br>「どこにいたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 形容詞・副詞の比較<br>関係代名詞<br>レストランにて | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 受動形<br>反対語のいろいろ<br>ホテルに宿泊 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 接続法<br>「～が欲しいのですが」<br>誕生パーティー | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | いくらですか？<br>マンガ文化 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | ハンザ都市リューベック<br>環境首都フライブルク | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 結婚式の写真<br>外国人労働者 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | ポツダム広場へ<br>食習慣 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | どこへ行くの？<br>ノイシュヴァンシュタイン城 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 路上にて<br>アウシュヴィッツ | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 道案内<br>ビールの話 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

| 講義名 | 1000016000 哲学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.哲学的な文献に触れ、読解する訓練を積む。
2.様々な思想や考え方があることを知り、それぞれを自分の言葉で説明できるようになる。
3.抽象的かつ観念的な内容について記述することができるようになる。

## 授業概要(教育目的)

哲学とは、理性のみを方法論として真理を探究する学問である。人間は文明の発祥の時代から自らの頭脳を駆使して、世界や人間についての真理を探求してきたのである。本講義では、様々な文献資料、特に『新カトリック大事典』を頼りに、哲学の通史と様々な諸テーマに迫ることとしたい。幾人かの哲学者についても紹介することとなるが、人名や歴史を覚える必要はない。古来どのようなことが論じられ、それに従えば世界はどのように見えるのか、受講生の世界を広げ、問題意識を深め、また思考の基礎を養う場としたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

授業参加、受講態度、質疑応答、学期末の筆記試験によって総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

授業内における質疑応答を歓迎する。
課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

今道友信『西洋哲学史』講談社学術文庫、1987年。
K.リーゼンフーバー『西洋古代・中世哲学史』平凡社、2000年。
学校法人上智学院編『新カトリック大事典』研究社、1996-2010年。
小須田健『30分でわかる哲学＆思想』日本文芸社　2010年。

## 講義時使用テキスト

教科書は用いず、資料を配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

受講生には、漫然とではなく、分からないところはまず何が分からないのかはっきりさせるような「攻める読書」を求めたい。配布資料のすべてを理解する必要は必ずしもないが、全体として、様々な思想それぞれの特徴や個性に触れて、面白みを感じてほしい。授業を通して「ともに考える」姿勢を望む。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 哲学入門：過ぎ去らない確かなこと、本質とは | 「哲学」について、インターネットや図書で調べる。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | ソクラテス以前の哲学者と自然「科学者」 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | ソフィストとソクラテスの哲学的態度 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | プラトンのイデア論 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | アリストテレスの形而上学 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 古代末期の哲学潮流：ストア派 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 中世哲学と大学の使命 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 普遍論争 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 中性から近代へ：ルネサンスと人文主義 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 大陸合理論の哲学者たち | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | イギリス経験論と政治思想 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 社会契約説からカントまで | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 仏教哲学にみる認識論・唯識思想 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 現代の哲学者たちは世界をどう見ているのか：マルクス・ガブリエルが見る日本と世界 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 可能なら、授業内で視聴した動画コンテンツを再視聴する。 |
| 15 | 論文執筆と詭弁を批判するための論理学 | 関連する動画コンテンツを見てみる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

| 講義名 | 1000017000 芸術論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 高橋　史朗 | | |

## 学習目標(到達目標)

この授業では、以下の2点を到達目標とする。
1.芸術を批評する際に必要な理論及び芸術思潮の流れについて概括的な知識を獲得すること。
2.その知識を芸術作品の価値判断に活かせること。

## 授業概要(教育目的)

芸術はそれ自体で完結するものではなく、作品を取り巻く様々な要素によって意味づけられ、その価値が判断される。また、歴史的に評価が繰り返され、芸術史が形成されることになる。この授業では、第一に芸術作品を鑑賞する(見る・読む・聞く)ことの方法、意義、その目的など批評活動の概念を紹介する。そのうえで、プラトン、アリストテレスにはじまる西洋美学を概観するとともに、芸術思潮および批評理論の基本を講義する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

15回の講義終了後に実施するアセスメントに基づいて評価する。
欠席は1／3まで、6回目欠席の時点で試験の受験資格を失う。

## 課題に対するフィードバック

試験の模範解答を示す。

## 参考文献

授業を理解するうえで必要不可欠と思われる資料(作品写真・映像・参考資料・図書等)については、必要に応じて適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

なし

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

情報量の多い授業となるので、ノートテイキングを効率的に行うことを期待する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス(授業内容、計画、成績評価、学習方法など)、批評とは何か | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 作品と周辺:芸術の種類、作品とテクストの差異、芸術思潮や批評理論の役割 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 3 | プラトンの芸術批判1 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 4 | プラトンの芸術批判2 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 5 | アリストテレスと悲劇の形相 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 6 | アリストテレスの芸術観1 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 7 | アリストテレスの芸術観2 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 8 | プロティノスの作品観 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 9 | 美の円環構造 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 10 | ルネサンスとユマニスム | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 11 | ルネサンス芸術 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 12 | カントの技術論 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 13 | カントにおける美1 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 14 | カントにおける美2 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |
| 15 | まとめと演習 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業を振り返り、重要ポイントについてノートをコンパクトに纏め直す。 |

| 講義名 | 1000018000 デザイン論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 高橋　史朗 | | |

## 学習目標(到達目標)

この授業では、デザインという極めて広範な活動について知識を得るとともに、デザイン的な思考方法の基盤を作ることを目指す。この授業の受講者の学習到達目標は以下のとおりである。
1.デザインの定義について把握すること。
2.デザインとその周辺領域との相違及び相互関係につて理解すること。
3.デザイン的な思考方法の基礎を身につけること。
4.思考方法をベースとした提案を実践できること。

## 授業概要(教育目的)

デザインはときに美しい製品やビジュアルを作るものと考えられがちだが、ドアの鍵や事務用品のような実用品、スポーツの大会や誕生会のようなイベント、公園や街路もデザインされている。本講義ではまず、このようなデザインの広がりを前提として、デザイン活動の本質と優れたデザインの有する特徴を提示する。次いで、生産・改善といったデザインに近似する領域とデザインの相違点を把握した上で、デザイン的な思考とはどのようなものかディスカッションを進める。さらに、その思考法を活用してデザイン的な提案を実践することを目指す。受講生は調査活動とグループワークを実践して、デザイン思考に基づくプレゼンテーションを行うこととなる。そのつもりで受講に臨んでもらいたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

知識を確認するアセスメント35%、グループワークでの相互評価15%、プレゼンテーション40%の割合で評価する。なお、不合格者にはアセスメントの再試験とレポートを課す。

## 課題に対するフィードバック

アセスメントは授業時に解答解説を行う。プレゼンテーションはその場で評価を行い、必要な場合改善を指示したうえで提出を求める。

## 参考文献

授業を理解するうえで必要不可欠と思われる資料(Webサイト、作品・映像・参考資料・図書等)については、必要に応じて適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

なし

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業ではPPTを使用する機会が多く、そのファイルは適宜共有するが、授業時にある程度メモをとらず画面を眺めるだけでは、アセスメントもプレゼンも十分な成果を得られないので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス(授業内容、計画、成績評価、学習方法など)、デザインの諸相 | デザインに関心を持ち、周囲のデザイン例を収集してみる。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 広義のデザインと狭義のデザイン | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | デザインと競争の原理 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | デザインと改良 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | デザインと価値:新しい経験と対価 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | デザインと価値:価値の創造・増大・転換 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | ターゲティングとターゲットインサイト | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 観察と視点 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | デザイン思考 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 観察と視点 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | ナレッジアセスメント<br>グループワーク1:情報収集とターゲティング | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。<br>課題のレポートを作成する |
| 12 | グループワーク2:ターゲティングとインサイト | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 課題のレポートを作成する |
| 13 | グループワーク3:アイディエーション | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 課題のレポートを作成する |
| 14 | グループワーク4:プレゼンファイル作成 | 授業内容についてインターネットなどで調べる | 課題のレポートを作成する |
| 15 | プレゼンバトルと相互評価 | 授業内容についてインターネットで調べる | 課題のレポートを作成する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000019000 心の科学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

心理学の基礎となる概念、理論、アプローチを理解し、それらが人間の行動と心理プロセスをどのように説明するかを理解する。

## 授業概要(教育目的)

本講義では、心理学の観点から「心」の基本的なメカニズムについて考えていきたい。心理学の研究によって、「心」の意外な働きが分かってきた。本講義では、知覚、記憶などの認知的な側面から心理学の基礎について概説する。また、人格、知能、発達などから、その人特有の個性を形作る「心」の働きについても学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

定期試験の成績を中心に、講義中の小レポートも加味し、総合的に評価する。なお、定期試験は、テキスト、ノートなど一切の資料を持ち込み不可で行う。

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および定期試験の成績(得点)については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

## 参考文献

角山剛・小西啓史・三星宗雄・渡辺浪二(編著)『基礎からの心理学』おうふう

## 講義時使用テキスト

特に指定しない

## 資格との関連

認定心理士資格申請に必要な科目の一つである。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
秋学期集中講義で開講される『行動の科学』では、主に集団としての人間の問題、心の病などについて概説する予定である。本科目と『行動の科学』を併せて履修することで、心理学の知識を幅広く習得されることを希望する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 【ガイダンス & 心理学とは】<br>①授業の進め方 ②心理学とは ③心理学の歴史 | 心理学の研究対象について図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 2 | 【知覚】<br>①知覚とは ②視覚の世界 ③その他の知覚世界 | 物を知覚するしくみについて図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 3 | 【記憶】<br>①記憶とは ②短期記憶と長期記憶 ③勉強に役立つ記憶法 | 記憶のしくみについて図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 4 | 【思考】<br>①問題解決 ②推理 ③確率判断 ④意思決定 | 問題解決、推理、確率判断、意志決定のしくみについて図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 5 | 【行動学習(レスポンデント条件付け)】<br>①無条件反射 ②条件反射とレスポンデント条件付け ③さまざまな条件反射 | レスポンデント条件付けのしくみについて図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 6 | 【行動学習(オペラント条件付け)】<br>①生得的行動と獲得的行動 ②スキナーの実験とオペラント条件付け ③ギャンブルに依存する心理 ④学習性無力感 | オペラント条件付けのしくみについて図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 7 | 【対人関係】<br>①他者を知る仕組み ②自分を知ってもらうには ③友情& 恋愛 | 他者認知、自己呈示、印象形成のしくみについて図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 8 | 【感情・動機づけ】<br>①感情とは ②フラストレーションとストレス ③動機づけ | 感情が生起するしくみ、フラストレーションの解消法について図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 9 | 【性格】<br>①性格とは ②性格のとらえ方 ③性格を決める要因 | 性格の捉え方(類型論と特性論)について図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 10 | 【性格テスト(心理検査)】<br>①性格テスト(心理検査)とは ②性格テスト(心理検査)の実施 | 性格(心理状態)の3つの測定方法について図書館やネットを用いて調べる。 | 性格テスト(心理検査)の結果を振り返ってみる。 |
| 11 | 【心の発達】<br>①乳児期・幼児期 ②認知の発達 ③言語能力の発達 | 乳児期や幼児期、児童期の心の発達について図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 12 | 【心の発達】<br>①社会性の発達 ②自己の発達 ③成人期・老年期 | 青年期から老年期の心の発達について図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 13 | 【心のダメージ】<br>①心の葛藤 ②ストレス ③心の病気 | ストレスによって引き起こされる心や身体の病気について図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 14 | 【心の治療】<br>①心理療法とは ②心理療法の様々な技法 ③日常生活でのメンタルケア | 心理療法の様々な技法について図書館やネットを用いて調べる。 | 配布資料を読み返し、授業の内容を理解する。 |
| 15 | 【まとめ】<br>これまでの授業を一通り振り返り、ポイントを押さえる。 | 配布プリントがすべて手元にあるかどうか確認し整理しておく。 | ポイントを重点的に学習し、試験に備える。 |

| 講義名 | 1000020000 行動の科学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 石岡　れい子 | | |

## 学習目標(到達目標)

行動の科学的接近の成果にもとづいて、心理学の各領域のテーマについて基本的な事柄を理解し、説明できる。

## 授業概要(教育目的)

この授業では、行動の科学的な理解を通して、社会、他者、集団、環境における人間の行動や心の働きについて概説する。また、心の病やそれに対する治療、援助について学び、臨床的・応用的な見地からも「心」の働きについて考えていく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

毎回の小テスト、課題((レポート)提出、演習への参加態度、授業中の発言等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

レポート、感想文は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

認知症サポーター養成講座標準教材「認知症を学び、地域で支えよう」全国キャラバンメイト連絡協議会

## 資格との関連

社会福祉士、教員、看護師の資格取得のための選択科目である。人間の行動を科学的に観察、分析するために、まずは実際に自分で各種の検査を行い、自身の性格や行動について客観的に分析することから始めていく。

## 学生へのメッセージ

受講者は、意志・好奇心を持って参加されたい。また、学んだ知識を生かせるように実際の事例にあてはめながら理解してもらいたい。重要なことは、学んだことをただ授業の中だけで終わらせないことである。そうでなければ、内容を理解したとは言えない。理解習得し、ものごとを学習前と違った視点から見られるようになって欲しい。

## 実務との関連

小学校教員、特別支援学校教員を経て、教育大学の大学院で臨床心理学を学んだ。特に応用行動分析学の研究室で、人間の行動、行動変容、環境との相互作用、コンサルテーションについて学んだ。現在は、障害児施設の心理指導員、小学校・中学校・高校のスクールカウンセラーなどをしており、その知見と実務経験をもとに話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 心理学とはなにか | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 2 | 環境の認知 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 3 | 行動の変容<br>自身のコーピング尺度を分析し行動パターンについて感想文を提出する。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 4 | 記憶 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 5 | 感情と動機づけ | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 6 | 性格と知能<br>自身のエゴグラムの結果を分析し説明したうえで、今後の自身のあり方をレポートにまとめ提出する。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 7 | 発達 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 8 | 対人認知と対人魅力、態度と態度変化<br>対人認知と対人魅力、態度と態度変化<br>Leeの愛情尺度の結果を自己分析し、レポートを提出する。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 9 | 自己と他者<br>自己と他者<br>ハイダーのバランス理論について学び日常の行動と結び付けて具体例を挙げて、レポートにまとめ提出する。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 10 | 集団の心理 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 11 | リーダーシップ<br>自身のLPC尺度の結果を分析し効果的なリーダーシップのあり方について考え、レポートを提出する。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 12 | 適応と不適応<br>STAI1とSTAI2を分析し、レポートを提出する。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 13 | 主な精神障害の概要<br>SDS(うつ尺度)を実施し、うつの症状を知る。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 14 | 精神障害への介入技法<br>高齢者の心理や特徴を学び、認知症の理解と支援について知る<br>認知症サポーター養成講座　八戸市介護予防センター(ゲストティーチャー) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | ゲストティーチャーによる寸劇などを見て、グループディスカッションをして発表する。<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 15 | 障害の心理(発達障害児者の理解と支援につい)<br>視角や聴覚、味覚、触覚などの感覚過敏、変化への不適応、こだわりなどについて具体的に話し、<br>対応を考える。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | ゲストティーチャーによる寸劇などを見て、グループディスカッションをして発表する。<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000021000 歴史学<br>※2026年度開講せず | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

1、歴史的なものの見方の意義が理解できる。
2、古代ギリシアから現代に至るまでの法思想の概要について理解できる。
3、それぞれの思想家が思索した時代背景を理解できる。

## 授業概要(教育目的)

現代世界は「グローバリゼーション」の掛け声のもとに、大きな変動を迎えている。そうした中で、従来の国家・社会の構造は変容し、人々の信念にも変容がみられると同時に、そうした変化に対する反発も生じている。
こうした流動的な状況においては、人類の歴史を振り返り、過去の変動の時代に人々が何を考え、どのように行動し、結果として何がもたらされたかを学ぶ歴史学の視点は大変重要に思われる。
この授業では、国家と社会を形作るいわば骨格である「法」についての捉え方の歴史、すなわち「法思想」の歴史を西洋という文脈に限って、古代ギリシアから現代に至るまでたどってみたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

期末の定期試験によって評価する。出席が3分の2を超えていることは単位取得の前提条件である。穴埋め個所は試験範囲になるので、授業中はこまめな穴埋めをすること。なお遅刻は3回で欠席1回相当とみなす。

## 課題に対するフィードバック

授業中には適宜討論の時間を設けたい。電子メールで質問には随時答える。講義中の質問は大歓迎である。

## 参考文献

三島淑臣『法思想史〔新版〕』青林書院、1993年。それ以外は授業時に紹介する。

## 講義時使用テキスト

テキストは特に指定せずに、スライド資料などを配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

高校時代に世界史を履修していない人は、何か世界史に関する入門書を授業受講以前に1冊読んでおいてください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「歴史」のとらえ方 歴史学の歴史 | 高校の世界史の教科書や資料集をもう一度取り出して、自分の関心のある所を見直すなどしてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 2 | 法思想史の意義について<br>プラトンの哲人王政　魂の政治 | 高校の世界史教科書でも構いませんので、古代ギリシアに関する部分をざっくり読んできてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 3 | アリストテレスの正義論　正義の三分説 | 高校の世界史教科書でも構いませんので、古代ギリシアに関する部分をざっくり読んできてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 4 | ヘレニズム時代の法思想　ストア派とエピクロス派 | 高校の世界史教科書でも構いませんので、古代ギリシアに関する部分をざっくり読んできてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 5 | キリスト教の登場　旧約の法から新約の法へ | 高校の世界史教科書でよいので世界史・倫理のキリスト教に関する記述を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 6 | 教父アウグスティヌスの法思想　永遠法について | 高校の世界史教科書でよいので世界史・倫理のキリスト教に関する記述を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 7 | スコラ学者トマス・アクィナスの法思想　自然法について | 高校の世界史教科書でよいので世界史・倫理のキリスト教に関する記述を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 8 | 末期スコラ学とグロティウス　国際法の萌芽 | 高校の世界史教科書でよいので世界史の大航海時代前後に関する記述を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 9 | ルネサンスから「宗教改革」へ　マキアヴェリの君主論について～ホッブズの社会契約論 | 高校の世界史の教科書でよいのでルネサンス前後の記述を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 10 | 近代市民社会の成立　ジョン・ロックの所有権論 | 高校の世界史の教科書でよいので近代市民革命前後の記述を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 11 | 近代市民社会の深化　カントの普遍主義的法理論とJ.S.ミルの自由論 | 高校の世界史の教科書でよいので近代市民革命前後の記述を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 12 | 近代市民社会への批判　ルソーの一般意思論とヘーゲルの人倫論 | 高校の世界史の教科書でよいので近代市民革命前後の記述を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 13 | 実証主義の時代　ハンス・ケルゼンの法実証主義とラートブルフの価値相対主義 | 高校の世界史の教科書でよいので19世紀の記述を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 14 | 自然法論の「復権」　ヨハネス・メスナーの自然法倫理学 | 高校の世界史の教科書でよいので第二次世界大戦前後のヨーロッパに関する記述(特にファシズムについて)を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |
| 15 | 現代世界の法思想　「ハーバード白熱教室」が問いかけるもの | 高校の世界史の教科書でよいので現代に関する記述を読み直しておいてください。 | 授業時に穴埋めしたスライド箇所を見直してください。穴埋め箇所は試験範囲となります。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000022000 日本国憲法 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 髙須 則行 | | |

## 学習目標(到達目標)

① 日本国憲法の理念・構造を説明できる。
② 基本的人権の精神およびその内容、平和の尊さを考え、民主政治の仕組みを説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本講義では、私たちの国家の基本的在り方を決めている日本国憲法について、その基本原理として挙げられている国民主権、基本的人権の保障、平和主義の理念、権力分立制がどのような働きをしているのかを判例を踏まえながら理解してもらうことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

定期試験および小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストの模範解答を示す。

## 参考文献

他の参考書、参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

『憲法概観(再訂補訂版)』(司法協会)

## 資格との関連

公務員(教職も含む)試験　行政書士試験

## 学生へのメッセージ

① 公務員試験における試験科目ですので、公務員希望者は必ず受講することを勧めます。
② テキストは必ず持ってくること。
③ 新聞・TVなどの報道には関心を持ってほしい。女性天皇制・天皇の国事行為・天変地異と危機管理・日本を取り巻く国際社会の変化など、憲法改正論が巷を騒がせている。他方で国民の人権はどうなるのか是非関心を持ってニュースに接してほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 憲法へのいざない：日常生活における基本的人権の問題) | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 2 | 憲法の位置付け:憲法の最高法規性 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 3 | 憲法の基本原理：国民主権・基本的人権の保障・権力分立制・平和主義 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 4 | 憲法の歴史:近代憲法から現代憲法へ | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 5 | 基本的人権の性質 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 6 | 基本的人権の体系 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 7 | 法の下の平等 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 8 | 自由権(1)：精神的自由(信教の自由) | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 9 | 自由権(2)：精神的自由(表現の自由) | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 10 | 自由権(3)：人身の自由 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 11 | 自由権(4)：経済的自由 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 12 | 社会権 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 13 | 統治機構(1)：三権分立制の意義 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 14 | 統治機構(2)：三権分立制の関係 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 15 | 地方自治 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |

| 講義名 | 1000022001 日本国憲法（看護学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 髙須 則行 | | |

## 学習目標(到達目標)

① 日本国憲法の理念・構造を説明できる。
② 基本的人権の精神およびその内容、平和の尊さを考え、民主政治の仕組みを説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本講義では、私たちの国家の基本的在り方を決めている日本国憲法について、その基本原理として挙げられている国民主権、基本的人権の保障、平和主義の理念、権力分立制がどのような働きをしているのかを判例を踏まえながら理解してもらうことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

定期試験および小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストの模範解答を示す。

## 参考文献

他の参考書、参考資料は、講義の中で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

『憲法概観(再訂補訂版)』(司法協会)

## 資格との関連

公務員試験 行政書士試験

## 学生へのメッセージ

テキストは必ず持ってくること。
新聞・TVなどの報道には関心を持ってほしい。女性天皇制・天皇の国事行為・天変地異と危機管理・日本を取り巻く国際社会の変化など、憲法改正論が巷を騒がせている。他方で国民の人権はどうなるのか是非関心を持ってニュースに接してほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 憲法へのいざない：日常生活における基本的人権の問題) | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 2 | 憲法の位置付け:憲法の最高法規性 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 3 | 憲法の基本原理:国民主権・基本的人権の保障・権力分立制・平和主義 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 4 | 憲法の歴史:近代憲法から現代憲法へ | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 5 | 基本的人権の性質 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 6 | 基本的人権の体系 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 7 | 法の下の平等 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 8 | 自由権(1):精神的自由(信教の自由) | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 9 | 自由権(2):精神的自由(表現の自由) | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 10 | 自由権(3):人身の自由 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 11 | 自由権(4):経済的自由 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 12 | 社会権 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 13 | 統治機構(1):三権分立制の意義 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 14 | 統治機構(2):三権分立制の関係 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |
| 15 | 地方自治 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理しておく。 | 授業の内容を整理し、分からない点があれば調べておく。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000023000 政治学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 横田　将志 | | |

## 学習目標(到達目標)

①政治学で用いられる基本的な概念について説明できるようになる。
②政治学の考え方を活用して、実際の政治現象を読み解くことができるようになる。
③物事を客観的・理性的に判断したうえで、自らのもつ政治的権利を行使できるようになる。

## 授業概要(教育目的)

私たちは、政治が決めたルールなどに従って生活していると同時に、主権者であり、政治の行方を決める存在でもある。そのため、実際の政治現象を正確に理解したうえで、行動することが求められる。本講義では、この点を踏まえ、現実社会における複雑な政治現象を理解し、さまざまな政治的課題への解答を見つけ出すために必要な政治学の諸概念や分析手法を身につけていく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

## 参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

なし

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

日頃から政治に興味・関心をもって新聞やニュースに触れるとともに、政治の当事者としての意識をもちながら生活してほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 政治と政治学 | 政治とは何かについて考えておく。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 国家と主権 | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 政治権力 | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 政治制度 | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 政治体制とイデオロギー | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 政治思想 | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 民主主義①(民主主義の歴史的展開) | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 民主主義②(民主主義を支える諸概念) | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 政党と政党システム | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 選挙 | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 諸外国の政治①(イギリス) | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 諸外国の政治②(アメリカ) | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 日本の政治①(日本政治史) | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 日本の政治②(現代日本政治の特徴と課題) | 参考文献の該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 政治学の役割 | 政治的課題の解決に向けて自ら何ができるのかについて考えておく。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

| 講義名 | 1000024000 社会学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 横田　将志 | | |

## 学習目標(到達目標)

①現代社会の特徴について理解し、説明できるようになる。
②個人と社会の関係性や生活(生き方)の多様性について理解し、さまざまな生き方を選択したり、受け容れたりできるようになる。
③社会の抱える諸問題とその背景を理解し、問題の解決策を考えることができる。

## 授業概要(教育目的)

社会学は、私たちが生活する社会の仕組みやそこで起こる現象の説明を試みる学問分野であり、非常に幅広い研究対象をもつ。この講義では、社会のさまざまな側面を取り上げ、それを客観的に理解・説明するために必要な能力を身につけ、実社会で直面する多種多様な課題に自ら対応できるようになることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

奥村隆編『はじまりの社会学――問いつづけるためのレッスン』ミネルヴァ書房、2018年。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

社会学は、私たちの暮らしに関わるさまざまな面を分析する学問である。そのため、普段の生活のなかでも、さまざまな事象に興味・関心をもつよう心掛けてほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会学の意義 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 社会学の射程 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 自己と他者 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 家族 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | ジェンダー | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 労働 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 格差・不平等 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 病気・障害 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 外国人・民族 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 宗教 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 環境と開発 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 逸脱と社会規範 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 権力と国家 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | マスメディア | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 社会学がもつチカラ | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

| 講義名 | 1000024001 社会学（臨時開講） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 横田　将志 | | |

## 学習目標(到達目標)

①現代社会の特徴について理解し、説明できるようになる。
②個人と社会の関係性や生活(生き方)の多様性について理解し、さまざまな生き方を選択したり、受け容れたりできるようになる。
③社会の抱える諸問題とその背景を理解し、問題の解決策を考えることができる。

## 授業概要(教育目的)

社会学は、私たちが生活する社会の仕組みやそこで起こる現象の説明を試みる学問分野であり、非常に幅広い研究対象をもつ。この講義では、社会のさまざまな側面を取り上げ、それを客観的に理解・説明するために必要な能力を身につけ、実社会で直面する多種多様な課題に自ら対応できるようになることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

奥村隆編『はじまりの社会学――問いつづけるためのレッスン』ミネルヴァ書房、2018年。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

社会学は、私たちの暮らしに関わるさまざまな面を分析する学問である。そのため、普段の生活のなかでも、さまざまな事象に興味・関心をもつよう心掛けてほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会学の意義 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 社会学の射程 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | 自己と他者 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | 家族 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | ジェンダー | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | 労働 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | 格差・不平等 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | 病気・障害 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | 外国人・民族 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | 宗教 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | 環境と開発 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | 逸脱と社会規範 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 権力と国家 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | マスメディア | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | 社会学がもつチカラ | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000025000 国際関係論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 横田　将志 | | |

## 学習目標(到達目標)

①国際社会の特徴と歴史を踏まえ、現在の国際関係や世界情勢を説明できるようになる。
②国際関係や国際政治の説明に必要な理論を活用できるようになる。
③国際社会から受けるさまざまな影響に対して正しく対応できるようになる。

## 授業概要(教育目的)

私たちは、国際社会のなかで暮らし、国際関係から大きな影響を受けている。グローバル化が進んだ現代、地域社会で活躍するためには、国際関係を客観的に理解し、論理的に説明する力が求められる。この授業では、国際関係の特徴・歴史・理論・課題を学び、世界情勢を読み解く力を習得したうえで、持続可能な開発目標(SDGs)に代表されるさまざまな地球的課題への解答を自ら見つけ出せるようになることを目指す。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

期末試験と授業内課題の結果を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

## 参考文献

授業のなかで適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄・山本直(編)『国際関係論(第4版)』弘文堂、2025年。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

国際関係論は政治学の一分野であることから、事前に政治学の履修を勧める。また、日頃から国際情勢に関心をもち、新聞の国際面に目をとおしたり、世界の出来事を伝えるニュース番組を見たりすることが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 国際関係を学ぶ理由 | 世界情勢にの興味・関心をもっておくこと。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 国際社会の特徴 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 20世紀の国際関係 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 21世紀の国際関係 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 現代のグローバル化 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | グローバル化の光と影 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 地域化 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 北東アジアの今 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 現代の安全保障 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 南北問題 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 地球環境問題 | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 非国家アクター | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 国際関係の理論①(リベラリズム、リアリズム、ネオリアリズム) | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 国際関係の理論②(ネオリベラリズム、コンストラクティヴィズム) | テキストの該当箇所およびWebClassにある資料を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 世界の平和と安定に向けて | 世界を平和にする方法を考えておくこと。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

| 講義名 | 1000026000 海外事情 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | グレゴリー・アンソニー | | |

## 学習目標(到達目標)

「海外事情」は国際理解教育の観点から、外国に一定期間滞在して、人的交流と語学研修等を通して、具体的かつ実践的な海外各国の異文化の事情等を学ぶことを目的とする。異文化や異国でのビジネス等に触れることにより、広い視野と積極性に基づく国際理解を身につけ説明できる。

## 授業概要(教育目的)

①＜タイ＞タイ国チェンマイ市の歴史や専物館、病院、福祉施設などの見学を通して、異文化を理解し、国際感覚を培うことを目的として実施する。
②＜EF＞学校法人光星学院が協定を結んでいるEF(イー・エフ・エデュケーション・ファースト・ジャパン株式会社)が提供する世界各地への語学留学プログラムに参加する。
＊注意事項
上記①～②の研修に参加する予定の学生は、あらかじめ「海外事情」を履修登録すること。また、研修参加後に「海外事情」と「英語コミュニケーション」の単位認定を希望する学生は、教務学生課において修了証等の写しとともに、「単位認定願」を必ず提出すること。なお、参加費は実費で、費用に含まれるのは次の通りである。
1)交通費(国内の移動費。航空運賃)と海外旅行傷害保険料
2)英語研修費と諸活動費の一部及び宿泊費(ホテル費用)
3)その他費用(現地移動費等)

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

海外事情に関する事前講義、現地における各種研修、帰国後に行う事後講義・レポート提出・プレゼンテーション等により、教員が必要に応じて受講や発表を決定しその内容で評価する。
＜「EF(英語圏)」での英語研修については、「英語コミュニケーション」を参照。＞

## 課題に対するフィードバック

事前研修プログラム最中にプログラム担当者が口頭でフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

後日指定する。
団体行動を基本としたスケジュールを組んでいるので、その自覚と意欲ある者の履修を求める。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 海外研修事前指導(1) 研修の目的 | シラバスの内容を確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 2 | 海外研修事前指導(2) 研修地の事情、歴史、文化 | 研修地についてメディアで調べる。 | 研修内容を整理する。 |
| 3 | 海外研修事前指導(3) 研修スケジュールの計画 | 研修地についてメディアで調べる。 | 研修内容を整理する。 |
| 4 | 海外研修実施中 語学研修(1) | 研修スケジュールを確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 5 | 海外研修実施中 語学研修(2) | 前回の研修内容を再確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 6 | 海外研修実施中 歴史・文化(1) | 前回の研修内容を再確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 7 | 海外研修実施中 歴史・文化(2) | 前回の研修内容を再確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 8 | 海外研修実施中 歴史・文化(3) | 前回の研修内容を再確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 9 | 海外研修実施中 ビジネス(1) | 前回の研修内容を再確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 10 | 海外研修実施中 ビジネス(2) | 前回の研修内容を再確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 11 | 海外研修実施中 観光・食(1) | 前回の研修内容を再確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 12 | 海外研修実施中 観光・食(2) | 前回の研修内容を再確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 13 | 海外研修実施中 観光・食(3) | 前回の研修内容を再確認する。 | 研修内容を整理する。 |
| 14 | 海外研修事後指導(1) 海外研修の振り返り | 海外研修中の学習内容を整理する。 | 研修内容を整理する。 |
| 15 | 海外研修事後指導(2) レポートの作成 | 海外研修中の学習内容を整理する。 | 研修内容を整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000026001 海外事情（韓国文化）<br>※2026年度開講せず | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

本講義の学習目標は、韓国語および韓国文化について基礎的な知識を習得し、韓国文化への理解を深めることをである。具体的には、毎回韓国語の学習を通じ、ハングル文字や発音を身につける。さらには、簡単な文法を覚え、日常生活に必要な表現について学習し、授業の最後には初級レベルに達することを目標とする。そして、韓国文化について地理、衣・食・住文化、歴史、芸能などのように幅広く学習し、隣国である韓国文化への理解を深めることを目標とする。

## 授業概要(教育目的)

授業は大きく2つに分けて進める。一つは、韓国語の学習である。ハングルが創造された歴史を踏まえ、ハングルの基本的な文字構成や発音について身につける。文字を単に覚えるのみではなく、基礎的に読める、書ける、聞ける、言えるようになっていただくよう、随時テストを行いながら授業を進める。二つは、韓国文化の学習である。文化の基本的な定義から始め、韓国の地理的特徴や歴史、社会的情勢などできる限り幅広く紹介する。すなわち、韓国文化について一面ではなく、多面的に観察することにより文化への理解を深める。さらには、韓国文化への理解を始め、異文化を理解するための土台を身につける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

本講義の評価は、課題(レポート)2回と定期試験1回により評価する。レポート1回につき15点で合計30点、定期試験を70点にして、総100点で評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

1. 李昌圭著『日常会話から文法まで学べる はじめての韓国語』ナツメ社

## 講義時使用テキスト

レジュメ配布

## 資格との関連

韓国語能力試験(TOPIK)の資格を受験する基礎になる。

## 学生へのメッセージ

本講義は、韓国語および韓国文化について理解を深めたい人を対象としている。また、授業での内容を十分理解した上で、両国の交流増進のために積極的に活動してほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. ハングルについて<br>2. 文化について(文化とは何か？) | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 2 | 1. ハングルの創造の歴史<br>2. 韓国の地理(位置、領土、気候、山河などの自然環境など) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 3 | 1. ハングルの子音について<br>2. 韓国の「食」文化(キムチ、サムギョプサルなど) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 4 | 1. ハングルの母音について<br>2. 韓国の「衣」文化(韓服(チマチョゴリ)など) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 5 | 1. 基本的な文字の構成①(パッチム無し)<br>2. 韓国の「住」文化(昔の住宅と現在の住宅) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 6 | 1. 基本的な文字の構成②(パッチム有り)<br>2. 韓国の歴史(原始時代から現代まで) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 7 | 1. ハングルの発音法①(パッチム無し)<br>2. 韓国の民俗芸能と通過儀礼(陶磁器(世界遺産、国宝)、生活規範としての儒教) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 8 | 1. ハングルの発音法②(パッチム有り)<br>2. 韓国の伝統舞踊と仮面劇(「판소리」と「탈춤」) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 9 | 1. ハングルを書いてみよう①(パッチム無し)<br>2. 韓国の音楽(「트로트」と「K-POP」) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 10 | 1. ハングルを書いてみよう②(パッチム有り)<br>2. 韓国のドラマと映画 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 11 | 1. ハングルの読み・聞き練習①(パッチム無し)<br>2. 韓国の若手文化 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 12 | 1. ハングルの読み・聞き練習②(パッチム無し)<br>2. 日本との交流について①(朝鮮通信使について) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 13 | 1. 基本的な会話表現①(あいさつ、自己紹介)<br>2. 日本との交流について②(近代から現代まで) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 14 | 1. 基本的な会話表現②(家族の紹介)<br>2. 日本との交流について③(地域ごとの交流について) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |
| 15 | 1. 基本的な会話表現③(食事する時)<br>2. 在日韓国人・朝鮮人について | 授業内容についてインターネットで前回の配布資料とノートを読み直す<br>調べる | 配布資料とノートを読み直す<br>授業内容についてインターネットで調べる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000026002 海外事情（中国文化） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

①中国の文化、習慣など、広範な内容を通して、中国に対する理解を深める。
②中国文化と日本文化の違いなどを、ディスカッションやワークショップを通じて表現する力を養う。

## 授業概要(教育目的)

日本は中国と一衣帯水の国であり、両国の交流は古代より頻繁に行われている。近年、日本を訪れる中国人観光客や、日本の教育機関で学ぶ留学生は増加する一方である。国際化社会の中では、いかに相手の国の文化、そして習慣を理解しながら、円滑にコミュニケーションを取れるのかが重要視されている。本講義は中国の大学生とオンライン交流を交えつつ、中国の文化について様々な視点から学び、思考を深める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

授業態度、発表やレポートを総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

発表やレポートなどの取組みに対してアドバイスを行う。

## 参考文献

授業時に指示する。

## 講義時使用テキスト

教科書は基本的に使用しない。パワーポイント、視覚教材などを使用する。必要に応じてプリントを配布。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

中国に興味をお待ちの方大歓迎。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 中国の 概況①<br>地理、気候、民族、文化の 背景を 知る<br>2. ゲームを 通じて 中国語を 学ぼう | 中国についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 2 | 1. 中国の 概況②<br>中国の 都市を 知る<br>2. グループワーク | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 3 | 1. 中国の 社会・人文科学①<br>政治、経済を 知る<br>2. グループワーク | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 4 | 1. 中国の 社会・人文科学②<br>中国の 教育システムを 知る<br>2. グループワークまたは 文化体験 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 5 | 1. 中国人の 生活①<br>中国の 年中行事と 生活習慣を 知る<br>2. グループワークまたは 文化体験 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 6 | 1. 中国人の 生活②<br>中国人の 食文化を 知る<br>2. グループワークまたは 文化体験 | 授業内容についてインターネットで 調べ、準備する | 授業の内容とポイントを整理する |
| 7 | 中国人の 生活③<br>1. 中国の 服飾文化を 知る<br>2. 漢服体験 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 8 | 1. 中国の 科学技術<br>中国の 四大発明を 知る<br>2. グループワークまたは 文化体験 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 9 | 1. 中国の 社会システム<br>中国医学、健康法を 知る<br>2. グループワークまたは 文化体験 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 10 | 1. 中国の 伝統・芸能①<br>中国の 伝統スポーツを 知る<br>2. 中国の 伝統スポーツを 体験 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 11 | 中国の 伝統・芸能②<br>1. 中国の 茶文化を 知る<br>2. 茶芸を 体験 | 授業内容についてインターネットで 調べ、準備する | 授業の内容とポイントを整理する |
| 12 | 1. 中国人の 対人関係を 知る<br>2. グループワークまたは 文化体験 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 13 | 映画からみる現代中国 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |
| 14 | 1. SNSなどから見る中国の 流行りの 文化<br>2. グループワーク | 授業内容についてインターネットで 調べ、準備する | 授業の内容とポイントを整理する |
| 15 | 1. 中国文化と 日本文化の 相違点<br>2. ゲームまたは 文化体験 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業の内容とポイントを整理する |

| 講義名 | 1000026003 海外事情（タイ文化） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 横田　将志 | | |

## 学習目標(到達目標)

①タイの社会や文化について理解を深め、説明できるようになる。
②日本はタイからどのように見られているのかについて知り、自らの暮らす社会を客観的に把握できる能力を獲得する。
③国際社会で求められるコミュニケーション・スキルとコモンセンスを身につける。

## 授業概要(教育目的)

タイは、日本人が観光やビジネスで最も頻繁に行き来する国の1つである。近年は、日本に訪れるタイ人の数も急激に増えつつある。しかしながら、日本では、タイに誤ったイメージを抱く人々がいまだに多くいる。一方のタイにおいては、アニメをはじめとする日本のポップカルチャーが広く浸透し、日本に興味・関心を抱く人々が数多く存在するが、実際の日本社会を正確に把握・理解している者はまだ少ない。この授業では、これらの点を踏まえて、ワークショップなども行いつつ、日本とタイの相互理解を深めていく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

授業中に実施する課題等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

授業のなかでICT機器を用いて実施するアンケートや理解度確認のためのミニレポートについては、リアルタイム、もしくは次の授業で結果を紹介したり、特徴的な意見に対してフィードバックしたりする。

## 参考文献

授業の中で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

なし

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

例年2月もしくは3月に実施している本学の「海外研修(タイ・チェンマイ)」への参加や将来的なタイへの(短期)留学を考えている者の履修を歓迎する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | タイを学ぶ意義 | タイについて興味や関心をもつ | 授業の内容と論点を整理する |
| 2 | タイのイメージの整理 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 3 | タイの人々の特徴 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 4 | タイの大学と学生生活 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 5 | タイの王室とその役割 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 6 | タイの歴史 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 7 | タイと仏教 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 8 | タイ経済と日本 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 9 | タイ政治の特徴と課題 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 10 | タイの地方自治 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 11 | OTOP(One Tambon One Product) | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 12 | タイにおけるマイノリティー(少数民族、LGBTQ等) | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 13 | タイと周辺国との関係 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 14 | 料理から見るタイの多様性 | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |
| 15 | タイから得られる日本へのインプリケーション | 授業内容について本やインターネットで調べる | 授業の内容と論点を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000027000 自然科学概論（Aクラス） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 村本　論 | | |

## 学習目標(到達目標)

物理学・化学・生物学の基礎を理解し、物理学・化学・生物学の統合された自然科学で生物を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

生物の特徴はその多様性と統一性の両面に見られる。生物体内では絶えず化合と分解の化学変化が行われ、生物体とそれをとりまく外部環境との間には物質の循環がみとめられる。物質の循環は化学変化であるが、光のエネルギーが大きな働きをなす。太陽のエネルギーが姿をかえて、生物体内の化学変化を酵素の存在のもとに行っている。また、機械的な仕事、熱、光、電気、化学現象間はエネルギー概念により結びつけられた。
生命現象を理解するために、これらの自然科学(生物学、化学、物理学)の基礎を理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

受講態度と定期試験を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

講義において随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

高等学校「生物　BIOLOGY」第一学習社

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 自然科学概論とは | 自然界の成り立ちとこれを支配する法則を調べる。 | 人類の直面する諸問題の論点を整理する。 |
| 2 | 生物の基本概念と基本構造 | 生命体の基本的属性を調べる。 | 生物の多様性と生命の斉一性を理解する。 |
| 3 | 生物の増殖 | 生物の増殖について調べる。 | 生物としての増殖には無性生殖と有性生殖があることを理解する。 |
| 4 | 生命と水 | 生命活動に重要な水の性質を調べる。 | 生命現象を水との関わりで理解する。 |
| 5 | タンパク質 | タンパク質の構造と機能について調べる。 | タンパク質を機能から整理する。 |
| 6 | 糖質 | 生命活動のエネルギー源としての糖質について調べる。 | 糖質のエネルギー代謝を理解する。 |
| 7 | 脂質 | 水に溶けない脂質の役割を調べる。 | エネルギー源、生体膜成分等の脂質の役割を整理する。 |
| 8 | 核酸と遺伝子 | 核酸の構造と機能を調べる。 | 遺伝子の本体としての核酸の構造を理解する。 |
| 9 | 細胞 | 生命活動の最小単位としての細胞について調べる。 | 細胞の構造と機能を理解する。 |
| 10 | 遺伝子DNA | 遺伝子の本体のDNAの構造と遺伝情報の関係を調べる。 | DNAの二重らせん構造と遺伝情報について理解する。 |
| 11 | 遺伝情報の発現 | 遺伝情報はタンパク質となり機能する。その仕組みを調べる。 | 遺伝情報の発現の仕組みを理解する。 |
| 12 | 遺伝情報の翻訳 | 遺伝情報をタンパク質に翻訳する仕組みを調べる。 | 遺伝情報の翻訳の仕組みを理解する。 |
| 13 | 生物学的存在としての人間① | 人間は周囲の環境と影響し合って生きている。その仕組みを調べる。 | 人間の生命活動を整理する。 |
| 14 | 生物学的存在としての人間② | 60兆個の細胞からなる人間の生体内の恒常性を調べる。 | 動的平衡で生体内の恒常性を保つ仕組みを理解する。 |
| 15 | 生命誕生 | 生命誕生について調べる。 | 受精から生命誕生までの仕組みを整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000027001 自然科学概論（Bクラス） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 村本　論 | | |

## 学習目標(到達目標)

物理学・化学・生物学の基礎を理解し、物理学・化学・生物学の統合された自然科学で生物を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

生物の特徴はその多様性と統一性の両面に見られる。生物体内では絶えず化合と分解の化学変化が行われ、生物体とそれをとりまく外部環境との間には物質の循環がみとめられる。物質の循環は化学変化であるが、光のエネルギーが大きな働きをなす。太陽のエネルギーが姿をかえて、生物体内の化学変化を酵素の存在のもとに行っている。また、機械的な仕事、熱、光、電気、化学現象間はエネルギー概念により結びつけられた。
生命現象を理解するために、これらの自然科学(生物学、化学、物理学)の基礎を理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

受講態度と定期試験を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

講義において随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

高等学校「生物　BIOLOGY」第一学習社

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 自然科学概論とは | 自然界の成り立ちとこれを支配する法則を調べる。 | 人類の直面する諸問題の論点を整理する。 |
| 2 | 生物の基本概念と基本構造 | 生命体の基本的属性を調べる。 | 生物の多様性と生命の斉一性を理解する。 |
| 3 | 生物の増殖 | 生物の増殖について調べる。 | 生物としての増殖には無性生殖と有性生殖があることを理解する。 |
| 4 | 生命と水 | 生命活動に重要な水の性質を調べる。 | 生命現象を水との関わりで理解する。 |
| 5 | タンパク質 | タンパク質の構造と機能について調べる。 | タンパク質を機能から整理する。 |
| 6 | 糖質 | 生命活動のエネルギー源としての糖質について調べる。 | 糖質のエネルギー代謝を理解する。 |
| 7 | 脂質 | 水に溶けない脂質の役割を調べる。 | エネルギー源、生体膜成分等の脂質の役割を整理する。 |
| 8 | 核酸と遺伝子 | 核酸の構造と機能を調べる。 | 遺伝子の本体としての核酸の構造を理解する。 |
| 9 | 細胞 | 生命活動の最小単位としての細胞について調べる。 | 細胞の構造と機能を理解する。 |
| 10 | 遺伝子DNA | 遺伝子の本体のDNAの構造と遺伝情報の関係を調べる。 | DNAの二重らせん構造と遺伝情報について理解する。 |
| 11 | 遺伝情報の発現 | 遺伝情報はタンパク質となり機能する。その仕組みを調べる。 | 遺伝情報の発現の仕組みを理解する。 |
| 12 | 遺伝情報の翻訳 | 遺伝情報をタンパク質に翻訳する仕組みを調べる。 | 遺伝情報の翻訳の仕組みを理解する。 |
| 13 | 生物学的存在としての人間① | 人間は周囲の環境と影響し合って生きている。その仕組みを調べる。 | 人間の生命活動を整理する。 |
| 14 | 生物学的存在としての人間② | 60兆個の細胞からなる人間の生体内の恒常性を調べる。 | 動的平衡で生体内の恒常性を保つ仕組みを理解する。 |
| 15 | 生命誕生 | 生命誕生について調べる。 | 受精から生命誕生までの仕組みを整理する。 |

| 講義名 | 1000028000 数学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 田村　正文 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の項目を到達目標とする。
授業で扱った内容について説明できる。
卒業論文や卒業研究など分析を行う際に、授業で扱った内容を応用できる。

## 授業概要(教育目的)

この授業では、大学の一般教養課程としての基礎的な内容について講義を行う。授業の内容としては、いわゆる「線形代数学」と「解析学」に分類される内容を中心に講じる。とくに、各学部、各学科ともに2年次以降に開講されている「統計学」あるいは「統計的分析」に用いられている公式やそれを導くための根底にある数学的基礎を扱う。
さらには高校までの数学とは異なり、問題を解くのではなく、与えられた条件に対してそれを一般的に成立することを示す内容となる。つまり問題を「解く」のではなく「考える」授業である。本授業の最終的な内容としては、学習目標(到達目標)に記載したとおりであるが、より具体的には以下の通りである。
① 大学での一般教養程度の数学の内容を理解する(例えば、代数と解析の違いを理解できる)。
② 線形代数で扱った内容をデータ分析などに活用できる。
③ 解析で扱った内容について、統計的公式などを導く際に活用できる。
これらを、本講義の最終的な到達地点とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

定期試験(100%)によって評価する。

## 課題に対するフィードバック

質問などがあれば、個別に対応する。

## 参考文献

必要に応じて適宜指示するが、授業内容の参考になるものとして以下を上げる。
矢崎成俊 『大学数学の教則』, ちくま学芸文庫.
松阪和夫 『線型代数入門』, 岩波書店.
原岡喜重 『はじめての解析学』, 講談社ブルーバックス.

## 講義時使用テキスト

使用しない.
講義資料を配布し、それに基づき行う。

## 資格との関連

特定の資格には結びつかないものの、各種試験などの計算問題(例えば公務員試験の経済学、数的処理など)をはじめ、各種検定(数学検定、統計学検定)などを計算が求められる受験科目の基礎を提供する。

## 実務との関連

## 学生へのメッセージ

大学での数学は、その考え方(論理性)が重要になる。中学校や高校までの数学と異なり、計算し、その解(答え)を求めることが必ずしも重要なのではないことを初めに理解しておくこと(高校までの数学の計算問題よりも証明問題に力点を置いた授業の内容と進め方とイメージすればよいだろう)。
数学に限らずどの科目にも言える事であるが、遅刻等をせずに講義に臨むこと。
予習、復習とくに復習は欠かさず行うこと。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | この授業の全体のアウトライン。<br>行列の基本(行と列、対角成分、正方行列) | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。<br>この授業専用のノートとファイルを用意する。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 2 | 行列の演算(四則演算) | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 3 | 逆行列・単位行列<br>ケリー・ハミルトンの公式 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 4 | 行列と行列式の違い<br>行列式の演算(2行2列) | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 5 | 行列式の演算(3行3列)<br>サラスの方法<br>余因子展開 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 6 | 行列を用いた連立方程式の解法<br>クラーメルの公式 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 7 | 行列の固有値と写像 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 8 | 解析の基本事項<br>関数の連続と無限、平均変化率、極限 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 9 | 微分可能性と$\varepsilon-\delta$法<br>導関数と微分係数 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 10 | 指数関数や対数関数の微分<br>高次関数の微分<br>三角関数の微分 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 11 | 2変数の以上の微分(偏微分)<br>最適化 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 12 | 積分の基本事項<br>原始積分と区間積分 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 13 | 重積分と線積分 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 14 | 微分方程式の基礎事項 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |
| 15 | 授業内容の他分野との関わり<br>数学と情報理論<br>数学と統計学 | 事前に配布している授業の資料を予めダウンロードし目を通しておく。 | 授業の内容についてのノートなどを整理する。<br>練習問題に取り組む。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000029000 スポーツの科学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
1. 現代社会におけるスポーツの意義を説明することができる。
2. 自分自身の健康を保つためのスポーツトレーニングを実践することができる。
3. スポーツパフォーマンスを決定する原理原則を説明することができる。

## 授業概要(教育目的)

現代社会においてスポーツの持つ役割はますます重要なものとなっている。スポーツの本質を理解することは、スポーツの専門家を目指す場合だけではなく、健全な市民として身に付けるべき教養として不可欠なものであり、それは自然科学、人文科学、社会科学をはじめとする諸学問の力を借りる必要がある。本講義では、自らの心身を健康に保つため、そして生涯にわたりスポーツに親しむために必要となるスポーツの科学的知識を理解することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身に付け、教養を深め、地域経営学の基礎を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

講義への参加態度(発問への答えなど)、課題、小テストの成績から総合的に評価する。
オムニバス科目であるためそれぞれの教員の評価の総計をもって評価する。
また、原則として再試験・追試験は行わない。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。

## 参考文献

・深代千之監修「スポーツを科学しよう!：トレーニング・競技から用具まで」(PHP研究所)
・鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター編；西薗秀嗣著者代表「スポーツ選手と指導者のための体力・運動能力測定法 ：トレーニング科学の活用テクニック」(大修館書店)
・宮西智久編；岡田英孝，藤井範久著「スポーツバイオメカニクス」(化学同人)
・日本トレーニング指導者協会「トレーニング指導者テキスト」(大修館書店)

## 資格との関連

本科目は「教育職員免許法施行規則66条の6」に定められた科目の1つであり、中学校、高等学校に限らず教員免許を取得する学生は必ず履修し、修得すること。

## 学生へのメッセージ

講義会場を変更する場合があるので、掲示に注意すること。
講義科目であるが、実技を行う場合があるので掲示に注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 体力とは何か | ・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 2 | 2. 体力の測定①(握力・上体起こし・長座体前屈) | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 3 | 3. 体力の測定②(反復横跳び・立ち幅跳び) | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 4 | 4. 体力の測定③(50m走・ハンドボール投げ) | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 5 | 5. 体力の測定④(20mシャトルラン) | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 6 | 6. 体力評価の方法 | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 7 | 7. スポーツと科学の関わり | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 8 | 8. 体力を高める方法 | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 9 | 9. トレーニングへの体力測定の活用 | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 10 | 10. トレーニングの構成の実際 | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 11 | 11. 生涯スポーツと体力トレーニング | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 12 | 12. 運動生理学の基礎①運動と呼吸循環器系・エネルギー代謝 | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 13 | 13. 運動生理学の基礎②運動と骨格系・神経系・内分泌系 | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 14 | 14. スポーツのバイオメカニクス①(スポーツ力学) | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 15 | 15. スポーツのバイオメカニクス②(動作の観察) | ・参考文献の関連個所を読む。<br>・前回の講義内容を整理する。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000030001 データサイエンス入門　地域共創Aクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 埴原　啓正 | | |

## 学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

## 授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている。

## 評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

## 課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

必要に応じて適宜指示する。

## 講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 2 | 社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 3 | 社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 4 | データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 5 | データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 6 | データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 7 | データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現 )とデータの種類 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 8 | データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 9 | データリテラシー③　データのバラつき | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 10 | データリテラシー④　相関と回帰の違い | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 11 | データリテラシー⑤　データ間での因果関係 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 12 | データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 13 | データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 14 | データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 15 | データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000030002 データサイエンス入門　地域共創Bクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 埴原　啓正 | | |

## 学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

## 授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている。

## 評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

## 課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

必要に応じて適宜指示する。

## 講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 2 | 社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 3 | 社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 4 | データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 5 | データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 6 | データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 7 | データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現 )とデータの種類 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 8 | データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 9 | データリテラシー③　データのバラつき | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 10 | データリテラシー④　相関と回帰の違い | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 11 | データリテラシー⑤　データ間での因果関係 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 12 | データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 13 | データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 14 | データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 15 | データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000030003 データサイエンス入門　人間健康Aクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 埴原　啓正 | | |

## 学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

## 授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

## 課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

必要に応じて適宜指示する。

## 講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 2 | 社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 3 | 社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 4 | データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 5 | データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 6 | データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 7 | データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現 )とデータの種類 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 8 | データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 9 | データリテラシー③　データのバラつき | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 10 | データリテラシー④　相関と回帰の違い | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 11 | データリテラシー⑤　データ間での因果関係 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 12 | データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 13 | データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 14 | データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 15 | データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000030004 データサイエンス入門　人間健康Bクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 埴原　啓正 | | |

## 学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

## 授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

## 課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

必要に応じて適宜指示する。

## 講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 2 | 社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 3 | 社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 4 | データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 5 | データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 6 | データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 7 | データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現 )とデータの種類 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 8 | データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 9 | データリテラシー③　データのバラつき | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 10 | データリテラシー④　相関と回帰の違い | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 11 | データリテラシー⑤　データ間での因果関係 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 12 | データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 13 | データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 14 | データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 15 | データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000030005 データサイエンス入門　看護Aクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 埴原　啓正 | | |

## 学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

## 授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

## 課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

必要に応じて適宜指示する。

## 講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 2 | 社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 3 | 社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 4 | データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 5 | データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 6 | データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 7 | データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現 )とデータの種類 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 8 | データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 9 | データリテラシー③　データのバラつき | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 10 | データリテラシー④　相関と回帰の違い | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 11 | データリテラシー⑤　データ間での因果関係 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 12 | データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 13 | データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 14 | データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 15 | データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000030006 データサイエンス入門　看護Bクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 埴原　啓正 | | |

## 学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

## 授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

## 課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

必要に応じて適宜指示する。

## 講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 2 | 社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 3 | 社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 4 | データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 5 | データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 6 | データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 7 | データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現 )とデータの種類 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 8 | データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 9 | データリテラシー③　データのバラつき | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 10 | データリテラシー④　相関と回帰の違い | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 11 | データリテラシー⑤　データ間での因果関係 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 12 | データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 13 | データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 14 | データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 15 | データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000030007 データサイエンス入門　人間健康Cクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 埴原　啓正 | | |

## 学習目標(到達目標)

この授業の到達点として、以下が挙げられる。
1. AIやDXなど現代の情報用語を適切に説明できる。
2. 情報科学とデータ分析について説明でき、かつ活用することができる。
3. 地域経営学部では、統計学や経営情報論、人間健康学部では心理統計学、保健統計学、疫学などのデータを扱う上位科目で、この授業で得られた知識を活用し応用できる。

## 授業概要(教育目的)

現在の情報化社会の進展や人々の生活の多様性を理解するにおいてデータ分析の果たす役割は大きい。とりわけエビデンスという用語に集約されるように、データに基づく客観的判断や判断根拠が重要視されている。さらにAIやDXに代表されるように、我が国全体としてデジタル化がより一層推進されている。

そのような社会的現状を踏まえて本授業では、データの科学的分析、情報化社会の進展とデータ役割の基礎的内容について、情報科学とデータ分析の関係について講じる。

本科目では、近年の情報化社会、デジタル社会において様々なデータを適切な科学的方法で分析できる基本的考えを身につけるとともに、現代社会における情報科学のリテラシーを習得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト、演習課題等により総合的に評価する

## 課題に対するフィードバック

次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

必要に応じて適宜指示する。

## 講義時使用テキスト

教科書は使用しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

・情報処理基礎をはじめ情報関連の科目、数学などの自然科学の分野を併せて履修することが望ましい。
・情報化社会は現在の私たちが生活している中で着々と進展していることから、情報やデータがどのように生活に関わっているか意識することが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | データサイエンスとは(AI・データサイエンスを学ぶ重要性) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 2 | 社会で起きている変化を知る(Society5.0・AI・Iot・ビックデータ・5G) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 3 | 社会で活用されているデータ(リサーチ(調査)データ・観測データ・実験データ・ログデータ・オープンデータ等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 4 | データとAI活用領域(データ・AIを何につかえるのか：デジタルサイネージ・ワントゥワンマーケティング等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 5 | データとAI利活用のための技術(AIの歴史と定義・AIができること・機械学習と深層学習等) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 6 | データとAIの活用現場と最前線(データ・AIを活用することによって、どのような価値が生まれているか活用事例から学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 7 | データリテラシー①　データ活用のプロセス(目的設定-データ収集-分析-考察-表現 )とデータの種類 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 8 | データリテラシー②　データの分布と代表値とその意味 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 9 | データリテラシー③　データのバラつき | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 10 | データリテラシー④　相関と回帰の違い | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 11 | データリテラシー⑤　データ間での因果関係 | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 12 | データリテラシー⑥　アンケート調査結果の集計・解釈演習(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 13 | データリテラシー⑦　アンケート調査結果の集計・解釈演習(テキストマイニング解析含む)(実データ検討) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 14 | データ・AIを扱う留意事項(データ活用の負の側面・関連法制度・AI倫理・ELSIについて学ぶ) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |
| 15 | データを守る(個人情報を守るための自己防衛策について学ぶ・AI導入による負の事例調査を行う) | WebClassにアップロードしている授業用スライド・参考資料を読んでおくこと。 | 授業の内容について整理し、不明な点があれば、参考図書、Webサイト等を利用して確認しておくこと。 |

| 講義名 | 1000031000 言語学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | バリー・H・グロスマン | | |

## 学習目標(到達目標)

Welcome to the fascinating world of language! This course will explore how languages work, from the sounds we make to the complex meanings in social situations . We'll crack the code of human communication and discover the science of language.

## 授業概要(教育目的)

Course Objectives:

* Understand the basic building blocks of language: sounds, words, sentences, and meaning.
* Explore different subfields of linguistics: phonetics, phonology, morphology, syntax, semantics, and pragmatics.
* Analyze language patterns and see how meaning is created.
* Appreciate the diversity of languages around the world.
* Develop critical thinking and problem-solving skills through language analysis.

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている」(地域経営学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている」(人間健康学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している」(看護学科)。

## 評価方法

An average of each of the following will determine your class grade:

1.Homework
2.Class Assignments
3.Short Tests

## 課題に対するフィードバック

Feedback is provided throughout the course in various ways: one-on-one discussions, classwork and homework results feedback, and short test results feedback.

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

* None: Readings and online resources will be shared throughout the course.

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

This class will be conducted entirely in English.

In order for classes to proceed smoothly, you are expected to read the class materials before each related class.

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | What is Language? #1<br>* Defining Language: What makes human language unique?<br>* Universals of Language: Features shared by most languages. | Introductions | Next week Preview |
| 2 | What is Language? #2<br>* Defining Language: What makes human language unique?<br>* Universals of Language: Features shared by most languages. | Warm-up Activity | Closing Activity |
| 3 | Sounds & Systems #1<br>(Phonetics & Phonology)<br>* Unveiling the Sounds of Speech: How we produce and hear sounds.<br>* Organizing Sounds: How sounds combine to form words in a language. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 4 | Sounds & Systems #2<br>(Phonetics & Phonology)<br>* Unveiling the Sounds of Speech: How we produce and hear sounds.<br>* Organizing Sounds: How sounds combine to form words in a language. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 5 | Word Parts & Building #1<br>(Morphology)<br>* Morphemes: The building blocks of words.<br>* Word Formation: How prefixes, suffixes, and roots create new words. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 6 | Word Parts & Building #2<br>(Morphology)<br>* Morphemes: The building blocks of words.<br>* Word Formation: How prefixes, suffixes, and roots create new words. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 7 | Sentence Structure #1<br>(Syntax)<br>* Putting Words Together: How sentences are formed and understood.<br>* Parts of Speech: Knowing nouns, verbs, adjectives, and more. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 8 | Sentence Structure #2<br>(Syntax)<br>* Putting Words Together: How sentences are formed and understood.<br>* Parts of Speech: Knowing nouns, verbs, adjectives, and more. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 9 | Meaning Making #1<br>(Semantics)<br>* Words & Meanings: Exploring different types of meaning.<br>* Ambiguity & Context: How words change meaning depending on situations. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 10 | Meaning Making #1<br>(Semantics)<br>* Words & Meanings: Exploring different types of meaning.<br>* Ambiguity & Context: How words change meaning depending on situations. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 11 | Beyond Words #!<br>(Pragmatics)<br>* Communication & Context: Understanding the speaker, listener, and situation.<br>* Implicature & Presupposition: What's meant but not said. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 12 | Beyond Words #2<br>(Pragmatics)<br>* Communication & Context: Understanding the speaker, listener, and situation.<br>* Implicature & Presupposition: What's meant but not said. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 13 | Language Around the World #1<br>* Language Families & Diversity: Exploring the connections between languages.<br>* How Languages Change Over Time: The evolution of languages through history. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 14 | Language Around the World #2<br>* Language Families & Diversity: Exploring the connections between languages.<br>* How Languages Change Over Time: The evolution of languages through history. | Previous Week Review | Closing Activity |
| 15 | Language & Society<br>*Language & Culture: How language shapes our worldview.<br>* Language & Identity: Exploring dialects and social variations in language. | Previous Week Review | Closing Activity |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 講義名 | 1000032000 ドイツ語Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000032001 ドイツ語Ⅰ（地域共創） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 髙須　則行 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

## 参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

## 講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ(第2版)』朝日出版社
副教材としてプリントを配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 春学期「ドイツ語」の要点整理 | 春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す | 授業の内容を整理する |
| 2 | 動詞の3基本形<br>現在完了<br>お名前は？ | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 3 | 昨日・今日・明日<br>休暇旅行<br>「何をしたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 過去<br>再帰動詞と再帰代名詞<br>オクトーバーフェスト | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | こんにちは<br>オペラ鑑賞<br>「どこにいたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 形容詞・副詞の比較<br>関係代名詞<br>レストランにて | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 受動形<br>反対語のいろいろ<br>ホテルに宿泊 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 接続法<br>「～がほしいのですが」<br>誕生パーティー | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | いくらですか？<br>マンガ文化 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | ハンザ都市リューベック<br>環境首都フライブルク | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 結婚式の写真<br>外国人労働者 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | ポツダム広場へ<br>食習慣 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | どこへ行くの？<br>ノイシュヴァンシュタイン城 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 路上にて<br>アウシュヴィッツ | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 道案内<br>ビールの話 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

| 講義名 | 1000032002 ドイツ語Ⅰ（人間健康） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化ができる。
3　冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

## 参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田　健監修『ニューエクスプレス・スペシャル　ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

## 講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。

この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。

ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。

これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。

ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 世界の言語とドイツ語<br>アルファベート<br>つづりと発音<br>あいさつ<br>曜日、月 | 世界地図または地球儀を見る | 授業の内容を整理する<br>発音練習をする |
| 2 | 人称代名詞と動詞の現在人称変化<br>最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have)<br>語順<br>ja(英:yes)とnein(英:no) | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>発音練習をする |
| 3 | さまざまな疑問詞<br>自己紹介 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 名詞の性、冠詞<br>定冠詞と名詞の格変化<br>不定冠詞と名詞の格変化<br>格の用法 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | 職業名・専攻名のいろいろ<br>趣味はManga | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 不規則動詞の現在人称変化<br>命令形 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 人称代名詞の格変化<br>人称代名詞の3格と4格<br>「～しよう」<br>フランクフルト中央駅で | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 名詞の複数形<br>定冠詞類<br>不定冠詞類<br>否定冠詞kein | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | 身につけるもの、家族<br>買い物<br>「～はいくらですか」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | 前置詞の格支配<br>従属の接続詞と副文<br>非人称のes | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 時刻の言い方<br>チューリヒの町で<br>「～はどこにありますか」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | 話法の助動詞<br>分離動詞 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | 映画を見に行きたい<br>「～したい」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 形容詞の格変化<br>zu不定詞 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 「どんな種類の？」「どのような？」<br>わたしのねがい | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

| 講義名 | 1000032003 ドイツ語Ⅰ（看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 髙須 則行 | | |

## 学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化ができる。
3 冠詞類の格変化ができる。
4 ドイツ語で自己紹介し、簡単な手紙を書くことができる。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初歩を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する。

## 講義時使用テキスト

小野寿美子／中川明博／西巻丈児
『クロイツング・ネオ(第2版)』
朝日出版社

## 参考文献

黒田龍之助『はじめての言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
黒田龍之助『にぎやかな外国語の世界』白水社
町田 健監修『ニューエクスプレス・スペシャル ヨーロッパのおもしろ言語』白水社

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

ドイツ(連邦共和国)はヨーロッパ大陸の中央部に位置して、9つの国と国境を接しています。ドイツ語は、ドイツはもちろんオーストリアとリヒテンシュタインの唯一の公用語であり、スイス、ルクセンブルクでは公用語の一つです。

この授業では初級ドイツ語を学びます。(1)アルファベートから始めて、(2)文を作る基本的なルール(＝文法)を理解し、(3)多くの平易な文章に触れ、(4)ドイツ語圏の文化や歴史にも目を向けるのが目標です。

ドイツ語の読み方は容易です。(1)ローマ字を読む要領で、(2)語の最初の母音にアクセントを置き、(3)アクセントのある母音は、うしろに子音が一つの場合に長く、子音が二つ以上続く場合に短く読むのが原則です。

これまで英語に馴染んできた目には複雑そうに映るかもしれない文法も、要点は(1)主語に応じて動詞の語尾が定まること(＝人称変化)、(2)名詞の前に付けられる冠詞(類)が、その名詞の文中での役割を明示するために語尾を変えること(＝格変化)の二つに過ぎません。とは言っても、語学は結局のところ覚えなければ何ものでもありません。語彙は少しずつ増やしていきましょう。

ドイツ語を学ぶことで、未知の世界への扉がまた一つ開くことになればと願っています。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 世界の言語とドイツ語<br>アルファベート<br>つづりと発音<br>あいさつ<br>曜日、月 | 世界地図または地球儀を見る | 授業の内容を整理する<br>発音練習をする |
| 2 | 人称代名詞と動詞の現在人称変化<br>最重要動詞sein(英:be)とhaben(英:have)<br>語順<br>ja(英:yes)とnein(英:no) | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>発音練習をする |
| 3 | さまざまな疑問詞<br>自己紹介 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 名詞の性、冠詞<br>定冠詞と名詞の格変化<br>不定冠詞と名詞の格変化<br>格の用法 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | 職業名・専攻名のいろいろ<br>趣味はManga<br>「～するのが好きです」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 不規則動詞の現在人称変化<br>命令形 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 人称代名詞の格変化<br>3格目的語と4格目的語の語順<br>「～しよう」<br>フランクフルト中央駅で | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 名詞の複数形<br>定冠詞類<br>不定冠詞類<br>否定冠詞kein | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | 身につけるもの、家族<br>買い物<br>「～はいくらですか」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | 前置詞の格支配<br>従属の接続詞と副文<br>非人称のes | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 時刻の言い方<br>チューリヒの町で<br>「～はどこにありますか」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | 話法の助動詞<br>分離動詞 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | 映画を見に行きたい<br>「～したい」 | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 形容詞の格変化<br>zu不定詞(句) | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 「どんな種類の？」「どのような？」<br>わたしのねがい | テキストの該当箇所を読む<br>練習問題を解く | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000033000 ドイツ語Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|

| 講義名 | 1000033001 ドイツ語Ⅱ（地域共創） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 髙須 則行 | | |

## 学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3 日常生活で多用される基本表現を使える。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

## 参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツ－その文化・歴史・社会』郁文堂

## 講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 春学期「ドイツ語」の要点整理 | 春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す | 授業の内容を整理する |
| 2 | 動詞の3基本形<br>現在完了<br>お名前は？ | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 3 | 昨日・今日・明日<br>休暇旅行<br>「何をしたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 過去<br>再帰動詞と再帰代名詞<br>オクトーバーフェスト | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | こんにちは<br>オペラ鑑賞<br>「どこにいたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 形容詞・副詞の比較<br>関係代名詞<br>レストランにて | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 受動形<br>反対語のいろいろ<br>ホテルに宿泊 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 接続法<br>「～がほしいのですが」<br>誕生パーティー | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | いくらですか？<br>マンガ文化 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | ハンザ都市リューベック<br>環境首都フライブルク | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 結婚式の写真<br>外国人労働者 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | ポツダム広場へ<br>食習慣 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | どこへ行くの？<br>ノイシュヴァンシュタイン城 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 路上にて<br>アウシュヴィッツ | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 道案内<br>ビールの話 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000033002 ドイツ語Ⅱ（人間健康） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　発音できる。
2　動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3　日常生活で多用される基本表現を使える。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

## 参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

## 講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 春学期「ドイツ語」の要点整理 | 春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す | 授業の内容を整理する |
| 2 | 動詞の3基本形<br>現在完了<br>お名前は？ | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 3 | 昨日・今日・明日<br>休暇旅行<br>「何をしたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 過去<br>再帰動詞と再帰代名詞<br>オクトーバーフェスト | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | こんにちは<br>オペラ鑑賞<br>「どこにいたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 形容詞・副詞の比較<br>関係代名詞<br>レストランにて | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 受動形<br>反対語のいろいろ<br>ホテルに宿泊 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 接続法<br>「～がほしいのですが」<br>誕生パーティー | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | いくらですか？<br>マンガ文化 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | ハンザ都市リューベック<br>環境首都フライブルク | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 結婚式の写真<br>外国人労働者 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | ポツダム広場へ<br>食習慣 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | どこへ行くの？<br>ノイシュヴァンシュタイン城 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 路上にて<br>アウシュヴィッツ | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 道案内<br>ビールの話 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000033003 ドイツ語Ⅱ（看護） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 髙須 則行 | | |

## 学習目標(到達目標)

1 発音できる。
2 動詞の現在人称変化と冠詞類の格変化ができる。
3 日常生活で多用される基本表現を使える。

## 授業概要(教育目的)

ドイツ語の初級文法を踏まえながら、日常生活に必要な基本的な語彙と表現を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している。

## 評価方法

定期試験と小テスト等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

小テストと中間試験は採点の上返却する

## 参考文献

黒田龍之助『はじめて言語学』講談社現代新書
福本義憲『はじめてのドイツ語』講談社現代新書
高橋憲『最新版 ドイツの街角から 素顔のドイツーその文化・歴史・社会』郁文堂

## 講義時使用テキスト

春学期「ドイツ語」のテキスト（小野寿美子／中川明博／西巻丈児『クロイツング・ネオ（第2版）』朝日出版社）を引き続き使用し、副教材としてプリントを配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 春学期「ドイツ語」の要点整理 | 春学期「ドイツ語」の学習範囲に目を通す | 授業の内容を整理する |
| 2 | 動詞の3基本形<br>現在完了<br>お名前は？ | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 3 | 昨日・今日・明日<br>休暇旅行<br>「何をしたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 4 | 過去<br>再帰動詞と再帰代名詞<br>オクトーバーフェスト | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 5 | こんにちは<br>オペラ鑑賞<br>「どこにいたの？」 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 6 | 形容詞・副詞の比較<br>関係代名詞<br>レストランにて | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 7 | 受動形<br>反対語のいろいろ<br>ホテルに宿泊 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 8 | 接続法<br>「～が欲しいのですが」<br>誕生パーティー | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 9 | いくらですか？<br>マンガ文化 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 10 | ハンザ都市リューベック<br>環境首都フライブルク | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 11 | 結婚式の写真<br>外国人労働者 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 12 | ポツダム広場へ<br>食習慣 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 13 | どこへ行くの？<br>ノイシュヴァンシュタイン城 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 14 | 路上にて<br>アウシュヴィッツ | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |
| 15 | 道案内<br>ビールの話 | テキストの該当箇所を読む<br>発音練習をする | 授業の内容を整理する<br>ドイツ語例文を繰り返し読む |

| 講義名 | 1000034000 韓国語 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 金　善旭 | | |

## 学習目標(到達目標)

本講義の学習目標は、韓国語の基本的な文字(ハングル)の構成や基礎的な文法、そして日常生活で使われる様々な表現などについて学習することで、受講生の韓国語能力を向上させることを目標とする。そのために、まずは、音素文字であるハングルの母音・子音を正確に読み書きできることを学習目標とする。次に、基礎語彙を身につけ、簡単な文章についても読み書きできることを学習目標とする。さらには、簡単なあいさつ表現および日常生活に使われる表現などについて学習し、受講生の韓国語能力の向上に努める。

## 授業概要(教育目的)

本講義では、基礎的な韓国語の文字・文法・表現などについて説明し、受講生の理解を深めるために、実際の発音練習および書く練習を積極的に行う。まず、内容について易しく説明し、その後、実際に書きながら、発音の練習をする。受講生の人数によっては、グループを作成し、その中でお互い話し合う時間も作りたいと考えている。外国語の学習においては、とにかく目と耳がなれることが大事であるため、なるべく発音する時間と聞く時間を確保しながら講義を進めていきたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、ビジネスに必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている(地域経営学科)。豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している(人間健康学科、看護学科)。

## 評価方法

本講義の評価は、授業毎のワークシートと定期試験により評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

『世宗学院 韓国語入門』世宗学院財団
https://nuri.iksi.or.kr/front/cms/contents/layout2/learningsejong/detail.do

## 講義時使用テキスト

レジュメ配布

## 資格との関連

韓国語能力試験(TOPIK)や「ハングル」能力検定試験の資格を受験する基礎になる。

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 韓国語とハングルについて 理解すること。 | 参考文献の関連個所を読む | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 2 | 基本母音を 理解して使用する。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 3 | 平音を理解して使用する。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 4 | 激音を理解して使用する。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 5 | 硬音を理解して使用する。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 6 | 二重母音1を 理解して使用する。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 7 | 二重母音2を 理解して使用する。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 8 | パッチム1を 理解して使用する。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 9 | パッチム2を 理解して使用する。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 10 | 二重パッチムを 理解して使用する。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 11 | 連音を理解して使用する。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 12 | 簡単なあいさつと自己紹介の 表現することができる。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 13 | 数字と時刻の 読み 方と年月日・曜日などを表すことができる。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 14 | 教室でよく使う多様な表現を 理解して 使用することができる。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |
| 15 | 韓国語の様々な挨拶表現を 状況ごとに 理解して 使うことができる。 | 参考文献の 関連個所を 読む<br>前回の 配布資料とノートを 読み 直す | 参考文献の 関連個所を 読む<br>授業の内容を整理し、論点を 整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000035000 中国語 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

ゲームやロールプレイを通して、中国語の母音、子音、声調などの発音をマスターすることができる。また、中国語の基本構文などの学習を通して、名前や出身、所属、家族などについて紹介することができ、簡単な挨拶や日常会話を理解し、応用できるようになる。

## 授業概要(教育目的)

この授業は、発音や自己紹介、お誘い、レストランでの注文、買い物などの簡単な日常会話を習得することを目的としている。授業では「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能をバランスよく身につけるため、ゲームやロールプレイを活用して楽しく練習する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

成績評価は、授業中の学習状況、小テスト、期末レポートにより行います。

## 課題に対するフィードバック

その都度フィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

ライト版　中国語でコミュニケーション(沈国威・氷野善寛・小嶋美由紀・海暁芳・紅粉芳惠・阿部慎太郎 共著／朝日出版社／￥2,805／ISBN=978-4-255-45355-2)

## 資格との関連

中国語検定準4級

## 学生へのメッセージ

積極的な態度で授業に参加してください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中国語の発音：子音、母音、声調について | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 2 | 自己紹介①ー名前、出身（人称代名詞、名前の聞き方） | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 3 | 自己紹介①ー名前、出身(“是”構文の使い方) | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 4 | 自己紹介②ー所属、専攻(「動詞述語文」の使い方、指示代名詞) | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 5 | 自己紹介②ー所属、専攻(場所代名詞、疑問詞疑問文、連体修飾語を作る“的”) | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 6 | 自己紹介③ー家族について(所在を表す“在”、所有と存在を表す“有”の使い方) | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 7 | 自己紹介③ー家族について(方位詞の使い方、名詞述語文、文末助詞“了”の使い方) | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 8 | お誘い①（前置詞“在”、連動文の使い方） | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 9 | お誘い②（反復疑問文） | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 10 | お誘い③（年月日、曜日、時刻の言い方） | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 11 | レストラン①（選択疑問文） | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 12 | レストラン②（“想”と“要”の使い方、省略疑問文、数量詞の使い方） | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 13 | 買い物①（形容詞述語文、比較文の使い方） | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 14 | 買い物②（助動詞“能”と“可以”の使い方） | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |
| 15 | まとめ | シラバスの内容から判断して自己学習に努めてください。 | 学習した内容に基づき、復習してください。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000036000 人間関係論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1・2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

次の2点を到達目標とする。
1. 人間関係やコミュニケーションに関する心や行動の仕組みを知り，説明できる。
2. 円滑なコミュニケーションスキルを身につけ，日常場面でも活用できるようになる。

## 授業概要(教育目的)

学校や家庭，仕事など私たちの生活において人間関係が影響する場面は多い。現代社会ではSNS等のコミュニケーションツールの発達により，多様なコミュニケーションが可能になった一方で，良好な人間関係を構築することに課題を抱える人も少なくない。本授業では，心理学的な視点から基本的なコミュニケーションに関わる理論と，日常場面でも活用できるコミュニケーションスキルを学び，より良い人間関係のあり方を考えていく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

成績は，期末考査の点数を重視し，毎授業後のコメントシートの提出・内容，授業中の参加態度などからも総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

コメントシートへの返答は，次の授業で代表的なものをいくつか取りあげる。
期末試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

必要時，適宜講義内で提示する。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用せず，資料を配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業内でQRコードを読み取ってもらい，ワークに取り組んでもらう場合があります。
QRコードが読み取れるスマートフォンやタブレット端末等を持参してください。

## 実務との関連

心理職(公認心理師・臨床心理士)として行政の精神科デイケアに勤務。精神医療・保健福祉での実務経験をもとに，生活の場で活用できる人間関係についての知識やコミュニケーションスキルについて話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 人間関係とは | シラバスを確認する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 2 | 人間関係のはじまり(アタッチメント理論) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 3 | 人間関係のきっかけとなる要因(対人認知・対人魅力・ステレオタイプ) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 4 | 人間関係の発展と自己理解(対人関係・自己認知) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 5 | 人間関係の維持(社会的交換理論・対人葛藤) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 6 | 人間関係の変化(認知的不協和・バランス理論) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 7 | 集団の中の人間関係(同調・社会的手抜きと促進・リーダーシップ) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 8 | コミュニケーションの基礎知識 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 9 | 聴くスキル:傾聴 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 10 | 伝えるスキル:アサーション | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 11 | 捉えるスキル:リフレーミング | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 12 | 人間関係を維持するスキル①:アンガーマネジメント | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 13 | 人間関係を維持するスキル②:セルフ・ケア | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 14 | ソーシャルスキル・トレーニング | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 15 | コミュニケーション上の諸問題 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000037000 スポーツ実技Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | | 対象年次 | 1・2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000037001 スポーツ実技Ⅰ（Aクラス） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 1・2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000037002 スポーツ実技Ⅰ（Bクラス） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | | 対象年次 | 1・2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000038000 スポーツ実技Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | | 対象年次 | 1・2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

■ 各実技種目の学習を通じて、各種目の特徴を理解するとともに、「リーダーシップ・フォロワーシップ能力」を実践的に高めることができる

■ 仲間とスポーツを実践する中で、積極的に発言(ファシリテーション)し、他者とのコミュニケーションを円滑する能力を高めることができる

■ 生涯スポーツを実践していくための自己(健康)管理能力を高めることができる。

## 授業概要(教育目的)

■ スポーツ実技は、生涯スポーツ種目の定着を目指す科目である。本授業の実践的継続を通して、学習目標に記述した各種能力の獲得を目指す

■ スポーツ実技を履修した学生が、各種目の特性を理解し、生涯スポーツとして実践できるようにすること、さらに、多くの仲間と共に学ぶ中で深い社会性を磨き、特にリーダーシップ能力を涵養することを目的とする

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業態度点60%、目標達成度およびレポート40%

## 課題に対するフィードバック

テスト

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | テスト | テスト |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000038001 スポーツ実技Ⅱ（Aクラス） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 1・2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

■　各実技種目の学習を通じて、各種目の特徴を理解するとともに、「リーダーシップ・フォロワーシップ能力」を実践的に高めることができる

■　仲間とスポーツを実践する中で、積極的に発言(ファシリテーション)し、他者とのコミュニケーションを円滑する能力を高めることができる

■　生涯スポーツを実践していくための自己(健康)管理能力を高めることができる。

## 授業概要(教育目的)

■　スポーツ実技は、生涯スポーツ種目の定着を目指す科目である。本授業の実践的継続を通して、学習目標に記述した各種能力の獲得を目指す

■　スポーツ実技を履修した学生が、各種目の特性を理解し、生涯スポーツとして実践できるようにすること、さらに、多くの仲間と共に学ぶ中で深い社会性を磨き、特にリーダーシップ能力を涵養することを目的とする

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業態度点60%、目標達成度およびレポート40%

## 課題に対するフィードバック

テスト

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | テスト | テスト |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000038002 スポーツ実技Ⅱ（Bクラス） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | | 対象年次 | 1・2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

■ 各実技種目の学習を通じて、各種目の特徴を理解するとともに、「リーダーシップ・フォロワーシップ能力」を実践的に高めることができる

■ 仲間とスポーツを実践する中で、積極的に発言(ファシリテーション)し、他者とのコミュニケーションを円滑する能力を高めることができる

■ 生涯スポーツを実践していくための自己(健康)管理能力を高めることができる。

## 授業概要(教育目的)

■ スポーツ実技は、生涯スポーツ種目の定着を目指す科目である。本授業の実践的継続を通して、学習目標に記述した各種能力の獲得を目指す

■ スポーツ実技を履修した学生が、各種目の特性を理解し、生涯スポーツとして実践できるようにすること、さらに、多くの仲間と共に学ぶ中で深い社会性を磨き、特にリーダーシップ能力を涵養することを目的とする

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業態度点60%、目標達成度およびレポート40%

## 課題に対するフィードバック

テスト

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス | テスト | テスト |

| 講義名 | 1000039000 防災と危機管理 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1・2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 井上　丹 | | |

## 学習目標(到達目標)

自然災害について基礎的知識を身につけることで、自らの防災力向上につなげるとともに、周囲の安全確認や事前対策ができるようになる。

## 授業概要(教育目的)

近年多発している自然災害や今後起こり得る自然災害から、人々の生命や財産を守るためには、防災に関する知識を身につけ、共有していく必要がある。本講義では、自然災害の発生のメカニズム、被害想定、災害情報の入手方法、自治体や地域における対策について理解する。そして安心安全なまちづくりに向けて、防災意識を高めるだけでなく、自助・共助・協働による活動を推進できるよう、授業中では学生同士による積極的な意見交換を行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す、ITを用いる」ことを反復し、基本的な地域経営学の基礎と深い教養を修め、豊かな人間性と高い倫理感を身につけている」(地域経営学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけている」(人間健康学科)、「豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力、行動力、コミュニケーション能力を身につけ、地域の文化や特性について理解している」(看護学科)。

## 評価方法

①筆記試験60%:学期末の定期試験期間に実施(持ち込み不可)
②リアクションペーパー40%:毎回配布し授業中に取り組み、最後にWebclassで提出

## 課題に対するフィードバック

・リアクションペーパーについては、次回の授業でポイントを復習する
・期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

## 参考文献

2024年度版『防災士教本』認定特定非営利活動法人日本防災士機構

## 講義時使用テキスト

毎回レジュメを配布

## 資格との関連

「防災士」の資格取得に役立つ講義となっている。なお、防災士取得を目指す場合は、別途申込と受講料が必要となる。詳細は講義中に説明する。

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 防災を学ぶ意義<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 2 | 災害発生のしくみ(地震・津波・気象災害など)<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 3 | 近年の主な自然災害(ゲストティーチャー)<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 4 | 被害想定・ハザードマップ<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 5 | 災害関連情報と予報・警報<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 6 | 行政の災害対策と危機管理<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 7 | 復旧・復興と被災者支援<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 8 | 災害医療とこころのケア<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 9 | 企業・団体の事業継続<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 10 | 災害への備え<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 11 | 自主防災活動と地区防災計画<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 12 | 地域防災と多様性への配慮<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 13 | 災害ボランティア活動<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 14 | 安心安全なまちづくり・レジリエンス<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |
| 15 | 防災士について<br>・レジュメ配布<br>・リアクションペーパー 配布記入提出<br>・グループワークあり | テーマに関する内容や事例をインターネット等で調べておく。 | 授業で配布された資料を読み、リアクションペーパーを完成させる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000040000 日本語Ⅰ（楊クラス） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりによって成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は学習者をコミュニケーションを主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 講義時使用テキスト

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

N4レベル以上であること

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 新しい一歩① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 2 | 新しい一歩② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 3 | 楽しいショッピング① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 4 | 楽しいショッピング② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 5 | 私の目標① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 6 | 私の目標② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 7 | 住んでいる町で① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 8 | 住んでいる町で② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 9 | 大変な1日① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 10 | 大変な1日② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 11 | 旅行に行こう① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 12 | 旅行に行こう② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 13 | 西川さんの家へ① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 14 | 西川さんの家へ② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 15 | 復習 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |

| 講義名 | 1000041000 日本語Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりによって成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は学習者をコミュニケーションを主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 講義時使用テキスト

『できる日本語　初中級』嶋田和子　監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

N4レベル以上であること

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ありがとう① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 2 | ありあとう② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 3 | アルバイト先で① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 4 | アルバイト先で② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 5 | 旅行に行って① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 6 | 旅行に行って② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 7 | 地域社会の中で① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 8 | 地域社会の中で② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 9 | 私の健康法① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 10 | 私の健康法② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 11 | 親の気持ち・子の気持ち① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 12 | 親の気持ち・子の気持ち② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 13 | イベント・行事① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 14 | イベント・行事② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 15 | 復習 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000042000 日本語Ⅲ（楊クラス） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりにより成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は、日本語Ⅰ・Ⅱに引き続き、学習者をコミュニケーション主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 講義時使用テキスト

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

N3レベル相当の学生であること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 新たな出会い① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 2 | 新たな出会い② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 3 | 新たな出会い③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 4 | 楽しい食事・上手な買い物① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 5 | 楽しい食事・上手な買い物② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 6 | 楽しい食事・上手な買い物③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 7 | 時間を生かす① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 8 | 時間を生かす② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 9 | 時間を生かす③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 10 | 地域を知って生活する① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 11 | 地域を知って生活する② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 12 | 地域を知って生活する③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 13 | 緊急事態① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 14 | 緊急事態② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 15 | 緊急事態③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000043000 日本語Ⅳ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「タスク(課題)先行型」という特徴を前面に押し出し、日本語のコミュニケーション力、特に「対話力」を高めることが目的である。コミュニケーションは人と人との関わりによって成り立つ。伝えたいことを自分の持つ言語知識で「正確」かつ「効率」的に伝えることが大事であるため、本講義は日本語Ⅰ・Ⅱに引き続き、学習者をコミュニケーションを主体として、「こんなときどうする？」、「見つけた！」「耳でキャッチ」「伝えてみよう」という4種類のタスクで、教室活動を進めていく。これらの活動により、学習者の日本語コミュニケーション力を高めていく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 講義時使用テキスト

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

日本語Ⅲと日本語Ⅳを同時に受講すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 地図を広げる① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 2 | 地図を広げる② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 3 | 地図を広げる③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 4 | 世代を超えた交流① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 5 | 世代を超えた交流② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 6 | 世代を超えた交流③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 7 | 気持ちを伝える① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 8 | 気持ちを伝える② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 9 | 気持ちを伝える③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 10 | 言葉を楽しむ① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 11 | 言葉を楽しむ② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 12 | 言葉を楽しむ③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 13 | 日本を旅する① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 14 | 日本を旅する② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 15 | 日本を旅する③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000044000 日本語Ⅴ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

## 授業概要(教育目的)

社会生活の様々な場面で日本人と上手にコミュニケーションできるように「相手との良好な関係を確立・維持しながら、自分の意図や考え方をきちんと伝えることができる能力」を身に付ける。「許可を求める」「依頼する」「謝罪する」「誘う」「申し出をする」「助言する」「不満を伝える」「ほめる」の8つの場面を通して、状況にそった適切なことばの使い方を効率的・体系的に学ぶことができる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト、授業中の発表・発言などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 講義時使用テキスト

『できる日本語』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

日本語Ⅲと日本語Ⅳを受講したうえ、日本語Ⅴと日本語Ⅵを同時に受講すること。または、N3レベル以上の学生であること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ライフスタイル① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 2 | ライフスタイル② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 3 | ライフスタイル③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 4 | 心と体の健康① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 5 | 心と体の健康② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 6 | 心と体の健康③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 7 | トレンドに乗ってつながる① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 8 | トレンドに乗ってつながる② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 9 | トレンドに乗ってつながる③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 10 | カルチャーショック① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 11 | カルチャーショック② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 12 | カルチャーショック③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 13 | 情報社会に生きる① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 14 | 情報社会に生きる② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 15 | 情報社会に生きる③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000045000 日本語VI | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

自分のこと、自分の考えを伝える力と語り合う日本語力を身につけることが目的である。

## 授業概要(教育目的)

グローバル化が進むなか、留学生の約半数以上が卒業後、日本での就職を希望している。本講義はビジネス日本語能力の知識だけでなく、日本のビジネスマナー、仕事の進め方、情報セキュリティなどの法的ルール取り入れながら授業をすすめていく。日本の会社文化への理解を深めることで、職場と取引先の人とのコミュニケーション能力や、ビジネス場面における日本語の実践的な運用能力の育成を目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「読む、書く、聞く、話す」ことを反復し、学問を修得する基本姿勢を身につけ、教養を深め、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト、授業中の発表・発言・意欲などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

『できる日本語　中級』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 講義時使用テキスト

『できる日本語　中級』シリーズ　嶋田和子監修　できる日本語教材開発プロジェクト著

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

日本語Ⅲと日本語Ⅳを受講したうえ、日本語Ⅴと日本語Ⅵを同時に受講すること。N3レベル相当の学生であること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学校生活① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 2 | 学校生活② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 3 | 学校生活③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 4 | 働くということ① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 5 | 働くということ② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 6 | 働くということ③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 7 | 地球に生きる① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 8 | 地球に生きる② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 9 | 地球に生きる③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 10 | 科学の力① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 11 | 科学の力② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 12 | 科学の力③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 13 | 豊かさと幸せ① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 14 | 豊かさと幸せ② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 15 | 豊かさと幸せ③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000046000 日本文化Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

各種資料を通して、日本の文化、習慣などについて考え、母国の生活・文化と比較して日本文化を理解する。また、日本文化と母国文化の違いなどを、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて表現する力を養う。

## 授業概要(教育目的)

本講義は日本の文化について様々な視点から学び、思考を深める。本講義は「受信型」の学習にとどまらず、自ら思考・判断・表現する「発信型」の学習を重視する。読み取った内容を理解し、自分の見解をディスカッションなどの形を通して、アウトプットできるようになることが目的である。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

国際交流、地域活動やフィールドワーク等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

## 評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

1.『知っていますか　日本のこと-学ぼう　話そう　日本事情』
2.『日本語で文化体験』
3.「日本語中級学習者のための日本事情シラバス」

## 講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

本講義は、留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | プロローグ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 2 | 日本人の一生 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 3 | 日本人の食生活 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 4 | 日本人の衣生活 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 5 | 日本人の住生活 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 6 | 日本の教育制度 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 7 | 社会的習慣・社会的情勢① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 8 | 社会的習慣・社会的情勢② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 9 | 日本の年中行事 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 10 | 日本の伝統文化① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 11 | 日本の伝統文化② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 12 | 日本社会のトレンド | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 13 | 現代日本の若者文化 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 14 | 日本語に関するトピック① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 15 | 日本語に関するトピック② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000047000 日本文化Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

各種資料を通して、日本の文化、習慣などについて考え、母国の生活・文化と比較して日本文化を理解する。また、日本文化と母国文化の違いなどを、ディスカッションやプレゼンテーションを通じて表現する力を養う。

## 授業概要(教育目的)

本講義は日本の文化について様々な視点から学び、思考を深める。本講義は「受信型」の学習にとどまらず、自ら思考・判断・表現する「発信型」の学習を重視する。本講義では、日本文化Ⅰに引き続き、読み取った内容を理解し、自分の見解をディスカッションなどの形を通して、アウトプットできるようになることが目的である。さらに、学習者の地域への愛着を育むため、青森県の伝統文化についても学習する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

## 評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

1. 留学生のための日本事情入門
2.「日本語中級学習者のための日本事情シラバス」

## 講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

本講義は留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 日本社会と日本人の変化 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 2 | 季節と対策から見える日本 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 3 | スポーツから見える日本 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 4 | マンガ・アニメ等から見える日本 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 5 | 広告から見える日本 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 6 | 災害から見える日本 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 7 | 儀式から見える日本 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 8 | 日本のマナー・習慣・ルール① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 9 | 日本のマナー・習慣・ルール② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 10 | 日本のマナー・習慣・ルール③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 11 | グループ発表 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 12 | 地域の文化・産業を学ぶ① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 13 | 地域の文化・産業を学ぶ② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 14 | 地域の文化・産業を学ぶ③ | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 15 | グループ発表 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000048000 日本社会Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

読み物を通して社会的なテーマについて自ら考えていく力を身につける。

## 授業概要(教育目的)

本の地理、人口、政治、教育、スポーツなどをやさしい日本語を使用して説明し、これらを留学生の母国事情と比較しながら日本社会を理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

国際交流、地域活動やフィールドワーク等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

## 評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

本講義は、留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 2 | 日本の地理① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 3 | 日本の地理② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 4 | 日本の人口① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 5 | 日本の人口② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 6 | 日本の政治① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 7 | 日本の政治② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 8 | 日本の教育① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 9 | 日本の教育② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 10 | 日本のスポーツ① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 11 | 日本のスポーツ② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 12 | 日本のテクノロジー① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 13 | 日本のテクノロジー② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 14 | 日本人と自然① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 15 | 日本人と自然② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 1000049000 日本社会Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 楊　麗栄 | | |

## 学習目標(到達目標)

読み物を通して社会的なテーマについて自ら考えていく力を身につける。

## 授業概要(教育目的)

日本の宗教、科学技術、環境対策、産業構造などをやさしい日本語を使用して説明し、これらを留学生の母国事情と比較しながら日本社会を理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、コミュニケーション能力を身につける。

## 評価方法

授業中の発言や参加態度、課題レポート等の成績により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

次の授業でフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

使用しない(適宜プリントを配布する)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

本講義は、留学生を対象とする。発表は日本語で行う。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 2 | 日本人と宗教① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 3 | 日本人と宗教② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 4 | 日本の科学技術① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 5 | 日本の科学技術② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 6 | 日本の環境対策① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 毎回の授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 7 | 日本の環境対策② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 8 | 日本の産業構造① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 9 | 日本の産業構造② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 10 | 日本に滞在する外国人① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 11 | 日本に滞在する外国人② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 12 | 外国人ポイント制度 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 13 | 都市の暮らし・地方の暮らし① | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 14 | 都市の暮らし・地方の暮らし② | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |
| 15 | 多文化共生社会 | 予習が必要な場合は事前に指示する。 | 授業で学んだ内容を復習してください。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010003000 キャリアデザインⅢ（人間健康科学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 将来の進路を明確にし、その進路を実現するために必要な方策を説明できる。
2. 働くことの意義と自身のキャリア形成に関する概略を説明できる。
3. 社会性と自立心、及び忍耐力と自己管理力などを持つことの意義を説明できる。
4. 仲間内社会から外の世界に出て経験を積むべく行動することができる。
5. コミュニケーションの基礎・基本を説明することができる。

## 授業概要(教育目的)

働くことと生きること、及び学ぶことに関する理解を促進し、自己の将来を確かなものとすべく自己理解・職業理解を図りながら将来を展望し、キャリア形成に関する理解を深める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

振り返りシート、キャリアシート、授業中のグループワークなどにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(振り返りシート、感想文)は、次の授業で代表的なものをフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

キャリアデザインを考えることは、就職活動のみならず、人生を考える上でも大変意義のあることである。学生諸君には、意欲を持って、また自身のキャリア形成に役立てるべく授業に臨んで欲しい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 2年生から考えるキャリアデザイン | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 2 | コミュニケーション・プレゼンテーション養成講座 | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 3 | タイムマネジメント養成講座 | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 4 | インターンシップ講座 | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 5 | 働くとは何かを考える講座 | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 6 | 「はたらく」ことを考える講座 | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 7 | 質問力UPワーク講座 | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 8 | 女性のキャリアについて考える | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010004000 キャリアデザインⅣ（人間健康科学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 将来の進路を明確にし、その進路を実現するために必要な方策を説明できる。
2. 働くことの意義と自身のキャリア形成に関する概略を説明できる。
3. 社会性と自立心、及び忍耐力と自己管理力などを持つことの意義を説明できる。
4. 仲間内社会から外の世界に出て経験を積むべく行動することができる。

## 授業概要(教育目的)

働くことと生きること、及び学ぶことに関する理解を促進し、自己の将来を確かなものとすべく自己理解・職業理解を図りながら将来を展望し、キャリア形成に関する理解を深める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

振り返りシート、キャリアシート、授業中のグループワークなどにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(振り返りシート、感想文)は、次の授業で代表的なものをフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

キャリアデザインを考えることは、就職活動のみならず、人生を考える上でも大変意義のあることである。学生諸君には、意欲を持って、また自身のキャリア形成に役立てるべく授業に臨んで欲しい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | インターンシップ報告会<br>（夏休み期間にインターンシップに参加した3年生からの発表） | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 2 | マッチプラス（適職診断）受験会 | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 3 | 強み・経験の言語化支援講座 | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 4 | 公務員講座／体育会系講座 | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 5 | 教職員講話<br>（民間企業での勤務経験がある本学教職員によるキャリア講話） | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 6 | 卒業生講話<br>（本学卒業生からキャリアについて講話） | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 7 | 内定者報告会<br>（内定を受けた4年生から発表） | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |
| 8 | 就活スタートアップ講座 | 自分自身のこれまでの生き方を振り返り整理しておく。ノートや紙に書いておくことを勧める。 | 学んだことを振り返り、今後のキャリアについて考え、ノートや紙に整理して書いておく。 |

| 講義名 | 4010005000 キャリアデザインⅤ（人間健康科学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 将来の進路を明確にし、その進路を実現するために必要な方策を説明できる。
2. 実践型ディスカッションを通して、コミュニケーション能力を高める。
3. 働くことの意義と自身のキャリア形成に関する概略を説明できる。
4. 社会性と自立心、及び忍耐力と自己管理力などを持つことの意義を説明できる。
5. 仲間内社会から外の世界に出て経験を積むべく行動することができる。

## 授業概要(教育目的)

働くことと生きること、及び学ぶことに関する理解を促進し、自己の将来を確かなものとすべく自己理解・職業理解を図りながら将来を展望し、キャリア形成に関する理解を深める。また、実践型ディスカッションを通じてキャリア形成を図るとともに、自己のキャリアに関する理解を深める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業中に課す諸課題、ディスカッションへの取り組み、振り返りシート、キャリアシートなどへの取り組みによって、総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(振り返りシート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

・ディスカッションや実習室での授業では、教室、時間帯が変わる。掲示をよく確認すること。
・キャリアデザインについて学ぶことは、社会の中の一員として、これからの長い人生行路を歩んでいく上で、大変意義のあることである。学生諸君には意欲を持って、また自身のキャリア形成に役立てるべく授業に臨んで欲しい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>将来のキャリアをイメージする(1)<br>「超高齢社会とキャリアデザインについて考える」<br>・自分のキャリアをどう設計するか考える<br>(発表と共有)(コメントシート使用) | 授業内容について、あらかじめインターネットなどで調べる。 | 授業内容をまとめ、論点を整理する。 |
| 2 | 将来のキャリアをイメージする(2)<br>「女性とキャリアについて考える」<br>・男子学生と共に役割の観点から、<br>・男女参画社会とライフワークの観点から考える<br>(コメントシート使用) | 授業内容について、あらかじめインターネットなどで調べる。 | 授業内容をまとめ、論点を整理する。 |
| 3 | 選択・決定と将来のキャリアについて(1)<br>「職業適性検査と将来のキャリアについて考える」<br><br>(コメントシート使用) | 授業内容について、あらかじめインターネットなどで調べる。 | 授業内容をまとめ、論点を整理する。 |
| 4 | 選択・決定と将来のキャリアについて(2)<br>「企業研究と公務員対策」<br><br>(コメントシート使用) | 授業内容について、あらかじめインターネットなどで調べる。 | 授業内容をまとめ、論点を整理する。 |
| 5 | コミュニケーションとキャリアデザイン(6)<br>ディスカッションA<br>※グループに分かれて実施する。グループ分けと教室については、後日掲示する。<br><br>(グループワーク)(コメントシート使用) | 授業内容について、あらかじめインターネットなどで調べる。 | 授業内容をまとめ、論点を整理する。 |
| 6 | コミュニケーションとキャリアデザイン(7)<br>ディスカッションB<br>※グループに分かれて実施する。グループ分けと教室については、後日掲示する。<br><br>(グループワーク)(コメントシート使用) | 授業内容についてあらかじめインターネットなどで調べる。 | 授業内容をまとめ、論点を整理する。 |
| 7 | 選択・決定と将来のキャリアについて(3)<br>「SPI(言語・非言語)」<br><br>(コメントシート使用) | 授業内容についてあらかじめインターネットなどで調べる。 | 授業内容をまとめ、論点を整理する。 |
| 8 | 春学期の振り返り<br>「まとめキャリアシート」への書き込みを通して振り返る<br>「SPI(自己分析)」 | あらかじめ秋学期の自分を振り返り、まとめておく。 | まとめキャリアシートの内容を踏まえて、将来のキャリアを展望する。 |

| 講義名 | 4010006000 キャリアデザインVI（人間健康科学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 将来の進路を明確にし、その進路を実現するために必要な方策を説明できる。
2. 実践型ディスカッションを通して、コミュニケーション能力を高める。
3. 働くことの意義と自身のキャリア形成に関する概略を説明できる。
4. 社会性と自立心、及び忍耐力と自己管理力などを持つことの意義を説明できる。
5. 仲間内社会から外の世界に出て経験を積むべく行動することができる。

## 授業概要(教育目的)

働くことと生きること、及び学ぶことに関する理解を促進し、自己の将来を確かなものとすべく自己理解・職業理解を図りながら将来を展望し、キャリア形成に関する理解を深める。また、実践型ディスカッションを通じてキャリア形成を図るとともに、自己のキャリアに関する理解を深める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域のあらゆる領域における経営に対して汎用力を備え、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探求し、対応できる能力を身につけている(地域経営学科)。こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている(人間健康学科)。

## 評価方法

授業中に課す諸課題、ディスカッションへの取り組み、振り返りシート、キャリアシートなどへの取り組みによって、総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・課題(振り返りシート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

・ディスカッションや実習室での授業では、教室、時間帯が変わる。掲示をよく確認すること。
・キャリアデザインについて学ぶことは、社会の中の一員として、これからの長い人生行路を歩んでいく上で、大変意義のあることである。学生諸君には意欲を持って、また自身のキャリア形成に役立てるべく授業に臨んで欲しい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 選択・決定と将来のキャリアについて(4)<br>「最新の就職環境と就職準備について」<br><br>(コメントシート使用) | 授業内容ついて、予めインターネットなどで調べておく。 | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。 |
| 2 | 選択・決定と将来のキャリアについて(5)<br>「自己分析を通してキャリア選択について考える」<br>(コメントシート使用) | 授業内容ついて、予めインターネットなどで調べておく。 | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。 |
| 3 | コミュニケーションとキャリアデザイン(8)<br>ディスカッションC<br>＊グループに分かれて実施する。グループ分けと教室については、後日掲示する。<br>(グループワーク) | 授業内容ついて、予めインターネットなどで調べておく。 | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。 |
| 4 | コミュニケーションとキャリアデザイン(9)<br>ディスカッションD<br>＊グループに分かれて実施する。グループ分けと教室については、後日掲示する。<br>(グループワーク) | 授業内容ついて、予めインターネットなどで調べておく。 | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。 |
| 5 | 選択・決定と将来のキャリアについて(6)<br>「面接についての理解を図る」<br><br>(コメントシート使用) | 授業内容ついて、予めインターネットなどで調べておく。 | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。 |
| 6 | 将来のキャリアをイメージする(3)<br>働き方改革とキャリアについて考える<br>・青森県の場合<br>・男女共同参画社会、ライフ・ワーク<br>・女性とキャリア(コメントシート使用)<br>(コメントシート使用) | 授業内容ついて、予めインターネットなどで調べておく。 | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。 |
| 7 | 内定者報告会(3)<br>就職とキャリアについて考える<br><br>(コメントシート使用) | 授業内容ついて、予めインターネットなどで調べておく。 | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。 |
| 8 | 秋学期の振り返り<br>・まとめキャリアシートへの書き込みを通して振り返る<br>・webクラス入力<br>・就職活動について(キャリア支援課)<br><br>(コメントシート使用) | あらかじめ秋学期の目分を振り返り、まとめておく。 | まとめキャリアシートの内容を踏まえて、将来のキャリアを展望する。 |
| 9 | 就職活動に向けて<br>「直前の総まとめと実際」 | あらかじめ秋学期での学習を踏まえて、就職活動についてまとめてみる。 | 授業の内容を整理して、今後の活動に役立てる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010009000 インターンシップ（人間健康科学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

「インターンシップ」の到達目標は、以下の3点である。
①「インターンシップ」での体験を通し、自らのキャリア、職業選択を考える手がかりを得る。
②社会からみた自己の評価を知ることにより、自己発見の機会とする。
③上記①、②を、大学での学習にフィードバックする。

## 授業概要(教育目的)

インターンシップとは、在学中のある一定期間、企業などにおいて、自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと制度であり、以下の①及び②を通じ、主体的に職業を選択する能力を身につけさせ、高い職業意識を育成することを目的としている。

①学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会を提供する。
②大学における学修を深化し、新たな学習意欲を喚起する。

「インターンシップ」は、大きく事前指導、実習、事後指導の順序で進められる。
（詳細については、「授業計画概要」に記す。）

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

・「インターンシップ」は、事前指導、実習、事後指導のすべてを終了して単位が認定される。
・したがって、評価についても、事前指導、実習、事後指導のすべてを総合し、行う。
・上記について、以下の①、②に、特に、注意すること。
①事前指導を欠席した場合、実習への参加が認められず、単位は認定されない。
②事後指導での課題への取り組み、提出を怠った場合、実習に参加しても単位は認定されない。

## 課題に対するフィードバック

・事前指導の課題（面談シート）については、面談時にアドバイスする。
・実習時の課題（実習日誌）については、実習先とやりとりする。
・事後指導の課題（レポート）については、最終回のレポート発表時に講評を行う。

## 講義時使用テキスト

・「インターンシップの手引き」
（初回の授業で配布：毎回持参すること。）
・上記以外にも、随時、資料を配布する。

## 参考文献

## 資格との関連

特記事項なし。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　インターンシップを履修する学生は、研修先で八戸学院大学を代表することとなる。
・自分は、八戸学院大学を代表して、研修先にお世話になるということを肝に銘じること。
・研修先での身勝手な行動、社会常識に反する行動は慎むこと。
・自己都合による、研修のキャンセルは絶対にできないので、履修する際、この点を必ず約束すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事前指導(1)インターンシップの学習の流れについて | ・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 2 | 事前指導(2)教員講話①(インターンシップの歴史と意義) | ・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 3 | 事前指導(3)教員講話②(就職環境とインターンシップの事例) | ・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・どの企業でいかなる就業体験を送りたいか熟考する。 |
| 4 | 事前指導(4)マッチング作業①(アンケート・面談) | ・面談シートを作成する。<br>・面談で答えるべき内容を準備する。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・どの企業でいかなる就業体験を送りたいか熟考する。 |
| 5 | 事前指導(5)マッチング作業②(面談・報告) | ・面談で答えるべき内容を準備する。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・どの企業でいかなる就業体験を送りたいか熟考する。 |
| 6 | 事前指導(6)提出書類作成指導①(履歴書、自己紹介書) | ・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 7 | 事前指導(7)提出書類作成指導②(誓約書、覚書、実習概要明細書) | ・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 8 | 事前指導(8)実習日誌について | ・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 9 | 事前指導(9)マナー講座 | ・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 10 | 研修先での実習(1) | ・事前学習で学んだ内容を確認し、論点を整理する。<br>・それぞれの研修先で実習を行うに際しての事前の注意事項を再確認する。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 11 | 研修先での実習(2) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 12 | 研修先での実習(3) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 13 | 研修先での実習(4) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 14 | 研修先での実習(5) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 15 | 研修先での実習(6) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 16 | 研修先での実習(7) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 17 | 研修先での実習(8) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 18 | 研修先での実習(9) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 19 | 研修先での実習(10) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 20 | 研修先での実習(11) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 21 | 研修先での実習(12) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 22 | 研修先での実習(13) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 23 | 研修先での実習(14) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 24 | 研修先での実習(15) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 25 | 研修先での実習(16) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010010000 健康医療総論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科/看護学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 健康と疾病の考え方について説明できる
2. 社会における健康問題について説明できる
3. こころとからだの健康について説明できる

## 授業概要(教育目的)

少子高齢化が進むなかですべての人が生きがいをもって日々の生活を送れるような社会の構築が求められており、健康に関する諸問題はその中心的事項である。本講義においては、専門の異なる8名の教員がオムニバス方式でそれぞれの立場から関わりの深いトピックスを取り上げて健康の意義について考察する。健康、医療について「からだ」、「こころ」、「社会」といった観点から多面的に理解し、各専門分野を学修して行くための基礎的知識の習得や連携の重要性を念頭に講義を進める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている(人間健康学科)。看護の対象は「人間」であり、人間を「性」の側面から理解するための基礎的知識を身につけ、「人間の性」の多様性に対応できる能力を身につけている(看護学科)。

## 評価方法

授業内で行う小テストやレポート、提出課題を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

授業内で必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

教科書は使用しない。各担当教員が資料を配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

専門の異なる教員によるオムニバス方式で講義が行われるので、分野毎の健康や医療に関する考え方の共通点・相違点を理解できるように集中して講義に出席すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 健康の捉え方 | シラバスを 読んでくる。<br>健康の 概念について 調べてください。 | 配布資料とノートを 読み 直してください。 |
| 2 | 2. 医学:疾病の成り立ちと健康との対比 | 「医学・医療」についてのイメージをまとめてくる。 | 配布資料とノートを 読み 直す。 |
| 3 | 3. 医学:医療の現状と問題点 | 前回の 授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。 |
| 4 | 4. 精神:精神保健:心の病(精神疾患)と生活のしづらさ | 精神疾患には、どのような 病気があるか、を簡単にまとめてくる。 | 講義の 内容を 振り返り 不明な 点は 調べる。 |
| 5 | 5. 精神:心の 病(精神疾患)を 抱える 人の 生活実践 | 前回の 授業内容を 整理する。 | 講義の 内容を 振り返り 不明な 点は 調べる。 |
| 6 | 6. 運動:健康と体力 | 講義において 提示する 課題に 取り組むこと。 | 講義中に 課題を 示すので、期日までに 提出すること。 |
| 7 | 7. 運動・スポーツによる 重篤な 外傷・疾患への 対処のしかた | 「一次救命処置」とは 何かということについて 予習してください。 | 熱中症の 分類とそれぞれの 対処法について 復習してください。 |
| 8 | 8. 運動・医学:フレイルとロコモティブシンドローム | 「健康寿命」とは 何かということについて 予習してください。 | 脈拍数を 用いた 運動強度の 決め 方について 復習してください。 |
| 9 | 9. 栄養:健康と食事 | 「食べる」という 行動は 健康を 営む 上で、どのような 役割があるか 考えてくる。 | 講義において 提示する 課題に 取り組むこと。 |
| 10 | 10. 福祉:社会福祉を 取り巻く状況 | わが国の 少子高齢化の 動向について 把握する。講義において 提示する 課題に 取り組むこと。 | 講義中に 課題を 示すので、期日までに 提出すること。 |
| 11 | 11. 看護:性の 健康「体と心の 性−多様性ー」 | 性に関する 解剖を 予習すること | 講義終了時に 課題を 出し 時間内に 提出すること(記入時間は 確保します) |
| 12 | 12. 看護:性の 健康「性感染症・避妊・性暴力」 | 性感染症・避妊・性暴力について 調べてくる。 | 講義終了時に 課題を 出し 時間内に 提出すること(記入時間は 確保します) |
| 13 | 13. 看護:性と 健康「人権と性」 | 基本的人権とは 何かを 調べてくる | 講義終了時に 課題を 出し 時間内に 提出すること(記入時間は 確保します) |
| 14 | 14. 心理:ストレスと健康 | 「ストレスとは 何か」について 考えてくる。 | 講義中に 課題を 示すので、期日までに 提出すること。 |
| 15 | 15. 心理:コミュニケーションと 健康 | 前回の 授業の 内容を 整理し、論点を 整理する。 | 講義中に 課題を 示すので、期日までに 提出すること。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010011000 生命と倫理 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.人間にとってふさわしい優先順序を考えることを目指す。
2.倫理学の分野における諸課題を知り、問題解決のためのアプローチを身に付ける。
3.生命倫理学が問題とする諸課題の根本的な原因を知り、自ら判断する指標を得る。
4.現代社会のあらゆる問題に向き合うための基礎力を養う。

## 授業概要(教育目的)

倫理観、道徳心について、通常は、それらを逸脱した行為を見たり聞いたりした時にはじめて「何かおかしい」と感じるものである。では逆に、人間にとってのあるべき姿や生き方、人生の「正解」のようなものは、果たしてありうるのだろうか。これを問い、なぜそうなのかを問うのが倫理学である。地上に生きる人間には、様々な制約と同時に普遍に開かれた精神があり、実際には常に識別をしながら生きているとも言いうるのである。

本授業では、倫理学では通常用いられない「常識」という言葉も問いに付しつつ、倫理学の諸課題を概観し、哲学的な倫理にも触れた後、生命倫理学に集中して取り組む。健康や医療の分野に特化した倫理といえども、人間の生き方の問題であることに変わりはない。総合的に人間について考えることができる時間としたい。

以上を通して、これからの激動の時代にあって、なお変わらない、人間にとっての本質的な価値について考えたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

リアクションペーパー、質疑応答(授業参加態度)、期末試験により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

リアクションペーパーは、次回授業で代表的なものをいくつかフィードバックすることがある。

## 参考文献

星野勉、関根清三他編『倫理思想辞典』山川出版社、1997年。
学校法人上智学院編『新カトリック大事典』研究社、1996-2010年。
柘植尚則『プレップ倫理学』弘文堂、2010年。
神田健次編『生と死』(講座現代キリスト教倫理)、日本基督教団出版局、1999年。
日本カトリック司教団編『いのちへのまなざし』(増補新版)、カトリック中央協議会、2017年。

## 講義時使用テキスト

今井道夫『生命倫理学入門』第5版、産業図書　2024年。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

倫理という分野的性質上、法律における正否はあっても、真の正解は存在しない。このことを念頭に、日頃から様々な常識や非常識についての問題意識を持ち、自ら問いを探す姿勢を求めたい。また、授業では自発的な発言や質問、コメントを歓迎する。
倫理を学ばずに技術だけを学ぶことは極めて危険である。人間健康学科の学生として高い自覚を持って受講してほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 倫理序説:ことばから考える倫理と「常識」 | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。授業で視聴した動画をもう一度視聴する。 |
| 2 | 倫理学の問題意識:理想の状態で、いのちはどのようにふるまうか | 参考文献の関連個所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 「幸福な王子」から倫理と生き方を考える？ | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | トロッコ問題を考える | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 5 | 倫理の理論:倫理は哲学的にどのように考えられてきたか | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 倫理の理論:哲学的倫理学の歴史と奥行き | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | ターミナルケアの現場から考える、いのちと死 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す。可能なら、視聴したコンテンツを再確認する。 |
| 8 | 生命倫理:健康と病気、生殖医療 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | 移植医療(と脳死) | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 遺伝子技術 | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | インフォームドコンセント | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | 安楽死 | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 人工妊娠中絶 | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | 科学的医学の論理と倫理:ヘルシンキ宣言 | 参考文献の関連個所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 今後の医療と生命倫理学 | 前回の配布資料とノートを読み返す | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

| 講義名 | 4010012000 人間発達学（人間健康科学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.人間の発達について，基本的な理論および発達課題について説明できる。
2.各発達段階における心と身体の特性について説明できる。
3.自分や周囲の人々を生涯発達の観点から理解することができる。

## 授業概要(教育目的)

人間発達学は，人間を身体・心理・社会的側面の統合体としてとらえ，その人間を，生涯に渡って変化していく過程，すなわち，発達の観点から総合的に理解することを目的とした学問である。これは教育・看護・医学・保育・社会福祉など人間を対象としている職業に従事する人々や学生に重要な視点を提供する。それぞれの職種はある特定の時期の人間を対象とすることが多い。しかし，それらの人々の理解や援助・支援には以前の発達段階やその後の発達段階についての知識が必要となる。本授業では，特に身体と心の発達に焦点をあて，各発達段階の諸特性について概説していく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題探究に取り組む主体的姿勢を身につけている。

## 評価方法

授業への参加態度，レポート等の課題内容，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 参考文献

「公認心理師スタンダードテキストシリーズ12　発達心理学」林創(編著)　ミネルヴァ書房
「コメディカルのための専門基礎分野テキスト　人間発達学(改訂6版)」福田惠美子(編著)　中外医学社
「看護のための人間発達学(第5版)」舟島なをみ・望月美知代(著)　医学書院

## 資格との関連

認定心理士資格申請の関連科目である。資格取得希望者は履修することが望ましい。

## 学生へのメッセージ

本授業の目的に一つは発達の視点から自分や他者をより深く理解することである。これは，将来人を対象とする職業に従事するときに役立つばかりではなく，現在の自分の課題を理解したり，将来的な展望を持って生きるためにも有益である。このような観点を常に持ちながら，授業に臨んでほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 人間発達学の概説 | シラバスを確認し，授業の概要を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 発達理論 | 発達理論について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 胎児期・新生児期の発達 | 胎児期・新生児期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 乳児期の発達 | 乳児期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 乳幼児期・児童期の発達1：感覚と運動 | 乳幼児期・児童期について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 乳幼児期・児童期の発達2：愛着と社会性 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 乳幼児期・児童期の発達3：認知 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 乳幼児期・児童期の発達4：言語 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 乳幼児期・児童期の発達5：対人関係と遊び | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 青年期の発達1：心身の発達 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 青年期の発達2：アイデンティティの確立 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 成人期の発達1：キャリア形成 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 成人期の発達2：結婚と家族形成 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 老年期の発達1：心身の発達 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 老年期の発達2：心理社会的課題 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

| 講義名 | 4010012001 人間発達学（看護学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 看護学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.人間の発達について，基本的な理論および発達課題について説明できる。
2.各発達段階における心と身体の特性について説明できる。
3.自分や周囲の人々を生涯発達の観点から理解することができる。

## 授業概要(教育目的)

人間発達学は，人間を身体・心理・社会的側面の統合体としてとらえ，その人間を，生涯に渡って変化していく過程，すなわち，発達の観点から総合的に理解することを目的とした学問である。これは教育・看護・医学・保育・社会福祉など人間を対象としている職業に従事する人々や学生に重要な視点を提供する。それぞれの職種はある特定の時期の人間を対象とすることが多い。しかし，それらの人々の理解や援助・支援には以前の発達段階やその後の発達段階についての知識が必要となる。本授業では，特に身体と心の発達に焦点をあて，各発達段階の諸特性について概説していく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題探究に取り組む主体的姿勢を身につけている。

## 評価方法

授業への参加態度，レポート等の課題内容，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

「公認心理師スタンダードテキストシリーズ12　発達心理学」林創(編著)　ミネルヴァ書房
「コメディカルのための専門基礎分野テキスト　人間発達学(改訂6版)」福田惠美子(編著)　中外医学社
「看護のための人間発達学(第5版)」舟島なをみ・望月美知代(著)　医学書院

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

本授業の目的に一つは発達の視点から自分や他者をより深く理解することである。これは，将来人を対象とする職業に従事するときに役立つばかりではなく，現在の自分の課題を理解したり，将来的な展望を持って生きるためにも有益である。このような観点を常に持ちながら，授業に臨んでほしい。適宜，授業内容と関連する看護師国家試験の過去問等を提示するので，国家試験を見据えた学習をしてほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 人間発達学の概説 | シラバスを確認し，授業の概要を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 発達理論 | 発達理論について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 胎児期・新生児期の発達 | 胎児期・新生児期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 乳児期の発達 | 乳児期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 乳幼児期・児童期の発達1：感覚と運動 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 乳幼児期・児童期の発達2：愛着と社会性 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 乳幼児期・児童期の発達3：認知 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 乳幼児期・児童期の発達4：言語 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 乳幼児期・児童期の発達5：対人関係と遊び | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 青年期の発達1：心身の発達 | 青年期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 青年期の発達2：アイデンティティの確立 | 青年期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 成人期の発達1：キャリア形成 | 成人期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 成人期の発達2：結婚と家族形成 | 成人期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 老年期の発達1：心身の発達 | 老年期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 老年期の発達2：心理社会的課題 | 老年期の発達について図書館やネット等で調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

| 講義名 | 4010013000 健康管理論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　守人 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の三事項を到達目標とする。
1. 健康の概念、意義について説明できる。
2. 現在の社会における健康課題を説明できる。
3. 健康管理に関する基本的な事項および健康管理の方法を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

ヒトの身体と健康の概念、健康であることの意義について確認し、さらに健康を害した状態(疾病)とはどういうことなのかを把握して、その対処・予防について学習する。個人要因・自然環境要因・社会的要因等を含めて多面的にアプローチすることによって、個々および社会全体の健康維持・増進を達成するために必要な知識について理解を深め、健康問題と積極的に向き合う姿勢と自らの健康を含め具体的な健康管理の方法を修得する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験および提出されたワークシートの完成度により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

ワークシートの解答を公開する。
期末試験の成績に疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

「国民衛生の動向(厚生の指標・臨時増刊)」 厚生統計協会
「学生のための健康管理学」南山堂
その他、講義中に紹介する。

## 講義時使用テキスト

特にテキストは使用しない。
必要な資料・プリント等は随時配布する。

## 資格との関連

健康管理士一般指導員取得のための対応科目である。

## 学生へのメッセージ

受動的に講義内容を記憶するだけでなく、ニュースや新聞・雑誌等の健康に関連する事柄については積極的に関心を払うように努め、自主的に情報の収集・整理を行うことが必要である。

## 実務との関連

産業医や学校医としての実務経験をもとに、健康管理の実際について話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 健康の概念 | シラバスに 目を 通しておく。<br>健康の 概念について 調べておく。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 2 | 2. ヒトの 身体と 健康<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 3 | 3. 健康阻害要因と 疾病<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 4 | 4. 健康の 現状<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 5 | 5. 健康の 現状からみた 問題点<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 6 | 6. 健康増進<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 7 | 7. 健康づくり 施策<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 8 | 8. 地域の 健康管理<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 9 | 9. 健康の 指標・判定<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 10 | 10. 健康診断<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 11 | 11. 健康管理の 実際 ①：食生活・休養・運動<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 12 | 12. 健康管理の 実際 ②：喫煙・飲酒<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 13 | 13. 健康管理の 実際 ③：がんの 予防<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 14 | 14. 健康情報<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考 文献の 関連部分を 読む。 |
| 15 | 15. 大学生活と 健康管理 | 前回の 授業内容を 整理しておく。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>各講義の 重要ポイントを 確認する。 |

| 講義名 | 4010014000 健康教育論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の二事項を到達目標とする。
1. 個人・集団における健康の評価、病気や事故の予防、および健康の維持増進を説明できる。
2. 健康教育の実践の基盤となる理論について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

寿命の延長、特に健康寿命の延長が、今日、我々に課せられた健康課題である。この問題をどのように把握し、かつ、どのように対応していくか、その基盤となるのが健康教育である。現代社会においては、個人・集団のレベルで自らの健康を評価し、主体的に健康維持・増進をはかることが要求されてきている。この点から、健康に対する自覚を促し、望ましい行動に変容させるための教育の重要性が認識されている。本講義において、健康の捉え方から健康教育の実践方法まで、具体的な実例を含め学習する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

担当教員が行う試験(小テストを含む)およびレポート等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

それぞれの担当教員が実施した試験・レポート等については、成績を知りたい学生には個別に開示される場合がある。

## 参考文献

講義時に随時、紹介する。

## 講義時使用テキスト

特になし。必要に応じてプリントなど配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

複数担当教員の科目は1回1回の講義が大事となる。
例年、欠席が多い学生もしくは課題未提出の学生は不可となる場合が多い。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス(科目概要など)<br>食事摂取状況調査の 体験<br>(調査結果は後日個別に配信) | WebClassにてシラバスを 確認し、科目概要や担 当教員、教育内容を 読んでおく | 後日配信の 調査結果に 関してレポート執筆 |
| 2 | 健康教育論総論(生存のレベル) | WebClass掲載資料の事前学習 | 配布(掲載)資料とノートの 読み 返し。レポート執筆 |
| 3 | 健康教育論総論(保護のレベル)オンライン 講義 | WebClass掲載資料の事前学習 | 配布(掲載)資料とノートの 読み 返し。レポート執筆 |
| 4 | 健康教育論総論(発達のレベル) | WebClass掲載資料の事前学習 | 配布(掲載)資料とノートの 読み 返し。レポート執筆 |
| 5 | 食生活の 現状<br>ー青森県が 短命な 理由ー | 食生活の現状と青森県が短命県の原因を調べる | 食生活の現状を理解し整理する |
| 6 | 大学生の食生活の実態と改善策 | 大学生の食生活の実態を調べる | 大学生の食生活について整理する |
| 7 | 健全な食生活とは<br>ー人生100年時代をめざす 食生活ー | 健康寿命の延伸について調べる | 健全な食生活について整理する |
| 8 | 学校における健康教育1<br>①子どもの 現代的な 健康課題<br>②がん 教育の 必要性・目標 | 「子どもの 現代的な 健康課題」について 事前学習 | 本日の学習目標に 沿ってレポート執筆 |
| 9 | 学校における 健康教育2<br>①がんについての 知識<br>②健康と 命の 大切さを 考える | 前回講義の振り返り | 本日の学習目標に 沿ってレポート執筆 |
| 10 | 学校における健康教育3<br>①自分でできるがん 対策<br>②がんと 向き合う 人との 共生について 考える | 前回講義の振り返り | 本日の学習目標に 沿ってレポート執筆 |
| 11 | 睡眠、休養と 心の 健康 | 睡眠と 健康について 書籍やネットであらかじめ 調べておく | 配布資料を 読み 直し、レポート課題を行う |
| 12 | ストレスと 健康、レジリエンス | レジリエンスについて 書籍やネットであらかじめ 調べておく | 配布資料を 読み 直し、レポート課題を行う |
| 13 | ポジティブ 心理学入門ー 人生を 活性化させる | 過去に「幸福感」(「幸せ」)を感じた 状況、また 日常生活で「幸福感」(「幸せ」)を感じる 状況をそれぞれ 書き出す | 配布資料を 読み 直し、レポート課題を行う |
| 14 | 人生はリスクの 連続、心も 体も 健康で 過ごしていくことは 難しいこと　ー貧困、経済的格差、引きこもり、ヤングケアラー 等をめぐる 福祉課題からー<br>誰もが 健康に 生きていくための 社会福祉の 役割　ー前回の 講義で 問題提起した 様々な 課題に 対応する 専門職(社会福祉士)の 実践からー | 前回講義の振り返り | レポート執筆 |
| 15 | 誰もが 健康に 生きていくための 社会福祉の 役割　ー前回の 講義で 問題提起した 様々な 課題に 対応する 専門職(社会福祉士)の 実践からー | 前回講義の振り返り | レポート執筆 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010015000 健康栄養学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

①食べものが口腔から各種消化管を通過し消化吸収される過程を説明できる。
②各栄養素の役割と体内での代謝過程を説明できる。
③日本人の食事摂取基準について説明できる。
④食品成分表を使用して栄養計算ができる。
⑤栄養アセスメントの方法を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

栄養の基本概念を理解した上で、健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を理解し、エネルギー及び栄養素の代謝とその生理的意義を理解する。日本人の食事摂取基準、食品成分表の使用方法、栄養アセスメントの方法を理解し、それぞれの健康状態に合わせた健康の保持増進のための望ましい食生活を実践できる力の習得を目指す。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

期末試験、課題提出などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

上西一弘(著)『栄養素の通になる第5版』女子栄養大学出版部
中村丁次(著)『楽しくわかる栄養学』羊土社
寺田新(著)『スポーツ栄養学 第2版: 科学の基礎から「なぜ?」にこたえる』東京大学出版会

## 講義時使用テキスト

『オールガイド食品成分表2026』実教出版

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

テキストおよび筆記用具・計算機は毎回の講義に持参すること。
分からない語句等は、その都度調べて理解すること。
この講義では、栄養に関する基礎的な知識修得が目的なので、各々のスポーツパフォーマンス向上に向けた栄養の知識や、各ライフステージ毎の栄養の留意点などについては、3年次開講の「運動と栄養」や「食生活論」、「栄養指導論」で学ぶことになる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 健康・栄養の現状<br>食事摂取状況調査の 体験(調査結果は後日配布) | 授業の 内容をインター ネットで 調べる。 | 配布資料を 読み 直し、分からない 語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 2 | 食事調査方法 | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 3 | 食品成分表 | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 4 | 栄養と栄養素は 何か、各種栄養素の 種類と 働き | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 5 | 栄養素の 消化・吸収 | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 6 | 栄養素の代謝1 | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 7 | 栄養素の代謝2 | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 8 | 栄養素の代謝3 | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 9 | 日本人の食事摂取基準1 | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 10 | 日本人の食事摂取基準2 | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 11 | 食事と 健康・ライフステージと 栄養 | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 12 | 疾病と栄養 | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 13 | 食事バランスガイド | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 14 | 食事摂取状況調査結果の 評価 | これまでのノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |
| 15 | 食品に 含まれるその 他の 機能性成分・サプリメント | 前回のノートや 教科書を 読み 直す。 | 教科書・ノートを 読み 直し、分からない語句などは本やインター ネットで 調べ理解を 深める。 |

| 講義名 | 4010016000 医学一般 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　守人 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の三事項を到達目標とする。
1. 医学の領域・理念および現状について説明できる。
2. 疾病の主な症状と身体の変化について説明できる。
3. 主な生活習慣病について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

個人および社会の健康を管理し、さらに推進していくためには幅広い医学知識を身につけることが必要である。本講義においては、専門分野へ展開するための導入となるよう医学における基本的事項について学習する。多様な医学・健康情報を的確に判断、活用し得る能力を培うため、生命の尊厳について確認し、一般的な疾病のメカニズムや医学的対応を理解するとともに、主な生活習慣病について予防医学の観点から把握する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験およびワークシートの完成度により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

ワークシートの解答を公開する。
期末試験の成績に疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

佐藤良暢監修「臨床病態学」改訂第5版、中島　泉著「医学概論」 南江堂
その他、講義中に紹介する。

## 講義時使用テキスト

特にテキストは使用しない。
必要な資料・プリント等は講義において随時配布する。

## 資格との関連

健康管理士一般指導員取得のための対応科目である。
社会福祉士指定科目(選択)の対応科目である。
教科「保健」、「看護」免許状取得希望者の必修科目である。
トレーニング指導者(JATI)取得のための一般科目の対応科目である。
スポーツコーチングリーダー(JSPO)取得のための共通科目の対応科目である。

## 学生へのメッセージ

日頃から、社会的に注目されている医療・健康に関連した話題については自ら情報収集し、疑問点があれば積極的に問題提起するよう心掛けること。

## 実務との関連

医師として病院に勤務。実務経験をもとに健康障害時の主な症候について話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 医学の領域・医学の歴史 | シラバスに目を通しておく。<br>医学一般で学ぶべき事項をまとめておく。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 2 | 2. 医学の使命・医の倫理<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 3 | 3. 医療の現状<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 4 | 4. 疾病の理解と診断<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 5 | 5. 疾病の治療 ①：治療の種類と特徴<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 6 | 6. 疾病の治療 ②：薬物療法の実際、代替療法(東洋医学を含む)<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 7 | 7. 疾病の主な症候 ①：発熱、全身倦怠感、意識障害<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 8 | 8. 疾病の主な症候 ②：ショック、チアノーゼ、脱水・浮腫<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 9 | 9. 疾病の主な症候 ③：貧血・出血傾向、頭痛<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 10 | 10. 疾病の主な症候 ④：便の異常、尿の異常<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 11 | 11. スポーツ傷害と予防<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 12 | 12. 予防医学 ①：がんについて<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 13 | 13. 予防医学 ②：生活習慣病～高血圧・動脈硬化<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 14 | 14. 予防医学 ③：生活習慣病～糖尿病・脂質異常症<br>配布されたワークシートを完成させて提出する。 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>参考文献の関連部分を読む。 |
| 15 | 15予防医学 ④：生活習慣病～高尿酸血症(痛風)・骨粗鬆症 | 前回の授業内容を整理する。<br>配布資料の該当箇所を読む。 | 配布資料とノートを読み直す。<br>各講義の重要ポイントを確認する。 |

| 講義名 | 4010017000 医学一般Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　守人 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の三事項を到達目標とする。
1. 主な疾病の成り立ち、症状について説明できる。
2. 疾病の一般的な治療・予防法について説明できる。
3. 医学・医療分野の課題について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

医療・健康に関連した分野においては、幅広くかつ適格な専門的知識を身につけることが要求される。本講義では、主要な疾病の成因と病態、診断と治療および予防対策について、視聴覚教材を用いて理解を深めながら学習する。また、医学・医療の分野における最近の話題についても考察する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験および講義でのワークシートの完成度により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

ワークシートの解答を公開する。
期末試験の成績に疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

佐藤良暢監修「臨床病態学」第5版、中島　泉著「医学概論」南江堂
その他、講義中に紹介する。

## 講義時使用テキスト

特にテキストは使用しない。
必要な資料・プリント等は、適宜、講義において配布する。

## 資格との関連

健康管理士一般指導員取得のための対応科目である。
社会福祉士指定科目(選択科目)の対応科目である。
教科「保健」、「看護」免許状取得希望者の必修科目である。
トレーニング指導者(JATI)取得のための一般科目の対応科目である。

## 学生へのメッセージ

人体の構造と機能についての知識を整理しておくこと、また、多くの専門用語が出てくるので復習して確実に理解しておくことが必要である。

## 実務との関連

医師として病院に勤務。実務経験をもとに主な疾患の概要と対処法について話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 疾患の成因について | シラバスに 目を 通しておく。<br>医学一般の 知識を 整理しておく。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 2 | 2. 疾病によるからだの変化 ①:細胞・組織の 傷害と 修復<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 3 | 3. 疾病によるからだの変化 ②:循環障害、炎症、代謝障害、腫瘍<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 4 | 4. 疾病によるからだの変化 ③:老化と 老年病(認知症を 含む)<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 5 | 5. 疾病によるからだの変化 ④:遺伝と 先天性疾患<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 6 | 6. 主要な疾患とその 対応 ①:循環器系<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 7 | 7. 主要な疾患とその 対応 ②:呼吸器系<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 8 | 8. 主要な疾患とその 対応 ③-1:消化器系(口腔・消化管)<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 9 | 9. 主要な疾患とその 対応 ③-1:消化器系(肝・胆・膵)<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 10 | 10. 主要な疾患とその 対応 ④:内分泌・造血器系<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 11 | 11. 主要な疾患とその 対応 ⑤:腎・泌尿器系<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 12 | 12. 主要な疾患とその 対応 ⑥:脳神経系<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 13 | 13. 主要な疾患とその 対応 ⑦:運動器・感覚器系<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 14 | 14. 主要な疾患とその 対応 ⑧:免疫・アレルギー<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>参考文献の 関連部分を 読む。 |
| 15 | 15. 医学・健康のトピックス<br>配布されたワークシートを 完成させて 提出する。 | 前回の授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。<br>各講義の 重要ポイントを 確認する。 |

| 講義名 | 4010018000 心理学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　直子 | | |

## 学習目標(到達目標)

次の2点を目標とする。
①人間の心理や行動に関する基本原理や関連する概念について説明できるようになること。
②学んだ知識を日常生活の諸場面に当てはめて説明できるようになること。

## 授業概要(教育目的)

「心」の科学である心理学は近年目覚ましい発展を遂げて，その研究領域も大きく広がってきている。そしてまた一方で，今日の社会においては「心」に関わる数々の問題がクローズアップされてきており，心理学は人間理解の学問として重要性を高めている。授業では，幅広い研究領域の中でも基礎的な分野，特に学習・記憶・思考・社会・パーソナリティ・感情・発達といった分野を取り上げ，人間行動における普遍的な法則性について講義形式で解説する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

期末考査やリアクションペーパー，授業中の発言等より総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 「はじめて出会う心理学　改訂版」 有斐閣アルマ

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない

## 資格との関連

認定心理士

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション/心理学の特徴とその歴史 | 心理学とはどういう学問か，ネットや本で調べてみる。<br>また自分なりに考えてみる。 | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 2 | 記憶1(記憶の情報処理モデル/短期記憶と長期記憶) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 3 | 記憶2(記憶の定着と変容，忘却) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 4 | 学習1(馴化とその応用/古典的条件づけ) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 5 | 学習2(オペラント条件づけと観察学習) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 6 | 思考1(問題解決/推論) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 7 | 思考2(確率判断/意思決定) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 8 | 社会1(対人認知/態度変容) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 9 | 社会2(同調行動/攻撃行動/援助行動) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 10 | 社会3(服従/集団行動) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 11 | 感情・欲求・動機づけ1(感情と身体反応/感情理論) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 12 | 感情・欲求・動機づけ2(内発的動機づけと外発的動機づけ/葛藤と欲求不満/欲求階層説/感情制御の方略) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 13 | 発達1(発達段階と発達課題) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 14 | 発達2(乳幼児期の発達特徴/児童期以降の発達特徴) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 15 | パーソナリティ(類型論と特性論/診断法) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。<br>講義全体の復習をし，期末試験に備える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010018001 心理学（再履修） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　直子 | | |

## 学習目標(到達目標)

次の2点を目標とする。
①人間の心理や行動に関する基本原理や関連する概念について説明できるようになること。
②学んだ知識を日常生活の諸場面に当てはめて説明できるようになること。

## 授業概要(教育目的)

「心」の科学である心理学は近年目覚ましい発展を遂げて，その研究領域も大きく広がってきている。そしてまた一方で，今日の社会においては「心」に関わる数々の問題がクローズアップされてきており，心理学は人間理解の学問として重要性を高めている。授業では，幅広い研究領域の中でも基礎的な分野，特に学習・記憶・思考・社会・パーソナリティ・感情・発達といった分野を取り上げ，人間行動における普遍的な法則性について講義形式で解説する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

期末考査やリアクションペーパー，授業中の発言等より総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

長谷川寿一・東條正城・大島尚・丹野義彦・廣中直行 「はじめて出会う心理学　改訂版」 有斐閣アルマ

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない

## 資格との関連

認定心理士

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション/心理学の特徴とその歴史 | 心理学とはどういう学問か，ネットや本で調べてみる。<br>また自分なりに考えてみる。 | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 2 | 記憶1(記憶の情報処理モデル/短期記憶と長期記憶) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 3 | 記憶2(記憶の定着と変容，忘却) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 4 | 学習1(馴化とその応用/古典的条件づけ) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 5 | 学習2(オペラント条件づけと観察学習) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 6 | 思考1(問題解決/推論) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 7 | 思考2(確率判断/意思決定) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 8 | 社会1(対人認知/態度変容) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 9 | 社会2(同調行動/攻撃行動/援助行動) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 10 | 社会3(服従/集団行動) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 11 | 感情・欲求・動機づけ1(感情と身体反応/感情理論) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 12 | 感情・欲求・動機づけ2(内発的動機づけと外発的動機づけ/葛藤と欲求不満/欲求階層説/感情制御の方略) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 13 | 発達1(発達段階と発達課題) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 14 | 発達2(乳幼児期の発達特徴/児童期以降の発達特徴) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。 |
| 15 | パーソナリティ(類型論と特性論/診断法) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直し，復習テストに取り組む。<br>講義全体の復習をし，期末試験に備える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010019000 解剖学・生理学（運動生理学を含む） I | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.解剖学と生理学の定義について述べることができる。
2.人体について各種構造の名称を理解し、どのように構築されているかを述べることができる。
3.人体を構成する器官系についての一般的な機能を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

ヒトの身体について、その基本の構造(解剖学)と機能(生理学)を学び、健康を保持するために身体かどのようにして自己を維持し、生命活動を営んでいるか、また日常生活や運動時においてとのような機能を果たしているかを総合的に学習する。とくに解剖学・生理学にては人体の仕組みについての基礎的知識、消化器系、泌尿器系、呼吸器系、循環器系ついて系統的に学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績評価は授業中の小試験と学期末に実施する客観試験で行う。

## 課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績に疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

講義内で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

読んでわかる解剖生理学、竹内修二、医学教育出版
解いてわかる解剖生理学−問題集−、竹内修二、医学教育出版

## 資格との関連

教科「保健体育」、「保健」、「看護」、「養護教諭」免許状取得希望者の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・授業は映像資料による学習を交えて行う。講義内容をより理解するために、図書館で講義に関係した専門書や動画を借り、復習するなどの努力をすること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 解剖学・生理学の基礎知識(1):解剖学・生理学の定義、領域 | 予め、シラバスで講義の到達目標を理解し、講義計画を調べておく。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 2 | 解剖学・生理学の基礎知識(2):人体の構造と機能を学ぶために | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 3 | 解剖生理学を学ぶ基礎知識(3):人体はどのようなものか、細胞・組織・器官(臓器)・器官系 | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 4 | 消化器系(1):消化器系の全景・消化と吸収 | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 5 | .消化器系(2):消化管の構造と機能について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 6 | 消化器系(3):肝臓・胆のう・膵臓の機能と機能について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 7 | 泌尿器系(1):泌尿器の構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 8 | 泌尿器系(2):泌尿器の機能について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 9 | 呼吸器系(1):呼吸器の構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 10 | 呼吸器系(2):呼吸運動について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 11 | 呼吸器系(3):ガス交換とガスの運搬について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 12 | 循環器系(1):心臓・血管・リンパ管の構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 13 | 循環器系(2):心臓の機能、心電図について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 14 | 循環器系(3):血管・リンパ管の機能、血圧について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 15 | 運動時における呼吸循環器系・エネルギー代謝について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |

| 講義名 | 4010020000 解剖学・生理学（運動生理学を含む）Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 内分泌腺と外分泌腺の違いを理解し、ホルモンの作用機構を説明できる。
2. 骨格系の一般的な機能や骨格筋の機能および構造を説明できる。
3. 神経系の器官と区分を挙げ、システムとしての統括的な機能を説明できる。
4. 感覚器官の機能と主要な感覚を説明できる。
5. 男性・女性生殖系の構造と機能や受精から出生までの胎児期の変化を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

解剖学・生理学(運動生理学を含む)Ⅰに引き続き、健康を保持するために、身体がどのようにして自己を維持し、生命活動を営んでいるか、また日常生活においてどのような機能を果たしているかを総合的に学習する。とくに解剖学・生理学(運動生理学を含む)Ⅱでは骨格系、筋系、神経系、内分泌系、生殖器系、感覚器系、体液・血液について系統的に学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績評価は授業中の小試験と学期末に実施する客観試験で行う。

## 課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績に疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

講義内で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

読んでわかる解剖生理学、竹内修二、医学教育出版
解いてわかる解剖生理学-問題集-、竹内修二、医学教育出版

## 資格との関連

教科「保健体育」、「保健」、「看護」、「養護教諭」免許状取得希望者の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・授業は映像資料による学習を交えて行う。講義内容をより理解するために、図書館で講義に関係したビデオを借り、復習するなどの努力をすること。
・解剖学・生理学(運動生理学を含む)Ⅰの単位を取得していることが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 骨格系(1)骨の構造について | 予め、シラバスで講義の到達目標を理解し、講義計画を調べておく。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 2 | 骨格系(2)各部の骨格について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 3 | 筋系(1)筋の構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 4 | 筋系(2)筋の機能について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 5 | 運動生理学と骨格筋系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 6 | 神経系(1)中枢神経系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 7 | 神経系(2)末梢神経系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 8 | 運動生理学と神経系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 9 | 内分泌系(1)内分泌腺と内分泌細胞について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 10 | 内分泌系(2)ホルモンによる調節について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 11 | 運動生理学と内分泌系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 12 | 生殖器系(1)男性の生殖器について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 13 | 生殖器系(2)女性の生殖器について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 14 | 感覚器系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 15 | 体液・血液について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |

| 講義名 | 4010021000 公衆衛生学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・健康の概念やそれに関わる保健の概念を説明できる。
・世界の健康問題について理解できる。
・健康と環境の関係の概要を理解できる。
・我が国の健康状況の実態について理解できる。
・感染症の成立とその対策を理解できる。
・社会保障の枠組みを理解できる。
・ライフステージごとの保健活動について理解できる。

## 授業概要(教育目的)

公衆衛生学は健康の保持・増進を組織化された共同社会の中で社会的努力によって、疾病の予防、寿命の延長そして身体的・精神的健康と能率の増進を目指す学問である。ヒトを含む生物は環境のもとで」生存し、生活している。健康に関係する様々な要因を認識し、それらが起因する健康影響について、環境要因やライフステージの特性との関連を整理する。さらにそれらの健康障害を予防するための様々な保健活動について学習し、積極的な健康獲得の重要性を理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験や授業時に行う小テストにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

毎回、授業の開始時に前回の要点を話し、実施した小テストの模範解答を示して説明を行う。さらに要所で内容確認を行うことで授業のつながりを円滑にし、課題となる部分の理解度を深めるよう努める。

## 講義時使用テキスト

「新編 衛生・公衆衛生学」 山本玲子　監修者(アイ・ケイコーポレーション)
必要に応じてプリントも配布する。

## 参考文献

「厚生の指標・増刊－国民衛生の動向 2025/2026」厚生統計協会(財)
「厚生の指標・増刊－国民の福祉と介護の動向 2025/2026」厚生統計協会(財)
「厚生の指標・増刊－保険と年金の動向 2025/2026」厚生統計協会(財)
「令和6年版 厚生労働白書」厚生労働省 編
「なるほどなっとく！公衆衛生学」中村好一・春山早苗編 （南山堂）

## 資格との関連

積極的な健康の獲得とそのための一次予防を基本とする公衆衛生学は、医療保健領域における種々の資格取得に必要な基礎的知識である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・医学一般、健康教育論の単位を取得していることが望ましい。
・必要に応じてDVD等の視聴も行い、理解を深める。
・全回出席を基本とする。1/3以上欠席した場合、単位未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 公衆衛生学概論<br>(健康の 概念、公衆衛生の定義・役割) | シラバスで 講義の 到達目標を 確認し、講義計画に目を 通しておく | 講義内容を整理する |
| 2 | わが国・世界の 健康問題と 国際保健<br>(プライマリヘルスケア～SDGs、国際協力、WHO) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 3 | 環境と 健康①<br>(環境の 概念、生態系のシステム、環境要因、健康のリスク) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 4 | 環境と 健康②<br>(暮らし・地域・地球規模の 環境問題の 概要)<br>人口統計からみた 健康状態①<br>(人口静態統計) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 5 | 人口統計からみた 健康状態②<br>(人口動態統計、健康寿命) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 6 | 保健統計からみた 健康状態<br>(健康・疾病・行動に 関わる統計) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 7 | 疫学による 健康状態・疾病の 測定と 評価<br>(疫学の 方法、疫学研究と 倫理) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 8 | 疾病予防と 健康管理<br>(生活習慣の 現状と 対策) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 9 | 主要疾患の 疫学と 予防①<br>(生活習慣病の 動向と 予防対策) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 10 | 主要疾患の 疫学と 予防②<br>(感染症の 動向と 予防対策) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 11 | 地域保健活動<br>(保健所と 市町村保健センターの 役割、有事の 保健活動) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 12 | 社会保障のしくみ<br>(医療、年金、保健、介護の 動向) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 13 | ライフステージごとの 健康対策①<br>(母子保健、学校保健) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 14 | ライフステージごとの 健康対策②<br>(成人・高齢者保健、産業保健)<br>まとめ | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 15 | 公衆衛生活動のまとめ | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を 整理し、全体をまとめる |

| 講義名 | 4010022000 衛生学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.衛生学の概念を説明できる。
2.環境と健康のかかわりについて理解できる。
3.水・空気などの基本的な環境要因について理解できる。
4.身近な生活環境の汚染、公害、地球規模の環境問題について理解できる。
5.環境保全の重要性を理解し、環境汚染によって生じる健康影響を例を挙げて説明できる。

## 授業概要(教育目的)

"衛生"の"生"は生命や生活であり、"衛"はそれを保護し守るという意味をもつ。衛生学は健康を守り、増進するための、よりよい生活環境を実現するために必要な知識の習得を行う科目である。人間を取り巻く自然環境や社会的環境などの変化に伴い、疾病構造も変遷しており、健康問題も多様化してきている。この授業では、我々を取り巻く様々な環境の存在を理解し、とくに生態系を形成する自然環境と健康のかかわりについての基本的な知識を身につける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する予防医学的な学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験や小テストにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

授業開始時に、前回の要点を復習するとともに小テストの模範解答を示して説明を行い、引続き、当日の授業を進めることで、授業内容の関連性を保ちながら授業を進め、理解度のアップや課題解決に努める。

## 参考文献

「厚生の指標・増刊－国民衛生の動向　2025/2026」厚生統計協会(財)
「環境科学入門　第2版」 川合真一郎他　(講談社)
「環境白書 令和7年版」環境省 編

## 講義時使用テキスト

「新編　衛生・公衆衛生学」監修者　山本玲子(アイ・ケイコーポレーション)を前期「公衆衛生学」に引き続き使用する。
必要に応じてプリントも配布する。

## 資格との関連

環境要因の人間の健康への関わりを理解することは、医療保健領域における種々の資格取得のための基礎的知識の習得となる。

## 学生へのメッセージ

・ニュース、新聞等で報じられる環境問題に関する出来事や記事について常に関心を持って欲しい。
・必要に応じてDVD等の視聴も行い、理解を深める。
・全回出席を基本とする。1/3以上欠席した場合、単位未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 概論<br>(環境衛生分野の各論の紹介) | シラバスで講義の到達目標を確認し、講義計画に目を通しておく | 講義内容を整理する |
| 2 | 環境とは、地球の成り立ち<br>(生態系の仕組み、生物多様性、地球の歴史・構造) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 3 | 気象・気候と健康<br>(気象・気候要因と健康、季節病)<br>大気環境と健康①<br>(大気の正常成分) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 4 | 大気環境と健康②<br>(大気の有害成分) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 5 | 気圧と健康<br>(気圧の変化と健康影響)<br>温熱環境と健康<br>(温熱要因と健康影響) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 6 | 水環境と健康①<br>(水の役割、上水道整備・水質基準) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 7 | 水環境と健康②<br>(下水道整備、水質汚濁指標) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 8 | 電磁波と健康①<br>(電離放射線の種類と健康影響) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 9 | 電磁波と健康②<br>(非電離放射線の種類と健康影響) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 10 | 食環境と健康①<br>(食中毒の概要、病原微生物による食中毒) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 11 | 食環境と健康②<br>(自然毒による食中毒) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 12 | 食環境と健康③<br>(近年の食環境問題) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 13 | 暮らしの環境問題<br>(廃棄物の現状・リサイクル) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 14 | 地域の環境問題<br>(公害) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 15 | 地球規模の環境問題<br>(温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨)<br>まとめ | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理し、全体をまとめる |

| 講義名 | 4010023000 小児保健 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 宮澤　君子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 子どもの健康の保持増進について、発育発達・運動・栄養・睡眠、疾病と障害、事故と安全、環境や施策など総合的に理解し説明できる。
2. 将来、医療・保健・福祉および教育の現場で働くことを希望する学生は、職場で役立つよう
実践的な知識を身につける。

## 授業概要(教育目的)

小児保健は、子どもの健康を守り、健康を増進させることを科学する学問である。子どもたちの心身が健全に発育するためには、単に身体的発育や精神運動発達だけにとどまらず、栄養、運動、睡眠といった健康づくりのほか、生活環境や母子関係、事故と安全教育、保健行政や施策といったことも大きく関係する。また、小児期に多い疾病や発達の障害を正しく理解することは、疾病の予防や障害の早期発見、療育を考える上でも大切なことである。
本講義では、これら小児の健康について概説し、子育て支援や児童虐待など今日的な問題も取り上げながら、総合的理解を目指す。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視し、リアクションペーパーや授業態度なども参考にしながら総合的に評価をする。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

小林美由紀　編著「授業で現場で役に立つ　子どもの健康と安全　演習ノート」改訂第3版　診断と治療社
榊原洋一　監修『これならわかる！子どもの保健演習ノート　改訂第3版追補』診断と治療社

## 講義時使用テキスト

小林美由紀　編著「授業で現場で役に立つ！　子どもの保健テキスト改訂第3版」診断と治療社

## 資格との関連

中学校教諭1種免許状(保健体育)、高等学校教諭1種免許状(保健体育)

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
人間発達学を履修していることが望ましい。
欠席の多い学生はレポートを課す。
テキストは事前に目を通してください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 子どもの健康と保健の意義<br>子どもの健康に関すると思われる内容のお勧め絵本を紹介するレポートを提出する。 | 「WHOの健康の定義」、「子どもの年齢区分」、「子どもの権利条約」という言葉を調べてくること。 | 配布プリントを読み返す。あとで教科書を読む。 |
| 2 | 子どもと家族の諸統計 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布したプリントで理解が不十分なところは自分で調べてみる。教科書を読む。 |
| 3 | 子どもの発育・発達と保健<br>子どもの身体発育と評価の仕方 | 「パーセンタイル曲線」とは何か、調べてくること。<br>教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 4 | 生理機能の発達と保健 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 5 | 運動機能・精神機能の発達と保健<br>精神・運動機能の評価 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 6 | 子どもの生活習慣と健康<br>チャイルド・マウスとチャイルド・ビジョンを作成して、誤飲のチェックと視野体験についてレポートを提出する。 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 7 | 子どもの健康状態の観察 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 8 | 子どもの感染症、感染症の予防 | 予防接種について調べる。<br>教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 9 | 子どもの救急処置 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 10 | 新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 11 | 子どものアレルギー疾患 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 12 | 子どもの慢性疾患 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 13 | 地域における保健活動と子どもの虐待防止 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 14 | 子どもの健康診断と関連機関との連携 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |
| 15 | 子どもと家族を取り巻く社会 | 教科書を必ず読んでくること。 | 配布プリントを用いて、教科書の重要な記述部分を読み返しておくこと。 |

| 講義名 | 4010024000 精神保健 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 心の健康の保持増進について、多角的に理解を深めるとともに、将来の職業もしくは自らの生活に応用することができる。
2. 精神障害を正しく理解し、治療や予防、生活支援について説明ができる。

## 授業概要(教育目的)

精神的な健康を保持増進するためには、精神の健康と不健康についての概念や、ライフサイクルおよび家庭・学校・職場・地域における精神保健の知識は不可欠である。また、統合失調症その他精神障害、発達障害、心身症といった疾病や障害についても正しく理解をする必要がある。

将来、養護教諭や医療・保健・福祉従事者になった場合に、個人や集団、もしくは疾病や障害のある人々への予防活動や援助活動を行うために必要な基礎的知識を獲得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

筆記試験を重視する。このほか、受講態度やミニッツペーパー等より総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

中央法規出版『こころの医学入門―医療・保健・福祉・心理専門職をめざす人のために』
そのほかの参考文献は、講義中に随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

日本評論社『精神医学ハンドブック[第8版]医学・保健・福祉の基礎知識』

## 資格との関連

中学校教諭1種免許状(保健体育)、高等学校教諭1種免許状(保健体育)、養護教諭1種免許状
※社会福祉士受験資格取得希望者においては、同資格の業務の性質や国家資格取得を鑑み、単位取得することを求める

## 学生へのメッセージ

欠席が多い場合は学期末試験を受けることができない。
テキストは目を通しておくこと。
授業中のスマートフォンおよびタブレット端末の操作、その他授業に関係ない言動は厳禁とする。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、精神保健の基礎 | 精神保健の基礎について教科書等で確認する | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 2 | 精神保健の歴史 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 3 | 原因と症状と診断・治療・支援 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 4 | 心身症、神経症・ストレス関連障害 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 5 | 気分症群 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 6 | 統合失調症 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 7 | 脳の急性・慢性障害 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 8 | 睡眠・摂食・性関連障害 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 9 | 物質使用症と嗜癖行動症 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 10 | 児童・青年期精神医学 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 11 | 特別支援教育における合理的配慮、インクルーシブ教育 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 12 | 性格のかたより | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 13 | 精神保健福祉法と司法精神医学 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 14 | 地域精神医療、リエゾン精神医学 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |
| 15 | まとめ―精神保健の展望 | 講義について関連する文献やインターネットで調べる。 | 講義の内容を整理し、自らの生活や体験とのつながりを考えること。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010025300 研究演習Ⅰ　宮澤・遠藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 宮澤　君子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・保健・養護教諭や健康管理士一般指導員資格取得に必要である基本的な医学・看護の知識について説明できる。
・習得した医学的知識を活用した地域活動ができる。
・医療・看護に関連したテーマの論文／レポートを作成し、プレゼンテーションすることができる。

## 授業概要(教育目的)

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員等、その他医療・健康業務に関連した資格等を得るために必要な医学的知識とその活用方法を修得することを目標とする。
　医療・健康についての関心が高まっている現代の社会においては、マスメディア等を通して医学的知識に関して多くの情報を得ることができる。しかしながら、その情報の全てが正確性を保証されているとは限らず、一部で誤解や混乱を招きかねない実情がある。そういった中で、社会全体の医療・健康問題をレベルアップしていくためには、様々な知識・情報を的確に判断、整理し、周囲へ伝達していく能力を持った人材の育成が不可欠である。本ゼミでは、基本的な医学的知識を整理するとともにその具体的な活用方法を学び、職場や地域社会での健康管理の分野においてリーダー・シップを発揮できる能力を有する人材を育成する。
　＜2年次＞　基礎知識の整理：健康管理士テキストや一般の家庭医学書などを参考に学習(随時、プレゼンテーションやレポート作成)や医療・健康トピックスについての討論を行うとともに、健康に関係するボランティア活動などを通して地域の健康状況の把握を行い、情報収集能力を高める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミ活動全般を通して、各々の活動状況やディスカッション・発表時における参加態度、課題として作成されたレポート・論文の完成度等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする

## 参考文献

ゼミ活動内で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員資格取得を目指す。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　ゼミにおいては単に知識の獲得のみならず、学んだことを実践で応用していく活動が重要視される。自らが主体となって積極的に課題に取り組む姿勢が不可欠であり、より高いレベルの専門知識・情報の吸収を心がけることで卒業後の実社会につながるゼミ活動を目指す。
　以上のことを念頭においてゼミに参加することを希望する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習ガイダンス | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 2 | 課題学習①：研究課題希望提出 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 3 | 課題学習②：文献探索・資料収集 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 4 | 課題学習③：文献・資料の 熟読 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 5 | 課題学習④：文献・資料の 要約 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 6 | 課題学習⑤：文献・資料のプレゼン | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 7 | 課題学習⑥：発表内容についての意見交換 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 8 | 健康調査についての基本事項の学習① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 9 | 健康調査についての基本事項の学習② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 10 | 健康調査の予行練習① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 11 | 健康調査の予行練習② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 12 | 健康調査についての振り返り① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 13 | 健康調査についての振り返り② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 14 | 研究演習Ⅰの成果の提出 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 15 | 研究演習Ⅰの総括と反省 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |

| 講義名 | 4010025305 研究演習Ⅰ　井元ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

「健康」に関するテーマを各自設定し、テーマに沿った文献調査、発表ができる力を養う。

## 授業概要(教育目的)

「健康」について主に栄養や食生活の側面からゼミで考えていきます。

〈2・3年次〉
関連する文献を輪読、各自でテーマ設定をして文献調査を行いプレゼンテーションするなど行っていきます。
また、短大・大学生を対象とした食生活調査を実施しデータ集計・分析を行います。

〈4年次〉
各自が設定したテーマに基づき、調査・実験を行い、その結果を研究演習レポートをまとめる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

演習中の態度、提出課題、発表内容により評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績を知りたい学生には個別に対応する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
欠席は原則的に認めません。
各自責任を持って積極的にゼミ運営に関わってください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス<br>テーマの決め方、文献検索方法を理解する<br>今後のスケジュール調整 | シラバスを読む | 講義内で指示された内容について振り返る。テーマについて考え、文献を検索してみる。 |
| 2 | 検索した文献の発表・報告レポートの書き方 | テーマについて考え、文献を検索し、文献を一つ選び出す。 | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 |
| 3 | レポート発表1　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 4 | レポート発表2　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 5 | レポート発表3　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 6 | レポート発表4　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 7 | レポート発表5　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 8 | レポート発表6　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 9 | レポート発表7　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 10 | レポート発表8　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 11 | レポート発表9　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 12 | レポート発表10　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 13 | レポート発表11　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 14 | レポート発表12　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 15 | まとめ<br>半年間で調べた内容について、報告書作成・提出 | 半年間で調べた内容について、報告書を作成し、提出。 | これまでの振り返りを行い、次年度の目標を立てる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010025310 研究演習Ⅰ　浜中ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.養護教諭が作成する「健康便り」に関する文献、資料を収集し、「健康便り」の目的、作成のしかたについて知識を深める。
2.「健康便り」の作成・意見交換を通して、養護教諭が担う健康教育の目的・方法について理解を深める。
3.教員採用試験の過去問の傾向を知り、今後の学習計画を立案する。

## 授業概要(教育目的)

養護教諭は、学校保健の推進に当たって中核的な役割を担っている。養護教諭に求められる能力としては、
①学校における看護能力、②カウンセリング能力、③情報収集・処理能力、情報発信能力、④教育力・指導力、⑤企画力・実行力、⑥連携能力・調整能力、⑦研究能力があげられている。このような資質を備えた養護教諭になるために、学習を重ねて教員採用試験を突破することを切に願うものである。
研究演習Ⅰの目的は、上記養護教諭に求められる能力のうち、特に③④⑤の力をつけること、また、教員採用試験の合格を目指して、教員採用試験の過去問の傾向を知り、今後の学習計画を立案することである。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と課題への取り組み、内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題は次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

随時、紹介する。

## 講義時使用テキスト

テキストはなし。必要な文献は随時紹介する。

## 資格との関連

養護教諭一種免許状の資格取得を目指す。

## 学生へのメッセージ

1.養護教諭の資格取得希望者、健康について学習を深めたい方の積極的参加を期待する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、養護教諭に求められる能力 | 養護教諭に求められる能力について調べる。 | 配布資料を読み直す。 |
| 2 | 「健康だより」の意義・目的 | 「健康だより」の意義・目的について調べる | 配布資料を読み直す。 |
| 3 | 「健康だより」の教育効果を高めるには | 「健康だより」の教育効果を高めるための創意・工夫について調べる | 配布資料を読み直す。 |
| 4 | 「健康だより」の調査内容の報告、意見交換 | 各自、文献準備し説明のポイントを整理する。 | 配布資料を読み直す。 |
| 5 | 「健康だより」の作成① テーマ・対象の決定 | 各自、テーマ・対象の決定理由の説明準備をする。 | 配布資料を読み直す。 |
| 6 | 「健康だより」の作成② 作業 | 前回の授業内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を読み直す。 |
| 7 | 「健康だより」の作成③ 完成 | 前回の授業内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を読み直す。 |
| 8 | 発表・意見交換、「健康だより」の掲示 | 前回の授業内容を整理し、論点を整理する。 | 配布資料を読み直す。 |
| 9 | 個人面談 | 各自の抱負や相談事項を整理する。 | 個人面談の結果、今後の抱負を整理する |
| 10 | 教員採用試験に向けての準備① 卒業生の取り組みの紹介 | 教員採用試験に向けての準備についてインターネットで調べる。 | 各自の取り組み方ついて整理する |
| 11 | 教員採用試験に向けての準備② 過去問 | 試験範囲について学習する | 過去問題の結果、不明な箇所について調べる |
| 12 | 教員採用試験に向けての準備③ 過去問 | 試験範囲について学習する | 過去問題の結果、不明な箇所について調べる |
| 13 | 教員採用試験に向けての準備④ 過去問 | 試験範囲について学習する | 過去問題の結果、不明な箇所について調べる |
| 14 | 教員採用試験に向けての準備⑤ | 試験範囲について学習する | 過去問題の結果、不明な箇所について調べる |
| 15 | 今年度のまとめ、次年度の計画立案、個人面談 | 各自の抱負の達成状況、今後の目標、相談事項を整理する。 | 個人面談の結果、今後の抱負を整理する |

| 講義名 | 4010025315 研究演習Ⅰ　渡邉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

運動における身体の機能的変化、スポーツ動作について説明できる。
学術論文を探し、読むことができる。
研究方法について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本演習においては、主に運動に対する身体の生理的な反応や動きのメカニズムについて学ぶとともに、さまざまなスポーツの特性を理解し、自らが競技力の向上のために何が必要なのか課題を見つけること、また見つけた課題に対し、調査や測定、分析を行うことで客観的な資料を収集し、課題を解決するための方法を見つけることを目的とする。内容は各種スポーツ種目(球技種目を主とする。)の身体的、技術的な特性やルール等について理解するために、調査や実習を予定している。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

発表、レポート、参加態度など総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメについて、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

授業内で必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

なし

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
学生は常に何らかの課題を与えられている状態となる。1人が欠席すると他のゼミ生の活動に影響が出ることもあるので、原則として欠席は認めない。受け身ではなく、積極的に行動できる学生に参加していただきたい。

【授業外活動】
南部町、階上町でおこなわれている介護予防教室に参加する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習の進め方 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 2 | 輪読会①(運動生理学等の本を担当者がまとめ発表) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 3 | 輪読会②(運動生理学等の本を担当者がまとめ発表) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 4 | 輪読会③(運動生理学等の本を担当者がまとめ発表) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 5 | 輪読会④(運動生理学等の本を担当者がまとめ発表) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 6 | 輪読会⑤(運動生理学等の本を担当者がまとめ発表) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 7 | 輪読会⑥(運動生理学等の本を担当者がまとめ発表) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 8 | 輪読会⑦(運動生理学等の本を担当者がまとめ発表) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 9 | 輪読会⑧(運動生理学等の本を担当者がまとめ発表) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 10 | 模擬授業①(実技) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 11 | 模擬授業②(実技) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 12 | 模擬授業③(実技) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 13 | 模擬授業④(実技) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 14 | 模擬授業⑤(実技) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |
| 15 | 模擬授業⑥(実技) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容をノートにまとめる |

| 講義名 | 4010025316 研究演習Ⅰ　金地ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 質問紙調査を中心に心理学の研究手法の技術を習得している
2. 興味のあるテーマについて心理学的研究を実施し、考察することができる
3. 研究結果をレポート(論文)にまとめることができる

## 授業概要(教育目的)

心理学の研究および現場ではさまざまな目的で質問紙による調査(測定)が行われています。その目的は以下の4つに大きく分けて考えることが出来ます。
1. 性格の測定
2. 気分、感情、ストレス度などの測定
3. 意識(態度)調査(いわゆる「アンケート調査」)
4. 印象評定(イメージの測定)
本演習では上記4つの中で特に「3. 意識(態度)調査」に焦点を絞り、質問紙調査の実施方法を習得してもらうことを目的とします。意識調査(アンケート調査)と聞くと、あるテーマについて適当に質問を並べて回答を貰い、結果を集計すれば良いと考えている人も少なくないかもしれません。ただし、本演習ではそのような表面的な意識調査ではなく、心理学の研究として行われる意識(態度)調査の実施方法を学びます。そのためには、質問紙調査を用いた心理学の学術論文(文献)を読み、心理学の研究で質問紙調査がどのように使われているか、どのような方法で行われているかを学ぶ必要があります。また、質問紙の回答を集計する際には統計を用いた分析が必要となります。本演習では質問紙の結果解析に必要な統計手法も学んでいただきます。最終的には、各自テーマを設定して質問紙調査を行い、結果を分析し、卒業論文としてまとめて提出していただきます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業の参加態度およびレポート課題(卒業論文)の内容を踏まえ、総合的に判断します。

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および提出課題(レポート)の評価については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　通常の講義と異なり、ほぼ毎回の授業で何か課題を設定し、作業を行います。授業への積極的な参加、また期限内のレポート課題の提出を求めます。なお授業の欠席、遅刻は厳禁とします(共同で作業を行うことが多いので、他のゼミ学生が迷惑します)。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(心理学の研究手法と質問紙調査について) | 心理学で行われている質問紙調査について図書館やネットを用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する。 |
| 2 | 性格検査(質問紙法)の実施 | 性格検査(心理検査)の3つの手法について図書館やネットを用いて調べる。 | 授業で実施した性格検査の結果をレポートにまとめる |
| 3 | 評定尺度を用いた気分評定の実施 | 気分や感情の測定手法について図書館やネットを用いて調べる | 授業で実施した気分評定の結果をレポートにまとめる |
| 4 | SD法を用いた印象評定の実施 | SD法(印象評定)について図書館やネットを用いて調べる。 | 授業で実施した印象評定の結果をレポートにまとめる |
| 5 | 質問紙の作成①:質問を作成する際の注意点について | 質問を作成する際の注意点について図書館やネットを用いて調べる。 | ・配布資料を読み返し、授業の内容を整理する。<br>・作成する質問紙のテーマを考える |
| 6 | 質問紙の作成②:作成する質問紙のテーマの決定 | 作成する質問紙のテーマを考える | 決定したテーマについて情報を収集し、質問を考える |
| 7 | 質問紙の作成③:質問の作成 | 決定したテーマについて情報を収集し、質問を考える | 引き続き決定したテーマについて情報を収集し、質問を精査する |
| 8 | 質問紙の作成④:質問の作成(つづき) | 引き続き決定したテーマについて情報を収集し、質問を精査する | 作成した質問文、回答選択肢(評定尺度)をWordに打ち込む |
| 9 | 質問紙の作成⑤:回答に用いる選択肢、評定尺度の作成 | 作成した質問の回答に用いる選択肢や評定尺度を作成する | 作成した質問文、回答選択肢(評定尺度)をWordに打ち込む |
| 10 | 質問紙の作成⑥:予備調査の実施 | 作成した質問文、回答選択肢(評定尺度)をWordに打ち込む | 予備調査で回答してもらった学生からの意見を参考にして、質問文、回答選択肢を修正する |
| 11 | 質問紙の作成⑦:質問紙の完成、印刷 | 修正した質問文、回答選択肢を用いてレイアウトを整えて質問紙を完成させる | 印刷した質問紙を持ち帰り、周囲の学生に配布し、回答してもらう |
| 12 | データ分析の準備①:回収した質問紙の整理 | 周囲の学生に配布し、回答してもらった質問紙を回収する | 質問紙のデータ入力の仕方についてネットを用いて調べる |
| 13 | データ分析の準備②:回答データの入力(エクセル) | 質問紙のデータ入力の仕方についてネットを用いて調べる | 授業内で作成したエクセルの回答データ入力ファイルに質問紙の回答を入力する |
| 14 | データ分析の準備③:回答データの入力(エクセル)(つづき) | 授業内で作成したエクセルの回答データ入力ファイルに質問紙の回答を入力する | 引き続き授業内で作成したエクセルの回答データ入力ファイルに質問紙の回答を入力する |
| 15 | データ分析の準備④:入力された回答データのエラーチェック | 引き続き授業内で作成したエクセルの回答データ入力ファイルに質問紙の回答を入力する | 別の学生とペアになり、入力された回答データのエラーチェックを実施する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010025319 研究演習Ⅰ　工藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3つの事項を到達目標とする。
1. スポーツ指導者としての基礎的知識、指導法およびコミュニケーション能力を身につける。
2. 学術論文を検索でき、要約することができる。
3. フィールドワーク活動へ参加し、正しい測定方法を身につけ、結果の説明ができる。

## 授業概要(教育目的)

「コーチングアシスタント」とは、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度における基礎資格として位置づけられており、資格取得後(本学では在学中に、所定の単位を取得することで卒業と同時に資格が得られる)は地域におけるスポーツ活動の定着化や活性化をサポートする存在として活躍が期待されるだけでなく、競技別指導者やフィットネス系資格などへとステップアップしていくことができる資格である。本演習の目的は、コーチングアシスタント資格取得を前提とし、スポーツ指導者としての基礎的知識、指導法およびコミュニケーション能力を身につけること、さらに分析者として映像や情報技術を駆使した分析技術を身につけることとする。また、今日ではスポーツに関わる指導者の在り方そのものが社会問題となっている。時代に則した指導方法を身につけ、3年間の研究演習を通じて、将来スポーツ指導者のみならずあらゆる分野において論理的かつ創造的に問題解決できる能力、そして教育的で心から力が湧いてくる楽しいコーチング技術を身につけてもらいたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と課題への取り組み、内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅡ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅢ」

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

本ゼミナール希望者は日本体育協会公認スポーツリーダー取得を前提とする。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習の進め方について | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 2 | 学術論文の検索方法(図書館) | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 3 | 学術論文の検索方法(インターネット) | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 4 | 発表準備 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 5 | 発表 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 6 | コーチング演習① | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 7 | コーチング演習② | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 8 | コーチング演習③ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 9 | コーチング演習④ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 10 | コーチング演習⑤ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 11 | コーチング演習⑥ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 12 | 身体特性および運動能力の測定 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 13 | フィールドワーク活動①　身体特性の測定 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 14 | フィールドワーク活動②　運動能力の測定 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 15 | フィールドワーク活動③　結果の説明 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010025325 研究演習Ⅰ　吉田守実ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な科学文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉分野における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、受講者の福祉観、研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

グループワーク、グループ活動を通した学習到達目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後、研究演習レポートを提出させる。その後次回まで添削し、研究演習レポートの完成を目指す。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

社会福祉協議会での実務経験をもとに、社会福祉の果たす役割と研究演習との関わりについて講話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | シラバスの内容を読み、今後の研究演習の方針を理解する。 | 次週までに研究テーマについて考える。 |
| 2 | 研究テーマについて考える。(1) | 調べた内容を整理する。 | テーマについてインターネットや図書館で調べておく。 |
| 3 | 研究テーマについて考える。(2) | 調べた内容を整理する。 | テーマについてインターネットや図書館で調べておく。 |
| 4 | 研究テーマについて考える。(3) | 調べたテーマを整理する。 | テーマのアプローチを考える。。 |
| 5 | 研究テーマの問題点を抽出する。(1) | 調べた内容を整理する。 | ゼミ中の生じた疑問とインターネットや図書館で調べておく。調べた内容をまとめておく。 |
| 6 | 研究テーマの問題点を抽出する。(2) | 調べた内容を整理する。 | ゼミ中の生じた疑問とインターネットや図書館で調べておく。調べた内容をまとめておく。 |
| 7 | 図書館で文献検索方法を学ぶ。<br>研究テーマの問題点の発表。 | 調べた内容を整理する。 | 図書館で文検索検索方法を整理し、自ら検索できるようにする。 |
| 8 | 医中誌等で文献検索を実践する。<br>検索した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 医中誌で調べて内容を整理しておく。 |
| 9 | 研究テーマに関する論文、記述を図書館で調べる。(1)<br>検索した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 生じた疑問をインターネットや図書館で調べ、調べた内容をまとめておく。 |
| 10 | 研究テーマに関する論文、記述を図書館で調べる。(2)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 生じた疑問をインターネットや図書館で調べ、調べた内容をまとめておく。 |
| 11 | 研究テーマに関する論文、記述を図書館で調べる。(3)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 生じた疑問をインターネットや図書館で調べ、調べた内容をまとめておく。 |
| 12 | 研究テーマに関する論文、記述を図書館で調べる。(4)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 生じた疑問をインターネットや図書館で調べ、調べた内容をまとめておく。 |
| 13 | 研究テーマに関連した論文を入手する。(1)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 入手した論文を読み、ノート等にまとめる。 |
| 14 | 研究テーマに関連した論文を入手する。(2)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 入手した論文を読み、ノート等にまとめる。 |
| 15 | 研究テーマに関連した論文を入手する。(3)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 入手した論文を読み、ノート等にまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010025326 研究演習Ⅰ　佐藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 佐藤　千恵子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・研究を行うために必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うために基本的な資料や文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。

## 授業概要(教育目的)

食生活のみならず、現状の社会における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、受講者の考察や研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

健康と食生活に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学習到達目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後、研究演習レポートを提出させる。その後次回まで添削し、研究演習レポートの完成を目指す。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

・あおもり食育検定資格取得
・食生活アドバイザー3級＆2級資格取得

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | シラバスの内容を読み、今後の研究演習の方針を理解する。 | 次週までに研究テーマについて考える。 |
| 2 | 研究テーマについて考える。(1) | 調べた内容を整理する。 | テーマについてインターネットで調べておく。 |
| 3 | 研究テーマについて考える。(2) | 調べた内容を整理する。 | テーマについてインターネットで調べておく。 |
| 4 | 研究テーマについて考える。(3) | 調べたテーマを整理する。 | テーマのアプローチを考える。。 |
| 5 | 研究テーマの問題点を抽出する。(1) | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べておく。調べた内容をまとめておく。 |
| 6 | 研究テーマの問題点を抽出する。(2) | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べておく。調べた内容をまとめておく。 |
| 7 | 図書館で文献および資料を検索する。(1) | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べておく。調べた内容をまとめておく。 |
| 8 | 図書館で文献および資料を検索する。(2) | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べておく。調べた内容をまとめておく。 |
| 9 | 研究テーマに関する論文、資料を図書館で調べる。(1) | 調べた内容を整理する。 | 生じた疑問について内容をまとめておく。 |
| 10 | 研究テーマに関する論文、資料を図書館で調べる。(2) | 調べた内容を整理する。 | 生じた疑問について内容をまとめておく。 |
| 11 | 研究テーマに関する論文、資料を図書館で調べる。(3) | 調べた内容を整理する。 | 生じた疑問について内容をまとめておく。 |
| 12 | 研究テーマに関する論文、資料を図書館で調べる。(4) | 調べた内容を整理する。 | 生じた疑問について内容をまとめておく。 |
| 13 | 研究テーマに関連した資料を入手する。(1)<br>入手した資料の要約整理。 | 調べた内容を整理する。 | 入手した論文を読み、ノート等にまとめる。 |
| 14 | 研究テーマに関連した資料を入手する。(2)<br>入手した資料の要約整理。 | 調べた内容を整理する。 | 入手した論文を読み、ノート等にまとめる。 |
| 15 | 研究テーマに関連した資料を入手する。(3)<br>入手した資料の要約整理。 | 調べた内容を整理する。 | 入手した論文を読み、ノート等にまとめる。 |

| 講義名 | 4010025330 研究演習Ⅰ　千葉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習で学んだレポート作成に関する知識と技術を応用し、下記の目標を達成することとする。
・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な科学文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てる準備ができる。

## 授業概要(教育目的)

本授業では以下を教育目的とする。
この演習は、1年生で学習した「基礎演習」と「プレゼンテーション」をもとに、研究とは何かを理解し、関心のある研究テーマを選んでまとめ上げていく力を高めることを目的とする。個人ごとに取り組んだ研究テーマについて発表しあい、ゼミメンバーとのあいだで意見交換をしあう形式で授業を進める。自分以外のテーマにもそれぞれがもつ意見を積極的に出し合って討論していく双方向の情報交換も取り入れ、各自、研究テーマについて「考え」、「表現する」能力を身につける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

各自、関心のある研究テーマを選定し、自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につける。

## 評価方法

この年次の達成目標を総合的に検討し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後、研究演習レポートを提出させ、次回まで添削し、研究演習レポートの完成を目指す。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

全回出席が基本。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | シラバスの内容を読み、今後の研究演習の方針を理解する。 | 授業内容を整理する |
| 2 | 「基礎演習」と「プレゼンテーション」の振り返り | 「基礎演習」と「プレゼンテーション」での学習内容を復習しておく | 授業内容を整理する |
| 3 | 研究分野を探す | 研究したい分野を考えておく | 授業内容を整理する |
| 4 | 研究テーマを探す① | 研究したいテーマの見つけ方を考えておく | テーマの検索方法で、インターネットや図書館利用など可能な方法を調べておく。 |
| 5 | 研究テーマを探す② | 自分でできる検索方法を確認する | 調べた内容を研究ノートに記録する |
| 6 | 研究テーマの報告 | 調べた内容の発表準備をする | 授業内容を整理する |
| 7 | 研究テーマの問題点の把握とテーマの再設定 | 前回の授業で得た情報から研究テーマを再検討しておく | 授業内容を整理する |
| 8 | 研究テーマに関する論文や記事の検索① | 研究テーマのキーワードを複数考えておく | 検索した論文や記事の入手の可否を調べておく |
| 9 | 研究テーマに関する論文や記事の検索② | 検索した論文や記事をキーワードごとに分類しておく | 学内で入手できない論文や記事を整理する |
| 10 | 論文や記事の入手方法を理解し、入手依頼する | 論文や記事の入手方法を考えておく | 授業内容を整理する |
| 11 | 入手できた研究テーマに関する論文、記事を読み、記録する① | 依頼した論文や記事の入手時期を確認する | 論文や記事を読む |
| 12 | 入手できた研究テーマに関する論文、記事を読み、記録する② | 研究ノートの記録を確認する | 論文や記事を読む |
| 13 | 依頼していた論文を入手し、読んで記録する | 研究ノートの記録を確認する | 研究テーマについて集めた情報を整理する |
| 14 | 研究テーマについての記録を整理する | 研究テーマについて整理した情報を確認する | 問題点や改善点を考える |
| 15 | 進捗状況など意見交換 | 意見交換したい事柄を整理する | 研究手法など、後期以降の進め方を考える |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010025331 研究演習Ⅰ　有光ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

■　医学・看護・福祉・栄養・心理・健康・環境・スポーツなどの幅広い分野において、自らの疑問・興味・課題を明確にして、学問探求に取り組む主体的な姿勢を身につけること

■　現代社会が求める健康ニーズ、地域の特性についての学びを知り、より豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力と行動力、優れたコミュニケーション能力の育成を目指すこと

■　研究を行うための必要なスキルを習得するために、情報を適切な方法で検索すること、基本的な科学文献を読むこと、その内容を理解できること、得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立案するための準備ができること

## 授業概要(教育目的)

■　現状社会における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、受講者の考察や研究力を涵養する

■　からだとこころの健康に関する幅広い学問領域において、思考の活性化を誘導し、自身の考えをまとめ、文章として表現し、明確に他者へ伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を目指した教育内容を配置する

■　第4年次開講「研究演習Ⅴ・Ⅵ」や「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の単位修得要件である「研究演習レポート」「卒業研究レポート」の作成に向けた、学術論文執筆の基本的能力の育成を可能とする教育内容を配置する

■　第2年次秋学期開講「研究演習Ⅱ」における専門教育(ゼミ活動)に向けた各教員の専攻する分野等への基礎的な理解を深める

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている

## 評価方法

■　担当教員が行う試験(小テストを含む)およびレポート等を総合して評価する
■　再試験は、実施しない

## 課題に対するフィードバック

■　それぞれの担当教員が実施した試験・レポート等について、成績を知りたい学生には個別に開示される場合がある
■　レポート等の提出状況が悪い場合は、ゼミ担当教員より適切な指導が行われる場合がある
■　全体の評価について、総合的な成績を知りたい学生には、科目責任者である各担当学部長・学科長まで問い合わせれば個別に開示する

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

■　この授業では原則として教員別にゼミを実施することはないが、1年次開講の「基礎演習」「プレゼンテーション」と同様に、予め学生個々に(ランダムに)ゼミ担当教員1名を割り当てる。そのため、履修登録等の確認や授業欠席回数の警告などゼミ担当教員から連絡が行くことがある
■　原則として欠席は認めない
■　自ら考え積極的に行動することを心掛けて履修することを希望する

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(研究の位置付について、レポートの書き方) | 状況に応じて指示をする | 研究演習レポートの構成を理解する |
| 2 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 3 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 4 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 5 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 6 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 7 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 8 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 9 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 10 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 11 | 各ゼミによる個別対応 | ゼミ配属希望理由書 | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味がテーマを考える |
| 12 | 各ゼミによる個別対応 | ゼミ配属希望理由書 | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味がテーマを考える |
| 13 | 各ゼミによる個別対応/ゼミ希望調査 | ゼミ配属希望理由書 | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味がテーマを考える |
| 14 | ゼミ配属発表／ゼミ希望調査第2回目 | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味があるテーマを考える |
| 15 | ゼミ再希望調査配属発表／各ゼミに分かれての活動・研究演習Ⅱに向けた取組ガイダンス等 | 状況に応じて指示をする | 各自の興味があるテーマと各ゼミの方向性に関して考える |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010025332 研究演習Ⅰ　泉水ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

体育・スポーツ科学に関する考え方について基礎的な理解を深める。
また、研究テーマ設定のための文献研究の方法を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(自然科学における研究の位置づけについて) | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究デザインとは(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究デザインとは(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究デザインとは(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 文献研究の方法(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010025334 研究演習Ⅰ　大木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習においては、ソーシャルワークの専門性の範疇にとどまらない「地域の福祉」の理念を実現するために、求められる具体的な手法を考え、それを効果的な実践として実行できる力を身につけることを学習目的とします。

## 授業概要(教育目的)

ゼミ活動の主要なキーワード…「地域の福祉」「フィールドワーク」「共生社会」
「地域の福祉」をテーマとして、八戸市とその近隣地域の福祉課題にかかわるフィールドワークや地域貢献活動をはじめ、さまざまな「地域の福祉」を発展させる実践をすることを活動の中心とします。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価します。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（自然科学における研究の位置づけについて） | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究デザインとは(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究デザインとは(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究デザインとは(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 文献研究の方法(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010025336 研究演習Ⅰ　遠藤光男ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。

## 授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰ～Ⅵでは，少人数で心理学の専門書や論文の購読を行い，心理学をより深く学ぶことを行う。さらに，自ら研究テーマを決め，これまで学んできた研究方法やデータ分析法を用いて，独自の研究を実践する。そして，その成果を「研究演習レポート」あるいは「卒業論文」としてまとめることを行う。
研究演習Ⅰでは，ゼミ活動の基本となる研究論文の要約やレジメ作成，それをもとにした発表と討論の仕方を学んだ上で，研究に必要なスキルを習得することを目指す。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

山田剛史・林　創(著)『大学生のためのリサーチリテラシー入門』 ミネルバ書房

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(教員，受講学生の自己紹介，授業内容や進め方等の確認) | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 2 | 論文の構成，要約やレジメ作成，発表の仕方 | 事前配付資料を読む。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 3 | 学士力，メタ認知，クリティカルシンキング，心の理論 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 4 | 聞く力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 5 | 課題発見力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 6 | 情報収集力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 7 | 情報整理力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 8 | 読む力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 9 | 書く力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 10 | データ分析力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 12 | 強化が必要な力の補強(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 13 | 強化が必要な力の補強(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 14 | 強化が必要な力の補強(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 15 | 強化が必要な力の補強(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |

| 講義名 | 4010025338 研究演習Ⅰ　立石ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・学術論文を読み、その内容を要約することができる。
・研究を行うための研究方法を理解し、研究計画を立てることができる。

## 授業概要(教育目的)

ソーシャルワーク・社会福祉領域における現状と課題を把握し、専門的な知識の獲得、科学的な思考方法の獲得を目指し、地域共生社会の実現に向けた福祉観、研究力を養う。
具体的には、学術論文を読み、調べて要約して、発表を行い、その後討議を行い、主体的に学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度、周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

自ら考え積極的に行動することを心がけること。

## 実務との関連

障害者福祉分野での実務経験をもとに研究演習との関わりについて話題提供する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究についての基礎知識(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究についての基礎知識(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究についての基礎知識(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 先行研究の要約(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 先行研究の要約(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 先行研究の要約(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

| 講義名 | 4010025339 研究演習Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

■　医学・看護・福祉・栄養・心理・健康・環境・スポーツなどの幅広い分野において、自らの疑問・興味・課題を明確にして、学問探求に取り組む主体的な姿勢を身につけること

■　現代社会が求める健康ニーズ、地域の特性についての学びを知り、より豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力と行動力、優れたコミュニケーション能力の育成を目指すこと

■　研究を行うための必要なスキルを習得するために、情報を適切な方法で検索すること、基本的な科学文献を読むこと、その内容を理解できること、得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立案するための準備ができること

## 授業概要(教育目的)

■　現状社会における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、受講者の考察や研究力を涵養する

■　からだとこころの健康に関する幅広い学問領域において、思考の活性化を誘導し、自身の考えをまとめ、文章として表現し、明確に他者へ伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を目指した教育内容を配置する

■　第4年次開講「研究演習Ⅴ・Ⅵ」や「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の単位修得要件である「研究演習レポート」「卒業研究レポート」の作成に向けた、学術論文執筆の基本的能力の育成を可能とする教育内容を配置する

■　第2年次秋学期開講「研究演習Ⅱ」における専門教育(ゼミ活動)に向けた各教員の専攻する分野等への基礎的な理解を深める

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている

## 評価方法

■　各担当教員が行う試験・小テスト、及びレポート等を総合して評価する
■　再試験は、実施しない

## 課題に対するフィードバック

■　それぞれの担当教員が実施した試験・レポート等について、成績を知りたい学生には個別に開示される場合がある
■　レポート等の提出状況が悪い場合は、ゼミ担当教員より適切な指導が行われる場合がある
■　全体の評価について、総合的な成績を知りたい学生には、科目責任者である各学部学長・学科長まで問い合わせれば個別に開示する

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

■　この授業では原則として教員別にゼミを実施することはないが、1年次開講の「基礎演習」「プレゼンテーション」と同様に、予め学生個々に(ランダムに)ゼミ担当教員1名を割り当てる。そのため、履修登録等の確認や授業欠席回数の警告などゼミ担当教員から連絡が行くことがある
■　原則として欠席は認めない
■　自ら考え積極的に行動することを心掛けて履修することを希望する
■　授業計画概要に「全教員」とは、研究演習Ⅰを担当する「担当教員全員」を指す

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(研究の位置付について、レポートの書き方) | 状況に応じて指示をする | 研究演習レポートの構成を理解する |
| 2 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 3 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 4 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 5 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 6 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 7 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 8 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 9 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 10 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 11 | 各ゼミによる個別対応 | ゼミ配属希望理由書 | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味を持てるテーマを考える |
| 12 | 各ゼミによる個別対応 | ゼミ配属希望理由書 | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味を持てるテーマを考える |
| 13 | 各ゼミによる個別対応/ゼミ希望調査 | ゼミ配属希望理由書 | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味を持てるテーマを考える |
| 14 | ゼミ配属発表／ゼミ希望調査第2回目 | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味を持てるテーマを考える |
| 15 | ゼミ再希望調査配属発表／各ゼミに分かれての活動・研究演習Ⅱに向けた取組ガイダンス等 | 状況に応じて指示をする | 各自の興味があるテーマと各ゼミの方向性に関して考える |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010025340 研究演習Ⅰ　平塚ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養などの幅広い分野において、自らの疑問・興味・課題を明確にして、学問探求に取り組む主体的な姿勢を身につける。
2. 現代社会が求める健康ニーズ、地域の特性についての学びより、豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力と行動力、優れたコミュニケーション能力の育成を目指す。
3. こころとからだの健康に関する基礎的・専門的学びにおいて、毎週・最低5日、60分間の復習と予習を実践できる。

## 授業概要(教育目的)

1. からだとこころの健康に関する幅広い学問領域において、思考の活性化を誘導し、自身の考えをまとめ、文章として表現し、明確に他者へ伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を目指した教育内容を配置する。
2. 第4年時秋学期「研究演習Ⅵ」の単位修得要件である「研究演習レポート」の作成、或いは、更に高度な学修としての「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の取り組みに向けて、学術論文執筆の基本的能力の育成を可能とする教育内容を配置する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

・研究演習内で行うプレゼンテーション、質疑応答、協議の内容について、思考の活性度・自主的自己表現力等を毎回100点満点で評価する。
・ホームワークの提出成果物について、毎回100点満点で評価する。
・これらを総合して、最終評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

ホームワークにおける成果提出物について、各回、コメントを示して、返還する。
最終成績について疑問のある学生は、「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

各研究演習時に資料として配布し、WebClassに掲載する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「研究演習Ⅰ」の進め方について | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 2 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 3 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 4 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 5 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 6 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 7 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 8 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 9 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 10 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 11 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 12 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 13 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 14 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 15 | 「研究演習Ⅰ」最終プレゼンテーション | 「研究演習Ⅱ」へ向けての準備 | 「研究演習Ⅰ」のまとめ |

| 講義名 | 4010025341 研究演習Ⅰ　石原ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養などの幅広い分野において、自らの疑問・興味・課題を明確にして、学問探求に取り組む主体的な姿勢を身につける。
2. 現代社会が求める健康ニーズ、地域の特性についての学びより、豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力と行動力、優れたコミュニケーション能力の育成を目指す。
3. こころとからだの健康に関する基礎的・専門的学びにおいて、毎週・最低5日、60分間の復習と予習を実践できる。

## 授業概要(教育目的)

1. からだとこころの健康に関する幅広い学問領域において、思考の活性化を誘導し、自身の考えをまとめ、文章として表現し、明確に他者へ伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を目指した教育内容を配置する。
2. 第4年時秋学期「研究演習Ⅵ」の単位修得要件である「研究演習レポート」の作成、或いは、更に高度な学修としての「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の取り組みに向けて、学術論文執筆の基本的能力の育成を可能とする教育内容を配置する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

・研究演習内で行うプレゼンテーション、質疑応答、協議の内容について、思考の活性度・自主的自己表現力等を毎回100点満点で評価する。
・ホームワークの提出成果物について、毎回100点満点で評価する。
・これらを総合して、最終評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

ホームワークにおける成果提出物について、各回、コメントを示して、返還する。
最終成績について疑問のある学生は、「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

各研究演習時に資料として配布し、WebClassに掲載する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「研究演習Ⅰ」の進め方について | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 2 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 3 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 4 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 5 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 6 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 7 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 8 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 9 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 10 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 11 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 12 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 13 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 14 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 15 | 「研究演習Ⅰ」最終プレゼンテーション | 「研究演習Ⅱ」へ向けての準備 | 「研究演習Ⅰ」のまとめ |

| 講義名 | 4010025342 研究演習Ⅰ　阿部ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養などの幅広い分野において、自らの疑問・興味・課題を明確にして、学問探求に取り組む主体的な姿勢を身につける。
2. 現代社会が求める健康ニーズ、地域の特性についての学びより、豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力と行動力、優れたコミュニケーション能力の育成を目指す。
3. こころとからだの健康に関する基礎的・専門的学びにおいて、毎週・最低5日、60分間の復習と予習を実践できる。

## 授業概要(教育目的)

1. からだとこころの健康に関する幅広い学問領域において、思考の活性化を誘導し、自身の考えをまとめ、文章として表現し、明確に他者へ伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を目指した教育内容を配置する。
2. 第4年時秋学期「研究演習Ⅵ」の単位修得要件である「研究演習レポート」の作成、或いは、更に高度な学修としての「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の取り組みに向けて、学術論文執筆の基本的能力の育成を可能とする教育内容を配置する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

・研究演習内で行うプレゼンテーション、質疑応答、協議の内容について、思考の活性度・自主的自己表現力等を毎回100点満点で評価する。
・ホームワークの提出成果物について、毎回100点満点で評価する。
・これらを総合して、最終評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

ホームワークにおける成果提出物について、各回、コメントを示して、返還する。
最終成績について疑問のある学生は、「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

各研究演習時に資料として配布し、WebClassに掲載する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「研究演習Ⅰ」の進め方について | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 2 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 3 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 4 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 5 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 6 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 7 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 8 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 9 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 10 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 11 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 12 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 13 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 14 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 15 | 「研究演習Ⅰ」最終プレゼンテーション | 「研究演習Ⅱ」へ向けての準備 | 「研究演習Ⅰ」のまとめ |

| 講義名 | 4010025343 研究演習Ⅰ　今川ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養などの幅広い分野において、自らの疑問・興味・課題を明確にして、学問探求に取り組む主体的な姿勢を身につける。
2. 現代社会が求める健康ニーズ、地域の特性についての学びより、豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力と行動力、優れたコミュニケーション能力の育成を目指す。
3. こころとからだの健康に関する基礎的・専門的学びにおいて、毎週・最低5日、60分間の復習と予習を実践できる。

## 授業概要(教育目的)

1. からだとこころの健康に関する幅広い学問領域において、思考の活性化を誘導し、自身の考えをまとめ、文章として表現し、明確に他者へ伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を目指した教育内容を配置する。
2. 第4年時秋学期「研究演習Ⅵ」の単位修得要件である「研究演習レポート」の作成、或いは、更に高度な学修としての「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の取り組みに向けて、学術論文執筆の基本的能力の育成を可能とする教育内容を配置する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

・研究演習内で行うプレゼンテーション、質疑応答、協議の内容について、思考の活性度・自主的自己表現力等を毎回100点満点で評価する。
・ホームワークの提出成果物について、毎回100点満点で評価する。
・これらを総合して、最終評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

ホームワークにおける成果提出物について、各回、コメントを示して、返還する。
最終成績について疑問のある学生は、「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

各研究演習時に資料として配布し、WebClassに掲載する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「研究演習Ⅰ」の進め方について | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 2 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 3 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 4 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 5 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 6 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 7 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 8 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 9 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 10 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 11 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 12 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 13 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 14 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 15 | 「研究演習Ⅰ」最終プレゼンテーション | 「研究演習Ⅱ」へ向けての準備 | 「研究演習Ⅰ」のまとめ |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026300 研究演習Ⅱ　宮澤・遠藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 宮澤　君子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・保健・養護教諭や健康管理士一般指導員資格取得に必要である基本的な医学・看護の知識について説明できる。
・習得した医学的知識を活用した地域活動ができる。
・医療・看護に関連したテーマの論文／レポートを作成し、プレゼンテーションすることができる。

## 授業概要(教育目的)

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員等、その他医療・健康業務に関連した資格等を得るために必要な医学的知識とその活用方法を修得することを目標とする。
　医療・健康についての関心が高まっている現代の社会においては、マスメディア等を通して医学的知識に関して多くの情報を得ることができる。しかしながら、その情報の全てが正確性を保証されているとは限らず、一部で誤解や混乱を招きかねない実情がある。そういった中で、社会全体の医療・健康問題をレベルアップしていくためには、様々な知識・情報を的確に判断、整理し、周囲へ伝達していく能力を持った人材の育成が不可欠である。本ゼミでは、基本的な医学的知識を整理するとともにその具体的な活用方法を学び、職場や地域社会での健康管理の分野においてリーダー・シップを発揮できる能力を有する人材を育成する。
　＜2年次＞　基礎知識の整理：健康管理士テキストや一般の家庭医学書などを参考に学習(随時、プレゼンテーションやレポート作成)や医療・健康トピックスについての討論を行うとともに、健康に関係するボランティア活動などを通して地域の健康状況の把握を行い、情報収集能力を高める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミ活動全般を通して、各々の活動状況やディスカッション・発表時における参加態度、課題として作成されたレポート・論文の完成度等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

ゼミ活動内で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員資格取得を目指す。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　ゼミにおいては単に知識の獲得のみならず、学んだことを実践で応用していく活動が重要視される。自らが主体となって積極的に課題に取り組む姿勢が不可欠であり、より高いレベルの専門知識・情報の吸収を心がけることで卒業後の実社会につながるゼミ活動を目指す。
　以上のことを念頭においてゼミに参加することを希望する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習ガイダンス | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 2 | 課題学習①：研究課題課題の確認 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 3 | 課題学習②：文献探索・資料収集 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 4 | 課題学習③：文献・資料の 熟読 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 5 | 課題学習④：文献・資料の 要約 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 6 | 課題学習⑤：文献・資料のプレゼン | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 7 | 課題学習⑥：発表内容についての意見交換 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 8 | 健康調査についての基本事項の学習① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 9 | 健康調査についての基本事項の学習② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 10 | 健康調査の予行練習① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 11 | 健康調査の予行練習② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 12 | 健康調査についての振り返り① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 13 | 健康調査についての振り返り② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 14 | 研究演習Ⅱの成果の提出 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 15 | 研究演習Ⅱの総括と反省 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026305 研究演習Ⅱ　井元ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

「健康」に関するテーマを各自設定し、テーマに沿った文献調査、発表ができる力を養う。

## 授業概要(教育目的)

「健康」について主に栄養や食生活の側面からゼミで考えていきます。

〈2・3年次〉
関連する文献を輪読、各自でテーマ設定をして文献調査を行いプレゼンテーションするなど行っていきます。
また、短大・大学生を対象とした食生活調査を実施しデータ集計・分析を行います。

〈4年次〉
各自が設定したテーマに基づき、調査・実験を行い、その結果を研究演習レポートをまとめる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

演習中の態度、提出課題、発表内容により評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績が知りたい方は個別に対応する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
欠席は原則的に認めません。
各自責任を持って積極的にゼミ運営に関わってください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス<br>テーマの決め 方、文献検索方法を 理解する<br>今後のスケジュール 調整 | シラバスを読む | 講義内で指示された内容について振り返る。テーマについて考え、文献を検索してみる。 |
| 2 | レポート発表1　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 3 | レポート発表2　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 4 | レポート発表3　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 5 | レポート発表4　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 6 | レポート発表5　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 7 | レポート発表6　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 8 | レポート発表7　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 9 | レポート発表8　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 10 | レポート発表9　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 11 | レポート発表10　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 12 | レポート発表11　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 13 | レポート発表12　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを 作成する。 | ディスカッションでの 意見なども反映して、次回発表用 の 報告レポートを 作成する。 |
| 14 | レクリエーション | 必要な準備を行う | 振り返る |
| 15 | まとめ<br>1年間で 調べた内容について、報告書作成・提出 | 1年間で 調べた内容について、報告書を 作成し、提出。 | これまでの 振り返りを行い、次年度の 目標を 立てる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026310 研究演習Ⅱ　浜中ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.「保健便り」の作成を通して、養護教諭が行う保健教育の意義について説明できる。
2. 教員採用試験過去問及び模擬試験を通して、自己の課題を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

児童生徒の健康課題の解決に向けた養護教諭の役割・職務は、保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織指導の5領域に整理される。
研究演習Ⅱでは、「保健便り」の作成、教員採用試験対策を通して、養護教諭の択割・職務についての理解を深める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

ディプロマ・ポリシー
2. こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。
に関連する。

## 評価方法

課題提出、授業中の発言等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

重要ポイントについて説明する。

## 参考文献

随時、紹介する。

## 講義時使用テキスト

テキストはなし。必要な文献は随時紹介する。

## 資格との関連

養護教諭の教員採用試験合格に向けて取り組む。

## 学生へのメッセージ

養護教諭の資格取得希望者、健康について学習を深めたい方の積極的参加を期待する。

## 実務との関連

医療機関及び看護基礎教育機関での実務体験を通して、養護教諭の専門的性の向上を目指した指導を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、個人面談 | 各自の抱負や相談事項を整理する。 | 個人面談の結果、今後の抱負を確認する |
| 2 | 「保健便り」作成に向けた文献収集① | 養護教諭が作成する「保健便り」の目的、留意事項を調べる。 | 養護教諭が作成する「保健便り」の目的、留意事項を確認する。 |
| 3 | 「保健便り」作成に向けた文献収集② | 「養護教諭が作成する「保健便り」の目的、留意事項を調べる。 | 養護教諭が作成する「保健便り」の目的、留意事項を確認する。 |
| 4 | 各自文献収集した結果を発表し、要点を共有する。 | 各自、要点を説明できるように準備する。 | 養護教諭が作成する「保健便り」の目的、留意事項を確認する。 |
| 5 | 「保健便り」の作成① | 各自、テーマ・対象(発達段階)を整理しておく。 | 養護教諭が作成する「保健便り」の目的、留意事項に沿っているか確認する。 |
| 6 | 「保健便り」の作成② | 「保健便り」の作成手順を整理しておく | 養護教諭が作成する「保健便り」の目的、留意事項に沿っているか確認する。 |
| 7 | 「保健便り」の作成③ | 「保健便り」の作成手順を整理しておく | 養護教諭が作成する「保健便り」の目的、留意事項に沿っているか確認する。 |
| 8 | 「保健便り」の発表、意見交換<br>可能であれば、上級生にも参加してもらう。 | 各自、要点を説明できるように準備する | 意見交換を通して、修正点を整理する。 |
| 9 | 「保健便り」の修正版を学内に掲示する。 | 修正点を確認する。 | 養護教諭が作成する「保健便り」の目的、留意事項に沿っているか確認する。 |
| 10 | 教員採用試験に向けての準備①<br>希望する自治体の教員採用試験実施要領を調べ、受験対策を検討する。 | 希望する自治体の教員採用試験実施要領を調べる。 | 受験対策を整理する。 |
| 11 | 教員採用試験に向けての準備②(過去問) | 試験範囲について学習する | 不明な箇所について調べる |
| 12 | 教員採用試験に向けての準備③(過去問) | 試験範囲について学習する | 不明な箇所について調べる |
| 13 | 教員採用試験に向けての準備④(過去問) | 試験範囲について学習する | 不明な箇所について調べる |
| 14 | 教員採用試験に向けての準備⑤(模擬試験) | 試験範囲について学習する | 不明な箇所について調べる |
| 15 | 個人面談<br>今年度の成果、今後の課題の確認 | 教員採用試験対策の計画を立案する。 | 教員採用試験対策の計画の見直し・確認を行う。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026315 研究演習Ⅱ　渡邉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

運動における身体の機能的変化、スポーツ動作について説明できる。
学術論文を探し、読むことができる。
研究方法について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本演習においては、主に運動に対する身体の生理的な反応や動きのメカニズムについて学ぶとともに、さまざまなスポーツの特性を理解し、自らが競技力の向上のために何が必要なのか課題を見つけること、また見つけた課題に対し、調査や測定、分析を行うことで客観的な資料を収集し、課題を解決するための方法を見つけることを目的とする。内容は各種スポーツ種目(球技種目を主とする。)の身体的、技術的な特性やルール等について理解するために、調査や実習を予定している。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

発表、レポート、参加態度など総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

授業内で必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定はしない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
学生は常に何らかの課題を与えられている状態となる。1人が欠席すると他のゼミ生の活動に影響が出ることもあるので、原則として欠席は認めない。受け身ではなく、積極的に行動できる学生に参加していただきたい。

## 実務との関連

【授業外活動】
南部町、階上町でおこなわれている介護予防教室に参加する。
毎年ゼミ合宿をおこなっており、積極的に参加していただきたい。今年度は2月を予定している。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究における文献収集の位置づけ | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容について整理する。 |
| 2 | 文献研究の方法① | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容について整理する。 |
| 3 | 文献研究の方法② | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容について整理する。 |
| 4 | 文献収集の方法① | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにする。 |
| 5 | 文献収集の方法② | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにする。 |
| 6 | 文献収集の方法③ | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにする。 |
| 7 | 文献収集の方法④ | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにする。 |
| 8 | 研究テーマについて考える① | テーマの設定に必要な資料を収集する。 | テーマの設定に必要な資料を整理する。 |
| 9 | 研究テーマについて考える② | テーマの設定に必要な資料を収集する。 | テーマの設定に必要な資料を整理する。 |
| 10 | 研究テーマについて考える③ | テーマの設定に必要な資料を収集する。 | テーマの設定に必要な資料を整理する。 |
| 11 | 模擬実験・調査① | 実験内容に応じた準備を行う。 | 実験の内容を整理する。 |
| 12 | 模擬実験・調査② | 実験内容に応じた準備を行う。 | 実験の内容を整理する。 |
| 13 | 模擬実験・調査③ | 実験内容に応じた準備を行う。 | 実験の内容を整理する。 |
| 14 | 模擬実験・調査データの検討① | 実験データに応じた資料を作成する。 | 講義内容に応じて資料を修正する。 |
| 15 | 模擬実験・調査データの検討② | 実験データに応じた資料を作成する。 | 講義内容に応じて資料を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026316 研究演習Ⅱ　金地ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 質問紙調査を中心に心理学の研究手法の技術を習得している
2. 興味のあるテーマについて心理学的研究を実施し、考察することができる
3. 研究結果をレポート(論文)にまとめることができる

## 授業概要(教育目的)

心理学の研究および現場ではさまざまな目的で質問紙による調査(測定)が行われています。その目的は以下の4つに大きく分けて考えることが出来ます。
1. 性格の測定
2. 気分、感情、ストレス度などの測定
3. 意識(態度)調査(いわゆる「アンケート調査」)
4. 印象評定(イメージの測定)
本演習では上記4つの中で特に「3. 意識(態度)調査」に焦点を絞り、質問紙調査の実施方法を習得してもらうことを目的とします。意識調査(アンケート調査)と聞くと、あるテーマについて適当に質問を並べて回答を貰い、結果を集計すれば良いと考えている人も少なくないかもしれません。ただし、本演習ではそのような表面的な意識調査ではなく、心理学の研究として行われる意識(態度)調査の実施方法を学びます。そのためには、質問紙調査を用いた心理学の学術論文(文献)を読み、心理学の研究で質問紙調査がどのように使われているか、どのような方法で行われているかを学ぶ必要があります。また、質問紙の回答を集計する際には統計を用いた分析が必要となります。本演習では質問紙の結果解析に必要な統計手法も学んでいただきます。最終的には、各自テーマを設定して質問紙調査を行い、結果を分析し、卒業論文としてまとめて提出していただきます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業の参加態度および提出されたレポート課題、授業内での発表内容を踏まえ、総合的に判断します。

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および提出課題(レポート)の評価については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　通常の講義と異なり、ほぼ毎回の授業で何か課題を設定し、作業を行います。授業への積極的な参加、また期限内のレポート課題の提出を求めます。なお授業の欠席、遅刻は厳禁とします(共同で作業を行うことが多いので、他のゼミ学生が迷惑します)。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | データ分析の準備:エクセル関数の紹介 | 統計分析で用いるエクセル関数について図書館やネットを用いて調べる。 | 授業で紹介したエクセル関数を用いて、練習課題を実施する。 |
| 2 | データ分析の実施①:度数分布表の作成 | 「心理統計学」の授業資料を見返し、度数分布について復習する。 | すべての質問の回答について度数分布表を作成する |
| 3 | データ分析の実施②:度数分布のグラフ(棒グラフ、円グラフ)の作成 | エクセルでのグラフ作成方法について図書館やネットを用いて調べる。 | すべての質問の回答についてグラフを作成する |
| 4 | データ分析の実施③:クロス集計表の作成 | 「心理統計学」の授業資料を見返し、クロス集計表について復習する。 | クロス集計表の作成手順について振り返る |
| 5 | データ分析の実施④:自由記述回答の集計 | 自由記述回答の集計手順について図書館やネットを用いて調べる。 | 集計結果を見返し、そのような結果が見られた理由を考察する。 |
| 6 | データ分析の実施⑤:平均値および標準偏差の算出 | ・「心理統計学」の授業資料を見返し、分散、標準偏差について復習する。<br>・標準偏差のグラフへの表記方法について図書館やネットを用いて調べる。 | 標準偏差の算出手順(関数)と標準偏差付きのグラフの作成手順について振り返る |
| 7 | データ分析の実施⑥:カイ2乗検定の実施 | 「心理統計学」の授業資料を見返し、カイ2乗検定について復習する。 | ・カイ2乗検定の検定手順について振り返る。<br>・検定結果について、そのような結果が見られた理由を考察する。 |
| 8 | データ分析の実施⑦:平均値の差の検定(t検定、分散分析)の実施 | 「心理統計学」の授業資料を見返し、「t検定」および「分散分析」について復習する。 | ・「t検定」および「分散分析」の検定手順について振り返る。<br>・検定結果について、そのような結果が見られた理由を考察する。 |
| 9 | 調査結果をまとめたレポートの作成①:レポートの構成の紹介 | 研究レポートの執筆手順について図書館やネットを用いて調べる。 | レポートの「背景と目的」の章を執筆する |
| 10 | 調査結果をまとめたレポートの作成②:「方法」の執筆 | 研究レポートの「方法」の執筆手順について図書館やネットを用いて調べる。 | レポートの「方法」の章を執筆、完成させる |
| 11 | 調査結果をまとめたレポートの作成③:「結果」の執筆 | エクセルで作成した表やグラフを見返し、内容を理解する | レポートの「結果」の章を執筆、完成させる |
| 12 | 調査結果をまとめたレポートの作成④:「考察」の執筆 | 「結果」に記した調査結果から、どのようなことが言えるかをまとめる | ・レポートの「考察」の章を執筆、完成させる |
| 13 | 調査結果をまとめた発表スライドの作成①:研究発表で用いる発表スライドの構成の紹介 | 過去に作成、提出された発表スライドを閲覧し、発表スライドの構成を理解する | 授業内で紹介した作成方法に従って発表スライドを作成する |
| 14 | 調査結果をまとめた発表スライドの作成② | 前回の授業内で紹介された作成方法に従って発表スライドを作成する | ・授業内での添削をふまえ発表スライドを修正する<br>・発表原稿を作成する |
| 15 | 調査結果の発表 | 発表のリハーサルを行う | 発表での質疑応答を参考にレポートを修正し、完成したレポートを提出する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026319 研究演習Ⅱ　工藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3つの事項を到達目標とする。
1. スポーツ指導者としての基礎的知識、指導法およびコミュニケーション能力を身につける。
2. 学術論文を検索でき、要約することができる。
3. フィールドワーク活動へ参加し、正しい測定方法を身につけ、結果の説明ができる。

## 授業概要(教育目的)

「コーチングアシスタント」とは、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度における基礎資格として位置づけられており、資格取得後(本学では在学中に、所定の単位を取得することで卒業と同時に資格が得られる)は地域におけるスポーツ活動の定着化や活性化をサポートする存在として活躍が期待されるだけでなく、競技別指導者やフィットネス系資格などへとステップアップしていくことができる資格である。本演習の目的は、コーチングアシスタント資格取得を前提とし、スポーツ指導者としての基礎的知識、指導法およびコミュニケーション能力を身につけること、さらに分析者として映像や情報技術を駆使した分析技術を身につけることとする。また、今日ではスポーツに関わる指導者の在り方そのものが社会問題となっている。時代に則した指導方法を身につけ、3年間の研究演習を通じて、将来スポーツ指導者のみならずあらゆる分野において論理的かつ創造的に問題解決できる能力、そして教育的で心から力が湧いてくる楽しいコーチング技術を身につけてもらいたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と課題への取り組み、内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅡ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅢ」

## 講義時使用テキスト

特になし。必要に応じて適宜紹介する。

## 資格との関連

本ゼミナール希望者は日本体育協会公認スポーツリーダー取得を前提とする。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学術論文の検索 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 2 | 発表準備 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 3 | 発表 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 4 | コーチング演習① | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 5 | コーチング演習② | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 6 | コーチング演習③ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 7 | コーチング演習④ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 8 | コーチング演習⑥ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 9 | 測定方法の復習 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 10 | 測定結果方法の復習 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 11 | フィールドワーク活動①　身体特性の測定 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 12 | フィールドワーク活動②　運動能力の測定 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 13 | フィールドワーク活動③　結果の説明 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 14 | コーチング実習①お手玉 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 15 | コーチング実習②ゴルフ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026325 研究演習Ⅱ　吉田守実ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な科学文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉分野における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、受講者の福祉観、研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学習達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後に研究演習レポートの添削を行い、返却し、今後の方針を決定する。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

社会福祉協議会での実務経験をもとに、現場実践で生かされる研究との関わりについて講話する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 論文を読み、その内容を整理する。(1) | シラバスの授業計画を読み、理解しておくこと | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 2 | 論文を読み、その内容を整理する。(2) | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 3 | 論文を読み、その内容を整理する。(3) | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 4 | 論文を読み、その内容を整理する。(4) | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 5 | 論文を読み、その内容を整理する。(5) | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 6 | 論文を読み、その内容を整理する。(6) | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 7 | 入手した論文の内容を紹介する。(1) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要ならば新たに論文を収集する。 |
| 8 | 入手した論文の内容を紹介する。(2) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要ならば新たに論文を収集する。 |
| 9 | 入手した論文の内容を紹介する。(3) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要ならば新たに論文を収集する。 |
| 10 | 入手した論文の内容を紹介する。(4) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要ならば新たに論文を収集する。 |
| 11 | 入手した論文の内容を紹介する。(5) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要ならば新たに論文を収集する。 |
| 12 | 入手した論文の内容を紹介する。(6) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要ならば新たに論文を収集する。 |
| 13 | 整理した論文情報から、研究計画を立てる。(1) | 論文構成について考える。 | 研究演習の作成に着手する。 |
| 14 | 整理した論文情報から、研究計画を立てる。(2) | 論文構成について考える。 | 研究演習の作成に着手する。 |
| 15 | 整理した論文情報から、研究計画を立てる。(3) | 論文構成について考える。 | 研究演習の作成に着手する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026326 研究演習Ⅱ　佐藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 佐藤　千恵子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。

## 授業概要(教育目的)

食生活のみならず、現状の社会問題を踏まえて課題とその発見および解決方法について、体系的に学ぶことを通じ、受講者の研究する力を育成していく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につける。

## 評価方法

学習目標を達成したのちに、総合的に勘案し評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後に研究演習レポートの添削を行い、返却し、今後の方針を決定する。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

新たな研究テーマに向き合い、自身の行動力と新たな探求心を持って臨むこと。

## 実務との関連

・あおもり食育検定資格取得
・食生活アドバイザー3級＆2級資格取得

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | シラバスの授業計画を読み、理解しておくこと | 春学期のレポートの内容をまとめる。 |
| 2 | 収集した資料を基にレポート作成をする。(1) | 内容をまとめ整理する。 | 内容の見直しする。 |
| 3 | 収集した資料を基にレポート作成をする。(2) | 内容をまとめ整理する。 | 内容の見直しする。 |
| 4 | 収集した資料を基にレポート作成をする。(3) | 内容をまとめ整理する。 | 内容の見直しする。 |
| 5 | 収集した資料を基にレポート作成をする。(4) | 内容をまとめ整理する。 | 内容をまとめる。 |
| 6 | 収集した資料を基にスライド作成をする。(1) | 内容をまとめ整理する。 | 内容の見直しをする。 |
| 7 | 収集した資料を基にスライド作成をする。(2) | 内容をまとめ整理する。 | 内容の見直しをする。 |
| 8 | 収集した資料を基にスライド作成をする。(3) | 内容をまとめ整理する。 | 内容の見直しをする。 |
| 9 | 収集した資料を基にスライド作成をする。(4) | 内容をまとめ整理する。 | 内容をまとめる。 |
| 10 | 入手した研究レポートの内容を紹介する。(1) | 発表の準備をする。 | 発表後に内容をまとめる。必要ならば新たに資料を収集する。 |
| 11 | 入手した研究レポートの内容を紹介する。(2) | 発表の準備をする。 | 発表後に内容をまとめる。必要ならば新たに資料を収集する。 |
| 12 | 入手した研究レポートの内容を紹介する。(3) | 発表の準備をする。 | 発表後に内容をまとめる。必要ならば新たに資料を収集する。 |
| 13 | 構成や内容について考える。(1) | 論文構成について考える。 | 研究演習の仕上げをする。 |
| 14 | 構成や内容について考える。(2) | 論文構成について考える。 | 研究演習の仕上げをする。 |
| 15 | 構成や内容について考える。(3) | 論文構成について考える。 | 研究演習の仕上げをする。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026330 研究演習Ⅱ　千葉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

基礎演習で学んだレポート作成に関する知識と技術を応用し、下記の目標を達成することとする。
・学習目標(到達目標) ・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な科学文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。

## 授業概要(教育目的)

本授業では以下を教育目的とする。
この演習は、前期の研究演習Ⅰに引き続き、1年生で学習した「基礎演習」と「プレゼンテーション」をもとに、研究とは何かを理解し、関心のある研究テーマを選んでまとめ上げていく力を高めることを目的とする。
個人ごとに取り組んだ研究テーマについて発表しあい、ゼミメンバーとのあいだで意見交換をしあう形式で授業を進める。自分以外のテーマにもそれぞれがもつ意見を積極的に出し合って討論していく双方向の情報交換も取り入れ、各自、研究テーマについて「考え」、「表現する」能力を身につける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

自主的に課題を探究し、理解してその対応ができる能力を身につけている。

## 評価方法

この年次の達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後に研究演習レポートの添削を行い、返却し、今後の方針を決定する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

全回出席が基本。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

【授業外活動状況】
卒論のテーマによっては、野外での試料・情報の収集とその分析を行い、そのデータを基に卒業論文を作成することもできる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 前期授業「研究演習Ⅰ」の振り返り | 前期の授業(研究演習Ⅰ)を整理しておく | 授業内容を整理する |
| 2 | 研究テーマの確定 | 研究テーマの確定が可能か検討する | 授業内容を整理する |
| 3 | 前期に収集した論文や記事の確認 | 収集した論文や記事を用意する | 未収集や不足している論文や記事がないか確認し、不足があれば収集にあたる |
| 4 | 研究方法の種類の理解① | 研究方法を考えておく | 授業内容を整理する |
| 5 | 研究方法の種類の理解②と研究手法の選択 | 研究方法を考えておく | 選択した研究方法を確認する |
| 6 | 論文作成様式やルールの理解① | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 授業内容を整理する |
| 7 | 論文作成様式やルールの理解② | 収集した論文で作成様式やルールを確認しておく | 授業内容を整理する |
| 8 | 図表の作成方法や写真挿入の理解① | 収集した論文や記事で図表や写真の使われ方を確認する | 授業内容を整理する |
| 9 | 図表の作成方法や写真挿入の理解②と実習 | ワードやエクセル利用の仕方を確認しておく | 授業内容を整理する |
| 10 | 進捗状況の確認と意見交換 | 問題点や改善点の有無を確認しておく | 意見交換で得た情報を整理する |
| 11 | 簡単な例文を用いた論文作成練習① | ワードやエクセル利用が可能か確認するの準備をする。 | 文献が必要であれば検索と収集を行う |
| 12 | 簡単な例文を用いた論文作成練習② | 収集した文献を読み、研究ノートに記録する | さらに収集が必要であれば行う |
| 13 | 簡単な例文を用いた論文作成練習③ | 収集した文献を読み、研究ノートに記録する<br>論文構成について考える | 論文作成を完了させる |
| 14 | ゼミ内検討会 | 発表準備をする | 気付いた点やメンバーからの意見や指摘があれば、論文の加筆修正を行う。 |
| 15 | 2年次学習内容の総括討議 | 各自、反省点、感想などをまとめておく | 3年次での研究に向けて学習内容を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026331 研究演習Ⅱ　有光ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

体育・スポーツ科学に関する研究テーマの決定のための資料を収集し、小レポートを作成する。模擬実験を実施し、データ処理の方法についても学ぶ。さらに、トレーニング指導者資格の取得に向けたテキストや雑誌の輪読を行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(研究における文献収集の位置づけについて) | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにまとめる。 |
| 2 | 文献研究の方法(1回目) | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにまとめる。 |
| 3 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにまとめる。 |
| 4 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにまとめる。 |
| 5 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(1回目) | テーマ設定のための資料を整理する。 | テーマ設定のための資料を整理する。 |
| 6 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(2回目) | テーマ設定のための資料を整理する。 | テーマ設定のための資料を整理する。 |
| 7 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(3回目) | テーマ設定のための資料を整理する。 | テーマ設定のための資料を整理する。 |
| 8 | トレーニング指導者資格テキスト輪読(1回目) | テキストの該当箇所を読む。 | テキストの内容をノートにまとめ、整理する。 |
| 9 | トレーニング指導者資格テキスト輪読(2回目) | テキストの該当箇所を読む。 | テキストの内容をノートにまとめ、整理する。 |
| 10 | トレーニング指導者資格テキスト輪読(3回目) | テキストの該当箇所を読む。 | テキストの内容をノートにまとめ、整理する。 |
| 11 | 模擬実験・調査(1回目) | 実験内容に応じた準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 12 | 模擬実験・調査(2回目) | 実験内容に応じた準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 13 | 模擬実験・調査(3回目) | 実験内容に応じた準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 14 | 模擬実験・調査データの検討(1回目) | 実験データをまとめたレジュメを作成する。 | 講義内容に応じてレジュメを修正する。 |
| 15 | 模擬実験・調査データの検討(2回目) | 実験データをまとめたレジュメを作成する。 | 講義内容に応じてレジュメを修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026332 研究演習Ⅱ　泉水ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

体育・スポーツ科学に関する研究テーマの決定のための資料を収集し、小レポートを作成する。模擬実験を実施し、データ処理の方法についても学ぶ。さらに、トレーニング指導者資格の取得に向けたテキストや雑誌の輪読を行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(研究における文献収集の位置づけについて) | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにまとめる。 |
| 2 | 文献研究の方法(1回目) | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにまとめる。 |
| 3 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにまとめる。 |
| 4 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献を検索する。 | 文献の内容をレジュメにまとめる。 |
| 5 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(1回目) | テーマ設定のための資料を整理する。 | テーマ設定のための資料を整理する。 |
| 6 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(2回目) | テーマ設定のための資料を整理する。 | テーマ設定のための資料を整理する。 |
| 7 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(3回目) | テーマ設定のための資料を整理する。 | テーマ設定のための資料を整理する。 |
| 8 | トレーニング指導者資格テキスト輪読(1回目) | テキストの該当箇所を読む。 | テキストの内容をノートにまとめ、整理する。 |
| 9 | トレーニング指導者資格テキスト輪読(2回目) | テキストの該当箇所を読む。 | テキストの内容をノートにまとめ、整理する。 |
| 10 | トレーニング指導者資格テキスト輪読(3回目) | テキストの該当箇所を読む。 | テキストの内容をノートにまとめ、整理する。 |
| 11 | 模擬実験・調査(1回目) | 実験内容に応じた準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 12 | 模擬実験・調査(2回目) | 実験内容に応じた準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 13 | 模擬実験・調査(3回目) | 実験内容に応じた準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 14 | 模擬実験・調査データの検討(1回目) | 実験データをまとめたレジュメを作成する。 | 講義内容に応じてレジュメを修正する。 |
| 15 | 模擬実験・調査データの検討(2回目) | 実験データをまとめたレジュメを作成する。 | 講義内容に応じてレジュメを修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026334 研究演習Ⅱ　大木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習においては、ソーシャルワークの専門性の範疇にとどまらない「地域の福祉」の理念を実現するために、求められる具体的な手法を考え、それを効果的な実践として実行できる力を身につけることを学習目的とします。

## 授業概要(教育目的)

ゼミ活動の主要なキーワード…「地域の福祉」「フィールドワーク」「共生社会」
「地域の福祉」をテーマとして、八戸市とその近隣地域の福祉課題にかかわるフィールドワークや地域貢献活動をはじめ、さまざまな「地域の福祉」を発展させる実践をすることを活動の中心とします。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価します。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（自然科学における研究の位置づけについて） | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究デザインとは(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究デザインとは(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究デザインとは(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 文献研究の方法(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

| 講義名 | 4010026336 研究演習Ⅱ　遠藤光男ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。

## 授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰ～Ⅵでは，少人数で心理学の専門書や論文の購読を行い，心理学をより深く学ぶことを行う。さらに，自ら研究テーマを決め，これまで学んできた研究方法やデータ分析法を用いて，独自の研究を実践する。そして，その成果を「研究演習レポート」あるいは「卒業論文」としてまとめることを行う。
研究演習Ⅱでは，ゼミ活動の基本となる研究論文の要約やレジメ作成，それをもとにした発表と討論の仕方を学んだ上で，研究に必要なスキルを習得することを目指す。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

山田剛史・林　創(著)『大学生のためのリサーチリテラシー入門』 ミネルバ書房

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(教員，受講学生の自己紹介，授業内容や進め方等の確認) | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 2 | 論文の構成，要約やレジメ作成，発表の仕方 | 事前配付資料を読む。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 3 | 学士力，メタ認知，クリティカルシンキング，心の理論 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 4 | 聞く力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 5 | 課題発見力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 6 | 情報収集力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 7 | 情報整理力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 8 | 読む力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 9 | 書く力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 10 | データ分析力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 11 | プレゼンテーション力 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 12 | 強化が必要な力の補強(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 13 | 強化が必要な力の補強(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 14 | 強化が必要な力の補強(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |
| 15 | 強化が必要な力の補強(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026338 研究演習Ⅱ　立石ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・学術論文を読み、その内容を要約することができる。
・研究を行うための研究方法を理解し、研究計画を立てることができる。

## 授業概要(教育目的)

ソーシャルワーク・社会福祉領域における現状と課題を把握し、専門的な知識の獲得、科学的な思考方法の獲得を目指し、地域共生社会の実現に向けた福祉観、研究力を養う。
具体的には、学術論文を読み、調べて要約して、発表を行い、その後討議を行い、主体的に学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度、周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

自ら考え積極的に行動することを心がけること。

## 実務との関連

障害者福祉分野での実務経験をもとに研究演習との関わりについて話題提供する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 先行研究の要約(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 先行研究の要約(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 先行研究の要約(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 研究計画の立案(1回目) | 論文構成について考える。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 研究計画の立案(2回目) | 論文構成について考える。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 研究計画の立案(3回目) | 論文構成について考える。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026339 研究演習Ⅱ<br>暫定的な登録です。 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

■　医学・看護・福祉・栄養・心理・健康・環境・スポーツなどの幅広い分野において、自らの疑問・興味・課題を明確にして、学問探求に取り組む主体的な姿勢を身につけること

■　現代社会が求める健康ニーズ、地域の特性についての学びを知り、より豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力と行動力、優れたコミュニケーション能力の育成を目指すこと

■　研究を行うための必要なスキルを習得するために、情報を適切な方法で検索すること、基本的な科学文献を読むこと、その内容を理解できること、得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立案するための準備ができること

## 授業概要(教育目的)

■　現状社会における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、受講者の考察や研究力を涵養する

■　からだとこころの健康に関する幅広い学問領域において、思考の活性化を誘導し、自身の考えをまとめ、文章として表現し、明確に他者へ伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を目指した教育内容を配置する

■　第4年次開講「研究演習Ⅴ・Ⅵ」や「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の単位修得要件である「研究演習レポート」「卒業研究レポート」の作成に向けた、学術論文執筆の基本的能力の育成を可能とする教育内容を配置する

■　第2年次秋学期開講「研究演習Ⅱ」における専門教育(ゼミ活動)に向けた各教員の専攻する分野等への基礎的な理解を深める

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている

## 評価方法

■　各担当教員が行う試験・小テスト、及びレポート等を総合して評価する
■　再試験は、実施しない

## 課題に対するフィードバック

■　それぞれの担当教員が実施した試験・レポート等について、成績を知りたい学生には個別に開示される場合がある
■　レポート等の提出状況が悪い場合は、ゼミ担当教員より適切な指導が行われる場合がある
■　全体の評価について、総合的な成績を知りたい学生には、科目責任者である各学部学科長まで問い合わせれば個別に開示する

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

■　この授業では原則として教員別にゼミを実施することはないが、1年次開講の「基礎演習」「プレゼンテーション」と同様に、予め学生個々に(ランダムに)ゼミ担当教員1名を割り当てる。そのため、履修登録等の確認や授業欠席回数の警告などゼミ担当教員から連絡が行くことがある
■　原則として欠席は認めない
■　自ら考え積極的に行動することを心掛けて履修することを希望する
■　授業計画概要に「全教員」とは、研究演習Ⅰを担当する「担当教員全員」を指す

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(研究の位置付について、レポートの書き方) | 状況に応じて指示をする | 研究演習レポートの構成を理解する |
| 2 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 3 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 4 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 5 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 6 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 7 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 8 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 9 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 10 | 研究紹介(教員2名による紹介) | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索する |
| 11 | 各ゼミによる個別対応 | ゼミ配属希望理由書 | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味を持てるテーマを考える |
| 12 | 各ゼミによる個別対応 | ゼミ配属希望理由書 | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味を持てるテーマを考える |
| 13 | 各ゼミによる個別対応/ゼミ希望調査 | ゼミ配属希望理由書 | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味を持てるテーマを考える |
| 14 | ゼミ配属発表／ゼミ希望調査第2回目 | 状況に応じて指示をする | 各教員の研究分野等に関連した資料を検索し、各自の興味を持てるテーマを考える |
| 15 | ゼミ再希望調査配属発表／各ゼミに分かれての活動・研究演習Ⅱに向けた取組ガイダンス等 | 状況に応じて指示をする | 各自の興味があるテーマと各ゼミの方向性に関して考える |

| 講義名 | 4010026340 研究演習Ⅱ　平塚ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養などの幅広い分野において、自らの疑問・興味・課題を明確にして、学問探求に取り組む主体的な姿勢を身につける。
2. 現代社会が求める健康ニーズ、地域の特性についての学びより、豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力と行動力、優れたコミュニケーション能力の育成を目指す。
3. こころとからだの健康に関する基礎的・専門的学びにおいて、毎週・最低5日、60分間の復習と予習を実践できる。

## 授業概要(教育目的)

1. からだとこころの健康に関する幅広い学問領域において、思考の活性化を誘導し、自身の考えをまとめ、文章として表現し、明確に他者へ伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を目指した教育内容を配置する。
2. 第4年時秋学期「研究演習Ⅵ」の単位修得要件である「研究演習レポート」の作成、或いは、更に高度な学修としての「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の取り組みに向けて、学術論文執筆の基本的能力の育成を可能とする教育内容を配置する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

・研究演習内で行うプレゼンテーション、質疑応答、協議の内容について、思考の活性度・自主的自己表現力等を毎回100点満点で評価する。
・ホームワークの提出成果物について、毎回100点満点で評価する。
・これらを総合して、最終評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

ホームワークにおける成果提出物について、各回、コメントを示して、返還する。
最終成績について疑問のある学生は、「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

各研究演習時に資料として配布し、WebClassに掲載する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「研究演習Ⅱ」の進め方について | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 2 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 3 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 4 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 5 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 6 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 7 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 8 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 9 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 10 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 11 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 12 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 13 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 14 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 15 | 「研究演習Ⅱ」最終プレゼンテーション | 「研究演習Ⅲ」へ向けての準備 | 「研究演習Ⅱ」のまとめ |

| 講義名 | 4010026341 研究演習Ⅱ　石原ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養などの幅広い分野において、自らの疑問・興味・課題を明確にして、学問探求に取り組む主体的な姿勢を身につける。
2. 現代社会が求める健康ニーズ、地域の特性についての学びより、豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力と行動力、優れたコミュニケーション能力の育成を目指す。
3. こころとからだの健康に関する基礎的・専門的学びにおいて、毎週・最低5日、60分間の復習と予習を実践できる。

## 授業概要(教育目的)

1. からだとこころの健康に関する幅広い学問領域において、思考の活性化を誘導し、自身の考えをまとめ、文章として表現し、明確に他者へ伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を目指した教育内容を配置する。
2. 第4年時秋学期「研究演習Ⅵ」の単位修得要件である「研究演習レポート」の作成、或いは、更に高度な学修としての「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の取り組みに向けて、学術論文執筆の基本的能力の育成を可能とする教育内容を配置する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

・研究演習内で行うプレゼンテーション、質疑応答、協議の内容について、思考の活性度・自主的自己表現力等を毎回100点満点で評価する。
・ホームワークの提出成果物について、毎回100点満点で評価する。
・これらを総合して、最終評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

ホームワークにおける成果提出物について、各回、コメントを示して、返還する。
最終成績について疑問のある学生は、「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

各研究演習時に資料として配布し、WebClassに掲載する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「研究演習Ⅱ」の進め方について | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 2 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 3 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 4 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 5 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 6 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 7 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 8 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 9 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 10 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 11 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 12 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 13 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 14 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 15 | 「研究演習Ⅱ」最終プレゼンテーション | 「研究演習Ⅲ」へ向けての準備 | 「研究演習Ⅱ」のまとめ |

| 講義名 | 4010026342 研究演習Ⅱ　阿部ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養などの幅広い分野において、自らの疑問・興味・課題を明確にして、学問探求に取り組む主体的な姿勢を身につける。
2. 現代社会が求める健康ニーズ、地域の特性についての学びより、豊かな人間性と高い倫理観、主体的な判断力と行動力、優れたコミュニケーション能力の育成を目指す。
3. こころとからだの健康に関する基礎的・専門的学びにおいて、毎週・最低5日、60分間の復習と予習を実践できる。

## 授業概要(教育目的)

1. からだとこころの健康に関する幅広い学問領域において、思考の活性化を誘導し、自身の考えをまとめ、文章として表現し、明確に他者へ伝えることができるプレゼンテーション能力の育成を目指した教育内容を配置する。
2. 第4年時秋学期「研究演習Ⅵ」の単位修得要件である「研究演習レポート」の作成、或いは、更に高度な学修としての「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」の取り組みに向けて、学術論文執筆の基本的能力の育成を可能とする教育内容を配置する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

・研究演習内で行うプレゼンテーション、質疑応答、協議の内容について、思考の活性度・自主的自己表現力等を毎回100点満点で評価する。
・ホームワークの提出成果物について、毎回100点満点で評価する。
・これらを総合して、最終評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

ホームワークにおける成果提出物について、各回、コメントを示して、返還する。
最終成績について疑問のある学生は、「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

各研究演習時に資料として配布し、WebClassに掲載する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「研究演習Ⅱ」の進め方について | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 2 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 3 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 4 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 5 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 6 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 7 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 8 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 9 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 10 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 11 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 12 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 13 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 14 | ・ホームワークの発表と討議<br>・多彩な健康科学領域における学術研究成果の概要についての講義と討論 | 研究演習の開講時に通達 | 研究演習の開講時に通達 |
| 15 | 「研究演習Ⅱ」最終プレゼンテーション | 「研究演習Ⅲ」へ向けての準備 | 「研究演習Ⅱ」のまとめ |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026343 研究演習Ⅱ　今川ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

次の3点を到達目標とする。
1. 先行研究(論文)から必要な情報を読み取ることができる。
2. 関心のあるテーマについて，適切な手法を用いて心理学の調査・実験を行うことができる。
3. 得られた研究結果に対して，心理学的視点から深く考察することができる。

## 授業概要(教育目的)

本演習では，自身の関心のあるテーマについて，一般的な心理学の研究手法を用いて探求し，理解を深めていくことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し,学修した知識と技術を活用して,現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は，授業への参加態度，作成した資料や発表などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

必要時，適宜演習内で提示する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

インターネットを使用して文献検索や，WordやExcel，PowerPointを用いて研究結果のまとめ作業，資料作成を行うため，ノートPCやタブレット端末等を持参していただくことが望ましいです。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（演習の進め方等の確認） | シラバスを確認する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 2 | 研究テーマの検討 | 心理学おける関心のあるテーマについて考えておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 3 | 先行研究を調べる① | 気になる心理学のテーマについて調べてみる | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 4 | 先行研究を調べる② | 気になる心理学のテーマについて調べてみる | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 5 | 先行研究を調べる③ | 気になる心理学のテーマについて調べてみる | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 6 | 研究テーマの決定 | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 7 | 先行研究の概要をまとめる① | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 8 | 先行研究の概要をまとめる② | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 9 | 先行研究の概要をまとめる③ | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 10 | 先行研究の概要をまとめる④ | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 11 | 先行研究の概要をまとめる⑤ | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す |
| 12 | 先行研究のまとめの発表① | 作成した資料を確認し，発表のイメージをしておく | 発表時のコメントを踏まえ，資料を修正する |
| 13 | 先行研究のまとめの発表② | 作成した資料を確認し，発表のイメージをしておく | 発表時のコメントを踏まえ，資料を修正する |
| 14 | 先行研究のまとめの発表③ | 作成した資料を確認し，発表のイメージをしておく | 発表時のコメントを踏まえ，資料を修正する |
| 15 | 今後の研究展開の検討 | 前回までの内容を整理し，論点を整理する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010026344 研究演習Ⅱ　三本木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 三本木　温 | | |

## 学習目標(到達目標)

次の3点を到達目標とする。
1. 先行研究(論文)から必要な情報を読み取ることができる。
2. 関心のあるテーマについて，適切な手法を用いて健康・スポーツ科学に関連する調査・実験を行うことができる。
3. 得られた研究結果に対して，健康・スポーツ科学的視点から深く考察することができる。

## 授業概要(教育目的)

本演習では，自身の関心のあるテーマについて，一般的な健康・スポーツ科学の研究手法を用いて探求し，理解を深めていくことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し,学修した知識と技術を活用して,現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は，授業への参加態度，作成した資料や発表などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

必要時，適宜演習内で提示する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

インターネットを使用して文献検索や，WordやExcel，PowerPointを用いて研究結果のまとめ作業，資料作成を行うため，ノートPCやタブレット端末等を持参していただくことが望ましいです。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（演習の進め方等の確認） | シラバスを確認する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 2 | 研究テーマの検討 | 健康・スポーツ科学における関心のあるテーマについて考えておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 3 | 先行研究を調べる① | 気になる健康・スポーツ科学のテーマについて調べてみる | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 4 | 先行研究を調べる② | 気になる健康・スポーツ科学のテーマについて調べてみる | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 5 | 先行研究を調べる③ | 気になる健康・スポーツ科学のテーマについて調べてみる | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 6 | 研究テーマの決定 | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 7 | 先行研究の概要をまとめる① | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 8 | 先行研究の概要をまとめる② | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 9 | 先行研究の概要をまとめる③ | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 10 | 先行研究の概要をまとめる④ | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 11 | 先行研究の概要をまとめる⑤ | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す |
| 12 | 先行研究のまとめの発表① | 作成した資料を確認し，発表のイメージをしておく | 発表時のコメントを踏まえ，資料を修正する |
| 13 | 先行研究のまとめの発表② | 作成した資料を確認し，発表のイメージをしておく | 発表時のコメントを踏まえ，資料を修正する |
| 14 | 先行研究のまとめの発表③ | 作成した資料を確認し，発表のイメージをしておく | 発表時のコメントを踏まえ，資料を修正する |
| 15 | 今後の研究展開の検討 | 前回までの内容を整理し，論点を整理する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027300 研究演習Ⅲ　宮澤・遠藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 宮澤　君子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・保健・養護教諭や健康管理士一般指導員資格取得に必要である基本的な医学・看護の知識について説明できる。
・習得した医学的知識を活用した地域活動ができる。
・医療・看護に関連したテーマの論文／レポートを作成し、プレゼンテーションすることができる。

## 授業概要(教育目的)

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員等、その他医療・健康業務に関連した資格等を得るために必要な医学的知識とその活用方法を修得することを目標とする。
　医療・健康についての関心が高まっている現代の社会においては、マスメディア等を通して医学的知識に関して多くの情報を得ることができる。しかしながら、その情報の全てが正確性を保証されているとは限らず、一部で誤解や混乱を招きかねない実情がある。そういった中で、社会全体の医療・健康問題をレベルアップしていくためには、様々な知識・情報を的確に判断、整理し、周囲へ伝達していく能力を持った人材の育成が不可欠である。本ゼミでは、基本的な医学的知識を整理するとともにその具体的な活用方法を学び、職場や地域社会での健康管理の分野においてリーダー・シップを発揮できる能力を有する人材を育成する。
　＜3年次＞　1)キャンパスの健康情報の発信基地として、学生の健康調査や健康に関するパンフレットの作成を共同作業で行う。
2)将来の進路にあわせて各個人で研究課題を設定し、研究を開始する。1)と2)を組み合わせて活動する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミ活動全般を通して、各々の活動状況やディスカッション・発表時における参加態度、課題として作成されたレポート・論文の完成度等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

ゼミ活動内で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員資格取得を目指す。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　ゼミにおいては単に知識の獲得のみならず、学んだことを実践で応用していく活動が重要視される。自らが主体となって積極的に課題に取り組む姿勢が不可欠であり、より高いレベルの専門知識・情報の吸収を心がけることで卒業後の実社会につながるゼミ活動を目指す。
　以上のことを念頭においてゼミに参加することを希望する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習ガイダンス | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 2 | グループ課題①:「健康だより」テーマ設定 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 3 | グループ課題②:「健康だより」資料収集 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 4 | グループ課題③:「健康だより」作成 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 5 | グループ課題④:「健康だより」掲示、意見交換 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 6 | 健康調査についての基本事項の学習① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 7 | 健康調査についての基本事項の学習② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 8 | 健康調査の予行練習 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 9 | 健康調査についての振り返り① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 10 | 健康調査についての振り返り② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 11 | 個人研究のテーマ設定 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 12 | 個人研究課題の文献・資料収集 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 13 | 個人研究課題の文献・資料の確認 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 14 | 研究演習Ⅲの成果の提出 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 15 | 研究演習Ⅲの総括と反省 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027305 研究演習Ⅲ　井元ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

「健康」に関するテーマを各自設定し、テーマに沿った文献調査、発表ができる力を養う。

## 授業概要(教育目的)

「健康」について主に栄養や食生活の側面からゼミで考えていきます。

〈2・3年次〉
関連する文献を輪読、各自でテーマ設定をして文献調査を行いプレゼンテーションするなど行っていきます。
また、短大・大学生を対象とした食生活調査を実施しデータ集計・分析を行います。

〈4年次〉
各自が設定したテーマに基づき、調査・実験を行い、その結果を研究演習レポートをまとめる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

演習中の態度、提出課題、発表内容により評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績が知りたい方には、個別に対応する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
欠席は原則的に認めません。
各自責任を持って積極的にゼミ運営に関わってください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス<br>今後のスケジュール調整 | シラバスを読む | 講義内で指示された内容について振り返る。テーマについて考え、文献を検索してみる。 |
| 2 | レポート発表1　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 3 | レポート発表2　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 4 | レポート発表3　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 5 | レポート発表4　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 6 | レポート発表5　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 7 | レポート発表6　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 8 | レポート発表7　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 9 | レポート発表8　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 10 | レポート発表9　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 11 | レポート発表10　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 12 | レポート発表11　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 13 | レポート発表12　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 14 | レクリエーション | 必要な準備を行う | 振り返る |
| 15 | まとめ<br>半年間で調べた内容について、報告書作成・提出 | 半年で調べた内容について、報告書を作成し、提出。 | これまでの振り返りを行い、次年度の目標を立てる。 |

| 講義名 | 4010027310 研究演習Ⅲ　浜中ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 学生支援員派遣事業(八戸市)等の教育現場での体験を通して、児童生徒への対応や支援について学びを深め、養護教諭を目指すうえでの自己の課題を説明できる。
2. 教員採用試験の過去問及び模擬試験を通して、自己の課題を説明できる。
3. 研究演習レポートまたは卒業論文の計画を立案する。

## 授業概要(教育目的)

児童生徒の健康課題の解決に向けた養護教諭の役割・職務は、保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織指導の5領域に整理される。
研究演習Ⅲでは、
1. 学習支援員派遣事業(八戸市)等の教育現場での体験を通して、養護教諭の択割・職務についての理解を深める。
2. 教員採用試験への対策を十分に行う。
3. 研究演習レポートまたは卒業論文の準備をする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

2. こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。
3. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題研究に取り組む主体的姿勢を身につけている。
に関連する。

## 評価方法

課題提出、授業中の発言等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

重要ポイントを説明する。

## 参考文献

随時、紹介する。

## 講義時使用テキスト

テキストはなし。必要時随時紹介する。

## 資格との関連

養護教諭の教員採用試験合格に向けて取り組む。

## 学生へのメッセージ

1. 学生支援員派遣事業(八戸市)等の教育現場での体験を通して、児童生徒への対応や支援について学びを深めることは、養護教諭を目指すうえ大変意義があります。
2. 教員採用試験対策の過去問及び模擬試験を通して、自己の課題を明確にして克服するようにしましょう。

## 実務との関連

医療機関及び看護基礎教育機関での実務体験を通して、養護教諭の専門的性の向上を目指した指導を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、個人面談<br>・教育現場での体験<br>・教員採用試験対策<br>・研究演習レポート及び卒業論文 | 各自の抱負や相談事項を整理する。 | 個人面談の結果、今後の抱負を確認する |
| 2 | 教育現場での体験について<br>可能であれば、学生指導員等を体験している上級生から説明してもらう。 | 教育現場での体験の意義について調べる。 | 教育現場での体験を含めて、今後の計画を整理する。 |
| 3 | 教員採用試験に向けての準備① 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる。 |
| 4 | 教員採用試験に向けての準備② 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる。 |
| 5 | 教員採用試験に向けての準備③<br>学習内容・方法について意見交換 | 学習内容・方法についての疑問点などを整理する。 | 意見交換で得たことを整理する。 |
| 6 | 中間評価、個人面談<br>・教育現場での体験<br>・教員採用試験対策<br>・研究演習レポート及び卒業論文 | 各自、中間評価、相談内容を整理する。 | 今後の対策を整理する。 |
| 7 | 教員採用試験に向けての準備④ 過去問④ | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる。 |
| 8 | 教員採用試験に向けての準備⑤ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる。 |
| 9 | 教員採用試験に向けての準備⑥ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 10 | 教員採用試験に向けての準備⑦ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 11 | 教員採用試験に向けての準備⑧ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 12 | 教員採用試験に向けての準備⑨ 過去問 | 試験範囲について学習する | 不明な箇所について調べる |
| 13 | 教員採用試験に向けての準備⑩ 過去問 | 試験範囲について学習する | 不明な箇所について調べる |
| 14 | 教員採用試験に向けての準備⑪ 模擬試験 | 試験範囲について学習する | 不明な箇所について調べる |
| 15 | 今年度の成果、今後の課題、個人面談 | 各自の抱負の達成状況、今後の目標、相談事項を整理する。 | 個人面談の結果、今後の課題を確認する |

| 講義名 | 4010027315 研究演習Ⅲ　渡邉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

運動における身体の機能的変化、スポーツ動作について説明できる。
学術論文を探し、読むことができる。
研究方法について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本演習においては、主に運動に対する身体の生理的な反応や動きのメカニズムについて学ぶとともに、さまざまなスポーツの特性を理解し、自らが競技力の向上のために何が必要なのか課題を見つけること、また見つけた課題に対し、調査や測定、分析を行うことで客観的な資料を収集し、課題を解決するための方法を見つけることを目的とする。内容は各種スポーツ種目(球技種目を主とする。)の身体的、技術的な特性やルール等について理解するために、調査や実習を予定している。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

発表、レポート、参加態度など総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成した資料は、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

授業内で必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定はしない

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
学生は常に何らかの課題を与えられている状態となる。1人が欠席すると他のゼミ生の活動に影響が出ることもあるので、原則として欠席は認めない。受け身ではなく、積極的に行動できる学生に参加していただきたい。

## 実務との関連

【授業外活動】
南部町でおこなわれている介護予防教室に参加する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(模擬授業について) | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる |
| 2 | 指導案の作成① | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる |
| 3 | 指導案の作成② | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる |
| 4 | 模擬授業① | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる |
| 5 | 模擬授業② | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる |
| 6 | 模擬授業③ | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる |
| 7 | 模擬授業④ | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる |
| 8 | 模擬授業⑤ | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる |
| 9 | 模擬授業⑥ | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる |
| 10 | 模擬授業⑦ | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる |
| 11 | 研究テーマ設定に関するディスカッション① | テーマ設定に関する資料を集める。 | テーマ設定に関する資料を修正する。 |
| 12 | 研究テーマ設定に関するディスカッション② | テーマ設定に関する資料を集める。 | テーマ設定に関する資料を修正する。 |
| 13 | 研究テーマ設定に関するディスカッション③ | テーマ設定に関する資料を集める。 | テーマ設定に関する資料を修正する。 |
| 14 | 研究デザインに関するディスカッション① | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 15 | 研究デザインに関するディスカッション② | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027316 研究演習Ⅲ　金地ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 質問紙調査を中心に心理学の研究手法の技術を習得している
2. 興味のあるテーマについて心理学的研究を実施し、考察することができる
3. 研究結果をレポート(論文)にまとめることができる

## 授業概要(教育目的)

心理学の研究および現場ではさまざまな目的で質問紙による調査(測定)が行われています。その目的は以下の4つに大きく分けて考えることが出来ます。
1. 性格の測定
2. 気分、感情、ストレス度などの測定
3. 意識(態度)調査(いわゆる「アンケート調査」)
4. 印象評定(イメージの測定)
本演習では上記4つの中で特に「3. 意識(態度)調査」に焦点を絞り、質問紙調査の実施方法を習得してもらうことを目的とします。意識調査(アンケート調査)と聞くと、あるテーマについて適当に質問を並べて回答を貰い、結果を集計すれば良いと考えている人も少なくないかもしれません。ただし、本演習ではそのような表面的な意識調査ではなく、心理学の研究として行われる意識(態度)調査の実施方法を学びます。そのためには、質問紙調査を用いた心理学の学術論文(文献)を読み、心理学の研究で質問紙調査がどのように使われているか、どのような方法で行われているかを学ぶ必要があります。また、質問紙の回答を集計する際には統計を用いた分析が必要となります。本演習では質問紙の結果解析に必要な統計手法も学んでいただきます。最終的には、各自テーマを設定して質問紙調査を行い、結果を分析し、卒業論文としてまとめて提出していただきます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業の参加態度および提出されたレポート課題、授業内での発表内容を踏まえ、総合的に判断します。

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および提出課題(レポート)の評価については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

## 参考文献

指導教員が適宜紹介します。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　通常の講義と異なり、ほぼ毎回の授業で何か課題を設定し、作業を行います。授業への積極的な参加、また期限内のレポート課題の提出を求めます。なお授業の欠席、遅刻は厳禁とします(共同で作業を行うことが多いので、他のゼミ学生が迷惑します)。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究テーマの 探索 | 興味のあるテーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 引き続き興味のあるテーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 |
| 2 | 研究テーマの 確定 | 興味のあるテーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 確定した研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 |
| 3 | 図書文献、雑誌論文の検索 | 研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・引き続き研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 |
| 4 | 図書文献、雑誌論文の精読① | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・授業内で読んだ文献、雑誌論文について内容を精査する。<br>・別の文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。 |
| 5 | 図書文献、雑誌論文の精読② | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・授業内で読んだ文献、雑誌論文について内容を精査する。 |
| 6 | 研究計画の作成 | これまでに作成した文献、雑誌論文のレポートを読み返し、研究計画を立案する。 | 研究計画に合わせて、予備調査(実験)で用いる質問紙(実験刺激)を作成する。 |
| 7 | 予備調査の実施 | 研究計画に合わせて、予備調査で用いる質問紙を作成する。 | 予備調査の結果をふまえ、質問紙に修正を加えて完成させる。 |
| 8 | 質問紙調査の実施 | 予備調査の結果をふまえ、質問紙に修正を加えて完成させる。 | 印刷した質問紙を周囲の人に配布し、回答終了後に回収する。 |
| 9 | 質問紙の整理とデータ入力 | 配布した質問紙を回収し、整理する。 | エクセルファイルに回答データを入力する。 |
| 10 | データ分析の実施① | データの分析方法について、「心理統計学」や過去の「研究演習」の資料を見返して復習する。 | ・集計、分析結果を図表にまとめる。<br>・集計、分析結果からどのようなことが言えるか考察を行う。 |
| 11 | データ分析の実施② | データの分析方法について、「心理統計学」や過去の「研究演習」の資料を見返して復習する。 | ・集計、分析結果を図表にまとめる。<br>・集計、分析結果からどのようなことが言えるか考察を行う。 |
| 12 | レポートの 作成① | レポートの「背景と目的」部分を執筆する。 | ・レポートの「背景と目的」部分を修正する<br>・レポートの「方法」「結果」部分を執筆する |
| 13 | レポートの 作成② | レポートの「方法」「結果」部分を執筆する | ・レポートの「方法」「結果」部分を修正する<br>・レポートの「考察」部分を執筆する |
| 14 | 調査結果をまとめた発表スライドの作成 | レポートを基に、発表スライドの構成を考える | ・発表スライドを完成させる<br>・発表原稿を作成する |
| 15 | 調査結果の発表 | 発表のリハーサルを行う | 発表での質疑応答を参考にレポートを修正し、完成したレポートを提出する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027319 研究演習Ⅲ　工藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3つの事項を到達目標とする。
1. スポーツ指導者としての基礎的知識、指導法およびコミュニケーション能力を身につける。
2. 学術論文を検索でき、要約することができる。
3. フィールドワーク活動へ参加し、正しい測定方法を身につけ、結果の説明ができる。

## 授業概要(教育目的)

「コーチングアシスタント」とは、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度における基礎資格として位置づけられており、資格取得後(本学では在学中に、所定の単位を取得することで卒業と同時に資格が得られる)は地域におけるスポーツ活動の定着化や活性化をサポートする存在として活躍が期待されるだけでなく、競技別指導者やフィットネス系資格などへとステップアップしていくことができる資格である。本演習の目的は、コーチングアシスタント資格取得を前提とし、スポーツ指導者としての基礎的知識、指導法およびコミュニケーション能力を身につけること、さらに分析者として映像や情報技術を駆使した分析技術を身につけることとする。また、今日ではスポーツに関わる指導者の在り方そのものが社会問題となっている。時代に則した指導方法を身につけ、3年間の研究演習を通じて、将来スポーツ指導者のみならずあらゆる分野において論理的かつ創造的に問題解決できる能力、そして教育的で心から力が湧いてくる楽しいコーチング技術を身につけてもらいたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と課題への取り組み、内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅡ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅢ」

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

本ゼミナール希望者は日本体育協会公認スポーツリーダー取得を前提とする。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習の進め方について | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 2 | 学術論文の検索① | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 3 | 発表① | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 4 | 学術論文の検索② | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 5 | 発表② | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 6 | コーチング演習① | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 7 | コーチング演習② | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 8 | コーチング演習③ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 9 | コーチング演習④ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 10 | コーチング演習⑤ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 11 | コーチング演習⑥ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 12 | 身体特性および運動能力の測定 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 13 | フィールドワーク活動①　身体特性の測定 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 14 | フィールドワーク活動②　運動能力の測定 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 15 | フィールドワーク活動③　結果の説明 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027325 研究演習Ⅲ　吉田守実ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

・学習目標(到達目標) ・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な科学文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉分野における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、受講者の福祉観、研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学習到達目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後に研究演習レポートの添削を行い、返却し、今後の方針を決定する。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【授業外活動】
卒論のテーマによっては、野外での情報の収集とその分析を行い、そのデータを基に卒業論文を作成することも可能である。

## 実務との関連

社会福祉協議会での実務経験をもとに、現場実践で生かされる研究との関わりについて講話する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 論文を読み、その内容を整理する。(1) | シラバスの授業計画を読み、理解しておくこと | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 2 | 論文を読み、その内容を整理する。(2) | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 3 | 論文を読み、その内容を整理する。(3) | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 4 | 論文を読み、その内容を整理する。(4) | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 5 | 論文を読み、その内容を整理する。(5) | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 6 | 論文を読み、その内容を整理する。(6) | 発表内容をまとめ発表に備える。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 7 | 入手した論文の内容を紹介・発表する。(1) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要に応じ新たに論文を収集する。 |
| 8 | 入手した論文の内容を紹介・発表する。(2) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要に応じ新たに論文を収集する。 |
| 9 | 入手した論文の内容を紹介・発表する。(3) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要に応じ新たに論文を収集する。 |
| 10 | 入手した論文の内容を紹介・発表する。(4) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要に応じ新たに論文を収集する。 |
| 11 | 入手した論文の内容を紹介・発表する。(5) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に内容をまとめる。必要に応じ新たに論文を収集する。 |
| 12 | 整理した論文情報から、研究計画を立てる。(1) | 論文構成について考える。 | 研究演習の作成に着手する。 |
| 13 | 整理した論文情報から、研究計画を立てる。(2) | 論文構成について考える。 | 研究演習の作成に着手する。 |
| 14 | 整理した論文情報から、研究計画を立てる。(3) | 論文構成について考える。 | 研究演習の作成に着手する。 |
| 15 | 整理した論文情報から、研究計画を立てる。(4) | 論文構成について考える。 | 研究演習の作成に着手する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027326 研究演習Ⅲ　佐藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 佐藤　千恵子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための文献や資料を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートに整理し、研究計画を立てることができる。

## 授業概要(教育目的)

食生活のみならず現状の社会問題を踏まえて、課題とその発見および解決方法について体系的に学ぶことを通じ、受講者の研究力を育成していく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学習到達目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後、研究演習レポートを提出させる。その後次回まで添削し、返却後方針を決める。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | シラバスの内容を読み、今後の研究演習の方針を理解する。 | 次週までに研究テーマについて考える。 |
| 2 | 研究テーマについて考える。(1) | 調べた内容を整理する。 | テーマについてインターネットで調べておく。 |
| 3 | 研究テーマについて考える。(2) | 調べた内容を整理する。 | テーマについてインターネットで調べておく。 |
| 4 | 研究テーマについて考える。(3) | 調べた内容を整理する。 | テーマのアプローチを考えておく。 |
| 5 | 研究テーマの問題点を抽出する。(1) | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べまとめておく。 |
| 6 | 研究テーマの問題点を抽出する。(2) | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べまとめておく。 |
| 7 | 研究テーマの問題点を発表する。 | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べまとめておく。 |
| 8 | 類似の文献検索をし、要約を発表する。 | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べまとめておく。 |
| 9 | 研究テーマに関する論文、記述を図書館で調べる。(1)<br>検索した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べまとめておく。 |
| 10 | 研究テーマに関する論文、記述を図書館で調べる。(2)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べまとめておく。 |
| 11 | 研究テーマに関する論文、記述を図書館で調べる。(3)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べまとめておく。 |
| 12 | 研究テーマに関する論文、記述を図書館で調べる。(4)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | ゼミで生じた疑問をインターネットや図書館で調べまとめておく。 |
| 13 | 研究テーマに関連した論文を入手する。(1)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 入手した論文を読み、ノート等にまとめる。 |
| 14 | 研究テーマに関連した論文を入手する。(2)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 入手した論文を読み、ノート等にまとめる。 |
| 15 | 研究テーマに関連した論文を入手する。(3)<br>入手した論文の要約発表。 | 調べた内容を整理する。 | 入手した論文を読み、ノート等にまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027330 研究演習Ⅲ　千葉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1～2年生で学んだレポート作成に関する知識と技術を応用し、下記の目標を達成することとする。
・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な科学文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。
・最終的に1つの研究テーマについて、論文としてまとめ、対外的に発表できる。

## 授業概要(教育目的)

本授業では以下を教育目的とする。
この演習では、2年生の研究演習Ⅰ・Ⅱに引き続き、研究とは何かを理解し、関心のある研究テーマを選んでまとめ上げていく力を高め、4年生での論文作成の基本となるし式や技術をマスターすることを目的とする。個人ごとに取り組んだ研究テーマについて発表しあい、ゼミメンバーとのあいだで意見交換をしあう形式で授業を進める。自分以外のテーマにもそれぞれがもつ意見を積極的に出し合って討論していく双方向の情報交換も取り入れ、各自、研究テーマについて「考え」、「表現する」能力をより高いものとする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

自主的に課題を探究し、理解してその対応ができる能力を身につけている。

## 評価方法

この年次の達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後に研究演習レポートの添削を行い、返却し、今後の方針を決定する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

全回出席が基本。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

【授業外活動状況】
卒論のテーマによっては、野外での試料・情報の収集とその分析を行い、そのデータを基に卒業論文を作成することもできる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 前期授業「研究演習Ⅰ」の振り返り | 前期の授業を整理しておく | 授業内容を整理する |
| 2 | 研究テーマの確認 | 研究の進め方を考えておく | 授業内容を整理する |
| 3 | 年間の研究計画を立てる | 年間の計画書を考える | 計画書通りに実施可能か考える |
| 4 | メンバー間での話し合い | 計画書の修正が必要か確認する | 話し合った情報を整理する<br>計画書の修正が必要な場合は修正案を作る |
| 5 | 担任と研究計画の確認を行う | 担任と話し合う準備をする | 話し合った内容を整理する |
| 6 | 研究計画に従い、各自の研究を開始する | 計画の進捗状況と次回の作業予定を確認する | 作業内容を見直し、必要があれば修正する |
| 7 | 研究計画に従い、研究を進める | 計画の進捗状況と次回の作業予定を確認する | 作業内容を見直し、必要があれば修正する |
| 8 | 研究計画に従い、研究を進める | 計画の進捗状況と次回の作業予定を確認する | 作業内容を見直し、必要があれば修正する |
| 9 | 研究計画に従い、研究を進める | 計画の進捗状況と次回の作業予定を確認する | 作業内容を見直し、必要があれば修正する |
| 10 | メンバーとの研究の進捗状況確認、意見交換 | 研究の進め方の問題点や改善点の有無を確認しておく | 意見交換で得た情報を整理し、必要に応じて研究計画を再検討する |
| 11 | 担任との研究計画確認 | 話し合う内容を整理しておく | 計画変更必要な場合は修正する |
| 12 | 研究遂行にさらに必要な論文や記事などの再度の収集 | 論文や記事などの再収集が必要か検討する | 図書館やインターネット検索を行い、必要な論文や記事の収集を行う |
| 13 | 論文や記事の要点を記録する | 収集した論文や記事を読む | 論文や記事の読解、記録を継続する |
| 14 | 論文や記事の要点を記録する | 収集した論文や記事を読む | 論文や記事の読解、記録を継続する |
| 15 | ゼミ内進捗状況報告会 | 各自、進捗度合、感想などをまとめておく | 授業15回分を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027331 研究演習Ⅲ　有光ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

体育・スポーツ科学に関する文献を精読し、基礎的な調査・測定方法の実習を併せて行う。トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格試験の対策も併せて行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(実験とは) | テーマについて、インターネットで調べる。 | 配布資料と講義ノートを読み返す。 |
| 2 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(1回目) | テーマ設定に関連したレジュメを作成する。 | テーマ設定に関連したレジュメを修正する。 |
| 3 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(2回目) | テーマ設定に関連したレジュメを作成する。 | テーマ設定に関連したレジュメを修正する。 |
| 4 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(3回目) | テーマ設定に関連したレジュメを作成する。 | テーマ設定に関連したレジュメを修正する。 |
| 5 | 模擬実験・調査(1回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理したレジュメを作成する。 |
| 6 | 模擬実験・調査(2回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理したレジュメを作成する。 |
| 7 | 模擬実験・調査データの検討(1回目) | 実験データを整理したレジュメを作成する。 | 実験データを整理したレジュメを修正する。 |
| 8 | 模擬実験・調査データの検討(2回目) | 実験データを整理したレジュメを作成する。 | 実験データを整理したレジュメを修正する。 |
| 9 | 模擬実験・調査(3回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理したレジュメを作成する。 |
| 10 | 模擬実験・調査(4回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理したレジュメを作成する。 |
| 11 | 模擬実験・調査データの検討(3回目) | 実験データを整理したレジュメを作成する。 | 実験データを整理したレジュメを修正する。 |
| 12 | 模擬実験・調査データの検討(4回目) | 実験データを整理したレジュメを作成する。 | 実験データを整理したレジュメを修正する。 |
| 13 | 研究デザインに関するディスカッション(1回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 14 | 研究デザインに関するディスカッション(2回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 15 | 研究デザインに関するディスカッション(3回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027332 研究演習Ⅲ　泉水ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

体育・スポーツ科学に関する文献を精読し、基礎的な調査・測定方法の実習を併せて行う。トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格試験の対策も併せて行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(実験とは) | テーマについて、インターネットで調べる。 | 配布資料と講義ノートを読み返す。 |
| 2 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(1回目) | テーマ設定に関連したレジュメを作成する。 | テーマ設定に関連したレジュメを修正する。 |
| 3 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(2回目) | テーマ設定に関連したレジュメを作成する。 | テーマ設定に関連したレジュメを修正する。 |
| 4 | 研究テーマ設定に関するディスカッション(3回目) | テーマ設定に関連したレジュメを作成する。 | テーマ設定に関連したレジュメを修正する。 |
| 5 | 模擬実験・調査(1回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理したレジュメを作成する。 |
| 6 | 模擬実験・調査(2回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理したレジュメを作成する。 |
| 7 | 模擬実験・調査データの検討(1回目) | 実験データを整理したレジュメを作成する。 | 実験データを整理したレジュメを修正する。 |
| 8 | 模擬実験・調査データの検討(2回目) | 実験データを整理したレジュメを作成する。 | 実験データを整理したレジュメを修正する。 |
| 9 | 模擬実験・調査(3回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理したレジュメを作成する。 |
| 10 | 模擬実験・調査(4回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理したレジュメを作成する。 |
| 11 | 模擬実験・調査データの検討(3回目) | 実験データを整理したレジュメを作成する。 | 実験データを整理したレジュメを修正する。 |
| 12 | 模擬実験・調査データの検討(4回目) | 実験データを整理したレジュメを作成する。 | 実験データを整理したレジュメを修正する。 |
| 13 | 研究デザインに関するディスカッション(1回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 14 | 研究デザインに関するディスカッション(2回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 15 | 研究デザインに関するディスカッション(3回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027334 研究演習Ⅲ　大木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習においては、ソーシャルワークの専門性の範疇にとどまらない「地域の福祉」の理念を実現するために、求められる具体的な手法を考え、それを効果的な実践として実行できる力を身につけることを学習目的とします。

## 授業概要(教育目的)

ゼミ活動の主要なキーワード…「地域の福祉」「フィールドワーク」「共生社会」
「地域の福祉」をテーマとして、八戸市とその近隣地域の福祉課題にかかわるフィールドワークや地域貢献活動をはじめ、さまざまな「地域の福祉」を発展させる実践をすることを活動の中心とします。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価します。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（自然科学における研究の位置づけについて） | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究デザインとは(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究デザインとは(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究デザインとは(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 文献研究の方法(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027335 研究演習Ⅲ　遠藤光男ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 自分の興味のある研究領域に関する基礎知識を習得している。

## 授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰ～Ⅵでは，少人数で心理学の専門書や論文の購読を行い，心理学をより深く学ぶことを行う。さらに，自ら研究テーマを決め，これまで学んできた研究方法やデータ分析法を用いて，独自の心理学研究を実践する。そして，その成果を「研究演習レポート」あるいは「卒業論文」としてまとめることを行う。
研究演習Ⅲでは，興味のある領域をある程度定め，その領域の書籍や論文を読み，特定の領域への基礎知識を習得する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究領域の選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(5) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(5) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027336 研究演習Ⅲ　立石ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 自分の興味のある研究領域に関する基礎知識を習得している。

## 授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰ～Ⅵでは，少人数で心理学の専門書や論文の購読を行い，心理学をより深く学ぶことを行う。さらに，自ら研究テーマを決め，これまで学んできた研究方法やデータ分析法を用いて，独自の心理学研究を実践する。そして，その成果を「研究演習レポート」あるいは「卒業論文」としてまとめることを行う。
研究演習Ⅲでは，興味のある領域をある程度定め，その領域の書籍や論文を読み，特定の領域への基礎知識を習得する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究領域の選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(5) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(5) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

| 講義名 | 4010027337 研究演習Ⅲ　平塚ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 自分の興味のある研究領域に関する基礎知識を習得している。

## 授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰ～Ⅵでは，少人数で心理学の専門書や論文の購読を行い，心理学をより深く学ぶことを行う。さらに，自ら研究テーマを決め，これまで学んできた研究方法やデータ分析法を用いて，独自の心理学研究を実践する。そして，その成果を「研究演習レポート」あるいは「卒業論文」としてまとめることを行う。
研究演習Ⅲでは，興味のある領域をある程度定め，その領域の書籍や論文を読み，特定の領域への基礎知識を習得する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究領域の選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(5) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(5) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

| 講義名 | 4010027338 研究演習Ⅲ　石原ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 自分の興味のある研究領域に関する基礎知識を習得している。

## 授業概要(教育目的)

現代社会の諸課題や現象を念頭に置きつつ、それらの根源にある人間の問題とその理解を目指して、様々な人文学的なアプローチを知り、研究演習レポートや卒業論文へのプロセスを進めていくゼミナール形式の授業を行う。
主なアプローチとしては、宗教学、聖書学、キリスト教神学、物語論となるが、これらは研究対象というよりはむしろ方法論であり、それらをどのようなテーマに適用してもかまわない。

研究演習Ⅲでは，興味のある領域をある程度定め，その領域の書籍や論文を読み，特定の領域への基礎知識を習得する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

授業時に紹介する。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究領域の選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(5) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(5) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

| 講義名 | 4010027339 研究演習Ⅲ　阿部ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 自分の興味のある研究領域に関する基礎知識を習得している。

## 授業概要(教育目的)

現代社会の諸課題や現象を念頭に置きつつ、それらの根源にある人間の問題とその理解を目指して、様々な人文学的なアプローチを知り、研究演習レポートや卒業論文へのプロセスを進めていくゼミナール形式の授業を行う。
主なアプローチとしては、宗教学、聖書学、キリスト教神学、物語論となるが、これらは研究対象というよりはむしろ方法論であり、それらをどのようなテーマに適用してもかまわない。

研究演習Ⅲでは，興味のある領域をある程度定め，その領域の書籍や論文を読み，特定の領域への基礎知識を習得する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

授業時に紹介する。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究領域の選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 興味のある研究領域の研究をまとめた書籍の講読(5) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 興味のある研究領域を概観した論文(レビュー論文)の講読(5) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 興味のある研究領域の最新の研究論文の講読(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010027340 研究演習Ⅲ　今川ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

次の3点を到達目標とする。
1. 先行研究(論文)から必要な情報を読み取ることができる。
2. 関心のあるテーマについて，適切な手法を用いて心理学の調査・実験を行うことができる。
3. 得られた研究結果に対して，心理学的視点から深く考察することができる。

## 授業概要(教育目的)

本演習では，自身の関心のあるテーマについて，一般的な心理学の研究手法を用いて探求し，理解を深めていくことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は，授業への参加態度，作成した資料や発表などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

必要時，適宜演習内で提示する。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

インターネットを使用して文献検索や，WordやExcel，PowerPointを用いて研究結果のまとめ作業，資料作成を行うため，ノートPCやタブレット端末等を持参していただくことが望ましいです。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認） | シラバスを確認する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 2 | 研究テーマの確認 | 2年次に作成したPowerPoint資料および関心のある研究の文献を見直す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 3 | 先行研究の再確認 | 2年次に作成したPowerPoint資料および関心のある研究の文献を見直す | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 4 | 再現実験(調査)の準備① | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 5 | 再現実験(調査)の準備② | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 6 | 再現実験(調査)の準備③ | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 7 | 再現実験(調査)の遂行① | 先行研究の手続き等を再確認しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 8 | 再現実験(調査)の遂行② | 先行研究の手続き等を再確認しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 9 | 再現実験(調査)の遂行③ | 先行研究の手続き等を再確認しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 10 | 再現実験(調査)のまとめ① | 収集したデータを確認・整理しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 11 | 再現実験(調査)のまとめ② | 収集したデータを確認・整理しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 12 | 再現実験(調査)のまとめ③ | 収集したデータを確認・整理しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 13 | 再現実験(調査)結果の発表① | 作成した資料を確認し，発表のイメージをしておく | 発表時のコメントを踏まえ，資料を修正する |
| 14 | 再現実験(調査)結果の発表② | 作成した資料を確認し，発表のイメージをしておく | 発表時のコメントを踏まえ，資料を修正する |
| 15 | 今後の研究展開の検討 | 前回までの内容を整理し，論点を整理する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028300 研究演習Ⅳ　宮澤・遠藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 宮澤　君子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・保健・養護教諭や健康管理士一般指導員資格取得に必要である基本的な医学・看護の知識について説明できる。
・習得した医学的知識を活用した地域活動ができる。
・医療・看護に関連したテーマの論文／レポートを作成し、プレゼンテーションすることができる。

## 授業概要(教育目的)

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員等、その他医療・健康業務に関連した資格等を得るために必要な医学的知識とその活用方法を修得することを目標とする。
　医療・健康についての関心が高まっている現代の社会においては、マスメディア等を通して医学的知識に関して多くの情報を得ることができる。しかしながら、その情報の全てが正確性を保証されているとは限らず、一部で誤解や混乱を招きかねない実情がある。そういった中で、社会全体の医療・健康問題をレベルアップしていくためには、様々な知識・情報を的確に判断、整理し、周囲へ伝達していく能力を持った人材の育成が不可欠である。本ゼミでは、基本的な医学的知識を整理するとともにその具体的な活用方法を学び、職場や地域社会での健康管理の分野においてリーダー・シップを発揮できる能力を有する人材を育成する。
　＜3年次＞　1)キャンパスの健康情報の発信基地として、学生の健康調査や健康に関するパンフレットの作成を共同作業で行う。
2)将来の進路にあわせて各個人で研究課題を設定し、研究を開始する。1)と2)を組み合わせて活動する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミ活動全般を通して、各々の活動状況やディスカッション・発表時における参加態度、課題として作成されたレポート・論文の完成度等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

ゼミ活動内で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員資格取得を目指す。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　ゼミにおいては単に知識の獲得のみならず、学んだことを実践で応用していく活動が重要視される。自らが主体となって積極的に課題に取り組む姿勢が不可欠であり、より高いレベルの専門知識・情報の吸収を心がけることで卒業後の実社会につながるゼミ活動を目指す。
　以上のことを念頭においてゼミに参加することを希望する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習ガイダンス | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 2 | グループ課題①:「健康だより」テーマ設定 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 3 | グループ課題②:「健康だより」資料収集 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 4 | グループ課題③:「健康だより」作成 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 5 | グループ課題④:「健康だより」掲示、意見交換 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 6 | 健康調査についての基本事項の学習① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 7 | 健康調査についての基本事項の学習② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 8 | 健康調査の予行練習 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 9 | 健康調査についての振り返り① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 10 | 健康調査についての振り返り② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 11 | 個人研究課題の文献・資料の熟読 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 12 | 個人研究課題の文献・資料の要約 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 13 | 個人研究課題の文献・資料の紹介 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 14 | 研究演習Ⅳの成果の提出 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 15 | 研究演習Ⅳの総括と反省 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028305 研究演習Ⅳ　井元ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

「健康」に関するテーマを各自設定し、テーマに沿った文献調査、発表ができる力を養う。

## 授業概要(教育目的)

「健康」について主に栄養や食生活の側面からゼミで考えていきます。

〈2・3年次〉
関連する文献を輪読、各自でテーマ設定をして文献調査を行いプレゼンテーションするなど行っていきます。
また、短大・大学生を対象とした食生活調査を実施しデータ集計・分析を行います。

〈4年次〉
各自が設定したテーマに基づき、調査・実験を行い、その結果を研究演習レポートをまとめる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

演習中の態度、提出課題、発表内容により評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績が知りたい学生には個別に対応する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
欠席は原則的に認めません。
各自責任を持って積極的にゼミ運営に関わってください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習レポート作成に向けたガイダンス<br>今後のスケジュール調整 | シラバスを読む | 講義内で指示された内容について振り返る。テーマについて考え、文献を検索してみる。 |
| 2 | レポート発表1　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 3 | レポート発表2　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 4 | レポート発表3　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 5 | レポート発表4　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 6 | レポート発表5　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 7 | レポート発表6　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 8 | レポート発表7　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 9 | レポート発表8　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 10 | レポート発表9　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 11 | レポート発表10　ディスカッション<br>(発表:Aグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 12 | レポート発表11　ディスカッション<br>(発表:Bグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 13 | レポート発表12　ディスカッション<br>(発表:Cグループ) | 報告レポートの書き方にしたがって、選んだ文献のレポートを作成する。 | ディスカッションでの意見なども反映して、次回発表用の報告レポートを作成する。 |
| 14 | レクリエーション | 必要な準備を行う | 振り返る |
| 15 | まとめ<br>研究演習レポート作成に向けた準備 | 1年間で調べた内容について、報告書を作成し、提出。 | これまでの振り返りを行い、研究演習レポート作成に向けた準備を行う。 |

| 講義名 | 4010028310 研究演習Ⅳ　浜中ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 学生支援員派遣事業(八戸市)等の教育現場での体験を通して、児童生徒への対応や支援について学びを深め、養護教諭を目指すうえでの自己の課題を説明できる。
2. 教員採用試験の過去問及び模擬試験を通して、自己の課題を説明できる。
3. 研究演習レポートまたは卒業論文の計画を立案する。

## 授業概要(教育目的)

児童生徒の健康課題の解決に向けた養護教諭の役割・職務は、保健管理、保健教育、健康相談、保健室経営、保健組織指導の5領域に整理される。
　研究演習Ⅳでは、
1. 学習支援員派遣事業(八戸市)等の教育現場での体験を通して、養護教諭の択割・職務についての理解を深める。
2. 教員採用試験への対策を十分に行う。
3. 研究演習レポートまたは卒業論文の準備をする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

2. こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。
3. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題研究に取り組む主体的姿勢を身につけている。
に関連する。

## 評価方法

課題提出、授業中の発言等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

重要ポイントを説明する。

## 参考文献

随時、紹介する。

## 講義時使用テキスト

テキストはなし。随時紹介する。

## 資格との関連

養護教諭の教員採用模擬試験合格に向けて取り組む。

## 学生へのメッセージ

1. 学生支援員派遣事業(八戸市)等の教育現場での体験を通して、児童生徒への対応や支援について学びを深めることは、養護教諭を目指すうえ大変意義があります。
2. 教員採用試験対策を強化し、自己の課題を明確にして克服するようにしましょう。

## 実務との関連

医療機関及び看護基礎教育機関での実務体験を通して、養護教諭の専門的性の向上を目指した指導を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、個人面談<br>・教育現場での体験<br>・教員採用試験対策<br>・研究演習レポート及び卒業論文 | 各自の抱負・課題を整理する。 | 個人面談の結果、抱負・課題を整理する。 |
| 2 | 教員採用試験に向けての準備① 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 3 | 教員採用試験に向けての準備② 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 4 | 教員採用試験に向けての準備③ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 5 | 教員採用試験に向けての準備④ | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 6 | 中間評価、個人面談 | 各自、中間評価、相談内容を整理する。 | 今後の対策を整理する。 |
| 7 | 教員採用試験に向けての準備⑤ 集団討議 | 集団討議に参加する姿勢について学習する。 | 自己評価を記入する。 |
| 8 | 教員採用試験に向けての準備⑥ 集団討議 | 前回の自己評価をふまえて、修正点を整理する。 | 自己評価を記入する。 |
| 9 | 教員採用試験に向けての準備⑦ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 10 | 個人面談② | 各自の抱負・課題、研究演習レポートまたは卒論のテーマ・計画の進捗状況を整理する。 | 抱負・課題、研究演習レポートまたは卒論のテーマ・計画の計画を見直し整理する。 |
| 11 | 教員採用試験に向けての準備⑧ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 12 | 教員採用試験に向けての準備⑨ 過去問 | 試験範囲について学習する | 不明な箇所について調べる |
| 13 | 4年生の研究演習レポート発表、卒業論文発表を聴く | 聴講するテーマを選択する。 | 計画の見直しをする。 |
| 14 | 教員採用試験に向けての準備⑩ 模擬試験 | 試験範囲について学習する | 過去問題の結果、不明な箇所について調べる |
| 15 | 個人面談③ | 各自の抱負・課題、研究演習レポートまたは卒論のテーマ・計画の達成状況を整理する。 | 抱負・課題、研究演習レポートまたは卒論のテーマ・計画を見直し整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028315 研究演習Ⅳ　渡邉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

学習目標　運動における身体の機能的変化、スポーツ動作について説明できる。
学術論文を探し、読むことができる。
研究方法について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本演習においては、主に運動に対する身体の生理的な反応や動きのメカニズムについて学ぶとともに、さまざまなスポーツの特性を理解し、自らが競技力の向上のために何が必要なのか課題を見つけること、また見つけた課題に対し、調査や測定、分析を行うことで客観的な資料を収集し、課題を解決するための方法を見つけることを目的とする。内容は各種スポーツ種目(球技種目を主とする。)の身体的、技術的な特性やルール等について理解するために、調査や実習を予定している。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

発表、レポート、参加態度など総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成した資料は、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

授業内で必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定はしない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
学生は常に何らかの課題を与えられている状態となる。1人が欠席すると他のゼミ生の活動に影響が出ることもあるので、原則として欠席は認めない。受け身ではなく、積極的に行動できる学生に参加していただきたい。

## 実務との関連

【授業外活動】
南部町でおこなわれている介護予防教室に参加する。
毎年おこなわれているゼミ合宿へ参加する。今年度は2月を予定している。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(実験について) | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容をノートにまとめる。 |
| 2 | 研究デザインに関するディスカッション① | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 3 | 研究デザインに関するディスカッション② | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 4 | 研究デザインに関するディスカッション③ | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 5 | 予備実験・調査① | 必要に応じた実験観察を行う。 | 実験で得られたデータを整理する。 |
| 6 | 予備実験・調査② | 必要に応じた実験観察を行う。 | 実験で得られたデータを整理する。 |
| 7 | 予備実験・調査③ | 必要に応じた実験観察を行う。 | 実験で得られたデータを整理する。 |
| 8 | 予備実験・調査④ | 必要に応じた実験観察を行う。 | 実験で得られたデータを整理する。 |
| 9 | 予備実験・調査データの検討① | 実験データをまとめた資料を作成する。 | 実験データをまとめた資料を修正する。 |
| 10 | 予備実験・調査データの検討② | 実験データをまとめた資料を修正する。 | 実験データをまとめた資料を修正する。 |
| 11 | 予備実験・調査データの検討③ | 実験データをまとめた資料を修正する。 | 実験データをまとめた資料を修正する。 |
| 12 | 研究デザインに関するディスカッション④ | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 13 | 研究デザインに関するディスカッション⑤ | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 14 | 先行研究のまとめと研究デザインの修正① | 研究デザイン案を作成する。 | 研究デザイン案を修正する。 |
| 15 | 先行研究のまとめと研究デザインの修正② | 研究デザイン案を作成する。 | 研究デザイン案を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028316 研究演習Ⅳ　金地ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 質問紙調査を中心に心理学の研究手法の技術を習得している
2. 興味のあるテーマについて心理学的研究を実施し、考察することができる
3. 研究結果をレポート(論文)にまとめることができる

## 授業概要(教育目的)

心理学の研究および現場ではさまざまな目的で質問紙による調査(測定)が行われています。その目的は以下の4つに大きく分けて考えることが出来ます。
1. 性格の測定
2. 気分、感情、ストレス度などの測定
3. 意識(態度)調査(いわゆる「アンケート調査」)
4. 印象評定(イメージの測定)
本演習では上記4つの中で特に「3. 意識(態度)調査」に焦点を絞り、質問紙調査の実施方法を習得してもらうことを目的とします。意識調査(アンケート調査)と聞くと、あるテーマについて適当に質問を並べて回答を貰い、結果を集計すれば良いと考えている人も少なくないかもしれません。ただし、本演習ではそのような表面的な意識調査ではなく、心理学の研究として行われる意識(態度)調査の実施方法を学びます。そのためには、質問紙調査を用いた心理学の学術論文(文献)を読み、心理学の研究で質問紙調査がどのように使われているか、どのような方法で行われているかを学ぶ必要があります。また、質問紙の回答を集計する際には統計を用いた分析が必要となります。本演習では質問紙の結果解析に必要な統計手法も学んでいただきます。最終的には、各自テーマを設定して質問紙調査を行い、結果を分析し、卒業論文としてまとめて提出していただきます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業の参加態度および提出されたレポート課題、授業内での発表内容を踏まえ、総合的に判断します。

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および提出課題(レポート)の評価については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

## 参考文献

指導教員が適宜紹介します。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　通常の講義と異なり、ほぼ毎回の授業で何か課題を設定し、作業を行います。授業への積極的な参加、また期限内のレポート課題の提出を求めます。なお授業の欠席、遅刻は厳禁とします(共同で作業を行うことが多いので、他のゼミ学生が迷惑します)。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究テーマの 探索 | 興味のあるテーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 引き続き興味のあるテーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 |
| 2 | 研究テーマの 確定 | 興味のあるテーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 確定した研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 |
| 3 | 図書文献、雑誌論文の検索 | 研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・引き続き研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 |
| 4 | 図書文献、雑誌論文の精読① | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・授業内で読んだ文献、雑誌論文について内容を精査する。<br>・別の文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。 |
| 5 | 図書文献、雑誌論文の精読② | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・授業内で読んだ文献、雑誌論文について内容を精査する。 |
| 6 | 研究計画の作成 | これまでに作成した文献、雑誌論文のレポートを読み返し、研究計画を立案する。 | 研究計画に合わせて、予備調査(実験)で用いる質問紙(実験刺激)を作成する。 |
| 7 | 予備調査の実施 | 研究計画に合わせて、予備調査で用いる質問紙を作成する。 | 予備調査の結果をふまえ、質問紙に修正を加えて完成させる。 |
| 8 | 質問紙調査の実施 | 予備調査の結果をふまえ、質問紙に修正を加えて完成させる。 | 印刷した質問紙を周囲の人に配布し、回答終了後に回収する。 |
| 9 | 質問紙の整理とデータ入力 | 配布した質問紙を回収し、整理する。 | エクセルファイルに回答データを入力する。 |
| 10 | データ分析の実施① | データの分析方法について、「心理統計学」や過去の「研究演習」の資料を見返して復習する。 | ・集計、分析結果を図表にまとめる。<br>・集計、分析結果からどのようなことが言えるか考察を行う。 |
| 11 | データ分析の実施② | データの分析方法について、「心理統計学」や過去の「研究演習」の資料を見返して復習する。 | ・集計、分析結果を図表にまとめる。<br>・集計、分析結果からどのようなことが言えるか考察を行う。 |
| 12 | レポートの 作成① | レポートの「背景と目的」部分を執筆する。 | ・レポートの「背景と目的」部分を修正する<br>・レポートの「方法」「結果」部分を執筆する |
| 13 | レポートの 作成② | レポートの「方法」「結果」部分を執筆する | ・レポートの「方法」「結果」部分を修正する<br>・レポートの「考察」部分を執筆する |
| 14 | 調査結果をまとめた発表スライドの作成 | レポートを基に、発表スライドの構成を考える | ・発表スライドを完成させる<br>・発表原稿を作成する |
| 15 | 調査結果の発表 | 発表のリハーサルを行う | 発表での質疑応答を参考にレポートを修正し、完成したレポートを提出する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028319 研究演習Ⅳ　工藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3つの事項を到達目標とする。
1. スポーツ指導者としての基礎的知識、指導法およびコミュニケーション能力を身につける。
2. 学術論文を検索でき、要約することができる。
3. フィールドワーク活動へ参加し、正しい測定方法を身につけ、結果の説明ができる。

## 授業概要(教育目的)

「コーチングアシスタント」とは、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度における基礎資格として位置づけられており、資格取得後(本学では在学中に、所定の単位を取得することで卒業と同時に資格が得られる)は地域におけるスポーツ活動の定着化や活性化をサポートする存在として活躍が期待されるだけでなく、競技別指導者やフィットネス系資格などへとステップアップしていくことができる資格である。本演習の目的は、コーチングアシスタント資格取得を前提とし、スポーツ指導者としての基礎的知識、指導法およびコミュニケーション能力を身につけること、さらに分析者として映像や情報技術を駆使した分析技術を身につけることとする。また、今日ではスポーツに関わる指導者の在り方そのものが社会問題となっている。時代に則した指導方法を身につけ、3年間の研究演習を通じて、将来スポーツ指導者のみならずあらゆる分野において論理的かつ創造的に問題解決できる能力、そして教育的で心から力が湧いてくる楽しいコーチング技術を身につけてもらいたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と課題への取り組み、内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅡ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅢ」

## 講義時使用テキスト

特になし。必要に応じて適宜紹介する。

## 資格との関連

本ゼミナール希望者は日本体育協会公認スポーツリーダー取得を前提とする。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学術論文の検索 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 2 | 発表準備 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 3 | 発表 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 4 | コーチング演習① | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 5 | コーチング演習② | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 6 | コーチング演習③ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 7 | コーチング演習④ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 8 | コーチング演習⑥ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 9 | 測定方法の復習 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 10 | 測定結果方法の復習 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 11 | フィールドワーク活動①　身体特性の測定 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 12 | フィールドワーク活動②　運動能力の測定 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 13 | フィールドワーク活動③　結果の説明 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 14 | 研究計画① | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 15 | 研究計画② | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028325 研究演習Ⅳ　吉田守実ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

・調査研究の目的と内容を説明できる。
・調査研究の計画書を作成できる。
・計画書に従って、調査研究ができる。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉分野における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、受講者の福祉観、研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学習達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

研究演習レポートをチェックし、今後の方針を指示する。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

社会福祉協議会での実務経験をもとに、現場実践で生かされる研究との関わりについて講話する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(1) | セメスターでの授業計画を知っておく。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 2 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(2) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 3 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(3) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 4 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(4) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 5 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(5) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 6 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(6) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 7 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(7) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 8 | 調査研究および実験に関する中間報告(1)を行う。 | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 9 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(8) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 10 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(9) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 11 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(10) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 12 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(11) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 13 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(12) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 14 | 計画に従って調査研究を継続して行う。(13) | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 15 | 調査研究および実験に関する中間報告(2)を行う。 | 研究レポート進捗状況を確認する。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028326 研究演習Ⅳ　佐藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 佐藤　千恵子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・研究を行うために必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。

## 授業概要(教育目的)

食育や栄養のみならず、社会全体における課題とその発見や改善策について体系的に学ぶことを通じ、受講者の研究意欲を育成する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学習到達目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後、研究演習レポートを提出させ、添削した後に今後の方針を決定する。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 資料や文献を読み、内容を理解する(1) | シラバスの授業計画を読み、理解しておくこと。 | 収集した資料の内容をまとめる。 |
| 2 | 資料や文献を読み、内容を理解する(2) | 発表内容をまとめて、発表に備えておく。 | 収集した資料の内容をまとめる。 |
| 3 | 資料や文献を読み、内容を理解する(3) | 発表内容をまとめて、発表に備えておく。 | 収集した資料の内容をまとめる。 |
| 4 | 資料や文献を読み、内容を理解する(4) | 発表内容をまとめて、発表に備えておく。 | 収集した資料の内容をまとめる。 |
| 5 | 資料や文献を読み、内容を理解する(5) | 発表内容をまとめて、発表に備えておく。 | 収集した資料の内容をまとめる。 |
| 6 | 資料や文献を読み、内容を理解する(6) | 発表内容をまとめて、発表に備えておく。 | 収集した資料の内容をまとめる。 |
| 7 | 入手した資料の内容を紹介する(1) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに資料を収集する。 |
| 8 | 入手した資料の内容を紹介する(2) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに資料を収集する。 |
| 9 | 入手した資料の内容を紹介する(3) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに資料を収集する。 |
| 10 | 入手した資料を紹介する(4) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに資料を収集する。 |
| 11 | 入手した資料の内容を紹介する(5) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに資料を収集する。 |
| 12 | 入手した資料の内容を紹介する(6) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに資料を収集する。 |
| 13 | 整理した論文情報、研究計画をたてる。(1) | 論文構成について考える。 | 研究演習の作成に着手する。 |
| 14 | 整理した論文情報、研究計画をたてる。(2) | 論文構成について考える。 | 研究演習の作成に着手する。 |
| 15 | 整理した論文情報、研究計画をたてる。(3) | 論文構成について考える。 | 研究演習の作成に着手する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028330 研究演習Ⅳ　千葉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1～2年次で学んだレポート作成に関する知識と技術を応用し、下記の目標を達成することとする。
・研究を行うための必要な情報を適切な方法で検索することができる。
・研究を行うための基本的な科学文献を読み、その内容が理解できる。
・研究を行うために得た情報をノートなどに整理し、研究計画を立てることができる。
・最終的に1つの研究テーマについて、論文としてまとめ、対外的に発表できる。

## 授業概要(教育目的)

本授業では以下を教育目的とする。
この演習では、2年生の研究演習Ⅰ・Ⅱ、3年生前期の研究演習Ⅲに引き続き、研究とは何かを理解し、関心のある研究テーマを選んでまとめ上げていく力を高め、4年生での論文作成の基本となるし式や技術をマスターすることを目的とする。個人ごとに取り組んだ研究テーマについて発表しあい、ゼミメンバーとのあいだで意見交換をしあう形式で授業を進める。自分以外のテーマにもそれぞれがもつ意見を積極的に出し合って討論していく双方向の情報交換も取り入れ、各自、研究テーマについて「考え」、「表現する」能力をより高いものとする。。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

自主的に課題を探究し、理解してその対応ができる能力を身につけている。

## 評価方法

この年次の達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後に研究演習レポートの添削を行い、返却し、今後の方針を決定する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

全回出席が基本。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

【授業外活動状況】
卒論のテーマによっては、野外での試料・情報の収集とその分析を行い、そのデータを基に卒業論文を作成することもできる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 前期授業「研究演習Ⅰ」の振り返り | 前期の授業を整理しておく | 授業内容を整理する |
| 2 | 各自の研究テーマによる研究進捗状況の確認 | 進捗度合、意見・感想などをまとめておく | 確認内容を整理し、研究の進め方を確認する<br>修正必要な場合は次回、担任と協議する |
| 3 | 担任との研究継続の確認 | 協議事項を整理する | 計画書通りに実施可能か考え、必要に応じて修正する |
| 4 | メンバー間での情報交換 | 情報交換の準備をする | 話し合った情報を整理する |
| 5 | 研究計画に従い、各自の研究を再開する | 計画の進捗状況と次回の作業予定を確認する | 作業内容を見直し、必要があれば修正する |
| 6 | 研究計画に従い、研究を進める | 計画の進捗状況と次回の作業予定を確認する | 作業内容を見直し、必要があれば修正する |
| 7 | 研究計画に従い、研究を進める | 計画の進捗状況と次回の作業予定を確認する | 作業内容を見直し、必要があれば修正する |
| 8 | 研究遂行にさらに必要な論文や記事などの確認 | 論文や記事などの再収集が必要か検討する | 図書館やインターネット検索を活用し、再収集を行う |
| 9 | 論文や記事の要点をまとめ、記録する | 収集した論文や記事を読む | 論文や記事の読解、記録を継続する |
| 10 | 担任との研究の進捗状況確認 | 研究の進め方の問題点や改善点の有無を確認しておく | 問題点や改善点を整理する |
| 11 | 問題点や改善点を修正する | 問題点の解決方法や改善の仕方を考える | 問題点の解決や修正が図られたかを確認する |
| 12 | 研究計画に従い、研究を進める | 計画の進捗状況と次回の作業予定を確認する | 作業内容を見直し、必要があれば修正する |
| 13 | 研究計画に従い、研究を進める | 計画の進捗状況と次回の作業予定を確認する | 作業内容を見直し、必要があれば修正する |
| 14 | ゼミ内中間発表会 | 中間発表の準備をする | メンバーや担任からの意見などを整理する |
| 15 | 前回の意見を研究内容に反映させる | 集約した意見を研究へ反映させる方法を考える | 授業15回分を整理し、論文作成の構想を練る |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028331 研究演習Ⅳ　有光ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

対象と目的に応じたトレーニング計画の立案と指導を行う。学生間で指導者と対象者の役割を設定し、模擬トレーニング指導を行う。トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格試験の対策も併せて行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(トレーニング指導者について) | テキストの該当部分を読む。 | テキストの該当部分を読む。 |
| 2 | 研究デザインに関するディスカッション(1回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 3 | 研究デザインに関するディスカッション(2回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 4 | 研究デザインに関するディスカッション(3回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 5 | 予備実験・調査(1回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 6 | 予備実験・調査(2回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 7 | 予備実験・調査データの検討(1回目) | 実験データをまとめたレジュメを作成する。 | 実験データをまとめたレジュメを修正する。 |
| 8 | 予備実験・調査データの検討(2回目) | 実験データをまとめたレジュメを修正する。 | 実験データをまとめたレジュメを修正する。 |
| 9 | トレーニング指導者資格試験ワークノート作成(1回目) | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 | ワークノートを修正する。 |
| 10 | トレーニング指導者資格試験ワークノート作成(2回目) | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 | ワークノートを修正する。 |
| 11 | トレーニング指導者資格模擬試験(1回目) | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 |
| 12 | トレーニング指導者資格模擬試験(2回目) | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 |
| 13 | 研究デザインに関するディスカッション(4回目) | 研究デザイン案を作成する。 | 研究デザイン案を修正する。 |
| 14 | 先行研究に関するまとめおよび研究デザインの修正(1回目) | 研究デザイン案を作成する。 | 研究デザイン案を修正する。 |
| 15 | 先行研究に関するまとめおよび研究デザインの修正(2回目) | 研究デザイン案を作成する。 | 研究デザイン案を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028332 研究演習Ⅳ　泉水ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

対象と目的に応じたトレーニング計画の立案と指導を行う。学生間で指導者と対象者の役割を設定し、模擬トレーニング指導を行う。トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格試験の対策も併せて行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(トレーニング指導者について) | テキストの該当部分を読む。 | テキストの該当部分を読む。 |
| 2 | 研究デザインに関するディスカッション(1回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 3 | 研究デザインに関するディスカッション(2回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 4 | 研究デザインに関するディスカッション(3回目) | 研究デザインの素案を作成する。 | 研究デザインの素案を修正する。 |
| 5 | 予備実験・調査(1回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 6 | 予備実験・調査(2回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 7 | 予備実験・調査データの検討(1回目) | 実験データをまとめたレジュメを作成する。 | 実験データをまとめたレジュメを修正する。 |
| 8 | 予備実験・調査データの検討(2回目) | 実験データをまとめたレジュメを修正する。 | 実験データをまとめたレジュメを修正する。 |
| 9 | トレーニング指導者資格試験ワークノート作成(1回目) | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 | ワークノートを修正する。 |
| 10 | トレーニング指導者資格試験ワークノート作成(2回目) | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 | ワークノートを修正する。 |
| 11 | トレーニング指導者資格模擬試験(1回目) | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 |
| 12 | トレーニング指導者資格模擬試験(2回目) | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 | 資格試験テキストの該当箇所を読む。 |
| 13 | 研究デザインに関するディスカッション(4回目) | 研究デザイン案を作成する。 | 研究デザイン案を修正する。 |
| 14 | 先行研究に関するまとめおよび研究デザインの修正(1回目) | 研究デザイン案を作成する。 | 研究デザイン案を修正する。 |
| 15 | 先行研究に関するまとめおよび研究デザインの修正(2回目) | 研究デザイン案を作成する。 | 研究デザイン案を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028334 研究演習Ⅳ　大木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習においては、ソーシャルワークの専門性の範疇にとどまらない「地域の福祉」の理念を実現するために、求められる具体的な手法を考え、それを効果的な実践として実行できる力を身につけることを学習目的とします。

## 授業概要(教育目的)

ゼミ活動の主要なキーワード…「地域の福祉」「フィールドワーク」「共生社会」
「地域の福祉」をテーマとして、八戸市とその近隣地域の福祉課題にかかわるフィールドワークや地域貢献活動をはじめ、さまざまな「地域の福祉」を発展させる実践をすることを活動の中心とします。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価します。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（自然科学における研究の位置づけについて） | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究デザインとは(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究デザインとは(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究デザインとは(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 文献研究の方法(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028336 研究演習Ⅳ　遠藤光男ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 特定の研究領域に関する基礎知識を有し，それに関連した研究を実施し，研究成果をまとめることができる。

## 授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰ～Ⅵでは，少人数で心理学の専門書や論文の購読を行い，心理学をより深く学ぶことを行う。さらに，自ら研究テーマを決め，これまで学んできた研究方法やデータ分析法を用いて，独自の心理学研究を実践する。そして，その成果を「研究演習レポート」あるいは「卒業論文」としてまとめることを行う。
研究演習Ⅳでは，特定の研究領域の中でテーマを絞り，それと関連するいくつかの論文を精読する。その上で，論文の研究成果等を追試し，その結果をレポートとしてまとめる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究テーマの選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 研究テーマに関連する論文の精読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 研究テーマに関連する論文の精読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 研究テーマに関連する論文の精読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 追試等の研究計画の立案(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 追試等の研究計画の立案(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 追試等の研究計画の立案(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 追試等の研究の実施(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 追試等の研究の実施(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 追試等の研究の実施(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 追試等の研究の実施(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 研究結果の分析とまとめ(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 研究結果の分析とまとめ(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 研究結果の分析とまとめ(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 研究成果の発表 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028337 研究演習Ⅳ　立石ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 特定の研究領域に関する基礎知識を有し，それに関連した研究を実施し，研究成果をまとめることができる。

## 授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰ～Ⅵでは，少人数で心理学の専門書や論文の購読を行い，心理学をより深く学ぶことを行う。さらに，自ら研究テーマを決め，これまで学んできた研究方法やデータ分析法を用いて，独自の心理学研究を実践する。そして，その成果を「研究演習レポート」あるいは「卒業論文」としてまとめることを行う。
研究演習Ⅳでは，特定の研究領域の中でテーマを絞り，それと関連するいくつかの論文を精読する。その上で，論文の研究成果等を追試し，その結果をレポートとしてまとめる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究テーマの選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 研究テーマに関連する論文の精読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 研究テーマに関連する論文の精読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 研究テーマに関連する論文の精読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 追試等の研究計画の立案(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 追試等の研究計画の立案(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 追試等の研究計画の立案(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 追試等の研究の実施(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 追試等の研究の実施(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 追試等の研究の実施(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 追試等の研究の実施(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 研究結果の分析とまとめ(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 研究結果の分析とまとめ(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 研究結果の分析とまとめ(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 研究成果の発表 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028338 研究演習Ⅳ　平塚ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 特定の研究領域に関する基礎知識を有し，それに関連した研究を実施し，研究成果をまとめることができる。

## 授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰ～Ⅵでは，少人数でスポーツ科学の専門書や論文の購読を行い，スポーツ科学をより深く学ぶことを行う。さらに，自ら研究テーマを決め，これまで学んできた研究方法やデータ分析法を用いて，独自のスポーツ科学研究を実践する。そして，その成果を「研究演習レポート」あるいは「卒業論文」としてまとめることを行う。
研究演習Ⅳでは，特定の研究領域の中でテーマを絞り，それと関連するいくつかの論文を精読する。その上で，論文の研究成果等を追試し，その結果をレポートとしてまとめる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

スポーツ・健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究テーマの選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 研究テーマに関連する論文の精読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 研究テーマに関連する論文の精読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 研究テーマに関連する論文の精読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 追試等の研究計画の立案(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 追試等の研究計画の立案(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 追試等の研究計画の立案(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 追試等の研究の実施(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 追試等の研究の実施(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 追試等の研究の実施(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 追試等の研究の実施(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 研究結果の分析とまとめ(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 研究結果の分析とまとめ(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 研究結果の分析とまとめ(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 研究成果の発表 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028339 研究演習Ⅳ　石原ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 特定の研究領域に関する基礎知識を有し，それに関連した研究を実施し，研究成果をまとめることができる。

## 授業概要(教育目的)

現代社会の諸課題や現象を念頭に置きつつ、それらの根源にある人間の問題とその理解を目指して、様々な人文学的なアプローチを知り、研究演習レポートや卒業論文へのプロセスを進めていくゼミナール形式の授業を行う。
主なアプローチとしては、宗教学、聖書学、キリスト教神学、物語論となるが、これらは研究対象というよりはむしろ方法論であり、それらをどのようなテーマに適用してもかまわない。

研究演習Ⅳでは，特定の研究領域の中でテーマからトピックを抽出し，先行研究の精読と批判を行う。その上で，さらに論じられるべき点を列挙し、研究演習レポートや卒業論文へのステップとする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

スポーツ・健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

授業時に紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究テーマの選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 研究テーマに関連する論文の精読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 研究テーマに関連する論文の精読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 研究テーマに関連する論文の精読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 研究計画の立案(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 研究計画の立案(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 研究計画の立案(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 原文テクストの分析(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 原文テクストの分析(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 原文テクストの分析(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 原文テクストの分析(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 研究結果の分析とまとめ(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 研究結果の分析とまとめ(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 研究結果の分析とまとめ(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 研究成果の発表 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

| 講義名 | 4010028340 研究演習Ⅳ　阿部ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 特定の研究領域に関する基礎知識を有し，それに関連した研究を実施し，研究成果をまとめることができる。

## 授業概要(教育目的)

現代社会の諸課題や現象を念頭に置きつつ、それらの根源にある人間の問題とその理解を目指して、様々な人文学的なアプローチを知り、研究演習レポートや卒業論文へのプロセスを進めていくゼミナール形式の授業を行う。
主なアプローチとしては、宗教学、聖書学、キリスト教神学、物語論となるが、これらは研究対象というよりはむしろ方法論であり、それらをどのようなテーマに適用してもかまわない。

研究演習Ⅳでは，特定の研究領域の中でテーマからトピックを抽出し，先行研究の精読と批判を行う。その上で，さらに論じられるべき点を列挙し、研究演習レポートや卒業論文へのステップとする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

スポーツ・健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

授業時に紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究テーマの選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 研究テーマに関連する論文の精読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 研究テーマに関連する論文の精読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 研究テーマに関連する論文の精読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 研究計画の立案(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 研究計画の立案(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 研究計画の立案(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 原文テクストの分析(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 原文テクストの分析(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 原文テクストの分析(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 原文テクストの分析(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 研究結果の分析とまとめ(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 研究結果の分析とまとめ(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 研究結果の分析とまとめ(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 研究成果の発表 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010028341 研究演習Ⅳ　今川ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

次の3点を到達目標とする。
1. 先行研究(論文)から必要な情報を読み取ることができる。
2. 関心のあるテーマについて，適切な手法を用いて心理学の調査・実験を行うことができる。
3. 得られた研究結果に対して，心理学的視点から深く考察することができる。

## 授業概要(教育目的)

本演習では，自身の関心のあるテーマについて，一般的な心理学の研究手法を用いて探求し，理解を深めていくことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は，授業への参加態度，作成した資料や発表などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

必要時，適宜演習内で提示する。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

インターネットを使用して文献検索や，WordやExcel，PowerPointを用いて研究結果のまとめ作業，資料作成を行うため，ノートPCやタブレット端末等を持参していただくことが望ましいです。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認） | シラバスを確認する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 2 | 研究テーマの確認 | 春学期に実施した再現実験（調査）結果を見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 3 | 研究計画の立案① | 春学期に実施した再現実験（調査）結果を見返す | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 4 | 研究計画の立案② | 春学期に実施した再現実験（調査）結果を見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 5 | 実験（調査）の準備① | 先行研究や，これまでの実験（調査）結果などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 6 | 実験（調査）の準備② | 先行研究や，これまでの実験（調査）結果などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 7 | 実験（調査）の遂行① | 先行研究の手続き等を再確認しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 8 | 実験（調査）の遂行② | 先行研究の手続き等を再確認しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 9 | 実験（調査）の遂行③ | 先行研究の手続き等を再確認しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 10 | 再実験（調査）のまとめ① | 収集したデータを確認・整理しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 11 | 実験（調査）のまとめ② | 収集したデータを確認・整理しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 12 | 実験（調査）のまとめ③ | 収集したデータを確認・整理しておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 13 | 実験（調査）結果の発表① | 作成した資料を確認し，発表のイメージをしておく | 発表時のコメントを踏まえ，資料を修正する |
| 14 | 実験（調査）結果の発表② | 作成した資料を確認し，発表のイメージをしておく | 発表時のコメントを踏まえ，資料を修正する |
| 15 | 今後の研究展開の検討 | 前回までの内容を整理し，論点を整理する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029300 研究演習Ⅴ　宮澤・遠藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 宮澤　君子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・保健・養護教諭や健康管理士一般指導員資格取得に必要である基本的な医学・看護の知識について説明できる。
・習得した医学的知識を活用した地域活動ができる。
・医療・看護に関連したテーマの論文／レポートを作成し、プレゼンテーションすることができる。

## 授業概要(教育目的)

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員等、その他医療・健康業務に関連した資格等を得るために必要な医学的知識とその活用方法を修得することを目標とする。
　医療・健康についての関心が高まっている現代の社会においては、マスメディア等を通して医学的知識に関して多くの情報を得ることができる。しかしながら、その情報の全てが正確性を保証されているとは限らず、一部で誤解や混乱を招きかねない実情がある。そういった中で、社会全体の医療・健康問題をレベルアップしていくためには、様々な知識・情報を的確に判断、整理し、周囲へ伝達していく能力を持った人材の育成が不可欠である。本ゼミでは、基本的な医学的知識を整理するとともにその具体的な活用方法を学び、職場や地域社会での健康管理の分野においてリーダー・シップを発揮できる能力を有する人材を育成する。
　＜4年次＞　個別に設定したテーマについて重点的に研究・調査などを進展させて、最終的に論文やレポートとして完成し、それについての発表を行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミ活動全般を通して、各々の活動状況やディスカッション・発表時における参加態度、課題として作成されたレポート・論文の完成度等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

ゼミ活動内で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員資格取得を目指す。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　ゼミにおいては単に知識の獲得のみならず、学んだことを実践で応用していく活動が重要視される。自らが主体となって積極的に課題に取り組む姿勢が不可欠であり、より高いレベルの専門知識・情報の吸収を心がけることで卒業後の実社会につながるゼミ活動を目指す。
　以上のことを念頭においてゼミに参加することを希望する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習ガイダンス | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 2 | 研究活動:研究テーマの設定・確認 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 3 | 研究活動:研究計画書の作成 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 4 | 研究活動:文献のデータ収集 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 5 | 研究活動:文献のデータ整理 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 6 | 研究活動:研究論文執筆規定・研究論文の構成 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 7 | 研究活動:レポート作成指導・図表の作成 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 8 | 研究活動:レポート作成指導・本文の作成 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 9 | 研究活動:レポートのアウトライン完成 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 10 | 中間報告会:ゼミ内プレゼンテーションの資料作成 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 11 | 中間報告会:ゼミ内での中間報告～プレゼンテーション | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 12 | 中間報告会:ゼミ内でのディスカッション | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 13 | 研究活動:アウトラインの修正 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 14 | 研究演習Vの成果の提出 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 15 | 研究演習Vの総括と反省 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029305 研究演習Ⅴ　井元ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

「健康」に関するテーマを各自設定し、テーマに沿った文献調査、発表ができる力を養う。

## 授業概要(教育目的)

「健康」について主に栄養や食生活の側面からゼミで考えていきます。

〈2・3年次〉
関連する文献を輪読、各自でテーマ設定をして文献調査を行いプレゼンテーションするなど行っていきます。
また、短大・大学生を対象とした食生活調査を実施しデータ集計・分析を行います。

〈4年次〉
各自が設定したテーマに基づき、調査・実験を行い、その結果を研究演習レポートをまとめる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

演習中の態度、提出課題、発表内容により評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績を知りたい学生には個別に対応する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
欠席は原則的に認めません。
各自責任を持って積極的にゼミ運営に関わってください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習レポート作成に向けたスケジュール調整 | シラバスを読む | スケジュール調整に合わせて自分で計画を立てる |
| 2 | ディスカッション1 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 3 | ディスカッション2 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 4 | ディスカッション3 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 5 | ディスカッション4 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 6 | ディスカッション5 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 7 | ディスカッション6 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 8 | ディスカッション7 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 9 | ディスカッション8 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 10 | ディスカッション9 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 11 | ディスカッション10 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 12 | ディスカッション11 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 13 | ディスカッション12 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 14 | ディスカッション13 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 15 | ディスカッション14<br>秋学期のスケジュール確認 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |

| 講義名 | 4010029310 研究演習Ⅴ　浜中ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 養護実習での学びを通して、養護教諭としての資質向上に向けての課題を説明できる。
2. 教員採用試験への準備を整えて試験に臨む。
3. 研究演習レポートまたは卒業論文を計画的に進めることができる。。

## 授業概要(教育目的)

最終学年としての課題に積極的に取り組み、今後の方向性を見出すことができるように支援する。
具体的には
1. 養護実習の準備を整える。
2. 養護教諭としての資質向上を図るための課題を整理する。
2. 教員採用試験対策を実施する。
3. 研究演習レポートまたは卒業論文に計画的な取り組みを支援する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

2. こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。
3. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題研究に取り組む主体的姿勢を身につけている。
に関連する。

## 評価方法

課題提出、授業中の発言等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

重要ポイントを説明する。

## 参考文献

随時、紹介する。

## 講義時使用テキスト

テキストはなし。随時紹介する。

## 資格との関連

養護教諭の教員採用模擬試験合格に向けて取り組む。

## 学生へのメッセージ

1. 養護実習および教員採用試験に臨むうえで、心身の状態を含み万全に整えましょう。
2. 研究演習レポートまたは卒業論文に計画的に取り組みましょう。

## 実務との関連

医療機関及び看護基礎教育機関での実務体験を通して、養護教諭の専門的性の向上を目指した指導を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、個人面談① | 養護実習の準備、教員採用試験対策、研究演習レポートまたは卒論の計画について整理する。 | 個人面談の結果を整理する。 |
| 2 | 養護実習の準備・疑問点等の発表、意見交換 | 発表内容、疑問点等を整理する。 | 必要な修正をする。 |
| 3 | 教員採用試験に向けての準備① 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる。 |
| 4 | 教員採用試験に向けての準備② 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる。 |
| 5 | 教員採用試験に向けての準備③ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる。 |
| 6 | 中間評価、個人面談② | 教員採用試験対策等について、進捗状況と課題を整理する。 | 今後の対策を整理する。 |
| 7 | 教員採用試験に向けての準備④ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 8 | 教員採用試験に向けての準備⑤ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 9 | 教員採用試験に向けての準備⑥ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 10 | 個人面談③ | 教員採用試験対策、研究演習レポートまたは卒論の進捗状況を整理する。 | 必要な修正をする。 |
| 11 | 教員採用試験に向けての準備⑦ 過去問 | 試験範囲について学習する。 | 不明な箇所について調べる |
| 12 | 教員採用試験に向けての準備⑧ 過去問 | 試験範囲について学習する | 不明な箇所について調べる |
| 13 | 教員採用試験に向けての準備⑧ 過去問 | 試験範囲について学習する | 不明な箇所について調べる |
| 14 | 研究演習レポートまたは卒業論文の進捗状況、疑問点について発表、意見交換 | 発表内容、疑問点を整理する | 必要な修正をする |
| 15 | 個人面談④ | 養護実習での学び、課題を整理する。 | 必要な修正をする |

| 講義名 | 4010029315 研究演習Ⅴ　渡邉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

研究の目的と内容を説明できる。
研究の計画を作成できる。
研究計画に従って、調査研究もしくは実験ができる

## 授業概要(教育目的)

本演習においては、主に運動に対する身体の生理的な反応や動きのメカニズムについて学ぶとともに、さまざまなスポーツの特性を理解し、自らが競技力の向上のために何が必要なのか課題を見つけること、また見つけた課題に対し、調査や測定、分析を行うことで客観的な資料を収集し、課題を解決するための方法を見つけることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

発表、計画書の内容、参加態度など総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

研究計画や研究演習レポートについては、講義内での問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

授業内で必要に応じて紹介する

## 講義時使用テキスト

特に指定はしない

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

積極的に参加することを望みます。

授業外活動として南部町、階上町でおこなわれている介護予防教室に参加します。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習レポート執筆の 手順について | 事前に配布された資料を 読む。 | 必要な参考文献を検索する。 |
| 2 | 先行研究のまとめと研究デザインの修正① | 研究デザイン案を 作成する。 | 研究デザイン案を 修正する。 |
| 3 | 先行研究のまとめと研究デザインの修正② | 研究計画書を 作成する。 | 研究計画書を 修正する。 |
| 4 | 実験・調査① | 実験の準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 5 | 実験・調査② | 実験の準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 6 | 実験・調査③ | 実験の準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 7 | 実験・調査データの 検討① | 実験データを 図表にまとめる。 | 実験データに基づいた 図表を 修正する。 |
| 8 | 実験・調査データの 検討② | 実験データを 図表にまとめる。 | 実験データに基づいた 図表を 修正する。 |
| 9 | 実験・調査④ | 実験の準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 10 | 実験・調査⑥ | 実験の準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 11 | 実験・調査データの 検討③ | 実験データを 図表にまとめる。 | 実験データに基づいた 図表を 修正する。 |
| 12 | 実験・調査データの 検討④ | 実験データを 図表にまとめる。 | 実験データに基づいた 図表を 修正する。 |
| 13 | 研究演習レポートの 執筆① | 研究演習レポートの 緒言を 執筆する。 | 研究演習レポートの 緒言を 修正する。 |
| 14 | 研究演習レポートの 執筆② | 研究演習レポートの 緒言を 執筆する。 | 研究演習レポートの 緒言を 修正する。 |
| 15 | 研究演習レポートの 執筆③ | 研究演習レポートの 緒言を 執筆する。 | 研究演習レポートの 緒言を 修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029316 研究演習Ⅴ　金地ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 質問紙調査を中心に心理学の研究手法の技術を習得している
2. 興味のあるテーマについて心理学的研究を実施し、考察することができる
3. 研究結果をレポート(論文)にまとめることができる

## 授業概要(教育目的)

心理学の研究および現場ではさまざまな目的で質問紙による調査(測定)が行われています。その目的は以下の4つに大きく分けて考えることが出来ます。
1. 性格の測定
2. 気分、感情、ストレス度などの測定
3. 意識(態度)調査(いわゆる「アンケート調査」)
4. 印象評定(イメージの測定)
本演習では上記4つの中で特に「3. 意識(態度)調査」に焦点を絞り、質問紙調査の実施方法を習得してもらうことを目的とします。意識調査(アンケート調査)と聞くと、あるテーマについて適当に質問を並べて回答を貰い、結果を集計すれば良いと考えている人も少なくないかもしれません。ただし、本演習ではそのような表面的な意識調査ではなく、心理学の研究として行われる意識(態度)調査の実施方法を学びます。そのためには、質問紙調査を用いた心理学の学術論文(文献)を読み、心理学の研究で質問紙調査がどのように使われているか、どのような方法で行われているかを学ぶ必要があります。また、質問紙の回答を集計する際には統計を用いた分析が必要となります。本演習では質問紙の結果解析に必要な統計手法も学んでいただきます。最終的には、各自テーマを設定して質問紙調査を行い、結果を分析し、卒業論文としてまとめて提出していただきます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業の参加態度およびレポート課題の内容を踏まえ、総合的に判断します。

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および提出課題(レポート)の評価については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

## 参考文献

指導教員が適宜紹介します。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　通常の講義と異なり、ほぼ毎回の授業で何か課題を設定し、作業を行います。授業への積極的な参加、また期限内のレポート課題の提出を求めます。なお授業の欠席、遅刻は厳禁とします(共同で作業を行うことが多いので、他のゼミ学生が迷惑します)。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究テーマの 探索 | 興味のあるテーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 引き続き興味のあるテーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 |
| 2 | 研究テーマの確定 | 興味のあるテーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 確定した研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 |
| 3 | 図書文献、雑誌論文の検索 | 研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・引き続き研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 |
| 4 | 図書文献、雑誌論文の精読① | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・授業内で読んだ文献、雑誌論文について内容を精査する。<br>・別の文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。 |
| 5 | 図書文献、雑誌論文の精読② | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・授業内で読んだ文献、雑誌論文について内容を精査する。<br>・別の文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。 |
| 6 | 図書文献、雑誌論文の精読③ | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・授業内で読んだ文献、雑誌論文について内容を精査する。<br>・別の文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。 |
| 7 | 図書文献、雑誌論文の精読④ | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・授業内で読んだ文献、雑誌論文について内容を精査する。<br>・別の文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。 |
| 8 | 図書文献、雑誌論文の精読⑤ | ・興味のある文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。<br>・研究テーマについてインターネットや文献で資料収集を行う。 | ・授業内で読んだ文献、雑誌論文について内容を精査する。 |
| 9 | 参考文献リストの作成 | これまでに作成した文献、雑誌論文のレポートを読み返す。 | 授業内での指導に基づき、参考文献リストを作成する。 |
| 10 | 研究計画の作成① | これまでに作成した文献、雑誌論文のレポートを読み返し、研究計画を立案する。 | ・授業内での指導に基づき、研究計画を精査、修正する。<br>・必要に応じてさらに文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。 |
| 11 | 研究計画の作成② | 前回の授業で作成した研究計画をより精査する。 | ・授業内での指導に基づき、研究計画をさらに精査、修正する。<br>・必要に応じてさらに文献、雑誌論文を読み、内容をレポートにまとめる。 |
| 12 | 研究計画の作成③ | 前回の授業で作成した研究計画をより精査する。 | 研究計画に合わせて、予備調査(実験)で用いる質問紙(実験刺激)を作成する。 |
| 13 | 予備調査(実験)の実施① | 研究計画に合わせて、予備調査(実験)で用いる質問紙(実験刺激)を作成する。 | 予備調査(実験)の結果を基に、研究計画、質問紙(実験刺激)を修正する。 |
| 14 | 予備調査(実験)の実施② | 予備調査(実験)の結果を基に、研究計画、質問紙(実験刺激)を修正する。 | 予備調査(実験)の結果を基に、研究計画、質問紙(実験刺激)を再度修正する。 |
| 15 | 予備調査(実験)の実施③ | 予備調査(実験)の結果を基に、研究計画、質問紙(実験刺激)を再度修正する。 | 本調査(実験)の研究計画を定め、本調査(実験)で用いる質問紙(実験刺激)を作成する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029319 研究演習Ⅴ　工藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の2つの事項を到達目標とする。
1. フィールドワーク活動へ参加し、正しい測定方法を身につけ、結果の説明ができる。
2. 研究演習レポートを作成できる。

## 授業概要(教育目的)

「コーチングアシスタント」とは、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度における基礎資格として位置づけられており、資格取得後(本学では在学中に、所定の単位を取得することで卒業と同時に資格が得られる)は地域におけるスポーツ活動の定着化や活性化をサポートする存在として活躍が期待されるだけでなく、競技別指導者やフィットネス系資格などへとステップアップしていくことができる資格である。本演習の目的は、コーチングアシスタント資格取得を前提とし、スポーツ指導者としての基礎的知識、指導法およびコミュニケーション能力を身につけること、さらに分析者として映像や情報技術を駆使した分析技術を身につけることとする。また、今日ではスポーツに関わる指導者の在り方そのものが社会問題となっている。時代に則した指導方法を身につけ、3年間の研究演習を通じて、将来スポーツ指導者のみならずあらゆる分野において論理的かつ創造的に問題解決できる能力、そして教育的で心から力が湧いてくる楽しいコーチング技術を身につけてもらいたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と課題への取り組み、内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅡ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅢ」

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

本ゼミナール希望者は日本体育協会公認スポーツリーダー取得を前提とする。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習レポート作成について | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 2 | 研究演習レポート作成の測定・分析① | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 3 | 研究演習レポート作成の測定・分析② | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 4 | 研究演習レポート作成の測定・分析③ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 5 | 研究演習レポート作成の測定・分析④ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 6 | 研究演習レポート作成の測定・分析⑤ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 7 | 研究演習レポート作成の測定・分析⑥ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 8 | 研究演習レポート作成の測定・分析⑦ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 9 | 研究演習レポート作成の測定・分析⑧ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 10 | 研究演習レポート作成の測定・分析⑨ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 11 | 研究演習レポート執筆① | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 12 | 研究演習レポート執筆② | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 13 | 研究演習レポート執筆③ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 14 | 研究演習レポート執筆④ | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 15 | フィールドワーク活動 | 参考文献を読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029325 研究演習Ⅴ　吉田守実ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

・調査研究および実験データを基に卒業論文を執筆できる。
・調査研究および実験の結果を発表できる。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉分野における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、学生の福祉観、研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学習達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

論文作成に対し、アドバイスと内容の添削を常時行い、論文の完成度を高める。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

社会福祉協議会での実務経験をもとに、現場実践で生かされる研究との関わりについて講話する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習ⅢおよびⅣで入手した資料およびデータを元に卒業論文や研究演習論文の執筆にとりかかる。(1) | シラバスを読み、卒論または研究演習論文の行程表を作成する。 | データや資料を整理し、論文執筆の準備をする。 |
| 2 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(2) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 3 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(3) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 4 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(4) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 5 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(1) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 6 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(5) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 7 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(6) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 8 | 論文内容の中間報告(1)を行う。 | 中間報告会の内容をチェックする。 | 中間報告会での質問・コメントを整理し、新たに論文の内容を検討する。 |
| 9 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(1) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 10 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(1) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 11 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(1) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 12 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(1) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 13 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(1) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 14 | 卒業論文や研究演習論文の執筆を行う。(1) | 論文執筆に必要なデータや資料を揃えておく。 | 次回の論文作成に必要なデータや資料を整理しておく。 |
| 15 | 論文内容の中間報告(2)を行う。 | 中間報告会の内容をチェックする。 | 中間報告会での質問・コメントを整理し、新たに論文の内容を検討する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029327 研究演習Ⅴ　佐藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 佐藤　千恵子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・調査研究および実験データを基に卒業論文・研究演習レポートを執筆できる。
・調査研究および実験の結果を発表できる。

## 授業概要(教育目的)

食生活における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、学生の研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学習達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

論文作成に対し、アドバイスと内容の添削を常時行い、論文の完成度を高める。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 先行研究論文を読み、内容を理解する(1) | シラバスの授業計画を読み、行程表を理解しておくこと。 | 収集した論文の内容を整理する。 |
| 2 | 先行研究論文を読み、内容を理解する(2) | 内容を整理する。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 3 | 先行研究論文を読み、内容を理解する(3) | 内容を整理する。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 4 | 先行研究論文を読み、内容を理解する(4) | 内容を整理する。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 5 | 先行研究論文を読み、内容を理解する(5) | 内容を整理する。 | 収集した論文の内容をまとめる。 |
| 6 | 入手した論文の内容を紹介する(1) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに論文を収集する。 |
| 7 | 入手した論文の内容を紹介する(2) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに論文を収集する。 |
| 8 | 入手した論文の内容を紹介する(2) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに論文を収集する。 |
| 9 | 入手した論文の内容を紹介する(3) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに論文を収集する。 |
| 10 | 入手した論文の内容を紹介する(4) | ワードやパワーポイントで発表の準備をする。 | 発表後の討論に基づいて内容をまとめる。必要であれば新たに論文を収集する。 |
| 11 | 卒業論文および研究演習レポートを作成する。(1) | 作成の準備をする。 | 作成に必要な資料やデータを収集する。 |
| 12 | 卒業論文および研究演習レポートを作成する。(2) | 作成の準備をする。 | 作成に必要な資料やデータを収集する。 |
| 13 | 卒業論文および研究演習レポートを作成する。(3) | 作成の準備をする。 | 作成に必要な資料やデータを収集する。 |
| 14 | 卒業論文および研究演習レポートを作成する。(4) | 作成の準備をする。 | 作成に必要な資料やデータを収集する。 |
| 15 | 卒業論文および研究演習レポートを作成する。(5) | 作成した内容の構成について考える。 | 論文やレポートの構成について考える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029328 研究演習Ⅴ　千葉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・各自選択した研究テーマにより、研究を実施し、それをもとに論文を作成することができる。
・研究テーマについてまとめた論文の内容を、対外的に発表できるよう準備する。

## 授業概要(教育目的)

本授業では以下を教育目的とする。
この演習と後期の演習Ⅵは、1年生で学習した「基礎演習」と「プレゼンテーション」を基本として、2年生、3年生で継続的に、研究テーマの設定からレポート作成、その骨子の口頭発表までのプロセスを確実に自分のものとできるよう、演習科目の完成段階として位置づけられている。授業では個人としてだけでなくゼミの他のメンバーとの意見・情報交換も行い、自分以外のテーマにもそれぞれがもつ意見を積極的に出し合って討論していくことで、各自、研究テーマについて深く「考え」、「表現する」能力を蓄積する。研究のまとめとしてレポートを作成し、その成果を対外的に発表する能力の習得が、卒業後の社会生活においても活かせることを目指す。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

自主的に課題を探究し、理解してその対応ができる能力を身につけている。

## 評価方法

この年次の達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

各セメスター終了後に研究演習レポートの添削を行い、返却し、今後の方針を決定する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

全回出席が基本。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

【授業外活動状況】
研究テーマによっては野外での試料・情報の収集、アンケート調査を行なってデータ解析を行い、その結果を基にレポートを作成することもできるが、時間を要することから希望する学生は遅くとも春期授業期間中に実施する必要がある。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 前年度までの履修状況の報告と春期履修科目の確認<br>必要に応じて面談を実施 | 履修の手引きに目を通し、履修済み単位などを確認する | 授業内容を整理する |
| 2 | 「研究演習Ⅲ」、「研究演習Ⅳ」の振り返り | 前年度までに収集した研究演習レポートに関するすべての資料(文献)を準備する | 授業内容を整理する |
| 3 | レポートの構成を確認 | 前年度までに決定したレポートの構成を再度見直す<br><br>収集した研究演習レポート用の資料(文献)を準備する | 授業内容を整理する |
| 4 | レポート執筆に必要な研究資料の確認 | 執筆に必要な研究資料を準備する | 執筆部分の内容確認と次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 5 | 不足・不備な研究資料を補充する | 執筆に必要な研究資料を準備する | 執筆部分の内容確認と次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 6 | 不足・不備な研究資料を補充する | 執筆に必要な研究資料を準備する | 執筆部分の内容確認と次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 7 | レポートを執筆する① | 執筆に必要な研究資料を準備する | 執筆部分の内容確認と次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 8 | レポートを執筆する② | 進捗状況報告の準備を行う | 執筆部分の内容確認と次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 9 | レポートを執筆する③ | 執筆に必要な研究資料を準備する | 執筆執筆部分の内容確認と次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 10 | ゼミ担とレポート執筆の進捗状況確認 | 進捗状況の確認の準備 | 話し合いの内容を整理する |
| 11 | レポートを執筆する⑤ | 執筆に必要な研究資料を準備する | 執筆部分の内容確認と次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 12 | レポートを執筆する⑥ | 執筆に必要な研究資料を準備する | 作業内容を見直し、必要があれば修正する |
| 13 | ゼミ内レポート執筆進捗状況の報告 | 報告の準備をする | メンバーや担任からの意見などを整理する |
| 14 | 報告会での意見・アドバイスを基にした修正 | 報告会結果のレポートへの反映を検討する | 14回分の授業内容を見直し、研究演習Ⅵでのレポート完成と口頭発表に必要な作業を考える |
| 15 | 春期履修状況の報告 | 履修状況を確認しておく | 秋期履修および卒後進路を確認し、夏季休業以降の行動計画を考える |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029329 研究演習Ⅴ　有光ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

4年間の集大成となるゼミ研究のテーマを最終決定し、必要な文献研究、調査や測定を実施する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

研究計画や研究演習レポートについては，講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(論文執筆の手順について) | 事前に配布した資料を読む。 | 必要な参考文献を検索する。 |
| 2 | 先行研究に関するまとめおよび研究デザインの修正(1回目) | 先行研究をまとめたレジュメを作成する。 | 先行研究をまとめたレジュメを修正する。 |
| 3 | 先行研究に関するまとめおよび研究デザインの修正(2回目) | 研究計画書を作成する。 | 研究計画書を修正する。 |
| 4 | 実験・調査(1回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 5 | 実験・調査(2回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 6 | 実験・調査(3回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 7 | 実験・調査データの検討(1回目) | 実験データを表やグラフにまとめる。 | 実験データに基づいた表やグラフを修正する。 |
| 8 | 実験・調査データの検討(2回目) | 実験データを表やグラフにまとめる。 | 実験データに基づいた表やグラフを修正する。 |
| 9 | 実験・調査(4回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 10 | 実験・調査(5回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 11 | 実験・調査データの検討(3回目) | 実験データを表やグラフにまとめる。 | 実験データに基づいた表やグラフを修正する。 |
| 12 | 研究演習レポートの執筆(1回目) | 研究演習レポートの緒言を執筆する。 | 研究演習レポートの緒言を修正する。 |
| 13 | 研究演習レポートの執筆(2回目) | 研究演習レポートの緒言を作成する。 | 研究演習レポートの緒言を修正する。 |
| 14 | 研究演習レポートの執筆(3回目) | 研究演習レポートの「方法」を執筆する。 | 研究演習レポートの「方法」を修正する。 |
| 15 | 研究演習レポートの執筆(4回目) | 研究演習レポートの「方法」を執筆する。 | 研究演習レポートの「方法」を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029330 研究演習Ⅴ　泉水ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

4年間の集大成となるゼミ研究のテーマを最終決定し、必要な文献研究、調査や測定を実施する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

研究計画や研究演習レポートについては，講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション(論文執筆の手順について) | 事前に配布した資料を読む。 | 必要な参考文献を検索する。 |
| 2 | 先行研究に関するまとめおよび研究デザインの修正(1回目) | 先行研究をまとめたレジュメを作成する。 | 先行研究をまとめたレジュメを修正する。 |
| 3 | 先行研究に関するまとめおよび研究デザインの修正(2回目) | 研究計画書を作成する。 | 研究計画書を修正する。 |
| 4 | 実験・調査(1回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 5 | 実験・調査(2回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 6 | 実験・調査(3回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 7 | 実験・調査データの検討(1回目) | 実験データを表やグラフにまとめる。 | 実験データに基づいた表やグラフを修正する。 |
| 8 | 実験・調査データの検討(2回目) | 実験データを表やグラフにまとめる。 | 実験データに基づいた表やグラフを修正する。 |
| 9 | 実験・調査(4回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 10 | 実験・調査(5回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 11 | 実験・調査データの検討(3回目) | 実験データを表やグラフにまとめる。 | 実験データに基づいた表やグラフを修正する。 |
| 12 | 研究演習レポートの執筆(1回目) | 研究演習レポートの緒言を執筆する。 | 研究演習レポートの緒言を修正する。 |
| 13 | 研究演習レポートの執筆(2回目) | 研究演習レポートの緒言を作成する。 | 研究演習レポートの緒言を修正する。 |
| 14 | 研究演習レポートの執筆(3回目) | 研究演習レポートの「方法」を執筆する。 | 研究演習レポートの「方法」を修正する。 |
| 15 | 研究演習レポートの執筆(4回目) | 研究演習レポートの「方法」を執筆する。 | 研究演習レポートの「方法」を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029332 研究演習Ⅴ　大木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習においては、ソーシャルワークの専門性の範疇にとどまらない「地域の福祉」の理念を実現するために、求められる具体的な手法を考え、それを効果的な実践として実行できる力を身につけることを学習目的とします。

## 授業概要(教育目的)

ゼミ活動の主要なキーワード…「地域の福祉」「フィールドワーク」「共生社会」
「地域の福祉」をテーマとして、八戸市とその近隣地域の福祉課題にかかわるフィールドワークや地域貢献活動をはじめ、さまざまな「地域の福祉」を発展させる実践をすることを活動の中心とします。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価します。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（自然科学における研究の位置づけについて） | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究デザインとは(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究デザインとは(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究デザインとは(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 文献研究の方法(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029333 研究演習Ⅴ　立石ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

・調査研究および研究データを基に、研究演習レポート等を執筆できる。
・調査研究および研究結果を発表できる。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉分野並びに周辺領域における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、学生の探求心、研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

自ら考え積極的に行動することを心がけること。

## 実務との関連

障害者福祉分野での実務経験をもとに研究演習との関わりについて話題提供する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（自然科学における研究の位置づけについて） | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究デザインとは(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究デザインとは(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究デザインとは(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 文献研究の方法(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029334 研究演習Ⅴ　遠藤光男ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 特定の研究領域に関する基礎知識を有し，それに関連した研究を実施し，研究成果をまとめることができる。

## 授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰ～Ⅵでは，少人数で心理学の専門書や論文の購読を行い，心理学をより深く学ぶことを行う。さらに，自ら研究テーマを決め，これまで学んできた研究方法やデータ分析法を用いて，独自の心理学研究を実践する。そして，その成果を「研究演習レポート」あるいは「卒業論文」としてまとめることを行う。
研究演Ⅴでは，特定の研究領域の中でテーマを絞り，それと関連するいくつかの論文を精読する。その上で，研究演習レポートの研究計画を立て，予備的研究を実施する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究テーマの選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 研究テーマに関連する研究の概観(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 研究テーマに関連する研究の概観(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 研究テーマに関連する研究の概観(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 研究テーマに関連する研究の概観(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 研究計画の立案(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 研究計画の立案(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 研究計画の立案(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 研究計画の立案(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 予備的研究の実施(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 予備的研究の実施(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 予備的研究の実施(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 予備的研究の実施(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 予備的研究の分析とまとめ(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 予備的研究の分析とまとめ(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029335 研究演習Ⅴ　平塚ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

・調査研究および研究データを基に、研究演習レポート等を執筆できる。
・調査研究および研究結果を発表できる。

## 授業概要(教育目的)

スポーツ科学分野並びに周辺領域における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、学生の探求心、研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

スポーツ・健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

自ら考え積極的に行動することを心がけること。

## 実務との関連

スポーツ科学分野での実務経験をもとに研究演習との関わりについて話題提供する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（自然科学における研究の位置づけについて） | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究デザインとは(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究デザインとは(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究デザインとは(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 文献研究の方法(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029336 研究演習Ⅴ　今川ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

次の3点を到達目標とする。
1. 先行研究(論文)から必要な情報を読み取ることができる。
2. 関心のあるテーマについて，適切な手法を用いて心理学の調査・実験を行うことができる。
3. 得られた研究結果に対して，心理学的視点から深く考察することができる。

## 授業概要(教育目的)

本演習では，自身の関心のあるテーマについて，一般的な心理学の研究手法を用いて探求し，理解を深めていくことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

成績は，授業への参加態度，作成した資料や発表などから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

必要時，適宜演習内で提示する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

インターネットを使用して文献検索や，WordやExcel，PowerPointを用いて研究結果のまとめ作業，資料作成を行うため，ノートPCやタブレット端末等を持参していただくことが望ましいです。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（演習の進め方等の確認） | シラバスを確認する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 2 | 研究テーマの決定 | 心理学おける関心のあるテーマについて考えておく | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 3 | 先行研究を調べる① | 研究テーマについて調べてみる | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 4 | 先行研究を調べる② | 研究テーマについて調べてみる | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 5 | 先行研究を調べる③ | 研究テーマについて調べてみる | 調べた先行研究の概要を，分かりやすくまとめておく<br>授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 6 | 研究計画の立案① | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 7 | 研究計画の立案② | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 8 | 研究計画の立案③ | これまでに調べた先行研究の概要などを見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 9 | 予備実験・予備調査の準備 | 立案した研究計画を見返す | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 10 | 予備実験・予備調査の実施① | 前回の内容を整理し，論点を整理する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 11 | 予備実験・予備調査の実施② | 前回の内容を整理し，論点を整理する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 12 | 予備実験・予備調査結果のまとめ① | 前回の内容を整理し，論点を整理する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 13 | 予備実験・予備調査結果のまとめ② | 前回の内容を整理し，論点を整理する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 14 | 予備実験・予備調査結果のまとめ③ | 前回の内容を整理し，論点を整理する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |
| 15 | 今後の研究展開の検討 | 前回の内容を整理し，論点を整理する | 授業の内容を振り返り，不明な点があれば調べる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029337 研究演習Ⅴ　石原ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 特定の研究領域に関する基礎知識を有し，それに関連した研究を実施し，研究成果をまとめることができる。

## 授業概要(教育目的)

現代社会の諸課題や現象を念頭に置きつつ、それらの根源にある人間の問題とその理解を目指して、様々な人文学的なアプローチを知り、研究演習レポートや卒業論文へのプロセスを進めていくゼミナール形式の授業を行う。
主なアプローチとしては、宗教学、聖書学、キリスト教神学、物語論となるが、これらは研究対象というよりはむしろ方法論であり、それらをどのようなテーマに適用してもかまわない。

研究演習Vでは，いよいよ研究演習レポートや卒業論文の執筆にとりかかる。参考文献リストの確定と読解、研究ノートの作成と整理を進め、理解が困難なテクストの探究を進めていく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

スポーツ・健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

授業時に紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究テーマの選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 研究テーマに関連する論文の精読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 研究テーマに関連する論文の精読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 研究テーマに関連する論文の精読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 研究計画の立案(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 研究計画の立案(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 研究計画の立案(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 原文テクストの分析(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 原文テクストの分析(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 原文テクストの分析(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 原文テクストの分析(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 研究結果の分析とまとめ(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 研究結果の分析とまとめ(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 研究結果の分析とまとめ(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 研究成果の発表 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010029338 研究演習Ⅴ（再履修） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

「健康」に関するテーマを各自設定し、テーマに沿った文献調査、発表ができる力を養う。

## 授業概要(教育目的)

「健康」について主に栄養や食生活の側面からゼミで考えていきます。

〈2・3年次〉
関連する文献を輪読、各自でテーマ設定をして文献調査を行いプレゼンテーションするなど行っていきます。
また、短大・大学生を対象とした食生活調査を実施しデータ集計・分析を行います。

〈4年次〉
各自が設定したテーマに基づき、調査・実験を行い、その結果を研究演習レポートをまとめる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

演習中の態度、提出課題、発表内容により評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績を知りたい学生には個別に対応する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
欠席は原則的に認めません。
各自責任を持って積極的にゼミ運営に関わってください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習レポート作成に向けたスケジュール調整 | シラバスを読む | スケジュール調整に合わせて自分で計画を立てる |
| 2 | ディスカッション1 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 3 | ディスカッション2 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 4 | ディスカッション3 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 5 | ディスカッション4 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 6 | ディスカッション5 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 7 | ディスカッション6 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 8 | ディスカッション7 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 9 | ディスカッション8 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 10 | ディスカッション9 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 11 | ディスカッション10 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 12 | ディスカッション11 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 13 | ディスカッション12 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 14 | ディスカッション13 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |
| 15 | ディスカッション14<br>秋学期のスケジュール確認 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッション内容をレポートに反映させる |

| 講義名 | 4010030300 研究演習Ⅵ　宮澤・遠藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 宮澤　君子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・保健・養護教諭や健康管理士一般指導員資格取得に必要である基本的な医学・看護の知識について説明できる。
・習得した医学的知識を活用した地域活動ができる。
・医療・看護に関連したテーマの論文／レポートを作成し、プレゼンテーションすることができる。

## 授業概要(教育目的)

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員等、その他医療・健康業務に関連した資格等を得るために必要な医学的知識とその活用方法を修得することを目標とする。
　医療・健康についての関心が高まっている現代の社会においては、マスメディア等を通して医学的知識に関して多くの情報を得ることができる。しかしながら、その情報の全てが正確性を保証されているとは限らず、一部で誤解や混乱を招きかねない実情がある。そういった中で、社会全体の医療・健康問題をレベルアップしていくためには、様々な知識・情報を的確に判断、整理し、周囲へ伝達していく能力を持った人材の育成が不可欠である。本ゼミでは、基本的な医学的知識を整理するとともにその具体的な活用方法を学び、職場や地域社会での健康管理の分野においてリーダー・シップを発揮できる能力を有する人材を育成する。
　＜4年次＞　個別に設定したテーマについて重点的に研究・調査などを進展させて、最終的に論文やレポートとして完成し、それについての発表を行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミ活動全般を通して、各々の活動状況やディスカッション・発表時における参加態度、課題として作成されたレポート・論文の完成度等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

ゼミ活動内で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

保健・養護教諭および健康管理士一般指導員資格取得を目指す。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　ゼミにおいては単に知識の獲得のみならず、学んだことを実践で応用していく活動が重要視される。自らが主体となって積極的に課題に取り組む姿勢が不可欠であり、より高いレベルの専門知識・情報の吸収を心がけることで卒業後の実社会につながるゼミ活動を目指す。
　以上のことを念頭においてゼミに参加することを希望する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習ガイダンス | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 2 | 研究活動:研究計画の最終確認 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 3 | 研究活動:研究演習レポートのアウトライン確認 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 4 | 研究活動:参考文献データの追加 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 5 | 研究活動:参考文献のデータ整理 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 6 | 研究活動:レポート作成指導① | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 7 | 研究活動:レポート作成指導② | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 8 | 研究活動:レポートの添削・修正 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 9 | プレゼンテーション資料の作成 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 10 | プレゼンテーション資料の修正と発表原稿完成 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 11 | ゼミ内でのプレゼンテーション | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 12 | 研究演習レポートの完成・提出 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 13 | 研究演習Ⅵの総括と反省 | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 14 | 研究演習レポート発表会(前半) | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |
| 15 | 研究演習レポート発表会(後半) | 授業内容について調べる | 授業の内容を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030305 研究演習Ⅵ　井元ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

「健康」に関するテーマを各自設定し、テーマに沿った文献調査、発表ができる力を養う。

## 授業概要(教育目的)

「健康」について主に栄養や食生活の側面からゼミで考えていきます。

〈2・3年次〉
関連する文献を輪読、各自でテーマ設定をして文献調査を行いプレゼンテーションするなど行っていきます。
また、短大・大学生を対象とした食生活調査を実施しデータ集計・分析を行います。

〈4年次〉
各自が設定したテーマに基づき、調査・実験を行い、その結果を研究演習レポートをまとめる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

演習中の態度、提出課題、発表内容により評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績を知りたい学生には個別に対応する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
欠席は原則的に認めません。
各自責任を持って積極的にゼミ運営に関わってください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習レポート作成に向けたスケジュール調整 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッションの内容をレポートの反映させ修正する。 |
| 2 | ディスカッション1 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッションの内容をレポートの反映させ修正する。 |
| 3 | ディスカッション2 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッションの内容をレポートの反映させ修正する。 |
| 4 | ディスカッション3 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッションの内容をレポートの反映させ修正する。 |
| 5 | ディスカッション4 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッションの内容をレポートの反映させ修正する。 |
| 6 | ディスカッション5 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッションの内容をレポートの反映させ修正する。 |
| 7 | ディスカッション6 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッションの内容をレポートの反映させ修正する。 |
| 8 | ディスカッション7 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッションの内容をレポートの反映させ修正する。 |
| 9 | ディスカッション8 | 研究演習レポート作成に向けた文献調査・レポート作成 | ディスカッションの内容をレポートの反映させ修正する。 |
| 10 | ディスカッション9<br>(研究演習レポートの完成) | 研究演習レポートを完成させる | ディスカッションの内容をレポートの反映させ修正する。 |
| 11 | 研究演習レポート発表会に向けた発表練習1 | 作成したレポートをもとに発表用のスライド・原稿を作成する。 | 発表練習で指摘された内容を発表内容に反映する。 |
| 12 | 研究演習レポート発表会に向けた発表練習2 | 前回の発表練習で指摘された内容を発表内容に反映する。 | ディスカッションの内容を発表内容に反映する。 |
| 13 | 研究演習レポート発表会に向けた発表練習3 | 前回の発表練習で指摘された内容を発表内容に反映させ、発表内容を完成する。 | 発表会に向けて発表練習する。 |
| 14 | 研究演習レポート発表会 | 発表会に向けて発表練習する。 | 発表を振り返り、必要に応じてレポート内容を修正し完成する。 |
| 15 | 研究演習レポートの完成・提出 | 発表を振り返り、必要に応じてレポート内容を修正し完成する。 | 振り返る |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030310 研究演習Ⅵ　浜中ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究演習レポートまたは卒業論文を完成させて発表することができる。
2. 養護教諭の資質向上に向けての課題と対策を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

最終学年としての課題に積極的に取り組み、今後の課題と対策性を見出すことができるように支援する。
具体的には
1. 研究演習レポートまたは卒業論文の完成・発表に向けた計画的な取り組みを支援する。
2. 養護教諭としての資質向上を図るうえでの課題と対策が明確にできるように支援する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

2. こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、学修した知識と技術を活用して現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。
3. 医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題研究に取り組む主体的姿勢を身につけている。
に関連する。

## 評価方法

課題提出、授業中の発言等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

重要ポイントを説明する。

## 参考文献

随時、紹介する。

## 講義時使用テキスト

テキストはなし。随時紹介する。

## 資格との関連

養護教諭の教員採用模擬試験合格に向けて取り組む。

## 学生へのメッセージ

1.研究演習レポートまたは卒業論文の完成・発表に向けて計画的に取り組みましょう。
2. 養護教諭の資質向上に向けての課題を整理し、克服に向けての方向性を明確にしましょう。

## 実務との関連

医療機関及び看護基礎教育機関での実務体験を通して、養護教諭の専門的性の向上を目指した指導を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、個人面談 | 各自の抱負、研究演習レポートまたは卒論の進捗状況、疑問点等を整理する。 | 必要な修正を行う。 |
| 2 | 研究演習レポートまたは卒論の作成① | 原稿を作成する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 3 | 研究演習レポートまたは卒論の作成② | 原稿を作成する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 4 | 研究演習レポートまたは卒論の作成③ | 原稿を作成する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 5 | 研究演習レポートまたは卒論の作成④ | 原稿を作成する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 6 | 研究演習レポートまたは卒論の作成⑤ | 原稿を作成する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 7 | 研究演習レポートまたは卒論の作成⑥ | 原稿を作成する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 8 | 研究演習レポートまたは卒論の作成⑦ | 原稿を作成する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 9 | 研究演習レポートまたは卒論の発表準備① | PPを作成する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 10 | 研究演習レポートまたは卒論の発表準備② | PPを作成する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 11 | 研究演習レポートまたは卒論の発表準備② | 原稿を作成する。内容を整理する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 12 | 研究演習レポートまたは卒論の発表 | 発表練習をする。 | 質疑を踏まえて内容を整理する。 |
| 13 | 研究演習レポートまたは卒論の追加修正① | 内容を整理する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 14 | 研究演習レポートまたは卒論の追加修正 | 内容を整理する。 | 助言を踏まえて内容を整理する。 |
| 15 | 個人面談③　成果と課題・対策について | 成果と課題・対策を整理する。 | 必要な修正をする。 |

| 講義名 | 4010030315 研究演習Ⅵ　渡邉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

研究演習レポートを仕上げる
研究演習レポートの内容を発表する

## 授業概要(教育目的)

本演習においては、主に運動に対する身体の生理的な反応や動きのメカニズムについて学ぶとともに、さまざまなスポーツの特性を理解し、自らが競技力の向上のために何が必要なのか課題を見つけること、また見つけた課題に対し、調査や測定、分析を行うことで客観的な資料を収集し、課題を解決するための方法を見つけることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

研究演習レポート、発表内容、参加態度などを総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

研究演習レポートや発表会用スライドは、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

授業内で必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定はしない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

レポートの執筆は計画的に行って下さい。

授業外活動として南部町でおこなわれている介護予防教室に参加します。
毎年おこなっているゼミ合宿に参加し、研究内容を発表してください。
今年度は2月を予定しています。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習レポートの執筆① | 研究演習レポートの方法を作成する。 | 研究演習レポートの方法を修正する。 |
| 2 | 研究演習レポートの執筆② | 研究演習レポートの方法を作成する。 | 研究演習レポートの方法を修正する。 |
| 3 | 研究演習レポートの執筆③ | 研究演習レポートの草稿を作成する。 | 研究演習レポートの草稿を修正する。 |
| 4 | 研究演習レポートの執筆④ | 研究演習レポートの草稿を作成する。 | 研究演習レポートの草稿を修正する。 |
| 5 | 研究演習レポートの執筆⑤ | 研究演習レポートの草稿を作成する。 | 研究演習レポートの草稿を修正する。 |
| 6 | 研究演習レポートの執筆⑥ | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 7 | 研究演習レポートの執筆⑦ | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 8 | 研究演習レポートを仮提出 | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を作成する。 |
| 9 | 研究演習レポートのプレゼンテーション作成① | 発表用スライドを作成する。 | 発表用スライドを修正する。 |
| 10 | 研究演習レポートのプレゼンテーション作成② | 発表用スライドを作成する。 | 発表用スライドを修正する。 |
| 11 | 研究演習レポートのプレゼンテーション作成③ | 発表用スライドを作成する。 | 発表用スライドを修正する。 |
| 12 | 研究演習レポート発表会 | 発表用スライドを作成する。 | 発表用スライドを作成する。 |
| 13 | 研究演習レポートの加筆・修正① | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 14 | 研究演習レポートの加筆・修正① | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 15 | 研究演習レポートの提出 | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートのを原稿修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030316 研究演習Ⅵ　金地ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 質問紙調査を中心に心理学の研究手法の技術を習得している
2. 興味のあるテーマについて心理学的研究を実施し、考察することができる
3. 研究結果をレポート(論文)にまとめることができる

## 授業概要(教育目的)

心理学の研究および現場ではさまざまな目的で質問紙による調査(測定)が行われています。その目的は以下の4つに大きく分けて考えることが出来ます。
1. 性格の測定
2. 気分、感情、ストレス度などの測定
3. 意識(態度)調査(いわゆる「アンケート調査」)
4. 印象評定(イメージの測定)
本演習では上記4つの中で特に「3. 意識(態度)調査」に焦点を絞り、質問紙調査の実施方法を習得してもらうことを目的とします。意識調査(アンケート調査)と聞くと、あるテーマについて適当に質問を並べて回答を貰い、結果を集計すれば良いと考えている人も少なくないかもしれません。ただし、本演習ではそのような表面的な意識調査ではなく、心理学の研究として行われる意識(態度)調査の実施方法を学びます。そのためには、質問紙調査を用いた心理学の学術論文(文献)を読み、心理学の研究で質問紙調査がどのように使われているか、どのような方法で行われているかを学ぶ必要があります。また、質問紙の回答を集計する際には統計を用いた分析が必要となります。本演習では質問紙の結果解析に必要な統計手法も学んでいただきます。最終的には、各自テーマを設定して質問紙調査を行い、結果を分析し、卒業論文としてまとめて提出していただきます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業の参加態度に加え、研究演習レポートの内容と「研究演習レポート発表会」における発表の内容を踏まえて総合的に判断します。

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および提出された研究演習レポート、研究演習レポート発表会の発表の評価については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示します。

## 参考文献

教員が適宜紹介します。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　通常の講義と異なり、ほぼ毎回の授業で何か課題を設定し、作業を行います。授業への積極的な参加、また期限内のレポート課題の提出を求めます。なお授業の欠席、遅刻は厳禁とします(共同で作業を行うことが多いので、他のゼミ学生が迷惑します)。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究計画の振り返り、調査(実験)の準備 | 「研究演習Ⅴ」で作成した研究計画を振り返る。 | 調査(実験)の実施準備を行う。 |
| 2 | 調査(実験)の実施① | 調査(実験)の実施準備を行う。 | 調査(実験)で得られたデータを整理する。 |
| 3 | 調査(実験)の実施② | 調査(実験)の実施準備を行う。 | 調査(実験)で得られたデータを整理する。 |
| 4 | 結果の整理とデータ入力 | 調査(実験)で得られたデータを整理する。 | 調査(実験)データをエクセルファイルに入力する。 |
| 5 | データ分析の実施① | データの分析方法について、「心理統計学」や過去の「研究演習」の資料を見返して復習する。 | ・集計、分析結果を図表にまとめる。<br>・集計、分析結果からどのようなことが言えるか考察を行う。 |
| 6 | データ分析の実施② | データの分析方法について、「心理統計学」や過去の「研究演習」の資料を見返して復習する。 | ・集計、分析結果を図表にまとめる。<br>・集計、分析結果からどのようなことが言えるか考察を行う。 |
| 7 | データ分析の実施② | データの分析方法について、「心理統計学」や過去の「研究演習」の資料を見返して復習する。 | ・集計、分析結果を図表にまとめる。<br>・集計、分析結果からどのようなことが言えるか考察を行う。 |
| 8 | 研究演習レポート作成①<br>:章立て(目次)の作成 | 過去に提出された「研究演習レポート」を読み、レポートの構成を理解する。 | 完成した章立て(目次)に従って、研究演習レポートの構成を考える。 |
| 9 | 研究演習レポート作成②<br>:本文(方法)の作成 | 過去に提出された「研究演習レポート」を参考に、本文(方法)を執筆する。 | ・添削内容を確認し、本文(方法)を修正する。<br>・本文(結果)の執筆準備を行う。 |
| 10 | 研究演習レポート作成③<br>:本文(結果)の作成 | 過去に提出された「研究演習レポート」を参考に、本文(結果)を執筆する。 | ・添削内容を確認し、本文(方法)を修正する。<br>・本文(背景と目的)の執筆準備を行う。 |
| 11 | 研究演習レポート作成④<br>:本文(背景と目的)の作成 | 過去に提出された「研究演習レポート」を参考に、本文(背景と目的)を執筆する。 | ・添削内容を確認し、本文(背景と目的)を修正する。<br>・本文(考察)の執筆準備を行う。 |
| 12 | 研究演習レポート作成⑥<br>:本文(考察)の作成 | 過去に提出された「研究演習レポート」を参考に、本文(考察)を執筆する。 | ・添削内容を確認し、本文(考察)を修正する。<br>・研究演習レポート発表会の発表スライド作成準備を行う。 |
| 13 | 研究演習レポート発表会の準備<br>:発表スライドの作成 | 過去の「研究演習レポート発表会」の発表スライドを参考に、発表スライドを作成する。 | ・添削内容を確認し、発表スライドを修正する。<br>・発表原稿を作成する |
| 14 | 研究演習レポート発表会 | 発表の予行演習を行う。 | 発表会の発表内容を振り返り、「研究演習レポート」本文を修正する |
| 15 | 研究演習レポート最終添削 | 「研究演習レポート」全体に再度目を通し、レポート本文を修正する。 | 最終添削内容を確認し、「研究演習レポート」を完成させる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030319 研究演習Ⅵ　工藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の3つの事項を到達目標とする。
1. フィールドワーク活動へ参加し、正しい測定方法を身につけ、結果の説明ができる。
2. 研究演習レポートを作成できる。
3. 研究演習レポートをパワーポイントデータにし発表できる。

## 授業概要(教育目的)

「コーチングアシスタント」とは、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者制度における基礎資格として位置づけられており、資格取得後(本学では在学中に、所定の単位を取得することで卒業と同時に資格が得られる)は地域におけるスポーツ活動の定着化や活性化をサポートする存在として活躍が期待されるだけでなく、競技別指導者やフィットネス系資格などへとステップアップしていくことができる資格である。本演習の目的は、コーチングアシスタント資格取得を前提とし、スポーツ指導者としての基礎的知識、指導法およびコミュニケーション能力を身につけること、さらに分析者として映像や情報技術を駆使した分析技術を身につけることとする。また、今日ではスポーツに関わる指導者の在り方そのものが社会問題となっている。時代に則した指導方法を身につけ、3年間の研究演習を通じて、将来スポーツ指導者のみならずあらゆる分野において論理的かつ創造的に問題解決できる能力、そして教育的で心から力が湧いてくる楽しいコーチング技術を身につけてもらいたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と課題への取り組み、内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅠ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅡ」
・公益財団法人「公認スポーツ指導者養成テキストⅢ」

## 講義時使用テキスト

特になし。必要に応じて適宜紹介する。

## 資格との関連

本ゼミナール希望者は日本体育協会公認スポーツリーダー取得を前提とする。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究演習レポート執筆⑥ | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 2 | 研究演習レポート執筆⑥ | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 3 | 研究演習レポート執筆⑦ | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 4 | 研究演習レポート執筆⑧ | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 5 | 研究演習レポート執筆⑨ | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 6 | 研究演習レポート執筆10 | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 7 | 研究演習レポート執筆11 | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 8 | 研究演習発表スライドデータ作成① | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 9 | 研究演習発表スライドデータ作成② | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 10 | 研究演習発表スライドデータ作成③ | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 11 | 研究演習発表スライドデータ作成④ | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 12 | 研究演習発表スライドデータ作成⑤ | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 13 | 研究演習発表スライドデータ作成⑥ | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 14 | 発表練習 | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |
| 15 | 研究演習レポート発表 | 参考文献を 読む。 | 講義内容をノートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030325 研究演習Ⅵ　吉田守実ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

・調査研究の目的と内容を説明できる。
・調査研究の計画書を作成できる。
・計画書に従って、調査研究ができる。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉分野における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、受講者の福祉観、研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学習達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

研究演習レポートをチェックし、今後の方針を指示する。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

社会福祉協議会での実務経験をもとに、研究演習レポートについて現場での意義と関わりについて講義をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 調査研究を継続して行う。(1) | セメスターでの授業計画を知っておく。 | 整理した情報から執筆を開始する。 |
| 2 | 調査研究を継続して行う。(2) | 研究レポート進捗状況を確認する。。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 3 | 調査研究を継続して行う。(3) | 研究レポート進捗状況を確認する。。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 4 | 調査研究を継続して行う。(4) | 研究レポート進捗状況を確認する。。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 5 | 調査研究を継続して行う。(5) | 研究レポート進捗状況を確認する。。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 6 | 調査研究を継続して行う。(6) | 研究レポート進捗状況を確認する。。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 7 | 調査研究を継続して行う。(7) | 研究レポート進捗状況を確認する。。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 8 | 調査研究に関する中間報告を行う。 | 研究レポート進捗状況を報告する。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 9 | 調査研究を継続して行う。(8) | 研究レポート進捗状況を確認する。。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 10 | 調査研究を継続して行う。(9) | 研究レポート進捗状況を確認する。。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 11 | 調査研究に関する報告準備を行う。 | 研究レポートを報告準備する。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 12 | 調査研究に関する報告を行う。 | 研究レポートを報告する。 | 整理した情報から執筆する。 |
| 13 | 調査研究における論文まとめ(1) | 研究レポートをまとめる。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 14 | 調査研究における論文まとめ(2) | 研究レポートをまとめる。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 15 | 調査研究における論文まとめ(3) | 研究レポートをまとめる。 | 研究演習レポートを執筆する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030327 研究演習Ⅵ　千葉ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・各自選択した研究テーマにより、研究を実施し、それをもとに論文を作成することができる。
・研究テーマについてまとめた論文の内容を、対外的に発表することができる。
・他の者の発表を聞いて理解し、幅広い知識を獲得することができる。

## 授業概要(教育目的)

本授業では以下を教育目的とする。
本演習では1年生から4年生前期までで習得した研究遂行能力と対外的な発表能力により、各自の研究を完結させる。
同時に他の人間の発表を理解し、それに対する自分の意見を述べる能力の一層の充実を図り、「深く考える」、「的確に表現する」、「よく聞き、理解する」、「自分の意見を述べる」能力を総合的に獲得できることを目指す。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

自主的に課題を探究し、課題解決に向けて対応できる能力を身につけることで、卒業後の社会生活に生かすことができる。

## 評価方法

レポートの提出、パワーポイントの作成と発表会での口頭発表の状況、毎回の授業での取り組み状況などにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

レポート執筆完了と発表に向けて丁寧なレポート校正を行い、加筆・修正を行うことにより、レポートの精度を上げる工夫をする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

全回出席が基本。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 春期までの履修状況の確認<br>必要に応じて面談を実施 | 春期までの履修状況を把握しておく | 授業内容を整理する |
| 2 | レポート執筆の進捗状況の報告 | 前期での執筆状況を確認しておく | 次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 3 | レポートを執筆する① | 執筆に必要な研究資料を準備する | 執筆部分の内容確認と次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 4 | レポートを執筆する② | 執筆に必要な研究資料を準備する | 執筆部分の内容確認と次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 5 | レポートを執筆する③ | 執筆に必要な研究資料を準備する | 執筆部分の内容確認と次回の執筆に必要な資料を確認する |
| 6 | 執筆を終了し、レポートを仮提出する | 不足がないか見直し、レポートの仕上がり状況を確認する | 授業内容を整理する |
| 7 | レポート内容を基にパワーポイントの構成を決める | パワーポイントの構成(時間・枚数等)を考える | 聴衆に分かり易い構成になっているか確認する |
| 8 | パワーポイントを作成する① | パワーポイントの構図を練る | 作成した分を見直す |
| 9 | パワーポイントを作成する② | パワーポイントの構図を練る | 作成した分を見直す |
| 10 | ゼミ担によるパワーポイントの校正、必要に応じて修正 | パワーポイントが校正依頼できる状態に仕上がっているか確認する | 校正後のパワーポイント修正ができているか確認する |
| 11 | ゼミ内研究演習レポート発表会 | パワーポイントの確認をして予行演習を行い、発表に備える | メンバー、担任などからの質問・コメントに応じてパワーポイントを修正する |
| 12 | 研究演習レポート発表会 | パワーポイントを用いて予行演習を行い、発表に備える | 質問・コメントの内容を整理する |
| 13 | レポート修正<br>発表会での質疑応答をレポートに反映させる | 発表会での質疑応答、アドバイス内容を確認する | レポートに反映させたか確認する |
| 14 | レポートを担任に最終提出する | 最終提出するのに不足・不備がないか点検する | レポートの最終稿、発表に用いたパワーポイントなどを整理する |
| 15 | 卒業に向けたり全体の振り返り | 卒業要件を満たしているか確認する | USB、CDなどへレポートの最終稿、発表に用いたパワーポイントなどを格納し、保存する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030328 研究演習Ⅵ　佐藤ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 佐藤　千恵子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・調査研究および実験データを基に卒業論文・研究演習レポートを執筆できる。
・調査研究および実験の結果を発表できる。

## 授業概要(教育目的)

食生活における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、学生の研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

この年次の達成目標を総合的に勘案し、評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

論文作成と発表に向けて、添削による加筆・修正を繰り返し、論文およびレポートを仕上げる。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 卒業論文および研究演習レポートを仕上げる。(1) | シラバスを読み、卒論提出までの行程表を確認する。 | 論文作成に必要なデータ、資料を整理する。 |
| 2 | 卒業論文および研究演習レポートを仕上げる。(2) | 内容を確認する。 | 内容について修正や加筆をする。 |
| 3 | 卒業論文および研究演習レポートを仕上げる。(3) | 内容を確認する。 | 内容について修正や加筆をする。 |
| 4 | 卒業論文および研究演習レポートを仕上げる。(4) | 内容を確認する。 | 内容について修正や加筆をする。 |
| 5 | 卒業論文および研究演習レポートを基にパワーポイント作成をする。(1) | パワーポイント作成の準備をする。 | 作成に必要なデータや資料を収集する。 |
| 6 | 卒業論文および研究演習レポートを基にパワーポイント作成をする。(2) | パワーポイント作成の準備をする。 | 作成に必要なデータや資料を収集する。 |
| 7 | 卒業論文および研究演習レポートを基にパワーポイント作成をする。(3) | 内容を確認する。 | 作成に必要なデータや資料を収集する。 |
| 8 | 卒業論文および研究演習レポートを基にパワーポイントを作成する。(4) | 内容を確認する。 | パワーポイントの修正や加筆をする。 |
| 9 | 卒業論文および研究演習レポートを基にパワーポイントを作成する。(5) | 内容を確認する。 | パワーポイントの修正や加筆をする。 |
| 10 | 卒業論文および研究演習レポートを基にパワーポイント作成をする。(6) | 内容を確認する。 | 修正や加筆したパワーポイントを再度見直す。 |
| 11 | 卒業論文および研究演習レポートを仮提出する。 | 論文やレポートをコピーする。 | 発表の構想を考える。 |
| 12 | 卒業論文および研究演習レポートを基に発表準備を行う。(1) | 発表ための準備をする。 | 作成したパワーポイントの内容を確認する。 |
| 13 | 卒業論文および研究演習レポートを基に発表準備を行う。(2) | 発表の準備をする。 | 作成したパワーポイントの最終チェックと発表の予行演習を行う。 |
| 14 | 卒業論文および研究演習レポートを基に発表準備を行う。(3) | 発表の準備をする。 | 作成したパワーポイントの最終チェックと発表の予行演習を行う。 |
| 15 | 卒業論文および研究演習レポートの内容を発表する。 | 予行演習を行い、発表に備える。 | 質問・コメントが出た場合、提出した論文やレポートの修正や加筆を行う。 |

| 講義名 | 4010030329 研究演習Ⅵ　有光ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

実験室およびフィールドでの測定の実施、データ分析などを行い、論文形式でのレポートおよびプレゼンテーションを作成する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

研究計画や研究演習レポートについては、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 追加実験・調査(1回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 2 | 追加実験・調査(2回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 3 | 研究演習レポートの執筆(1回目) | 研究演習レポートの草稿を作成する。 | 研究演習レポートの草稿を修正する。 |
| 4 | 研究演習レポートの執筆(2回目) | 研究演習レポートの草稿を作成する。 | 研究演習レポートの草稿を修正する。 |
| 5 | 研究演習レポートの執筆(3回目) | 研究演習レポートの草稿を作成する。 | 研究演習レポートの草稿を修正する。 |
| 6 | 研究演習レポートの執筆(4回目) | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 7 | 研究演習レポートの執筆(5回目) | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 8 | 研究演習レポートを仮提出 | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を作成する。 |
| 9 | 研究演習レポートのプレゼンテーション作成(1回目) | 発表スライドを作成する。 | 発表スライドを修正する。 |
| 10 | 研究演習レポートのプレゼンテーション作成(2回目) | 発表スライドを作成する。 | 発表スライドを修正する。 |
| 11 | 研究演習レポートのプレゼンテーション作成(3回目) | 発表スライドを作成する。 | 発表スライドを修正する。 |
| 12 | 研究演習レポート発表 | 発表スライドを作成する。 | 発表スライドを修正する。 |
| 13 | 研究演習レポートの加筆・訂正(1回目) | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 14 | 研究演習レポートの加筆・訂正(2回目) | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 15 | 研究演習レポートの提出 | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030330 研究演習Ⅵ　泉水ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習では、将来スポーツ指導に関わることを希望する学生を対象に、スポーツ科学分野における研究手法の基礎を理解し、実験やデータ解析に取り組むことで課題の解決能力を高めることを目的とする。さらに、競技力の向上や健康体力づくりためのトレーニング方法について理解し、在学中に日本トレーニング指導者協会(JATI)公認のトレーニング指導者資格を取得することを目標とする。
近年、スポーツ指導者には、成人の生活習慣病予防や子どもの体力向上など、社会的な期待も高まっており、安全で合理的な運動指導の実践力が求められる。本演習を通じて、将来スポーツ指導者として活躍するための知識と問題解決能力を身に付ける。

## 授業概要(教育目的)

実験室およびフィールドでの測定の実施、データ分析などを行い、論文形式でのレポートおよびプレゼンテーションを作成する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

研究計画や研究演習レポートについては、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

特に指定しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 追加実験・調査(1回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 2 | 追加実験・調査(2回目) | 必要に応じた実験準備を行う。 | 実験データを整理する。 |
| 3 | 研究演習レポートの執筆(1回目) | 研究演習レポートの草稿を作成する。 | 研究演習レポートの草稿を修正する。 |
| 4 | 研究演習レポートの執筆(2回目) | 研究演習レポートの草稿を作成する。 | 研究演習レポートの草稿を修正する。 |
| 5 | 研究演習レポートの執筆(3回目) | 研究演習レポートの草稿を作成する。 | 研究演習レポートの草稿を修正する。 |
| 6 | 研究演習レポートの執筆(4回目) | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 7 | 研究演習レポートの執筆(5回目) | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 8 | 研究演習レポートを仮提出 | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を作成する。 |
| 9 | 研究演習レポートのプレゼンテーション作成(1回目) | 発表スライドを作成する。 | 発表スライドを修正する。 |
| 10 | 研究演習レポートのプレゼンテーション作成(2回目) | 発表スライドを作成する。 | 発表スライドを修正する。 |
| 11 | 研究演習レポートのプレゼンテーション作成(3回目) | 発表スライドを作成する。 | 発表スライドを修正する。 |
| 12 | 研究演習レポート発表 | 発表スライドを作成する。 | 発表スライドを修正する。 |
| 13 | 研究演習レポートの加筆・訂正(1回目) | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 14 | 研究演習レポートの加筆・訂正(2回目) | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |
| 15 | 研究演習レポートの提出 | 研究演習レポートの原稿を作成する。 | 研究演習レポートの原稿を修正する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030332 研究演習Ⅵ　大木ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

本演習においては、ソーシャルワークの専門性の範疇にとどまらない「地域の福祉」の理念を実現するために、求められる具体的な手法を考え、それを効果的な実践として実行できる力を身につけることを学習目的とします。

## 授業概要(教育目的)

ゼミ活動の主要なキーワード…「地域の福祉」「フィールドワーク」「共生社会」
「地域の福祉」をテーマとして、八戸市とその近隣地域の福祉課題にかかわるフィールドワークや地域貢献活動をはじめ、さまざまな「地域の福祉」を発展させる実践をすることを活動の中心とします。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価します。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
原則として欠席は認めない。自ら考え積極的に行動することを心がけること。
【授業外活動状況】
大学外で学習活動を行うことがあるので連絡や掲示などに注意を払うこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（自然科学における研究の位置づけについて） | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 2 | 研究デザインとは(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 3 | 研究デザインとは(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 4 | 研究デザインとは(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 5 | 文献研究の方法(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 6 | 文献研究の方法(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 7 | 文献研究の方法(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 8 | 研究テーマについて考える(1回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 9 | 研究テーマについて考える(2回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 10 | 研究テーマについて考える(3回目) | 前回の内容、論点を整理する。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 11 | 研究テーマに関する先行研究の検索(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 12 | 研究テーマに関する先行研究の検索(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 13 | 先行研究の紹介(1回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 14 | 先行研究の紹介(2回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |
| 15 | 先行研究の紹介(3回目) | 必要な文献の内容をレジュメにまとめる。 | 授業内容に関連した文献を検索する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030333 研究演習Ⅵ　立石ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

・研究の目的と内容を説明できる。
・研究計画を作成できる。
・計画書に従って、研究を進めることができる。
・研究演習レポートを提出する。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉分野並びに周辺領域における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、学生の探求心、研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

自ら考え積極的に行動することを心がけること。

## 実務との関連

障害者福祉分野での実務経験をもとに研究演習との関わりについて話題提供する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究テーマを確定する。 | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 2 | 研究活動に継続して取り組む① | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 3 | 研究活動に継続して取り組む② | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 4 | 研究活動に継続して取り組む③ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 5 | 研究活動に継続して取り組む④ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 6 | 研究活動に継続して取り組む⑤ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 7 | 研究活動に継続して取り組む⑥ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 8 | 研究に関する中間報告を行う。 | 研究演習レポート進捗状況を報告する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 9 | 研究活動に継続して取り組む⑦ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 10 | 研究活動に継続して取り組む⑧ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 11 | 研究に関する報告準備を行う | 研究演習レポートを報告準備する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 12 | 研究に関する報告を行う | 研究演習レポートを報告準備する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 13 | 研究における論文まとめ① | 研究演習レポートをまとめる。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 14 | 研究における論文まとめ② | 研究演習レポートをまとめる。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 15 | 研究における論文まとめ③ | 研究演習レポートをまとめる。 | 研究演習レポートを執筆する。 |

| 講義名 | 4010030334 研究演習Ⅵ　遠藤光男ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 特定の研究領域に関する基礎知識を有し，それに関連した研究を実施し，研究成果をまとめることができる。

## 授業概要(教育目的)

研究演習Ⅰ～Ⅵでは，少人数で心理学の専門書や論文の購読を行い，心理学をより深く学ぶことを行う。さらに，自ら研究テーマを決め，これまで学んできた研究方法やデータ分析法を用いて，独自の心理学研究を実践する。そして，その成果を「研究演習レポート」あるいは「卒業論文」としてまとめることを行う。
研究演Ⅵでは，研究計画に従って，研究を実施し，研究結果の分析，研究演習レポートの執筆，発表を行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配付する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，研究計画の確認） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 研究の実施(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 研究の実施(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 研究の実施(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 研究の実施(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 研究結果の分析(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 研究結果の分析(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 研究結果の分析(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 研究結果の分析(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 研究演習レポートの執筆(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 研究演習レポートの執筆(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 研究演習レポートの執筆(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 研究演習レポートの執筆(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 研究演習レポート発表の準備(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 研究演習レポート発表の準備(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030335 研究演習Ⅵ　平塚ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

・研究の目的と内容を説明できる。
・研究計画を作成できる。
・計画書に従って、研究を進めることができる。
・研究演習レポートを提出する。

## 授業概要(教育目的)

スポーツ科学分野並びに周辺領域における課題とその発見・解決方法について体系的に学ぶことを通じ、学生の探求心、研究力を涵養する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

スポーツ・健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

ゼミへの参加態度と周囲との協調、発表の内容およびレポート作成の状況により総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

課題として作成したレジュメや研究計画について、講義の中で問題点の指摘や、必要に応じた修正、変更を行う。

## 参考文献

必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

自ら考え積極的に行動することを心がけること。

## 実務との関連

スポーツ科学分野での実務経験をもとに研究演習との関わりについて話題提供する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究テーマを確定する。 | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 2 | 研究活動に継続して取り組む① | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 3 | 研究活動に継続して取り組む② | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 4 | 研究活動に継続して取り組む③ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 5 | 研究活動に継続して取り組む④ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 6 | 研究活動に継続して取り組む⑤ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 7 | 研究活動に継続して取り組む⑥ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 8 | 研究に関する中間報告を行う。 | 研究演習レポート進捗状況を報告する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 9 | 研究活動に継続して取り組む⑦ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 10 | 研究活動に継続して取り組む⑧ | 研究演習レポート進捗状況を確認する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 11 | 研究に関する報告準備を行う | 研究演習レポートを報告準備する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 12 | 研究に関する報告を行う | 研究演習レポートを報告準備する。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 13 | 研究における論文まとめ① | 研究演習レポートをまとめる。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 14 | 研究における論文まとめ② | 研究演習レポートをまとめる。 | 研究演習レポートを執筆する。 |
| 15 | 研究における論文まとめ③ | 研究演習レポートをまとめる。 | 研究演習レポートを執筆する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010030336 研究演習Ⅵ　石原ゼミ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石原　良明 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 研究論文を要約し，ゼミのレジメを作成できる。
2. 要約した研究論文と作成したレジメをもとに，発表と討論ができる。
3. 研究に必要なスキルを習得している。
4. 特定の研究領域に関する基礎知識を有し，それに関連した研究を実施し，研究成果をまとめることができる。

## 授業概要(教育目的)

現代社会の諸課題や現象を念頭に置きつつ、それらの根源にある人間の問題とその理解を目指して、様々な人文学的なアプローチを知り、研究演習レポートや卒業論文へのプロセスを進めていくゼミナール形式の授業を行う。
主なアプローチとしては、宗教学、聖書学、キリスト教神学、物語論となるが、これらは研究対象というよりはむしろ方法論であり、それらをどのようなテーマに適用してもかまわない。

研究演習Ⅵでは，研究演習レポートや卒業論文の執筆を進めるとともに、研究成果についての発表とグループ討議を重ね、様々な視点から問題を深めていくことをねらいとする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

スポーツ・健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は授業に対する参加態度，レジメや発表の質，討論時の発言回数とその内容にもとづいて総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

成績評価や課題等の評価については希望者に個別に開示する。

## 参考文献

特になし

## 講義時使用テキスト

授業時に紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

授業の性質上，研究と授業への積極的な取り組みと参加が求められます。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション（授業内容と進め方等の確認，興味のある研究テーマの選択） | シラバスを読み，授業内容について理解しておく。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 2 | 研究テーマに関連する論文の精読(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 3 | 研究テーマに関連する論文の精読(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 4 | 研究テーマに関連する論文の精読(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 5 | 研究計画の立案(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 6 | 研究計画の立案(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 7 | 研究計画の立案(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 8 | 原文テクストの分析(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 9 | 原文テクストの分析(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 10 | 原文テクストの分析(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 11 | 原文テクストの分析(4) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 12 | 研究結果の分析とまとめ(1) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 13 | 研究結果の分析とまとめ(2) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 14 | 研究結果の分析とまとめ(3) | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |
| 15 | 研究成果の発表 | 事前配付資料を読む。<br>発表者はレジメを作成し，発表準備をする。 | 配付資料やメモを読み直し，学んだことを確認する。<br>授業中に生じた課題について検討し，整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010031000 体育原理 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 概論的な体育について説明することができる.
2. 体育の抱える問題について説明することができる.

## 授業概要(教育目的)

体育についての基本的な用語や概念を整理することによって，概論的な体育の理解を深める．また，体育・スポーツの本質を理解し，体育の抱える問題について学ぶ．

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

毎時のレポート，受講態度，発表などの結果から総合的に判断する．

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

## 講義時使用テキスト

特になし．適宜必要な資料を配布する．

## 参考文献

大橋道雄編著『体育哲学原論』大修館書店
友添秀則・岡出美則編著『新版教養としての体育原理』大修館書店
中村敏雄・高橋健夫編著『体育原理講義ー体育・スポーツの理解に向けてー』不昧堂出版

## 資格との関連

中学校・高等学校教諭免許(保健体育):必修

## 学生へのメッセージ

体育やスポーツとは何かということを精緻に理解し，自らの問いを深める時間となるよう講義に臨むこと．
そのために、授業時間外の学習として講義資料を用いた予習・復習はもちろんのこと，日常のスポーツや運動の場面で常に問題意識を持ち，自らの問いを自覚していることが重要である．なお、この体育原理はアクティブラーニング型授業である。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 体育原理とは何か | 体育やスポーツに関する問題について考え、インターネットで調べる。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 2 | 体育とスポーツの違い、体育理念の移り変わり | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 3 | 体育における人間形成 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 4 | 体育とフェアプレイ | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 5 | スポーツや身体活動に見られる美的体験 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 6 | 体育と身体形成 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 7 | 体育で競争をどのように位置づけるか | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 8 | 体育やスポーツとプレイの関係 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 9 | 技術指導から見た体力 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 10 | 体育と指導者 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 11 | 運動部活動の意義と課題 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 12 | 子どもから見た体育の存在意義 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 13 | 特別支援学校における体育 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 14 | 体育・スポーツの本質 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |
| 15 | 社会変化と今後の体育 | 前回の配布資料を読み直す。 | 配布資料をもとに授業の内容を整理し、自分なりの問題意識を持つ。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010032001 運動学（運動方法学を含む） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 身体運動を構成する要素を力学的、生理学的な観点から抽出し、整理することができる。
2. スポーツの指導や体育授業で直面する指導上の問題を解決するために必要な専門知識・技能を習得する。

## 授業概要(教育目的)

学校体育授業やスポーツ指導を行うためには、ヒトの動作の仕組みに関する理論に基づいた助言を行ったり、運動学習のプログラムを作成したりする能力が必要となる。本講義では、各種の身体運動を解剖学、生理学、力学的な側面から理解するとともに、運動技術の指導、教育方法について検討・学習する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

講義への参加態度(発問への答えなど)、各担当教員の課すレポート課題、小テストの成績から総合的に評価する。
再試験は実施しない。

## 課題に対するフィードバック

小テスト・レポートの成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

参考文献はその都度紹介する。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。

## 資格との関連

中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)取得のために必要な科目である。

## 学生へのメッセージ

講義日程および場所を変更する場合があるので、連絡、掲示に注意すること。
各分野(各教員)で実施する小テスト、レポート課題に真剣に取り組むこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 運動学とは何か | 講義内容に関してインターネットで調べる | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 2 | 身体運動の構成要素 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 3 | 解剖学・生理学からみた身体運動 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 4 | 身体運動の効率と選択 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 5 | 体力の測定 ① | 講義内容に関してインターネットで調べる | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 6 | 体力の測定 ② | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 7 | 体力の評価 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 8 | 運動指導構造論 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 9 | 身体運動の歴史的視点 | 講義内容に関してインターネットで調べる | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 10 | 身体運動と現代社会 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 11 | 運動観察論 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 12 | 身体運動の教育 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 13 | 身体運動とスキル | 講義内容に関してインターネットで調べる | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 14 | 身体運動と運動力学 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |
| 15 | 運動指導のための情報収集と活用 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 講義内容を小レポートにまとめる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010033000 地域スポーツ論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 三本木　温 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.スポーツに関連する法律・制度に関して説明できる。
2.国と地方自治体におけるスポーツ振興・強化施策について説明できる。
3.地域スポーツにまつわる現状・課題を理解し、改善策を提案し発表できる。

## 授業概要(教育目的)

近年は、地域に根差したスポーツチームの活動やスポーツ活動を通した地域活性化を目的とした総合型地域スポーツクラブの設立などが盛んに行われており、日本のスポーツを取り巻く環境は大きく変化しつつある。
本講義では、地域スポーツの意義や国と地域のスポーツ振興の基本的枠組みとスポーツによる地域づくりに関して理解を深め、現在の地域スポーツの現状とその課題について学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題探究に取り組む主体的姿勢を身につけている。

## 評価方法

講義中の発言等、授業内に行う小テスト・リアクションペーパーへの取り組み状況、課題レポートの完成度から総合的に評価する。
平常評価(発表・小レポート・リアクションペーパー:40%)
課題レポートによる評価(レポート:60%)

## 課題に対するフィードバック

講義成績(授業ごとのレポート、小テスト)を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

『地域を変えた総合型地域スポーツクラブ』山口泰雄 著　大修館書店
『地域スポーツの指導』永島惇正 編著　北樹出版
これ以外にも随時紹介する

## 講義時使用テキスト

参考文献をもとに作成した資料は講義内で配布する。

## 資格との関連

・教員免許(高校保健体育)取得のための必修科目
・日本スポーツ協会公認コーチングアシスタント取得のための必修科目

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・生涯スポーツ論と併せて履修することが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 地域スポーツとは | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 2 | スポーツ振興法からスポーツ基本法へ | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 3 | スポーツ振興基本計画からスポーツ基本計画へ | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 4 | スポーツ推進のための組織体制について | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 5 | 地方自治体におけるスポーツ推進計画について | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 6 | 地方自治体におけるスポーツ推進の組織体制について | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 7 | マネジメントの概念 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 8 | スポーツマネジメントを考える | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 9 | 体育・スポーツ事業とマネジメント | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 10 | 指定管理者制度について(エリアマネジメント) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 11 | プロフェッショナル・スポーツのマネジメント | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 12 | 学校部活動(クラブマネジメント) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 13 | スポーツ少年団とスポーツ推進委員 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 14 | 総合型地域スポーツクラブとは | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 15 | 総合型地域スポーツクラブの現状と課題<br>(ゲストティーチャーによる講義) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010034000 生涯スポーツ論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 三本木　温 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.生涯スポーツの理念や役割を説明することができる
2.日本の生涯スポーツ政策を説明することができる。
3.生涯スポーツに関する基本的な知識を身につけ、生涯にわたった健康づくり運動を働きかけることができる。

## 授業概要(教育目的)

少子高齢化社会が急速に進む中、国民の運動・スポーツによる健康づくりの必要性が高まっている。生涯を通したスポーツ活動の実践に向けて、文部科学省が「スポーツ振興基本計画」、厚生労働省が「健康日本21」を掲げ、現在も日本各地で健康づくり環境の整備が進んでいる。本講義では生涯スポーツの定義、各国の生涯スポーツ政策、ライフスタイルに応じたスポーツの実践方法、生涯を通してスポーツを実践するための基本的知識を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題探究に取り組む主体的姿勢を身につけている。

## 評価方法

講義中の発言等、授業内に行う小テスト・リアクションペーパーへの取り組み状況、課題レポートの完成度から総合的に評価する。
平常評価(発表・小レポート・リアクションペーパー:40%)
課題レポートによる評価(レポート:60%)
期末評価(期末レポート:40%)

## 課題に対するフィードバック

講義成績(授業ごとのレポート、小テスト)を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

『生涯スポーツ実践論 改訂3版』川西正志・野川春夫 編著 市村出版
『よくわかるスポーツ文化論』井上俊・菊幸一 編著 ミネルヴァ出版

## 講義時使用テキスト

参考文献をもとに作成した資料は講義内で配付する

## 資格との関連

・教員免許(高校保健体育)取得のための必修科目
・JATI取得のための必修科目
・日本スポーツ協会公認コーチングアシスタントのための必修科目

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「生涯スポーツ」の概念(1) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 2 | 「生涯スポーツ」の概念(2) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 3 | スポーツの成立 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 4 | 文化としてのスポーツ | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 5 | スポーツとルール | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 6 | スポーツと規範 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 7 | スポーツマンシップとフェアプレイ | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 8 | スポーツとメディア | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 9 | 産業としてのスポーツ | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 10 | スポーツの光と影 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 11 | 「ささえる」スポーツ | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 12 | 生涯スポーツにおける指導法を考える | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 13 | ライフステージに応じたスポーツ(運動)実践の意義 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 14 | 障がい者スポーツの現状と課題<br>(ゲストティーチャーによる講義) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 15 | 「生涯スポーツ」再考 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010035000 ヘルスエクササイズ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
トレーニングの原理・原則を理解し、合理的かつ効果的なスポーツ指導方法および健康運動の行い方について説明し、実践することができる。

## 授業概要(教育目的)

様々なスポーツの能力を高めるための効果的な指導方法に関する知識、技能について学ぶ。また、対象者に応じたトレーニング方法、安全管理の留意点についても学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

受講態度、模擬授業の様子、レポートなどの結果により総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

レポート、小テストの成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

浅野勝己、田中喜代次著『健康スポーツ科学』文光堂

## 講義時使用テキスト

特になし、適宜、必要な資料を配布する。

## 資格との関連

高等学校教諭免許(保健体育):必修、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者:資格必修科目

## 学生へのメッセージ

トレーニング科学への理解を深め、運動指導能力を身に付けるためには運動生理学、解剖学、栄養学等の基礎知識が不可欠である。他の専門科目における学習内容についても復習し、関連付けながら受講すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | スポーツパフォーマンスの構成要素について | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義内容を小レポートにまとめる。 |
| 2 | トレーニングの原理と原則について | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義内容を小レポートにまとめる。 |
| 3 | トレーニング科学の基礎(運動と骨格筋) | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義中に作成したノートを参考に、小テストの問題を解く。 |
| 4 | レジスタンストレーニングについて | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義内容を小レポートにまとめる。 |
| 5 | スピード・パワーを高めるためのトレーニングについて | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義内容を小レポートにまとめる。 |
| 6 | トレーニング科学の基礎(運動と神経系) | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義中に作成したノートを参考に、小テストの問題を解く。 |
| 7 | 巧緻性を高めるためのトレーニングについて | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義内容を小レポートにまとめる。 |
| 8 | トレーニング科学の基礎(運動とエネルギー代謝) | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義中に作成したノートを参考に、小テストの問題を解く。 |
| 9 | トレーニング科学の基礎(運動と呼吸循環) | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義中に作成したノートを参考に、小テストの問題を解く。 |
| 10 | 持久性を高めるためのトレーニングについて | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義内容を小レポートにまとめる。 |
| 11 | トレーニングと測定評価 | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義内容を小レポートにまとめる。 |
| 12 | 女性に対するスポーツトレーニングについて | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義中に作成したノートを参考に、小テストの問題を解く。 |
| 13 | 中高齢者に対するスポーツトレーニングについて | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義内容を小レポートにまとめる。 |
| 14 | 運動と生活習慣病 | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義中に作成したノートを参考に、小テストの問題を解く。 |
| 15 | 発育・発達期におけるスポーツトレーニングについて | 参考文献の該当箇所を読む。 | 講義内容を小レポートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010036000 健康と運動処方 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

健康を保持・増進するために適切な「運動の種類」、「運動強度」、「運動時間」、「運動の頻度」について説明でき、科学的根拠に基づいた運動の処方ができるようになることを目標とする。

## 授業概要(教育目的)

健康対策として病気に対する抵抗力や環境に対する適応力を高めることによって、病気を予防し健康の増進をはかることができる。そのための方法として運動による身体活動の強化が効果的であることは一般的であるが、自己流の運動では健康を害することもある。この科目では、人間が健康を保持・増進できるための適切な運動に対する科学的な知識を中心に学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業内で行う小テストやレポート、提出課題、授業態度を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

・課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
・試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

『運動処方の指針　運動負荷試験と運動プログラム』原書第8版　南江堂
『健康にかかわる体力の測定と評価』市村出版
『運動処方のための理論と実践』共栄出版

## 講義時使用テキスト

特に指定はしない。
講義時に資料を配布する。

## 資格との関連

高等学校教諭一種免許状(保健体育)取得のために必要な科目である。

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 運動処方とは | 新聞・インターネット等で関連する論点を把握しておくこと | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 2 | 健康増進運動の重要性と運動処方の意義 | 新聞・インターネット等で関連する論点を把握しておくこと | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 3 | トレーニングの原理・原則 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 4 | 運動適応の基礎①　運動と呼吸・循環・代謝 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 5 | 運動適応の基礎②　運動と神経・筋・内分泌 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 6 | 有酸素性運動の理論 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 7 | 無酸素性運動の理論 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 8 | 局所の運動とトレーニング | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 9 | 運動処方の理論 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 10 | 運動負荷テスト | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 11 | 体力の測定 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 実習の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 12 | 測定データの分析・評価・活用 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 13 | 特別な配慮を要する人の運動処方 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 14 | 運動処方に必要な計算 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 15 | 運動処方の作成 | ノートを読み返し、前回の講義内容を整理する | 授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010037000 基本実技 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
①体力の概念を理解し、基礎体力の養成・向上および目的に応じた様々な動きの獲得に関する原理原則について説明することができる。
②基礎体力の養成のための指導計画を立案し、実践することができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義では、中学校学習指導要領および高等学校学習指導要領「保健体育」の体育分野である「体つくり運動」の内容を中心として、基礎体力養成のための合理的で効果的な運動の行い方を理解し、さまざまな運動課題に取り組みながら、運動の指導方法について学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

受講態度、レポートなどの結果により総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

課題とする模擬授業案および模擬授業内容について、各講義の最後に評価、解説を行う。

## 参考文献

文部科学省（著）『体つくり運動 授業の考え方と進め方(改訂版)』東洋館出版社

## 講義時使用テキスト

特になし、適宜、必要な資料を配布する。

## 資格との関連

中学校・高等学校教諭免許(保健体育):必修

## 学生へのメッセージ

自ら積極的に運動課題に取り組むことのできる心身の準備をして講義に臨むこと。
グループ別の模擬授業を行うため、遅刻・欠席等で講義の進行に支障をきたすことの無いよう注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 体つくり運動の概念について | 文部科学省が公開している学校体育実技実践資料を閲覧し、体つくり運動の概要を理解する。 | 体つくり運動の内容について分類し、表を作成する。 |
| 2 | 体の柔らかさを高める運動について | 文部科学省が公開している学校体育実技実践資料を閲覧し、体つくり運動の概要を理解する。 | 講義内容に基づいて、模擬授業の案を作成する。 |
| 3 | 体の柔らかさを高める運動の実践 | 模擬授業の準備、練習を行う。 | 模擬授業を振り返り、内容の評価と改善案を小レポートにまとめる。 |
| 4 | 巧みな動きを高めるための運動について | 文部科学省が公開している学校体育実技実践資料を閲覧し、体つくり運動の概要を理解する。 | 講義内容に基づいて、模擬授業の案を作成する。 |
| 5 | 巧みな動きを高めるための運動の実践 | 模擬授業の準備、練習を行う。 | 模擬授業を振り返り、内容の評価と改善案を小レポートにまとめる。 |
| 6 | 力強い動きを高めるための運動について | 文部科学省が公開している学校体育実技実践資料を閲覧し、体つくり運動の概要を理解する。 | 講義内容に基づいて、模擬授業の案を作成する。 |
| 7 | 力強い動きを高めるための運動の実践 | 模擬授業の準備、練習を行う。 | 模擬授業を振り返り、内容の評価と改善案を小レポートにまとめる。 |
| 8 | 動きを持続する能力を高めるための運動について | 文部科学省が公開している学校体育実技実践資料を閲覧し、体つくり運動の概要を理解する。 | 講義内容に基づいて、模擬授業の案を作成する。 |
| 9 | 動きを持続する能力を高めるための運動の実践 | 模擬授業の準備、練習を行う。 | 模擬授業を振り返り、内容の評価と改善案を小レポートにまとめる。 |
| 10 | 体ほぐしの運動について | 文部科学省が公開している学校体育実技実践資料を閲覧し、体つくり運動の概要を理解する。 | 講義内容に基づいて、模擬授業の案を作成する。 |
| 11 | 体ほぐしの運動の実践 | 模擬授業の準備、練習を行う。 | 模擬授業を振り返り、内容の評価と改善案を小レポートにまとめる。 |
| 12 | ねらいが同じ運動の組み合わせについて | 文部科学省が公開している学校体育実技実践資料を閲覧し、体つくり運動の概要を理解する。 | 講義内容に基づいて、模擬授業の案を作成する。 |
| 13 | ねらいが同じ運動の組み合わせの実践 | 模擬授業の準備、練習を行う。 | 模擬授業を振り返り、内容の評価と改善案を小レポートにまとめる。 |
| 14 | ねらいが異なる運動の組み合わせについて | 文部科学省が公開している学校体育実技実践資料を閲覧し、体つくり運動の概要を理解する。 | 講義内容に基づいて、模擬授業の案を作成する。 |
| 15 | ねらいが異なる運動の組み合わせの実践 | 模擬授業の準備、練習を行う。 | 模擬授業を振り返り、内容の評価と改善案を小レポートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010038000 水泳 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 下田　尋通 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 4泳法とそれに付随する技術(スタート・ターンを含む)及び段階別指導法の習得ができる。
2. 救急・救命法を習得し、安全管理が実践できる。

## 授業概要(教育目的)

保健体育教諭における最低限必要な水泳技能及び指導技術の習得を目指し、水泳授業において必要な環境構成(安全管理と危機時における知識・技術)について学ぶことを目的とする。目的を達成するために①泳法技術の習得、②指導法の習得、③安全・危機管理の理解、の3つの柱からこの科目は構成される。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

1. 参加態度 － 50%　泳力テスト － 30%　救急・救命法 － 20%
2. 100m個人メドレー(もしくは各泳法25m以上)における4泳法の習熟度(泳速度は除く)による
3. 救命・救急法は理解・実践・習熟度を総合的に判断する

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

## 講義時使用テキスト

学校体育実技指導資料　第4集　水泳指導の手引(三訂版)　文部科学省
※テキスト内抜粋資料印刷配布

## 参考文献

・水泳指導教本:(財)日本水泳連盟(編集),(出版社:大修館書店)
・学校における水泳事故防止必携(新訂二版)　独立行政法人日本スポーツ振興センター　※HPにて無料ダウンロード可能。
・水泳の事故防止～プールへの飛び込み事故を中心に～(DVD)　独立行政法人日本スポーツ振興センター　※HPにて無料ダウンロード可能。
・浮いて待て！命を守る着衣泳　水難学会指定指導法準拠テキスト
・学校における水泳プールの保健衛生管理(平成28年度改訂)　※HPにて無料ダウンロード可能。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
1. 水着、スイムキャップ(指定:白色メッシュタイプ)、スイムゴーグルを着用のこと。
2. 水着に関しては男女とも競泳用水着、フィットネス用水着とする。泳法習得および指導上ふさわしくないと思われるセパレートタイプ(女性)やバミューダータイプ及びサーフパンツ(男性)は不可とする。不明の点はオリエンテーション時に確認をとること。
3. 安全管理上、ピアス等のアクセサリーは外すこと。また衛生管理上、髪の毛を染めている者の受講は認めない。

## 実務との関連

プールを含めた体育施設管理に携わる者として施設管理で培った知識、加えて自身の選手時代及び指導者としての経験を活かし、泳力向上だけでなく安全管理も踏まえた教育者としての知識習得に向けて講義する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>学科<br>・実技実習の展開の説明。<br>・水泳指導に必要なプール衛生管理。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 学科<br>・水泳における事故事例と対処法。<br>・救命救急法。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | 実技<br>・入水の仕方。<br>・泳力チェック、グルーピング。<br>・水泳指導の安全確認と安全指導法。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | 実技:水泳の基本・クロール①<br>水泳の基本<br>・浮き方、立ち方。<br>クロール<br>・バタ足。<br>・呼吸の仕方。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | 実技:クロール②<br>・基本姿勢、キック、手の使い方等。<br>・ターン。<br>・泳力チェック。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | 実技:背泳ぎ①<br>・基本姿勢、キック、手の使い方等。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | 実技:背泳ぎ②<br>・手足のコンビネーション等。<br>・背泳ぎのスタート。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | 実技:背泳ぎ③・スタートの指導法<br>背泳ぎ<br>・ターン。<br>・泳力チェック。<br>スタートの指導法 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | 実技:バタフライ①<br>・基本姿勢、キック、手の使い方等。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | 実技:バタフライ②<br>・手足のコンビネーション等。<br>・ターン。<br>・泳力チェック。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | 実技・指導法:着衣水泳①<br>着衣水泳<br>・浮き身のとり方等。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | 実技・指導法:着衣水泳②<br>着衣水泳<br>・資材を使った救助法等。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 実技:平泳ぎ①<br>・基本姿勢、キック、手の使い方等。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | 実技:平泳ぎ②<br>・手足のコンビネーション等。<br>・ターン。<br>・泳力チェック。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | 実技:個人メドレー<br>・泳力チェック。 | テキストの該当箇所を読む<br>参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

| 講義名 | 4010039000 ダンス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 昆　賀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

現代的なリズムのダンス，フォークダンス，表現・創作ダンスのそれぞれの特性を理解し，ダンスの基礎的な技術を身に付ける。
①学習指導要領におけるダンスの各領域の特性を理解し，説明できる。
②踊る楽しさと様々な身体表現の在り方があることを理解し，他者に伝えることができる。
③仲間と協力してダンスを創作し、人前で発表することができる。

## 授業概要(教育目的)

ダンスおよび身体表現に関する知識を理解し，現代的なリズムのダンス，フォークダンス，表現・創作ダンスの学習から，ダンスの基礎的な技能を習得するとともに，授業の組み立てや指導法およびダンスの特性（踊る、創る、見る、発表する）について学習する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

受講態度，実技の習熟度（基本的な技術，表現力，創作能力，指導法の理解と指導力），毎時の授業ファイルにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

授業ファイルに，毎時間の学習内容と気付きを記入し，問題に答える．授業ファイルは毎回提出し，担当教員によるコメント及び回答を記載の上，毎時間の授業開始時に返却する．

## 講義時使用テキスト

特になし.適宜必要な資料を配布する.

## 参考文献

・『中学校学習指導要領』，『高等学校学習指導要領』文部科学省
・舞踊教育研究会（代表・片岡康子）編『舞踊学講義』大修館書店
・村田芳子編集・指導『表現運動・リズムダンスの最新指導法』小学館
・村田芳子編集・指導『表現運動・表現の最新指導法』小学館
・全国ダンス・表現運動授業研究会編『明日からトライ！ダンスの授業』大修館書店

## 資格との関連

中学校・高等学校教諭免許（保健体育）：必修

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
実技にふさわしい運動着・運動靴を用意すること．
意欲的に学ぼうとする姿勢で授業に臨むこと．
授業ファイルは担当教員が用意するため，各自で購入する必要はない．

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 舞踊（ダンス）の特性，学習指導要領におけるダンスの位置付けの 理解，ダンスコミュニケーション | 中学校学習指導要領「G．ダンス」の 目標及び 内容を 読む。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 2 | 現代的なリズムのダンス①（体ほぐしとリズム遊びの実践） | ダンスコミュニケーションで 行った 動きを確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 3 | 現代的なリズムのダンス②（ヒップホップのリズム） | 中学校学習指導要領「G．ダンス」における「現代的なリズムのダンス」の内容を 確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 4 | 現代的なリズムのダンス③（定形教材の 創作） | ダウンとアップの 動きの 違いを確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 5 | 現代的なリズムのダンス④（定形教材の 発表） | グループで 動きの 確認をする。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 6 | フォークダンス①（ジェンカ，マイムマイム） | 中学校学習指導要領「G．ダンス」における「フォークダンス」の 内容を 確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 7 | フォークダンス②（コロブチカ，バージニアリール） | 前回行ったダンスを 確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 8 | フォークダンス③（タタロチカ，グスタフス・スコール，ドードレブスカ・ポルカ） | 前回行ったダンスを 確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 9 | ダンスの 授業展開の 方法（映像視聴） | 中学校学習指導要領「G．ダンス」の 目標及び 内容を 読む。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 10 | 表現・創作ダンス①（他者との 関わり） | 中学校学習指導要領「G．ダンス」における「創作ダンス」の 内容を 確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 11 | 表現・創作ダンス②（新聞紙を 使った 表現） | 中学校学習指導要領「G．ダンス」における「創作ダンス」の 内容を 確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 12 | 表現・創作ダンス③（ボディイメージによる創作と伝達①） | 中学校学習指導要領「G．ダンス」における「創作ダンス」の 内容を 確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 13 | 表現・創作ダンス④（ボディイメージによる創作と伝達②） | グループで 動きや 隊形変化を 確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 14 | 発表会に 向けたリハーサル | グループで 動きや 隊形変化を 確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付きを詳しく記入し、配布された 問題に答え、担当教員に提出する。 |
| 15 | 発表会 | グループで 動きや 隊形変化を 確認する。 | 各自のファイルに学習内容と気付き、および全15回で 学んだ 感想を 詳しく記入し、担当教員に 提出する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010040000 陸上競技 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.陸上競技における走・跳・投種目の基本技術を理解したうえで実践できる。
2.陸上競技における走・跳・投種目の指導法についての知識を身につけ、指導できる。
3.陸上競技のルールやマナーを説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本講義では陸上競技における走・跳・投種目についての基本的な技術を実技講習を通して学ぶとともに、各種目の指導方法、器具の取り扱い方、陸上競技のルールやマナーに関しても学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題探究に取り組む主体的姿勢を身につけている。

## 評価方法

講義中の発言等、授業内に行う小テストの成績、授業ごとのレポートの完成度から総合的に評価する。

達成評価(各種目においての目標記録の達成:50%)※各種目の目標記録は講義時に提示する
期末評価(レポート、運動の理解度:50%)

## 課題に対するフィードバック

講義成績(実技試験、授業ごとのレポート)を知りたい学生には個別に開示する。
期末評価の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 講義時使用テキスト

特にテキストは定めない。講義資料は必要に応じて配布する。

## 参考文献

『陸上競技指導教本アンダー16・19 基礎から身につく陸上競技 初級編』日本陸上競技連盟
『中学校部活動における陸上競技指導の手引き』日本陸上競技連盟
『中学・高校　陸上競技の学習指導』小木曽一之 他、道和書院

## 資格との関連

教員免許(中・高保健体育)を取得するための必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・教職課程履修者(保健体育)を対象とする。教職課程を希望しない学生の履修は認めない。
・トレーニングウェア、運動靴を用意すること。陸上競技スパイクシューズは使用しない。
・天候によって講義当日に実施場所を変更することがあるので、掲示をよく見ておくこと。
※履修人数が多い場合は、2グループに分け開講時期を変更する場合がある。

全講義出席を基本とし、1/3以上欠席した場合は単位未修得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 陸上競技について(歴史、構成、基本的ルール) | 陸上競技の 成り立ちについて調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 2 | 短距離走1 | 短距離走の 種目特性、記録向上に必要な要素などを調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 3 | 短距離走2 | 短距離走の 種目特性、記録向上に必要な要素などを調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 4 | 走幅跳1 | 走幅跳の記録向上に必要な要素を 調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 5 | 走幅跳2 | 走幅跳の記録向上に必要な要素を 調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 6 | 走幅跳3 | 走幅跳の記録向上に必要な要素を 調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 7 | 障害物走(ハードル)1 | 障害走の記録向上に必要な要素を 調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 8 | 障害物走(ハードル)2 | 障害走の記録向上に必要な要素を 調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 9 | 障害物走(ハードル)3 | 障害走の記録向上に必要な要素を 調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 10 | 走高跳1 | 走高跳の記録向上に必要な要素を 調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 11 | 走高跳2 | 走高跳の記録向上に必要な要素を 調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 12 | 走高跳3 | 走高跳の記録向上に必要な要素を 調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 13 | 投てき1 | 投てき種目の記録向上に必要な要素を調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 14 | 投てき2 | 投てき種目の記録向上に必要な要素を調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |
| 15 | 長距離走1 | 長距離走の 記録向上に必要な要素を 調べる。 | 学習内容をもとにレポートを作成し、担当教員に提出する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010041000 フットボールスポーツ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

様々なフットボールの中でも本講義ではアソシエーションフットボール(以下、サッカー)とラグビーフットボール(以下、ラグビー)を扱うこととする。
また、以下の事項を到達目標とする。
・それぞれのフットボールにおける基本的な技術・戦術を理解出来る。
・それぞれのフットボールにおける指導方法を理解出来る。

## 授業概要(教育目的)

本講義では基礎的指導にあたるための基礎理論・基礎実技の習得及び指導方法を修得することを目的として実施する。また、ラグビーフットボールではタグラグビーも扱うこととする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

実技試験・筆記試験・授業に取り組む姿勢・態度等を総合的に評価する。
実技科目であるため再試験は実施しない。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

・吉田文久著「フットボールの原点：サッカー、ラグビーのおもしろさの根源を探る」(創文企画)
・こどもくらぶ編「タグラグビー」(岩崎書店)

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。担当教員作成の資料を配付する。

## 資格との関連

教職課程履修者(中学校保健体育・高等学校保健体育)のみ履修登録可能。

## 学生へのメッセージ

本講義は秋学期の集中講義期間で開講する。
講義日程および場所を変更する場合があるので、連絡、掲示に注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基礎理論① 発育発達と一貫指導、コーチング法 | 受講するにあたって、サッカーの特性、歴史について調べる。 | 自分の描いている教師像、夢についてレポートをまとめる。 |
| 2 | 基礎理論② メディカルの知識、指導者の役割 | 主に小・中生の年代における指導の狙いを考えてくる。 | サッカーを通して集団スポーツの特性を理解する。 |
| 3 | 基礎理論③ 競技者規則とフェアプレー、技術・戦術理論、プランニング論 | 選手にとって何が最善か競技規則と審判法について調べてくる。 | ルールの理解と実践、マナーの醸成を図る。 |
| 4 | 基礎理論④ 技術・戦術理論、プランニング論 | 基本技術、ボールリフティング、パス、ドリブルの練習をする。 | ゲームを通して達成できたか振り返る。 |
| 5 | 基礎実技① サッカーとは&コミュニケーション、初心者指導 | 得点を取る、失点をしないためにどんなプレーが最適か考える。 | チームとしてどのようなコーチング、コミュニケーションがベストか考える。 |
| 6 | 基礎実技② 攻撃の原則、ゴールを奪う | 攻撃の原理原則、シュートを打つ、ボールを運ぶ、ボールを奪われないためにはどうするか考える。 | ゲームを通して達成できたか振り返る。 |
| 7 | 基礎実技③ 守備の原則、ゴールを守る | 守備の原理原則、チャレンジ&カバー、数的優位について考える。 | ゲームを通して達成できたか振り返る。 |
| 8 | 総合演習 筆記試験、実技試験 | 実技試験に向けてこれまで実施したことを振り返る。 | ボールリフティングについてレポートをまとめる。 |
| 9 | 基礎理論① ラグビーの起源と歴史 | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 10 | 基礎理論② 競技規則、技術・戦術理論 | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 11 | 基礎理論③ 一貫指導と指導方法論 | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 12 | 基礎実技① 基礎的技術(パス、コンタクト、タックル、キック) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 13 | 基礎実技② 攻撃の原則、ボールを保持する | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 14 | 基礎実技③ 守備の原則、ボールを奪取する | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 15 | 基礎実技④ タグラグビー | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010042000 バスケットボール・バレーボール | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

ゴール型のスポーツであるバスケットボール、ネット型のスポーツであるバレーボールのルールや技術、戦術について説明できるようになるとともに、個々の技術を習得する。

## 授業概要(教育目的)

本科目は保健体育教員養成のために開講される。そのためゴール型のバスケットボール、ネット型のバレーボールの基礎技術や戦術を理解するとともに、将来指導者の立場となったとき、指導の計画・実践・評価だけでなく試合の運営方法についても学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

実技の習得度、提出課題、授業への参加態度を総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

『バスケットボール指導教本　改訂版』上・下巻　大修館書店
『コーチングバレーボール(基礎編)』日本バレーボール学会

## 講義時使用テキスト

特に指定はしない。

## 資格との関連

中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)取得のために必要な科目(選択)である。
教職課程履修(教員免許取得希望者)のみ履修登録が可能な科目であり、他の学生(一般学生・教職を諦めた者)は受講できない。

## 実務との関連

## 学生へのメッセージ

・前半8回はバスケットボール、後半7回はバレーボールの授業がおこなわれる。
・集団種目の実技授業であるため、履修者が少ないと授業が成り立たないため、履修者が10名に満たない場合は開講しない。
・体育館でおこなわれる実技の授業であるため、必ず運動着、内履きを持参すること。
・自らの意思で考え、積極的に行動できる学生に参加していただきたい。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. バスケットボールの歴史・ルール | ・授業内容についてインターネットで調べる。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 2 | 2. バスケットボールの基礎技術①(ドリブル) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 3 | 3. バスケットボールの基礎技術②(パス) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 4 | 4. バスケットボールの基礎技術③(シュート) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 5 | 5. 1on1、2on2の攻防 | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 6 | 6. 3on3、4on4の攻防 | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 7 | 7. 5on5の攻防とバスケットボールの審判法 | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 8 | 8. 試合(バスケットボール) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 9 | 9. バレーボールの歴史・ルール | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 10 | 10. 基本技術①(オーバーハンド及びアンダーハンドパス) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 11 | 11. 基本技術②(サーブ) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 12 | 12. 基本技術③(スパイク) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 13 | 13. 複合技術(対人レシーブ) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 14 | 14. バレーボールの審判法と試合 | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 15 | 15. 試合(バレーボール) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |

| 講義名 | 4010043002 ラケット・バットスポーツ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の2つの事項を到達目標とする。
1.「テニス」「ソフトボール」「バドミントン」それぞれ必要最低限の技術を身につける。
2.「テニス」「ソフトボール」「バドミントン」のルール、指導方法、審判方法および大会運営方法について説明することができる。

## 授業概要(教育目的)

本講では、ラケット・バットスポーツのなかでも、多くの人々に親しまれている「テニス」「ソフトボール」「バドミントン」を取り上げ、最低限必要な技術を習得する。また、ルールの習熟から大会運営にいたるまで、これらの種目全般を理解すること、およびそれらの指導方法、審判方法を習得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

講義への取り組み、講義中に行う実技テストの結果をもとに総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 講義時使用テキスト

特になし。必要に応じて適宜紹介する。

## 参考文献

・内山勝著「ぐんぐんうまくなる!硬式テニス」(ベースボール・マガジン社)
・日本バドミントン協会編「バドミントン教本Q&A」(ベースボール・マガジン社)
・三科真澄著「ソフトボール超実戦的練習ドリル」(ベースボール・マガジン社)

## 資格との関連

教職課程履修者(中学校保健体育・高等学校保健体育)のみ履修登録可能。

## 学生へのメッセージ

1. ウエア、屋外・屋内運動靴等運動にふさわしい服装で受講すること。
2. 天候により講義場所の変更がある為、掲示板をよく見ること。屋外・屋内のどちらでも受講可能に個々で対応すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. テニス(グリップ・ラケットワーク) | ・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 2 | 2. テニス(基本ストローク、サーブ) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 3 | 3. テニス(ミニゲーム、審判用語の解説) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 4 | 4. テニス(ダブルス簡易ゲーム) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 5 | 5. テニス(大会実習) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 6 | 6. ソフトボール(基本技能:キャッチボール) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 7 | 7. ソフトボール(基本技能:バッティング) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 8 | 8. ソフトボール(ミニゲーム、審判用語の解説①) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 9 | 9. ソフトボール(ミニゲーム、審判用語の解説②) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 10 | 10. ソフトボール(大会実習) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 11 | 11. バドミントン(グリップ・ラケットワーク) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 12 | 12. バドミントン(基本ストローク、サーブ) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 13 | 13. バドミントン(ミニゲーム、審判用語の解説) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 14 | 14. バドミントン(ダブルス簡易ゲーム) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 15 | 15. バドミントン(大会実習) | ・前回の授業の内容を整理する。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |

| 講義名 | 4010044000 武道Ⅰ（柔道） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　正幸 | | |

## 学習目標(到達目標)

車に技の競い合いだけでなく、礼儀・勇気・公正・協同・忍耐などの社会生活に必要な態度を発達させる。

## 授業概要(教育目的)

柔道の基本的な理論や実技を通して、安全に練習や試合ができるようになると共に、体育的な柔道の指導法を修得する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

毎回行う「受身」や授業態度により評価する。

## 課題に対するフィードバック

毎時間、授業内容(実技)を評価。ただし、最終回は筆記試験も実施。

## 参考文献

『学校指導要領・学習の手引き』 一橋出版、史資料出版協会等

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
各自、柔道衣を用意すること。

休まずに受講しないと、一連の技術的な基本原理や安全指導の手法を習得することが困難であり、教育実習期間と重複する4年次での履修は避けてほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 授業内容の説明と諸届確認事項。柔道衣と礼法。立礼と座礼。各受け身等実技。基本動作⇒基本姿勢(右自然体・自然本体・左自然体・自護本体)組手(右組み・左組み)。投げの 形→DVD観賞等。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 受身⇒後ろ 受け身・前受け身・横受け身・前回り受け身(移動しての 前回り受け身・障害物受け身)毎回毎。禦技の基本動作⇒(対人的技能・抑え技)→袈裟固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固めの5項目。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 3 | 受身⇒後ろ 受け身・前受け身・横受け身・前回り受け身(移動しての 前回り受け身・障害物受け身)毎回毎。禦技の基本動作⇒(対人的技能・抑え技)→袈裟固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固めの5項目。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 4 | 受身⇒後ろ 受け身・前受け身・横受け身・前回り受け身(移動しての 前回り受け身・障害物受け身)毎回毎。禦技の基本動作⇒(対人的技能・抑え技)→袈裟固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固めの5項目。(対人的技能・絞め技)→十字絞め・逆り襟絞め・片羽絞め・裸絞めの4項目。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 5 | 受身⇒後ろ 受け身・前受け身・横受け身・前回り受け身(移動しての 前回り受け身・障害物受け身)毎回毎。禦技の基本動作⇒(対人的技能・抑え技)→袈裟固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固めの5項目。(対人的技能・絞め技)→十字絞め・逆り襟絞め・片羽絞め・裸絞めの4項目。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 6 | 受身⇒後ろ 受け身・前受け身・横受け身・前回り受け身(移動しての 前回り受け身・障害物受け身)毎回毎。禦技の基本動作⇒(対人的技能・抑え技)→袈裟固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固めの5項目。(対人的技能・絞め技)→十字絞め・逆り襟絞め・片羽絞め・裸絞めの4項目。(対人的技能・関節技)→腕がらみ・腕ひしぎ腕固め・腕ひしぎ脇固め・腕ひしぎ十字固の4項目。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 7 | 受身⇒後ろ 受け身・前受け身・横受け身・前回り受け身(移動しての 前回り受け身・障害物受け身)毎回毎。禦技の基本動作⇒(対人的技能・抑え技)→袈裟固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固めの5項目。(対人的技能・絞め技)→十字絞め・逆り襟絞め・片羽絞め・裸絞めの4項目。(対人的技能・関節技)→腕がらみ・腕ひしぎ腕固め・腕ひしぎ脇固め・腕ひしぎ十字固の4項目。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 8 | 受身⇒後ろ 受け身・前受け身・横受け身・前回り受け身(移動しての 前回り受け身・障害物受け身)毎回毎。禦技の基本動作⇒(対人的技能・抑え技)→袈裟固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固めの5項目。(対人的技能・絞め技)→十字絞め・逆り襟絞め・片羽絞め・裸絞めの4項目。(対人的技能・関節技)→腕がらみ・腕ひしぎ腕固め・腕ひしぎ脇固め・腕ひしぎ十字固の4項目。試合⇒(審判・主審・副審の 動作等)(主な審判規定・一本・技有り・指導等) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 9 | 受身⇒後ろ 受け身・前受け身・横受け身・前回り受け身(移動しての 前回り受け身・障害物受け身)毎回毎。禦技の基本動作⇒(対人的技能・抑え技)→袈裟固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固めの5項目。(対人的技能・絞め技)→十字絞め・逆り襟絞め・片羽絞め・裸絞めの4項目。(対人的技能・関節技)→腕がらみ・腕ひしぎ腕固め・腕ひしぎ脇固め・腕ひしぎ十字固の4項目。試合⇒(審判・主審・副審の 動作等)(主な審判規定・一本・技有り・指導等) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 10 | 受身⇒後ろ 受け身・前受け身・横受け身・前回り受け身(移動しての 前回り受け身・障害物受け身)毎回毎。禦技の基本動作⇒(対人的技能・抑え技)→袈裟固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固めの5項目。(対人的技能・絞め技)→十字絞め・逆り襟絞め・片羽絞め・裸絞めの4項目。(対人的技能・関節技)→腕がらみ・腕ひしぎ腕固め・腕ひしぎ脇固め・腕ひしぎ十字固の4項目。試合⇒(審判・主審・副審の 動作等)(主な審判規定・一本・技有り・指導等) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 11 | 受身⇒後ろ 受け身・前受け身・横受け身・前回り受け身(移動しての 前回り受け身・障害物受け身)毎回毎。禦技の基本動作⇒(対人的技能・抑え技)→袈裟固め・横四方固め・上四方固め・縦四方固め・肩固めの5項目。(対人的技能・絞め技)→十字絞め・逆り襟絞め・片羽絞め・裸絞めの4項目。(対人的技能・関節技)→腕がらみ・腕ひしぎ腕固め・腕ひしぎ脇固め・腕ひしぎ十字固の4項目。試合⇒(審判・主審・副審の 動作等)(主な審判規定・一本・技有り・指導等) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 12 | 受身⇒(6種類)。禦技の基本動作⇒(抑え技→5種類)(絞め→4種類)(関節技5種類)審判・主審・副審の動作等)(主な審判規定・一本・技有り・指導等)【参考資料・DVD観賞】●手技(浮落・背負投・肩車)●腰技(浮腰・払腰・釣込腰)●足技(送り足払・支釣込足・内股) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 13 | 受身⇒(6種類)。禦技の基本動作⇒(抑え技→5種類)(絞め→4種類)(関節技5種類)審判・主審・副審の動作等)(主な審判規定・一本・技有り・指導等)【参考資料・DVD観賞】●手技(浮落・背負投・肩車)●腰技(浮腰・払腰・釣込腰)●足技(送り足払・支釣込足・内股) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 14 | 【実技試験】受け身各種・抑え技各種・絞め技各種・関節技各種(4種類)⇒一連の動作最終確認。【筆記試験】DVD観賞・プリント・道衣のたたみ方・その他。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、実施。(健康チェック) |
| 15 | 【実技試験】受け身各種・抑え技各種・絞め技各種・関節技各種(4種類)⇒一連の動作最終確認。【筆記試験】DVD観賞・プリント・道衣のたたみ方・その他。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。 | 前回の復習、本日の授業展開の概要説明、及び筆記試験実施。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010045000 武道Ⅱ（剣道・弓道） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 岩舘　秦弘 | | |

## 学習目標(到達目標)

講義全体を通して、我が国の伝統的な武道の精神や礼儀作法について理解できる。剣道については、基本的な技の種類や試合の行い方について理解し実践できる。弓道については、基本的な射法・射術を理解し実践できる。

## 授業概要(教育目的)

武道の一分野である剣道と弓道についての特性を理解するとともに、剣道では基本動作、対人動作について学習する。
弓道については、射術に関する基本技術を学習する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

受講の成果として最終日に実技、筆記の試験を行う。試験の結果だけでなく、授業中の実技評価や取組姿勢、授業態度、授業中に出すレポート課題を含めて、総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

剣道…期末試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。
弓道…期末試験の成績について疑問のある学生は「成績に関する申立書」を提出すること。

## 参考文献

①新しい学習指導要領に基づく剣道指導に向けて(文部科学省HPにて閲覧可能)
②中学校部活動における剣道指導の手引き(全日本剣道連盟HPにて閲覧可能)
③全日本弓道連盟(全日本弓道連盟HPにて閲覧可能・・・歴史・概論・射法八節解説等)

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

剣道…剣道の稽古の意義や目的、種類、方法に触れながら、指導者の在り方や指導の在り方について学んでいきます。修練を通して道徳的価値観の育成につながる剣道を身近なものとして分かりやすく講義します。
弓道:弓道は「礼に始まり礼に終わる」といわれ、射法と礼は一体のものとして考えています。姿勢や動作を学んで、自己の意思力や忍耐力、集中力を養うとともに人格の形成を目指します。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 剣道の概略(理念、歴史・文化、特性と道具等の説明並びに安全管理) | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 着装と基本動作(剣道着・袴・剣道具の装着方法とたたみ方、姿勢と礼法、構えと足さばき、素振りなど) | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 基本動作(打突:面、小手、胴打ち) | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 基本動作(打突:切り返し、引き払) | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 基本動作(打突:二・三段打ち) | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 対人技能(しかけ払、互格稽古) | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 対人技能(応じ払、互格稽古) | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | テスト、試合形式 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 弓道の概略、危険予防について | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 10 | 基本姿勢と作法について | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む |
| 11 | ゴム弓練習と近距離からの発射(弓矢発射の体験) | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | ゴム弓練習と近距離からの発射(手の内の作り方・頼付等) | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 近距離からの発射(詰合条件、伸合条件) | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | 中距離からの発射(各種の射癖とその予防・体配) | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | 射法の実技テストと評価。弓道についての筆記テストと評価 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |

| 講義名 | 4010046000 器械体操 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 小野　隆雄 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 技を習得するとともに安全に運動を実施することができる。
2. 器械運動の特性を理解し、授業を組み立てることができる。
3. 技の補助方法を習得し、個人の動き方に合った補助を実践できる。

## 授業概要(教育目的)

本実技は、器械運動の中のマット運動と跳び箱の2種目を展開する。基礎的導入としてマット運動で運動能力・空中感覚を養い、跳び箱に応用していく。自分自身の運動課題にしっかり取り組むことで、運動技術および補助方法・指導方法を習得すること、また仲間と協力して課題解決ができることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

レポート、実技試験および授業内における課題達成度を総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

自作テキスト

## 資格との関連

中学校教諭一種免許(保健体育)、高等学校教諭一種免許(保健体育)を取得希望者は必修科目。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
運動着・運動靴の指定はしないが、実技にふさわしい服装・身だしなみで出席すること。
※アクセサリー、土足厳禁

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ○器械体操に必要な能力について<br>・準備運動への取り入れ方<br><br>○自己の技能(マット・跳び箱)把握 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 2 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・小学校下学年用<br><br>○マット運動(回転系接点技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 3 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・小学校下学年用<br><br>○マット運動(回転系接点技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 4 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・小学校下学年用<br><br>○マット運動(回転系接点技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 5 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・小学校上学年用<br><br>○マット運動(回転系ほん転技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 6 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・小学校上学年用<br><br>○マット運動(回転系ほん転技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 7 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・小学校上学年用<br><br>○マット運動(回転系ほん転技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 8 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・中学・高校生用<br><br>○マット運動(側方回転系の技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 9 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・中学・高校生用<br><br>○マット運動(側方回転系の技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 10 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・中学・高校生用<br><br>○マット運動(側方回転系の技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 11 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・中学・高校生用<br><br>○跳び箱運動(切り返し系・回転系の技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 12 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・中学・高校生用<br><br>○跳び箱運動(切り返し系・回転系の技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 13 | ○器械体操に必要な感覚や技能を高める準備運動について<br>・折り返しリレーグループ競争(種目の選定・ルールの工夫)の考案・・中学・高校生用<br><br>○跳び箱運動(切り返し系・回転系の技)<br>・つまずきに対する補助の仕方や場の設定について | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 14 | 跳び箱・マット運動(演技発表の構成作り) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| 15 | 跳び箱・マット運動(演技発表・評価) | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業内容についてインターネットで調べる |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 講義名 | 4010047000 スキー | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

以下の事項を到達目標とする。
1. 各自の技量に応じた滑走を実践できる。
2. スキー・スノーボード滑走技術に関する理論のもとに基礎的な指導ができる。
3. 冬季の野外環境における教育の重要性を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本講義では冬季のシーズンスポーツとしてスキー・スノーボードを取り上げ、大自然の中でスキー・スノーボードに関する基礎的な知識や技術を学習する。この活動を通じ、自分自身がスキー・スノーボードを実践できることはもちろん、特に初心者に対する指導方法に関する知識及び実践する力を養うことを目的とする。また、生涯にわたり年齢・体力に応じたスキー、スノーボードの楽しみ方を養い生涯スポーツ選択の一助とすることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

講義への参加態度、基礎的なスキー、もしくはスノーボードでの滑走の技術とその指導方法の取得状況、実技の受講態度(スキー場でのマナー、宿泊施設での生活態度も含む)、課題レポートから総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

レポートの成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

公益財団法人全日本スキー連盟著『日本スキー教程』, 芸文社
公益財団法人全日本スキー連盟著『日本スノーボード教程』, 芸文社
公益財団法人全日本スキー連盟著『日本スキー教程　安全編』, 芸文社

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。

## 資格との関連

中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)取得のために必要な科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
教職課程履修者(保健体育)を対象とする。(当該年度において教職課程科目を履修し、単位を修得した実績があること。)
第1回～第3回は講義形式で行う。
第4回～第15回は安比高原スキー場にて実習形式で開講する予定である。
雪山で実技を行う特性上、学生個人でも最低限の安全管理を行う必要がある。特別な理由なく第1回～第3回の講義を欠席をした者は、実技中の安全管理について修得できていないため実技に参加できない。最終日に全日本スキー連盟公認スキーバッジテスト、スノーボードバッジテストをおこなう。
宿泊を伴う集中授業のため、コンディションを整えて参加すること。

【メッセージ】
東北地方の多くの小学校、中学校、高等学校においてスキーの授業が行われている。また、スノーボードも1990年代以降に急速に普及してきたため、授業が行われる学校も出てきている。将来、保健体育教員となった場合、授業で生徒を指導する可能性は高いため、学生には積極的に参加していただきたい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 講義:スキー・スノーボードの歴史 | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 2 | 2. 講義:スキー・スノーボード指導に必要な知識 | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 3 | 3. 講義:スキー場でのマナー | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 4 | 4. スキー・スノーボード用具の取り扱い方法 | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 5 | 5. 雪上での移動、停止 | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 6 | 6. 緩斜面での停止の連続 | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 7 | 7. 緩斜面でのターン | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 8 | 8. 緩斜面でのターンの連続 | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 9 | 9. ロングターン | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 10 | 10. ミドルターン | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 11 | 11. ショートターン | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。 |
| 12 | 12. 総合滑走 ①ターン弧の制御 | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 13 | 13. 総合滑走 ②リズムの制御 | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |
| 14 | 14. 総合滑走 ③斜面変化に応じたターン弧の制御 | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと。 |
| 15 | 15. スキー・スノーボードバッジテスト、総合滑走 ④ | ・授業内容についてインターネットで調べる。<br>・参考文献の関連個所を読む。 | ・授業の内容を整理し、不明な点があれば調べておくこと |

| 講義名 | 4010048000 スケート | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 田名部　和彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. スケート滑走することにより、他のスポーツにはないバランス感覚を身に付ける。
2. スケートの特徴を理解するとともに、スケート滑走技術を身に付ける。
3. スケート技術を身に付け、スケートの指導で何が重要であるかを理解する。

## 授業概要(教育目的)

スケート滑走は、他のスポーツにはない独特なバランス感覚が必要である。スケート滑走の技術は、氷上を体験することでしか学ぶことができない。特に、スケートのインエッジとアウトエッジの利用と体重移動だけで氷上を滑走できることはあまり知られていない。一般的にスケートは、氷を蹴って前進するように考えがちだが、重要なポイントは体重移動を正確に行うことだ。勿論、氷を蹴ることも必要だが、それ以上に体重移動とエッジの有効利用によって、スムーズな滑走となる。
講義では氷上において一つでも多く技術を修得し、スケートの指導で何が重要であるかを理解することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

スケート滑走の実技試験を行う。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

特になし

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
スケート靴は貸し靴の利用可能。
手袋・ヘルメット(無料貸し出し有り)を全員着用すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 基本滑走:氷上の安全対策 | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 2 | 基本滑走:氷上歩行・滑走① | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 3 | 基本滑走:氷上歩行・滑走② | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 4 | 基本滑走:ストレートの滑走 | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 5 | 基本滑走:コーナーの滑走 | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 6 | 基本滑走:右・左回りの滑走 | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 7 | 応用滑走:インエッジ滑走技術 | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 8 | 応用滑走:フラット滑走技術 | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 9 | 応用滑走:アウトエッジ滑走技術 | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 10 | 応用滑走:体重移動とスケーティング① | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 11 | 応用滑走:体重移動とスケーティング② | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 12 | 応用滑走:体重移動とスケーティング③ | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 13 | 実技試験:片足滑走 右足、左足 | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 14 | 実技試験:コーナーワーク 右回り、左回り | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |
| 15 | 実技試験:ストップダッシュスケーティング、バックスケーティング | 授業の内容についてインターネットで調べる | 授業の内容についてインターネットで調べる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010049000 栄養指導論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 佐藤　千恵子 | | |

## 学習目標(到達目標)

栄養とは、栄養素が体内で活用される過程をいう。そして、その栄養素は炭水化物、脂質、タンパク質、ビタミン、ミネラルの5つに分類され、5大栄養素と呼ばれる。これらについての基本的な知識は既に習得ずみであると考え、その知識を基に栄養についての具体的かつわかりやすいアドバイスや実際の献立作成などを学び、その上で相談者に対しての説明ができることを目指す。

## 授業概要(教育目的)

人間の一生という観点に立ち「生涯にわたる食」の必要性について学修するとともに、健康の維持増進を目的に生活習慣病予防をするためには、ライフステージ別の栄養指導が不可欠である。そこで個々に適した基本的なアドバイスや栄養指導ができるように授業展開していくことに努める。
まずは妊娠・授乳期に始まり、乳幼児期における食習慣の基礎作りや思春期の摂食障害、そして成人期にとっては重要課題である生活習慣病の予防。さらに高齢者の栄養指導の方法などについて学修する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけることが望ましい。

## 評価方法

受講態度や課題提出および定期試験(小テストを含む)等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題レポートおよび小テストは採点のうえ返却する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

「栄養指導論」 山本　茂・小松龍史編　講談社サインティフィク
「栄養指導論」 岡崎光子編　南江堂
やさしい栄養学　香川靖雄　女子栄養大学出版部

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。レジメを配布する予定。

## 資格との関連

食生活アドバイザー3級・2級資格取得
健康運動療法士

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
講義を履修することで、基本的な献立作成や栄養のアドバイスができるように学修すること。
講義で配布したレジメや資料はファイリングして、毎時間持参すること。
講義の際に電卓を使用することもあり。

## 実務との関連

栄養士として企業に勤務。栄養相談等の実務経験をもとに栄養指導についての講義を担当。
あおもり食育検定および食生活アドバイザー3級＆2級資格取得も視野にいれての履修が望ましい。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 私たちの食生活の現状について | 授業の内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 食生活の変遷について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 栄養指導の意義と重要性について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 妊娠期および授乳期の栄養指導について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 新生児期および乳児期の栄養指導について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 幼児期の栄養指導について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 学童期の栄養指導について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 思春期の栄養指導について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 成人期の栄養指導について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 高齢期の栄養指導について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 更年期の栄養指導について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 運動およびスポーツと休養について | 授業の内容を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 栄養指導の方法についてⅠ…献立作成① | 授業の内容および献立作成について整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 栄養指導の方法についてⅡ…献立作成② | 授業の内容および献立作成について整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 栄養指導の実践・カウンセリング | 授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを整理する |

| 講義名 | 4010050000 運動と栄養 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

栄養学の立場から、スポーツを科学的に指導できるように、知識やスキルを身につけてもらいたい。

## 授業概要(教育目的)

栄養学の基礎的な知識を固め、運動と栄養素の関わりや、運動時のエネルギー代謝等を理解し、スポーツ栄養の知識やスキルを修得する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

期末試験と課題提出により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

◎寺田新(著)『スポーツ栄養学 第2版：科学の基礎から「なぜ?」にこたえる』東京大学出版会(2024)

『スポーツ栄養学』樋口満 編著 市村出版
『スポーツと栄養と食品』伏木亨 編 朝倉書店
『運動と栄養と食品』伏木亨 編 朝倉書店
『スポーツ栄養学』鈴木志保子 著 ベースボールマガジン社

## 講義時使用テキスト

川野　因ら(編)「スポーツ栄養の食事計画ー理論と競技特性にあわせた実践ー」建帛社

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
「栄養学」「健康栄養学」を理解していることが基礎となる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 運動と栄養とは? | シラバス・テキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 身体組成と体脂肪・脂肪細胞の種類 | 授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | エネルギー消費量と摂取量 | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | 炭水化物・糖質1:エネルギー基質としての糖質 | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | 炭水化物・糖質2:パフォーマンスと健康のための主要栄養素摂取法 | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | 炭水化物・糖質3:炭水化物・糖質と健康、食物繊維と腸内細菌 | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | たんぱく質1:骨格筋とたんぱく質 | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | たんぱく質2:たんぱく質の摂取法 | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | たんぱく質3:たんぱく質摂取に関する最近の話題 | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | 脂質1:脂質に関する基礎知識、脂質摂取と健康 | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | 脂質2:運動と脂質代謝 | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | 脂質3:脂質摂取とパフォーマンス | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 運動中の水分摂取法とスポーツドリンクの効果 | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | パフォーマンス・健康とサプリメント | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | まとめ | 前回のノートを読み直す。授業の内容についてテキストを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010051000 スポーツバイオメカニクス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

各種スポーツ動作をバイオメカニクス的視点から捉え、合理的な運動のメカニズムについて説明できる。

## 授業概要(教育目的)

スポーツバイオメカニクスとは、力学・生理学・解剖学などの基礎知識を活用し、運動の仕組みをよりよく理解するための応用学である。本講義では、スポーツにおける様々な運動を取り上げ、その仕組みをバイオメカニクス的観点から解説する。
一部の講義においてはゲストティーチャーを招聘し、実現場の活動を例に講義を実施する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

期末試験を重視するが、平常時のリアクションペーパーやレポート課題等を総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

講義成績(授業ごとのレポート、小テスト)を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

『スポーツバイオメカニクス入門　第3版』　金子公宥　著　杏林書店
『スポーツバイオメカニクス20項』阿江通良・藤井範久　著　朝倉書店

## 講義時使用テキスト

特にテキストは定めない。講義資料は必要に応じて配布する。

## 資格との関連

JATI取得のための必修科目である。

## 学生へのメッセージ

全講義出席を基本とし、1/3以上欠席した場合は単位未修得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | スポーツバイオメカニクスとは | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 2 | エンジンとしての筋 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 3 | 運動と力学の法則 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 4 | 並進運動と回転運動 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 5 | キネマティクスとキネティクス | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 6 | 姿勢保持のバイオメカニクス | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 7 | 「歩く」「走る」のバイオメカニクス | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 8 | 「跳ぶ」のバイオメカニクス | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 9 | 「投げる」「打つ」のバイオメカニクス | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 10 | 「蹴る」のバイオメカニクス | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 11 | 「泳ぐ」「滑る」のバイオメカニクス | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 12 | 運動における力学的エネルギー・仕事・パワー | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 13 | 関節トルクと関節パワー | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 14 | 動作分析の手順①(動作分析の測定) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 15 | 動作分析の手順②(分析方法) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |

| 講義名 | 4010052000 トレーニング総論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 有光　琢磨 | | |

## 学習目標(到達目標)

本講義は、以下に記した項目を到達目標としています。

1. 基礎的な知識(解剖学、スポーツバイオメカニクス、運動生理学、栄養学、心理学、医学、コーチング)を理解し、それぞれの知識の関連性を説明することができる。
2. 各種トレーニング法(レジスタンストレーニング、パワートレーニング、持久力トレーニング、スピードトレーニング、柔軟性向上トレーニング)、ウォーミングアップ・クールダウン・リカバリー法について基本的な指導ができる。
3. 生活習慣病、傷害の受傷から復帰、特別な対象のための基本的なトレーニング指導ができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義では、スポーツ選手だけでなく、一般人を対象としたトレーニング指導の専門家を目指す場合に必要となる基礎的な知識や各種トレーニングの指導方法について学びます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

評価の前提条件は、「出席」です。

ただし、全15回出席しても「可(60点以上)」が確約されません。
全15回の授業回の1/3(5回)以上の無断欠席・理由なき欠席の場合、成績評価を実施出来ません。

■　5回以上の理由なき欠席は、「欠席」となります。
■　講義への参加態度(質問への受け答えなど)を点数化します。
■　提出課題・レポート、小テストの成績を点数化します。
これらを総合的に評価します。

## 課題に対するフィードバック

【フィードバック方法】

■　個別対応とする
　課題・レポート、小テストの成績を知りたい学生には、問い合わせがあった後に個別に開示する

## 講義時使用テキスト

※科目開講時の受講環境変更等により、講義スタイルや最終評価法など下記異なる場合も含めて作成しています。

■　日本トレーニング指導者協会(編)大修館書店
　『トレーニング指導者テキスト3訂版(実践編)』
　『トレーニング指導者認定試験(一般・専門)模擬問題集 3訂版』

【参考テキスト】
■　平山邦明(編)文光堂
　『アスレティックパフォーマンス向上のためのトレーニングとリカバリーの科学的基礎』

## 参考文献

必要に応じて紹介します。

## 資格との関連

本科目は、日本トレーニング指導者協会が認定する資格を取得するために必要な科目となります。本科目を含めて指定されている科目を履修し単位を取得した後、認定試験に合格した場合、JATI認定トレーニング指導者資格(JATI-ATI)を取得することが出来ます。認定試験に不合格であった場合でも希望者にはJATI資格保有者のトレーニング指導の補助を行うことができる「補トレーニング指導者(JATI-ASATI)」が付与されます。

## 実務との関連

■　トレーニング指導者資格(JATI-ATI)：対応科目

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】本科目の履修希望を望する学生は、下記が求められます。

■　日本トレーニング指導者協会(JATI)認定資格取得を目指す学生が対象となります。
■　JATIトレーニング指導者資格に合格するためには、講義以外でも試験対策の学習を自主的に行うことが求められます。
■　実技は、体育館、人工芝、トレーニングセンターを使用します。運動出来る服装、靴以外での履修は認められません。実技回の前に再度案内します。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | トレーニング指導者の役割 | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 2 | トレーニング指導者の実務 | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 3 | 測定と評価-トレーニング効果の測定と評価- | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 4 | 長期的トレーニング計画 | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 5 | レジスタンストレーニング | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 6 | パワートレーニング | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 7 | 持久力トレーニング | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 8 | スピードトレーニング | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 9 | 柔軟性向上トレーニング及びウォーミングアップ、クールダウン、リカバリー | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 10 | 生活習慣病、傷害の受傷から復帰までのトレーニングプログラム | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 11 | レジスタンストレーニングの実技と指導法 | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 12 | パワートレーニングの実技と指導法 | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 13 | スピードトレーニングの実技と指導法 | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 14 | 持久力トレーニングの実技と指導法 | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |
| 15 | ウォームアップと柔軟性トレーニング、その他のトレーニング実技と指導法 | テキストの該当部分を読み、概要を理解する | 要点を小レポートにまとめる |

| 講義名 | 4010053000 スポーツ心理学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 粟木　一博 | | |

## 学習目標(到達目標)

スポーツ心理学に関わる基礎的な知識を身につけるとともに、スポーツについて客観的に考える態度を身につけることを目標とする。

## 授業概要(教育目的)

スポーツ心理学は、人のスポーツ活動に対して心理学的な視点から考える学問であるが、自然科学的な分野から人文社会科学的なものまで、その研究はさまざまな領域にわたっている。この授業では、スポーツ心理学の主な領域における知見を紹介し、それを通してスポーツにかかわる人の行動について基本的なことを理解してもらうことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

期末試験の結果(90%)と授業態度(10%)によって成績を決定する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

受講生の興味関心に応じて個別に紹介する。

## 講義時使用テキスト

教科書の指定はありません。必要に応じてプリントを配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

話を聞くだけでなく、自分で考えてみる態度を持とう。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | スポーツ心理学とは | シラバスをよく読み授業の概要や学習の目標を理解すること | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 2 | スポーツ心理学と動機づけ | 動機づけややる気について知っていることを整理すること | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 3 | スポーツ技能の分類 | スポーツの技能にはどのようなものがあるか自分なりにまとめてみること | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 4 | スポーツ技能の習得 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 5 | メンタルトレーニング | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 6 | スポーツ場面でのあがり | 「あがり」に関する自分自身の経験を発表できるようにする | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 7 | スポーツの作戦と戦術 | 自分のスポーツ経験で作戦や戦術にはどのようなものがあったかをまとめる | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 8 | スポーツ場面での状況判断 | 自分のスポーツ経験で状況判断が求められる場面を考えておく | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 9 | スポーツ集団 | 自分なりの"スポーツ集団"の定義づけをしておく | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 指導者とリーダーシップ | リーダーシップ理論の研究の歴史を自分なりにまとめておく | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 11 | スポーツと健康 | 健康づくりに何故スポーツが関与するのかについてまとめておく | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 12 | スポーツの楽しみ | スポーツが楽しいのは何故かその要因をまとめておく | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 13 | スポーツファンの心理 | 自分の好きなスポーツと何故そのスポーツが好きなのかを詳しく考えておく | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 14 | スポーツとマスコミ | スポーツを取り上げるメディアにはどのような種類があり、どのような特徴があるかをまとめる | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 15 | スポーツと文化 | スポーツの価値とは何かを自分なりに考えておく | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010054000 養護概説 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.養護教諭の歴史と求められている役割について、要点を説明できる。
2.学校保健における養護教諭の職務内容について、要点を説明できる。
3.子どもの現代的な健康課題について、要点を説明できる。
4.養護教諭の活動に必要な保健教育、保健管理、保健組織活動について、要点を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

学校保健における養護教諭の職務と役割を理解し、学校保健活動の中核的役割を遂行していくための専門的能力の基礎を身につける。講義の他、グループワーク、課題発表・質疑の機会を設ける。また、「生命の安全教育」の一環として、ゲストティーチャー(八戸市人権擁護委員)の講義を設ける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

特に、「②医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている」に関連する。

## 評価方法

課題レポート、定期試験(筆記試験)により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

確認テストはその場で回答する。授業最後に質問を受ける。

## 参考文献

そのつど教員が紹介する

## 講義時使用テキスト

采女智津恵編:新養護概説、第13版、少年写真新聞社、2024年3月

## 資格との関連

養護教諭1種免許取得のための必修科目である。

## 学生へのメッセージ

1. 毎回、授業終了時に確認テストを行う
2. 健康に関わる生活習慣と実践を心掛け、児童・生徒の発達に応じた健康対策について日頃から考えてほしい。
3. 学校における児童問題・健康問題・学校教育問題のニュースに目を通し、新聞記事・本等を読むことで、児童が置かれている状況に目を向けてほしい。

## 実務との関連

看護師、看護教員として総合病院・看護師養成機関に勤務した。医療・看護基礎教育における実務経験をもとに、養護教諭の役割遂行に必要な知識・考え方について話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学校教育と学校保健<br>養護教諭の 歴史 | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 2 | 養護教諭の職務 | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 3 | 保健管理① | 教科書の 中からテーマに 関連があるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 4 | 保健管理② | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 5 | 健康相談および保健指導 | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 6 | ゲストティーチャーによる講義「デートDV」 | 「生命の 安全教育」について 調べる | 授業で 学んだことを レポートして 提出する。 |
| 7 | 保健教育 | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 8 | 保健室経営 | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 9 | 保健組織活動 | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 10 | 子どもの現代的な健康課題と対応 | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 11 | 子どもの精神保健① | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 12 | 子どもの精神保健② | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 13 | 学校安全と危機管理 | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 授業終了時の 確認テストを 通して 要点を 確認する。 |
| 14 | 教科保健の学習指導案① 一部作成 | 教科書の 中からテーマに 関係あるところを 読んでおくこと | 教科書から 学習指導案作成の 要点を 確認する。 |
| 15 | 教科保健の学習指導案② 発表 | 教科書から 学習指導案作成の 要点を 確認する | 各自の 考えを 共有するとともに 参考にする点を 見出す 機会とする。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010055000 看護学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 看護の目的・対象・内容・場について要点を説明できる。
2. 看護および養護に必要とされる倫理について要点を説明できる。
3. 看護および養護の活動過程について要点を説明できる。
4. 養護診断に使う技術について要点を説明できる。
5. 子供に多い急性期症状の理解と援助について要点を説明できる。
6. 子供に多い慢性疾患の理解と援助について要点を説明できる。
7. 医療的ケア児の援助について要点を説明できる。
8. 災害時における学校看護について要点を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

養護教諭は、児童生徒の健康を保持増進するための役割を担い、さまざまな健康問題・課題に対応できる能力が求められている。
本科目では、看護の概念、看護および養護の活動過程、養護診断に使う技術、子どもに多い急性期症状や慢性疾患と援助、医療的ケア児の援助、災害時の学校看護など、学校現場でのケアニーズに対応するための看護の基礎的知識・技術を学習する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験や小テスト、授業中の発言等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題及び確認テストについて、重要ポイントを説明する。

## 参考文献

随時、紹介する。

## 講義時使用テキスト

近藤　伸子他：養護教諭、看護師、保健師のための新版　学校看護－すべての子供の健康実現を目指して－、東山書房

## 資格との関連

看護教諭の資格取得必修科目である。

## 学生へのメッセージ

1. 本科目の単位を取得しなければ次年度の「看護技術演習」「看護実践論」「看護学臨床実習Ⅰ」「看護学臨床実習Ⅱ」を履修することはできない。
2. 本科目との関連性が深い「救急処置」「解剖学・生理学Ⅰ」「解剖学・生理学Ⅱ」「医学一般」「医学一般Ⅱ」の理解を深めること。

## 実務との関連

看護職としての医療機関および看護基礎教育での経験を基に、実践的な学校看護についての授業を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 看護の概念 | テキストの該当部分を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 看護職の活動の場<br>看護および養護における倫理 | 前回の授業の内容を整理し、要点を確認する。 | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 学校看護技術① | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 学校看護技術② | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | フィジカルアセスメント① | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | フィジカルアセスメント② | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 急性期にある子どもと家族の理解と援助① | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 急性期にある子どもと家族の理解と援助② | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 慢性疾患のある子供と家族の理解と援助①心疾患 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 慢性疾患のある子供と家族の理解と援助②糖尿病 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 慢性疾患のある子供と家族の理解と援助③腎疾患、悪性新生物 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 慢性疾患のある子供と家族の理解と援助④てんかん他 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 慢性疾患のある子供と家族の理解と援助⑤アレルギー疾患 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 医療的ケア児の援助 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 災害看護 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 配布資料とノートを読み直す |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010056000 栄養学（食品学を含む） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・ヒトが発育・成長して生命を維持し、健康な生命活動を営むための栄養を説明できる。
・種々の栄養素の働きとエネルギー代謝を説明できる。
・消化吸収された栄養素の体内での代謝を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

栄養とは生物が外界から食物を摂取し、消化・吸収して自己に適した物質に変換して蓄え、必要に応じて代謝しエネルギーに変換して生命を維持し活動を行う現象である。食品や食事の面から栄養を研究する学問が栄養学である。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

受講態度と定期試験を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

1. 田地陽一　編、「栄養科学イラストレイテッド(演習版)基礎栄養学ノート(第5版)」 羊土社
2. 三輪一智　他著、系統看護学講座専門基礎分野　生化学　人体の構造と機能[2](医学書院)
3. 小野章史　他著、系統看護学講座専門基礎分野　栄養学　人体の構造と機能[3](医学書院)

## 講義時使用テキスト

田地陽一　編、「栄養科学イラストレイテッド　基礎栄養学(第5版)」 羊土社

## 資格との関連

教員免許状取得
保健コース
養護教諭コース
には必須科目

## 学生へのメッセージ

栄養素の基礎知識、体内での代謝について理解を深めたい方は、履修することをお勧めします。
予習復習のために「栄養科学イラストレイテッド(演習版)基礎栄養学ノート(第5版)」を活用されることをお勧めします。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 栄養と栄養素 | 栄養学の栄養と日常使う栄養という言葉の違いを調べる。 | 栄養学の観点から，栄養と栄養素を整理する。 |
| 2 | 食品の栄養素(糖質) | 糖質について参考文献の関連個所を読む。 | 生体内の糖質の役割を整理する。 |
| 3 | 食品の栄養素(脂質) | 脂質について参考文献の関連個所を読む。 | 生体内の脂質の役割を整理する。 |
| 4 | 食品の栄養素(アミノ酸) | アミノ酸について参考文献の関連個所を読む。 | 生体内のアミノ酸の役割を整理する。 |
| 5 | 食品の栄養素(タンパク質の構造と機能) | タンパク質の構造と機能ついて参考文献の関連個所を読む。 | 生体内のタンパク質の役割を整理する。 |
| 6 | 酵素 | 酵素の構造と機能ついて参考文献の関連個所を読む。 | 代謝における酵素の役割を整理する。 |
| 7 | 食品の栄養素(ビタミン) | ビタミンの種類と生理作用を調べる。 | 微量で物質代謝の維持に大切なビタミンを整理する。 |
| 8 | 食品の栄養素(ミネラル) | 生体内のミネラルの種類と生理的機能を調べる。 | 生体内のミネラルの生理的機能を整理する。 |
| 9 | 栄養素の消化・吸収 | 解剖学の消化器を読む。 | 栄養素ごとの消化・吸収を整理する。 |
| 10 | エネルギー代謝 | 健全な生命活動を営むために必要なエネルギー源になる栄養素について、参考文献の関連個所を読む。 | 生体のエネルギー獲得とその変化について参考文献の関連個所を読む。 |
| 11 | 糖質の代謝 | 糖質代謝について参考文献の関連個所を読む。 | 消化・吸収された糖質の代謝を整理する。 |
| 12 | 脂質の代謝 | 脂質代謝について参考文献の関連個所を読む。 | 消化・吸収された脂質の代謝を整理する。 |
| 13 | タンパク質の代謝 | タンパク質代謝について参考文献の関連個所を読む。 | 消化・吸収されたタンパク質の代謝を整理する。 |
| 14 | 健康と栄養 | 食生活の変遷と栄養の問題点を調べる。 | 食を通して生活の質と社会環境の質の向上の大切さを整理する。 |
| 15 | 代謝の異常(代謝性疾患) | 食事・運動・飲酒・喫煙などの生活習慣と代謝生疾患の関連について調べる。 | 病態の改善や疾病の良好なコントロールを計るため、全身の栄養状態を改善する重要性を整理する。 |

| 講義名 | 4010057000 微生物学（人間健康学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 微生物の種類・構造など特性について説明できる。
2. 滅菌、消毒についてそれぞれの手法の違いについて説明できる。
3. 微生物の感染・伝播について理解し、説明できる。

## 授業概要(教育目的)

微生物学全般、特に感染症を引き起こす微生物の基礎知識を習得し、微生物と疾患との結びつきに関して理解を深めることを目的とする。
微生物の基礎知識を理解し、微生物と宿主の相互関係として現れる感染症の成立過程、そこに関与する環境因子、感染予防、感染防御機構について、微生物の産業利用についてなど講義する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

期末試験、課題提出などから評価する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

【1】『感染制御の基本がわかる　微生物学・免疫学』羊土社

## 講義時使用テキスト

『病気がみえる＜vol.6＞ 免疫・膠原病・感染症(Medical Disease：An Illustrated Reference)』メディックメディア

【2】『系統看護学講座　専門基礎分野　微生物学　疾病の成り立ちと回復の促進4』医学書院

【3】『イラストでわかる　微生物学超入門　病原微生物の感染のしくみ』南山堂

【4】『休み時間の微生物学　第2版』講談社

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

適宜プリントを配布し、課題も出す。
課題に取り組むことで講義内容についてさらに理解を深めることになるため、コツコツと取り組むこと。
不明な用語などは教科書やインターネットを利用し、理解すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 微生物概論(1) | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 2 | 微生物概論(2) | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 3 | 感染と感染症 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 4 | 微生物の 種類と分類(1)寄生虫 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 5 | 微生物の 種類と分類(2)真菌 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 6 | 微生物の 種類と分類(3)細菌(1)細菌の 構造と分類 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 7 | 微生物の 種類と分類(3)細菌(2)抗菌薬 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 8 | 微生物の 種類と分類(3)細菌(3)グラム陽性菌 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 9 | 微生物の 種類と分類(3)細菌(4)グラム陰性菌 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 10 | 微生物の 種類と分類(3)細菌(5)嫌気性菌 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 11 | 微生物の 種類と分類(3)細菌(6)抗酸菌・非定型細菌 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 12 | 外部講師(ゲストティーチャー)による講演 | これまで 学んだ 内容を 復習する。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 13 | 微生物の 種類と分類(4)ウイルス(1)ウイルスの 構造・種類 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 14 | 微生物の 種類と分類(4)ウイルス(2)ウイルスと感染症 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |
| 15 | 微生物と健康および産業利用 | テキストを 読む。 | 配布したプリント、教科書を 読み 整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010058000 免疫学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 井元　紀子 | | |

## 学習目標(到達目標)

①免疫系の構成因子の役割について説明できる。
②免疫応答の一連の流れについて説明できる。
③食物アレルギーについて理解する。

## 授業概要(教育目的)

免疫学の基礎的な原理と生物学的意義を理解するとともに、生体の免疫機能が健康を維持する上でどのように役立っているかを学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

期末試験、課題提出などから評価する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

・『感染制御の基本がわかる　微生物学・免疫学』羊土社
・齋藤紀先『休み時間の免疫学　第3版』講談社
・日本食品免疫学会編集『食品免疫・アレルギーの事典』朝倉書店
・日本免疫学会編集『からだをまもる免疫のふしぎ』羊土社

## 講義時使用テキスト

『病気がみえる＜vol.6＞ 免疫・膠原病・感染症(Medical Disease：An Illustrated Reference)』メディックメディア；第2版

## 資格との関連

健康科学コース　教育職プログラム(養護・保健)(看護)

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
2年次秋セメスター「微生物学」を履修していることが望ましい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 免疫の概念と免疫系(1)免疫系の構成因子 | テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 2 | 免疫の概念と免疫系(2)顆粒球・単球・マクロファージ・マスト細胞・樹状細胞 | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 3 | 免疫の概念と免疫系(3)リンパ球・抗体・補体・サイトカイン | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 4 | 免疫の概念と免疫系(4)リンパ組織、生体防御機構の全体像 | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 5 | 自然免疫(1)メカニズム | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 6 | 自然免疫(2)炎症の仕組みと意義 | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 7 | 獲得免疫(1)獲得免疫とは | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 8 | 獲得免疫(2)抗原提示とMHCの2つのクラス、抗原認識 | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 9 | 獲得免疫(3)液性免疫、抗体 | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 10 | 補体系：補体の役割 | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 11 | 細胞性免疫 | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 12 | アレルギー(1) | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 13 | アレルギー(2) | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 14 | アレルギー(3) | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。<br>課題のレポートを作成する。 |
| 15 | 予防接種 | 前回の授業の内容を整理し、配布資料、ノートを読み直す。<br>テキストの該当箇所を読む。 | テキスト・配布資料・ノートを読み直す。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010059000 健康相談活動の理論および方法 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 片岡　千帆子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　児童生徒の抱える現代的健康課題とは何かを説明できる。
2　健康相談活動のプロセスと進め方、健康相談活動を支える理論と技法について説明できる。
3　健康相談活動における養護教諭の職務の特質と保健室の機能について説明できる。
4　健康相談活動と、集団・個別の保健指導の関連について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

児童生徒の抱える現代的健康課題を理解し、養護教諭の職務の特質や保健室の機能を生かした健康相談活動を進めていくための理論と技法を学習する。さらにグループワークによるディスカッションやロールプレイング等を用いた演習を行い、体験的、実践的に理解を深める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

筆記試験・課題提出・授業での活動状況等を総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)は採点の上返却する。

## 参考文献

日本健康相談活動学会編　健康相談活動学～実践から理論そして学問へ～　日本健康相談活動学会
養護教諭のための診断学＜内科編＞　東山書房
養護教諭のための診断学＜外科編＞　東山書房
教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引き　公益財団法人　日本学校保健会

## 講義時使用テキスト

三木とみ子・徳山美智子編　養護教諭が行う健康相談・健康相談活動の理論と実際(第5次改訂)　ぎょうせい

## 資格との関連

養護教諭一種免許状取得希望者は必修

## 学生へのメッセージ

健康相談活動は、養護教諭の職務の特質および保健室の機能を生かし、児童生徒の様々な訴えに対して心的要因や背景を踏まえ、心と体の両面から対応する養護教諭固有の活動である。本授業では、健康相談活動が重要視されるようになった背景を踏まえ、その理論およびプロセス、方法を学ぶ。ロールプレイング等の演習では、心、体の動きや変化を体験できる。相互交流し考察を深められるよう、積極的な参加が望ましい。

## 実務との関連

小・中学校での養護教諭経験を生かし、多様化、複雑化している健康課題や相談事例を取り上げながらの授業展開を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ・オリエンテーション(本授業の概要と授業形態及び成績・評価の観点等の説明)<br>・健康相談活動の基本的理解①<br>(学校における健康相談活動・健康相談の法的根拠) | テキスト第1章、第2章を読む | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 健康相談活動の基本的理解②<br>(健康相談活動を支える諸理論及び技法) | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 健康相談活動の基本的理解③<br>(心身医学、精神医学の基礎知識) | テキストの該当箇所を読む | リフレクションペーパーの記入を行う<br>テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 健康相談活動の基本的理解④<br>(健康相談活動に生かすカウンセリング)＊グループワークによる技法の体験 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 健康相談活動の進め方①<br>(健康相談活動のプロセスとその対応の基本) | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 健康相談活動の進め方②<br>(健康相談活動の成り立ち) | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 健康相談活動の実践効果を支える視点①<br>(養護教諭の職務の特質と保健室の機能)＊グループでのロールプレイング | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 健康相談活動の実践効果を支える視点②<br>(ヘルスアセスメント、カウンセリング知識と技術)＊グループでのロールプレイング | テキストの該当箇所を読む | リフレクションペーパーの記入を行う<br>テキストの該当箇所を読む |
| 9 | 健康相談活動からつなぐ保健指導の基本と進め方①<br>(保健指導の進め方) | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 健康相談活動からつなぐ保健指導の基本と進め方②<br>(心の健康教育、非常災害時における保健指導の進め方) | 授業内容についてインターネットで調べる | 個別保健指導について資料の作成 |
| 11 | ・健康相談活動と連携<br>・個別保健指導について資料のプレゼンテーション実施 | テキストの該当箇所を読む | リフレクションペーパーの記入を行う<br>テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 健康相談活動の対応例①<br>(日常の健康相談活動、不登校・保健室登校に対する指導、支援) | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 健康相談活動の対応例②<br>(事例検討)＊グループでのロールプレイング | 事例に基づき、対応のあり方を検討しまとめておく<br>テキストの該当箇所を読む | リフレクションペーパーの記入を行う<br>テキストの該当箇所を読む |
| 14 | 健康相談活動の記録と事例研究 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 15 | ・健康相談活動の実践力向上のあり方<br>・理解度の確認 | 理解度確認のための資料を読む<br>テキストの該当箇所を読む | リフレクションペーパーの記入を行う |

| 講義名 | 4010060000 学校保健（学校安全を含む） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 向田　菜都子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1　学校保健の意義、構造、関連法規について理解し説明できる
2　児童生徒の現代的な健康課題とその解決に向けた支援方法について説明できる
3　学校保健推進のための組織活動を理解し説明できる

## 授業概要(教育目的)

学校保健は、「学校における保健教育及び保健管理」とされており、児童生徒等の健康の保持増進を図ること、学校教育活動に必要な健康や安全への配慮を行い計画実践ができること、自己や他者の健康の保持増進を図ることができるような能力を育成することを目指して行われる教育活動である。本講義では、学校保健の意義、関連法規と組織を理解し、保健管理、保健教育、組織活動等の学校保健活動の基礎知識を習得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験に小テスト・提出課題の内容を加味して評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験(小テスト)は採点の上返却する。
試験(レポート)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

①新学校保健実務必携　第6版　第一法規
②学校保健ハンドブック　第8次改訂　ぎょうせい

## 講義時使用テキスト

学校保健　第2版　ミネルヴァ書房

## 資格との関連

中学校教諭一種免許状(保健、保健体育)、高等学校教諭一種免許状(保健、保健体育)、養護教諭一種免許状取得希望者は必修

## 学生へのメッセージ

講義を聞くことや授業で行う活動等を通じて学校保健の基礎・基本を学び、教職員としての土台作りを目指したい。

## 実務との関連

養護教諭として青森県内小学校に勤務経験あり。理論に実務経験を織り交ぜ講義を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>学校保健の意義・目的と概要(領域構造、関連法規) | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 学校保健行政と学校教育・学校保健組織活動 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | 学校保健計画・学校安全計画、保健室経営 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | 保健教育①　教科「体育科」および「保健体育科」における保健教育 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | 保健教育②　学校教育活動全体を通して行う保健教育<br>小テスト | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | 健康診断 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | 発育・発達 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | 学校生活で特に注意すべき子どもの病気 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | 健康相談および個別の保健指導 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | こころの健康問題<br>小テスト | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | 特別支援教育と学校保健 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | 学校における感染症の予防と対策(健康観察含む)／学校環境衛生 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 学校安全と学校危機管理 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | 学校給食・食育 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | 学校保健のまとめ　これからの学校保健<br>小テスト<br>授業のレポート作成 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |

| 講義名 | 4010061000 救急処置（実習を含む） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 宮澤　君子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 児童・生徒の健康管理及び学校現場で必要とされる救急処置の目的を説明できる。
2. 傷病が発生した場合に、緊急度・重症度の判断について説明できる。
3. 傷病が発生した場合に、それぞれの症状や外傷に合わせた救急処置ができる基礎的能力を身につける。
4. 救命処置の手順を理解し、手順に沿って実践できる。

## 授業概要(教育目的)

養護教諭及び保健体育教諭の活動の場面では、健康状態の観察や偶発的な事故等によって引き起こされる身体的・精神的・社会的に変化をしている児童・生徒への対応が常に求められている。
そのため、養護教諭及び保健体育教諭が関わる児童・生徒に比較的多い症状、偶発的事故、感染症対策などの知識及び技術を習得する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験・実技・レポートにより総合的に判断する。
心肺蘇生法及びAEDについては実践できる必要があるため、普通救命講習は必ず受講すること。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要時プリントを配布する。

## 参考文献

1. 加藤啓一監修：養護教諭のための救急処置　第3版、少年写真新聞社
2. 大谷尚子他編著：養護教諭のためのフィジカルアセスメント　改訂第4版、日本小児医事出版社
3. 大谷尚子他編著：養護教諭のためのフィジカルアセスメント2、日本小児医事出版社
4. 三上剛彦編集：もしもの時に必ず役立つ！緊急・応急処置Q&A　第2版、日本看護協会出版会

## 資格との関連

教職課程履修者及びトレーニング指導者資格を目指す学生は必須である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
普通救命講習は2コマ続きで行われることがある。その際の曜日、時間等は講義の中で連絡する。出席しなければ単位として認められない。
受講用テキストおよびフェイスシールドの代金を徴収する(270円程度)。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 学校教育での安全管理・危機管理 | 救急処置とはについて調べる | 配布資料を読み直す |
| 2 | 健康状態の観察とバイタルサイン | 体温、脈拍、呼吸、意識レベルについて調べる | 配布資料を読み直す |
| 3 | バイタルサインおよび記録・報告(実習)<br>手当の基本①(体位、電法、搬送法) | 前回の講義の内容を整理し、異常値を判断できるようにする | 配布資料を読み直す |
| 4 | 内科的な救急処置①(発熱、頭痛、腹痛など) | 発熱、頭痛、腹痛について調べる | 配布資料を読み直す |
| 5 | 内科的な救急処置②(けいれん性疾患、脳貧血、熱中症など) | 脳貧血、けいれん、熱中症について調べる | 配布資料を読み直す |
| 6 | 内科的な救急処置③(ショック、アナフィラキシー、エピペン) | ショック、アナフィラキシーについて調べる | 配布資料を読み直す |
| 7 | 手当の基本②(RICE処置、止血法、湿潤療法、包帯法、固定法) | 血液循環、皮膚の構造について調べる | 配布資料を読み直す<br>たたみ三角巾の作り方および三角巾の結び方と解き方をやってみる |
| 8 | 演習：三角巾を活用した包帯法の行い方 | たたみ三角巾の作り方および三角巾の結び方と解き方をできるようにする | 配布資料を読み直す<br>実習したことをやってみる |
| 9 | 演習：巻軸帯による包帯法 | 包帯の目的および実施上の注意点を確認しておく | 配布資料を読み直し、実習したことをやってみる |
| 10 | 外科的な救急処置①(擦り傷、切り傷、刺し傷など) | 皮膚の解剖・生理について調べる | 配布資料を読み直す |
| 11 | 外科的な救急処置②(捻挫、骨折、脱臼、打撲、突き指など) | 骨・関節の解剖・生理について調べる | 配布資料を読み直す |
| 12 | 外科的な救急処置③(熱傷、頭部外傷など) | 皮膚や骨・関節について調べたことを読み直す | 配布資料を読み直す |
| 13 | 外科的な救急処置④(目・耳・鼻・歯・口のけが) | 目、耳、鼻、歯の解剖・生理について調べる | 配布資料を読み直す |
| 14 | 普通救命講習 ①(心肺蘇生法) | 心肺蘇生法について調べる | テキストの実習したところを読み直す |
| 15 | 普通救命講習 ②(AED) | AEDの使用について調べる | テキストの実習したところを読み直す |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010062001 看護実践論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 看護における観察・記録・報告の意義・方法について、要点を説明できる。
2. コミュニケーションの成立過程、患者-看護者間の効果的なコミュニケーションについて、要点を説明できる。
3. 医療事故が起こる原因、医療機関における事故防止の取り組み、看護者に求められる行動・倫理について、要点を説明できる。
4. 適切な病床環境について、要点を説明できる。
5. 看護過程の意義、看護過程の各段階について要点を説明できる。
6. 患者が安全・安楽に診察・検査を受けるための援助、検体の取扱いについて、要点を説明できる。
7. 効果的な与薬を行うための看護者の役割、薬物の保管について、要点を説明できる。
8. 一次救命処置の目的・手順、アナフィラキシーへの対応について、要点を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本科目は、看護を実施するうえで必要な基礎的知識や考え方、態度を身に付けることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

課題提出、講義中の発言、定期試験等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

テキスト各章の「自己学習ノート」「確認テスト」実施後、重要ポイントを解説する。

## 参考文献

「改訂5版　応急手当講習テキスト」 救急振興財団

## 講義時使用テキスト

1. 山口端穂子監修：看護技術講義演習ノート　第二版　上巻、サイオ出版
2. 山口端穂子監修：看護技術講義演習ノート　第二版　下巻、サイオ出版

## 資格との関連

養護教諭の資格取得の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

1. 本科目を履修するためには、「看護学」「救急処置」の単位を取得していることが必要である。
2. 本科目の単位を取得していなければ、「看護学臨床実習Ⅰ」「看護学臨床実習Ⅱ」を履修できない。
3. 出席時間数が3分の2に満たない者は、原則として試験を受けることができない。
4. 看護学臨床実習Ⅰ・看護学臨床実習Ⅱ、養護実習に直結する内容なので、確実な知識と態度を付けるように意欲的に取り組んでほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>観察・記録・報告①　基礎知識 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する。 |
| 2 | 観察・記録・報告②　バイタルサイン | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 3 | 観察・記録・報告③　フィジカルアセスメント | 演習課題の資料を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 4 | 観察・記録・報告④　記録・報告 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 5 | コミュニケーション①　基礎知識 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 6 | コミュニケーション②　演習 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 7 | 安全を守る守る技術① | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 8 | 安全を守る守る技術② | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 9 | 病床環境の援助 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 10 | 看護倫理 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 11 | 看護過程①　基礎知識 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 12 | 看護過程②　演習 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 13 | 診察・検査　基礎知識 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 14 | 救命・救急処置技術　基礎知識 | 「応急手当講習テキスト」の81応急手当の基礎知識、82 救命処置 を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |
| 15 | 与薬　　基礎知識 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当部分の「自己学習ノート」「確認テスト」を実施する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010062002 | 看護技術演習 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.感染予防のための基本的な技術を学び、無菌操作を一部実施できる。
2.創傷の治癒を促進させる基本的な技術を学び、ドレッシング材による創傷処置を一部実施できる。
3.呼吸、循環、体温の変動要因・正常・異常を学び、バイタルサインを測定できる。
4.身体計測、視診、触診、打診、聴診の方法を学び、一部実施できる。
5.呼吸・循環の維持に関する基本的な技術を学び、酸素吸入療法、吸引(口腔、鼻腔)の援助について注意点を説明できる。
6.病床の環境を整えるための基本的な技術を学び、ベッドメーキングの実施、リネン交換の一部実施ができる
7.姿勢・活動・運動・休息の援助の基本的な技術を学び、一部実施できる。
8.食事制限や食事摂取機能の障害が対象に及ぼす影響を学び、食事介助を一部実施できる。
9.排泄障害が対象に及ぼす影響を学び、便器・尿器使用時の援助、オムツ交換を一部実施できる。
10.対象の状態に合わせた清潔・衣類に関する基本的な技術を学び、一部実施できる
11.与薬に関する原理・原則をふまえて、座薬挿入の方法・注意点を説明できる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

課題提出、授業中の取り組み、定期試験等により総合的に評価する。

## 講義時使用テキスト

1. 山口端穂子監修:看護技術講義演習ノート　第二版　上巻、サイオ出版
2. 山口端穂子監修:看護技術講義演習ノート　第二版　下巻、サイオ出版

## 資格との関連

養護教諭一種免許状の必修科目である。

## 実務との関連

## 授業概要(教育目的)

看護技術は看護を実施するうえで最も基本となるものである。本科目では、安全に適切に基礎看護技術を実施するための原理・原則を理解し、日常生活援助技術の一部を身に付けることを目的として、演習を中心とした授業を行う。
看護技術を実施するにあたり、援助を受ける人の気持ちを理解することが重要不可欠であるため、演習は、学生同志で患者役と看護師役を相互に体験するかたちで行う。

## 課題に対するフィードバック

重要事項について、次の授業で解説する。

## 参考文献

## 学生へのメッセージ

1. 本科目を履修するためには、「看護学」「救急処置」の単位を取得していることが必要である。
2. 本科目の単位を取得していなければ、「看護学臨床実習Ⅰ」「看護学臨床実習Ⅱ」を履修することはできない。
3. 出席時間数が3分の2に満たない者は、原則として試験を受けることができない。
4. 看護学臨床実習Ⅰ・看護学臨床実習Ⅱ、養護実習に直結する内容なので、確実な知識と態度を付けるように意欲的に取り組んでほしい。
5. 15回の本授業終了後、「バイタルサイン測定」「ベッドメーキング」の技術試験を実施する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション　衛生的手洗い | テキストの該当箇所を読む | テキスト下巻　第1章の確認テストを実施する |
| 2 | 症状・生体機能管理技術①　バイタルサインの測定 | テキストの該当箇所を読む | テキスト下巻　第2章の確認テスト自己学習ノートを実施する |
| 3 | 症状・生体機能管理技術②　バイタルサインの測定 | テキストの該当箇所を読む | テキスト下巻　第5章の確認テストを実施する |
| 4 | 症状・生体機能管理技術③　フィジカルアセスメント | テキストの該当箇所を読む | テキスト上巻　第章の確認テスト自己学習ノートを実施する |
| 5 | 呼吸・循環を整える技術:酸素吸入、吸引 | テキストの該当箇所を読む | テキスト上巻　第4章の自己学習ノートを実施する |
| 6 | 感染予防に関する技術:無菌操作 | テキストの該当箇所を読む | テキスト上巻　第4章の自己学習ノートを実施する。 |
| 7 | 創傷管理に関する技術:創傷処置 | テキストの該当箇所を読む | テキスト上巻　第4章の確認テストを実施する。 |
| 8 | 環境調整技術①　ベッドメーキング | テキストの該当箇所を読む | テキスト上巻　第5章の確認テストを実施する |
| 9 | 環境調整技術② リネン交換 | テキストの該当箇所を読む | テキスト上巻　第5章の確認テストを実施する。 |
| 10 | 活動・休息援助技術①　体位変換 | テキストの該当箇所を読む | テキスト上巻　第2章の確認テスト自己学習ノートを実施する |
| 11 | 活動・休息援助技術②　移送(車椅子、ストレッチャー)、歩行・移動の介助 | テキストの該当箇所を読む | テキスト上巻　第7章の確認テスト自己学習ノートを実施する |
| 12 | 食事援助技術:食事介助(口腔ケアを含む) | テキストの該当箇所を読む | テキスト上巻　第8章の確認テスト自己学習ノートを実施する |
| 13 | 排泄援助技術:便器・尿器の使い方、オムツ交換 | テキストの該当箇所を読む | テキスト下巻　第4章の確認テスト自己学習ノートを実施する |
| 14 | 清潔・衣生活援助技術:部分浴、寝衣交換 | テキストの該当箇所を読む | テキスト下巻　第6章の確認テスト自己学習ノートを実施する |
| 15 | 与薬の技術:直腸内与薬 | 技術チェックリストに基づき練習する | 技術チェックリストに基づき自己評価をする |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010064000 | 看護学臨床実習Ⅰ | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 病院の役割・機能を学び要点を説明できる。
2. 看護活動の実際を見学して援助の方法を学び、説明できる。
　1)患者との適切なコミュニケーション・接し方について説明できる。
　2)安全・安楽の確保、感染予防の重要性・方法について要点を説明できる。
　3)観察・記録・報告の重要性について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

医療・看護の実際を体験し、将来、養護教諭として児童生徒の保健管理や健康教育を行うための資質の向上を図ることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

1. 実習への取り組み、実習記録などから総合的に評価する。
2. 実習指導者と教員の評価を合わせて得点とする。

## 課題に対するフィードバック

随時フィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

1.「看護学」「看護学演習」「救急処置」および「医学一般」「医学一般Ⅱ」「解剖学・生理学Ⅰ」
解剖学・生理学Ⅱ」の講義で使用したテキスト
2. その他、随時紹介する。

## 資格との関連

養護教諭一種免許状の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

1. 本科目を履修するには、「看護学」「救急処置」「看護実践論」「看護技術演習」の単位を取得している必要がある。
2. 患者や医療の理解のために、「医学一般Ⅰ」「医学一般Ⅱ」「解剖学・生理学Ⅰ」「解剖学・生理学Ⅱ」を履修していることが求められる。
3. 健康管理をしっかり行うこと、また安全第一に慎重に行動すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1.「看護学臨床実習Ⅰ要項」ならびに「実習の心得」を配布し説明する。<br>2. 実習期間は2週間で、事前指導(学内と実習病院を各1日)を受けた後、病棟で実習する。<br>3. 見学実習とし、指導看護師と行動を共にして見学する。<br>　学内で学んだ看護技術は、看護師の指導の下で実施してもよい。但し、学生一人では実施しない。<br>4. 患者の安全確保を第一に慎重に行動する。<br>5. 病棟実習期間中は、毎日実習終了後にカンファレンスを持ち、学習内容や疑問点の確認・共有をする。<br>6. 毎日、実習記録用紙に記載し指導を受ける。<br>7. 病棟実習最終日に反省会を持つ。<br>8. 病棟実習終了後、事後指導(学内)を設ける。 | 実習要項と実習心得を熟読する | 実習内容を整理し学びをまとめる。専門用語他必要事項を調べる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010065000 | 看護学臨床実習Ⅱ | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

【病院実習】
1. 健康障害を持つ人の心身の状態について学んだことを説明できる。
2. 苦痛緩和のための援助の方法について学んだことをを説明できる。
3. 患者の反応を注意深く観察し説明できる。
4. 医療チームの協力体制や多職種との連携のあり方を学び、養護教諭としてチームワークをとり連携することの重要性について説明できる。

【認定こども園実習】
1. 乳幼児期の保育・教育の実際を学び、要点を説明できる。
2. 幼児期各期の成長・発達の違いについて、要点を説明できる。
3. 事故防止や安全管理の実際を学び、要点を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

【病院実習】
医療・看護の実際を体験し、将来、養護教諭として児童生徒の保健管理や健康教育を行うための資質の向上を図ることを目的とする。

【認定こども園実習】
乳幼児期の子どもの理解を深め、保育・教育の基本を学ぶことで、将来、養護教諭として児童生徒に適切に対応できる基礎的能力を習得することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

1. 実習への取り組み、実習記録などから総合的に評価する。
2. 実習指導者と教員の評価を合わせて得点とする。

## 課題に対するフィードバック

随時フィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

1.「看護学」「看護学演習」「救急処置」および「医学一般Ⅰ・Ⅱ」「解剖学・生理学Ⅰ・Ⅱ」「小児保健」の講義で使用したテキスト
2. その他、随時紹介する。

## 資格との関連

養護教諭一種免許状の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

1. 本科目を履修するには、「看護学」「救急処置」「看護実践論」「看護技術演習」「看護学臨床実習Ⅰ」の単位を取得している必要がある。
2. 対象や医療の理解のために、「医学一般Ⅰ」「医学一般Ⅱ」「解剖学・生理学Ⅰ」「解剖学・生理学Ⅱ」「小児保健」を履修していることが求められる。
3. 健康管理をしっかり行うこと、また安全第一に慎重に行動すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「看護学臨床実習Ⅱ要項」ならびに「実習の心得」を配布し説明する。<br>【病院実習】<br>1. 実習期間は1週間で、学内で事前指導を1日設ける。<br>2. 看護学臨床実習Ⅰと同じ実習病院で実習する。<br>3. 見学実習とし、指導看護師と行動を共にして見学する。<br>学内で学んだ看護技術は看護師の指導の下で実施してもよい。但し、学生一人では実施しない。<br>4. 看護学臨床実習Ⅰ終了後の自己の課題達成が図られるように取り組む。<br>5. 病棟実習期間中は、毎日実習終了後にカンファレンスを持ち、学習内容や疑問点の確認・共有する。<br>6. 毎日、実習記録用紙に記載し指導を受ける。<br>7. 病棟実習最終日に反省会を持つ。<br>8. 病棟実習終了後、学内で事後指導を1日設ける。 | 実習要項と実習心得を熟読する | 実習内容を整理し、学びをまとめる。<br>専門用語他必要事項を調べる。 |
| 2 | 「看護学臨床実習Ⅱ要項」ならびに「実習の心得」を配布し説明する。<br>【認定こども園実習】<br>1. 実習期間は1週間で、学内で事前指導を1日設ける。<br>2. 認定こども園でオリエンテーションを受ける。<br>3. 乳幼児期の各クラスに入り、日課に沿って実習指導者のもとで実習する。<br>4. こどもの安全確保を第一に、慎重に行動する。<br>5. 毎日、実習記録用紙に記載し指導を受ける。<br>6. 実習最終日に反省会を持つ。<br>7. 実習終了後、学内で事後指導を設ける。 | 実習要項と実習心得を熟読する | 実習内容を整理し、学びをまとめる。<br>専門用語他必要事項を調べる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010066000 人間環境論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

2年生の「公衆衛生学」、「衛生学」を基礎として、さらに「人」と「環境」の関わりについて学習を深める。
以下を到達目標とする。
・環境、病因、宿主について理解し、3つの因子と健康との関連性を述べることができる。
・人間活動によって生じる環境因子の変動による種々の健康影響を説明できる。
・日常生活における様々な健康に影響を及ぼす因子とその機構について代表的な例を挙げて説明することができる。

## 授業概要(教育目的)

人間の健康は環境、病因そして宿主(人間)のバランスのもとで成立している。とくに人間の生命維持や健康増進には外部環境(自然的環境、人為的環境)と人体の内部環境とを恒常性の維持により バランスを保つことである。人類は自然環境と共存し、生存し続けてきたが、人類が未来へ向けて生存し続けるには今日の地球を取り巻く環境は多くの問題を抱えている。ここでは人間の環境に対する生体応答、身近な暮らしや地域の環境問題、さらに地球規模での環境問題について理解を深めることを目的としている。また、自然環境の問題には人間に責任があることが多く、環境倫理についての理解も本科目の目的である。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験、授業時に実施する意見交換、レポートの提出など授業への取り組みなどを総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

毎回の授業開始時に前回の要点を話し、さらに実施した小テストの模範解答を示して説明を行うことで、授業の流れを円滑にする。さらに要所での確認を行い、課題解消に努める。

## 参考文献

「厚生の指標・増刊－国民衛生の動向　2025/2026」厚生統計協会(財)
「環境科学入門　第2版」川合真一郎・張野宏也・山本義和　著　(化学同人)
「健康と環境の科学」川添禎浩　編　(講談社)
「地球環境学入門　第3版」山崎友紀　著　(講談社)

## 講義時使用テキスト

テキストは2年生で使用した「新編　衛生・公衆衛生学」監修者　山本玲子(アイ・ケイコーポレーション)。
また、随時プリントを配布する。

## 資格との関連

健康管理士一般指導員資格の所得をめざす学生は必修である。

## 学生へのメッセージ

・必要に応じてDVD等の視聴も行う。
・本講義を受講するにあたり、公衆衛生学および衛生学の単位を取得していることが望ましい。
・全回出席が基本。1/3以上欠席した場合は単位が未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 人間環境論概論<br>(環境の 捉え 方、生態系の 重要性など2年次の 公衆衛生学・衛生学の 振り返り) | シラバスで 講義の 到達目標を 確認し、講義計画に 目を 通しておく | 講義内容を整理する |
| 2 | 地球環境のしくみ<br>(地球の 成り立ち、内部構造、地形の 変化) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 3 | 食環境と 健康①<br>(遺伝子組み 換え 食品・ゲノム食品) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 4 | 食環境と 健康②<br>(食品添加物) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 5 | 食環境と 健康③<br>(農薬) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 6 | 嗜好品と 健康<br>(喫煙・飲酒) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 7 | 化学物質汚染と 健康①<br>(ダイオキシン 類) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 8 | 化学物質汚染と 健康②<br>(シックハウス 症候群) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 9 | 化学物質汚染と 健康③<br>(プラスチックの 利用と 環境) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 10 | 大気汚染と 健康<br>(地球温暖化、ヒートアイランド 現象) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 11 | 水質汚濁・土壌汚染と 健康<br>(河川・湖沼の 汚染、地下水・土壌汚染の 管理) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 12 | 世界の 新興感染症と 環境<br>(感染情報、気候変動) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 13 | 廃棄物問題と 資源循環<br>(廃棄物の 減量、リサイクル、国際的動向) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 14 | エネルギー 資源と 環境<br>(世界の エネルギー 消費、再生可能エネルギー、省エネ) | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を整理する |
| 15 | 環境活動の 実践と 環境倫理<br>(環境教育、環境学習)<br>まとめ | 教科書の 該当部分を 読む<br>授業内容について インター ネットなどで 調べる | 講義内容を 整理し、講義全体を まとめる |

| 講義名 | 4010067000 食生活論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 佐藤　千恵子 | | |

## 学習目標(到達目標)

食生活についての基本的な知識を習得するとともに、食生活の意義について根拠をもって説明できること。
さらに現状と照らし合わせ問題点および改善点についての知識を高め、日常の食生活に関して興味関心を持って学習することができる。

## 授業概要(教育目的)

食生活は、健康に生きるための基盤である。しかし、21世紀に入り、私たちの食生活が脅かされつつある。朝食の欠食が当たり前になり、不足の栄養素をサプリメントで補う人々。その一方で、だれもが食の「安全・安心」を願うようになった今日、本来の食生活の果たすべき役割が失われ「崩食」とまで言われている。そこで食生活の現状や問題点について学習し、食生活の意義や重要性を見直し課題に取り組み、かつ改善策を構築できるようになることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につける。

## 評価方法

受講態度や授業中の発表等および課題提出、定期試験(小テストを含む)により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・課題レポート、小テストは採点のうえ返却する。
・期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

「食生活論」 山本茂・奥田豊子編　講談社サイエンティフィク
「食生活論」第3版　米川五郎・馬路藏編　有斐閣ブックス

・資格取得参考テキスト：食生活アドバイザー3級公式テキスト(FLAネットワーク協会編)

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。毎回プリントを配布する予定。

## 資格との関連

・食生活アドバイザー3級、2級
・あおもり食育検定

## 学生へのメッセージ

・毎回、プリントや資料を配布する。これらをファイリングし、受講の際には持参すること。
　筆記用具のみでの受講は許可しない。
・講義に関連した資格取得を目指すことで知識が広まり、学習意欲にもつながる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 食生活とは？<br>・食生活の成り立ちと変遷 | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 2 | 日本の食生活史①(狩猟時代と稲作の始まり)<br>・米作りと経済発展 | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 3 | 日本の食生活史②(貴族の食生活と庶民の食生活)<br>・貴族の暮らしから戦国時代へ | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 4 | 日本の食生活史③(江戸時代から明治維新まで)<br>・江戸時代の食生活から文明開化へ | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 5 | 食生活の変遷…戦後60年の食生活の変化<br>・食生活の欧米化 | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 6 | 日本の食文化<br>・行事食<br>・郷土料理<br>・食習慣 | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 7 | 食環境…① 食生活と水<br>・おいしい水とは<br>・上水道と下水道 | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 8 | 食環境…② 水と洗剤<br>・環境汚染と公害 | 授業内容をインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 9 | 食品の生産と加工<br>・遺伝子組換え食品<br>・地球温暖化の影響 | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 10 | 食品の流通と消費<br>・流通経路<br>・省エネルギー | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 11 | フードロスと食品偽装問題<br>・食品の廃棄<br>・リサイクル<br>・食品偽装 | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 12 | 食生活と安全情報Ⅰ<br>・食品表示と法規 | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 13 | 食生活と安全情報Ⅱ<br>・消費者への安全対策 | 授業内容を文献やインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 14 | 国際化時代の食生活<br>・食の外部化<br>・食料自給率 | 授業内容をインターネットで調べる。 | 配布資料とノートを整理する。 |
| 15 | 21世紀における健全な食生活の展望<br>・日本人の生活スタイルの変化<br>・今後の食料生産の課題 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 | これまでの配布資料とノートを整理しまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010069000 薬理概論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 小池　智彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

「疾患とその治療薬」について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

この講義では、「病気と代表的な治療薬」について理解することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

筆記試験で評価する

## 課題に対するフィードバック

この講義では、「病気と代表的な治療薬」について理解することを目的とする。

## 参考文献

特になし。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
講義への出席を重視するので、留意すること。

## 実務との関連

薬剤師としての実務経験をもとに、臨床における重要な薬についての話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 薬の基礎知識①、② | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 薬の相互作用 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 新薬の開発(治験) | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 高血圧治療薬 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 糖尿病治療薬 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 脂質異常症治療薬 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 潰瘍治療薬 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 骨粗鬆症治療薬 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 不眠症治療薬 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 痛風治療薬 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 関節リウマチ治療薬 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 痛風・高尿酸血症治療薬 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | iPS細胞と医薬品開発 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 新型コロナウイルス(COVID-19)感染症のワクチンと治療薬 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 情報伝達物質(ホルモン、サイトカイン)と関連する医薬品 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010070000 健康心理学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

次の3点を到達目標とする。
1. 健康心理学と他の心理学との差異と共通点を理解し，説明できる。
2. 心身の健康とは何かを客観的に捉え，健康に影響する要因について説明できる。
3. 心身の健康を回復・維持・増進するための支援のあり方について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

心身の健康への支援は，「悪いところを治す」だけでなく，「悪くならないようにする」「もっと良くする」ことも重要である。
この授業では，心理学の比較的新しい分野である健康心理学についての知見や活用を紹介し，心身の健康の維持・増進のために必要な知識や心理的支援について学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において，現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は，期末試験の点数を重視し，毎授業後のコメントシートの提出・内容，授業中の参加態度などからも総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

コメントシートへの返答は，次の授業で代表的なものをいくつか取りあげる。
期末試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

必要時，適宜講義内で提示する。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用せず，資料を配布する。

## 資格との関連

認定心理士

## 学生へのメッセージ

授業内でQRコードを読み取ってもらい，健康心理学に関連する心理調査等を体験してもらう場合があります。
QRコードが読み取れるスマートフォンやタブレット端末等を持参してください。

## 実務との関連

心理職(公認心理師・臨床心理士)として行政の精神科デイケアに勤務。精神医療・保健福祉での実務経験をもとに，障害の有無にかかわらない心の健康づくりについて話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 健康心理学とは | シラバスを確認する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 2 | 生物医学モデルと生物心理社会モデル | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 3 | ストレッサーとストレス反応 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 4 | ストレス対処 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 5 | パーソナリティと健康 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 6 | 健康行動 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 7 | 健康と生活習慣 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 8 | 依存症 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 9 | 健康心理学に関わる基礎理論 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 10 | 発達段階に応じた健康教育 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 11 | 生活の場における健康教育 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 12 | ソーシャルサポート | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 13 | 災害とメンタルヘルス | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 14 | 健康心理アセスメント | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 15 | 健康心理カウンセリング | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |

| 講義名 | 4010071000 児童心理学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 油川　さゆり | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 子どもの心理発達について学び、発達的変化についての説明ができる。
2. 子どもの発達上の諸問題を学び、支援の方法について説明ができる。

## 授業概要(教育目的)

1. 発達心理学における基本的問題を概説する。
2. 主に小学校終了時までのこどもの時代を中心的に扱いながら、発達心理学的視点から人間全体への理解を図る。
3. 大人とは異なる存在である子どもについての理解を深め、その行動の意味を探り、発達しつつある存在としてとらえると同時に、自らの成長発達を振り返り自己理解を深める機会とする。
4. 子どもを取り巻く諸問題について発達心理学的観点から援助の方法を探る。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業内試験　(50%)・授業外課題(30%)・授業における取組(授業内課題・リアクションペーパー・グループディスカッション等)(20%)

## 課題に対するフィードバック

試験・課題は採点の上、個別にコメントを付けてフィードバックする。
課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代「子どものこころ―児童心理学入門　新版」有斐閣アルマ, 2014 ※その他その都度提示する

## 講義時使用テキスト

油川さゆり「心理学入門－こころを読み解くために」叢文社, 2026

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

本講義では、ディスカッションを毎授業に取り入れながら授業を進める。また、ロールプレイングやグループワークも行う予定である。質問は授業中や授業前後のほか、メールでも受け付ける。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 児童心理学とは | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 発達とは | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 乳児期の発達 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 幼児期の発達 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 児童期の発達 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 青年期の発達 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 学習を支えるしくみ①学習と記憶 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 学習を支えるしくみ②動機づけ | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 学習を支えるしくみ③知能 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 発達障害 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 児童虐待 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 子どもの心理臨床①精神的健康 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 子どもの心理臨床②カウンセリング | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 現代に生きる子どもたち | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 授業内試験 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 4010072000 認知心理学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.認知心理学の特性や研究方法について理解を深める。
2.視覚情報処理や記憶に関する基本的知見を習得し，概説できる。
3.我々の認知のメカニズムを理解することにより，自分や他者に関する理解を深める。

## 授業概要(教育目的)

認知心理学とは，人間が環境からの情報を取り入れる過程(感覚・知覚)と，人間の記憶・言語・思考と言ったいわゆる知的活動について，コンピュータ科学，脳科学などの学問領域と密接な関連を持ちながら研究する領域である。本授業では，認知心理学の概要について説明したうえで，主に視覚情報処理と記憶に焦点を絞って概説する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題探究に取り組む主体的姿勢を身につけている。

## 評価方法

授業への参加態度，レポート等の課題内容，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

道又　爾　他(著)『新版　認知心理学　知のアーキテクチャを探る』有斐閣
箱田裕司　他(著)『認知心理学』有斐閣

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の必修科目である。資格取得希望者は必ず履修すること。

## 学生へのメッセージ

我々は，様々な認知過程を絶えず行いながら日常生活を営んでいる。認知心理学の基本的知見は我々が普段あまり気づかない認知過程の巧妙さや特性を教えてくれる。これらの基本的知見をもとに自分自身や他者の行動を振り返って，自分や他者をより深く理解することを目指してほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 認知心理学の概説 | シラバスを確認し，授業の概要を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 感覚のメカニズムと特性(1)　感覚の種類と構造 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 感覚のメカニズムと特性(2)　感覚の一般特性 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 知覚のメカニズムと特性(1)　知覚理論 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 知覚のメカニズムと特性(2)　形の知覚，物体認知 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 知覚のメカニズムと特性(3)　物体認知 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 知覚のメカニズムと特性(4)　顔の認知 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 注意のメカニズムと特性 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 記憶のメカニズムと特性(1)　記憶の測定法 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 記憶のメカニズムと特性(2)　記憶の多重貯蔵モデル，感覚記憶 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 記憶のメカニズムと特性(3)　短期記憶，ワーキングメモリ | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 記憶のメカニズムと特性(4)　長期記憶，意味記憶，スキーマ | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 記憶のメカニズムと特性(5)　記憶の変容，偽りの記憶 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 記憶のメカニズムと特性(6)　潜在記憶 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 記憶のメカニズムと特性(7)　自伝的記憶，展望記憶 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010073000 感情心理学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

①感情の意味やその性質を説明できる。
②感情が「心身の健康」と密接につながっていることを説明できる。

## 授業概要(教育目的)

感情の働きは人格や性格の根幹にあり、行動にその人らしさを生じさせる。また、人間関係のあり方を左右し、認知の働きにも大きい影響を及ぼす。本講義においては、はじめに感情の意味やその性質を理解する。その上で、他者との交流やさまざまな出来事との出会いをとおして生じる感情の体験が、その人独自の環境適応をうながすしくみに留意する。さらには、感情が「心身の健康」とも密接につながっていることについて理解をうながす。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学期末に実施する定期試験の成績に、授業中に数回実施する小レポートの成績を加味して評価を行う

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および定期試験の成績(得点)については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

## 参考文献

講義中に適宜示す。

## 講義時使用テキスト

配布資料をテキストとして用いる。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の必修科目である。資格取得希望者は必ず履修すること。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
喜怒哀楽がどのように生じるかに注目し、それが「個」の形成や人間関係にどう影響するかにも関心を向けるようにすること。
授業中タブレットやスマホなど情報端末は、電源をオフにするか休止状態にして、カバンやバックの中にしまっておくこと。その他については、最初の授業の折に説明する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 講義内容・目次を説明する。第Ⅰ部は感情の基礎を、第Ⅱ部はその展開であることを話す。また、感情心理学が他の関連科目とどう関係するのかを略述する。感情を理解することが心の理解につながることを指摘する。また、配付資料中の留意事項にしたがって、講義受講ルールについても説明する。 | シラバスの内容を確認する。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 2 | DVDデータなどからのプレゼンの表情を見せ、他者からみた感情を考えさせる。その後、まず心理学の考え方を述べ、感情の意義を考えさせる。また、何が感情に影響をもたらすのかについて言及し、社会や自然環境の変化も感情を左右することを述べる。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 3 | 「長寿時代の到来と心の問題の多様化」に入り、長寿時代になって高齢者の意味が変化するとともに、若い世代もその変化に対応を迫られている状況を説明する。このような社会的変化に加えて、震災の影響などがあり、感情が激変を余儀なくされていることを指摘する。課題として、震災が感情に及ぼした影響について書かせる。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 4 | PTSDを復習し、最後に課題として提示する。講義は感情の性質を取り上げ、emotionの意味と感情の諸側面について詳述する。次いで、動機づけとの関係を略述する。この後、感情反応の三つのタイプについて述べる。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 5 | 「感情と動機づけ系との関係」を再度復習し、感情と行動との関係を詳述する。動機は普段ポテンシャルとして内在すること、感情が喚起されることでいずれかの動機が活性化し、動機が特定の行動を喚起し目標へ導く機能を果たすこと、そしてこれを動機づけと言うことを略述する。感情の、機能の一つが動機づけの活性化にあり、動機の活性化に直接役割を果たすのか感情喚起刺激であることを指摘する。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 6 | 感情の系統発生・個体発生の意味を復習を兼ねて詳述する。次いで、一次的ﾌｪｪﾄについてEkmanの研究をもとにモデル表情写真を使って考えさせ、各文化の違いにかかわらず共通するとする表情普遍説に言及する。それをもとにMediaの報道写真を用いて現実の顔写真を見せて一次的アフェクトを再確認させるようにする。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 7 | 生理的身体反応との関連の項目に入る。まず、James-Lange説を取り上げて説明する。なぜ生理的活動が注目されたかの理由を述べ、認知説の意義に触れる。検証実験として吊り橋実験を追加する。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 8 | 応用研究として「虚偽検出」を取り上げ、古代ギリシャ以来の考え方に基づくことも述べる。次いで、「感情は何のためにあるのか」に入る。感情表出の三つのチャンネルをあらためて確認するようにする。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 9 | 感情表出のチャンネルを復習する。次いで、感情のコミュニケーションが社会的ﾊﾞｲｵﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸによっていることを述べ、その意義について言及する。特に、子どもの発達における意義について確認する。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 10 | 社会的バイオフィードバックの意義を復習した後、「感情が何のためにあるのか」について再確認する。一つは動機の活性化であり、二つ目が感情表出の学習を促し、社会的協調を図ることであることを指摘する。そのための基礎的研究として、アカゲザルでの協調条件づけを紹介する。社会的に孤立した隔離サルは、通常飼育のサルと対にされた場合、コミュニケーションの送り手としても受け手としても欠陥が生じることと、その意味を述べる。次いで、成人での研究を略述し、表情読み取りと生理的活動との関係に触れ、感情の教育の意義について述べる。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 11 | 心理的ストレスと感情に入り、ストレスの意味を工学・医学・心理学の各モデル示して説明する。なお、心理学的モデルの詳細は次回に行うので、前の二つのモデルについてまとめをする。そこで、工学的モデルを踏まえながら導かれた、動物と共有する身体反応としてのストレスを中心に述べる。ここでは、短期のストレス反応である危急反応を中心に詳述する。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 12 | ストレス反応は環境適応上大きい意義を持つことを再確認した上で、人間的な営みが生み出すストレスを中心に述べる。人間のストレスは、認知要因の働きで生じ、状況の認知(状況・出来事の解釈)が重要であることを強調する。次いで、ストレスを誘発する三種の外的事象を述べる。さらに、ストレスと生活出来事の項に入り、コーピング(coping)の意義を述べる。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 13 | コーピングの意味を確認し、コーピングの過程で統制感を有することがストレス緩和に役立つことを指摘する。次いで、Type A行動パターンに入る。特定の性格的特徴に根ざした行動パターンが心臓疾患と関係することを述べる。これと関係して、アスリートの突然死の事例にも言及する。これらを述べた後、ポジティブ心理学と感情について説明し、ポジティブマインドに認められる効用を述べる。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 14 | ポジティブ心理学の意義について詳述する。また、ポジティブ感情には問題点もあることを付言する。まず、ポジティブマインドで考えられる効用面を取り上げる。つまり、①健康状態の改善、②認知活動の高揚、③抗ストレス効果である。ポジティブな感情を生み出す自己効力感・統制感がそれらの背後にあることを指摘する。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| 15 | ポジティブな心は自信と連動していることを述べる。さらに、ネガティブな影響についても言及する。成功中毒の問題を取り上げ、自分が自分でなくなるときのストレスの大きさについて付言し、幸福追求には自己受容の態度が関係することを述べて締めくくりとする。 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業終了時の課題をとおして、学習したことを整理させる。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010074000 青年心理学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

青年心理学について基本的な内容の習得が目標であるが、この機会に自己についての理解を深めてもらいたい。

## 授業概要(教育目的)

学生らがまさに今歩んでいる「青年期」の特徴的な心理について学習する。青年期における身体的・精神的発達、青年期と家族・社会、恋愛と結婚、青年期の心理的不調についての講義を通じて、青年期の一般的理解だけでなく自己洞察を深めることを目指す。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

学期末に実施する定期試験の成績に、授業中に数回実施する小レポートの成績を加味して評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および定期試験の成績(得点)については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

## 参考文献

白井利明 (編)『よくわかる青年心理学(第2版)』(ミネルヴァ書房)
その他、講義中に随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

使用しない。

## 資格との関連

認定心理士資格申請に必要な科目の一つである。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
しばしば講義内で体験的な学習を行う予定であるが、そうした経験も学習に役立つので出来る限り参加すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 青年心理学とは | シラバスに目を通し、授業(講義)内容について理解する | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 2 | 発達理論と発達課題 | ・前回の授業の内容を整理する<br>・さまざまな心の発達理論について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 3 | 思春期の心理的変化 | ・これまでの授業の内容を整理する<br>・思春期(小学校高学年～高校生)で見られる身体の変化心理的変化について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 4 | 自我同一性と同一性拡散 | ・これまでの授業の内容を整理する<br>・エリクソンの発達理論について復習をする | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 5 | 青年期の親子関係 | ・前回の授業の内容を整理する<br>・青年期に見られやすい親子関係の変化について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 6 | 青年期の友人関係 | ・前回の授業の内容を整理する<br>・青年期の友人関係の特徴について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 7 | 青年期の異性関係、恋愛 | ・前回の授業の内容を整理する<br>・青年期の異性関係、恋愛関係の特徴について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 8 | 性役割、性同一性 | ・前回の授業の内容を整理する<br>・性役割、性同一性について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 9 | 青年期の心理的不調 | ・前回の授業の内容を整理する<br>・青年期に見られる心理的不調について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 10 | 自己理解(エゴグラム) | ・前回の授業の内容を整理する<br>・エゴグラムの5つの心について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 11 | 対人交流の分析 | ・前回の授業の内容を整理する<br>・交流分析について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 12 | 社会的スキル | ・前回の授業の内容を整理する<br>・社会的スキルについて図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 13 | 青年期の諸問題1 | ・前回の授業の内容を整理する<br>・「いじめ」について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 14 | 青年期の諸問題2 | ・前回の授業の内容を整理する<br>・「非行」や「少年犯罪」、「不登校」について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |
| 15 | 成人期の発達的特徴 | ・前回の授業の内容を整理する<br>・成人期の心身の発達について図書館で参考文献等を用いて調べる | 配布資料を読み返し、授業の内容を整理する |

| 講義名 | 4010075000 臨床心理学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

次の2点を目標とする。
1.さまざまなこころの問題と不適応行動について理解し，説明できる。
2.こころの問題を抱えた人への支援方法について学び，適切な支援が選択できる。

## 授業概要(教育目的)

こころの問題は精神医療に携わる者だけが特別に扱っていくものではなく，学校教育や社会福祉に携わる者も適切に理解し，支援を提供していくことが求められる。本講義では，こころの問題がどのような背景や出来事の中で生じ，どのように深まっていくのかを学ぶとともに，うつや不安，発達障害などへの支援の基本的な考え方を理解し，教育・福祉の現場でも活かせる視点を身につけることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において，現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は，期末試験の点数を重視し，毎授業後のコメントシートの提出・内容，授業中の参加態度などからも総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

コメントシートへの返答は，次の授業で代表的なものをいくつか取りあげる。
期末試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

必要時，適宜講義内で提示する。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用せず，資料を配布する。

## 資格との関連

認定心理士

## 学生へのメッセージ

授業内でQRコードを読み取ってもらい，臨床心理学に関連する心理調査等を体験してもらう場合があります。
QRコードが読み取れるスマートフォンやタブレット端末等を持参してください。

## 実務との関連

心理職(公認心理師・臨床心理士)として行政の精神科デイケアに勤務。精神医療・保健福祉での実務経験をふまえ，こころの問題や支援について話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 臨床心理学とは | シラバスを確認する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 2 | 心理アセスメント(面接法・観察法) | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 3 | 心理検査①：知能・発達検査 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 4 | 心理検査②：質問紙法・投影法 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 5 | カウンセリング技法の基礎 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 6 | 心理療法①：精神分析 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 7 | 心理療法②：認知行動療法 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 8 | 心理療法③：来談者中心療法 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 9 | 心理療法④：家族療法 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 10 | こころの疾患①：発達障害 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 11 | こころの疾患②：気分障害・不安障害 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 12 | こころの疾患③：ストレス関連障害 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 13 | こころの疾患④：パーソナリティ障害・統合失調症 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 14 | 対人援助職の役割と多職種連携 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 15 | 対人援助職における専門職倫理 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010076000 心理学研究法 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.心理学の代表的研究方法を理解し，それらを研究論文の理解や評価，実際の研究活動等に適切に活用できる。
2.データを用いた実証的な思考法ができる。
3.研究における倫理を理解し，それに対して配慮した研究ができる。

## 授業概要(教育目的)

本授業は，心理学の代表的研究方法である実験，量的調査，質的調査，実践研究について概説する。加えて，研究を実践する上で考慮することが必須である研究倫理についても概説する。これらの理解を通して，データを用いた実証的な思考法を習得する。そして，得られた知識やスキルを，実際の研究活動や研究論文の理解，評価に活用できるようにすることを目指す。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業への参加態度，レポート等の課題内容，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

南風原朝和・市川伸一・下山晴彦(編)『心理学研究法入門』 東京大学出版会
村井潤一郎・藤川　麗(編)『公認心理師の基礎と実践4　心理学研究法』 遠見書房

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の必修科目である。資格取得希望者は必ず履修すること。

## 学生へのメッセージ

心理学基礎実験，心理学実習，研究演習，卒業論文等の心理学科目の基盤となる科目である。今後の心理学の学修や研究活動をスムーズに進めるためにも，積極的に取り組むことが望まれる。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 心理学研究法概説 | シラバスを確認し，授業の概要を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 実験法 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 実験法の実際 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 準実験と単一事例実験 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 質問紙調査法 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 質問紙調査法の実際 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 観察法 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 面接法 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 質的研究の分析法 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 実践的研究法 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 精神物理学的測定法 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 検査法 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 研究レビュー | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 研究倫理 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 研究の展開 | 事前に配付した資料を読み，今回の授業内容を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 講義名 | 4010077000 社会心理学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 今川　ゆき | | |

## 学習目標(到達目標)

次の2点を到達目標とする。
1. 人の心の動きや変化を，他者や集団などの社会環境との関係から説明できる。
2. 身のまわりの現象を，社会心理学的視点で客観的に捉え分析できる能力を養う。

## 授業概要(教育目的)

私たちの心は，他者との関わりや集団などの社会的環境の中で日々活発に動いている。
このような心の動きは，他者や社会環境をどのように理解し，どのような影響を受けるために生じているのであろうか。
この授業では，①社会的場面における個人の認知，②対人社会の中での心の動き，③人の行動や心の動きに影響する集団や環境についての知見について紹介する。
それらの知見を通して，社会的環境の中で生じている私たちの心の現象について考えていく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において，現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績は，期末試験の点数を重視し，毎授業後のコメントシートの提出・内容，授業中の参加態度などからも総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

コメントシートへの返答は，次の授業で代表的なものをいくつか取りあげる。
期末試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

必要時，適宜講義内で提示する。

## 講義時使用テキスト

テキストは使用せず，資料を配布する。

## 資格との関連

認定心理士

## 学生へのメッセージ

授業内でQRコードを読み取ってもらい，社会心理学の実験を体験してもらう場合があります。
QRコードが読み取れるスマートフォンやタブレット端末等を持参してください。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会心理学とは | シラバスを確認する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 2 | 印象形成 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 3 | ステレオタイプと偏見 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 4 | 帰属理論 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 5 | 自己概念と自尊感情 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 6 | バランス理論と認知的不協和 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 7 | 対人魅力 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 8 | 対人関係 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 9 | 対人コミュニケーション | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 10 | 対人行動:攻撃と援助 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 11 | 同調と服従 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 12 | 社会的促進と抑制 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 13 | リーダーシップ | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 14 | 集合行動 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |
| 15 | 緊急時の集合行動 | 前回の授業の内容を整理し，論点を整理する。 | 配布資料を見返し，不明な点があれば調べる。 |

| 講義名 | 4010078000 心理統計学　Aクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.統計学の基礎を理解し，説明できる。
2.心理学で用いられる主要な統計手法を理解し，データの読み取りや解析結果の読み取りができる。
3.研究方法に合わせた適切なデータ解析法を選択し，実際に解析法を行い，結果の解釈や考察ができる。

## 授業概要(教育目的)

心理統計学Ⅰ,Ⅱは，統計に関する基礎的な知識と，心理学で用いられる統計的分析法を習得し，データの読み取りや，心理学論文等で報告されている解析結果の読み取りができるようにすること，そして，データに合わせて適切な統計的解析が自ら実施できるようにすることが目的です。心理学で用いられる主要な統計的解析法を概説し，実際に使用できるようにすることを目指します。心理統計学では，心理統計学の基礎と主要な統計的解析法を網羅的に概説することを目指します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業への参加態度，課題等の達成状況，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

課題に対しては採点結果をフィードバックします。
試験の成績を知りたい学生には個別に開示します。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の必修科目である。資格取得希望者は必ず履修すること。

## 学生へのメッセージ

【履修条件】
1.「情報処理基礎」「データサイエンス入門」を履修済みであること。
2.コンピュータ室での授業となるため，受講者数を30名程度に制限します。受講希望者が多数の場合は，「心理学研究法」を履修済みである学生，認定心理士取得希望である学生を優先します。

【履修上の注意】
1.ステップを踏んで進むので欠席しないように留意し(やむを得ぬ理由で欠席・遅刻する場合は必ず本人が事前に担当教員に連絡すること)，毎回の課題を達成し確実に統計的知識や技能を身につけるよう努めて下さい。
2.ファイル保存用にUSBメモリを各自準備すること。
3.「心理統計学ＩＡクラス」との合併授業です。
4.「心理統計学Aクラス」と「心理統計学Bクラス」は同じ内容です。受講者数によってはどちらかに移動してもらうこともあります。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション，統計学の概要，尺度の種類 | 情報処理基礎，データサイエンス入門等関連科目の復習をしておく。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 2 | 記述統計1(度数分布，代表値，散布度，正規分布) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 3 | 記述統計2(散布図，相関係数，連関係数) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 4 | 推計学の基本的考え(母数推定，仮説検定，効果量，信頼区間，検定力) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 5 | 平均値の差の検定概論1:t検定 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 6 | 平均値の差の検定概論2:ANOVA | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 7 | 比の差の検定概論:χ2検定等 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 8 | 回帰分析概論1:単回帰分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 9 | 回帰分析概論2:重回帰分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 10 | 多変量解析の概要 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 11 | 因子分析概論1 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 12 | 因子分析概論2 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 13 | 共分散構造分析概論 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 14 | その他の統計的分析概論1:ノンパラメトリック法 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 15 | その他の統計的分析法2:偏相関係数，共分散分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |

| 講義名 | 4010078001 心理統計学　Bクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.統計学の基礎を理解し，説明できる。
2.心理学で用いられる主要な統計手法を理解し，データの読み取りや解析結果の読み取りができる。
3.研究方法に合わせた適切なデータ解析法を選択し，実際に解析法を行い，結果の解釈や考察ができる。

## 授業概要(教育目的)

心理統計学Ⅰ,Ⅱは，統計に関する基礎的な知識と，心理学で用いられる統計的分析法を習得し，データの読み取りや，心理学論文等で報告されている解析結果の読み取りができるようにすること，そして，データに合わせて適切な統計的解析が自ら実施できるようにすることが目的です。心理学で用いられる主要な統計的解析法を概説し，実際に使用できるようにすることを目指します。心理統計学では，心理統計学の基礎と主要な統計的解析法を網羅的に概説することを目指します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業への参加態度，課題等の達成状況，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

課題に対しては採点結果をフィードバックします。
試験の成績を知りたい学生には個別に開示します。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の必修科目である。資格取得希望者は必ず履修すること。

## 学生へのメッセージ

【履修条件】
1.「情報処理基礎」「データサイエンス入門」を履修済みであること。
2.コンピュータ室での授業となるため，受講者数を30名程度に制限します。受講希望者が多数の場合は，「心理学研究法」を履修済みである学生，認定心理士取得希望である学生を優先します。

【履修上の注意】
1.ステップを踏んで進むので欠席しないように留意し(やむを得ぬ理由で欠席・遅刻する場合は必ず本人が事前に担当教員に連絡すること)，毎回の課題を達成し確実に統計的知識や技能を身につけるよう努めて下さい。
2.ファイル保存用にUSBメモリを各自準備すること。
3.「心理統計学ＩＢクラス」との合併授業です。
4.「心理統計学Aクラス」と「心理統計学Bクラス」は同じ内容です。受講者数によってはどちらかに移動してもらうこともあります。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション，統計学の概要，尺度の種類 | 情報処理基礎，データサイエンス入門等関連科目の復習をしておく。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 2 | 記述統計1(度数分布，代表値，散布度，正規分布) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 3 | 記述統計2(散布図，相関係数，連関係数) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 4 | 推計学の基本的考え(母数推定，仮説検定，効果量，信頼区間，検定力) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 5 | 平均値の差の検定概論1:t検定 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 6 | 平均値の差の検定概論2:ANOVA | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 7 | 比の差の検定概論:χ2検定等 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 8 | 回帰分析概論1:単回帰分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 9 | 回帰分析概論2:重回帰分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 10 | 多変量解析の概要 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 11 | 因子分析概論1 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 12 | 因子分析概論2 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 13 | 共分散構造分析概論 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 14 | その他の統計的分析概論1:ノンパラメトリック法 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 15 | その他の統計的分析法2:偏相関係数，共分散分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |

| 講義名 | 4010079000 老人・障害者の心理 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.高齢者と障害者(児)の心理的特性について概説できる。
2.高齢者と障害者(児)の心理社会的課題やその支援について概説できる。
3.誰もがその人権を大切にされ，豊かに生きていける共生社会の構築に貢献できる。

## 授業概要(教育目的)

現代の社会では，さまざまな多様性を認め合い，共に生きる社会づくりが求められている。高齢者や障害者，障害児も多様性の中に含まれ，それらの人々を理解し，支援をすることが必要になってくる。本授業では，高齢者と障害者(児)の心理的特性について概説し，これらの人々の心理社会的課題やその支援について説明していく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業への参加態度，レポート等の課題内容，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

佐藤真一・高山　緑・増本康平(著)『老いのこころ　加齢と成熟の発達心理学』有斐閣
柘植雅義・石倉健二・野口和人・本田秀夫(編)『公認心理師の起訴と実践13　障害者・障害児心理学』遠見書房

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請に必要な科目の一つである。

## 学生へのメッセージ

高齢者と障害者(児)を含めた多様な人々と共に生きていく社会をつくるためには，まず，高齢者や障害者(児)の有り様や現代社会での心理社会的課題を理解する必要がある。本授業ではそれらを達成し，社会の一員として共生社会の構築に何らかの形で貢献できるようになることを目指す。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 老人・障害者の心理の概説 | シラバスを確認し，授業の概要を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 高齢者，障害者(児)に関する社会的状況 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 高齢期における認知機能，記憶，知能の変化 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 高齢期における人格の変化と家族・社会との関係の変化 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 超高齢期の心理的特性と課題 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 高齢期と死 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 高齢期のこころの病気 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 身体障害 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 身体障害児・者の心理社会的課題と支援 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 知的障害 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 知的障害児・者の心理社会的課題と支援 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 精神障害 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 精神障害児・者の心理社会的課題と支援 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 発達障害 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 発達障害児・者の心理社会的課題と支援 | 授業内容について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 講義名 | 4010080000 心理学基礎実験 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 心理学の古典的な問題及び最近の研究テーマについて、自ら実験を行なうことによってより深い理解に達する。
2. 心理学実験の方法を学び、実験計画の基本を理解する。

## 授業概要(教育目的)

心理学の分野を十分に理解するためには、講義や演習等で得られる知識の習得とともに、実験やテストあるいは調査等を的確に実行できることが必要である。そして、それらによって得られたデータのまとめ方や書き方に熟達することも重要である。この授業では、学生自らが実験者および実験参加者になって実験を行うことにより、心理学において用いられる基本的な研究方法を自ら体験して知るとともに、結果のまとめ方や書き方を学ぶことを目的とする。毎回レポートの提出が義務づけられる。

なお、授業は金地美知彦、遠藤光男、今川ゆき計3名の教員共同参加で行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

8種類の実験の提出レポート、その他小課題の採点結果をメインとし、実験課題への取り組みの積極性を加味して評価を行う。(定期試験は実施しない。)

【補足】
・8種類の実験のレポートをすべて提出した場合のみ単位認定を行う(未提出のレポートがある場合は「欠席(履修放棄)」扱いとする)。
・実習系科目につき、再試験は実施しない。

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および各実験のレポート評価については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

## 参考文献

随時紹介する。

## 講義時使用テキスト

毎回、資料を配布する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の必修科目である。資格取得希望者は必ず履修すること。

## 学生へのメッセージ

【履修条件】
1. 認定心理士資格の取得希望者のみ履修を認める。
2.「心理学研究法」「心理統計学」の単位を取得していることを条件とする。受講希望者が多数の場合は、両科目の成績および出欠状況により受講者数を制限する。

【履修上の注意】
実習系科目につき、毎回原則として欠席・遅刻は認めない(やむを得ぬ理由で欠席・遅刻する場合は必ず本人が事前に担当教員に連絡すること)。
実験課題を変更する場合もあるので、最初の授業での説明に注意すること。

【補足】
大学に持参可能なノートパソコンを所持していることが望ましい。(授業内でパソコンを用いて実習を行います。)

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ・心理学における実験とは<br>・レポートの構成と作成要領 | シラバスを熟読する。<br>(特に「学生へのメッセージ」に目を通し、【履修条件】に該当するかを確認すること) | 授業で配布した資料を読み直し、実験の計画、デザインの組み方やレポート執筆の仕方について整理する。 |
| 2 | 【実験1】ストループ効果(1回目) | 前回の授業で配付した資料に目を通し、実験の計画、デザインの組み方を再確認する。 | ・授業中に配布した実験マニュアルを熟読し、実験の背景、目的を理解する<br>・実験結果を集計し、表にまとめる。加えて、そのような結果が生じた要因について考察する |
| 3 | 【実験1】ストループ効果(2回目) | 前回の授業で配布した実験マニュアルを熟読し、結果の分析手順を事前に確認する。 | 実験内容(背景、目的、方法、結果、考察)についてレポートを執筆する。(次回の授業で提出すること) |
| 4 | 【実験2】要求水準(1回目) | 過去の授業で配付した資料に目を通し、実験の計画、デザインの組み方を再確認する。 | ・授業中に配布した実験マニュアルを熟読し、実験の背景、目的を理解する<br>・実験結果を集計し、表にまとめる。加えて、そのような結果が生じた要因について考察する |
| 5 | 【実験2】要求水準(2回目) | 前回の授業で配布した実験マニュアルを熟読し、当日までの課題を行う。 | 実験内容(背景、目的、方法、結果、考察)についてレポートを執筆する。(次回の授業で提出すること) |
| 6 | 3グループに分かれて、それぞれ以下の実験を行う<br>○第1グループ<br>【実験3】運動学習のレミニッセンス(回転板追跡学習)(1回目)<br>○第2グループ<br>【実験4】触二点弁別閾(1回目)<br>○第3グループ<br>【実験5】ミュラー・リヤーの錯視(1回目) | 過去の授業で配付した資料に目を通し、実験の計画、デザインの組み方を再確認する。 | ・授業で出された課題を行う。<br>・授業中に配布した実験マニュアルを熟読し、レポート執筆の準備をする。 |
| 7 | 3グループに分かれて、それぞれ以下の実験を行う<br>○第1グループ<br>【実験3】運動学習のレミニッセンス(回転板追跡学習)(2回目)<br>○第2グループ<br>【実験4】触二点弁別閾(2回目)<br>○第3グループ<br>【実験5】ミュラー・リヤーの錯視(2回目) | 前回の授業で配布した実験マニュアルを熟読し、当日までの課題を行う。 | 実験内容(背景、目的、方法、結果、考察)についてレポートを執筆する。(次回の授業で提出すること) |
| 8 | 3グループに分かれて、それぞれ以下の実験を行う<br>○第1グループ<br>【実験4】触二点弁別閾(1回目)<br>○第2グループ<br>【実験5】ミュラー・リヤーの錯視(1回目)<br>○第3グループ<br>【実験3】運動学習のレミニッセンス(回転板追跡学習)(1回目) | 過去の授業で配付した資料に目を通し、実験の計画、デザインの組み方を再確認する。 | ・授業で出された課題を行う。<br>・授業中に配布した実験マニュアルを熟読し、レポート執筆の準備をする。 |
| 9 | 3グループに分かれて、それぞれ以下の実験を行う<br>○第1グループ<br>【実験4】触二点弁別閾(2回目)<br>○第2グループ<br>【実験5】ミュラー・リヤーの錯視(2回目)<br>○第3グループ<br>【実験3】運動学習のレミニッセンス(回転板追跡学習)(2回目) | 前回の授業で配布した実験マニュアルを熟読し、当日までの課題を行う。 | 実験内容(背景、目的、方法、結果、考察)についてレポートを執筆する。(次回の授業で提出すること) |
| 10 | 3グループに分かれて、それぞれ以下の実験を行う<br>○第1グループ<br>【実験5】ミュラー・リヤーの錯視(1回目)<br>○第2グループ<br>【実験3】運動学習のレミニッセンス(回転板追跡学習)(1回目)<br>○第3グループ<br>【実験4】触二点弁別閾(1回目) | 過去の授業で配付した資料に目を通し、実験の計画、デザインの組み方を再確認する。 | ・授業で出された課題を行う。<br>・授業中に配布した実験マニュアルを熟読し、レポート執筆の準備をする。 |
| 11 | 3グループに分かれて、それぞれ以下の実験を行う<br>○第1グループ<br>【実験5】ミュラー・リヤーの錯視(2回目)<br>○第2グループ<br>【実験3】運動学習のレミニッセンス(回転板追跡学習)(2回目)<br>○第3グループ<br>【実験4】触二点弁別閾(2回目)(2回目) | 前回の授業で配布した実験マニュアルを熟読し、当日までの課題を行う。 | 実験内容(背景、目的、方法、結果、考察)についてレポートを執筆する。(次回の授業で提出すること) |
| 12 | 3グループに分かれて、それぞれ以下の実験を行う<br>○第1グループ<br>【実験6】記憶(自由再生の系列位置効果)<br>○第2グループ<br>【実験7】学習の転移(鏡映描写)<br>○第3グループ<br>【実験8】心理尺度(一対比較法、順位法、尺度構成法) | 過去の授業で配付した資料に目を通し、実験の計画、デザインの組み方、結果の分析方法を再確認する。 | 実験内容(背景、目的、方法、結果、考察)についてレポートを執筆する。(次回の授業で提出すること) |
| 13 | 3グループに分かれて、それぞれ以下の実験を行う<br>○第1グループ<br>【実験7】学習の転移(鏡映描写)<br>○第2グループ<br>【実験8】心理尺度(一対比較法、順位法、尺度構成法)<br>○第3グループ<br>【実験6】記憶(自由再生の系列位置効果) | 過去の授業で配付した資料に目を通し、実験の計画、デザインの組み方、結果の分析方法を再確認する。 | 実験内容(背景、目的、方法、結果、考察)についてレポートを執筆する。(次回の授業で提出すること) |
| 14 | 3グループに分かれて、それぞれ以下の実験を行う<br>○第1グループ<br>【実験8】心理尺度(一対比較法、順位法、尺度構成法)<br>○第2グループ<br>【実験6】記憶(自由再生の系列位置効果)<br>○第3グループ<br>【実験7】学習の転移(鏡映描写) | 過去の授業で配付した資料に目を通し、実験の計画、デザインの組み方、結果の分析方法を再確認する。 | 実験内容(背景、目的、方法、結果、考察)についてレポートを執筆する。(次回の授業で提出すること) |
| 15 | レポート返却と講評 | 8種類の実験のマニュアルに目を通し、実験内容を復習する。 | 返却されたレポートのコメントに目を通し、指示があれば内容を修正して再度提出する。 |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010081000 ヘルスカウンセリング | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 瀧澤　志穂 | | |

## 学習目標(到達目標)

・カウンセリングの定義、および基本理論について説明できる。
・カウンセリングをどのような手順で進めていくか説明できる。
・相談を受ける際の倫理的配慮について説明できる。
・傾聴の技法について説明でき、かつ実践することができる。

## 授業概要(教育目的)

本講義は、「問題や心理的苦痛を抱えた人に対して心理学の知識に基づいて援助的にかかわる方法を学ぶこと(＝カウンセリング)」、および「相手の気持ちや思いを尊重しながら話を聴くこと(＝傾聴)」を実践的に学ぶことを目的としている。
講義計画前半ではカウンセリングの基本事項について、後半では相談時の具体的な応答技法およびカウンセリングの技法を用いた実践的活動について学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

講義内容に関するレポートの提出、終講試験等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、講義日程終了後コメントを付けて返却する。

## 参考文献

渡辺　三枝子「新版カウンセリング心理学」(ナカニシヤ出版)
古宮　昇「傾聴術　一人で学べる「聴く」技術」(誠信書房)
山口　祐二「チャイルドラインで学んだ子どもの気持ちを聴くスキル」(ミネルヴァ書房)
大谷佳子 「対人援助の現場で使える　聴く・伝える・共感する技術　便利帖」(翔泳社)

## 講義時使用テキスト

なし

## 資格との関連

・「認定心理士」の資格取得、および「養護教諭」等教員免許取得を目指す学生は、履修することが望ましい。
・卒業後の進路として、対人援助職を希望する学生の履修も歓迎する。

## 実務との関連

公認心理師、臨床心理士として教育・福祉領域での実務経験をもとに、カウンセリングの役割と技法について講義を行う。

## 学生へのメッセージ

「ヘルスカウンセリング」を学ぶことは自己成長の機会でもある。自分自身の考えや体験を通して講義内容を理解できるように、積極的な態度で取り組もう。

履修にあたっては、以下の点に留意すること。
・講義内容を深く理解するためにも、心理学関連の科目(「心理学」「臨床心理学」等)が履修済みであること。
・毎回の講義終了時にレポートを作成するので、板書をきちんととること。
・座席指定制のため、決められた座席に着席すること。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「ヘルスカウンセリング」を学ぶとは | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 2 | カウンセリングの定義 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 3 | カウンセリングの歴史・基本理論 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 4 | コミュニケーションの手段と役割 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 5 | 人間関係の基礎:自己理解と他者理解 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 6 | カウンセリングの進め方 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 7 | 相談を受ける際の倫理的配慮 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 8 | コミュニケーションの基本技術①:「聴く」、「伝える」技術 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 9 | コミュニケーションの基本技術②:「共感する」技術 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 10 | 面接でのコミュニケーション技法:マイクロカウンセリング | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 11 | コミュニケーション技術の応用①:コーチング | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 12 | コミュニケーション技術の応用②:アサーションとリフレーミング | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 13 | 地域での実践例①:スクールカウンセラーの役割 | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 14 | 地域での実践例②:こころの健康教育、ゲートキーパー | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 15 | これからの「ヘルスカウンセリング」:自分や周囲のためにできること | 授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010082000 心理学実習 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 金地　美知彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

心理学のさまざまな調査法や心理検査技法について、自ら実習を行なうことによって体感的に理解する。

## 授業概要(教育目的)

心理学の分野を十分に理解するためには、講義や演習等で得られる知識の習得とともに、実験やテストあるいは調査等を的確に実行できることが必要である。そして、それらによって得られたデータのまとめ方や書き方に熟達することも重要である。心理学基礎実験に引き続いて、この授業では、学生自らが質問紙調査や面接技法、行動観察、各種心理検査について実習を行い、調査や観察、検査結果のまとめ方や書き方を学ぶことを目的とする。毎回レポートの提出が義務づけられる。

なお、授業は金地美知彦、遠藤光男、今川ゆき、杉山幸子(短大幼児保育学科)計4名の教員共同参加で行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

それぞれの実習メニューの提出レポート、その他小課題の採点結果をメインとし、実習課題への取り組みの積極性を加味して評価を行う。(定期試験は実施しない。)

【補足】
・すべての実習メニューのレポートをすべて提出した場合のみ単位認定を行う(未提出のレポートがある場合は「欠席(履修放棄)」扱いとする)。
・実習系科目につき、再試験は実施しない。

## 課題に対するフィードバック

全体の成績評価および各実験のレポート評価については、成績発表終了後に金地まで問い合わせれば個別に開示する。

## 講義時使用テキスト

毎回、資料を配布する。

## 参考文献

随時紹介する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の必修科目である。資格取得希望者は必ず履修すること。

## 学生へのメッセージ

【履修条件】
1. 認定心理士資格の取得希望者のみ履修を認める。
2.「心理学研究法」「心理統計学」「心理学基礎実験」を履修済みであることを履修の条件とする。

【履修上の注意】
毎回原則として欠席・遅刻は認められない。
実習課題を変更する場合もあるので、最初の授業での説明に注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 心理学における実験以外の研究手法の概説 | 「心理学研究法」の授業ノート、配布プリントを見返して、心理学の研究手法について復習をする。 | 授業で配布した資料を読み直し、心理学のさまざまな研究手法について整理する。 |
| 2 | 質問紙調査法Ⅰ<br>(さまざまな質問紙調査法の紹介、質問紙の作成手順の紹介と作成する質問紙のテーマの選定) | 「心理学研究法」の授業ノート、配布プリントを見返して、質問紙調査の技法について復習をする。 | 授業内で決めたテーマについて本やネットを用いて情報を収集し、質問項目を考える。 |
| 3 | 質問紙調査法Ⅱ<br>(グループ別にテーマを設定し、質問紙を作成する) | 前回の授業内で決めたテーマについて本やネットを用いて情報を収集し、質問項目を考える。 | グループ内で仮作成した質問紙を基に、質問を取捨選択して各自質問紙を作成する。 |
| 4 | 質問紙調査法Ⅲ<br>(グループ別にテーマを設定し、質問紙を作成する) | 前回の授業でグループ内で仮作成した質問紙を基に、質問を取捨選択して各自質問紙を作成する。 | 印刷した質問紙を持ち帰り、身近な人に回答を依頼する。 |
| 5 | フィールドワークⅠ<br>(半構造化面接法) | 「心理学研究法」の授業ノート、配布プリントを見返して、半構造化面接法について復習をする。 | 授業でグループごとに実施した面接実習の内容についてレポートを執筆する。<br>(次回の授業で提出すること) |
| 6 | フィールドワークⅡ<br>(行動観察法) | 「心理学研究法」の授業ノート、配布プリントを見返して、行動観察法について復習をする。 | 授業でグループごとに実施した行動観察実習の内容についてレポートを執筆する。<br>(次回の授業で提出すること) |
| 7 | 心理検査法Ⅰ<br>(質問紙法検査) | 「心理学研究法」の授業ノート、配布プリントを見返して、質問紙法の心理検査について復習をする。 | 授業で実施した5因子性格検査の検査結果についてレポートを執筆する。<br>(次回の授業で提出すること) |
| 8 | 心理検査法Ⅱ<br>(投影法検査) | 「心理学研究法」の授業ノート、配布プリントを見返して、投影法の心理検査について復習をする。 | 授業で実施した投影法心理検査の検査結果についてレポートを執筆する。<br>(次回の授業で提出すること) |
| 9 | 心理検査法Ⅲ<br>(作業検査法検査) | 「心理学研究法」の授業ノート、配布プリントを見返して、作業検査法の心理検査について復習をする。 | 授業で実施した内田クレペリン精神検査の検査結果についてレポートを執筆する。<br>(次回の授業で提出すること) |
| 10 | 質問紙調査法Ⅳ<br>(多変量解析法(因子分析、重回帰分析)の紹介) | 「心理統計学」の授業ノート、配布プリントを見返して、多変量解析(因子分析、重回帰分析)について復習をする。 | 配付資料を見返して、因子分析と重回帰分析について復習をする。 |
| 11 | 質問紙調査法Ⅴ<br>(因子分析の実施) | 前回の授業の配付資料を見返して、因子分析について復習をする。 | 授業で実施した因子分析結果の解釈をふまえ、結果をレポートにまとめる。 |
| 12 | 質問紙調査法Ⅵ<br>(重回帰分析の実施、レポートの書き方指導) | 前々回の授業の配付資料を見返して、重回帰分析について復習をする。 | グループ別に実施した質問紙調査について、レポート(背景、目的、方法、結果、考察)を執筆する。<br>(次回の授業で提出すること) |
| 13 | 生理指標測定 | 「心理学研究法」、「感情心理学」の授業ノート、配布プリントを見返して、ポリグラフ測定について復習をする。 | 授業で実施した生理指標測定の実習結果について、レポートを執筆する。<br>(次回の授業で提出すること) |
| 14 | 知能検査Ⅰ<br>(WAIS-Ⅳ) | 「心理学研究法」の授業ノート、配布プリントを見返して、知能検査について復習をする。 | 配付資料を見返して、IQ(知能指数)の見方や群指数について復習をする。 |
| 15 | 知能検査Ⅱ<br>(WAIS-Ⅳ) | 授業開始前に、「WAIS-Ⅳ」検査の進め方について実施ハンドブックを見て確認する | 授業で実施した知能検査(WAIS-Ⅳ)実習の検査結果について、レポートを執筆する。<br>(1週間後に提出すること) |

| 講義名 | 4010083001 社会福祉の原理と政策Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

①社会福祉の原理をめぐる思想・哲学と理論を理解する。
②社会福祉の歴史的展開の過程と社会福祉の理論を踏まえ、欧米との比較によって日本の社会福祉の特性を理解する。
③社会問題と社会構造の関係の視点から、現代の社会問題について理解する。
④福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解する。

## 授業概要(教育目的)

本講義では、社会福祉が社会から求められ、果たしてきた役割、その発展過程、基本理念や基本原理を理解することを目的としている。今日、社会福祉は私たちにとって身近なものとなっているが、それゆえに体系的に学ぶことが少ない。将来、何らかの形で社会福祉の実践に関わるものとして、社会福祉における固有の価値・倫理・専門性・権利性などを学び、将来に活かしてもらいたいと考えている。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験による。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

最新社会福祉士養成講座4「社会福祉の原理と政策」第2版　中央法規出版、2026年。

## 資格との関連

社会福祉士国家試験の受験資格取得希望者は必ず受講すること。

## 学生へのメッセージ

単なる知識の習得にとどまらず、能動的に考えながら学習を深める。また、社会・経済・政治の歴史や最近の動向とも関連する学習内容となるので、マスコミ報道などにも関心を持って受講する。なお、しっかりと取り組んでもらいたいので、お互いの迷惑となる私語は厳に慎むこと。

## 実務との関連

福祉活動専門員(コミュニティソーシャルワーカー)として社会福祉協議会に勤務。実務経験をもとに、社会福祉の発展過程、社会福祉の基本理念や基本原理、社会福祉士の役割との関連について講話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会福祉学を学ぶ<br>・社会福祉を学ぶ意義<br>・社会福祉学の理解を深める | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 2 | 社会福祉とは何か(1)<br>・社会福祉の思想<br>・現代社会福祉の理念<br>・目的概念と実態概念 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 3 | 社会福祉とは何か(2)<br>・社会福祉の原理<br>・社会福祉と人権<br>・社会福祉の基本体系 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 4 | 社会福祉の理論<br>・戦後の社会福祉の展開と理論<br>・社会福祉の対象とニーズ<br>・社会福祉論の研究史<br>・諸外国の社会福祉理論 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 5 | 社会福祉の歴史(1)<br>・社会福祉の史的理解の意義<br>・欧米の社会福祉の歴史 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 6 | 社会福祉の歴史(2)<br>・日本の社会福祉の歴史 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 7 | 社会問題と福祉政策(1)<br>・現代社会と社会問題<br>・福祉政策の理念と概念<br>・福祉政策と社会保障 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 8 | 社会問題と福祉政策(2)<br>・福祉レジームと福祉政策<br>・福祉政策のニーズと資源 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 9 | 社会問題と福祉政策(3)<br>・福祉に関する施設や機関<br>・社会福祉法人 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 10 | 援助技術と専門職<br>・社会福祉制度と専門技術及び国家資格<br>・社会福祉の政策と専門職 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 11 | 福祉政策の展開(1)<br>・福祉政策の機能と構成要素の役割<br>・福祉政策の展開構造<br>・福祉政策の展開過程 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 12 | 福祉政策の展開(2)<br>・福祉政策としての公的扶助<br>・福祉政策と福祉計画<br>・福祉政策と包括的支援体制 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 13 | 福祉政策と福祉サービス(1)<br>・福祉政策における給付・サービスの供給体制<br>・福祉政策と供給体制の構造<br>・福祉サービスの利用過程 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 14 | 福祉政策と福祉サービス(2)<br>・不服申し立て・リスク管理<br>・対象領域別福祉制度<br>・関連施策 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 確認テスト・小テストを復習しておくこと |
| 15 | 社会福祉と社会福祉政策の課題<br>・我が国の社会福祉制度と福祉政策<br>・社会福祉の論点と課題 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 確認テスト・小テストを復習しておくこと |

| 講義名 | 4010084001 社会福祉の原理と政策Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

①福祉政策を捉える基本的な視点として、概念や理念を理解するとともに、人々の生活上のニーズと福祉政策の過程を結びつけて理解し説明することができる。
②福祉政策の動向と課題を踏まえた上で、関連施策や包括的支援について理解し説明することができる。
③福祉サービスの供給と利用の過程について理解し説明することができる。
④福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解し説明することができる。

## 授業概要(教育目的)

福祉政策について関連施策を含めて理解を深めるとともに、包括的な支援の必要性について理解する。また、福祉サービス供給システムについても基本的なプロセスの理解を深める。こうした理解のもとに、他の関連科目の学びをあわせて、ソーシャルワーカーとしての実践力を養うことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、確認テスト、リアクションペーパー、レポート課題等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

・リアクションペーパーの内容に関して、必要に応じて次回の講義に代表的なものをフィードバックする。
・成績について知りたい学生については、個別に開示する。

## 参考文献

講義時に適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会福祉の原理と政策(最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座4)』中央法規出版、2021年

## 資格との関連

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉士資格を取得しようとする場合には、必ず受講すること。

## 学生へのメッセージ

・講義で学んだことの振り返りとして、毎回リアクションペーパーの提出を求める。
・1か月に1回程度、講義の復習のため、確認テストを実施し、評価の対象とする。
・他の学生の迷惑となる行為は厳に慎むこと(私語や用事がなく教室を出入りすること等)。

## 実務との関連

社会福祉士としての実務経験を活かし、社会福祉の発展過程、基本理念、基本原理、社会福祉の政策について実践を踏まえた話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会福祉の歴史を学ぶ視点 | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 2 | 欧米の社会福祉の歴史的展開 | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 3 | 日本の社会福祉の歴史的展開 | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 4 | 社会問題と社会構造①(現代における社会問題) | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 5 | 社会問題と社会構造②(現代社会福祉の諸課題について考える) | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 6 | 社会問題と社会構造③(事例に基づいた演習) | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 7 | 福祉政策の基本的視点①(福祉政策、自由、平等) | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 8 | 福祉政策の基本的視点②(自立・依存) | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 9 | 福祉政策におけるニーズと資源 | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 10 | 福祉政策の動向と課題①(福祉政策と包括的支援の現状) | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 11 | 福祉政策の動向と課題②(福祉政策と包括的支援の課題) | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 12 | 福祉政策と関連施策 | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 13 | 福祉政策の国際比較 | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 14 | 福祉政策の課題と展望①(社会不安と福祉政策の課題) | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 15 | 福祉政策の課題と展望②(社会福祉政策の解決過程、包摂的福祉政策への展開) | テキストの該当箇所を読む。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010086001 社会福祉調査の基礎 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 社会調査の意義と目的を理解し、社会調査の各種手法について説明できる。
2. 統計法の概要や調査における倫理や個人情報について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

社会調査とは、実社会における人々の意識や行動、市場動向、社会事象等を把握するために、様々な情報を収集し、分析するものである。社会調査の意義と目的を理解し、量的調査および質的調査の方法を具体的に学び、社会調査における倫理と個人情報保護についての理解も深めていく。本講義では、社会福祉にかかわる評価、計画、モニタリング、理論形成、政策立案などを図る上で不欠な社会調査の基礎について学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業中に実施する小テストや課題、定期試験により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験の成績については、希望者には個別に開示する。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

「社会福祉調査の基礎」中央法規出版

## 資格との関連

社会福祉士受験資格取得希望者は必須科目である。

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会調査の意義と目的 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 社会調査の対象と方法 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 調査企画書の作り方 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 量的調査の特徴と種類 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 調査票(質問紙)の作成 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 調査票の配布と回収 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 量的調査におけるデータ解析①集計手法 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 量的調査におけるデータ解析②データの視覚化 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 量的調査におけるデータ解析③記述統計量 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 量的調査におけるデータ解析④尺度水準 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 質的調査の特徴と種類 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 質的調査の調査設計と調査手法 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 質的調査の調査設計と調査手法 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 社会調査企画書の発表 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 社会調査における倫理と個人情報保護 | テキストの該当箇所を読む | 配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 4010087001 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

・社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけについて説明できる。
・社会福祉士及び精神保健福祉に求められるコンピテンシーについて説明できる
・ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉士と精神保健福祉士の法的位置づけについて理解した上で、ソーシャルワークの基盤となる考え方とその形成過程並びに価値規範、倫理について体系的に理解することを本授業の目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、レポート課題、学生発表、受講中の発言等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

その都度紹介する。

## 講義時使用テキスト

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」[共通科目]中央法規出版,社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座11,初版,2021

## 資格との関連

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

・専門的な知識の習得となるため、講義を中心としながらも学生発表の場を取り入れる。
・期末試験については事前に試験のヒントを通知するのでこれを基にさらに確実な知識の蓄積を図ることを期待する。
・欠席が多い場合は学期末試験を受けることができない。
・テキストは目を通しておくこと。
・授業中のスマートフォンおよびタブレット端末の操作、その他授業に関係ない言動は厳禁とする。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション:ソーシャルワークの基本的な考え方 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | ソーシャルワーク専門職である社会福祉士・精神保健福祉士 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 社会福祉士及び介護福祉士法<br>・定義、義務・法制度成立の背景・法制度見直しの背景 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 精神保健福祉士法<br>・定義、義務・法制度成立の背景・法制度見直しの背景 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 社会福祉士及び精神保健福祉士の専門性 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー①<br>・専門職倫理・実践の多様性・人権・実践と調査 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 社会福祉士・精神保健福祉士に求められるコンピテンシー②<br>・地域社会とのかかわり・アセスメント・介入・評価 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | ソーシャルワークの構成要素 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | ソーシャルワークの原理<br>・社会正義・人権尊重・集団的責任・多様性の尊重ソーシャルワークの成立過程 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | ソーシャルワークの理念<br>・当事者主権・尊厳の保持・権利擁護・自立支援・ソーシャルインクルージョン・ノーマライゼーション | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | ソーシャルワークの発展期 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | ソーシャルワークの展開期と統合化 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | ソーシャルワークの形成過程 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 本講義のまとめ　振り返り | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 4010087002 ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

①社会福祉士の職域と求められる役割について理解できる。
②ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲について理解できる。
③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と連関性について理解できる。
④総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容について理解できる。

## 授業概要(教育目的)

ソーシャルワークの概念についての理解をふまえて、専門職倫理に基づいて、ミクロからマクロの領域で展開される具体的なソーシャルワークの実践内容を学ぶことを目的として講義を行う。本講義を通じ、個人や集団、地域において実際に行われているソーシャルワークについて理解を深め、実務者としての基礎を確立することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、講義への出席および発表、受講中の発言等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

## 参考文献

講義の際に適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)(最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座11)』中央法規出版、2021年

## 資格との関連

社会福祉士(国家試験)受験資格取得のための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

・ソーシャルワーク実践をする社会福祉士を目指すために、ソーシャルワークに関する基礎的知識の深化と応用方法の修得を行い、プロフェッショナルのソーシャルワーカーとして実践できるようになることを目指す。そのため「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」を履修していることが望ましい。
・欠席が多い場合は学期末試験を受けることができない。
・テキストは目を通しておくこと。
・授業中のスマートフォンおよびタブレット端末の操作、その他授業に関係ない言動は厳禁とする。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 2 | ソーシャルワークの倫理①<br>専門職倫理の概念 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 3 | ソーシャルワークの倫理②<br>倫理綱領 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 4 | ソーシャルワークの倫理③<br>倫理的ジレンマ | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 5 | ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲①<br>ソーシャルワーク専門職の概念と範囲 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 6 | ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲②<br>社会福祉士の職域と役割 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 7 | ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲③<br>多様な組織・機関・団体における専門職 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 8 | ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲④<br>諸外国の動向 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 9 | ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク①<br>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 10 | ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク②<br>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開①:ミクロ・メゾ・マクロレベルの介入の考え方 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 11 | ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク⑧<br>ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開②:ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける展開の考え方 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 12 | 総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容①<br>総合的かつ包括的な支援におけるジェネラリストの視点 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 13 | ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容②<br>ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 14 | ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な支援の意義と内容⑧<br>多職種連携およびチームアプローチの意義と内容 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 15 | 本講義の振り返りとまとめ | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |

| 講義名 | 4010088001 ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

ソーシャルワークにおける理論及び援助技術について理解することができ、日常生活に支障のある方々への相談援助に応じる方法と関係機関との連絡・調整、さらには具体的な支援方法について理解することができることを目標とする。
①ソーシャルワークにおける理論及び援助技術について理解し、説明することができる。
②相談援助の方法と多職種連携・チームアプローチについて理解し、説明することができる。
③ソーシャルワークの展開過程について理解し、説明することができる。
④さまざまなソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて理解し、説明することができる。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉士に求められる倫理や原理、理論、具体的な援助技術、実践モデルやアプローチについて基本的な事項を理解することを目的に講義を行う。
本講義を通じて、個人や集団、地域において実際に行われているソーシャルワークについて理解を深めながら、実務者としての基礎を確立することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、レポート課題、リアクションペーパー、受講中の発言等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

・講義で学んだことの振り返りとして、毎回リアクションペーパーの提出を求める。
・リアクションペーパーの内容に関しては、次回の講義に必要に応じて代表的なものをフィードバックする。
・成績について知りたい学生については、個別に開示する。

## 参考文献

その都度紹介する。また、適宜資料を配布する。

## 講義時使用テキスト

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編「ソーシャルワークの理論と方法」[共通科目]中央法規出版,社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座12,初版,2021

## 資格との関連

社会福祉士(国家試験)受験資格取得のための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

・ソーシャルワークの理論と方法Ⅰは、原則として、社会福祉士プログラム履修者の科目であるため、社会福祉士の資格取得を目指す学生以外は、履修しないことが望ましい。
・また、「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」を履修していることが望ましい。
・専門的な知識の習得となるため、講義を中心としながらも学生発表の場を取り入れる。
期末試験については事前に試験のヒントを通知するのでこれを基にさらに確実な知識の蓄積を図ることを期待する。

## 実務との関連

社会福祉士としての実務経験を基に、ソーシャルワークの理論と方法について実践や事例を踏まえて講義をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>ソーシャルワークの概念(復習) | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 援助関係形成の意義と概念 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 人と環境の交互作用に関する理論とSW①<br>システム理論、生態学理論 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 人と環境の交互作用に関する理論とSW②<br>BPSモデル、ミクロ・メゾ・マクロSW | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | ソーシャルワークの展開過程①<br>ケース発見とエンゲージメント | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | ソーシャルワークの展開過程②<br>アセスメント | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | ソーシャルワークの展開過程③<br>プランニング | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | ソーシャルワークの展開過程④<br>支援実施・モニタリング | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | ソーシャルワークの展開過程⑥<br>終結・結果評価・アフターケア | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ①<br>治療・ストレングス・生活モデル | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ②<br>機能的・問題解決・課題中心アプローチ | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ③<br>行動変容・認知・危機介入アプローチ | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ④<br>エンパワメント・ナラティブ・解決志向アプローチ | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ⑤<br>様々なアプローチ | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅰまとめ(試験予定) | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 4010089001 ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

ソーシャルワークにおける理論及び援助技術について理解することができ、日常生活に支障のある方々への相談援助に応じる方法と関係機関との連絡・調整、さらには具体的な支援方法について理解することができることを目標とする。
①ソーシャルワークにおける理論及び援助技術について理解し、説明することができる。
②相談援助の方法と多職種連携・チームアプローチについて理解し、説明することができる。
③ソーシャルワークの展開過程について理解し、説明することができる。
④さまざまなソーシャルワークの実践モデルとアプローチについて理解し、説明することができる。

## 授業概要(教育目的)

社会福祉士に求められる倫理や原理、理論、具体的な援助技術、実践モデルやアプローチについて基本的な事項を理解することを目的に講義を行う。
本講義を通じて、個人や集団、地域において実際に行われているソーシャルワークについて理解を深めながら、実務者としての基礎を確立することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、レポート課題、リアクションペーパー、受講中の発言等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

・講義で学んだことの振り返りとして、毎回リアクションペーパーの提出を求める。
・リアクションペーパーの内容に関しては、次回の講義に必要に応じて代表的なものをフィードバックする。
・成績について知りたい学生については、個別に開示する。

## 参考文献

その都度紹介する。また、適宜資料を配布する。

## 講義時使用テキスト

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編「ソーシャルワークの理論と方法」[共通科目]中央法規出版,社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座12,初版,2021

## 資格との関連

社会福祉士(国家試験)受験資格取得のための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

・ソーシャルワークの理論と方法Ⅱは、原則として、社会福祉士プログラム履修者の科目であるため、社会福祉士の資格取得を目指す学生以外は、履修しないことが望ましい。
・また、「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」の単位を取得していることが望ましい。
・社会福祉士を目指すために、ソーシャルワークに関する基礎的知識の深化と応用方法の修得を行い、事例検討などの機会を通じて実際の相談援助の展開をイメージすることができることを目指す。

## 実務との関連

社会福祉士としての実務経験を基に、ソーシャルワークの理論と方法について実践や事例を踏まえて講義をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ソーシャルワークの展開過程(復習) | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | ソーシャルワークの面接の意義と目的 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | ソーシャルワークの面接の方法と実際(演習) | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | ソーシャルワークの記録の意義と目的、内容 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | ソーシャルワークの記録の実際(演習) | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | ケアマネジメントの原則、意義と方法 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | ケアマネジメントの実際(事例検討) | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | グループワークの意義と目的、展開過程 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | コミュニティーワークの意義と目的、展開 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | コミュニティーワークの展開・社会資源の開発 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | ソーシャルアドミニストレーションの概念と意義 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | ソーシャルアクションの概念と意義 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | スーパービジョンとコンサルテーション | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 人と環境の交互作用を踏まえたソーシャルワーク実践 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | ソーシャルワークの理論と方法Ⅱまとめ(試験予定) | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 4010089002 ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。
④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

## 授業概要(教育目的)

「ソーシャルワーク」に関する実践モデルやアプローチについて基本的な事項の理解および社会資源の活用の理解を通じ直接的援助技術と間接的援助技術における理解の深化と応用を目的に講義を行う。本講義を通じ、個人や集団、地域において実際に行われているソーシャルワークについて理解を深め、実務者としての基礎を確立することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、レポート課題、リアクションペーパー、受講中の発言等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

講義の際に適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)(最新・社会福祉士養成講座6)』中央法規出版、2021年

## 資格との関連

社会福祉士(国家試験)受験資格取得のための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

・ソーシャルワーク実践をする社会福祉士を目指すために、ソーシャルワークに関する基礎的知識の深化と応用方法の修得を行い、事例検討などの機会を通じて実際の相談援助の展開をイメージすることができることを目指す。そのため「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ」を履修していることが望ましい。
・欠席が多い場合は学期末試験を受けることができない。
・テキストは目を通しておくこと。
・授業中のスマートフォンおよびタブレット端末の操作、その他授業に関係ない言動は厳禁とする。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 2 | 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際①<br>総合的かつ包括的な支援の考え方 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 3 | 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際②:家族支援の実際①<br>家族が抱える課題と家族に関する基礎的理論 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 4 | 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際③:家族支援の実際②<br>家族理解のためのツールと家族支援の実際 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 5 | 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際④:地域支援の実際①<br>地域支援とは何かと地域支援の実際 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 6 | 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際⑤:地域支援の実際②<br>地域支援の特徴と必要な知識・スキル及び「価値」 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 7 | 総合的かつ包括的な支援におけるソーシャルワークの実際⑥<br>非常時や災害時支援の実際 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 8 | ソーシャルワークにおける援助関係の形成①<br>援助関係形成の意義と概念 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 9 | ソーシャルワークにおける援助関係の形成<br>援助関係の形成方法と留意点 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 10 | ネットワーキングの形成①<br>ネットワーキング | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 11 | ネットワーキングの形成②<br>コーディネーション | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 12 | ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発①<br>社会資源の活用・調整・開発 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 13 | ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発②<br>ソーシャルワーク実践と社会資源 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 14 | ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発③<br>社会資源開発の様々な方法 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 15 | 本講義の振り返りとまとめ | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |

| 講義名 | 4010089003 ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
②支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。
③社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。
④個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。

## 授業概要(教育目的)

「ソーシャルワーク」に関する実践モデルやアプローチについて基本的な事項の理解および社会資源の活用の理解を通じ直接的援助技術と間接的援助技術における理解の深化と応用を目的に講義を行う。本講義を通じ、個人や集団、地域において実際に行われているソーシャルワークについて理解を深め、実務者としての基礎を確立することを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、講義への出席および発表、受講中の発言等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

講義の際に適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)(最新・社会福祉士養成講座6)』中央法規出版、2021年

## 資格との関連

社会福祉士(国家試験)受験資格取得のための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

・ソーシャルワーク実践をする社会福祉士を目指すために、ソーシャルワークに関する基礎的知識の深化と応用方法の修得を行い、事例検討などの機会を通じて実際の相談援助の展開をイメージすることができることを目指す。そのため「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修していることが望ましい。
・欠席が多い場合は学期末試験を受けることができない。
・テキストは目を通しておくこと。
・授業中のスマートフォンおよびタブレット端末の操作、その他授業に関係ない言動は厳禁とする。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 2 | カンファレンス①<br>会議の種類と方法 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 3 | カンファレンス②<br>ミクロ・メゾ・マクロ(事例・ミクロとメゾ) | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 4 | カンファレンス③<br>ミクロ・メゾ・マクロ(事例・メゾとマクロ) | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 5 | 事例分析、事例検討、事例研究①<br>事例分析 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 6 | 事例分析、事例検討、事例研究②<br>事例検討 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 7 | 事例分析、事例検討、事例研究③<br>事例研究 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 8 | ソーシャルワークに関する技法①<br>ネゴシエーション | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 9 | ソーシャルワークに関する技法②<br>コンフリクト・レゾリューション | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 10 | ソーシャルワークに関する技法③<br>ファシリテーション | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 11 | ソーシャルワークに関する技法④<br>プレゼンテーション | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 12 | ソーシャル・マーケティング①<br>ソーシャル・マーケティングの周縁と広がり | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 13 | ソーシャル・マーケティング②<br>近隣領域におけるソーシャル・マーケティングとそのプロセス | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 14 | ソーシャル・マーケティング③<br>健康教育プログラム、実施と評価 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |
| 15 | 本講義の振り返りとまとめ | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、要点を整理する |

| 講義名 | 4010092000 福祉サービスの組織と経営 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 学生が福祉サービスの組織と経営の概要について説明できる。
2. 学生が福祉サービスの組織と経営に関する諸概念について説明できる。
3. 学生が福祉サービスの組織と経営をめぐる現状と課題について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本講義の目的は、福祉サービスの組織と経営を概観し、その役割とともに関係する諸概念について学ぶことである。かつて、福祉サービスの提供主体は、行政、社会福祉協議会、社会福祉法人などに限られていた。しかし、今日では民間企業や特定非営利活動法人の参入が認められており、様々な分野の組織が福祉サービスを提供している。提供主体の変化に伴い、社会福祉士にも組織に関する基礎理論とマネジメント能力が求められている。本講義では、組織の基礎理論とサービスの質を高めるマネジメントの概要を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、確認テスト、リアクションペーパー、レポート課題等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

・リアクションペーパーの内容に関して、必要に応じて次回の講義に代表的なものをフィードバックする。
・成績について知りたい学生については、個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『福祉サービスの組織と経営(最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座1)』中央法規出版、2021年

## 資格との関連

社会福祉士国家試験の受験資格を取得するための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

・講義で学んだことの振り返りとして、毎回リアクションペーパーの提出を求める。
・1か月に1回程度、講義の復習のため、確認テストを実施し、評価の対象とする。
・他の学生の迷惑となる行為は厳に慎むこと(私語や用事がなく教室を出入りすること等)。

## 実務との関連

社会福祉士としての実践やNPO法人の運営管理の実務経験を基に、福祉サービスの組織と経営の現状と課題を踏まえて講義をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 福祉サービスを提供する組織 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 2 | 福祉サービスの沿革と概況 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 3 | 組織間連携と促進 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 4 | 組織運営に関する基礎理論 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 5 | 集団の力学に関する基礎理論 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 6 | リーダーシップに関する基礎理論 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 7 | 経営体制 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 8 | 福祉サービスの提供組織のコンプライアンスとガバナンス | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 9 | 適切な福祉サービスの経営管理①<br>福祉経営の特質、経営管理に関する基礎理論 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 10 | 適切な福祉サービスの経営管理①<br>リスクマネジメント、サービスの質の向上 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 11 | 情報管理 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 12 | 会計管理と財務管理 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 13 | 福祉人材のマネジメント | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 14 | 働きやすい労働環境の整備 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 15 | 福祉サービスの組織と経営をめぐる現状と課題 | 福祉サービスの組織と経営に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |

| 講義名 | 4010109000 介護概論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 高橋　英成 | | |

## 学習目標(到達目標)

1 介護をとり巻く社会の現状を理解する。
2 介護に関する制度の基本的なしくみを理解する。
3 生活援助技術の基本を理解する。
4 介護予防、認知症予防の基本を理解する。
5 介護の代表的な専門職について理解する。
6 老化や障害といった心身の基本について理解する。
7 家族介護の基本について理解する。
8 安全な生活とリスクマネジメントの基本について理解する。

## 授業概要(教育目的)

本講義では、社会的な理解から始まり、具体的な生活援助技術までの介護の基礎知識を幅広く、網羅的に理解する。そのため、授業形態は、授業内容に応じて、演習を取り入れる場合がある。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験、課題提出により評価する。
ただし、欠席回数が5回以上の者は定期試験対象外とする。

また、毎回の授業終盤には、授業内容を確認する小テストもしくはリフレクションシート(授業の感想)を出席票として提出。未提出、未記載は評価対象外とする。そのため、授業内容を理解すること。

## 課題に対するフィードバック

課題やレポート、小テストを実施した際、これらの成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

「わたしたちの介護-介護に関する入門的研修テキスト」日本医療企画購入することが望ましい

## 資格との関連

＜社会福祉士を目指す学生＞
社会福祉士として活動するための最低限必要な介護スキルと知識の習得に関連する。社会福祉士は主に相談援助を行うが、介護施設での勤務や成年後見活動などで軽度の介助をする場面がある。病院受診の付き添いや車いす移動の際の介助、災害時の支援などが想定される。また介護職を サポートする上でも、社会福祉士は介護保険制度の調整などの制度の知識が求められる。

＜教職を目指す学生＞
高齢者介護施設の社会福祉士として、施設運営や相談業務の実務経験を有しており、学生のため、相談援助の視点から、在宅介護や施設介護の職種で指導介護等体験」に関連する。介護等体験の事前学習として本講座を受講してほしい。ヤングケアラーの生徒の心情理解をする上でも有益と思われる。

## 学生へのメッセージ

授業は、板書を中心に講義形式で行います。板書を撮影する場合には、その都度、申し出てください。
また、介助技術の体験などは演習形式で行うことがあります。演習の際には、介護実習室(9号館2階)に上履き、もしくはスリッパを持参してください。

＜社会福祉士を目指す学生＞
この授業は、概論として、介護に関する知識、技術を浅く広く学びます。あなたが相談員として、介護について何もわからず来談したクライエントに対し、わかりやすく教えられるように、介護の基本を学んでいきましょう。

＜教職を目指す学生＞
教職を志望する学生にとって「介護等体験」は不安なものかもしれません。また、ヤングケアラーの生徒に対しても、どのように接していいものか悩んでいるかもしれません。この授業を通して、介護を身近に感じて、介護に関わる人々の温かさややりがいについて学び、自信をつけてほしいと思います。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 私達の暮らしと介護 | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 2 | 介護の概念 | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 3 | 介護保険制度の概要 | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 4 | 介護における安全・安楽なからだの動かし方 | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 5 | 介護予防,認知症予防 | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 6 | 介護職の役割や介護の専門性 | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 7 | 生活支援技術の基本1<br>(自立に向けた介護) | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 8 | 生活支援技術の基本2(身支度・移動・睡眠の介護) | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 9 | 食事・口腔衛生の介護 | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 10 | 入浴・清潔・排泄の介護 | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 11 | 認知症ケア | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 12 | 家族介護者への支援 | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 13 | 住環境のしつらえ | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 14 | 障がいを持った人の暮らし | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 15 | 安全な生活とリスクマネジメント | 介護に関することを新聞やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |

| 講義名 | 4010110000 健康科学実習 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

・健康を支配する3要因を説明できる。
・環境中の物理的・化学的・生物的因子の測定を通して、健康と環境因子と関係を説明できる。
・様々の職場環境における職業病予防対策について説明できる。
・食習慣・生活習慣の実態把握のための栄養調査を通して、自己の栄養状況を客観的に評価できる。
・食品添加物や農薬、アレルギー物質の検査を通して食品の安全性を評価できる。
・身体の主な器官・組織の形態と機能を説明できる。
・身体状況の把握、骨密度測定を通して、自己の身体機能、栄養状態を判定することができる。

## 授業概要(教育目的)

健康の成立は宿主の免疫、栄養状態などの内因(素因)、病原菌、水、空気などの外因(環境)、運動、養生などの行動(態度)の3要因によって支配される。したがって、いずれかの要因が改善することにより健康の保持・増進の効果が期待される。本実習では①基本的知識として人体を構成する組織の観察及び身体状況の把握、②環境中の物理的・化学的・生物的因子の測定、③食習慣・生活習慣の実態把握のための栄養調査、④産業現場での労働者の健康増進活動の視察などを通して、健康にかかわる様々な要因を理解する礎とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

成績評価はレポートによる総括的評価と実習中の態度など形成的評価で行う。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

・系統看護学講座　専門基礎分野　解剖生理学-人体と構造と機能[1]-、坂井健雄・岡田隆夫著、医学書院
・衛生学・公衆衛生学実習、松久保　隆、中垣晴男、山中すみ　編、医歯薬出版株式会社

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。随時プリントを配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
授業を1/3以上欠席した場合、自動的に受験資格を失い、単位が未修得となる。本科目の授業形態は実習であり、遅刻は他の学生への実習の遅延や実習上の注意事項の聞き逃しによる事故発生につながるので厳禁とする。実習中は白衣を着用すること(但し、工場見学は除く)。解剖・生理学Ⅰ、Ⅱおよび医学一般、医学一般Ⅱを履修していること。また、公欠等による欠席の場合はレポート提出を条件に評価することとする。
食品衛生・微生物実験Ⅰ(栄養調査、微生物実験)1と2については2週に渡り実験するため、両方の回を出席すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 健康科学実習について | これまでの健康科学に関する内容を整理する。 | 講義内容に関する小レポートを実施する。 |
| 2 | 産業保健実習Ⅰ(工場見学) | 訪問する企業の企業研究を行う。予め掲示板にて周知する。 | 様々の職場環境における職業病予防対策について小レポートを実施する。 |
| 3 | 環境保健実習(温熱・大気・水質の測定、身の回りの衛生検査) | 2年次に使用した「衛生学・公衆衛生学」の教科書の「環境保健」の章を読んで、環境要因についての知識を深めておく | 測定データを整理し、環境要因と健康との関わりを考えながらレポートを仕上げる。 |
| 4 | 食品衛生・微生物実験Ⅰ(栄養調査、微生物実験)1 | 健康栄養学で習得した栄養調査の方法を整理しておく。 | 栄養調査の課題に取り組む。<br>食品の衛生実験の手法について配布したプリントを整理して理解を深める。 |
| 5 | 食品衛生・微生物実験Ⅰ(栄養調査、微生物実験)2 | 食品の衛生について(細菌による汚染)について調べる。 | 実験で得られたデータを基に、食品の衛生的な管理方法などについて検討する。 |
| 6 | 食品衛生・栄養評価Ⅱ(食の安全実習：食品添加物・農薬検出試験、食物アレルギー原因物質検出試験) | 食の安全の実態について調べる。 | 試験データから安全な食環境について検討するとともに食の安全対策について整理する。 |
| 7 | 人体と構造(器官・組織の観察) | 解剖生理学、医学一般で習得した知識を整理しておく。 | 参考文献(解剖生理学-人体と構造と機能[1])の関連箇所を読む。 |
| 8 | 人体と構造(身体状況の把握、骨密度測定) | 体組成、骨密度について調べる。 | 講義内容に関する小レポートを実施する。 |

| 講義名 | 4010111901 卒業研究Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

各自の研究テーマについて十分に調査研究し、結果をまとめ、質疑応答に耐えうるプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業概要(教育目的)

卒業研究ⅠならびにⅡは、3年次までに人間健康分野における基礎を十分修得した上でさらに深く研究に取り組む意欲のある学生や、大学院進学を目指す学生の履修を想定しており、求められる成果は高度なものとなる。指導教員の指導のもと、それぞれの研究テーマについて十分に調査し、結果をまとめ、発表することが求められる。授業計画表は、標準的なスケジュールである。詳細は各指導教員から指示を受けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

各自の研究テーマに関する論文の内容と、「卒論中間発表」における発表の内容を、他の教員の参考意見を加味し、指導教員が評価する。

## 課題に対するフィードバック

卒論は常時、教員と相談しながら進めて行き、提出された論文は添削後、早急に返却する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

指導教員が適宜紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

履修には次の要件がある。
①3年次修了時に卒業見込み単位93単位以上を修得していること。
②履修申請書に、研究演習の指導教員からの推薦(署名・捺印)があること。
③履修申請書に卒業論文指導教員と事前相談し、承認(署名・捺印)を得ていること。
④履修申請書を教務学生課に提出していること。
詳しくは「卒業論文の手引き」を参照せよ。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究方法の探索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 2 | 研究方法の確定 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 3 | 図書文献の検索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 4 | 雑誌論文の検索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 5 | その他の資料収集 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 6 | 参考文献目録の整理 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 7 | 参考文献目録の提出 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 8 | 章立て(目次)の整理 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 9 | 章立て(目次)の仮確定、提出 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 10 | 調査分析、本文の作成① | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 11 | 調査分析、本文の作成② | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 12 | 調査分析、本文の作成③ | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 13 | 調査分析、本文の作成④ | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 14 | 中間発表の準備 | 中間発表の内容をチェックし、発表要旨を作成する。 | 中間発表の発表要旨を修正し、発表スライド(パワーポイント)、発表原稿の作成を進める。 |
| 15 | 中間発表資料作成 | 中間発表の発表スライド(パワーポイント)、発表原稿を完成させる。 | 中間発表のための予行練習を行う。 |

| 講義名 | 4010111903 卒業研究Ⅰ（指導教員 金地美知彦） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

各自の研究テーマについて十分に調査研究し、結果をまとめ、質疑応答に耐えうるプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業概要(教育目的)

卒業研究ⅠならびにⅡは、3年次までに人間健康分野における基礎を十分修得した上でさらに深く研究に取り組む意欲のある学生や、大学院進学を目指す学生の履修を想定しており、求められる成果は高度なものとなる。指導教員の指導のもと、それぞれの研究テーマについて十分に調査し、結果をまとめ、発表することが求められる。授業計画表は、標準的なスケジュールである。詳細は各指導教員から指示を受けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

各自の研究テーマに関する論文の内容と、「卒論中間発表」における発表の内容を、他の教員の参考意見を加味し、指導教員が評価する。

## 課題に対するフィードバック

卒論は常時、教員と相談しながら進めて行き、提出された論文は添削後、早急に返却する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

指導教員が適宜紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

履修には次の要件がある。
①3年次修了時に卒業見込み単位93単位以上を修得していること。
②履修申請書に、研究演習の指導教員からの推薦(署名・捺印)があること。
③履修申請書に卒業論文指導教員と事前相談し、承認(署名・捺印)を得ていること。
④履修申請書を教務学生課に提出していること。
詳しくは「卒業論文の手引き」を参照せよ。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究方法の探索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 2 | 研究方法の確定 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 3 | 図書文献の検索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 4 | 雑誌論文の検索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 5 | その他の資料収集 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 6 | 参考文献目録の整理 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 7 | 参考文献目録の提出 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 8 | 章立て(目次)の整理 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 9 | 章立て(目次)の仮確定、提出 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 10 | 調査分析、本文の作成① | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 11 | 調査分析、本文の作成② | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 12 | 調査分析、本文の作成③ | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 13 | 調査分析、本文の作成④ | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 14 | 中間発表の準備 | 中間発表の内容をチェックし、発表要旨を作成する。 | 中間発表の発表要旨を修正し、発表スライド(パワーポイント)、発表原稿の作成を進める。 |
| 15 | 中間発表資料作成 | 中間発表の発表スライド(パワーポイント)、発表原稿を完成させる。 | 中間発表のための予行練習を行う。 |

| 講義名 | 4010111910 卒業研究Ⅰ（指導教員 大木えりか） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

各自の研究テーマについて十分に調査研究し、結果をまとめ、質疑応答に耐えうるプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業概要(教育目的)

卒業研究ⅠならびにⅡは、3年次までに人間健康分野における基礎を十分修得した上でさらに深く研究に取り組む意欲のある学生や、大学院進学を目指す学生の履修を想定しており、求められる成果は高度なものとなる。指導教員の指導のもと、それぞれの研究テーマについて十分に調査し、結果をまとめ、発表することが求められる。授業計画表は、標準的なスケジュールである。詳細は各指導教員から指示を受けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

各自の研究テーマに関する論文の内容と、「卒論中間発表」における発表の内容を、他の教員の参考意見を加味し、指導教員が評価する。

## 課題に対するフィードバック

卒論は常時、教員と相談しながら進めて行き、提出された論文は添削後、早急に返却する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

指導教員が適宜紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

履修には次の要件がある。
①3年次修了時に卒業見込み単位93単位以上を修得していること。
②履修申請書に、研究演習の指導教員からの推薦(署名・捺印)があること。
③履修申請書に卒業論文指導教員と事前相談し、承認(署名・捺印)を得ていること。
④履修申請書を教務学生課に提出していること。
詳しくは「卒業論文の手引き」を参照せよ。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究方法の探索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 2 | 研究方法の確定 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 3 | 図書文献の検索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 4 | 雑誌論文の検索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 5 | その他の資料収集 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 6 | 参考文献目録の整理 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 7 | 参考文献目録の提出 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 8 | 章立て(目次)の整理 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 9 | 章立て(目次)の仮確定、提出 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 10 | 調査分析、本文の作成① | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 11 | 調査分析、本文の作成② | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 12 | 調査分析、本文の作成③ | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 13 | 調査分析、本文の作成④ | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 14 | 中間発表の準備 | 中間発表の内容をチェックし、発表要旨を作成する。 | 中間発表の発表要旨を修正し、発表スライド(パワーポイント)、発表原稿の作成を進める。 |
| 15 | 中間発表資料作成 | 中間発表の発表スライド(パワーポイント)、発表原稿を完成させる。 | 中間発表のための予行練習を行う。 |

| 講義名 | 4010111911 卒業研究Ⅰ（指導教員 浜中のり子） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

各自の研究テーマについて十分に調査研究し、結果をまとめ、質疑応答に耐えうるプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業概要(教育目的)

卒業研究ⅠならびにⅡは、3年次までに人間健康分野における基礎を十分修得した上でさらに深く研究に取り組む意欲のある学生や、大学院進学を目指す学生の履修を想定しており、求められる成果は高度なものとなる。指導教員の指導のもと、それぞれの研究テーマについて十分に調査し、結果をまとめ、発表することが求められる。授業計画表は、標準的なスケジュールである。詳細は各指導教員から指示を受けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

各自の研究テーマに関する論文の内容と、「卒論中間発表」における発表の内容を、他の教員の参考意見を加味し、指導教員が評価する。

## 課題に対するフィードバック

卒論は常時、教員と相談しながら進めて行き、提出された論文は添削後、早急に返却する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

指導教員が適宜紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

履修には次の要件がある。
①3年次修了時に卒業見込み単位93単位以上を修得していること。
②履修申請書に、研究演習の指導教員からの推薦(署名・捺印)があること。
③履修申請書に卒業論文指導教員と事前相談し、承認(署名・捺印)を得ていること。
④履修申請書を教務学生課に提出していること。
詳しくは「卒業論文の手引き」を参照せよ。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究方法の探索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 2 | 研究方法の確定 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 3 | 図書文献の検索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 4 | 雑誌論文の検索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 5 | その他の資料収集 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 6 | 参考文献目録の整理 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 7 | 参考文献目録の提出 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 8 | 章立て(目次)の整理 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 9 | 章立て(目次)の仮確定、提出 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 10 | 調査分析、本文の作成① | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 11 | 調査分析、本文の作成② | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 12 | 調査分析、本文の作成③ | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 13 | 調査分析、本文の作成④ | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 14 | 中間発表の準備 | 中間発表の内容をチェックし、発表要旨を作成する。 | 中間発表の発表要旨を修正し、発表スライド(パワーポイント)、発表原稿の作成を進める。 |
| 15 | 中間発表資料作成 | 中間発表の発表スライド(パワーポイント)、発表原稿を完成させる。 | 中間発表のための予行練習を行う。 |

| 講義名 | 4010111912 卒業研究Ⅰ（指導教員 井元紀子） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

各自の研究テーマについて十分に調査研究し、結果をまとめ、質疑応答に耐えうるプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業概要(教育目的)

卒業研究ⅠならびにⅡは、3年次までに人間健康分野における基礎を十分修得した上でさらに深く研究に取り組む意欲のある学生や、大学院進学を目指す学生の履修を想定しており、求められる成果は高度なものとなる。指導教員の指導のもと、それぞれの研究テーマについて十分に調査し、結果をまとめ、発表することが求められる。授業計画表は、標準的なスケジュールである。詳細は各指導教員から指示を受けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

各自の研究テーマに関する論文の内容と、「卒論中間発表」における発表の内容を、他の教員の参考意見を加味し、指導教員が評価する。

## 課題に対するフィードバック

卒論は常時、教員と相談しながら進めて行き、提出された論文は添削後、早急に返却する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

指導教員が適宜紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

履修には次の要件がある。
①3年次修了時に卒業見込み単位93単位以上を修得していること。
②履修申請書に、研究演習の指導教員からの推薦(署名・捺印)があること。
③履修申請書に卒業論文指導教員と事前相談し、承認(署名・捺印)を得ていること。
④履修申請書を教務学生課に提出していること。
詳しくは「卒業論文の手引き」を参照せよ。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 研究方法の探索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 2 | 研究方法の確定 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 3 | 図書文献の検索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 4 | 雑誌論文の検索 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 5 | その他の資料収集 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 6 | 参考文献目録の整理 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 7 | 参考文献目録の提出 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 8 | 章立て(目次)の整理 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 指導内容を整理する。 |
| 9 | 章立て(目次)の仮確定、提出 | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 10 | 調査分析、本文の作成① | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 11 | 調査分析、本文の作成② | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 12 | 調査分析、本文の作成③ | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 13 | 調査分析、本文の作成④ | 各自のテーマに合わせてインターネットや文献で資料収集を行う。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 14 | 中間発表の準備 | 中間発表の内容をチェックし、発表要旨を作成する。 | 中間発表の発表要旨を修正し、発表スライド(パワーポイント)、発表原稿の作成を進める。 |
| 15 | 中間発表資料作成 | 中間発表の発表スライド(パワーポイント)、発表原稿を完成させる。 | 中間発表のための予行練習を行う。 |

| 講義名 | 4010112000 卒業研究Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

各自の研究テーマについて十分に調査研究し、結果をまとめ、質疑応答に耐えうるプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業概要(教育目的)

卒業研究ⅠならびにⅡは、3年次までに人間健康分野における基礎を十分修得した上でさらに深く研究に取り組む意欲のある学生や、大学院進学を目指す学生の履修を想定しており、求められる成果は高度なものとなる。指導教員の指導のもと、それぞれの研究テーマについて十分に調査し、結果をまとめ、発表することが求められる。授業計画表は、標準的なスケジュールである。詳細は各指導教員から指示を受けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

各自の研究テーマに関する論文の内容と「卒業論文発表会」における発表の内容を、他の教員の参考意見を加味し、指導教員が評価する。

## 課題に対するフィードバック

卒論は常時、教員と相談しながら進めて行き、提出された論文は添削後、早急に返却する。

## 参考文献

指導教員が適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

指導教員が適宜紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

履修には次の要件がある。
①3年次修了時に卒業見込み単位93単位以上を修得していること。
②履修申請書に、研究演習の指導教員からの推薦(署名・捺印)があること。
③履修申請書に卒業論文指導教員と事前相談し、承認(署名・捺印)を得ていること。
④履修申請書を教務学生課に提出していること。
⑤「卒業研究Ⅰ」の単位を取得していること
詳しくは「卒業論文の手引き」を参照せよ。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中間発表の反省 | 中間発表の内容を振り返る。 | 指導内容を整理する。 |
| 2 | 課題、研究範囲の再整理 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 3 | 新規文献の検索 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 4 | 新規雑誌論文、その他の資料の検索 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 5 | 参考文献目録の再整理、再提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 6 | 章立て(目次)の再整理 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 7 | 章立て目次の確定、再提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 8 | 調査分析、本文の作成⑤ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 9 | 調査分析、本文の作成⑥ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 10 | 調査分析、本文の作成⑦ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 11 | 調査分析、本文の作成⑧ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 12 | 卒業論文の仮提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 13 | 卒論発表会の準備 | 卒論発表の内容をチェックし、発表要旨を作成する。 | 発表要旨を修正し、発表スライド(パワーポイント)、発表原稿の作成を進める。 |
| 14 | 卒論発表会資料作成 | 発表スライド(パワーポイント)、発表原稿を作成する。 | 発表スライド(パワーポイント)、発表原稿を修正する |
| 15 | ・卒論発表会リハーサル<br>・卒業論文最終添削 | ・卒論発表会リハーサル<br>・卒業論文最終添削 | ・発表の予行演習を行う。<br>・添削内容を確認し、卒業論文を完成させる。 |

| 講義名 | 4010112002 卒業研究Ⅱ（指導教員 金地美知彦） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

各自の研究テーマについて十分に調査研究し、結果をまとめ、質疑応答に耐えうるプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業概要(教育目的)

卒業研究ⅠならびにⅡは、3年次までに人間健康分野における基礎を十分修得した上でさらに深く研究に取り組む意欲のある学生や、大学院進学を目指す学生の履修を想定しており、求められる成果は高度なものとなる。指導教員の指導のもと、それぞれの研究テーマについて十分に調査し、結果をまとめ、発表することが求められる。授業計画表は、標準的なスケジュールである。詳細は各指導教員から指示を受けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

各自の研究テーマに関する論文の内容と「卒業論文発表会」における発表の内容を、他の教員の参考意見を加味し、指導教員が評価する。

## 課題に対するフィードバック

卒論は常時、教員と相談しながら進めて行き、提出された論文は添削後、早急に返却する。

## 参考文献

指導教員が適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

指導教員が適宜紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

履修には次の要件がある。
①3年次修了時に卒業見込み単位93単位以上を修得していること。
②履修申請書に、研究演習の指導教員からの推薦（署名・捺印）があること。
③履修申請書に卒業論文指導教員と事前相談し、承認（署名・捺印）を得ていること。
④履修申請書を教務学生課に提出していること。
⑤「卒業研究Ⅰ」の単位を取得していること
詳しくは「卒業論文の手引き」を参照せよ。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中間発表の反省 | 中間発表の内容を振り返る。 | 指導内容を整理する。 |
| 2 | 課題、研究範囲の再整理 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 3 | 新規文献の検索 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 4 | 新規雑誌論文、その他の資料の検索 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 5 | 参考文献目録の再整理、再提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 6 | 章立て（目次）の再整理 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 7 | 章立て目次の確定、再提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 8 | 調査分析、本文の作成⑤ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 9 | 調査分析、本文の作成⑥ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 10 | 調査分析、本文の作成⑦ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 11 | 調査分析、本文の作成⑧ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 12 | 卒業論文の仮提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 13 | 卒論発表会の準備 | 卒論発表の内容をチェックし、発表要旨を作成する。 | 発表要旨を修正し、発表スライド（パワーポイント）、発表原稿の作成を進める。 |
| 14 | 卒論発表会資料作成 | 発表スライド（パワーポイント）、発表原稿を作成する。 | 発表スライド（パワーポイント）、発表原稿を修正する |
| 15 | ・卒論発表会リハーサル<br>・卒業論文最終添削 | ・卒論発表会リハーサル<br>・卒業論文最終添削 | ・発表の予行演習を行う。<br>・添削内容を確認し、卒業論文を完成させる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010112009 卒業研究Ⅱ（指導教員 大木えりか） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

各自の研究テーマについて十分に調査研究し、結果をまとめ、質疑応答に耐えうるプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業概要(教育目的)

卒業研究ⅠならびにⅡは、3年次までに人間健康分野における基礎を十分修得した上でさらに深く研究に取り組む意欲のある学生や、大学院進学を目指す学生の履修を想定しており、求められる成果は高度なものとなる。指導教員の指導のもと、それぞれの研究テーマについて十分に調査し、結果をまとめ、発表することが求められる。授業計画表は、標準的なスケジュールである。詳細は各指導教員から指示を受けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

各自の研究テーマに関する論文の内容と「卒業論文発表会」における発表の内容を、他の教員の参考意見を加味し、指導教員が評価する。

## 課題に対するフィードバック

卒論は常時、教員と相談しながら進めて行き、提出された論文は添削後、早急に返却する。

## 参考文献

指導教員が適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

指導教員が適宜紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

履修には次の要件がある。
①3年次修了時に卒業見込み単位93単位以上を修得していること。
②履修申請書に、研究演習の指導教員からの推薦（署名・捺印）があること。
③履修申請書に卒業論文指導教員と事前相談し、承認（署名・捺印）を得ていること。
④履修申請書を教務学生課に提出していること。
⑤「卒業研究Ⅰ」の単位を取得していること
詳しくは「卒業論文の手引き」を参照せよ。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中間発表の反省 | 中間発表の内容を振り返る。 | 指導内容を整理する。 |
| 2 | 課題、研究範囲の再整理 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 3 | 新規文献の検索 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 4 | 新規雑誌論文、その他の資料の検索 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 5 | 参考文献目録の再整理、再提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 6 | 章立て（目次）の再整理 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 7 | 章立て目次の確定、再提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 8 | 調査分析、本文の作成⑤ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 9 | 調査分析、本文の作成⑥ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 10 | 調査分析、本文の作成⑦ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 11 | 調査分析、本文の作成⑧ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 12 | 卒業論文の仮提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 13 | 卒論発表会の準備 | 卒論発表の内容をチェックし、発表要旨を作成する。 | 発表要旨を修正し、発表スライド（パワーポイント）、発表原稿の作成を進める。 |
| 14 | 卒論発表会資料作成 | 発表スライド（パワーポイント）、発表原稿を作成する。 | 発表スライド（パワーポイント）、発表原稿を修正する |
| 15 | ・卒論発表会リハーサル<br>・卒業論文最終添削 | ・卒論発表会リハーサル<br>・卒業論文最終添削 | ・発表の予行演習を行う。<br>・添削内容を確認し、卒業論文を完成させる。 |

| 講義名 | 4010112010 卒業研究Ⅱ（指導教員 浜中のり子） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

各自の研究テーマについて十分に調査研究し、結果をまとめ、質疑応答に耐えうるプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業概要(教育目的)

卒業研究ⅠならびにⅡは、3年次までに人間健康分野における基礎を十分修得した上でさらに深く研究に取り組む意欲のある学生や、大学院進学を目指す学生の履修を想定しており、求められる成果は高度なものとなる。指導教員の指導のもと、それぞれの研究テーマについて十分に調査し、結果をまとめ、発表することが求められる。授業計画表は、標準的なスケジュールである。詳細は各指導教員から指示を受けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

各自の研究テーマに関する論文の内容と「卒業論文発表会」における発表の内容を、他の教員の参考意見を加味し、指導教員が評価する。

## 課題に対するフィードバック

卒論は常時、教員と相談しながら進めて行き、提出された論文は添削後、早急に返却する。

## 参考文献

指導教員が適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

指導教員が適宜紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

履修には次の要件がある。
①3年次修了時に卒業見込み単位93単位以上を修得していること。
②履修申請書に、研究演習の指導教員からの推薦（署名・捺印）があること。
③履修申請書に卒業論文指導教員と事前相談し、承認（署名・捺印）を得ていること。
④履修申請書を教務学生課に提出していること。
⑤「卒業研究Ⅰ」の単位を取得していること
詳しくは「卒業論文の手引き」を参照せよ。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中間発表の反省 | 中間発表の内容を振り返る。 | 指導内容を整理する。 |
| 2 | 課題、研究範囲の再整理 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 3 | 新規文献の検索 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 4 | 新規雑誌論文、その他の資料の検索 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 5 | 参考文献目録の再整理、再提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 6 | 章立て（目次）の再整理 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 7 | 章立て目次の確定、再提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 8 | 調査分析、本文の作成⑤ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 9 | 調査分析、本文の作成⑥ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 10 | 調査分析、本文の作成⑦ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 11 | 調査分析、本文の作成⑧ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 12 | 卒業論文の仮提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 13 | 卒論発表会の準備 | 卒論発表の内容をチェックし、発表要旨を作成する。 | 発表要旨を修正し、発表スライド（パワーポイント）、発表原稿の作成を進める。 |
| 14 | 卒論発表会資料作成 | 発表スライド（パワーポイント）、発表原稿を作成する。 | 発表スライド（パワーポイント）、発表原稿を修正する |
| 15 | ・卒論発表会リハーサル<br>・卒業論文最終添削 | ・卒論発表会リハーサル<br>・卒業論文最終添削 | ・発表の予行演習を行う。<br>・添削内容を確認し、卒業論文を完成させる。 |

| 講義名 | 4010112011 卒業研究Ⅱ（指導教員 井元紀子） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

各自の研究テーマについて十分に調査研究し、結果をまとめ、質疑応答に耐えうるプレゼンテーションを行うことができる。

## 授業概要(教育目的)

卒業研究ⅠならびにⅡは、3年次までに人間健康分野における基礎を十分修得した上でさらに深く研究に取り組む意欲のある学生や、大学院進学を目指す学生の履修を想定しており、求められる成果は高度なものとなる。指導教員の指導のもと、それぞれの研究テーマについて十分に調査し、結果をまとめ、発表することが求められる。授業計画表は、標準的なスケジュールである。詳細は各指導教員から指示を受けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

各自の研究テーマに関する論文の内容と「卒業論文発表会」における発表の内容を、他の教員の参考意見を加味し、指導教員が評価する。

## 課題に対するフィードバック

卒論は常時、教員と相談しながら進めて行き、提出された論文は添削後、早急に返却する。

## 参考文献

指導教員が適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

指導教員が適宜紹介する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

履修には次の要件がある。
①3年次修了時に卒業見込み単位93単位以上を修得していること。
②履修申請書に、研究演習の指導教員からの推薦（署名・捺印）があること。
③履修申請書に卒業論文指導教員と事前相談し、承認（署名・捺印）を得ていること。
④履修申請書を教務学生課に提出していること。
⑤「卒業研究Ⅰ」の単位を取得していること
詳しくは「卒業論文の手引き」を参照せよ。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 中間発表の反省 | 中間発表の内容を振り返る。 | 指導内容を整理する。 |
| 2 | 課題、研究範囲の再整理 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 3 | 新規文献の検索 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 4 | 新規雑誌論文、その他の資料の検索 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 5 | 参考文献目録の再整理、再提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 6 | 章立て（目次）の再整理 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 7 | 章立て目次の確定、再提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 8 | 調査分析、本文の作成⑤ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 9 | 調査分析、本文の作成⑥ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 10 | 調査分析、本文の作成⑦ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 11 | 調査分析、本文の作成⑧ | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 12 | 卒業論文の仮提出 | 前回の指導内容を確認する。 | 添削内容を確認し、卒業論文を進める。 |
| 13 | 卒論発表会の準備 | 卒論発表の内容をチェックし、発表要旨を作成する。 | 発表要旨を修正し、発表スライド（パワーポイント）、発表原稿の作成を進める。 |
| 14 | 卒論発表会資料作成 | 発表スライド（パワーポイント）、発表原稿を作成する。 | 発表スライド（パワーポイント）、発表原稿を修正する |
| 15 | ・卒論発表会リハーサル<br>・卒業論文最終添削 | ・卒論発表会リハーサル<br>・卒業論文最終添削 | ・発表の予行演習を行う。<br>・添削内容を確認し、卒業論文を完成させる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010114000 コーチング論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

## 学習目標(到達目標)

・新しい時代にふさわしいコーチングを行うための資質能力を習得する。
・グッドコーチに求められる人間力(思考・判断、態度・行動)を習得する。
・グッドコーチに求められる知識・技能(共通・専門)を習得する。

## 授業概要(教育目的)

本科目は、新しい時代にふさわしいグッドコーチ育成のための科目である。事前学習や授業後の振り返りなどが重要となる。単元によっては、その内容を論じるにふさわしい外部講師が講義を担当する場合がある。コーチ(運動指導者)には、スポーツに関する幅広い知識が求められる。運動学的な知識はもちろんのこと、選手とのコミュニケーション、ハラスメント、倫理的観点、法律に関することなど、現代のコーチに求める資質は多岐に渡る。本講義ではそれらに関する基礎的知識を学習するとともに、実際の指導現場での活用方法に関しても学修する。
一部の講義においてはゲストティーチャーを招聘し、実現場の活動を例に講義を実施する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

期末評価を重視するが、平常時のリアクションペーパーやレポート課題等を総合的に評価する。
平常評価(発表や小レポート:40%)
期末評価(選択問題・期末レポート等:60%)

## 課題に対するフィードバック

講義成績(授業ごとのレポート、小テスト)を知りたい学生には個別に開示する。
期末評価の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 講義時使用テキスト

特にテキストは定めない。講義資料は必要に応じて配布する。

## 参考文献

知的コーチングのすすめ―頂点をめざす競技者育成の鍵 単行本 - 勝田 隆 (著), 河野 一郎 (監修)
コーチング学への招待 単行本 - 日本コーチング学会 (編集)
ダブル・ゴール・コーチ―勝利と豊かな人生を手に入れるための指導法 ― 単行本 - ジム・トンプソン (著), 鈴木 佑依子 (翻訳)

## 資格との関連

「日本スポーツ協会(JSPO)公認スポーツコーチングリーダー(旧コーチングアシスタント)」取得のための必修科目である。

## 学生へのメッセージ

スポーツ指導者として、適切な人間関係を結ぶためのコミュニケーション能力獲得の方法、指導現場で発生する諸問題を適切に解決するためのスキルの獲得、選手を取り巻く諸問題をマネジメントする能力の獲得や指導者として身につけておかなければならないモラル等について学び、実際のスポーツ指導に必要となる基礎的な知見を身につけることをねらいとする。毎回の授業前後に課される演習問題に積極的に取り組むこと。
所属部活動(サークル活動含む)や卒業高校、中学及びクラブでのコーチングを想定し、最終レポートを提出する。
全回出席を基本とし、1/3以上欠席した場合は単位未修得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | コーチングの理念・哲学①(スポーツの意義と価値) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 2 | コーチングの理念・哲学②(学び続けるコーチ、コーチング及びコーチとは、コーチに求められる資質能力) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 3 | コーチングの理念・哲学③(コーチの倫理観・規範意識、コーチの役割と使命) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 4 | 対自分力①(多様な思考法) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 5 | 対自分力②(コーチのセルフコントロール、コーチのキャリアデザイン) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 6 | 対他者力①(コミュニケーション) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 7 | 対他者力②(人的環境(関係者との信頼関係)の構築、プレーヤーのキャリアデザイン | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 8 | トレーニング科学①(スポーツトレーニングの基本的な考え方と理論体系 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 9 | トレーニング科学②(体力トレーニング、技術トレーニング) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 10 | トレーニング科学③(メンタルトレーニング、スポーツの心理) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 11 | スポーツ医・科学①(スポーツと健康、アンチ・ドーピング) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 12 | スポーツ医・科学②(外傷と障害の予防、救急処置) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 13 | スポーツ医・科学③(スポーツと栄養) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 14 | 今後のスポーツ指導の方向と課題(ライフステージに応じたコーチング、プレーヤーの特性に応じたコーチング、コーチング現場の特徴と課題) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 15 | 講義のまとめとレポートの解説 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010115000 地域福祉と包括的支援体制Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

①地域福祉の基本的な考え方(人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等含む)について理解する。
②地域福祉の主体と対象について理解する。
③地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。
④地域福祉におけるネットワーキング(他職種、多機関との連携を含む)の意義と方法及びその実際について理解する。
⑤地域福祉の推進方法(ネットワーキング、社会資源の活用、調整・開発・福祉ニーズの把握方法、地域トータルケアシステムの構築方法、サービスの評価方法を含む)について理解する。

## 授業概要(教育目的)

我が国における地域福祉の理念と基本的な考え方を理解する。地域社会の推進方法を知り、今何が必要なのかを具体的に把握する。又地域における福祉サービスの役割や自助・公助・共助の内容について知識を深め、地域福祉推進のための課題と方向性について理解する。達成目標は、地域福祉計画の意義と内容又地域推進機関・人材について説明できること。社会福祉国家試験対応の知識を持つことである。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験、レポート

## 課題に対するフィードバック

個別の問い合わせに応じる。

## 参考文献

上野谷 加代子・松端 克文・永田 祐 編著『新版 よくわかる地域福祉』ミネルヴァ書房(2019)

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉と包括的支援体制』中央法規出版(2021)

## 資格との関連

社会福祉士国家資格受験必修科目である。(指定科目)

## 学生へのメッセージ

【その他特記事項】
地域福祉の実践者による講話を検討している。

## 実務との関連

大阪市内の社会福祉協議会において、コミュニティソーシャルワーカーとして1年間勤務した経験がある。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ・地域福祉の概念と理論<br>・地域福祉の構造と機能<br>(福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス論等) | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 2 | 地域福祉の歴史 | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 3 | 地域福祉の推進主体<br>・地方自治体<br>・NPO、市民活動組織、中間支援組織 | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 4 | 地域福祉の推進主体<br>・社会福祉協議会<br>・民生委員児童委員<br>・当事者団体<br>・共同募金<br>・企業 | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 5 | ・当事者、代弁者<br>・ボランティア<br>・市民活動、住民自治、住民主体<br>・参加と協働、エンパワーメント、アドボカシー | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 6 | ・コミュニティソーシャルワーク、コミュニティサービス、ケアリングコミュニティ<br>・地域再生 | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 7 | ・地域社会の概念、理論<br>・地域社会の変化(過疎化等)<br>・引きこもり、ニート、8050問題、ダブルケア等<br>・社会的孤立、社会的排除<br>・セルフネグレクト | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 8 | ・包括的支援体制<br>・地域包括ケアシステム<br>・生活困窮者自立支援制度と理念<br>・他機関協働による包括的支援体制<br>・住民に身近な圏域における相談支援体制 | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 9 | ・生活困窮者自立支援制度と理念<br>・他機関協働による包括的支援体制<br>・住民に身近な圏域における相談支援体制 | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 10 | ・他機関協働を促す仕組み<br>(総合相談、地域ケア会議等)・保健、医療、福祉に関わる多職種連携<br>・多職種連携における個人情報保護<br>・農福連携、観光や商工との連携<br>・地方再生 | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 11 | ・地域福祉のガバナンスの考え方<br>・多様化、複雑化した課題と他機関協働の必要性<br>・住民参加と協働、住民自治 | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 12 | ・地域共生社会(地域力の強化、包括的支援体制) | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 13 | 地域を基盤としたソーシャルワークの展開<br>・地域を基盤としたソーシャルワークの方法<br>・住民の主体形成に向けたアプローチ<br>・具体的な展開 | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 14 | ゲストスピーカーの招聘(検討中)<br>地域福祉の実際を学ぶ | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | ゲストティーチャーの講和についてレポートを作成すること。 |
| 15 | まとめ | 教科書の該当箇所をで読んでくること。 | 地域の特徴に合わせて福祉計画があることを確認また地域独自の政策に関心を持つこと |

| 講義名 | 4010116000 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

①地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。
②地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の概念を理解する。
③地域福祉を推進するための、福祉行財政の実施体制と果たす役割について理解する。
④地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。
⑤包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。
⑥地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。

## 授業概要(教育目的)

我が国における地域福祉の理念と基本的な考え方を理解する。地域社会の推進方法を知り、今何が必要なのかを具体的に把握する。また地域における福祉サービスの役割や自助・公助・共助の内容について知識を深る。さらに災害時における総合的かつ包括的な支援体制や地域福祉推進のための課題と方向性について理解する。
達成目標は、地域福祉計画の意義と内容又地域推進機関・人材について説明できること、社会福祉国家試験対応の知識を持つことである。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト、レポート20%、定期試験80%とする

## 課題に対するフィードバック

小テストはその都度回答する。
授業の最後に質問を受ける。

## 参考文献

教員が紹介する

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『地域福祉と包括的支援体制』(第2版) 中央法規出版、2026年

## 資格との関連

社会福祉士国家資格受験必修科目である

## 学生へのメッセージ

社会福祉士国家試験に準じた小テストを行う。
受講者の出身地域の地域福祉計画を調べておくこと。
【その他特記事項】
実践者からの講話

## 実務との関連

社会福祉実践の現場においては、地域や地域の人々との協働が求められており、この科目は実践と理論を融合する重要な学びである。福祉活動専門員(コミュニティソーシャルワーカー)として社会福祉協議会に勤務した実務経験をもとに、地域福祉や福祉行財政、福祉計画が人々の生活にいかに寄与しているかについて講義する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ・地域を基盤としたソーシャルワークの概念<br>・地域を基盤としたソーシャルワークが求められてきた背景<br>・生活困窮者自立支援とコミュニティソーシャルワーク | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 2 | ・地域共生社会に向けたアプローチ<br>・住民の主体形成に向けたアプローチ<br>・住民の主体形成の方法 | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 3 | ・事例の展開課程を通して地域を基盤としたソーシャルワークの展開の具体を学ぶ | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 4 | 1非常時や災害時における法制度<br>・災害対策基本法、災害救助法<br>・各自治体等の避難計画 | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 5 | 2非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援<br>・災害時要援護者支援<br>・BCP(事業継続計画)<br>・福祉避難所運営<br>・災害ボランティア | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 6 | 1福祉計画の意義・目的と展開<br>・福祉行財政と福祉計画の関係<br>・福祉計画の歴史<br>・福祉計画の種類(地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画、子ども・子育て支援事業計画、民間の福祉計画等) | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 7 | 2市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容<br>・地域福祉と計画行政の関係<br>・市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画の定義、機能<br>・地域福祉活動計画との関係 | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 8 | 3福祉計画の策定過程と方法<br>・課題把握・分析<br>・協議と合意形成<br>4福祉計画の実施と評価<br>・モニタリング評価<br>・サービス評価<br>・プログラム評価 | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 9 | 1国の役割 ・法定受託事務と自治事務<br>2都道府県の役割 ・福祉行政の広域的調、事業者の指導監督<br>3市町村の役割 ・サービスの運営主体<br>・条例<br>・社会福祉審議会 | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 10 | 4国と地方の関係・地方分権、地方自治、地域主権、地方創生<br>5福祉行政の組織及び専門職の役割<br>・福祉事務所、児童相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、精神保健福祉センター、婦人相談所、地域包括支援センター 等<br>・福祉事務所の現業員・査察指導員、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、精神保健福祉相談員 等<br>6福祉における財源 ・国の財源、地方の財源、保険料財源<br>・民間の財源 | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 11 | 1多機関協働を促進する仕組み<br>・総合相談<br>・各種相談機関の連携<br>・協議体<br>・地域ケア会議<br>・地域包括支援センター運営協議会<br>・要保護児童対策地域協議会<br>・障害者自立支援協議会 | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 12 | 2多職種連携 ・保健・医療・福祉に関わる職種連携<br>・生活支援全般に関わるネットワーク<br>・多職種連携等における個人情報保護<br>3福祉以外の分野との機関協働の実際<br>・社会的企業<br>・農福連携<br>・観光、商工労働等との連携<br>・地方創生 | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 資料からも専門用語の確認をすること |
| 13 | 地域福祉の主体と形成<br>・当事者、代弁者<br>・ボランティア<br>・市民活動、住民自治、住民主体<br>・参加と協働、エンパワメント、アドボカシー<br>・福祉教育とは | テーマになる内容を教科書で読んでくること | 災害ボランティアについてまとめること |
| 14 | 地域福祉の実際を学ぶ<br>・災害ボランティアセンター運営の実際<br>・福祉避難所の実際<br>・生活支援の実際 | 災害ボランティアについて調べてまとめてくること | ゲストティーチャーの発言をまとめること |
| 15 | 1地域福祉ガバナンス<br>・ガバナンスの考え方<br>・多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性<br>・社会福祉法における包括的な支援体制づくり<br>・住民の参加と協働、住民自治<br>・プラットフォームの形成と運営<br>2地域共生社会の構築<br>・地域共生社会<br>・地域力の強化、包括的支援体制 | 全体を振り返り質問事項をまとめる | 地域の特徴に合わせて福祉計画があることを確認また地域独自の政策に関心を持つこと |
| | | | |

| 講義名 | 4010117000 社会保障Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 社会保障を必要とする人々の生活実態と各制度がいかに機能しているかを説明できる。
2. 社会保障をめぐる問題を構造的に捉える視点を身につける。

## 授業概要(教育目的)

本講義の目的は、今日の貧困をめぐる実態と社会保障の果たす役割を学ぶことである。社会保障は、資本主義が構造的に生み出す貧困問題に対して、国家が国民に生活保障することを求められ、生成してきた。そのため、市場とは異なる基本原理で運用されている。具体的には、医療保険制度、年金保険制度、介護保険制度、労働保険制度、社会福祉制度などがある。社会保障は個別の制度を理解しながら、国民生活と社会経済を視野に入れて捉える必要がある。本講義では、各制度の現状と課題を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト・レポート(20%)及び期末試験(80%)による。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生は個別に開示する。

## 参考文献

講義時に適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会保障 第2版(最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座7)』中央法規出版、2025年

## 資格との関連

社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は必ず受講すること。

## 学生へのメッセージ

社会福祉士国家試験受験資格の指定科目である。
なお、相互授業を目指しているので、質問はいつでも受け付ける。
他の学生に迷惑となるので、私語は厳に慎むこと。

## 実務との関連

福祉活動専門員(コミュニティソーシャルワーカー)として社会福祉協議会に勤務。実務経験をもとに、今日の貧困をめぐる実態と社会保障の果たす役割について話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 現代社会と社会保障<br>・人口動態の変化<br>・経済環境の変化<br>・労働環境の変化 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 2 | 社会保障の概念や対象及びその理念(1)<br>・社会保障の概念と範囲<br>・社会保障の役割と意義 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 3 | 社会保障の概念や対象及びその理念(2)<br>・社会保障の理念<br>・社会保障の対象 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 4 | 社会保障の概念や対象及びその理念(3)<br>・社会保障制度の展開 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 5 | 社会保障の財政(1)<br>・社会保障の財政<br>・社会保障給付費の内訳、動向 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 6 | 社会保障の財政(2)<br>・国民負担率<br>・社会保障と経済 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 7 | 社会保険・社会扶助・民間保険の関係<br>・保険と扶助の考え方<br>・社会保険と社会扶助の考え方<br>・社会保険と民間保険の現状 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 8 | 社会保障制度の体系(1)<br>・医療保険制度の概要 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 9 | 社会保障制度の体系(2)<br>・介護保険制度の概要 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 10 | 社会保障制度の体系(3)<br>・年金制度の概要 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 11 | 社会保障制度の体系(4)<br>・労災保険制度と雇用保険制度の概要 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 12 | 社会保障制度の体系(5)<br>・生活保護制度の概要 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 13 | 社会保障制度の体系(6)<br>・社会手当制度の概要<br>・社会福祉制度の概要 | 事前に指定された文献や資料を読んでおくこと | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 14 | 社会保障が当面する課題<br>(グループワークを行い、課題を整理し、各グループからプレゼンテーションを行う。) | 事前に指定された文献や資料を読んでおくこと | 確認テスト・小テストを復習しておくこと |
| 15 | 諸外国における社会保障制度 | 事前に指定された文献や資料を読んでおくこと | 確認テスト・小テストを復習しておくこと |

| 講義名 | 4010118000 社会保障Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

①社会保障制度の展開過程について理解する。
②社会保障制度の体系と概要について理解する。
③各社会保障制度の概要、財政について理解する。
④公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。

## 授業概要(教育目的)

今日の貧困をめぐる実態と社会保障の果たす役割を学ぶ。社会保障は、資本主義が構造的に生み出す貧困問題に対して、国家が国民に生活保障することを求められ、生成してきた。そのため、市場とは異なる基本原理で運用されている。具体的には、医療保険制度、年金保険制度、介護保険制度、労働保険制度、社会福祉制度などがある。社会保障は個別の制度を理解しながら、国民生活と社会経済を視野に入れて捉える必要がある。本講義では、各制度の現状と課題を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、確認テスト、リアクションペーパー、レポート課題等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

・リアクションペーパーの内容に関して、必要に応じて次回の講義に代表的なものをフィードバックする。
・成績について知りたい学生については、個別に開示する。

## 参考文献

講義時に適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『社会保障(第2版)(最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座7)』中央法規出版、2025年

## 資格との関連

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉士資格を取得しようとする場合には、必ず受講すること。

## 学生へのメッセージ

・講義で学んだことの振り返りとして、毎回リアクションペーパーの提出を求める。
・1か月に1回程度、講義の復習のため、確認テストを実施し、評価の対象とする。
・他の学生の迷惑となる行為は厳に慎むこと(私語や用事がなく教室を出入りすること等)。

## 実務との関連

社会福祉士の実務経験をもとに、今日の貧困をめぐる実態と社会保障の果たす役割について講義を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会保険と社会扶助の関係①<br>・社会保険の概念と範囲 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 2 | 社会保険と社会扶助の関係②<br>・社会扶助の概念と範囲 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 3 | 公的保険と民間保険の現状<br>・公的保険と民間保険の主な種類<br>・公的保険と民間保険の違い | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 4 | 医療保険制度等の概要<br>・制度の目的、対象、給付内容、財源構成<br>・公費負担医療 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 5 | 介護保険制度の概要<br>・制度の目的、対象、給付内容、財源構成 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 6 | 年金保険制度の概要①<br>・制度の目的、対象、沿革、保険への加入 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 7 | 年金保険制度の概要②<br>・年金保険料、年金の給付 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 8 | 年金保険制度の概要③<br>・年金財政、企業年金と個人年金 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 9 | 労災保険制度の概要<br>・制度の目的、対象、給付内容、財源構成 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 10 | 雇用保険制度の概要<br>・制度の目的、対象、給付内容、財源構成 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 11 | 生活保護制度の概要<br>・制度の目的、対象、給付内容、財源構成 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 12 | 社会手当制度・社会福祉制度の概要<br>・制度の目的、対象、給付内容、財源構成 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 13 | 諸外国における社会保障制度<br>・諸外国における社会保障制度の概要<br>・社会保障制度の国際比較 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 14 | 社会保障制度の体系化①<br>・制度の目的、対象、給付内容、財源構成 | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |
| 15 | 社会保障制度の体系化②<br>・各制度について全体の関係性を整理する | テキストの該当箇所を通読し、論点を整理する | 授業内容を整理し、要点を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010119000 高齢者福祉 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

① 高齢者の定義と特性を踏まえ、高齢者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解し説明できる。
② 高齢者福祉の歴史と高齢者観の変遷、制度の発展過程について理解し説明できる。
③ 高齢者に対する法制度と支援の仕組みについて理解し説明できる。
④ 高齢期における生活課題を踏まえて、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解し説明できる。

## 授業概要(教育目的)

① 高齢者分野におけるソーシャルワーク実践のための基本的知識を習得すること。
1) 高齢者・高齢社会についての基本的特性および高齢者福祉の変遷と概念について学ぶ。
2) 介護保険制度をはじめとする高齢者に関連する諸制度を学ぶ。
② 他の関連科目で学ぶ知識を高齢者分野に当てはめ、応用的に学びを進めることにより、知識・理解を深めること。
③ 他の関連科目とあわせ、ソーシャルワーカーとして活動するための実践力を身に着けること。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、確認テスト、リアクションペーパー、レポート課題等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

・リアクションペーパーの内容に関して、必要に応じて次回の講義に代表的なものをフィードバックする。
・成績について知りたい学生については、個別に開示する。

## 参考文献

講義の際に適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『高齢者福祉(第2版)(最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座2)』中央法規出版、2025年

## 資格との関連

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉士資格を取得しようとする場合には、必ず受講すること。

## 学生へのメッセージ

・講義で学んだことの振り返りとして、毎回リアクションペーパーの提出を求める。
・1か月に1回程度、講義の復習のため、確認テストを実施し、評価の対象とする。
・他の学生の迷惑となる行為は厳に慎むこと(私語や用事がなく教室を出入りすること等)。

## 実務との関連

社会福祉士としての実務経験を基に、高齢者福祉の現状と課題を踏まえて講義をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 高齢者と少子高齢社会 | 高齢者福祉と介護保険制度に関すること事項について新聞やインターネット等で調べる。<br>教科書の該当部分を読んでから出席する。 | 教科書や配布資料を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 2 | 高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会環境 | 高齢者福祉と介護保険制度に関すること事項について新聞やインターネット等で調べる。<br>教科書の該当部分を読んでから出席する。 | 教科書や配布資料を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 3 | 高齢者福祉の歴史と理念 | 高齢者福祉と介護保険制度に関すること事項について新聞やインターネット等で調べる。<br>教科書の該当部分を読んでから出席する。 | 教科書や配布資料を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 4 | 介護保険制度の概要①(介護保険制度の枠組み、介護保険財政、保険者と被保険者) | 高齢者福祉と介護保険制度に関すること事項について新聞やインターネット等で調べる。<br>教科書の該当部分を読んでから出席する。 | 教科書や配布資料を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 5 | 介護保険制度の概要②(保険料、要介護認定の仕組みとプロセス、保険給付、介護保険事業計画) | 高齢者福祉と介護保険制度に関すること事項について新聞やインターネット等で調べる。<br>教科書の該当部分を読んでから出席する。 | 教科書や配布資料を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 6 | 介護保険制度の概要③(地域支援事業) | 高齢者福祉と介護保険制度に関すること事項について新聞やインターネット等で調べる。<br>教科書の該当部分を読んでから出席する。 | 教科書や配布資料を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 7 | 介護保険制度の概要④(介護保険サービスの体系) | 高齢者福祉と介護保険制度に関すること事項について新聞やインターネット等で調べる。<br>教科書の該当部分を読んでから出席する。 | 教科書や配布資料を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 8 | 高齢者に対する関連諸制度①(高齢者保健福祉の法体系) | テキストの該当箇所を読んでから出席する。またその中で意味が分からない語句は事前に調べておく。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 9 | 高齢者に対する関連諸制度②(老人福祉法・高齢者医療確保法) | テキストの該当箇所を読んでから出席する。またその中で意味が分からない語句は事前に調べておく。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 10 | 高齢者に対する関連諸制度③(高齢者虐待防止法・バリアフリー法・高齢者住まい法) | テキストの該当箇所を読んでから出席する。またその中で意味が分からない語句は事前に調べておく。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 11 | 高齢者に対する関連諸制度④(高齢者雇用安定法・育児・介護休業法) | テキストの該当箇所を読んでから出席する。またその中で意味が分からない語句は事前に調べておく。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 12 | 高齢者と家族等の支援における専門職の役割 | テキストの該当箇所を読んでから出席する。またその中で意味が分からない語句は事前に調べておく。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 13 | 高齢者領域におけるソーシャルワーカーの役割(事例を通して確認する) | テキストの該当箇所を読んでから出席する。またその中で意味が分からない語句は事前に調べておく。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 14 | 高齢者と家族等に対する支援の実際(事例検討) | テキストの該当箇所を読んでから出席する。またその中で意味が分からない語句は事前に調べておく。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 15 | 地域共生社会の実現に向けた取り組みについて考える | 地域共生社会とは何か、自分たちが今後どのようにかかわっていくことができるか考えて出席する。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |

| 講義名 | 4010120000 障害者福祉 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 障害者福祉の基本理念や障害の概念とその捉え方について説明できる。
2. 障害者福祉の法体系と実施機関、及びサービス体系について説明できる。
3. 障害者ソーシャルワークに関する実際の支援の過程について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

障害者福祉の最新動向をふまえて、障害についての考え方及び障害者福祉の歴史的変遷を知り、現代社会における障害者の生活実態に応じた福祉政策や法制度並びに福祉サービスの体系等について理解を深めるとともに、障害者福祉とソーシャルワーク実践についての知識・技術を身につける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

試験、レポートにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

毎回提出するミニッツペーパーにおいて、講義の内容に対する考察を記述すること。斬新な見解や優れた気づきについては、授業において共有を図るとともにフィードバックする。

## 参考文献

講義の際に適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「障害者福祉」中央法規出版(2025年)

## 資格との関連

社会福祉士国家資格受験の必修科目である。(指定科目)

## 学生へのメッセージ

障害のある人が当たり前に社会のなかで生きる権利は、長い歴史のなかで当事者とその家族、専門家等による努力を経て生まれてきたものであることを理解する。
そのためには、日頃から障害のある人々に関する報道や事象に目を向け、身近な事例から障害者福祉について考える習慣を身につけてほしい。
障害のある人に関する事項について、知識や情報収集に努め、自分の意見を展開できる力を養うことは、ソーシャルワーカーをめざすための礎となる。

## 実務との関連

精神科病院のソーシャルワーカーおよび知的障害者福祉法下の旧体系サービスにもとづく通所授産施設の生活支援員としての実践経験がある。障害のある人の支援において最も重要であるエンパワメントの概念を中核としたソーシャルワークについて、実務経験から蓄積された知見をもとに講義する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 現代社会と障害者(人権、障害者観、障害者と家族) | 障害者福祉とな何かについて調べてくる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 障害者福祉の歴史(デンマーク、スウェーデン、アメリカ、イギリスの障害者福祉の歴史)及び日本の障害者福祉の歴史 | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 障害者福祉の基本理念(ノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョン) | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 障害の概念(ICIDHとICFについて) | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 障害者の生活とニーズ(障害者の生活実態、就職状況) | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 障害者福祉の法体系①(障害者基本法、障害者総合支援法、身体障害者福祉法) | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 障害者福祉の法体系②(知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法) | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 障害者福祉の法体系③(障害者虐待防止法、障害者差別解消法) | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 障害者福祉の実施機関と障害者福祉のサービス体系 | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 障害者の生活保障(所得保障と各種手当)及び雇用と就労 | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 障害者福祉にかかわる専門職 | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 12 | ソーシャルワーク実践の基本的視点(エコロジカル、ストレングス、エンパワメント) | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 障害者のケアマネジメントと障害者の社会参加 | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 障害者の権利擁護 | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 障害者ソーシャルワークの実際(支援の過程と事例研究) | ・テキストの該当箇所を読む<br>・前回配布資料とノートを読み直す | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 4010121000 児童・家庭福祉 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

本科目では、子どもの権利や子ども家庭福祉の意義や目的を理解する。そして、子どもの発達における家庭の役割と機能を理解する。

1.子どもの権利や子ども家庭福祉の歴史を説明できる。
2.ソーシャルワーカー(社会福祉士)の専門性を活かした児童家庭福祉の意義を説明できる。
3.子ども家庭を取り巻く現代社会について説明できる。
4.子どもの福祉課題と社会資源について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

児童・家庭福祉の支援の意義と目的について理解する。そして、児童・家庭福祉の支援の実践、現状と課題などを学び、児童・家庭福祉における児童の権利と家庭の役割・機能について理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験、課題提出状況、受講態度等により総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に伝える。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

児童・家庭福祉(中央法規)　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集

## 資格との関連

社会福祉士資格必修科目

## 学生へのメッセージ

子どもとその家庭を取り巻く生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの権利擁護を考慮した実践について、一緒に考えましょう。

## 実務との関連

ソーシャルワーカーは、子どもと家庭を社会資源等につなぐ実践者です。社会福祉士が働く職場で、今何が起こっているかを伝えます。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 児童・家庭福祉の定義と理念 | シラバスを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 子ども家庭福祉とは何か | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 子ども家庭福祉の歴史 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 子ども家庭を取り巻く現代社会 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 子ども家庭福祉の支援の基盤 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 子ども家庭福祉にかかわる関係機関 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 子どもの福祉課題と支援 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 児童虐待にかかわる支援 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | ひとり親家庭への支援 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 子ども家庭福祉におけるアセスメント | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 子ども・子育て支援にかかわる実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 児童虐待にかかわる実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 女性福祉にかかわる実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 当事者参画とアドボカシーにかかわる実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

| 講義名 | 4010121001 児童・家庭福祉（臨時開講） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

本科目では、子どもの権利や子ども家庭福祉の意義や目的を理解する。そして、子どもの発達における家庭の役割と機能を理解する。

1.子どもの権利や子ども家庭福祉の歴史を説明できる。
2.ソーシャルワーカー(社会福祉士)の専門性を活かした児童家庭福祉の意義を説明できる。
3.子ども家庭を取り巻く現代社会について説明できる。
4.子どもの福祉課題と社会資源について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

児童・家庭福祉の支援の意義と目的について理解する。そして、児童・家庭福祉の支援の実践、現状と課題などを学び、児童・家庭福祉における児童の権利と家庭の役割・機能について理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験、課題提出状況、受講態度等により総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

試験の成績を知りたい学生には個別に伝える。

## 参考文献

適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

児童・家庭福祉(中央法規)　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編集

## 資格との関連

社会福祉士資格必修科目

## 学生へのメッセージ

子どもとその家庭を取り巻く生活環境や生活状況の多様性を理解しつつ、子どもの権利擁護を考慮した実践について、一緒に考えましょう。

## 実務との関連

ソーシャルワーカーは、子どもと家庭を社会資源等につなぐ実践者です。社会福祉士が働く職場で、今何が起こっているかを伝えます。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 児童・家庭福祉の定義と理念 | シラバスを読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 子ども家庭福祉とは何か | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 子ども家庭福祉の歴史 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 子ども家庭を取り巻く現代社会 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 子ども家庭福祉の支援の基盤 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 子ども家庭福祉にかかわる関係機関 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 子どもの福祉課題と支援 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 児童虐待にかかわる支援 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | ひとり親家庭への支援 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 子ども家庭福祉のソーシャルワーク実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 子ども家庭福祉におけるアセスメント | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 子ども・子育て支援にかかわる実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 児童虐待にかかわる実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 女性福祉にかかわる実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 当事者参画とアドボカシーにかかわる実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010122000 貧困に対する支援 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について説明できる。
2. 相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について説明できる。
3. 自立支援プログラムの意義とその実際について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

本講義の目的は、今日の貧困をめぐる実態と公的扶助の果たす役割を学ぶことである。講義では、日本の生活保護を中心としながら、公的扶助がいかに形成され、恩恵から権利、そして、人権保障へと発展してきたかを学ぶ。単に制度を暗記するだけではなく、時代ごとに国民が置かれていた生活状況と、それに対して、国家がどのような制度・政策で生活保障を果たそうとしていたのかをあわせてみていくことが必要である。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

小テスト・レポート(20%)及び期末試験(80%)による。

## 課題に対するフィードバック

講義中に、復習課題を配布する。復習課題については、指定の日時までに必ず提出すること。受講学生の誤りが多い事項については、次回講義で説明を行う予定としている。
また、復習課題から試験問題を出題することがあるので、返却された課題については保管すること。

## 参考文献

講義時に適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『貧困に対する支援 第2版(最新・社会福祉士養成講座4)』中央法規出版、2026年

## 資格との関連

社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は必ず受講すること。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
社会福祉士国家試験受験資格の指定科目である。なお、相互授業を目指しているので、質問はいつでも受け付ける。

## 実務との関連

福祉活動専門員(コミュニティソーシャルワーカー)として社会福祉協議会に勤務。実務経験をもとに、今日の貧困をめぐる実態と公的扶助の果たす役割について講義をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 公的扶助の概念<br>・公的扶助の概念と範囲<br>・公的扶助の意義と役割 | 「公的扶助」という言葉の意味を辞書・事典で調べる | 教科書の該当ページを読む |
| 2 | 貧困の概念と貧困状態にある人の生活実態とこれをとりまく社会環境<br>・貧困の概念<br>・貧困状態にある人の生活実態<br>・貧困状態にある人を取り巻く社会環境 | 教科書の該当ページを読んで出席する | 教科書の該当ページを読み直す<br>配布課題で復習する |
| 3 | 貧困の歴史<br>・貧困状態にある人に対する福祉の理念<br>・貧困観の変遷<br>・貧困に対する制度の発達過程(海外) | 教科書の該当ページを読んで出席する | 教科書の該当ページを読み直す |
| 4 | 貧困の歴史<br>・貧困に対する制度の発達過程<br>(日本の歴史、近年の動向) | 教科書の該当ページを読んで出席する<br>配布資料により、生活保護の動向を把握する | 教科書の該当ページを読み直す |
| 5 | 生活保護制度(1)<br>・生活保護制度の仕組み①<br>(生活保護方法構成、目的と原理・原則) | 教科書の該当ページを読んで出席する | 教科書の該当ページを読み直す<br>保護の原理・原則を説明できるようにする<br>配布課題で復習する |
| 6 | 生活保護制度(2)<br>・生活保護制度の仕組み②<br>(保護の種類・内容・方法、保護施設、) | 教科書の該当ページを読んで出席する | 教科書の該当ページを読み直す |
| 7 | 生活保護制度(3)<br>・生活保護制度の仕組み③<br>(保護者の権利・義務、不服申立てと訴訟、財源と予算) | 教科書の該当ページを読んで出席する<br>事前配布資料を確認する | 教科書の該当ページを読み直す<br>配布課題で復習する |
| 8 | 生活保護制度(4)<br>・最低生活保障水準と生活保護基準 | 教科書の該当ページを読んで出席する | 教科書の該当ページを読み直す |
| 9 | 生活保護制度(5)<br>・生活保護の動向 | 教科書の該当ページを読んで出席する<br>事前配布資料を確認する | 教科書の該当ページを読み直す<br>配布課題で復習する |
| 10 | 低所得者に対する法制度(1)<br>・生活困窮者自立支援制度<br>・生活福祉資金貸付制度 | 教科書の該当ページを読んで出席する | 教科書の該当ページを読み直す |
| 11 | 低所得者に対する法制度(2)<br>・低所得者対策<br>・ホームレス対策 | 教科書の該当ページを読んで出席する<br>事前配布資料を確認する | 教科書の該当ページを読み直す<br>配布課題で復習する |
| 12 | 貧困に対する支援における関係機関と専門職(1)<br>・貧困に対する支援における公私の役割関係<br>・国、都道府県、市町村の役割 | 教科書の該当ページを読んで出席する | 教科書の該当ページを読み直す |
| 13 | 貧困に対する支援における関係機関と専門職(2)<br>・福祉事務所の役割<br>・自立相談支援機関、関係機関の役割<br>・関連する専門職の役割 | 教科書の該当ページを読んで出席する | 教科書の該当ページを読み直す<br>配布課題で復習する |
| 14 | ・貧困に対する支援の実際(1)<br>・社会福祉士、支援者としてのあり方について(グループワーク) | 教科書の該当ページを読んで出席する<br>事前提示事例について内容を確認する | 教科書の該当ページを読み直す |
| 15 | ・貧困に対する支援の実際(2)<br>・支援者として必要とされる視点と基本姿勢について(グループワーク)<br>・貧困に関するディスカッション(まとめ) | 教科書の該当ページを読んで出席する<br>自立支援という用語についてインターネットなどにより確認する | 教科書の該当ページを読み直す<br>配布課題で復習する |

| 講義名 | 4010123000 保健医療と福祉 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. ソーシャルワークに必要な医療保険制度や保健医療サービスについて、その基本的な事項を説明できる。
2. 多職種との協働や地域の社会資源との連携について、その方法や実際について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

医療保険制度や保健医療サービスについて理解することは、地域共生社会を実現する包括的なソーシャルワークの実践のために不可欠である。本講義では、保健医療サービスの概要や、保健医療サービスにおける専門職の役割などについて学ぶとともに、医療ソーシャルワーカーの役割、多職種との院内連携の方法、地域の関係機関との連携の実際について理解し、説明できる力を養うことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験を重視するが、講義への出席および発表、受講中の発言等を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

その都度紹介する。また、適宜資料を配布する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『保健医療と福祉(最新・社会福祉士養成講座5)』第2版　中央法規出版、2025年

## 資格との関連

社会福祉士国家試験受験資格に必要な科目である(指定科目)。

## 学生へのメッセージ

・専門的な知識の習得となるため、講義を中心としながらも学生発表の場を取り入れる。
・期末試験については事前に試験のヒントを通知するのでこれを基にさらに確実な知識の蓄積を図ることを期待する。
・欠席が多い場合は学期末試験を受けることができない。
・テキストは目を通しておくこと。
・授業中のスマートフォンおよびタブレット端末の操作、その他授業に関係ない言動は厳禁とする。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 保健医療の課題のある人への理解 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 医療倫理 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 疾病構造の変化 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 入院医療から在宅医療/病院完結型医療から地域完結型医療へ | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 保健医療における福祉的課題 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 保健医療の政策・制度 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 保健医療サービスの提供体制 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 医療費の保障 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 保健医療領域における専門職と院内連携 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 地域の関係機関との連携 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 医療機関におけるソーシャルワーク部門の体制構築 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 保健医療領域におけるソーシャルワーカーの役割 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 事例―保健医療領域における支援の実際(1)【回復期・自宅退院・在宅医療における支援】 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 事例―保健医療領域における支援の実際(2)【終末期・救急現場・災害現場における支援】 | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 本講義のまとめ　振り返り | 前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 4010124000 | 権利擁護を支える法制度 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

①法に共通する基礎的な知識を身につけるとともに、権利擁護を支える憲法、民法、行政法の基礎を理解し説明できる。
②権利擁護の意義と支える仕組みについて理解し説明できる。
③権利が侵害されている者や日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護活動の実際について理解し説明できる。
④権利擁護活動を実践する過程で直面しうる問題を、法的観点から理解し説明できる。
⑤ソーシャルワークにおいて必要となる成年後見制度について理解し説明できる。

## 授業概要(教育目的)

①法の基礎、②ソーシャルワークと法の関わり、③権利擁護の意義と支える仕組み、④権利擁護活動で直面しうる法的諸問題、⑤権利擁護に関わる組織、団体、専門職、⑥成年後見制度について学びを深めることにより、ソーシャルワーカーとして必要な法知識を身につける。
また、ソーシャルワーカーとして、援助過程において直面することとなる様々な課題をどのように解決していくかを検討する。利用者の立場に立ち、利用者の意思決定の支援や権利擁護ができる知識や技能も学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

期末試験およびレポート課題による。

## 課題に対するフィードバック

毎回、ミニッツペーパーを配布する。

## 参考文献

講義の進行にあわせて紹介する。

## 講義時使用テキスト

一般社団法人日本ソーシャルワーカー教育学校連盟編集最新社会福祉士養成講座
「権利擁護を支える法制度」中央法規、2021年

## 資格との関連

社会福祉士国家試験受験資格取得希望者は必ず受講すること。

## 学生へのメッセージ

社会福祉士国家試験受験資格の指定科目である。
なお、相互授業を目指しているので、質問はいつでも受け付ける。他の学生に迷惑となるので、私語は厳に慎むこと。事前に教科書を読んでから受講すること。
社会福祉の理念として、個人の尊厳が大変重要になっており、法的な知識と理解(例えば日本国憲法の基本的人権の考え方、民法の契約や不法行為、成年後見制度、行政法の基礎的事項など)をもとにして、相談援助活動を進めることが重要となっている。本講義を通じてこうした知識と理解を深め、他教科の学びをあわせ、実践において活用できるようにしてほしい。
授業は講義ばかりでなく、グループ活動も行うので、他者の意見も理解でき、自分の意見を持ち、積極的発表してほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 法の基礎ーその1(①法と規範　②法の体系、種類、機能) | 基本的人権保障に関連する憲法条文を確認すること | 教科書の該当ページを読み直すこと |
| 2 | 法の基礎ーその2(③法律の基礎知識、法の解釈　④裁判制度、判例を学ぶ意義) | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと<br>配布する復習課題で復習すること |
| 3 | ソーシャルワークと法の関わりー憲法その1(①憲法の概要(最高法規性、日本国憲法の基本原理) | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと |
| 4 | ソーシャルワークと法の関わりー憲法その2(②基本的人権(基本的人権と公共の福祉、平等性、自由権、社会権)　④幸福追求権) | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと<br>配布する復習課題で復習すること |
| 5 | ソーシャルワークと法の関わりー民法その1(①民法総則(権利の主体・客体、権利の変動、無効と取消し)　②契約(売買、賃貸借等)) | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと |
| 6 | ソーシャルワークと法の関わりー民法その2(③不法行為(不法行為の要件、不法行為の効果(損害賠償))　④親族(婚姻、離婚、親権、扶養、成年後見制度)　⑤遺産管理) | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと<br>配布する復習課題で復習すること |
| 7 | ソーシャルワークと法の関わりー行政法その1(①行政組織(国、地方公共団体の組織、公務員)　②行政の行為形式(行政処分)　③行政上の義務履行確保(行政強制、行政罰)) | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと<br>配布する復習課題で復習すること |
| 8 | ソーシャルワークと法の関わりー行政法その2(③行政訴訟制度(行政不服申立て、行政訴訟)　④国家の責任(国家賠償)　⑤地方自治法(国と自治体の関係) | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと<br>配布する復習課題で復習すること |
| 9 | 権利擁護の意義と支える仕組みーその1(①権利擁護の意義　②福祉サービスの適切な利用　③苦情解決の仕組み) | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと |
| 10 | 権利擁護の意義と支える仕組みーその2(④虐待防止法の概要　⑤差別禁止法の概要　⑥意思決定支援ガイドライン) | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと |
| 11 | 権利擁護活動で直面しうる法的諸問題(①インフォームド・コンセント　②秘密・プライバシー・個人情報　③権利擁護活動と社会の安全) | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと<br>配布する復習課題で復習すること |
| 12 | 権利擁護に関わる組織、団体、専門職と社会福祉士の役割 | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと |
| 13 | 成年後見制度ーその1(①成年後見の概要) | 成年後見制度、権利擁護活動における社会福祉士の役割について、インターネット等で調べること | 教科書の該当ページを読み直すこと |
| 14 | 成年後見制度ーその2(②後見の概要　③保佐の概要　④補助の概要) | 教科書の該当ページを読んで受講すること<br>最高裁のホームページ等から、近年の成年後見制度の利用状況について確認すること | 教科書の該当ページを読み直すこと |
| 15 | 成年後見制度ーその3(⑤任意後見制度の概要　⑥成年後見制度の最近の動向　⑦成年後見制度利用支援事業　⑧日常生活自立支援事業 | 教科書の該当ページを読んで受講すること | 教科書の該当ページを読み直すこと |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010125000 | 刑事司法と福祉 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

①実際の相談援助活動に必要となる更生保護制度についての基本的な知識・福祉との連携について、実際的な理解する。
②更生保護を中心に、刑事司法・少年司法分野で活動する組織、団体及び専門職について理解する。
③刑事司法・少年司法分野の他機関等との連携の在り方について理解する。
④医療観察制度を理解する。

## 授業概要(教育目的)

①更生保護制度の概要
②更生保護制度の担い手
③更生保護制度における関係機関・団体との連携
④医療観察制度の概要
⑤更生保護における近年の動向と課題

更生保護は、犯罪者や非行少年が、再び過ちを繰り返さないように、立ち直りの制度・支援のための他法律について、その実態と実践方法を理解する。さらに社会福祉士を目指す上で必要な、更生保護制度を理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

課題レポートおよび定期試験による。

## 課題に対するフィードバック

毎回、ミニッツペーパーを配布する。

## 参考文献

教員が紹介する。

## 講義時使用テキスト

中央法規出版『刑事司法と福祉』

## 資格との関連

社会福祉士国家資格受験の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
犯罪や非行に関するニュースに関心を持ってほしい。特に社会福祉士資格希望者は、犯罪はなぜ起きるのか社会背景(生育歴、家族関係、地域社会、環境、友人関係、他)を考え、地域のつながりを再構築して社会での健全な生活を支える更生保護の意義や社会のあり方に興味を持つこと。

【授業外活動状況】
犯罪に関するニュースと犯罪にいたった環境を考え、社会で更生するための有様とは何かを考えること。

## 実務との関連

社会福祉士受験資格を希望する学生には必須科目であるが、地域を理解することで、地域に発生する犯罪理由を知ることができ、結果的に対策を考えることができる。原因が分かれば対策が可能になるのである。そのためには観察力や利用者理解、地域課題などを知ることが重要である。また地域との連携を深めることで、より安心できる社会の担い手として活動ができる。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 犯罪と非行の実際 | 教科書で事前に確認して読んでおくこと。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 2 | 更生保護の歴史 | 教科書で事前に確認して読んでおくこと。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 3 | 更生保護制度の概要①(刑事司法の更生保護の位置づけ) | 教科書で事前に確認して読んでおくこと。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 4 | 更生保護制度の概要②(生活環境の調整・保護監察官とは) | 教科書で事前に確認して読んでおくこと。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 5 | 更生保護制度の概要③(更生緊急保護、被害者支援、恩赦など) | 教科書で事前に確認して読んでおくこと。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 6 | 更生制度の担い手1(保護観察官、保護司、更生保護施設民間協力者・BBSなど) | 教科書で事前に確認して読んでおくこと。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 7 | 関係機関・団体との連携(裁判所・検察所・他) | 教科書で事前に確認して読んでおくこと。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 8 | 関係機関・団体との連携(矯正施設・社会福祉事務所・他) | 教科書で事前に確認して読んでおくこと。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 9 | 医療制度の概要(仕組み・生活環境調整・精神保健観察・他) | 教科書を読んで講義に参加すること。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 10 | 医療観察制度と事例(地域社会の処遇・関係機関との連携) | 精神障がい者の事件を調べて問題点を考えておくこと。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 11 | 更生保護の実際と展望 | 教科書を読んでくること。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 12 | 八戸市の現状と実際(外部講師・保護観察官又は保護司) | 八戸市の犯罪を警察白書で調べておくこと(インターネット可能)。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 13 | 児童虐待と非行・犯罪事例を各グループが話し合い、一つ考察する記事を選択し、更生保護の指導・援助方法を考え、改善更生について話し合う。<br>①役割分担　②事例の選択　③犯罪内容と原因　を考察 | 事件や犯罪確定事件など、事前に調べておくこと。 | 配布資料及び教科書を読み直す。 |
| 14 | 各グループが選択した新聞・ニュース等の記事から、犯罪者を取り巻く環境・エコマップ作成・改善方法・指導内容・地域での安全な生活方法など考察する。模造紙にまとめる。グループワーク活動を行う。 | 事前に事例検討資料を配布するので、確認する。 | カウグループの資料を読み直し発表原稿を作成。 |
| 15 | 各グループの発表と考察 | 発表の原稿づくりをすること。 | 各グループ発表資料を読み直し、グループ発表を考察すること。 |

| 講義名 | 4010126000 ソーシャルワーク演習Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れて、社会福祉士に基められる相談援助に必要な知識と技術について、実践的に習得するとともに専門的援助技術として概念化し、理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。
理論学習で修得した学びを実践や現場に活用するための準備として、面接の知識や技術を学ぶとともに、柔軟な思考や動作を活用し、相談援助実践できることを目的とする。

## 授業概要(教育目的)

①基本的なコミュニケーション技術、知識を深める。人と環境を理解することの演習を通して、自己覚知し、ソーシャルワークの面接技法を習得し、実践へとつなげていく。
②ソーシャルワークとは何か(定義)。現代社会におけるその役割と理念、価値基準を理解する。人と環境の接点・相互作用：何に着目し、何を改革していくかについて社会福祉援助における「視点」を理解できるようにする。ミクロ・メゾ・マクロの焦点、個人・家族・組織・地域・社会の相互関係を理解できるようにする。演習(ロールプレイ・グループワーク・プレゼンテーションなど)を通して実践的に学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業・演習への参加態度・貢献度、グループ討議の内容、発表、レポートなどを総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

一般社団法人　日本ソーシャルワーク学校連盟編集 『ソーシャルワーク演習』[共通科目]13　2021　中央法規

## 講義時使用テキスト

授業資料は適宜準備し、配布する。

## 資格との関連

社会福祉士受験資格の必修科目である。
※履修の要件：2025年度以降入学の場合、以下の科目①～③の内、2科目を単位修得していること。
①「社会福祉の原理と政策Ⅰ」
②「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」
③「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」

## 実務との関連

## 学生へのメッセージ

受講者は、他の講義科目との関連を考えながら、専門的な援助技術を実際的に習得することを意識して積極的に演習に臨むこと。
以下は、演習に臨む上での留意事項である。
①演習にはグループでの検討や活動も含まれることから、自らの欠席が他学生への学びに影響を与えることを自覚し、欠席する場合には前もって連絡すること
②演習ではプライベートな関係を持ち込まないように努力すること
③積極的な発言や主体的に学ぶ姿勢を持つこと
④演習で見聞した他のメンバーの情報や態度については、外部に漏らさないこと
⑤演習では、共に社会福祉士を目指す学生であることを念頭に互いに尊重し、受容的な姿勢を持って接すること

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション、アイスブレーキング | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | ソーシャルワークの使命と役割の理解 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | 人と環境の交互(相互)作用 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | 専門職としての価値・倫理・自己覚知 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | 自己理解と他者理解 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | 基本的なコミュニケーション技術の習得 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | 面接技法についての理解①～面接の環境づくり～ | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | 面接技術についての理解②～面接技術～ | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | 面接技術についての理解③～ツールの活用～ | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | ソーシャルワークの展開と関連技法①(インテーク) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | ソーシャルワークの展開と関連技法②(アセスメント) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | ソーシャルワークの展開と関連技法③(プランニング) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | ソーシャルワークの展開と関連技法④(介入とモニタリング) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | ソーシャルワークの展開と関連技法⑤(支援の終結と評価、アフターケア) | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | ソーシャルワークの展開過程のまとめ、本演習の総括 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010127000 | ソーシャルワーク演習Ⅱ | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

①ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性を踏まえ、社会福祉士として求められる基礎的な能力を理解できる。
②ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解できる。
③ソーシャルワーク実践に必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。
④ソーシャルワークの展開過程において求められる知識と技術を実践的に理解できる。

## 授業概要(教育目的)

ソーシャルワークの知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力の涵養を目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

演習を通じての課題の理解度は、グループワークの内容、提出物(グループワークの成果物等)、発表、レポート等によって総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
演習全体の評価について知りたい学生は、個別に問い合わせること。

## 参考文献

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワーク演習(共通科目)(最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座13)』中央法規出版、2021年
・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワーク演習(社会専門)(最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座7)』中央法規出版、2021年

## 講義時使用テキスト

適宜プリント等を使用する。

## 資格との関連

社会福祉士国家試験受験資格に必要な科目である(指定科目)。

## 学生へのメッセージ

・ソーシャルワーク演習Ⅱは、原則として、社会福祉士プログラム履修者以外は、履修不可。
・また、原則として「ソーシャルワーク演習Ⅰ」から順に履修することとし、途中からの履修は不可。
・受講者は、他の講義科目との関連を考えながら、専門的なソーシャルワークの技術を実際的に習得することを意識して積極的に演習に臨むこと。

## 実務との関連

社会福祉士としての実務経験を基に、ソーシャルワークの展開過程等について実践的に演習を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ソーシャルワーク実践に向けた自己覚知(復習) | ソーシャルワークの価値・倫理について読み返しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 2 | 集団に対するソーシャルワーク実践①(グループダイナミクス) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 3 | 集団に対するソーシャルワーク実践②(グループワークの展開過程) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 4 | ソーシャルワークの価値と視点①(価値と倫理) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 5 | ソーシャルワークの価値と視点②(倫理的ジレンマ) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 6 | ソーシャルワークにおけるコミュニケーション技術 | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 7 | ソーシャルワークの関連技法①(面接技術) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 8 | ソーシャルワークの関連技法②(記録・マッピングツール) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 9 | ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 10 | ソーシャルワークの展開過程①(インテーク・アセスメント) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 11 | ソーシャルワークの展開過程②(アセスメント・プランニング) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 12 | ソーシャルワークの展開過程③(プランニング・モニタリング) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 13 | ソーシャルワークの展開過程と実践①(事例検討) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 14 | ソーシャルワークの展開過程と実践②(事例検討) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 15 | ソーシャルワークの展開過程と実践③(事例検討) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010128000 ソーシャルワーク演習Ⅲ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 立石　真司 | | |

## 学習目標(到達目標)

①具体的な事例をもとに、ソーシャルワーク展開過程が理解できるようになる。
②実践過程の中で用いられる実践モデルやアプローチについて実践的に理解できるようになる。

## 授業概要(教育目的)

ソーシャルワーク実習の準備として、演習Ⅲでは主に事例を用いてソーシャルワークの過程(プロセス)について学習する。具体的な事例を検討しながら、ロールプレイング、グループ討議、各技法の習得などの演習を行い、援助の展開過程を学ぶことが本講の目的となる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

演習を通じての課題の理解度は、グループワークの内容、提出物(グループワークの成果物等)、発表、レポート等によって評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
演習全体の評価について知りたい学生は、個別に問い合わせること。

## 参考文献

・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワーク演習(共通科目)(最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座13)』中央法規出版、2021年
・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワーク演習(社会専門)(最新・社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座7)』中央法規出版、2021年

## 講義時使用テキスト

適宜プリント等を使用する。

## 資格との関連

社会福祉士国家試験受験資格に必要な科目である(指定科目)。

## 学生へのメッセージ

・ソーシャルワーク演習Ⅲは、原則として、社会福祉士プログラム履修者以外は、履修不可。
・また、原則として「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」から順に履修することとし、途中からの履修は不可。
・受講者は、他の講義科目との関連を考えながら、専門的なソーシャルワークの技術を実際的に習得することを意識して積極的に演習に臨むこと。

## 実務との関連

社会福祉士としての実務経験を基に、ソーシャルワークの展開過程等について実践的に演習を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事例に基づくソーシャルワーク展開過程①(ケースの発見・エンゲージメント) | ソーシャルワークの展開過程(プロセス)について読み返しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 2 | 事例に基づくソーシャルワーク展開過程②(アセスメント) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 3 | 事例に基づくソーシャルワーク展開過程③(プランニング) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 4 | 事例に基づくソーシャルワーク展開過程④(支援の実施、チームアプローチ) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 5 | ソーシャルワーク実践における対人援助技術の実際(面接場面のロールプレイ①) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 6 | ソーシャルワーク実践における対人援助技術の実際(面接場面のロールプレイ②) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 7 | インテーク面接模擬試験①(実習指導者の協力による客観的評価試験) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 8 | インテーク面接模擬試験②(実習指導者の協力による客観的評価試験) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 9 | ソーシャルワークおける事例検討会のあり方について実践的に学ぶ①(ゲストティーチャー) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 10 | ソーシャルワークおける事例検討会のあり方について実践的に学ぶ②(ゲストティーチャー) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 11 | 事例に基づくソーシャルワーク展開過程⑤(モニタリング) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 12 | 事例に基づくソーシャルワーク展開過程⑥(支援の終結と事後評価) | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 13 | 事例に基づくソーシャルワーク実践① | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 14 | 事例に基づくソーシャルワーク実践② | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |
| 15 | 事例に基づくソーシャルワーク実践③ | 前回の演習を必ず復習しておくこと。 | これまでの諸々の講義における学びの成果と演習において得た新たな学びをを融合させる。 |

| 講義名 | 4010129000 ソーシャルワーク演習Ⅳ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 阿部　俊彦 | | |

## 学習目標(到達目標)

相談援助のプロセスに関する知識及び技術を実践的に習得できる。
また、相談援助実習へ臨むにあたって、これまでの講義で学んだ価値・知識・技術について、さまざまな事例検討から総合的に理解でき、具体的に導出することができる。
個別的な係わりから、地域福祉実践までの往還的かつ円環的なソーシャルワーク実践を理解できる。

## 授業概要(教育目的)

相談援助実習の事前準備として、ソーシャルワーク実践のミクロからマクロまでの過程とそれぞれの関連について、事例を用いた演習により実践的に習得することを主な目的とする。また、事例をもとにしたロールプレイング、グループ討議などを通じて、実習及び実支援現場への般化できることが本講の目的となる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

演習を通じての課題の理解度は、提出物、グループ討議の内容、発表、レポートなどで評価をする。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

使用しない。適宜、資料を配布する。

## 資格との関連

社会福祉士国家試験の受験資格を取得するための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

受講者は、他の講義科目との関連を考えながら、専門的な援助技術を実際的に習得することを意識して積極的に演習に臨むこと。
以下は、演習に臨む上での留意事項である。
①演習にはグループでの検討や活動も含まれることから、自らの欠席が他学生への学びに影響を与えることを自覚し、欠席する場合には前もって連絡すること
②演習ではプライベートな関係を持ち込まないように努力すること
③積極的な発言や主体的に学ぶ姿勢を持つこと
④演習で見聞した他のメンバーの情報や態度については、外部に漏らさないこと
⑤演習では、共に社会福祉士を目指す学生であることを念頭に互いに尊重し、受容的な姿勢を持って接すること

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション<br>地域におけるソーシャルワーク | 教科書「相談援助の理論と方法Ⅰ」にある相談援助の過程(プロセス)を読み返す。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 2 | 事例検討1 地域福祉計画の策定に関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:情報収集と調査) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 3 | 事例検討1 地域福祉計画の策定に関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:住民懇談会と計画策定チームのかかわり) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 4 | 事例検討2 地域におけるサービス提供に関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:民生委員とソーシャルワーカー) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 5 | 事例検討2 地域におけるサービス提供に関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:コーディネーションと地域生活支援) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 6 | 事例検討3 地域におけるネットワーキングに関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:ネットワーク会議とソーシャルワーカー) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 7 | 事例検討3 地域におけるネットワーキングに関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:ネットワーク会議のロールプレイ) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 8 | 事例検討4 地域における権利擁護活動に関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:認知症と判断能力) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 9 | 事例検討4 地域における権利擁護活動に関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:サービス利用と支援計画) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 10 | 事例検討5 社会資源の把握、活用、調整、開発に関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:孤独死とその背景) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 11 | 事例検討5 社会資源の把握、活用、調整、開発に関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:資源開発) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 12 | 事例検討6 住民参加と組織化活動に関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:地区社協) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 13 | 事例検討6 住民参加と組織化活動に関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:コミュニティオーガニゼーション) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 14 | 事例検討7 ソーシャルアクションに関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:地域問題の発生とその特徴) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 15 | 事例検討7 ソーシャルアクションに関するソーシャルワーク(グループワーク、グループ活動:地域組織化・当事者の組織化(主導グループの形成)) | 前回の演習を必ずおさらいしておくこと。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010130000 ソーシャルワーク演習Ⅴ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

相談援助実習で体験したソーシャルワークの知識と技術を振り返り、実践的利用することができる。

・相談援助実習を通しての学びを体験化し、実践的な知識と技術を習得することができる。
・相談援助実習を通しての学びを体験化し、実践的な知識と技術を応用することができる。

## 授業概要(教育目的)

相談援助実習での個別的な体験事例を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるよう、集団指導並びに個別指導による実技指導を行うことを目的とする。
また実習の振り返りから単に知識と技術を理解するだけに留まらず、ロールプレイ等による実践形式を行い、実習で得た知識及び技術を応用的に利用することができることを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

講義への出席、レポート課題の内容・提出状況、ロールプレイ等への参加態度により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

講義で学んだことの振り返りとして、各回レスポンスペーパーの提出を求める。レスポンスペーパーの内容に関して、次回の講義開始時に前回講義の復習としてフィードバックする。
成績について知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

長谷川匡俊,上野谷加代子,白澤政和,中谷陽明編集(2015)『社会福祉士相談援助演習』第2版中央法規出版

## 講義時使用テキスト

その都度紹介する。また、適宜資料を配布する。

## 資格との関連

社会福祉士(国家試験)受験資格取得のための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

実習等で経験してきた様々な援助場面を振り返り、社会福祉士の専門性について、実習での学びと経験を活かし、現実と課題について考えられることが将来の進路とも繋がる。グループ討議やディスカッション形式、事例検討等を中心とする参加型授業形態なので個人の積極性を発揮してもらいたい。
以下は、演習に臨む上での留意事項である。
①演習にはグループでの検討や活動も含まれることから、自らの欠席が他学生への学びに影響を与えることを自覚し、欠席する場合には前もって連絡すること
②演習ではプライベートな関係を持ち込まないように努力すること
③積極的な発言や主体的に学ぶ姿勢を持つこと
④演習で見聞した他のメンバーの情報や態度については、外部に漏らさないこと
⑤演習では、共に社会福祉士を目指す学生であることを念頭に互いに尊重し、受容的な姿勢を持って接すること

## 実務との関連

福祉活動専門員(コミュニティソーシャルワーカー)として社会福祉協議会に勤務している。実務経験をもとに、相談援助におけるソーシャルワークの果たす役割について演習を進める。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション&実習での学びを振り返る | 実習ノートや実習記録をもとにして、実習での学びを振り返る。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 2 | 実習での学びを整理する①(実習体験の具現化) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 3 | 実習での学びを整理する②(実習体験の事例化) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 4 | 実習での学びを定着させる①(面接ロールプレイ) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 5 | 実習での学びを定着させる②(ロールプレイの振り返り) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 6 | 実習での学びを定着させる③(面接に必要な姿勢と技術など) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 7 | 実習での学びを定着させる④(面接ロールプレイ) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 8 | 相談援助に必要な社会資源の理解1(制度、サービスなど) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 9 | 相談援助に必要な社会資源の理解2(情報提供) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 10 | 相談援助におけるコミュニケーション技術 | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 11 | 相談援助における多職種・多機関連携(ケアマネジメント) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 12 | 事例検討1(個別支援について) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 13 | 事例検討2(地域生活支援について) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 14 | 自己覚知1(ライフヒストリー) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |
| 15 | 自己覚知2(社会福祉士に求められるもの) | 演習内容について関連する文献やインターネットで調べる。 | 演習内容を整理し、自らの生活や実習体験とのつながりを考える。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010131000 ソーシャルワーク実習指導Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

相談援助実習に臨むにあたり、必要な準備として社会福祉士に求められる知識・技術・価値判断について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

相談援助実習に臨むにあたり、事前学習や諸手続き等の準備に取り組むことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業への取り組み姿勢や課題の内容、提出状況等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

1. 事前学習報告書および実習計画書については、実習に臨むための十分な準備学習となるものに仕上げるため添削指導をする。
2. 課題(事前準備のためのもの、その他のレポート等)は、必要に応じて授業で取り上げる。

## 参考文献

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』中央法規出版

## 講義時使用テキスト

適宜、資料を配布する。

## 資格との関連

社会福祉士国家試験の受験資格を取得するための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

1. ソーシャルワーク実習を履修予定の学生のみ受講可能な実習事前指導科目である。
2. 全授業回は主担当教員が担当する。その他の本科目担当教員は、相談援助実習における訪問・帰校日指導担当教員である。
3. 各自、本講義を履修することは、相談援助実習に臨むための準備を十分に備えることであることを自覚し、真摯な態度で講義に臨むこと。
4. 課題や手続きの書類については、必ず提出の期限と方法を守ること。
5. 公欠・体調不良・就職活動(受験日等が定められている場合等)以外の事由による欠席は認めない。また、やむをえない事由による欠席の場合も、担当教員に直接連絡がない場合は無断欠席と同じ扱いとなるため、やむをえず欠席せざるをえないことを確認した時点で必ず担当教員に直接連絡すること。
6. 授業中のスマートフォン操作(そのための教室からの退席を含む)、居眠り、私語等、授業の妨げとなる言動は厳禁とする。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 相談援助実習の目的と内容／諸手続きの説明 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 2 | 実習先及び実習生の立場の理解 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 3 | 相談援助実習において求められるライティングスキル | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 4 | 事前学習の必要性・内容・方法(課題:事前学習報告書) | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 5 | 事前学習報告書の作成経過におけるフィードバックおよびペアワーク | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 6 | 実習計画書の意義と作成方法 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 7 | 実習計画書の作成経過におけるフィードバックおよびペアワーク | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 8 | 事前訪問の目的と手続き | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 9 | 事前学習の成果についてのプレゼンテーション | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 10 | スーパービジョン関係にもとづくスーパーバイジーの立場 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 11 | 相談援助実習における記録の目的と方法 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 12 | 相談援助実習記録の書き方(1)【個人情報保護・毎日の具体的目標の設定】 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 13 | 相談援助実習記録の書き方(2)【相談援助に対する視点のもち方・考察・専門用語の使用】 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 14 | 実習計画書にもとづく実習の構成 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 15 | 今後の留意事項および提出物の確認 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010132000 ソーシャルワーク実習指導Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 実習におけるスペシフィック・ジェネリックなまなびを言語化し、実習報告書と報告会用のプレゼンテーション資料を作成できる。
2. 実習報告会において、実習におけるスペシフィック・ジェネリックなまなびを参加者にわかりやすく伝え、質疑に対して適切な応答をすることができる。
3. 実習経験を一般化し、ジェネラリスト・ソーシャルワーカーとしての視点を説明し、各自のなりゆく社会福祉士像を言語化できる。

## 授業概要(教育目的)

1. 実習事後のふりかえりを通し、各自のなりゆく社会福祉士像を示すことができることをおもな目的とする。
2. 実習経験を一般化することにより、ジェネラリスト・ソーシャルワーカーとしての視点を養うことをおもな目的とする。
3. 実習報告会の準備と発表を通し、実習を通して得た学びを言語化し、他者に分かりやすく伝える力を身につける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業への取り組み姿勢やレポート課題の内容、提出状況等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、その後の授業でとりあげることがある。

## 参考文献

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』中央法規出版

## 講義時使用テキスト

適宜、資料を配布する。

## 資格との関連

社会福祉士国家試験の受験資格を取得するための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

ソーシャルワーク実習を終えた学生のみ受講可能な実習事後指導科目である。
第4回から第12回については、ソーシャルワーク実習における訪問・帰校日指導担当教員による指導を実施する予定である。
それ以外の授業回(全体授業)は主担当教員が担当する予定である。
初回授業にて、本科目の進行計画・方法を履修者に説明する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 相談援助実習の意義と目的 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 2 | 実習3段階モデル、実習契約、実習生の権利と義務 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 3 | 事前学習の意義と方法 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 4 | 事前学習についてのグループワーク | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 5 | 実習計画書の作成指導の意義と方法 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 6 | 実習計画書の作成 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 7 | 事前学習グループ発表会 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 8 | 実習の4者関係と実習先の理解 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 9 | 事前訪問の意義と方法 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 10 | 事前学習課題についてのグループワーク | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 11 | 事前学習課題グループ発表会 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 12 | スーパービジョン関係 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 13 | 実習記録の意義と記入方法 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 14 | 個人情報保護と取り扱いについて | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 15 | 実習中と実習後の諸注意事項と提出物の確認 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010133000 ソーシャルワーク実習指導Ⅲ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 実習におけるスペシフィツク・ジェネリックなまなびを言語化し、実習報告書と報告会用のプレゼンテーション資料を作成できる。
2. 実習報告会において、実習におけるスペシフィツク・ジェネリックなまなびを参加者にわかりやすく伝え、質疑に対して適切な応答をすることができる。
3. 実習経験を一般化し、ジェネラリスト・ソーシャルワーカーとしての視点を説明し、各自のなりゆく社会福祉士像を言語化できる。

## 授業概要(教育目的)

1. 実習事後のふりかえりを通し、各自のなりゆく社会福祉士像を示すことができることをおもな目的とする。
2. 実習経験を一般化することにより、ジェネラリスト・ソーシャルワーカーとしての視点を養うことをおもな目的とする。
3. 実習報告会の準備と発表を通し、実習を通して得た学びを言語化し、他者に分かりやすく伝える力を身につける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業への取り組み姿勢やレポート課題の内容、提出状況等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文等)は、その後の授業でとりあげることがある。

## 参考文献

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『最新社会福祉士養成講座8　ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』中央法規出版

## 講義時使用テキスト

適宜、資料を配布する。

## 資格との関連

社会福祉士国家試験の受験資格を取得するための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

ソーシャルワーク実習を終えた学生のみ受講可能な実習事後指導科目である。
第4回から第12回については、ソーシャルワーク実習における訪問・帰校日指導担当教員による指導を実施する予定である。
それ以外の授業回(全体授業)は主担当教員が担当する予定である。
初回授業にて、本科目の進行計画・方法を履修者に説明する。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 相談援助実習の意義と目的 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 2 | 実習3段階モデル、実習契約、実習生の権利と義務 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 3 | 事前学習の意義と方法 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 4 | 事前学習についてのグループワーク | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 5 | 実習計画書の作成指導の意義と方法 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 6 | 実習計画書の作成 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 7 | 事前学習グループ発表会 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 8 | 実習の4者関係と実習先の理解 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 9 | 事前訪問の意義と方法 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 10 | 事前学習課題についてのグループワーク | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 11 | 事前学習課題グループ発表会 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 12 | スーパービジョン関係 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 13 | 実習記録の意義と記入方法 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 14 | 個人情報保護と取り扱いについて | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |
| 15 | 実習中と実習後の諸注意事項と提出物の確認 | 相談援助実習に行くうえで、理解が不足していると考える事柄について、関連書籍やインターネット等で調べる。 | 配布資料等を見直し、不明な点があれば調べ直す。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010134000 ソーシャルワーク実習 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

福祉施設における実習を通じ、社会福祉士の実践における価値と役割について説明することができる。

## 授業概要(教育目的)

厚生労働省が想定する相談援助実習のねらいを踏襲した福祉の現場での実践的な学習となる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

実習指導者による評価が70%、実習指導担当教員による評価が30%の配分にて総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

実習期間中に合計4回、ソーシャルワーク実習指導Ⅰの担当教員が訪問・帰校日指導を行う。
その際に、学生と対話形式で課題解決のための指導を行う。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

福祉機関での実習科目のため、使用しない。

## 資格との関連

社会福祉士国家試験の受験資格を取得するための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

十分に事前学習を行ったうえで、誠実に、真摯な態度で学ばせていただく必要がある。
※履修規定を十分に確認したうえで履修すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 夏季に福祉施設・機関において23日以上、且つ180時間以上の相談援助実習を実施する。<br>基本的に、相談援助実習の実習指導者資格を有するスーパーバイザーの指導のもとで学習することになる。<br>なお、実習中は、本学教員による計4回の訪問指導・帰校日指導が実施される。 | 初日は、あらかじめ、相談援助実習指導Ⅰや実習機関への事前訪問の際に受けた説明を確認したうえで臨む。2日目以降は、前日に実習指導者から指導を受けた内容を事前配布資料や関連書式、インターネット等を用いて確認する。 | 「相談援助実習日誌」を毎日作成し、次回実習日に実習指導者に提出し、コメントをいただく。また、「各週中間報告書」を1週間に1度作成し、各週の初日に実習指導者へ提出し、コメントをいただく。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010135000 インターンシップⅠ（人間健康学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

「インターンシップⅠ」の到達目標は、以下の3点である。
①インターンシップでの体験を通し、自らのキャリア、職業選択を考える手がかりを得る。
②社会からみた自己の評価を知ることにより、自己発見の機会とする。
③上記①,②を、大学での学習にフィードバックする。

## 授業概要(教育目的)

インターンシップとは、在学中のある一定期間、企業などにおいて、自らの専攻、将来のキャリア
に関連した就業体験を行うこと制度であり、以下の①及び②を通じ、主体的に職業を選択する能力
を身につけさせ、高い職業意識を育成することを目的としている。

①学生が自己の職業適性や将来設計について考える機会を提供する。
②大学における学修を深化し、新たな学習意欲を喚起する。

「インターンシップ」は、大きく事前指導、実習、事後指導の順序で進められる。
・事前指導は前期の時間割で空き時間に実施する。
・実習は長期休暇中に各実習先で実施する。
・事後指導は後期の時間割で空き時間に実施する。
(詳細については、「授業計画表」に記す。)

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

地域活動やフィールドワーク、国際交流等を通じて、地域産業の現状と課題を理解し、地域経営に必要な行動力、コミュニケーション能力を身につけている。

## 評価方法

・「インターンシップⅠ」は、事前指導、実習、事後指導のすべてを終了して単位が認定される。
・したがって、評価についても、事前指導、実習、事後指導のすべてを総合し、行う。
・上記について、以下の①,②に、特に注意すること。
①事前指導を欠席した場合、実習への参加が認められない。
②事後指導での課題への取り組み、提出を怠った場合、実習に参加しても単位は認定されない。

・また、事後指導等において、インターンシップ全てを振り返って最終レポートを提出する。

## 課題に対するフィードバック

・事前指導の課題(面談シート)については、面談時にアドバイスする。
・実習時の課題(実習日誌)については、実習先とやりとりする。
・事後指導の課題(成果発表)については、発表時に講評を行う。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

・「インターンシップⅠの手引き」
(初回の授業で配布：毎回持参すること。)
・上記以外にも、随時、資料を配布する。

## 資格との関連

特記事項なし。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・インターンシップを履修する学生は、研修先で八戸学院大学を代表することになる。
・自分は、八戸学院大学を代表して、研修先にお世話になるということを肝に銘じること。
・研修先での身勝手な行動、社会常識に反する行動は慎むこと。
・自己都合による、研修のキャンセルは絶対にできないので、履修する際、この点を必ず約束すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 事前指導(1)インターンシップの学習の流れと本学における事例 | ・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 2 | 事前指導(2)外部講師講話(インターンシップの経緯と意義、最新事例) | ・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 3 | 事前指導(3)マッチングテスト(外部テスト活用) | ・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・どの企業で、いかなる就業体験を送りたいか熟考する。 |
| 4 | 事前指導(4)マッチング作業①(アンケート・面談) | ・面談シートを作成する。<br>・面談で答えるべき内容を準備する。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・どの企業で、いかなる就業体験を送りたいか熟考する。 |
| 5 | 事前指導(5)マッチング作業②(面談・報告) | ・面談で答えるべき内容を準備する。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・どの企業で、いかなる就業体験を送りたいか熟考する。 |
| 6 | 事前指導(6)マッチング作業③(面談・報告) | ・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 7 | 事前指導(7)就活最前線(外部講師) | ・前回の授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 8 | 事前指導(8)ビジネスマナーと社会人対応、実習日誌について | ・前回の授業の内容を整理し、論点を整理する。<br>・配布資料の該当箇所を読む。<br>・授業内容をインターネットで調べる。 | ・授業の内容を確認し、論点を整理する。<br>・配布資料とノートを読み直す。 |
| 9 | 研修先での実習(1) | ・事前指導で学んだ内容を確認し、論点を整理する。・それぞれの研修先で実習を行うに際しての事前の注意事項を再確認する。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 10 | 研修先での実習(2) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 11 | 研修先での実習(3) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 12 | 研修先での実習(4) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 13 | 研修先での実習(5) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 14 | 研修先での実習(6) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 15 | 研修先での実習(7) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 16 | 研修先での実習(8) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 17 | 研修先での実習(9) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 18 | 研修先での実習(10) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 19 | 研修先での実習(11) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。・実習日誌を記入する。 |
| 20 | 研修先での実習(12) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 21 | 研修先での実習(13) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 22 | 研修先での実習(14) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 23 | 研修先での実習(15) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 24 | 研修先での実習(16) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 25 | 研修先での実習(17) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |
| 26 | 研修先での実習(18) | ・実習の準備をする。 | ・研修先での体験を振り返り、留意すべき点を整理する。<br>・実習日誌を記入する。 |

| 講義名 | 4010136000 インターンシップⅡ（人間健康学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010137000 健康科学総論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 吉田　守実 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 健康と疾病の考え方について説明できる
2. 社会における健康問題について説明できる
3. こころとからだの健康について説明できる
4. 社会や人々との関わりの大切さについて説明できる

## 授業概要(教育目的)

少子高齢化が進むなかですべての人が生きがいをもって日々の生活を送れるような社会の構築が求められており、健康に関する諸問題はその中心的事項である。
本講義においては、専門の異なる8名の教員がオムニバス方式でそれぞれの立場から関わりの深いトピックスを取り上げて健康の意義について考察する。健康、医療について「からだ」、「こころ」、「社会」といった観点から多面的に理解し、各専門分野を学修して行くための基礎的知識の習得や連携の重要性を念頭に講義を進める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

授業内で行う小テストやレポート、提出課題を総合して評価する。

## 課題に対するフィードバック

成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

授業内で必要に応じて紹介する。

## 講義時使用テキスト

教科書は使用しない。各担当教員が資料を配布する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

専門の異なる教員によるオムニバス方式で講義が行われるので、分野毎の健康や医療に関する考え方の共通点・相違点を理解できるように集中して講義に出席すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 健康の捉え方 | シラバスを 読んでくる。<br>健康の 概念について 調べてください。 | 配布資料とノートを 読み 直してください。 |
| 2 | 2. 医学:疾病の成り立ちと健康との対比 | 「医学・医療」についてのイメージをまとめてくる。 | 配布資料とノートを 読み 直す。 |
| 3 | 3. 医学:医療の現状と問題点 | 前回の 授業内容を 整理する。<br>配布資料の 該当箇所を 読む。 | 配布資料とノートを 読み 直す。 |
| 4 | 4. 精神:心の 病(精神疾患)と生活のしづらさ | 精神疾患には、どのような 病気があるか、を簡単にまとめてくる。 | 講義の 内容を 振り返り 不明な 点は 調べる。 |
| 5 | 5. 精神:心の 病(精神疾患)を 抱える 人の 生活実践 | 前回の 授業内容を 整理する。 | 講義の 内容を 振り返り 不明な 点は 調べる。 |
| 6 | 6. 運動:健康と体力 | 講義において 提示する 課題に 取り組むこと。 | 講義中に 課題を 示すので、期日までに 提出すること。 |
| 7 | 7. 運動・スポーツによる 重篤な 外傷・疾患への 対処のしかた | 「一次救命処置」とは 何かということについて 予習してください。 | 熱中症の 分類とそれぞれの 対処法について 復習してください。 |
| 8 | 8. 運動・医学:フレイルとロコモティブシンドローム | 「健康寿命」とは 何かということについて 予習してください。 | 脈拍数を 用いた 運動強度の 決め 方について 復習してください。 |
| 9 | 9. 栄養:健康と食事 | 「食べる」という 行動は 健康を 営む 上で、どのような 役割があるか 考えてくる。 | 講義において 提示する 課題に 取り組むこと。 |
| 10 | 10. 福祉:社会福祉を取り巻く状況 | 日常生活と 社会福祉の 関わり、役割について 考えてくる。 | 講義中に 課題を 示すので、期日までに 提出すること |
| 11 | 11. 看護:性の 健康「体と心の 性ー 多様性ー」 | 性に 関する 解剖を 予習すること | 講義終了時に 課題を 出し 時間内に 提出すること(記入時間は 確保します) |
| 12 | 12. 看護:性の 健康「性感染症・避妊・性暴力」 | 性感染症・避妊・性暴力について 調べてくる。 | 講義終了時に 課題を 出し 時間内に 提出すること(記入時間は 確保します) |
| 13 | 13. 看護:性の 健康「人権と 性」 | 基本的人権とは 何かを 調べてくる | 講義終了時に 課題を 出し 時間内に 提出すること(記入時間は 確保します) |
| 14 | 14. 心理:ストレスと健康 | 「ストレスとは 何か」について 考えてくる。 | 講義中に 課題を 示すので、期日までに 提出すること。 |
| 15 | 15. 心理:コミュニケーションと健康 | 前回の 授業の 内容を 整理し、論点を 整理する。 | 講義中に 課題を 示すので、期日までに 提出すること。 |

| 講義名 | 4010138000 解剖学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.解剖学の定義について述べることができる。
2.人体について各種構造の名称を理解し、どのように構築されているかを述べることができる。

## 授業概要(教育目的)

人体の構造の基本的知識を修得する。全身の骨格系、筋系、神経系、脈管系、消化器系、呼吸器系、内分泌系、感覚器系、泌尿器・生殖器系の構造を学ぶ

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

・定期試験や小テストにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
・期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

講義内で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

読んでわかる解剖生理学、竹内修二、医学教育出版
解いてわかる解剖生理学-問題集-、竹内修二、医学教育出版

## 資格との関連

教科「保健体育」、「保健」、「看護」、「養護教諭」免許状取得希望者の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・講義内容をより理解するために、図書館で講義に関係した専門書や動画を借り、復習するなどの努力をすること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 解剖学の定義、領域 | 予め、シラバスで講義の到達目標を理解し、講義計画を調べておく。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 2 | 人体はどのようなものか、細胞・組織・器官 | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 3 | 運動器(1)骨・関節・筋の構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 4 | 運動器(2)各部の骨格・関節・筋について(体幹) | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 5 | 運動器(3)各部の骨格・関節・筋について(上肢) | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 6 | 運動器(4)各部の骨格・関節・筋について(下肢) | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 7 | 神経系(1)中枢神経系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 8 | 神経系(2)末梢神経系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 9 | 内分泌系:内分泌腺と内分泌細胞について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 10 | 呼吸器系:呼吸器の構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 11 | 循環器系(1):心臓の構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 12 | 循環器系(2):血管・リンパ管の構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 13 | 消化器系(1):消化管の構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 14 | 消化器系(2):消化管構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 15 | 生殖器系:生殖器の構造について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べて講義内容を把握する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |

| 講義名 | 4010139000 衛生・公衆衛生学Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

・健康の概念やそれに関わる保健の概念を説明できる。
・世界の健康問題について理解できる。
・健康と環境の関係の概要を理解できる。
・我が国の健康状況の実態について理解できる。
・感染症の成立とその対策を理解できる。
・社会保障の枠組みを理解できる。
・ライフステージごとの保健活動について理解できる。

## 授業概要(教育目的)

公衆衛生学は健康の保持・増進を組織化された共同社会の中で社会的努力によって、疾病の予防、寿命の延長そして身体的・精神的健康と能率の増進を目指す学問である。ヒトを含む生物は環境のもとで」生存し、生活している。健康に関係する様々な要因を認識し、それらが起因する健康影響について、環境要因やライフステージの特性との関連を整理する。さらにそれらの健康障害を予防するための様々な保健活動について学習し、積極的な健康獲得の重要性を理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験や授業時に行う小テストにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

毎回、授業の開始時に前回の要点を話し、実施した小テストの模範解答を示して説明を行う。さらに要所で内容確認を行うことで授業のつながりを円滑にし、課題となる部分の理解度を深めるよう努める。

## 講義時使用テキスト

「新編 衛生・公衆衛生学」 山本玲子　監修者(アイ・ケイコーポレーション)
必要に応じてプリントも配布する。

## 参考文献

「厚生の指標・増刊－国民衛生の動向 2025/2026」厚生統計協会(財)
「厚生の指標・増刊－国民の福祉と介護の動向 2025/2026」厚生統計協会(財)
「厚生の指標・増刊－保険と年金の動向 2025/2026」厚生統計協会(財)
「令和6年版 厚生労働白書」厚生労働省 編
「なるほどなっとく！公衆衛生学」中村好一・春山早苗編 （南山堂）

## 資格との関連

積極的な健康の獲得とそのための一次予防を基本とする公衆衛生学は、医療保健領域における種々の資格取得に必要な基礎的知識である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・医学一般、健康教育論の単位を取得していることが望ましい。
・必要に応じてDVD等の視聴も行い、理解を深める。
・全回出席を基本とする。1/3以上欠席した場合、単位未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 公衆衛生学概論<br>（健康の 概念、公衆衛生の定義・役割） | シラバスで 講義の 到達目標を 確認し、講義計画に目を 通しておく | 講義内容を整理する |
| 2 | わが国・世界の 健康問題と 国際保健<br>（プライマリヘルスケア～SDGs、国際協力、WHO） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 3 | 環境と 健康①<br>（環境の 概念、生態系のシステム、環境要因、健康のリスク） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 4 | 環境と 健康②<br>（暮らし・地域・地球規模の 環境問題の 概要）<br>人口統計からみた 健康状態①<br>（人口静態統計） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 5 | 人口統計からみた 健康状態②<br>（人口動態統計、健康寿命） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 6 | 保健統計からみた 健康状態<br>（健康・疾病・行動に 関わる統計） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 7 | 疫学による 健康状態・疾病の 測定と 評価<br>（疫学の 方法、疫学研究と 倫理） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 8 | 疾病予防と 健康管理<br>（生活習慣の 現状と 対策） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 9 | 主要疾患の 疫学と 予防①<br>（生活習慣病の 動向と 予防対策） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 10 | 主要疾患の 疫学と 予防②<br>（感染症の 動向と 予防対策） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 11 | 地域保健活動<br>（保健所と 市町村保健センターの 役割、有事の 保健活動） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 12 | 社会保障のしくみ<br>（医療、年金、保健、介護の 動向） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 13 | ライフステージごとの 健康対策①<br>（母子保健、学校保健） | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 14 | ライフステージごとの 健康対策②<br>（成人・高齢者保健、産業保健）<br>まとめ | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 15 | 公衆衛生活動のまとめ | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を 整理し、全体をまとめる |

| 講義名 | 4010140000 発達心理学（人間健康科学科） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.人間の発達について，基本的な理論および発達課題について説明できる。
2.各発達段階における心と身体の特性について説明できる。
3.自分や周囲の人々を生涯発達の観点から理解することができる。

## 授業概要(教育目的)

発達心理学は，人間を身体・心理・社会的側面の統合体としてとらえ，その人間を，生涯に渡って変化していく過程，すなわち，発達の観点から総合的に理解することを目的とした学問である。これは教育・看護・医学・保育・社会福祉など人間を対象としている職業に従事する人々や学生に重要な視点を提供する。それぞれの職種はある特定の時期の人間を対象とすることが多い。しかし，それらの人々の理解や援助・支援には以前の発達段階やその後の発達段階についての知識が必要となる。本授業では，特に身体と心の発達に焦点をあて，各発達段階の諸特性について概説していく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題探究に取り組む主体的姿勢を身につけている。

## 評価方法

授業への参加態度，レポート等の課題内容，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

「公認心理師スタンダードテキストシリーズ12　発達心理学」林創(編著)　ミネルヴァ書房
「コメディカルのための専門基礎分野テキスト　人間発達学(改訂6版)」福田惠美子(編著)　中外医学社
「看護のための人間発達学(第5版)」舟島なをみ・望月美知代(著)　医学書院

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の関連科目である。資格取得希望者は履修することが望ましい。

## 学生へのメッセージ

本授業の目的に一つは発達の視点から自分や他者をより深く理解することである。これは，将来人を対象とする職業に従事するときに役立つばかりではなく，現在の自分の課題を理解したり，将来的な展望を持って生きるためにも有益である。このような観点を常に持ちながら，授業に臨んでほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 発達心理学の概説 | シラバスを確認し，授業の概要を理解する。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 発達理論 | 発達理論について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 胎児期・新生児期の発達 | 胎児期・新生児期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 乳児期の発達 | 乳児期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 乳幼児期・児童期の発達1：感覚と運動 | 乳幼児期・児童期について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 乳幼児期・児童期の発達2：愛着と社会性 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 乳幼児期・児童期の発達3：認知 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 乳幼児期・児童期の発達4：言語 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 乳幼児期・児童期の発達5：対人関係と遊び | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 青年期の発達1：心身の発達 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 青年期の発達2：アイデンティティの確立 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 成人期の発達1：キャリア形成 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 成人期の発達2：結婚と家族形成 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 老年期の発達1：心身の発達 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 老年期の発達2：心理社会的課題 | 乳幼児期・児童期の発達について図書館やネット等で事前に調べておく。 | 授業終了後に授業内容に関する感想，質問等のリスポンスを提出する必要がある。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 講義名 | 4010141000 生理学（運動生理学含む） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.生理学の定義について述べることができる。
2.人体を構成する器官系についての一般的な機能を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

ヒトの身体について、その基本の構造と機能を学び、健康を保持するために身体かどのようにして自己を維持し、生命活動を営んでいるか、また日常生活や運動時においてとのような機能を果たしているかを総合的に学習する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

・定期試験や小テストにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
・期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

入門運動生理学　第4版、勝田茂、杏林書院
その他、講義内で適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

読んでわかる解剖生理学、竹内修二、医学教育出版
解いてわかる解剖生理学-問題集-、竹内修二、医学教育出版

## 資格との関連

教科「保健体育」、「保健」、「看護」、「養護教諭」免許状取得希望者の必修科目である。
日本トレーニング指導者協会認定トレーニング指導者資格（jATI-ATI）取得に必要な科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・授業は映像資料による学習を交えて行う。講義内容をより理解するために、図書館で講義に関係した専門書や動画を借り、復習するなどの努力をすること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 生理学とは | 予め、シラバスで講義の到達目標を理解し、講義計画を調べておく。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 2 | 呼吸器系：呼吸運動、ガス交換とガスの運搬について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 3 | 循環器系(1)：心臓の機能、心電図について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 4 | 循環器系(2)：血管・リンパ管の機能、血圧について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 5 | 運動時における呼吸循環器系・エネルギー代謝について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 6 | 体液・血液について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 7 | 消化器系：消化管、肝臓・胆のう・膵臓の機能について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 8 | 泌尿器系：泌尿器の機能について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 9 | 内分泌系：ホルモンによる調節について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 10 | 筋肉・骨格：筋の機能 | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 11 | 神経系(1)：中枢神経系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 12 | 神経系(2)：末梢神経系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 13 | 感覚器系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 14 | 運動と骨格筋系・神経系・内分泌系について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |
| 15 | 生殖器系：男女の生殖器について | 予め、配布されたプリント内容を教科書で調べ、次週の講義内容を理解する。 | 講義内容をノートにまとめ、整理しておく。 |

| 講義名 | 4010142000 衛生・公衆衛生学Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 千葉　啓子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.衛生学の概念を説明できる。
2.環境と健康のかかわりについて理解できる。
3.水・空気などの基本的な環境要因について理解できる。
4.身近な生活環境の汚染、公害、地球規模の環境問題について理解できる。
5.環境保全の重要性を理解し、環境汚染によって生じる健康影響を例を挙げて説明できる。

## 授業概要(教育目的)

"衛生"の"生"は生命や生活であり、"衛"はそれを保護し守るという意味をもつ。衛生学は健康を守り、増進するための、よりよい生活環境を実現するために必要な知識の習得を行う科目である。人間を取り巻く自然環境や社会的環境などの変化に伴い、疾病構造も変遷しており、健康問題も多様化してきている。この授業では、我々を取り巻く様々な環境の存在を理解し、とくに生態系を形成する自然環境と健康のかかわりについての基本的な知識を身につける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

こころとからだの健康に関する予防医学的な学問の基礎を理解し、将来の進路を踏まえて自主的に課題を探究し、対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

定期試験や小テストにより総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

授業開始時に、前回の要点を復習するとともに小テストの模範解答を示して説明を行い、引続き、当日の授業を進めることで、授業内容の関連性を保ちながら授業を進め、理解度のアップや課題解決に努める。

## 参考文献

「厚生の指標・増刊－国民衛生の動向　2025/2026」厚生統計協会(財)
「環境科学入門　第2版」 川合真一郎他　(講談社)
「環境白書 令和7年版」環境省 編

## 講義時使用テキスト

「新編　衛生・公衆衛生学」監修者　山本玲子(アイ・ケイコーポレーション)を前期「公衆衛生学」に引き続き使用する。
必要に応じてプリントも配布する。

## 資格との関連

環境要因の人間の健康への関わりを理解することは、医療保健領域における種々の資格取得のための基礎的知識の習得となる。

## 学生へのメッセージ

・ニュース、新聞等で報じられる環境問題に関する出来事や記事について常に関心を持って欲しい。
・必要に応じてDVD等の視聴も行い、理解を深める。
・全回出席を基本とする。1/3以上欠席した場合、単位未習得となるので注意すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 概論<br>(環境衛生分野の各論の紹介) | シラバスで講義の到達目標を確認し、講義計画に目を通しておく | 講義内容を整理する |
| 2 | 環境とは、地球の成り立ち<br>(生態系の仕組み、生物多様性、地球の歴史・構造) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 3 | 気象・気候と健康<br>(気象・気候要因と健康、季節病)<br>大気環境と健康①<br>(大気の正常成分) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 4 | 大気環境と健康②<br>(大気の有害成分) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 5 | 気圧と健康<br>(気圧の変化と健康影響)<br>温熱環境と健康<br>(温熱要因と健康影響) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 6 | 水環境と健康①<br>(水の役割、上水道整備・水質基準) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 7 | 水環境と健康②<br>(下水道整備、水質汚濁指標) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 8 | 電磁波と健康①<br>(電離放射線の種類と健康影響) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 9 | 電磁波と健康②<br>(非電離放射線の種類と健康影響) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 10 | 食環境と健康①<br>(食中毒の概要、病原微生物による食中毒) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 11 | 食環境と健康②<br>(自然毒による食中毒) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 12 | 食環境と健康③<br>(近年の食環境問題) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 13 | 暮らしの環境問題<br>(廃棄物の現状・リサイクル) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 14 | 地域の環境問題<br>(公害) | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理する |
| 15 | 地球規模の環境問題<br>(温暖化、オゾン層の破壊、酸性雨)<br>まとめ | 教科書の該当部分を読む | 講義内容を整理し、全体をまとめる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010143000 スポーツ社会学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 三本木　温 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 社会学の枠組みからスポーツを理解して説明できる。
2. スポーツと現代社会との関係を理解して説明できる。
3. 現代のスポーツにおける課題について理解して説明できる。

## 授業概要(教育目的)

現代におけるスポーツはかつてない広がりを見せるとともに競技スポーツは極めて高度化している。現代スポーツの大衆化、高度化は多くの人々にスポーツの楽しさを提供し、スポーツの可能性を広げている。しかしその一方で、負の影響も与えている。スポーツは人間社会の中で営まれるものであり、その時々の社会情勢の影響を受ける。将来のスポーツ界を支える世代の方達が、変化の激しい現代社会におけるスポーツのあり方を考えるための視点を学ぶことを目的とする。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、自らの課題を明確にして、課題探究に取り組む主体的姿勢を身につけている。

## 評価方法

講義中の発言、小テスト、リアクションペーパーへの取り組み状況、および期末試験の成績から総合的に評価する。
平常評価(小テストやリアクションペーパー:40%)
期末評価(期末試験:60%)

## 課題に対するフィードバック

講義成績(講義中の課題、期末試験)を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

「よくわかるスポーツ文化論(改訂版)」井上俊・菊幸一(編著)、ミネルヴァ書房
他にも講義中に適宜紹介する。

## 講義時使用テキスト

参考文献をもとに作成した資料を講義内で配付する。

## 資格との関連

特になし。

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 社会学という学問について | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 2 | スポーツ社会学とは何か | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 3 | 現代社会とスポーツ | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 4 | 日本のスポーツ文化 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 5 | スポーツとグローバル化 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 6 | スポーツとジェンダー | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 7 | スポーツと暴力 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 8 | スポーツと逸脱行為 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 9 | スポーツとナショナリズム | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 10 | スポーツと差別 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 11 | スポーツと教育 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 12 | スポーツと環境 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 13 | スポーツと災害復旧・復興 | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 14 | スポーツ社会学の研究法(1) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |
| 15 | スポーツ社会学の研究法(2)<br>(ゲストティーチャーによる講義) | WebClassにアップロードされた講義資料に目を通し、講義当日の学習内容を整理する。 | 講義資料とノートを用い、学習内容の整理を行う。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010144000 生涯スポーツ演習Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010145000 生涯スポーツ演習Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 三本木　温 | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010146000 健康スポーツ実習Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 泉水　朝宏 | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010147000 健康スポーツ実習Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010148000 ラグビー | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

## 学習目標(到達目標)

## 授業概要(教育目的)

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

## 課題に対するフィードバック

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010149000 サッカー | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 田嶋　善博 | | |

## 学習目標(到達目標)

本講義では、各球技の特性を理解に努める。サッカーの基礎技術・理論の理解に努める。各年代の心身の発達応じた指導法の理解に努める。

## 授業概要(教育目的)

本講義では、年代別に応じた指導法の習得を目的とする。サッカーの基礎理論・基礎実技を学び、指導者としての人間性を高め、子供たちの人間形成の一助になってほしい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

実技試験・授業に取り組む姿勢や態度を総合的に評価する。再試験は実施しない。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて資料を配布する。

## 資格との関連

教職課程履修者(中学校保健体育・高等学校保健体育)のみ履修登録可能。

## 学生へのメッセージ

スポーツ・サッカー好きになり楽しむ。楽しいという感情を持てる声かけをする。幼児・小・中・高校生の身体や心の発達に応じて、指導者の立場に立った指導法を理解する。スポーツはやらせるのではなく、することで色々な力が身につく。「サッカーは子どもを大人にする。大人を紳士する」という諺がある。今、自分があるのはサッカーのおかげだと言える指導者になり、自分の夢を実現して欲しい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス。受講に対しての諸注意。サッカーの歴史。日本サッカーの変遷。安心・安全の確保。指導対象(幼児・小・中校生徒)の身体的・精神的特徴と指導方法 | 受講するにあたって、サッカーの特性、歴史について 調べる。 | 自分の描いている教師像、夢について レポートをまとめる。 |
| 2 | 基礎実技① ボールゲームの特徴・ウオーミングアップの重要性。(アジリティ・モビリティ・スタビリティ・ムーブメント)を意識して行う。ゲーム(各講義とも最後にはゲームを行い課題を見つける。時間があれば個々の 課題に取り組む。 | 主に小・中生の年代における指導の狙いを考えてくる。 | サッカーを通して集団スポーツの特性を理解する。 |
| 3 | 基礎実技② ボールコントロール。ボールリフテング(毎時間実施)。ゲーム(毎時間実施)。 | 選手にとって何が最善か競技規則と審判法について 調べてくる。 | ルールの理解と実践、マナーの醸成を図る。 |
| 4 | 基礎実技③ ボールを運ぶ(ドリブル) ボールを送る(パス) ボールを止める(トラップ) 基礎的な練習では人数・場所・時間等を工夫して行う・(全ての基礎練習に 共通) ゲーム。 | 基本技術、ボールリフティング、パス、ドリブルの 練習をする。 | ゲームを通して達成できたか 振り返る。 |
| 5 | 基礎実技④ 基礎的練習に 動きなど 変化をつける。ゲーム。 | 得点を取る、失点をしないためにどんなプレーが 最適か 考える。 | チームとしてどのようなコーチング、コミュニケーションがベストか 考える。 |
| 6 | 競技規則について。ルール解説。フェーブレーとマナーの醸成。リスペクト精神。他競技の 審判法の違い。ゲームの中で 実技解説。ゲーム。 | 攻撃の原理原則、シュートを 打つ、ボールを 運ぶ、ボールを 奪われないためにはどうするか 考える。 | ゲームを通して達成できたか 振り返る。 |
| 7 | 基礎実技⑤ 攻撃の 原則(1対1・2対1等)ゴールを 奪うためにアイデアが 必要。ゲーム。 | 守備の 原理原則、チャレンジ&カバー、数的優位について 考える。 | ゲームを通して達成できたか 振り返る。 |
| 8 | 基礎実技⑥ 守備の 原則(1対1・1対2等)ボールを 奪う・カバーリング・ゴールを 守る等。ゲーム。 | 実技試験に向けてこれまで 実施したことを振り返る。 | 授業内容についてインターネットで 調べる |
| 9 | 基礎実技⑦ 攻撃は視野を 広く。ゴールを2つ 作り視野を 広げ 空いているゴールを 奪う。ゲーム。 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業内容についてインターネットで 調べる |
| 10 | 基礎実技⑧ 守備コーチング。的確なポジショニング。首を 振り視野を 広げる。相手にスペースを 与えない。ゲーム。 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業内容についてインターネットで 調べる |
| 11 | 基礎実技⑨ ゲームを通して 履修したことを実践する。課題提起・克服する。 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業内容についてインターネットで 調べる |
| 12 | 基礎実技⑩ ゲームを通して 履修したことを実践する。課題提起・克服する。 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業内容についてインターネットで 調べる |
| 13 | 基礎実技⑪ ゲームを通して 履修したことを実践する。課題提起・克服する。 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業内容についてインターネットで 調べる |
| 14 | 実技試験 | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業内容についてインターネットで 調べる |
| 15 | 講義のまとめ | 授業内容についてインターネットで 調べる | 授業内容についてインターネットで 調べる |

| 講義名 | 4010150000 バスケットボール | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 渡邉　陵由 | | |

## 学習目標(到達目標)

ゴール型のスポーツであるバスケットボールのルールや技術、戦術について説明できるようになるとともに、個々の技術を習得する。

## 授業概要(教育目的)

本科目は保健体育教員養成のために開講される。そのためゴール型のバスケットボールの基礎技術や戦術を理解するとともに、将来指導者の立場となったとき、指導の計画・実践・評価だけでなく試合の運営方法についても学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

実技の習得度、提出課題、授業への参加態度を総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

『バスケットボール指導教本　改訂版』上・下巻　大修館書店

## 講義時使用テキスト

特に指定はしない。

## 資格との関連

中学校・高等学校教諭一種免許状(保健体育)取得のために必要な科目(選択)である。
教職課程履修(教員免許取得希望者)のみ履修登録が可能な科目であり、他の学生(一般学生・教職を諦めた者)は受講できない。

## 実務との関連

## 学生へのメッセージ

・集団種目の授業であるため、履修者が少ないと授業が成り立たないため、履修者が8名に満たない場合は開講しない。
・体育館でおこなわれる実技の授業であるため、必ず運動着、内履きを持参すること。
・自らの意思で考え、積極的に行動できる学生に参加していただきたい。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | バスケットボールの歴史 | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 2 | バスケットボールのルール | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 3 | バスケットボールの基礎技術①(ドリブル) | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 4 | バスケットボールの基礎技術②(パス) | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 5 | バスケットボールの基礎技術③(シュート) | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 6 | 1対1の攻防 | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 7 | 2対2の攻防 | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 8 | 3対3の攻防 | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 9 | 4対4の攻防 | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 10 | 5対5の攻防①(マンツーマン) | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 11 | 5対5の攻防①(ゾーン) | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 12 | アウトナンバーでの攻防 | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 13 | バスケットボールの審判法 | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 14 | 試合の運営方法(リーグ戦) | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |
| 15 | リーグ戦および実技テスト | ・授業内容についてインターネットで調べる | ・授業の内容を整理しノートにまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010151000 バレーボール・バドミントン | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|

| 講義名 | 4010152000 テニス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 工藤　祐太郎 | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 講義名 | 4010153000 ソフトボール | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 実技 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

ソフトボールの競技特性を理解し、競技に必要とされる体力及び技術とその専門指導法について習得する。

## 授業概要(教育目的)

ソフトボールの競技特性を理解し、競技に必要とされる体力及び技術とその専門指導法について習得する。特に、学校体育として学習指導計画の立案に求められる知識や、評価の方法について理解し、ソフトボールを実践する者に対する専門的な指導法について学ぶ。
また、学生が主体となって指導するといった時間を確保し、実際の指導を実践する。さらに、チームで取り組む時間を多くすることで協調性、積極性及び行動力などの社会性を養う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

実践、レポート・発表，受講態度などの結果から総合的に判断する.

## 課題に対するフィードバック

・成績を知りたい学生には個別に開示する。
・成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

中学校学習指導要領解説保健体育編(最新版)(文部科学省)
高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編(最新版)(文部科学省)

## 資格との関連

教職課程履修者の履修登録が可能な科目：
選択科目：中一種免、高一種目免許ともに、ラグビー、サッカー、バスケットボール、バレーボール・バドミントン、テニス、ソフトボールの中から1科目1単位以上

## 学生へのメッセージ

教職課程履修者の履修登録が可能な科目です。それ以外の学生は受講できません。また、受講者数に上限(24名まで)・下限(10名から)を設けています。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 【ガイダンス】<br>・授業のねらい、到達目標、評価法、諸注意、等についての説明を実施する。 | シラバスを熟読する。 | 授業時の注意点をまとめる。 |
| 2 | 【ソフトボールの競技特性と専門性】<br>・ルール | ソフトボールのルールに関する資を熟読する。 | ソフトボールのルールについてまとめる。 |
| 3 | 【ソフトボールの競技特性と専門性】<br>・基本動作 ・専門技術 ・トレーニング法 ・コンディショニング法 ・グランドの整備方法 | ソフトボールの競技特性、基本動作について調べる。 | ソフトボールに求められる体力的要素を簡潔にまとめる。 |
| 4 | 【ソフトボールの指導法①】<br>・投動作の指導法 | 投動作の指導法について調べる。 | 投動作の指導法についてまとめる。 |
| 5 | 【ソフトボールの指導法①：実践】<br>・投動作の指導実践 | 投動作の観察ポイント・改善方法を調べる。 | 投動作の観察ポイント・改善方法をまとめる。 |
| 6 | 【ソフトボールの指導法②】<br>・打動作の指導法 | 基本的なバット操作の指導法について調べる。 | 基本的なバット操作の指導法についてまとめる。 |
| 7 | 【ソフトボールの指導法②：実践】<br>・打動作の指導実践 | バット操作の観察ポイント、改善方法を調べる。 | バット操作の観察ポイント、改善方法をまとめる。 |
| 8 | 【ソフトボールの指導法③】<br>・走塁の指導法走塁の指導法について調べる。 | 走塁の指導法について調べる。 | 走塁の指導法についてまとめる。 |
| 9 | 【ソフトボールの指導法③：実践】<br>・走塁の指導実践 | 走塁の観察ポイント、改善方法を調べる。 | 走塁の観察ポイント、改善方法をまとめる。 |
| 10 | 【ソフトボールの指導法④】<br>・守備の指導法 | 守備の指導法について調べる。 | 守備の指導法についてまとめる。 |
| 11 | 【ソフトボールの指導法④：実践】<br>・守備の指導実践 | 捕球動作の観察ポイント、改善方法を調べる。 | 捕球動作の観察ポイント、改善方法をまとめる。 |
| 12 | 【ゲームの運営方法と審判法】 | ソフトボールの審判法について調べる。 | ソフトボールの審判法についてまとめる。 |
| 13 | 【ゲーム形式による実践と指導法⑥】 | 観察ポイント、改善方法を調べる。 | 観察ポイント、改善方法をまとめる。 |
| 14 | 【ゲーム形式による実践と指導法⑥】 | 観察ポイント、改善方法を調べる。 | 観察ポイント、改善方法をまとめる。 |
| 15 | 【ゲーム形式による実践と指導法⑦とまとめ】 | これまでの学習について振り返る。 | これまでの指導法についてまとめる。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010154000 心理統計学Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

学習目標(到達目標)

授業概要(教育目的)

卒業認定・学位授与の方針との関連

評価方法

課題に対するフィードバック

参考文献

講義時使用テキスト

資格との関連

学生へのメッセージ

実務との関連

授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|

| 講義名 | 4010154001 心理統計学Ⅰ Aクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤 光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.統計学の基礎を理解し，説明できる。
2.心理学で用いられる主要な統計手法を理解し，データの読み取りや解析結果の読み取りができる。
3.研究方法に合わせた適切なデータ解析法を選択し，実際に解析法を行い，結果の解釈や考察ができる。

## 授業概要(教育目的)

心理統計学Ⅰ,Ⅱは，統計に関する基礎的な知識と，心理学で用いられる統計的分析法を習得し，データの読み取りや，心理学論文等で報告されている解析結果の読み取りができるようにすること，そして，データに合わせて適切な統計的解析が自ら実施できるようにすることが目的です。心理学で用いられる主要な統計的解析法を概説し，実際に使用できるようにすることを目指します。心理統計学Ⅰでは，心理統計学の基礎と主要な統計的解析法を網羅的に概説することを目指します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業への参加態度，課題等の達成状況，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

課題に対しては採点結果をフィードバックします。
試験の成績を知りたい学生には個別に開示します。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の必修科目である。資格取得希望者は必ず履修すること。

## 学生へのメッセージ

【履修条件】
1.「情報処理基礎」「データサイエンス入門」を履修済みであること。
2.コンピュータ室での授業となるため，受講者数を30名程度に制限します。受講希望者が多数の場合は，「心理学研究法」を履修済みである学生，認定心理士取得希望である学生を優先します。

【履修上の注意】
1.ステップを踏んで進むので欠席しないように留意し(やむを得ぬ理由で欠席・遅刻する場合は必ず本人が事前に担当教員に連絡すること)，毎回の課題を達成し確実に統計的知識や技能を身につけるよう努めて下さい。
2.ファイル保存用にUSBメモリを各自準備すること。
3.「心理統計学ⅠAクラス」と「心理統計学ⅠBクラス」は同じ内容です。受講者数によってはどちらかに移動してもらうこともあります。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション，統計学の概要，尺度の種類 | 情報処理基礎，データサイエンス入門等関連科目の復習をしておく。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 2 | 記述統計1(度数分布，代表値，散布度，正規分布) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 3 | 記述統計2(散布図，相関係数，連関係数) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 4 | 推計学の基本的考え(母数推定，仮説検定，効果量，信頼区間，検定力) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 5 | 平均値の差の検定概論1:t検定 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 6 | 平均値の差の検定概論2:ANOVA | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 7 | 比の差の検定概論:χ2検定等 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 8 | 回帰分析概論1:単回帰分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 9 | 回帰分析概論2:重回帰分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 10 | 多変量解析の概要 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 11 | 因子分析概論1 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 12 | 因子分析概論2 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 13 | 共分散構造分析概論 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 14 | その他の統計的分析概論1:ノンパラメトリック法 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 15 | その他の統計的分析法2:偏相関係数，共分散分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |

| 講義名 | 4010154002 心理統計学Ⅰ Bクラス | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.統計学の基礎を理解し，説明できる。
2.心理学で用いられる主要な統計手法を理解し，データの読み取りや解析結果の読み取りができる。
3.研究方法に合わせた適切なデータ解析法を選択し，実際に解析法を行い，結果の解釈や考察ができる。

## 授業概要(教育目的)

心理統計学Ⅰ,Ⅱは，統計に関する基礎的な知識と，心理学で用いられる統計的分析法を習得し，データの読み取りや，心理学論文等で報告されている解析結果の読み取りができるようにすること，そして，データに合わせて適切な統計的解析が自ら実施できるようにすることが目的です。心理学で用いられる主要な統計的解析法を概説し，実際に使用できるようにすることを目指します。心理統計学Ⅰでは，心理統計学の基礎と主要な統計的解析法を網羅的に概説することを目指します。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業への参加態度，課題等の達成状況，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

課題に対しては採点結果をフィードバックします。
試験の成績を知りたい学生には個別に開示します。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の必修科目である。資格取得希望者は必ず履修すること。

## 学生へのメッセージ

【履修条件】
1.「情報処理基礎」「データサイエンス入門」を履修済みであること。
2.コンピュータ室での授業となるため，受講者数を30名程度に制限します。受講希望者が多数の場合は，「心理学研究法」を履修済みである学生，認定心理士取得希望である学生を優先します。

【履修上の注意】
1.ステップを踏んで進むので欠席しないように留意し(やむを得ぬ理由で欠席・遅刻する場合は必ず本人が事前に担当教員に連絡すること)，毎回の課題を達成し確実に統計的知識や技能を身につけるよう努めて下さい。
2.ファイル保存用にUSBメモリを各自準備すること。
3.「心理統計学ⅠAクラス」と「心理統計学ⅠBクラス」は同じ内容です。受講者数によってはどちらかに移動してもらうこともあります。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション，統計学の概要，尺度の種類 | 情報処理基礎，データサイエンス入門等関連科目の復習をしておく。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 2 | 記述統計1(度数分布，代表値，散布度，正規分布) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 3 | 記述統計2(散布図，相関係数，連関係数) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 4 | 推計学の基本的考え(母数推定，仮説検定，効果量，信頼区間，検定力) | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 5 | 平均値の差の検定概論1:t検定 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 6 | 平均値の差の検定概論2:ANOVA | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 7 | 比の差の検定概論:χ2検定等 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 8 | 回帰分析概論1:単回帰分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 9 | 回帰分析概論2:重回帰分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 10 | 多変量解析の概要 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 11 | 因子分析概論1 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 12 | 因子分析概論2 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 13 | 共分散構造分析概論 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 14 | その他の統計的分析概論1:ノンパラメトリック法 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 15 | その他の統計的分析法2:偏相関係数，共分散分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 4010155000 心理統計学Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 遠藤　光男 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.統計学の基礎を理解し，説明できる。
2.心理学で用いられる主要な統計手法を理解し，データの読み取りや解析結果の読み取りができる。
3.研究方法に合わせた適切なデータ解析法を選択し，実際に解析法を行い，結果の解釈や考察ができる。

## 授業概要(教育目的)

心理統計学Ⅰ,Ⅱは，統計に関する基礎的な知識と，心理学で用いられる統計的分析法を習得し，データの読み取りや，心理学論文等で報告されている解析結果の読み取りができるようにすること，そして，データに合わせて適切な統計的解析が自ら実施できるようにすることが目的です。心理学で用いられる主要な統計的解析法を概説し，実際に使用できるようにすることを目指します。心理統計学Ⅱでは，心理統計学Ⅰで概略の説明に終わった部分について詳細に説明していきます。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業への参加態度，課題等の達成状況，および，最終試験の成績をもとに総合的に判断する。

## 課題に対するフィードバック

課題に対しては採点結果をフィードバックする。
試験の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

なし。授業毎に適宜資料を配付する。

## 資格との関連

認定心理士資格申請の関連科目である。資格取得希望者は履修することが望ましい。

## 学生へのメッセージ

【履修条件】
1.「心理統計法Ⅰ」を履修済みであること。
2.コンピュータ室での授業となるため，受講者数を30名程度に制限します。受講希望者が多数の場合は，「心理学研究法」を履修済みである学生，認定心理士取得希望である学生を優先します。

【履修上の注意】
1.ステップを踏んで進むので欠席しないように留意し(やむを得ぬ理由で欠席・遅刻する場合は必ず本人が事前に担当教員に連絡すること)，毎回の課題を達成し確実に統計的知識や技能を身につけるよう努めて下さい。
2.ファイル保存用にUSBメモリを各自準備すること。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 心理学統計Ⅰの復習<br>(記述統計，推計学，実験計画等) | 心理学統計Ⅰの復習をしておく。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 2 | 平均値の差の検定:2要因ANOVA1 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 3 | 平均値の差の検定:2要因ANOVA2 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 4 | 平均値の差の検定:2要因ANOVA3 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 5 | 比の差の検定:χ2検定等1 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 6 | 比の差の検定:χ2検定等2 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 7 | 比の差の検定:χ2検定等3 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 8 | 回帰分析1:単回帰分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 9 | 回帰分析2:重回帰分析1 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 10 | 回帰分析3:重回帰分析2 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 11 | 因子分析1 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 12 | 因子分析2 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 13 | 因子分析3 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 14 | クラスター分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |
| 15 | 共分散構造分析 | 前回までの授業を復習し，新たな内容の学習が可能な状態にする。 | 授業内容の課題を提出し，授業内容の理解度を深める。 |

| 講義名 | 4010156000 ソーシャルワーク実習Ⅰ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

ソーシャルワークの実践施設における実習を通じ、社会福祉士の実践における価値と役割について説明することができる。

## 授業概要(教育目的)

厚生労働省が想定する相談援助実習のねらいを踏襲した福祉の現場での実践的な学習となる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

実習指導者による評価が70%、実習指導担当教員による評価が30%の配分にて総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

実習期間中に合計4回、ソーシャルワーク実習指導Ⅰの担当教員が訪問・帰校日指導を行う。
その際に、学生と対話形式で課題解決のための指導を行う。

## 参考文献

中央法規出版『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』

## 講義時使用テキスト

福祉施設における実習科目のため、使用しない。

## 資格との関連

社会福祉士国家試験の受験資格を取得するための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

・十分に事前学習を行ったうえで、誠実に、真摯な態度で学ばせていただく必要がある。
・身だしなみや言葉遣いなど、ソーシャルワーカーをめざすうえでふさわしい社会的マナーを身につけたうえで実習に臨むこと。
※履修規定を十分に確認したうえで履修すること。

## 実務との関連

担当教員は、知的障害者通所授産施設(旧法)、社会福祉協議会(嘱託)、障害者職業センター(嘱託)において支援業務の実践経験がある。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ・3年次に社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習を行う実習施設において、60時間以上のソーシャルワーク実習を実施する。<br>・ソーシャルワーク実習は、社会福祉士実習指導者資格を有するスーパーバイザーの指導のもとで学習する。<br>・実習中は、本学教員による1回の巡回指導が実施される。 | ・初日は、あらかじめ「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の授業や、実習機関への事前訪問の際に受けた説明を確認したうえで臨む。<br>・2日目以降は、前日に実習指導者から指導を受けた内容について、事前配布資料や関連書式、実習中の記録、インターネット等を用いて確認する。 | 「ソーシャルワーク実習記録」を毎日作成し、次回実習日に実習指導者に提出してコメント欄に記入していただく。また、巡回指導・帰校日指導が実施された日についても、「巡回・帰校日指導の記録」を作成する。 |

| 講義名 | 4010157000 ソーシャルワーク実習Ⅱ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 大木　えりか | | |

## 学習目標(到達目標)

ソーシャルワークの実践施設における実習を通じ、社会福祉士の実践における価値と役割について説明することができる。

## 授業概要(教育目的)

厚生労働省が想定する相談援助実習のねらいを踏襲した福祉の現場での実践的な学習となる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている。

## 評価方法

実習指導者による評価が70%、実習指導担当教員による評価が30%の配分にて総合的に評価を行う。

## 課題に対するフィードバック

実習期間中に合計4回、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」の担当教員が訪問・帰校日指導を行う。
その際に、学生と対話形式で課題解決のための指導を行う。

## 参考文献

中央法規出版『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習』

## 講義時使用テキスト

福祉施設における実習科目のため、使用しない。

## 資格との関連

社会福祉士国家試験の受験資格を取得するための指定科目である。

## 学生へのメッセージ

・十分に事前学習を行ったうえで、誠実に、真摯な態度で学ばせていただく必要がある。
・身だしなみや言葉遣いなど、ソーシャルワーカーをめざすうえでふさわしい社会的マナーを身につけたうえで実習に臨むこと。
※履修規定を十分に確認したうえで履修すること。

## 実務との関連

担当教員は、知的障害者通所授産施設(旧法)、社会福祉協議会(嘱託)、障害者職業センター(嘱託)において支援業務の実践経験がある。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ・4年次に社会福祉士養成課程におけるソーシャルワーク実習を行う実習施設において、180時間以上のソーシャルワーク実習を実施する。<br>・ソーシャルワーク実習は、社会福祉士実習指導者資格を有するスーパーバイザーの指導のもとで学習する。<br>・実習中は、本学教員による計4回の巡回指導・帰校日指導が実施される。 | ・初日は、あらかじめ「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」の授業や、実習機関への事前訪問の際に受けた説明を確認したうえで臨む。<br>・2日目以降は、前日に実習指導者から指導を受けた内容について、事前配布資料や関連書式、実習中の記録、インターネット等を用いて確認する。 | 「ソーシャルワーク実習記録」を毎日作成し、次回実習日に実習指導者に提出してコメント欄に記入していただく。また、巡回指導・帰校日指導が実施された日についても、「巡回・帰校日指導の記録」を作成する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000002000 教育原理 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 鈴木　康弘 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 西洋と日本の教育の思想と歴史を中心とする教職教養の基礎的知識を理解し、身につけることができる。
2. 現代の教育課題について、家族と学校のあり方がどのように変化してきたかを踏まえて、多角的な視点から理解することができる。

## 授業概要(教育目的)

この授業では、教育を考えるための基本的な知識を学ぶために、教育の思想と歴史に関するトピック・テーマについての講義を行う。授業の前半では、西洋と日本の教育の思想と歴史に関する通史を扱い、後半では、教育の思想と歴史が、現在の学校や家庭のあり方、教育問題に対して、どのような影響を与えているのかについて、受講者とのディスカッションを通して、多角的な捉え方から理解を深めていきたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

成績評価は、定期試験の結果を8割、小テストや授業課題、受講態度（遅刻や早退、毎回の授業後のリアクションペーパーの提出状況を含む）を2割として行います。

## 課題に対するフィードバック

期末試験の成績について疑問のある学生は、教務学生課の窓口から「成績疑問申請」を受け取り、記載のうえ、提出してください。

## 参考文献

参考資料やブックガイド等は、授業中に配布します。

## 講義時使用テキスト

木村元・汐見稔幸編『教育原理（アクティベート教育学 1)』(ミネルヴァ書房、2020年)

## 資格との関連

教職に関する科目(教育の基礎理論)

## 学生へのメッセージ

【授業課題について】授業コメントやアンケート、クイズの結果を共有するため、Google Formsを活用します。八戸学院アカウントを使用できるように、スマートフォンやタブレット等を準備してください。

【遅刻について】授業開始後20分以内に入室した学生は、【遅刻】とし、それ以降の入室は、【欠席】とします。また、事前に連絡がない提出物の遅れは、大幅な減点をします。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育をどのように捉えるか | シラバスで授業内容を確認されたうえで、出席してください。 | 授業内容とスケジュールの再確認を行う。 |
| 2 | 子ども・家庭・社会 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 3 | 公教育の組織化 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 4 | 西洋教育思想の源流 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 5 | 宗教と教育 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 6 | 近代教育の思想 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 7 | 新教育の思想 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 8 | 近代学校の誕生と展開 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 9 | 日本における近代以前の人間形成 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 10 | 日本型の学校の形成 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 11 | 戦後の学校　その展開と課題 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 12 | 西洋における教育の実践 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 13 | 日本における教育の実践 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 14 | 資質・能力と学力 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| 15 | 情報化社会の公教育 | 配布資料に目を通した上で、疑問点やコメントをメモにまとめる。 | 授業内容を整理しながら、テキストの該当箇所を読み進める。わからないキーワードや語彙があれば、図書館の書籍や雑誌、辞書、インターネットなどを利用して調べておく。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 講義名 | 5000003000 教育心理学 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 野口　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

次の5点を到達目標とする。
1. 発達の特性と発達段階について説明することができる。
2. 学習の仕組みについて説明することができる。
3. 学習意欲を喚起するにはどうしたらよいかを論じることができる。
4. 教師と生徒の関係についての社会心理学的概念を説明することができる。
5. 教育評価はなぜ、どのようにして行うかを述べることができる。

## 授業概要(教育目的)

この科目は、教育職員免許法に定められている「幼児、児童および生徒の心身の発達及び学習の過程」を学習するものである。発達、学習、パーソナリティを中心に、教育に関する基礎的な知識を学び、併せて障害のある児童・生徒の発達についても学習する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

小テスト、レポート、授業の参加態度等により各担当者が評価を行い、それらを総合して科目の評価とする。

## 課題に対するフィードバック

毎回の授業の終わりに、出席確認と授業内容の確認の意味で、小テストを実施する。
課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出する。

## 講義時使用テキスト

教育心理学 / 桜井茂男(監修)黒田祐二(編著)『実践につながる教育心理学』

## 資格との関連

教員免許状取得のための必修科目であり、今まで学んできた一般心理学を基礎とし、学校教育の現場と結びつくように、より具体的な事象を取りあげる。心理学という視点からも考えて、子どもたちにアプローチできるようにする。

## 実務との関連

心理・発達支援の研究とともに、臨床心理士・公認心理師として、教育場面へのコンサルテーションを実施し、児童生徒の最適な環境づくりに取り組んでいる。その実践経験をふまえて、教育心理学の知見を提供していく。(野口)
臨床心理士・公認心理師として，行政の精神科デイケアでの勤務歴がある。発達障害の方や不登校などの学校不適応経験がある方との関わり等の実務経験をふまえ，教育場面で活用できる知見を提供していく。(今川)

## 学生へのメッセージ

受講者には教職をめざすという夢や希望、意欲をもって参加し、日ごろから「学ぶこと」や「教えること」などについて考え、自己研鑽に努めることを期待する。
なお、この授業は2人の教員のオムニバスであり、各教員の担当は計画の通りだが、順番は必ずしも呈示した通りに進まない。変更がある場合は授業中に説明するので留意してほしい。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育心理学の目的と体系<br>－理論と実践の往還を目指して－ | シラバスを事前に読み、参考図書に目を通す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 2 | 教育心理学の研究法<br>－実験と面接を中心に－ | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 3 | 子どもの発達と学習の過程①発達の特性 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 4 | 子どもの発達と学習の過程②発達理論と発達段階 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 5 | 子どもの発達と学習の過程③行動の分析 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 6 | 子どもの発達と学習の過程④行動の変容 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 7 | 学級集団:集団の特性、教師と子どもの関係、仲間関係 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 8 | 学習指導①学習行動・学習原理 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 9 | 学習指導②動機づけ・学習指導の方法 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 10 | 生徒指導:生徒指導の意義、生徒の理解、問題行動の指導 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 11 | 特別活動(特別活動の意義、特別活動の指導、問題行動の指導 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 12 | 自己とパーソナリティ | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 13 | 学校不適応(不登校、いじめ、自殺など子どもの不適応へのかかわり方)<br>SOSの出し方など、心理教育の例を紹介する。 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 14 | 学習指導と教育評価①学習指導の方法、個に応じた指導 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |
| 15 | 学習指導と教育評価②教育評価の種類、個人差の理解と指導 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す<br>課題のレポートを作成する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000004000 教育行政 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 種市　朋哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 中央と地方の教育行政について説明できる。
2. 教育に行政がどのように関わっているかについて説明できる。
3. 様々な教育課題について、行政の視点も加味しながら意見を持つことができる。

## 授業概要(教育目的)

教育行政は、将来、教職をめざす学生に、教育学の基礎的教養を提供するとともに、「教育に関する社会的、制度的又は経営的な事項に関する科目」内容を詳細に指導する科目である。したがって、既習の教職科目を基礎に、近代公教育制度の歴史と構造、日本国憲法や教育基本法の関連を学習し、民主化行政の仕組み、学校・学級の経営、教育課程、社会変動と教育、教師の特質と資質、社会教育と生涯学習等々で分野は広範にわたる。
講義では、教員の行政経験を踏まえつつ時事的な教育情報も活用しながら学修する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

毎時間提出してもらうレポート(出欠確認を含む)を中心に意欲・態度等をもとに総合的に評価にする。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

勝野正章・藤本典裕(編)「教育行政学」学文社
青木栄一(編著)「教育制度を支える教育行政」ミネルヴァ書房

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、パワーポイントを活用しつつ資料等も適宜配布する。

## 資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で、教員免許状資格取得の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

新聞、ニュース等を通じて、教育の現状や諸問題について理解を深めておくこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育行政と学校制度 | 授業内容についてインターネットで調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 教育行政の組織(文科省・教育委員会、事務局) | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 教員の身分、服務、研修 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 教員の長時間労働、部活動の地域移行 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 教員採用と教員不足 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 特別支援教育 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 発達障害 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 学校安全と危機管理 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 9 | いじめ問題 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 学校の統廃合 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 教育格差 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 地域との連携　1 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 地域との連携　2 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 新指導要領における学習評価 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 教員評価(人事評価)と令和の日本型教育 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 5000005000 教育課程論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 根城　隆幸 | | |

## 学習目標(到達目標)

学校の教育的諸活動の総合的な計画である「教育課程」について、その意義及び編成の方法等を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

我が国の教育界は転換期に直面していると言われ、様々な「教育改革プログラム」が策定されている。その中でもとりわけ注目されているのが、「これまでの学校教育の基調を転換する」ことを目指した教育課程の改革である。教職を目指す学生は、教育課程に関する基本的用語・知識、教育課程編成の歴史的変遷、そして新しい教育課程の開発等の理解を深めることが不可欠である。教育課程編成に関わる基本的知識の理解を深めながら、考え方について学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業態度、課題提出、課題発表、定期試験等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題について毎時間、寸評する。

## 参考文献

『小学校学習指導要領』　文部科学省
『中学校学習指導要領』　文部科学省
『高等学校学習指導要領』　文部科学省
『教育課程(カリキュラム入門)』　柴田義松　編　有斐閣
『教育課程論』　田中智志也　監修　一藝社

## 講義時使用テキスト

講義概要のプリントを毎時配付する。

## 資格との関連

【教職課程】の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【授業外活動状況】
講義内容に連続性があるので、前時の学修内容を復習して講義に臨むこと。

## 実務との関連

公立高等学校教諭として、青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとに指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育課程の意義と目的 | ・シラバスを読む | ・授業内容を振り返る |
| 2 | 教育課程の歴史的変遷①(戦後～教育の現代化) | ・教育課程の歴史的変遷について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 3 | 教育課程の歴史的変遷②(「ゆとり」教育～PISA型学力) | 「ゆとり」教育について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 4 | 教育課程に関する法制度 | ・教育課程に関する法について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 5 | 諸外国の教育課程の現状①(アメリカ、イギリス、韓国) | ・諸外国の教育課程について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 6 | 学習指導要領(中学校・高等学校) | ・学習指導要領について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 7 | 学校経営・学級経営 | ・学級経営について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 8 | 生徒指導と教育課程 | ・生徒指導について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 9 | 教育評価 | ・教育評価について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 10 | 諸外国の教育課程の現状①(フィンランド、カナダ) | ・諸外国の教育課程について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 11 | 道徳と総合的な学習の時間 | ・道徳について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 12 | 学校間連携と接続 | ・学校間連携について、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 13 | カリキュラム・マネジメント | ・カリキュラム・マネジメントについて、インターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 14 | メディア・リテラシー | ・メディア・リテラシーについインターネット等で調べる | ・授業内容を振り返る |
| 15 | 教育課程の諸問題(チーム学校への対応を含む) | ・授業内容について振り返る | ・教育課程について振り返る |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000006000 商業科教育法Ａ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 根城　隆幸 | | |

## 学習目標(到達目標)

教員免許(商業)に必要な基礎的な知識・技術を習得し、高等学校学習指導要領の教科(商業)の指導内容について説明でき、ICTを活用した授業ができる。

## 授業概要(教育目的)

商業教育は急激な経済社会の変化に即応しながら、教育内容と教育方法を改善し、人材の育成に努めてきている。これから高等学校商業教育に携わる者は、商業教育の「不易」な理念を思い起こし、社会の変化という「流行」にもしっかりと対応しなければならない。
　教科の基準となる高等学校学習指導要領の「総則」並びに教科「商業」を中心に、時代に相応した指導内容と指導方法について学ぶ。学習指導案作成及び模擬授業においてICTを活用する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業態度、課題提出、課題発表等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

各自の学習指導案を、学生間でグループ討議する。
模擬授業を行い、学生間でグループ討議する

## 参考文献

「高等学校学習指導要領解説」商業編　文部科学省
「商業科教育論」日本商業教育学会　編　実教出版
「ビジネス基礎」青島矢一ほか　著　実教出版
「マーケティング」武井寿ほか　著　実教出版
「ビジネス・マネジメント」軽部大ほか　著　実教出版
「情報処理」並木通男ほか　著　実教出版

## 講義時使用テキスト

「新簿記」 安藤英義ほか　著　実教出版

## 資格との関連

教職課程(高等学校:商業科)の必修科目である

## 学生へのメッセージ

簿記・情報処理に関する基礎・基本の修得に取り組むこと。
各自、ノートパソコンを準備すること。

## 実務との関連

公立高等学校商業科教諭として、青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとに商業科教育について指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 商業教育の意義と目的 | 【教職課程履修の手引き】を読む<br>・インターネットで調べる | ・配付資料を読み直す |
| 2 | 商業教育の歴史と変遷 | ・配付資料を読む<br>・インターネットで調べる | ・配布資料を読み直す |
| 3 | 商業教育の目標と内容 | ・配布資料を読む<br>・インターネットで調べる | ・学習内容を整理し、概要を把握する |
| 4 | 「ビジネス基礎」の教材研究 | ・配布資料を読み、学習内容を把握する<br>・インターネットで調べる | ・学習内容を整理し、概要を把握する |
| 5 | 「ビジネス基礎」の学習指導案作成(ICTの活用) | ・学習指導案(ICTを活用)を作成する<br>・インターネットで調べる | ・学習指導案を見直し、模擬授業の準備をする。 |
| 6 | 「ビジネス基礎」の模擬授業 | ・「ビジネス基礎」の模擬授業を行う | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 7 | 「マーケティング」の教材研究 | ・配布資料を読み、学習内容を把握する、<br>・インターネットで調べる。 | ・学習内容を整理し、概要を把握する |
| 8 | 「マーケティング」の学習指導案作成(ICTの活用) | ・学習指導案(ICTを活用)を作成する<br>インターネットで調べる | ・学習指導案を見直し、模擬授業の準備をする。 |
| 9 | 「マーケティング」の模擬授業 | ・「マーケティング」の模擬授業を行う | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 10 | 「ビジネス・マネジメント」の教材研究と学習指導案作成(ICTの活用) | ・学習内容を把握しながら、インターネットで調べる。<br>・学習指導案(ICTを活用)を作成する | ・学習指導案を見直し、模擬授業の準備をする。 |
| 11 | 「ビジネス・マネジメント」の模擬授業 | ・「ビジネス・マネジメント」の模擬授業を行う | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 12 | 「情報処理」の教材研究と学習指導案作成(ICTの活用) | ・学習内容を把握しながら、インターネットで調べる。<br>・学習指導案(ICTの活用)を作成する | ・学習内容を整理し、模擬授業の準備をする。 |
| 13 | 「情報処理」の模擬授業 | ・「情報処理」の模擬授業を行う | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 14 | 「課題研究」の教材研究 | ・学習内容のねらいを把握しながら、インターネットで調べる。 | ・課題研究のねらいを整理する。 |
| 15 | 商業科教育の学習内容を振り返る | ・商業科の学習内容を振り返る | ・これまでの授業内容を振り返る。 |

| 講義名 | 5000007000 商業科教育法B | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 根城　隆幸 | | |

## 学習目標(到達目標)

教員免許(商業)に必要な専門的知識・技術を習得し、高等学校学習指導要領の教科(商業)の指導ができ、ICTを活用した授業ができる。

## 授業概要(教育目的)

高等学校商業教育に携わる者は、経済社会の急激な変化に対応していく商業教育に関する知識・技術を習得していく必要がある。
「商業科教育法A」を基礎として、教科「商業」に関する指導内容と指導方法(指導の展開を含める)について、模擬授業を積極的に取り入れ、ICTを活用しながら指導法について学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業態度、課題提出、課題発表等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

各自の学習指導案を、学生間でグループ討議する。
模擬授業を行い、学生間でグループ討議する。

## 参考文献

「情報処理」 並木通男ほか 著　　実教出版

## 講義時使用テキスト

「新簿記」 安藤英義ほか 著　　実教出版

## 資格との関連

教職課程(高等学校:商業科)の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】 「商業科教育法A」を履修・修得していること。
【授業外活動状況】「簿記」「情報処理」の内容を指導できるように学修すること。
毎時間、ノートパソコンを持参すること。

## 実務との関連

公立高等学校商業科教諭として青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとに商業科教育について指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 「会計」「ビジネス情報」分野の目標を把握する | ・商業科の学習内容を把握する | ・配付資料を読み直す |
| 2 | 模擬授業「簿記」(企業の簿記、簿記の要素)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 3 | 模擬授業「簿記」(取引と勘定、仕訳と転記、仕訳帳と総勘定元帳)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 4 | 模擬授業「簿記」(試算表、決算)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 5 | 模擬授業「簿記」(現金・預金の記帳、商品売買の記帳、掛け取引の記帳)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正 |
| 6 | 模擬授業「簿記」(固定資産の記帳、決算その1)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 7 | 模擬授業「簿記」(手形取引の記帳、その他の債券・債務の記帳)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 8 | 模擬授業「簿記」(有価証券の記帳、営業費の記帳、資本の記帳)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 9 | 模擬授業「簿記」(税金の記帳、決算その2)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 10 | 模擬授業「情報処理」(情報の活用と情報モラル)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 11 | 模擬授業「情報処理」(情報通信ネットワーク)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 12 | 模擬授業「情報処理」(ビジネス情報の処理と分析)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 13 | 模擬授業「情報処理」(ビジネス文書の作成)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 14 | 模擬授業「情報処理」(プレゼンテーション)(ICTの活用) | ・学習指導案を作成し、プレゼンテーションソフトウエアで模擬授業の準備をする | ・模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 15 | 商業教育と教師の資質 | ・商業科の学習内容を振り返る | ・これまでの授業内容を振り返る |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000008000 情報科教育法A | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 根城　隆幸 | | |

## 学習目標(到達目標)

教員免許(情報)に必要な知識・技術を習得し、高等学校学習指導要領の共通教科(情報)が指導でき、ICTを活用した授業ができる。

## 授業概要(教育目的)

情報活用能力の育成、情報に関する倫理的態度、安全に配慮する態度や規範意識の育成を重視した上で、生徒の能力や適性、興味、関心、進路希望等の実態に応じて、情報や情報技術に関する科学的あるいは社会的な見方や考え方について、より広く、深く学ぶことを可能とするようにする。さらに、時代に即応した情報教育の指導内容と指導方法について学ぶ。ICTを活用して、模擬授業を積極的に取り入れる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業態度、課題提出、課題発表等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・各自の学習指導案を学生間でグループ討議する。
・模擬授業を行い学生間でグループ討議する。

## 参考文献

「高等学校学習指導要領解説」情報編　文部科学省

## 講義時使用テキスト

「情報Ⅰ」　赤堀侃司ほか　著　東京書籍

## 資格との関連

教職課程(高等学校:情報科)の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

・授業ではパソコンを使用するので各自準備して授業時に持参すること。
・データ保存の記憶メディア(USB等)も準備すること。
・ICTの情報に興味・関心を持ち、その知識・技術の修得に心がけること。

## 実務との関連

公立高等学校教諭として、青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとに情報科教育について指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 情報教育の意義と目的 | ・情報科の学習内容を把握する | 授業内容を振り返る |
| 2 | コンピュータとプログラミング(1)<br>(ICTの活用) | コンピュータの特徴、アルゴリズムについて調べる(ICTの活用) | 授業内容を振り返る |
| 3 | コンピュータとプログラミング(2)<br>(ICTの活用) | コンピュータで扱われる情報の特徴、アルゴリズムについて調べる(ICTの活用) | 授業内容を振り返る |
| 4 | コンピュータとプログラミング(3)<br>(ICTの活用) | プログラミングにより、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法を調べる(ICTの活用) | 授業内容を振り返る |
| 5 | コンピュータとプログラミング(4)<br>(ICTの活用) | 目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を解決してみる(ICTの活用) | 授業内容を振り返る |
| 6 | コンピュータとプログラミング(5)<br>(ICTの活用) | 目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を解決してみる(ICTの活用) | 授業内容を振り返る |
| 7 | 情報通信ネットワークとデータ活用(1)<br>(ICTの活用) | 情報通信ネットワークの仕組み等について、概要を把握する(ICTの活用) | 授業内容を振り返る |
| 8 | 情報通信ネットワークとデータ活用(2)<br>(ICTの活用) | データを蓄積・管理・提供する方法等について、概要を把握する(ICTの活用) | 授業内容を振り返る |
| 9 | 情報社会の問題解決・模擬授業(1)<br>(ICTの活用) | 学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用) | 模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 10 | 情報社会の問題解決・模擬授業(2)<br>(ICTの活用) | 学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用) | 模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 11 | 情報社会の問題解決・模擬授業(3)<br>(ICTの活用) | 学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用) | 模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 12 | 情報社会の問題解決・模擬授業(4)<br>(ICTの活用) | 学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用) | 模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 13 | 情報デザイン・模擬授業(1)<br>(ICTの活用) | 学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用) | 模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 14 | 情報デザイン・模擬授業(2)<br>(ICTの活用) | 学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用) | 模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |
| 15 | 情報デザイン・模擬授業(3)<br>(ICTの活用) | 学習指導案を作成し、模擬授業の準備をする(ICTの活用) | 模擬授業を振り返り、学習指導案を修正する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000009000 情報科教育法B | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 地域共創学科 | | | 担当教員 | 根城　隆幸 | | |

## 学習目標(到達目標)

教員免許(情報)の取得に必要な知識・技術を習得し、高等学校学習指導要領(情報)の指導ができる。ICTを活用した授業ができる。

## 授業概要(教育目的)

情報技術の急速な進展に相まって、社会の様相は著しく変化している。このため、情報科教員は、情報社会の様相を把握するといった能力に加え、指導過程においても社会の変化に適応する能力が特に求められている。

情報通信技術の進歩や社会環境の変化について対応しながら、「情報科教育法A」を基礎として、教科「情報」に関する指導内容と指導方法(指導の展開を含める)について、模擬授業を積極的に取り入れ、ICTを活用する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

学習指導案、模擬授業、授業態度等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・各自の学習指導案を学生間でグループ討議する。
・模擬授業を行い学生間でグループ討議する。

## 参考文献

「高等学校学習指導要領解説」情報編　文部科学省
「情報科教育法」改訂3版　久野靖・辰巳丈夫　監修　オーム社

## 講義時使用テキスト

「情報Ⅰ」　赤堀侃司ほか　著　　東京書籍

## 資格との関連

教職課程(高等学校:情報科)の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
・「情報科教育法A」を履修・修得していること。
・授業ではノートパソコンを持参すること。

【授業外活動状況】
・ICTの情報に興味・関心を持ち、その知識・技術の修得に心がけること。

## 実務との関連

公立高等学校教諭として青森県立高等学校や青森県総合学校教育センター等に勤務。実務経験をもとに情報科教育について指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 情報科の学習内容を再確認 | 学習指導要領「情報科」解説編を 読む | 授業内容を振り返る |
| 2 | コンピュータとプログラミング(1)<br>(ICTの活用) | 目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用) | 授業内容を振り返る |
| 3 | コンピュータとプログラミング(2)<br>(ICTの活用) | 目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用) | 模擬授業の準備 |
| 4 | コンピュータとプログラミング(3)<br>(ICTの活用) | 目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用) | 模擬授業を振り返る |
| 5 | コンピュータとプログラミング(4)<br>(ICTの活用) | 目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用) | 模擬授業を振り返る |
| 6 | コンピュータとプログラミング(5)<br>(ICTの活用) | 目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用) | 模擬授業を振り返る |
| 7 | コンピュータとプログラミング(6)<br>(ICTの活用) | 目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用) | 模擬授業を振り返る |
| 8 | コンピュータとプログラミング(7)<br>(ICTの活用) | 目的に応じたアルゴリズムを考え、プログラミングにより問題を 解決する(ICTの 活用) | 模擬授業を振り返る |
| 9 | 「コンピュータの 仕組み・特徴」・模擬授業<br>(ICTの 活用) | 学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用) | 模擬授業を振り返る |
| 10 | 「アルゴリズム」・模擬授業<br>(ICTの 活用) | 学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用) | 模擬授業を振り返る |
| 11 | 「情報通信ネットワーク」・模擬授業<br>(ICTの 活用) | 学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用) | 模擬授業を振り返る |
| 12 | 「情報セキュリティ」・模擬授業<br>(ICTの 活用) | 学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用) | 模擬授業を振り返る |
| 13 | 「データの 活用」・模擬授業<br>(ICTの 活用) | 学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用) | 模擬授業を振り返る |
| 14 | 「問題解決」・模擬授業<br>(ICTの 活用) | 学習指導案を 作成し、ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝｿﾌﾄｳｪｱにより模擬授業の 準備をする(ICTの 活用) | 授業内容を振り返る |
| 15 | 情報科と教師の資質 | 情報科の学習内容を振り返る | これまでの授業内容を振り返る |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000010000 保健体育科教育法A | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

この講義を通じて「保健体育科教師」としての基本的資質、および実践的能力を身につける。

## 授業概要(教育目的)

「保健」担当教員に必要なすぐれた授業観を形成するとともに、「保健」の教育内容及び指導方法に関する基本的な事項について理解を図り、保健授業の実践的な能力を高める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。
また、原則として再試験・追試験は行わない。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
また、レポート等の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

新・めざそう！保健体育教師(朝日出版社)

## 講義時使用テキスト

高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編(最新版)(文部科学省)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 保健の新しい方向(学習指導要領) | テキストの該当箇所を読む。 | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 総則と健康(学習指導要領) | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 保健の目標(学習指導要領) | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 保健の内容(学習指導要領) | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 保健の指導計画(学習指導要領) | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 保健の学習指導・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 保健の学習評価・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 授業の展開1　年間指導計画・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 授業の展開1　単元指導計画・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 授業の展開1　単位時間指導計画・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 授業の展開2　①現代社会と健康・模擬授業<br>(タブレット端末等のICTを活用) | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 授業の展開2　②生涯を通じる健康・模擬授業<br>(タブレット端末等のICTを活用) | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 授業の展開2　③社会生活と健康・模擬授業<br>(タブレット端末等のICTを活用) | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 授業後のプレゼンテーション・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 5000011000 保健体育科教育法Ｂ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

この講義を通じて「保健体育科教師」としての基本的資質、および実践的能力を身につける。

## 授業概要(教育目的)

体育科の性格、目標、カリキュラム、学習内容、教材づくり、学習指導などに関する基本的な知識について理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

講義の課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。また、原則として再試験・追試験は行わない。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
課題の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

中学校学習指導要領解説保健体育編(最新版)(文部科学省)
高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編(最新版)(文部科学省)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 保健体育の新しい方向(学習指導要領) | テキストの該当箇所を読む。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 2 | 保健体育科の目標 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 3 | 保健体育科の内容及び内容の取り扱い・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 4 | 保健体育科の教材・教具づくり・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 5 | 保健体育科の指導計画・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 6 | 保健体育科の学習指導・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 7 | 保健体育科における情報機器(タブレット端末等のICT)の活用方法・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 8 | 保健授業の展開2 ①現代社会と健康・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 9 | 保健授業の展開2 ②生涯を通じる健康・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 10 | 保健授業の展開2 ③社会生活と健康・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 11 | 教材研究2 ①現代社会と健康・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 12 | 教材研究2 ②生涯を通じる健康・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 13 | 教材研究2 ③社会生活と健康・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 14 | 模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |
| 15 | 模擬授業・まとめ | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の配布資料とノートを読み直す。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000012000 保健体育科教育法C | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

講義を通して「保健体育科教師」としての基本的資質、および実践的能力を身につける。

## 授業概要(教育目的)

保健体育教師の求められる実務的知識、技術について理解する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

講義の課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。また、原則として再試験・追試験は行わない。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
課題等の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

新・めざそう！保健体育教師(朝日出版社)

## 講義時使用テキスト

中学校学習指導要領解説保健体育編(最新版)(文部科学省)

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 望ましい教師の資質・能力「不易と流行」 | テキストの該当箇所を読む | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 保健体育教師の職務① 保健体育教師の資質 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 保健体育教師の職務② 教科指導 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 保健体育教育の職務③ 生活指導 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 保健体育教師と他教科教師との協力 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 教師集団としてのあり方・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 年間カリキュラムづくり・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 情報機器を用いた体育授業の展開方法・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 選択制授業①　意義と履修の仕方・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 選択制授業②　男女共習授業と評価・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 教材研究　体つくり運動・模擬授業<br>(タブレット端末等のICTを活用) | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 教材研究　器械運動・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 教材研究　陸上競技・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 模擬授業の実践 | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>授業内容についてインターネットで調べる | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 模擬授業の実践・まとめ | テキストの該当箇所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>授業内容についてインターネットで調べる | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000013000 保健体育科教育法D | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 平塚　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

この講義を通じて「保健体育科教師」としての基本的資質、および実践的能力を身につける。

## 授業概要(教育目的)

体育科の性格、目標、カリキュラム、学習内容、教材づくり、学習指導などに関する基本的な知識について理解し、授業の実践的な能力を高める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

講義・課題等への姿勢及び試験の成績を総合的に評価する。また、原則として再試験・追試験は行わない。

## 課題に対するフィードバック

課題は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
課題の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

中学校学習指導要領解説保健体育編(最新版)(文部科学省)
高等学校学習指導要領解説保健体育編・体育編(最新版)(文部科学省)

## 資格との関連

教師を目指す学生必携

## 学生へのメッセージ

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 体育科設置の趣旨・歴史 | テキストの該当箇所を読む。 | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 中学校体育の①年間計画　②単元計画 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 中学校体育の③単位時間計画の例 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 高等学校体育の①年間計画　②単元計画 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 高等学校体育の③単位時間計画の例 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 中学校保健の①年間計画　②単元計画 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 中学校保健の③単位時間指導案 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 高等学校保健の①年間計画　②単元計画 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 高等学校保健の③単位時間指導案 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 教材研究　球技・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 教材研究　ダンス・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 教材研究　武道・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 教材研究　体育理論・模擬授業 | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 14 | ICTを用いた体育理論の実践・・模擬授業<br>(タブレット端末等のICTを活用) | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 模擬授業の実践・まとめ | テキストの該当箇所を読む。<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>授業内容についてインターネットで調べる | テキストの該当箇所を読む<br>配布資料とノートを読み直す |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000014000 | 看護科教育法Ａ | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 高等学校における看護教育の変遷、看護の学科の特徴、教育課程編成上の特徴について説明できる。
2. 教職課程全体を通して育成を目指す資質・能力について説明できる。
3. 看護師に求められる実践能力に基づく「学びの過程」とその活用について説明できる。
4. 学習指導案を作成し、模擬授業の実施、評価・修正ができる。
5. コンピューターや情報通信ネットワークなどを活用し、学習の効果を高めるための工夫ができる。

## 授業概要(教育目的)

高等学校看護科教員としての資質形成を図るため、教科指導に必要な知識と技術の基礎を習得する。
具体的には、
1. 高等学校学習指導要領及び「新たな看護師等養成カリキュラムに対応した指導の手引き」
(令和3年11月11日)をふまえ、高等学校看護科を取り巻く現状、看護科の目標、育成を目指す資質・能力、教育課程実施・改善のための取り組みについて理解を深める。
2. 科目に応じた学習指導案の作成及び模擬授業の実施と評価を行う。
3. コンピューターや情報通信ネットワーク等を活用する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「③医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている」に関連する。

## 評価方法

授業中の取り組み、模擬授業、課題提出により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

1. 授業中、随時質問の時間を設ける。
2. 課題提出、授業中の発言等から理解の状況を確認し、随時指導する。

## 参考文献

1. 文科省:「新たな看護師等養成カリキュラムに対応した指導の手引き」令和3年11月11日
2. 文科省　高木邦子:新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価
(高等学校　専門教科「看護」)
3. 青森県庁HP:学校教育における各種様式

## 講義時使用テキスト

文科省「高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説　看護編」 東京法令出版

## 資格との関連

高等学校教諭一種免許状(看護)

## 学生へのメッセージ

教科指導に必要な知識と技術の基礎を習得し、生徒が看護に対する興味・関心、学びたい気持ちをもてる授業を目指しましょう。

## 実務との関連

看護師として医療機関に、看護教員として看護師養成機関に勤務した経験を基に、看護教員に必要な知識・技術・態度について授業を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス 高等学校看護科を取り巻く現状について | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 育成を目指す資質・能力について | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 教育課程実施・改善のための取り組みについて | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 授業づくりの過程と学習指導案 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 単元の学習指導案の作成①(単元を選択する) | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 単元の学習指導案の作成② | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 単元の学習指導案の作成③ | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 本時の学習指導案の作成① | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 本時の学習指導案の作成② | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 本時の学習指導案の作成③ | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 本時の学習指導案の作成④ | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 模擬授業の実施 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 模擬授業の評価、学習指導案の修正 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 授業到達目標の評価 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 「私が目指す高校看護科の教員像」についてまとめる | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000015000 | 看護科教育法Ｂ | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 浜中　のり子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 高等学校における看護臨地実習の目標・内容および内容を取り扱う際の配慮事項について説明できる。
2. 5年一貫看護師課程における看護臨地実習計画、評価方法について説明できる。
3. 看護臨地実習の指導体制の整備を図るうえで重要な保護者との連携、実習施設との連携、校内連携について説明できる
4. 看護臨地実習における看護教員の役割について説明できる。
5. 看護臨地実習における看護教員の役割の一部について学習指導案を作成し、模擬授業の実施、評価・修正ができる。
6. コンピューターや情報通信ネットワーク等を活用し、学習の効果を高めるための工夫ができる。

## 授業概要(教育目的)

高等学校看護科教員として、看護臨地実習の目標の達成を目指し、生徒の成長を支えることができるために必要な知識と技術を習得する。
具体的には、
1. 高等学校学習指導要領及び「新たな看護師等養成カリキュラムに対応した指導の手引き」
(令和3年11月11日)をふまえ、看護臨地実習の目標・内容の構成・内容を取り扱う際の配慮事項について理解する。
2. 高等学校看護科における看護臨地実習計画、評価方法、指導体制の整備を図るうえで重要な事項について理解する。
3. 看護臨地実習における看護教員の役割について理解する。
4. 学習指導案の作成及び模擬授業の実施と評価を行う。
5. コンピューターや情報通信ネットワークなどの効果的な活用について理解を深める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

「③医学・体育・心理・看護・福祉・環境・栄養等の幅広い分野において、現代社会が求める健康ニーズに対応できる能力を身につけている」に関連する。

## 評価方法

授業中の発言、模擬授業、課題提出により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

1. 授業中、随時質問の時間を設ける。
2. 課題提出、授業中の発言等から理解の状況を確認し、随時指導する。

## 参考文献

1. 文科省:「新たな看護師等養成カリキュラムに対応した指導の手引き」令和3年11月11日
2. 文科省　高木邦子:新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価
(高等学校　専門教科「看護」)
3. 青森県庁HP:学校教育における各種様式
4. 足立はるゑ他:改訂2版　臨地実習指導サポートブック、メディカ出版、2022.

## 講義時使用テキスト

文科省「高等学校学習指導要領(平成30年告知)解説　看護編」東京法令出版

## 資格との関連

高等学校教諭一種免許(看護)

## 学生へのメッセージ

臨地実習は看護実践力を着実に育成し、看護師としての資質・能力の基礎を身につけるうえで重要不可欠です。看護科の生徒が患者さんや指導者から謙虚に学ぶ姿勢を持ち、取り組めるようにサポートする力を養いましょう。

## 実務との関連

看護師として医療機関に、看護教員として看護師養成機関に勤務した経験を基に、看護教員に必要な知識・技術・態度について授業を行う。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス　高等学校における看護臨地実習の目標・内容の構成、配慮事項 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 5年一貫看護師課程における看護臨地実習計画、評価方法 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 看護臨地実習の指導体制の整備 | テキス・参考資料トの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 看護臨地実習における看護教員の役割 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 学習指導案の作成① | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 学習指導案の作成② | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 学習指導案の作成③ | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 学習指導案の作成④ | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 学習指導案の作成⑤ | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 学習指導案の作成⑥ | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 模擬授業の実施 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 模擬授業の評価 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 模擬授業を評価し、論点を整理する。 |
| 13 | 学習指導案の修正 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 授業到達目標の評価 | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 「臨地実習において、看護実践力を着実に育成し、生徒の成長を支えるために大切にしたいこと」についてまとめる | テキスト・参考資料の該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000017000 特別活動論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 田代　高章 | | |

## 学習目標(到達目標)

次の2事項を到達目標とする。
1. 特別活動の重要性と今日的な課題を説明できる。
2. 特別活動の概念と指導の実際を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

目まぐるしく移り変わる社会の変化の中で21世紀をたくましく生きる力を育てるため、豊かな人間性を育むと共に、一人一人の個性を生かしてその能力を十分に伸ばしていく教育の在り方が問われている。しかし、日常的に子ども達と接触しているホームルーム担任は、担任としての仕事と教科指導の仕事が渾然一体として、「教師の仕事」の中で、担任としてしなければならないことは何なのかさえも、必ずしも明確にされにくい状況下に置かれてきた。
　また、特別活動が教職単位として必修化されはしたが、特にこの領域に関する免許が与えられているわけでもないこと等から、「誰でも指導できるはず」であると見過ごされ、計画的・継続的に指導されている現場もあるが、そうとは言い難い現場が多いのが実情である。
　そこで、特別活動の重要性と、しっかりとした概念把握や指導法を身に付けていくことが、上記の教育の在り方にも応える結果につながることを理解させたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

定期試験で評価する。但し、毎時間の振り返りシート(出欠確認用)の内容についても加味することがある。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

高等学校学習指導要領解説(特別活動編)
特別活動の基礎と展開(関川悦雄著)
高等学校学習指導要領の展開…特別活動編(鹿島研之助他編著)
「特別活動の理論と方法(改訂版)」 江川　玟成　編(学芸図書)

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、パワーポイントを活用しつつ資料等も適宜配布する。

## 資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で、教員免許状資格取得の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　教師と生徒及び生徒相互の人間関係の深化を図る中で各種の資質や能力を身に付けさせていく事をねらいとする特別活動は、学校の教育活動の基盤となるものであり、この講義を通してホームルーム担任としての実践的な指導力を身に付けるべく臨んでほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 特別活動とは何か(どんな学習活動か) | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 特別活動の教育上の特質 1 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 特別活動の教育上の特質 2 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 特別活動の目標と主な内容 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 特別活動の教育課程上の位置づけ | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 特別活動で求められている資質(教師の力量) 1 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 特別活動で求められている資質(教師の力量) 2 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 特別活動の全体計画と指導計画 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 学級活動・ホームルーム活動とは | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 学級活動・ホームルーム活動の指導の実際 1 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 学級活動・ホームルーム活動の指導の実際 2 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 児童会活動・生徒会活動とは何かとその指導の実際 1 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 児童会活動・生徒会活動とは何かとその指導の実際 2 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | クラブ活動・学校行事の内容と指導と実際 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 特別活動の評価 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業の内容を整理し、論点を整理する。 |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000018000 教育方法論（ICT活用含む） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 2 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 森本　洋介 | | |

## 学習目標(到達目標)

教育技術(情報機器を活用した効果的な授業方法を含む)と教育評価の基本的な理論と事項について理解する。主体的・対話的で深い学びの実現における基本的な要素を理解する。そのうえで、それらを実践するための基本的なスキルを獲得する。また、主体的・対話的で深い学びにおける学習者の学びをどのように評価するのか、パフォーマンス評価の方法についても理解する。

## 授業概要(教育目的)

本授業は、学習者の学びに対する意欲を引き出すための授業方法(情報機器を活用した効果的な授業方法を含む)および評価方法について、経験的に学ぶことを目的としている。つまり、授業で取り扱う学習項目も重要であるが、自分たちがどのような授業を受けているのかを、方法論的に意識化できるようにすることにより重点を置いて授業を進める。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

定期試験(60%)、授業内活動実習(40%)

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

ルネ・ホッブス、デビッド・クーパー・ムーア著：森本洋介監訳『メディア・リテラシー教育と出会う―小学生がデジタルメディアとポップカルチャーに向き合うために』弘前大学出版会、2016年3月

## 講義時使用テキスト

森本洋介『子どもたちのクリティカルな思考を育むメディア・リテラシー教育の理論と実践』ミネルヴァ書房、2025

## 資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で教員免許状資格取得の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

科目は講義の扱いですが，実際の授業は演習を多く含むのでそのつもりで受講してください。授業に出てさえいれば，スマホで遊んでいても私語をしても寝ていても単位が取れると思っている人は，受講しても時間の無駄ですので，無理に教職課程を取る必要はありません。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | オリエンテーション | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 第3章　教育技術の基本(教材、教授行為、学習形態) | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | 第1章　メディア・リテラシーとは何か | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 4 | 第2章　メディア・リテラシーと類似の能力との違い | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | 第12章　カナダのメディア・リテラシー教育 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | 第5章　主体的・対話的で深い学び | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 7 | 第6章　GIGAスクール構想 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 8 | 第7章　各教科でのメディア・リテラシー教育の実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 9 | 第8章　小学校から高校までのメディア・リテラシー教育 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 10 | 第4章　子どもの発達とメディア・リテラシー教育 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 11 | 第9章　前半(学習評価) | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | 第9章　後半(ルーブリック作成) | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 第9章　ユネスコのMILカリキュラムの実践 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 14 | 生成AIと学習指導 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 15 | 教育方法論に関する総合的な演習 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 課題のレポートを作成する |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000019000 生徒指導論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 野口　和也 | | |

## 学習目標(到達目標)

次の2事項を到達目標とする。
1. 生徒指導の意義と内容、及び今日的な課題を説明できる。
2. 生徒指導の実践的な内容とその指導の実際を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

それぞれの学校の現場では「生徒指導」という言葉で色々な取り組みが行われている。しかし、その受け止め方は各学校によってまちまちであり、更に各教師によっても違っているのが実情である。
このような生徒指導の現状は、教員養成の段階で、教育職員免許法の改定によって「生徒指導等に関する科目」が必修になったのにも関わらず、ややもすれば理論的な面に終始し、現場での実践を踏まえた講義が学生に十分になされ
ていないことに起因するのではないかと考えられる。 そこで、生徒指導とは「生徒の自己指導能力」を育てる事であるという認識の基に生徒指導論を展開させ、将来教壇に立つ学生の実践的な指導力を少しでも高めさせていきたい。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

定期試験で評価する。但し、毎時間の振り返りシート(出欠確認用)の内容についても加味することがある。

## 課題に対するフィードバック

試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。

## 参考文献

高等学校学習指導要領解説(特別活動編)
改訂生徒指導提要 (文部科学省)
生徒指導の機能と方法 (坂本昇一著)
最近の生徒指導と進路指導(吉田辰雄編)
Q&A生徒指導の法律知識(下村哲夫著)
江川　玟成　編『生徒指導の理論と方法(改訂版)』学芸図書

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、パワーポイントを活用しつつ資料等も適宜配布する。

## 資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で、教員免許状資格取得の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

生徒指導は観念的・理論的に理解するだけでは現実の学校現場では機能しない。目まぐるしく移り変わる社会の変化の中で生徒たちの抱える問題は多種多様にわたり、そうした中で生徒指導の目標とする、一人一人の「自己指導能力」
を高めていくことは極めて難しい状況でもある。また、生徒指導においては生徒と共にある教師の生き方が不可欠であり、この講義を通して実践的な指導力を高めるべく臨んでほしい。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 生徒指導の歴史と目的 | 授業内容についてインターネットで調べる。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 2 | 生徒指導提要 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 3 | 生徒指導の意義と原理 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 4 | 生徒指導と教育課程・学習指導要領 1 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 5 | 生徒指導と教育課程・学習指導要領 2 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 6 | 学校における指導体制(組織と機能) | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 7 | 生徒理解の意味と機能 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 8 | 安全・安心な学校づくり | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 9 | 集団指導の意味と形態 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 10 | 集団指導の実際と留意点 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 11 | 個別指導の意味と留意点 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 12 | 教育相談と学校教育相談 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 13 | 問題行動の概念と種類 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 14 | 問題行動の原因 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |
| 15 | 問題行動指導の実際と留意点 | 前回の配布資料とノートを読み直す。 | 授業内容を整理し、論点を整理する。 |

| 講義名 | 5000020000 教育相談 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 前期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 木村　浩哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

教師に求められる教育相談についての基本的知識を習得し、方法としての教育相談を学ぶだけではなしに、かけがえのない一人ひとりの子どもや保護者を大切にできる。さらに、自らを振り返り、他者を大切にすることを学ぶことで、子どもの充実した学校生活を支えることができることを目標とする。

## 授業概要(教育目的)

子どもは、日々成長し、生活する中で諸問題に直面する可能性がある。問題解決の方策として、教師は専門知識を持ち、具体的解決策や予防法を習得する必要に迫られている。また、知識のみならず、子どもや保護者との信頼関係の構築が不可欠であり、そのための教育相談の重要性を認識し、真摯に取り組む姿勢が求められている。そのためにも、授業では、教育相談に必要な知識や態度について講義や討議などを通して学んでいく。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

定期試験と提出物、授業中の取り組みや発言などによって総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・課題レポートは、採点後に返却する。
・試験(レポート、小テスト)は、採点の上返却する。
・試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。

## 参考文献

①「学校が求めるスクールカウンセラー～アセスメントとコンサルテーションを中心に～」村瀬嘉代子監修、東京学校臨床心理研究会編(遠見書房)
②「新しい学校教育相談の在り方と進め方」栗原慎二　(ほんの森出版)
③「養護教諭のコミュニケーション」海保博之・田村節子(少年写真新聞社)

## 講義時使用テキスト

「生徒指導提要」文部科学省　(教育図書)

## 資格との関連

教職に関する科目(生徒指導、教育相談及び進路指導等)

## 学生へのメッセージ

教科書・参考文献などにしっかり目をとおし、教師に求められる教育相談についての基本的知識を習得し、方法としての教育相談を学ぶこと。また必要に応じて、関連項目などをインターネットで調べ授業に臨むこと。

## 実務との関連

かつて高等学校長としての勤務、経験をもとに教育相談に関する話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教育相談の意義と役割(教育相談とは何か、教師が行う教育相談) | ・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する |
| 2 | 教育相談の理論と方法 | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所の論点・ポイントなどをインターネットで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 3 | カウンセリングの意義と目的<br>グループワーク | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所の論点・ポイントなどをインターネットで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 4 | カウンセリングの理論と方法 | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 5 | 教育相談活動の実践事例①(不登校)<br>グループワーク | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 6 | 教育相談活動の実践事例②(いじめ)<br>グループワーク | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 7 | 生徒理解の方法①(子ども理解のための基礎知識、子どもとの関わり)<br>討議・発表 | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 8 | 生徒理解の方法②(子どもの理解に先立つ教師の自己理解)<br>討議・発表 | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 9 | 事例研究の意義と活用法 | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 10 | 教育相談活動の実践事例③(発達障害)<br>グループワーク | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 11 | 教育相談活動の実践事例④(児童虐待)<br>グループワーク | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 12 | 教育相談活動の実践事例⑤(学業不振)<br>グループワーク | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所を中心にインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 13 | 教育相談活動の実践事例⑥(家族カウンセリング)<br>グループワーク | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 14 | 保護者との連携と支援のあり方 | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所の論点・ポイントなどをインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・課題レポートの作成 |
| 15 | 他職種との連携のあり方(校内連携、校外連携) | ・前回の講義内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の関連個所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料とノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・講義内容の全体を把握する |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

| 講義名 | 5000021000 教育実習Ａ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 木村　浩哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

教育者に求められる実践的な能力や倫理性の基礎訓練を、学校現場という現実の環境で実施する。このことにより、教育者としての愛情と使命感を深め、教師としての能力や適性について自覚する。
また、教育におけるICTの活用についても理解する。

## 授業概要(教育目的)

教育実習は、実際に教壇に立って教科指導をするとともに、教科以外の教育活動についても生徒を指導するという体験学習の場である。
この科目は、教育実習に臨む学生に教師の職務を理解させるとともに、実習の準備のための「教育実習事前指導」、実習校において行われる学習指導を中心とした実習研修「教育実習」、教育実習を終えての「教育実習事後指導」の3部構成になっている。
実習においての中心は学習指導である。その教科の知識(学習内容)・技術について十分に事前準備し、理解しておくことが何よりも肝要である。また、ICTの活用についても積極的に取り入れる。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

事前指導、実習、事後指導への取組状況を総合して「教育実習」の成績を評価する。
「誓約書」の事項に違反した場合は、単位を認定しない。

## 課題に対するフィードバック

教育実習について、各自に報告させながら講評する。

## 参考文献

『高等学校学習指導要領及び解説』 文部科学省　実教出版

## 講義時使用テキスト

「教育実習の手引き」(本学作成)を使用する

## 資格との関連

教職課程の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
教育実習は、実習前に行う事前指導(講義・演習)、実習校での教育実習(各実習校において2～3週間実施する)、実習後の事後指導の全てを受講して3単位の修得となる。
教師としての資質を高めるため、幅広い知識・技術の習得を心がけること。教育実習生にとっては、多少の失敗は許されるかもしれないが、指導を受ける児童・生徒にとっては実習校の教師から教わるのと何ら変わることのない大切な学習の場であり、人格形成の場である。従って学生は実習の重大さを認識し、事前にしっかりと学習の準備をし、責任を持って児童・生徒の指導に当たらなければならない。

## 実務との関連

担当教員は、教諭・教頭・校長として青森県内の高等学校等に勤務。実務経験をもとに学校教育の実務について指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 1. 教育実習の意義 | シラバスを読む | 教職課程について振り返る |
| 2 | 2. 教育実習の実施計画 | 教育実習について調べる | 配付資料を 読み 直す<br>教育実習の 心構えを 考える |
| 3 | 3. 学校組織の 概要(中・高等学校編) | 学校組織について調べる | 配付資料を 読み 直す<br>学校組織の 役割を 考える |
| 4 | 4. 年間学習指導計画 | 年間学習指導計画について調べる | 配付資料を 読み 直す<br>年間学習指導計画について 考える |
| 5 | 5. その他特別活動等の指導計画 | 特別活動の必要性について調べる | 配付資料を 読み 直す<br>特別活動について 考える |
| 6 | 6. 教育実習の心構え | 教育実習について調べる | 配付資料を 読み 直す<br>教育実習について 自己目標を 考える |
| 7 | 7. 教育実習 :① 実習校の学校概要 | 教育実習校について調べる | 配付資料を読み直す |
| 8 | 8. 教育実習 :② HR活動の実習 | 学級活動・HR活動について 調べる | 配付資料を 読み 直す<br>集団を 集中させる 方法を 考える |
| 9 | 9. 教育実習 :③ 教材研究と指導方法(ICTの 活用) | 教材研究と指導方法について調べる | 配付資料を 読み 直す<br>教材の 指導について 考える |
| 10 | 10. 教育実習 :④ 授業観察研修 | 授業観察について調べる | 配付資料を 読み 直す<br>授業の 観察方法を 考える |
| 11 | 11. 教育実習 :⑤ 科目学習指導計画と研究授業①板書の 工夫 | 板書の 仕方について調べる | 配付資料を 読み 直す<br>板書計画を 作成してみる |
| 12 | 12. 教育実習 :⑥ 科目学習指導計画と研究授業②言葉づかい | 言葉遣いについて調べる | 配付資料を 読み 直す<br>日常の 言葉遣いを 振り返る |
| 13 | 13. 教育実習 :⑦ 科目学習指導計画と研究授業③発問のしかた | 発問の 仕方について調べる | 配付資料を 読み 直す<br>発問のしかたについて 振り返る |
| 14 | 14. 教育実習 :⑧ 特別活動等の実習 | 特別活動について調べる | 配付資料を 読み 直す<br>特別活動等について 振り返る |
| 15 | 15. 教育実習事後指導(実習研修報告を 含む(ICTの 活用) | 【教育実習Ａ】の 配付資料を 読み 直す | 【教育実習Ａ】について 振り返る |

| 講義名 | 5000022000 教育実習Ｂ | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 木村　浩哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

中学校における教師としての基礎的力量を育成するとともに、教科指導力(指導内容と指導方法)をつける。

## 授業概要(教育目的)

教育の現場である中学校において、教師の多様な職務を体験することを通して、教育の重要性や困難性、生徒との接し方、未来の教師としての基礎的力量を育成する。
　実習においての中心は学習指導であり、教科の知識・技術について理解しておくことが何よりも肝要である。このことを念頭に、専門教科・科目(例　保健体育等)に関する学修に取り組み、高度な専門的知識・技能の修得はもちろん、幅広い教養と教師としての資質の向上を図る。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

事前指導、実習、事後指導への取組状況を総合して「教育実習」の成績を評価する。
「誓約書」の事項に違反した場合は、単位を認定しない。

## 課題に対するフィードバック

## 参考文献

『中学校学習指導要領及び解説』 文部科学省、実教出版

## 講義時使用テキスト

特にテキストは使用しない。本学の「教育実習の手引き」を使用する。

## 資格との関連

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
　教育実習前に行う事前指導(講義)、実習校での教育実習(各中学校において3週間実施)、教育実習後に行う事後指導(4年生後期に実施)の全てを修了して、単位修得となる。
　教育実習校の生徒にとっては、実習校の教師から教わるのと何ら変わることのない大切な学習の場であり、人間形成の場である。教育の重要性を認識して教育実習に臨み、生徒の指導に当たらなければならない。そのために、普段から人間性の涵養とともに、責任ある言動・行動に努めてほしい。

## 実務との関連

公立学校での永年の実務経験を活かして、実践的に指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 実習校での教育実習(1)　教育実習の意義 | 教育実習校の概要把握 | 教育実習の意義を振り返り |
| 2 | 実習校での教育実習(2)　観察実習等【実習】 | 教育実習校の指示による | 観察実習の振り返り |
| 3 | 実習校での教育実習(3)　観察実習・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 4 | 実習校での教育実習(4)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 5 | 実習校での教育実習(5)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 6 | 実習校での教育実習(6)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 7 | 実習校での教育実習(7)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 8 | 実習校での教育実習(8)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 9 | 実習校での教育実習(9)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 10 | 実習校での教育実習(10)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 11 | 実習校での教育実習(11)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 12 | 実習校での教育実習(12)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 13 | 実習校での教育実習(13)　観察実習・参加授業・行事等の参加【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 14 | 実習校での教育実習(14)　研究授業【実習】 | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |
| 15 | 実習校での教育実習(14)　反省会(総括) | 教育実習校の指示による | 実習の振り返り |

| 講義名 | 5000023000 養護実習 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 実習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 木村　浩哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

1 養護教諭の職務について概略を説明できる。
2 基本的な養護活動について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

養護実習とは、養護の専門家として必要な知識と技術を実践の場に身を置いて学ぶことである。
養護実習は、これまで大学で学んだ学校保健の基礎・基本となる理論を、実際に現場で体験し、実践的能力を養うことを目的とする。
この科目は、実習の準備のための「養護実習事前指導」、実習校において行われる「養護実習」、そして養護実習を終えて実習研修を総括する「養護実習事後指導」の3部構成になっている。
養護実習事前指導は、養護実習の意義や養護教諭の職務の実践活動を理解し、養護実習が少しでも効果的に、またスムーズにいくことを目的に講義を進める。具体的には、健康診断の実施方法や保健室での児童生徒への養護活動など、特に養護教諭の職務についての確認と実践方法を学習する。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

事前指導、実習、事後指導への取組状況を総合して評価する。
「誓約書」の事項に違反した場合は、単位を認定しない。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 参考文献

大谷尚子ほか編「改訂 養護実習ハンドブック」東山書房

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて講義資料を配布する。

## 資格との関連

養護教諭一種免許状取得希望者は必修

## 学生へのメッセージ

【履修上の注意】
養護実習は、実習前に行う事前指導(講義)、各実習校での養護実習(小・中・高において3週間実施)、実習後の事後指導(講義)のすべてを修了して5単位の修得となる。

## 実務との関連

担当教員は、教諭・教頭・校長として青森県内の高等学校等に勤務。
実務経験をもとに学校教育の実務について指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 養護実習の意義と目的(教員構成と教育観、具体的内容) | 養護教諭の職務内容の復習<br>授業内容についてインターネットで調べる | 配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 養護実習の心構えと諸留意事項 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 養護実習計画、記録の実際、保健だよりと掲示物、保健教育① | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 校内分掌等、健康診断の実施方法、保健教育② | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 保健教育③、保健室経営 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 保健室来室者への対応 ①心構え・態度・配慮・対応、②救急処置の知識・技能等について<br>学校保健計画、学校安全計画、危機管理 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 保健教育(演習)① | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 保健教育(演習)② | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 9 | 保健室来室者への対応② 救急処置の知識、技能、対応等について | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 10 | 健康相談活動の方法 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 11 | 保健だよりと掲示物 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 12 | 健康診断の実施方法 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 13 | 保健学習と保健指導 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 14 | 記録の実際 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |
| 15 | 社会教育施設・社会福祉施設の訪問 | 前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 配布資料とノートを読み直す |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000024000 教職実践演習 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | | | |

## 学習目標(到達目標)

1.教員の使命・役割と職務について説明できる。
2.子どもを取り巻くさまざまな問題に臨機応変に対応できる。
3.保護者・地域との連携・協働のあり方について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

ロールプレイや、グループまたは個人での事例分析・研究を行い、学級づくり、保護者や地域との連携等、学校の教育活動を円滑に進めていくうえでの資質能力の向上と実践力を身につける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

演習に取り組む態度、個人・グループで作成した文書等の成果、討議・考察後の発表内容を総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題は次の授業で代表的なものを紹介する。

## 参考文献

樋口直宏、林尚示、牛尾直行編著「実践に活かす教育課程論・教育方法論」学事出版

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、演習プリント、資料を配布する。

## 資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で、教員免許状資格取得の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

期待される優れた教師になるための資質能力の到達点について、常に自己評価をしつつ授業に臨んで欲しい。

## 実務との関連

教諭・教頭・校長として青森県立高等学校に勤務。学校教育現場での実務経験をもとに、教育実践について指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 望ましい教師像 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 2 | 学校、学級の年間学級経営案作成 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 3 | 学級経営案のグループ討議と全体発表 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 4 | 学級の活性化 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 5 | 学級崩壊、いじめ、不登校への対応 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 6 | 保護者への対応と連携 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 7 | 学級(ホームルーム)担任の生活指導のあり方 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 8 | 教科担任の生徒指導のあり方 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 9 | 教員としての判断力、決断力 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 10 | 学校現場での体験学習①(ねらい、目標の設定) | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 11 | 学校現場での体験学習②(現場での実習) | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 12 | 学校現場での体験学習③(ふりかえり、発表) | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 13 | 校務分掌と協働 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 14 | 学校の安全、危機管理 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 15 | 教師の資質能力と優れた教師像 | 授業内容についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000024001 教職実践演習（中高） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 木村　浩哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.教員の使命・役割と職務について説明できる。
2.子どもを取り巻くさまざまな問題に臨機応変に対応できる。
3.保護者・地域との連携・協働のあり方について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

ロールプレイや、グループまたは個人での事例分析・研究を行い、学級づくり、保護者や地域との連携等、学校の教育活動を円滑に進めていくうえでの資質能力の向上と実践力を身につける。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

演習に取り組む態度、個人・グループで作成した文書等の成果、討議・考察後の発表内容を総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題は次の授業で代表的なものを紹介する。

## 参考文献

樋口直宏、林尚示、牛尾直行編著「実践に活かす教育課程論・教育方法論」学事出版

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、演習プリント、資料を配布する。

## 資格との関連

教職課程の教職に関する専門科目で、教員免許状資格取得の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

期待される優れた教師になるための資質能力の到達点について、常に自己評価をしつつ授業に臨んで欲しい。

## 実務との関連

教諭・教頭・校長として青森県立高等学校に勤務。学校教育現場での実務経験をもとに、教育実践について指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、新採用教員の課題(社会人基礎力) | 社会人基礎力についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 2 | 教育実習の省察(自身の課題と課題解決を考える) | 自身の課題についてインタネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 3 | 学級年間経営案の作成とグループ討論 | 学級年間経営案についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 4 | 学級の活性化とグループ討論 | 学級の活性化についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 5 | 学級崩壊、いじめ、不登校への対応(チーム学校への対応を含む) | いじめ、不登校についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 6 | 学校におけるICT活用(文書作成) | ノートパソコンを準備する | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 7 | 学校におけるICT活用(集計処理、オンライン演習) | オンライン演習についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 8 | 学校におけるICT活用(プレゼンテーション) | プレゼンテーションについてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 9 | 教職課程の省察(履修カルテのICT活用) | 履修カルテについて調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 10 | コミュニケーション力、児童生徒理解(グループ討論) | コミュニケーションについてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 11 | 模擬授業(ICTを用いた学習指導案作成) | 教育実習で実施した内容を調べる | 授業内容を振り返る |
| 12 | 模擬授業(生成AIの活用) | 生成AIについてインターネット等で調べる | 授業内容を振り返る |
| 13 | 特別支援教育の理解(実務家教員から学ぶ) | 特別支援教育についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 14 | 学校の安全・危機管理、保護者との連携(実務家教員から学ぶ) | 学校の安全・危機管理についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 15 | 教育実習報告会、まとめ | 教育実習を振り返る | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |

印刷日：2026年10月05日

| 講義名 | 5000024002 教職実践演習（養） | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 演習 | 対象年次 | 4 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 木村　浩哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.教員の使命・役割と職務について説明できる。
2.子どもを取り巻くさまざまな問題に臨機応変に対応できる。
3.保護者・地域との連携・協働のあり方について説明できる。
4.ICTを活用した保健指導ができる。

## 授業概要(教育目的)

ロールプレイや、グループまたは個人での事例分析・研究を行い、学級づくり、保護者や地域との連携等、学校の教育活動を円滑に進めていくうえでの資質能力の向上と実践力を身に付ける。また、ICTを活用した演習（教育実習報告等）を行う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

演習に取り組む態度、個人・グループで作成した文書等の成果、討議・考察後の発表内容を総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題の概要について、授業で講評する。

## 参考文献

「養護教諭のためのスキルアップガイド」　中村富美子　著　　明治図書

## 講義時使用テキスト

テキストは使用しないが、演習プリント等を配布する。

## 資格との関連

教職課程の「養護教諭」に関する専門科目で、教員免許状取得の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

期待される優れた教師になるための資質能力の到達点について、常に自己評価をしつつ授業に臨んで欲しい。

## 実務との関連

教諭・教頭・校長として青森県立高等学校に勤務。学校教育現場での実務経験をもとに、教育実践について指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | ガイダンス、新採用教員の課題(社会人基礎力) | 新採用教員、社会人基礎力についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 2 | 養護実習の省察(自身の課題と課題解決を考える) | 保健室の状況についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 3 | 養護教諭として取り組むべき課題(ゲストティーチャーから学ぶ) | 養護教諭についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 4 | 養護教諭として取り組むべき課題(グループ討論・チーム学校への対応を含む) | 養護教諭についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 5 | 学校保健におけるICT活用(文書作成) | 文書作成についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、ICTを活用する |
| 6 | 学校保健におけるICT活用(集計処理、オンライン演習) | オンラインについてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、ICTを活用する |
| 7 | 教育実習の省察(プレゼンテーション1) | プレゼンテーションについて調べる | 授業の内容を整理し、ICTを活用する |
| 8 | 教育実習の省察(プレゼンテーション2) | プレゼンテーションについて、Iスライドを作成する | 授業の内容を整理し、ICTを活用する |
| 9 | 教育課程の省察(履修カルテのICT活用) | 履修カルテについて、資料を準備する | 授業の内容を整理し、ICTを活用する |
| 10 | コミュニケーション力、児童生徒理解(グループ討論) | 児童生徒の発達についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、ICTを活用する |
| 11 | 医療的ケアが必要な児童生徒への支援(実務家教員から学ぶ) | 授業内容について、学内LANを調べる | 授業の内容を整理し、ICTを活用する |
| 12 | 医療現場におけるチームとしての協働(実務家教員から学ぶ) | チームとしての協働についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、ICTを活用する |
| 13 | 特別支援教育の理解(実務家教員から学ぶ) | 特別支援教育についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 14 | 学校の安全・危機管理、保護者との連携(実務家教員から学ぶ) | 危機管理についてインターネット等で調べる | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |
| 15 | 教育実習報告会、まとめ | 教職課程を振り返る | 授業の内容を整理し、論点をまとめる |

| 講義名 | 5000026000 教職概論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 根城　隆幸 | | |

## 学習目標(到達目標)

教職の意義及び役割について理解し、自分なりの教職の理想像を説明できる。

## 授業概要(教育目的)

「国家の存亡は教育にあり」とか「教育は教師しだい」という。今日ほどこの言葉を痛切に感じるときはない。その教育とは何か。その教育を担う教師の役割とは何か。教師のあるべき姿等について、教職の意義等を理解するとともに、公立高等学校での教師経験を生かして考察していく。大学での教職課程を履修するに際し、教職を目指す学生がこれからの教師の在り方について学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業態度、課題提出、課題発表、定期試験等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・教育を取り巻く社会状況や授業評価について講評する

## 参考文献

岩田康之・高野和子　編　『教職論』　学文社
池田修　『教師になるということ』 学陽書房
成田喜一郎・長瀬拓也　編『教師になるには』　一ツ橋書店

## 講義時使用テキスト

佐藤春雄　編『教職概論』第7次改訂版　学陽書房

## 資格との関連

【教職課程】の必修科目である。

## 学生へのメッセージ

【授業外活動状況】
・日頃から、教育に関して関心を持つこと。
・基本的生活習慣を見直して、人間性を磨くこと。

## 実務との関連

公立高等学校教諭として青森県立高等学校や県教育委員会等に勤務。実務経験をもとに教育職について指導する。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 教職の意義と役割 | ・学修の手引きを読む | ・授業内容を振り返る |
| 2 | 教職観と理想の教師像 | ・理想の教師像について考える<br>・インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 3 | 教師とは、教職とは | ・課題に必要事項を記入<br>・教師・教職について、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 4 | 教職への視線 | ・課題に必要事項を記入<br>・教職への視線について、インターンネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 5 | 教職を取り巻く諸問題 | ・課題に必要事項を記入<br>・教員養成について、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 6 | 教員の任用と身分保障 | ・課題に必要事項を記入<br>・教員の任用について、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 7 | 教師の役割と服務 | ・課題に必要事項を記入<br>・教師の役割について、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 8 | 管理職と主任の役割 | ・課題に必要事項を記入<br>・管理職の役割について、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 9 | 教師の資質向上と研修 | ・課題に必要事項を記入<br>・教師の資質について、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 10 | 教員に求められるもの、教員としての適格性 | ・課題に必要事項を記入<br>・教員に求められるものについて、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 11 | 教職への進路選択と教員採用選考 / 他の職業との比較 | ・課題に必要事項を記入<br>・教員採用選考について、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 12 | 教師の職場環境 / 実体験、類似体験 | ・課題に必要事項を記入<br>・教師の職場環境について、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 13 | 教育実習の意義と心得 | ・課題に必要事項を記入<br>・教育実習について、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 14 | 教職への学び(チーム学校への対応を含む) | ・課題に必要事項を記入<br>・チーム学校について、インターネットで調べる | ・授業内容を振り返る |
| 15 | 学び続ける教師(チーム学校への対応を含む) | ・これまでの授業内容を振り返る | ・【教職】について振り返る |

| 講義名 | 5000029000 特別支援の理解 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 1 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 石岡　れい子 | | |

## 学習目標(到達目標)

1. 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性について説明できる
2. 特別の支援を必要とする生徒に対する学習上、生活上の支援の方法について説明できる。
3. 障害はないが特別の教育的ニーズがある生徒について、学習及び生活の各場面での対応方法について説明できる。

## 授業概要(教育目的)

様々な障害等により学校生活を送ることが困難な生徒、また、障害はないが特別の教育ニーズがある生徒に対し、個人の特性と心身の発達を踏まえた援助ができるよう、関係する知識を身につける。また、支援の方法については、各自が身につけるべき事項に加え、関係機関や家庭と連携しつつ支援体制を構築することを学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

毎回の小テスト、課題提出、演習への参加態度、授業中の態度等により総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
試験(レポート、小テスト)の模範解答を示す。
試験(レポート、小テスト)の成績を知りたい学生には個別に開示する。
期末試験の成績について疑問のある学生は「成績疑問申請」を提出すること。

## 参考文献

## 講義時使用テキスト

小野隆行(編著) 「特別支援教育重要用語の基礎知識」 学芸みらい社

## 資格との関連

教員免許を取得するための必修科目である。今までの「特殊教育」から新しい「特別支援教育」に変わり、考え方が大きく変革した。通常学級に在籍する児童・生徒の特別な教育的ニーズへの対応するための理念、知識・技術などについて、学習する。

## 学生へのメッセージ

特別支援の理解は、教員免許取得の際の必修科目です。現在は、小学校・中学校・高校の通常の学級にも障害のある子どもは多数在籍しており、特別支援教育の重要性はさらに高まっています。
そのため、これから教員を目指す学生の皆さんには、特別支援に関する基礎的な知識や理解、技能などは、身につけて現場に出て欲しいです。

## 実務との関連

小学校教員、特別支援学校教員を経て、現在は、小中高等学校のスクールカウンセラー、障害児福祉施設の心理指導員、市町村の三歳児半検診などに関わっている。また、ボランティアを募り、親の会と協働で、発達障害のある小学生に、ソーシャルスキルトレーニングを定期的に教えている。教育、心理、および福祉での実務経験をもとに特別支援についての話をする。

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 特別支援教育の歴史と理念 | 授業内容についてインターネットで調べる | インクルーシブ教育理念に関して、以前の考え方との違いについて、ディスカッションし、その違いを理解できるようにする。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 2 | 障害の種類と心身の発達 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 3 | 障害の種類に応じた学習支援の方法 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | コメントシートに記入したものを振り返り、合理的配慮に関して、正しく理解できているかを確認する。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 4 | 障害の種類に応じた生活支援の方法 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | コメントシートに記入したものを振り返り、ユニバーサルデザインに関して、正しく理解できているかを確認する。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 特別な教育的ニーズを持つ生徒への対応、自立活動 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | LD・ADHD等疑似体験プログラムを用いて、子どもたちの困難さを実際に体験し、具体的にどう関わり、指導していくかをみんなでディスカッションする。<br>授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 6 | 関係機関や家族との連携支援(ゲストティーチャー)<br>自閉症キャラバン隊(八戸市自閉症親の会主催)の話を聞き、実際に発達障害の人の困難さを体験し、<br>感想文を提出する。 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 7 | 指導計画・教育支援計画の意義と具体的な方法 | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 8 | 合理的配慮とユニバーサルデザインについて | 授業内容についてインターネットで調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する<br>前回の配布資料とノートを読み直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 5000030000 進路指導論 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 山本　奨 | | |

## 学習目標(到達目標)

1.進路指導とキャリア教育の関係性、およびその背景・歴史・意義について概略を理解している。
2.教育活動全体を通して行われるキャリア教育の現状と課題を理解し、指導計画の立案方法と指導の在り方を説明することができる。
3.キャリア教育の観点から、家庭・地域・関係機関との連携の在り方や、小学校から大学までの接続を踏まえた連携の視点を理解している。
4.教育相談の考え方と基礎的技術を踏まえ、キャリア・カウンセリングの基本的な考え方と必要な技術を理解している。

## 授業概要(教育目的)

進路指導とキャリア教育の背景、意義、目標について学ぶとともに、その現状と課題を整理することで、教員に求められる役割への理解を深める。その理解を基盤として、教育実践における全体指導および個別支援の具体的な方法に関する知識を身につけ、指導の改善に向けた視点を獲得する。あわせて、学校教育目標の実現に向けた進路指導・キャリア教育の位置づけを踏まえ、家庭や地域、進学先・就職先、関係機関との連携の在り方について検討する。授業では、実践的な力の育成を目的として、履修者自身の経験やキャリア発達に関する内容も扱う。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

授業内で課すレポート(提出課題)、ディスカッションへの参加、最終試験を対象に、進路指導とキャリア教育の意義・目的、児童生徒のニーズ、教員の役割、および履修者自身の教員としての責務に関する理解と考察の深さを総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(レポート、感想文)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。

## 講義時使用テキスト

使用しない

## 参考文献

小学校キャリア教育の手引き．(2022年)．文部科学省，https://www.mext.go.jp/content/20220825-mxt_jidou01-000024019_01.pdf
中学校・高等学校キャリア教育の手引き．(2023年)．文部科学省，https://www.mext.go.jp/content/20230606-mxt_jidou01-000030273_01.pdf
生徒指導提要(改訂版)．(2023年)．文部科学省，https://www.mext.go.jp/content/20230220-mxt_jidou01-000024699-201-1.pdf
生徒指導論・キャリア教育論（ミネルヴァ教職専門シリーズ　8）．(2023年)．編著者：稲垣応顕・山田智之他／著者：山本奨他，ミネルヴァ書房(ISBN:978-4623096145)．
子どもの居場所づくりに役立つ教育相談．(2026)．著者：村上凡子・松本圭朗・山本奨他，一藝社(ISBN:978-4863593039)．

## 資格との関連

教員免許を取得するための必修科目である。

## 学生へのメッセージ

進路指導・キャリア教育は、進学先や就職先の選択を支援するだけのものではありません。幼児期から高齢期まで、生涯を通して取り組まれるライフキャリアに関わる価値観・興味・役割などの形成、成長、変容を支える営みです。その意味で、大学生を含むあらゆる年代の人々は、キャリアに不安を抱え得る「支援を必要とする立場」にあるとも言えます。
この授業では、皆さん自身の経験やキャリア発達を題材として、自らを素直に見つめる姿勢を大切にしてほしいと考えています。小課題への取り組みや討論の機会を設けますので、積極的に参加してください。
　本授業は、集中講義(1～4時限の2日間)として実施する予定です。時期や教室については大学(教務課)からの告知に注意してください。授業が近づきましたら、WebClassに注意事項を掲載しますので、必ず確認してください。授業で使用する資料はWebClass上で配布しますので、各自ダウンロードしたうえで受講してください。
授業中には複数のレポート課題を課し、WebClass上でのテキスト入力を求めます。PC、タブレット、スマートフォンなど、テキスト入力が可能なデバイスを持参してください。出席登録もWebClass上で行います。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 進路指導とキャリア教育の基礎理解<br>内容:進路指導とキャリア教育の定義、背景、歴史的展開、両者の関係性<br>学生の課題:<br>・進路指導とキャリア教育の違いと共通点を自分の言葉で説明できるようにする。<br>・自身のこれまでのキャリア形成を振り返り、どのような支援があればよかったかを考える。 | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 2 | キャリア教育の意義・目標と学校教育における位置づけ<br>内容:キャリア教育の目的、学校教育目標との関連、学習指導要領における扱い<br>学生の課題:<br>・キャリア教育が学校教育全体の中で果たす役割を整理する。<br>・学習指導要領の記述を踏まえ、キャリア教育の意義を説明できるようにする。 | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 3 | キャリア教育の現状と課題<br>内容:学校現場の実践状況、制度的背景、現代的課題<br>学生の課題:<br>・現代の児童生徒が抱えるキャリア課題を具体例とともに説明する。<br>・現状の課題に対して、教員としてどのような支援が必要かを考える。 | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 4 | キャリア教育の指導計画と実践の在り方<br>内容:年間指導計画、系統性、教科横断的な取組、体験活動の位置づけ<br>学生の課題:<br>・指導計画を作成する際に必要な視点(発達段階・学校種間の接続など)を理解する。<br>・具体的な活動例をもとに、キャリア教育の授業デザインを検討する。 | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 5 | 家庭・地域・関係機関との連携<br>内容:家庭との協働、地域資源の活用、進学先・就職先との連携、ネットワークづくり<br>学生の課題:<br>・家庭・地域・関係機関との連携がキャリア教育にどのような効果をもたらすかを説明する。<br>・連携を進める場合に想定される課題と解決策を考える。 | 参考文献の関連個所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 6 | 教育相談の基礎とキャリア・カウンセリング<br>内容:教育相談の考え方、傾聴・受容・共感、キャリア・カウンセリングの基礎技法<br>学生の課題:<br>・教育相談における基本的態度(傾聴・受容・共感)の意味を理解する。<br>・キャリア・カウンセリングの視点から、児童生徒の語りをどのように受け止めるかを考える。 | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 7 | キャリア発達と自己理解:自分自身を教材とする学び<br>内容:自己理解ワーク、価値観・興味・役割の整理、キャリア不安の構造<br>学生の課題:<br>・自身のキャリア発達を振り返り、価値観・興味・役割の変化を整理する。<br>・「大学生も支援を必要とする立場である」という視点から、自分のキャリア課題を言語化する。 | 参考文献の関連個所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |
| 8 | まとめ:教員の役割とキャリア教育の実践的展望<br>内容:教員の責務、学校全体でのキャリア教育、個別支援の在り方、総合的まとめ<br>学生の課題:<br>・教員としてキャリア教育に関わる際の役割と責務を総合的に説明できるようにする。<br>・自身が将来教員としてどのようにキャリア教育に取り組むか、具体的な展望をまとめる。 | 参考文献の関連個所を読む<br>前回の授業の内容を整理し、論点を整理する | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを読み直す |

| 講義名 | 5000031000 総合的な学習の時間の指導法 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 通年 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 地域共創学科/人間健康科学科 | | | 担当教員 | 冨澤　美千子 | | |

## 学習目標(到達目標)

①「総合的な学習の時間」の歩みや教育課程における位置づけを理解する。
②「総合的な学習の時間」の目標をふまえた指導計画の作成、指導体制と方法、評価に関する知識・技能など基礎的な能力、実践力を身に付ける。
③児童・生徒がこれからの社会を生きる上で必要な自律的・創造的・横断的な力を育成し支援する教師の資質の向上とその能力を養う。

## 授業概要(教育目的)

「総合的な学習の時間」の歩み、意義、必要性、教育課程の位置づけや性格を明らかにする。また各学校における目標や内容をふまえた指導計画の作成、指導方法、評価、学習指導案の作成についての知識・技能、実践上の留意点などを学ぶとともに「総合的な学習の時間」の学習活動の体験をとおし、「総合的な学習の時間」に必要な知識や能力を学ぶ。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

課題ごとの提出物、授業中の取り組み・発言等によって総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

課題(小レポート、コメントカード)は、次の授業で代表的なものをいくつかフィードバックする。
課題(小レポート)の評価をした上で返却する。
課題(小レポート)の模範例を示す。

## 参考文献

「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」「中学校編」(最新版)　文部科学省
「小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」(最新版)　文部科学省

## 講義時使用テキスト

「中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編」(最新版)　文部科学省
「高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説　総合的な探究の時間編」　文部科学省
「子どもたちの創造力を育む総合的な学習の時間」冨澤美千子/著　大学教育出版

## 資格との関連

教員免許取得にあたり必修科目である。

## 学生へのメッセージ

総合的な学習(探究)の時間は、教科学習と指導法が異なります。教科書のない学習の時間が、学校教育においてなぜ必要であるのかを考えながら、授業参加しましょう。歴史的に授業が設置された目的を確認し、総合的な学習(探究)の時間の教育目標を理解したうえで、実際の指導が行えるよう授業づくりをします。生徒が自主的・自発的に取り組めるような時間を、教師としてどのように促すのかを考えましょう。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 本授業の概要説明<br>「総合的な学習(探究)の時間」の授業設置の背景(1)授業設置までの学習指導要領の歴史的変遷 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 2 | 「総合的な学習(探究)の時間」の授業設置の背景(2)授業設置後の変遷 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 3 | 「総合的な学習(探究)の時間」の授業設置の背景(3)現在の教育課程における意義と展望 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>課題のレポートを 作成する |
| 4 | 「総合的な学習(探究)の時間」を知る(1)歴史的事例 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 5 | 「総合的な学習(探究)の時間」を知る(2)現代的事例 | テキストの該当箇所を読む | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>課題のレポートを 作成する |
| 6 | 「総合的な学習(探究)の時間」を創る(1)指導案・授業案の 作成(課題設定の 方法) | 授業内容を 考えておく<br>授業内容についてインター ネットで 調べる | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを 読み 直す |
| 7 | 「総合的な学習(探究)の時間」を創る(2)指導案・授業案の 作成(情報収集と整理・分析) | 前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する<br>前回の配布資料とノートを 読み 直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを 読み 直す |
| 8 | 「総合的な学習(探究)の時間」を創る(3)指導案・授業案の 作成(まとめ・表現) | 前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する<br>前回の配布資料とノートを 読み 直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを 読み 直す |
| 9 | 「総合的な学習(探究)の時間」を創る(4)指導案・授業案の 作成(評価方法) | 前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する<br>前回の配布資料とノートを 読み 直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを 読み 直す |
| 10 | 「総合的な学習(探究)の時間」を創る(5)指導案・授業案の 作成(学習ツールや!CT活用) | 前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する<br>前回の配布資料とノートを 読み 直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを 読み 直す<br>課題のレポートを 作成する |
| 11 | 「総合的な学習(探究)の時間」の実践(1)授業を 考える | 授業内容についてインター ネットで 調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する<br>前回の配布資料とノートを 読み 直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 12 | 「総合的な学習(探究)の時間」の実践(2)授業を 考える | 授業内容についてインター ネットで 調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する<br>前回の配布資料とノートを 読み 直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する |
| 13 | 「総合的な学習(探究)の時間」の実践(3)授業を 考える | 授業内容についてインター ネットで 調べる<br>前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する<br>前回の配布資料とノートを 読み 直す | 課題のレポートを 作成する |
| 14 | 「総合的な学習(探究)の時間」の実践(4)授業を 発表する | 前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する<br>前回の配布資料とノートを 読み 直す | 配布資料とノートを 読み 直す |
| 15 | 「総合的な学習(探究)の時間」の実践(5)授業を 発表する<br>授業総括 | 前回の授業の内容を整理し、論点を 整理する<br>前回の配布資料とノートを 読み 直す | 授業の内容を整理し、論点を整理する<br>配布資料とノートを 読み 直す<br>課題のレポートを 作成する |

| 講義名 | 5000032000 道徳教育の理論と実践 | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度 | 2026 | 開講時期 | 後期 | 講義区分 | 講義 | 対象年次 | 3 |
| 対象学科 | 人間健康科学科 | | | 担当教員 | 木村　浩哉 | | |

## 学習目標(到達目標)

我が国の道徳教育の変遷について理解し、道徳的実践力を培うための指導について理解できる。また、諸外国の道徳教育について文献から調べ説明ができるとともに、人間のあり方、生き方について自分の考えをまとめることができる。

## 授業概要(教育目的)

よりよい生き方を求め実践する人間育成とその基盤となる道徳性を涵養することが、道徳教育の役割であることを踏まえ、授業では、学校教育における道徳教育の変遷について調べ認識を深めさせる。　　さらに、学習指導要領の改訂を押さえ、今日の学校教育における道徳教育の展開について、実践に基づく道徳教育の理解力及び指導力の向上を図る。

## 卒業認定・学位授与の方針との関連

## 評価方法

定期試験と提出物、授業中の取り組み・発言等によって総合的に評価する。

## 課題に対するフィードバック

・提出したレポートについての模範解答・解説を次時に行う。

## 参考文献

①「道徳教育の本質と実践原理」 村田昇(玉川大学出版部)
②「道徳教育の理論と実践」 橋本太朗 (酒井書店)
③「新学習指導要領の展開」 柴原弘志編(明治図書)

## 講義時使用テキスト

「中学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」文部科学省(平成29年告示)

## 資格との関連

教育課程及び指導法に関する科目(中一種免・養護一種免　必修)

## 学生へのメッセージ

教科書・参考文献などにしっかり目をとおし、道徳的実践力を培うための指導について理解できる事前事後の取組みを行うこと。また必要に応じて、関連項目などをインターネットで調べ授業に臨むこと。

## 実務との関連

## 授業計画表

| | 内容 | 予習 | 復習 |
|---|---|---|---|
| 1 | 道徳教育の意義と目標(道徳教育とは何か、道徳教育と教師) | ・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキストの該当箇所を読む<br>・配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する |
| 2 | 道徳教育の内容と特質(現代社会と道徳教育) | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 3 | 道徳教育の歴史的経緯(戦後の道徳教育の歩み)<br>討議・発表 | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 4 | 諸外国の道徳教育<br>討議・発表 | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 5 | 道徳の指導計画(全体計画、年間指導計画、学級指導計画)グループワーク | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 6 | 道徳の時間の指導(学習指導案の内容、学習指導案の作成)グループワーク | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 7 | 教育活動全体を通じて行う指導①(各教科、総合的な学習の時間) | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 8 | 教育活動全体を通じて行う指導②(特別活動) | ・前回の授業内容のを読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 9 | 家庭や地域社会との連携<br>障害を持った人をとりまく社会<br>(ゲストティーチャー) | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 10 | 生徒理解に基づく道徳教育の評価 | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 11 | 道徳教育の実践①(指導計画)<br>討議・発表 | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・学習指導案を作成する |
| 12 | 道徳教育の実践②(学習指導案の作成)<br>討議・発表 | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 13 | 道徳教育の実践③(教材研究) | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・授業内容をインターネットで調べる |
| 14 | 道徳教育の実践④(模擬授業)<br>グループワーク | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する |
| 15 | これからの学校における道徳教育 | ・前回の授業内容を読み直す<br>・テキストの該当箇所を読む<br>・参考文献の該当箇所を読む<br>・授業内容の該当箇所の論点・ポイントをインターネットなどで調べる | ・テキスト・参考資料の該当箇所、配布資料・ノートを読み返す<br>・授業内容をまとめ、論点を整理する<br>・講義内容全体を把握する |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |